財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第400集

福島飯塚遺跡(1)

国道354号線道路改築事業に係わる

埋蔵文化財発掘調査報告書第１集

２００７

群馬県伊勢崎土木事務所

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第400集

福島飯塚遺跡(1)

ふくしま いいづか

国道354号線道路改築事業に係わる

埋蔵文化財発掘調査報告書第１集

２００７

群馬県伊勢崎土木事務所

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

4区第5．5面 全景（左が北）

141 号溝出土墨書土器（須恵器、灰釉陶器）、漆紙文書

141 号溝出土墨書土器（土師器）

序

福島飯塚遺跡は、佐波郡玉村町に所在し、国道354号線道路改築事業に伴い発掘調査された遺跡です。

発掘調査は、群馬県伊勢崎土木事務所からの委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成11年度に実施しました。

今回の調査により江戸時代から古墳時代および弥生時代の遺構や遺物が出土し、この地域に古くから先人たちの生活が展開していたことが明らかとなりました。

とくに、平安時代の大溝からは252点におよぶ墨書土器が出土すると共に、小片ながら漆紙文書の発見もあり、研究者のみならず多くの県民からも注目をされたところです。千年の時を経て、なお墨痕鮮やかな墨書土器の数々は歴史を身近に、そして具体的な存在として実感できたからといえるでしょう。

この報告書が群馬県の歴史研究をはじめ、地域の資料として学校教育、郷土学習にも役立てていただけるものと確信いたしております。

最後になりましたが群馬県教育委員会文化課、群馬県伊勢崎土木事務所、玉村町教育委員会および地元関係者の皆様に心より感謝の意をあらわし、序といたします。

平成19年３月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長　高　橋　勇　夫

例　　言

1、本書は、国道354号道路改良（改築）工事に伴い発掘調査された福島飯塚遺跡の調査報告書である。
なお、福島飯塚遺跡は延長540m程の範囲であり、調査に際しては1区から6区に調査区を設定して事業を進行している。本書はこのうち4区および5区の調査報告書である。

2、福島飯塚遺跡4区および5区は、群馬県佐波郡玉村町321-1、323-1、324-1、353-1、354に所在する。

3、事業主体　群馬県（伊勢崎土木事務所）

4、調査主体　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5、調査期間　平成11年（1999年）4月1日～平成12年（2000年）1月31日

6、整理期間　平成15年（2003年）4月1日～平成16年（2004年）3月31日
　　平成18年（2006年）4月1日～平成19年（2007年）3月31日

7、発掘調査体制は次の通りである。

理事長　菅野　清（平成11年5月31日まで）　　小野宇三郎（平成11年6月1日から）
常務理事　赤山容造
事務局長　赤山容造
管理部長　住谷　進　　調査研究第1部長　神保侑史　　調査研究第2課長　真下高幸
事務担当　笠原秀樹　小山建夫　須田朋子　吉田有光　柳岡良宏　岡島伸昌　片岡徳雄
嘱 託 員　大澤友治
補 助 員　吉田恵子　並木綾子　今井とも子　内山佳子　佐藤美佐子　本間久美子　北原かおり
　　狩野真子　若田　誠　松下次男　浅見宣記　吉田　茂
発掘調査担当　　原　雅信　小成田涼子　原　眞（嘱託員）

8、整理事業体制は次の通りである。

平成15年度
理事長　小野宇三郎　　常務理事　住谷永市
事業局長　神保侑史
管理部長　萩原利通　　調査研究部長　右島和夫　　資料整理課長　相京建史
事務担当　植原恒夫　竹内　宏　高橋房雄　須田朋子　吉田有光　阿久澤玄洋　田中賢一
補 助 員　内山佳子　若田　誠　佐藤美佐子　本間久美子　北原かおり　狩野真子　今井とも子
　　松下次男　吉田　茂
保存処理　関　邦一　土橋まり子　横倉知子　小材浩一
遺物写真　佐藤元彦
遺物器械実測　田中精子　酒井史恵
整理補助　深代初子　下境マサ江　田中暁美　南雲素子　萩原由香
整理担当　原　雅信

平成18年度
理 事 長　高橋勇夫　　常務理事　木村裕紀　　事業局長　津金澤吉茂
総務部長　萩原　勉　　調査研究部長　西田健彦　　資料整理部長　中束耕志
資料整理第2グループリーダー　関　晴彦
事務担当　笠原秀樹　石井　清　須田朋子　今泉大作　栗原幸代　斉藤恵理子　柳岡良宏　佐藤聖行
補 助 員　内山佳子　本間久美子　北原かおり　若田　誠　今井もと子　武藤秀典
保存処理　関　邦一　土橋まり子　小材浩一　津久井桂一　多田ひさ子　長岡久幸
木器処理　小池　緑　佐々木茂美　野沢　健

遺物写真　佐藤元彦
遺物器械実測　廣津真希子　友廣裕子
整理補助　萩原鈴代　儘田澄子　広瀬綾子　鷲尾房江　竹鶴小百合　関口正広
整理担当　原　雅信

9、発掘調査および報告書作成には、群馬県教育委員会　群馬県伊勢崎土木事務所　玉村町教育委員会　玉村町機械化組合　玉村町立中央小学校　玉村町文化センターをはじめ関係機関ならびに多くの方々のご協力、ご指導をいただきました。記して感謝いたします。

10、漆紙文書、墨書土器については、国立歴史民俗博物館平川南教授（現 同館館長）のご指導を受けました。あらためて感謝いたします。

11、弥生土器については大木紳一郎、灰釉陶器については神谷佳明、古代の土器類については桜岡正信、中近世の土器類については大西雅広の各職員に助言を得ている。

12、胎土分析については、株式会社第4紀地質研究所井上巌氏に分析委託した。

13、発掘調査諸資料および出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

凡　　例

1、挿図に示す方位記号は国家座標上の北を基準としている。

2、遺構および遺物実測図中の縮尺は、それぞれの図中に表示している。

3、遺構の呼称は算用数字を用い、住居、掘立柱建物、溝、土坑、など種別ごとに番号を付した。また、遺構番号は福島飯塚遺跡（1区～6区）を通した一連とすることを基本としている。

4、報告にある火山噴出物の標記は以下の通りである。

As-A　：　浅間山A軽石　　1783年（天明3年）
As-B　：　浅間山B軽石　　1108年（天仁元年）
Hr-FP：　榛名二ッ岳軽石　　6世紀中頃
Hr-FA：　榛名二ッ岳火山灰　6世紀初頭
As-C　：　浅間山C軽石　　3世紀後半

5、本書は、墨書土器を多数出土した調査区の報告を主としている。墨書土器の実測および図版作成にあたり、通常の縮尺とは異なり「S＝1／2」としている。これは墨書表現に配慮したためであるが、他遺構出土の土器とは縮尺率が異なるものもある。統一性に欠けるが、各挿図中に標記するスケールを参照していただきたい。

6、遺構図および遺物実測図中のスクリーントーンは以下の通りである。

As一B層

焼土・灰

漆紙

釉

漆

擦り面

目　　次

序
例　　言
凡　　例
挿図目次
写真図版目次

I　発掘調査と遺跡の概要

1　発掘調査に至る経過…… 1
2　整理業務の経過…… 2
3　遺跡の立地と周辺の遺跡
　a　遺跡の立地…… 3
　b　周辺の遺跡…… 5
4　発掘調査の方法と経過
　a　グリッドの設定…… 9
　b　調査区の設定…… 9
　c　調査の方法…… 9
　d　調査経過…… 9

II　発掘調査の記録

1　遺跡の概要
　a　基本土層と確認遺構……12
　b　遺構の概要……13
2　第9面の調査
　a　概　　要……18
　b　縄文土器……18
　c　弥生土器……18
3　第8面の調査
　a　概　　要……21
4　第7面の調査
　a　概　　要……23
　b　水　　田……23
　c　土　　坑……23
5　第6面の調査
　a　概　　要……25
　b　水　　田……25
　c　溝……26
　d　土坑……26
6　第5.5面の調査
　a　概　　要……31
　b　141号溝……37
　c　墨書土器……38
　d　漆紙文書……62
　e　その他の出土遺物……63
　f　杭……81
　g　住　　居……88
　h　掘立柱建物……97
　i　井　　戸……103
　j　土　　坑……103
　k　ピ ッ ト……104
　l　溝……104
7　第5面の調査
　a　水　　田……115
　b　井　　戸……121
　c　土　　坑……121
　d　溝……121
8　第4面の調査
　a　概　　要……125
　b　水　　田……125
9　第3面の調査
　a　概　　要……127
　b　溝……127
　c　土　　坑……128
10　第2面の調査
　a　概　　要……135
　b　溝……135
11　第1面の調査
　a　概　　要……139
　b　溝……139
　c　復 旧 溝……139
12　調査のまとめ……148
13　出土遺物の胎土分析……155
14　胎土分析報告書　(株)第四紀地質研究所 …156

遺物観察表
報告書抄録
写真図版

挿図目次

第１図　遺跡位置図（国土地理院１/20万「宇都宮」「長野」）… 1
第２図　国道354号高崎玉村バイパス路線図 …… 2
第３図　地形模式図…… 4
第４図　遺跡分布図（国土地理院１/５千「前橋」「高崎」）…… 6
第５図　グリッド設定図……11
第６図　基本土層図（福島飯塚遺跡４区）……13
第７図　遺構概要図（１）……14
第８図　遺構概要図（２）……15
第９図　第９面全体図……18
第10図　５区第９面トレンチ土層断面図……19
第11図　グリッド出土土器……20
第12図　第８面全体図……21
第13図　５区第８面水田……21
第14図　237号土坑 ……22
第15図　４区第８面水田……22
第16図　第７面水田……23
第17図　４区第７面水田……24
第18図　４区152・５区232・233・234・235・236号土坑と
出土遺物……24
第19図　第６面全体図……25
第20図　５区206・207・208・209・211・212・213号土坑 ……26
第21図　５区157号溝 ……27
第22図　５区158号溝 ……27
第23図　４区第６面水田……28
第24図　５区第６面水田……29
第25図　第６面水田断面図……30
第26図　第5.5面全体図 ……31
第27図　４区第5.5面全体図 ……33
第28図　141号溝土層断面図 ……35
第29図　102・141～145・147・148号溝、25号井戸断面図 ……35
第30図　141号溝遺物出土位置図 ……36
第31図　141号溝出土墨書土器（１）……40
第32図　141号溝出土墨書土器（２）……41
第33図　141号溝出土墨書土器（３）……42
第34図　141号溝出土墨書土器（４）……43
第35図　141号溝出土墨書土器（５）……44
第36図　141号溝出土墨書土器（６）……45
第37図　141号溝出土墨書土器（７）……46
第38図　141号溝出土墨書土器（８）……47
第39図　141号溝出土墨書土器（９）……48
第40図　141号溝出土墨書土器(10) ……49
第41図　141号溝出土墨書土器(11) ……50
第42図　141号溝出土墨書土器(12) ……51
第43図　141号溝出土墨書土器(13) ……52
第44図　141号溝出土墨書土器(14) ……53
第45図　141号溝出土墨書土器(15) ……54
第46図　141号溝出土墨書土器(16) ……55
第47図　141号溝出土墨書土器(17) ……56
第48図　141号溝出土墨書土器(18) ……57
第49図　141号溝出土墨書土器(19) ……58
第50図　141号溝出土墨書土器(20) ……59
第51図　グリッド出土墨書土器……59
第52図　141号溝出土漆紙文書(赤外線カメラによる画像) ……62
第53図　141号溝出土漆紙文書、漆付着土器 ……62
第54図　141号溝出土土器（１）……63
第55図　141号溝出土土器（２）……64
第56図　141号溝出土土器（３）……65
第57図　141号溝出土土器（４）……66
第58図　141号溝出土土器（５）……67
第59図　141号溝出土土器（６）……68
第60図　141号溝出土土器（７）……69
第61図　141号溝出土土器（８）……70
第62図　141号溝出土土器（９）……71
第63図　141号溝出土土器(10) ……72
第64図　141号溝出土土器(11) ……73
第65図　141号溝出土土器(12) ……74
第66図　141号溝出土土器(13) ……75
第67図　141号溝出土土器(14) ……76
第68図　141号溝出土土器(15) ……77
第69図　141号溝出土土器(16) ……78
第70図　141号溝出土土器(17) ……79
第71図　141号溝出土土器(18) ……80
第72図　141号溝出土土器(19) ……81
第73図　141号溝杭出土位置図 ……82
第74図　141号溝杭打設深度図 ……82
第75図　141号溝出土杭（１）……83
第76図　141号溝出土杭（２）……84
第77図　141号溝出土杭（３）……85
第78図　141号溝出土杭（４）……86
第79図　141号溝出土杭（５）……87
第80図　４区４号住居と出土遺物……89
第81図　４区５号住居と出土遺物……90
第82図　４区８号住居……91
第83図　４区８号住居出土遺物……92
第84図　４区９号住居と出土遺物……93
第85図　４区10号住居と出土遺物……94
第86図　４区11号住居と出土遺物……95
第87図　４区12号住居と出土遺物……96
第88図　４区18号掘立柱建物……98
第89図　４区19号掘立柱建物……99
第90図　４区20号掘立柱建物 ……100
第91図　４区21号掘立柱建物 ……101
第92図　４区22号掘立柱建物 ……102
第93図　４区25号井戸 ……106
第94図　４区151・203・205・210号土坑と出土遺物……106
第95図　４区ピット ……106
第96図　４区91・94号溝 ……107
第97図　４区92・93号溝 ……108
第98図　４区91・94号溝出土遺物 ……108
第99図　４区95～108号・142号溝と出土遺物 ……109
第100図　４区143・144・145・146・147・148号溝 ……110
第101図　４区143～146号・148号溝断面 ……111
第102図　４区143号溝出土遺物 ……111
第103図　４区143号・144号溝出土遺物……112
第104図　４区148号溝出土遺物 ……112
第105図　４区149・150・152～154号・227号溝……113
第106図　４区155号溝 ……113
第107図　４区156号溝と出土遺物 ……114
第108図　５区151号溝 ……114
第109図　第５面全体図……115
第110図　５区15・16号井戸……116
第111図　５区201・231号土坑と出土遺物……116
第112図　４区87・88・89・90号溝……117
第113図　４区109号溝 ……118
第114図　４区130号溝 ……118
第115図　５区125・230号溝……119

第116図　5区133・134・135・136・137・138号溝……120
第117図　5区229・231号溝……121
第118図　4区第5面水田(1)……122
第119図　4区第5面水田(2)……123
第120図　5区第5面水田……124
第121図　第4面全体図……125
第122図　5区第4面水田……126
第123図　第3面全体図……127
第124図　4区153・154・155・156号土坑……128
第125図　4区110号溝……129
第126図　4区86号溝……129
第127図　4区111号溝と出土遺物……129
第128図　4区112・117・119号溝……130
第129図　4区113号溝と出土遺物……131
第130図　4区114・115・116号溝……132
第131図　4区118号溝……132
第132図　4区120号溝……133
第133図　4区171・172号溝……133
第134図　5区131・132・228号溝……133
第135図　5区第3面水田……134
第136図　第2面全体図……135
第137図　5区121・122号溝……136
第138図　5区121号溝出土遺物……137
第139図　5区123・124・126・127128・139号溝……138
第140図　第1面全体図……139
第141図　4区81号溝と出土遺物……140
第142図　4区82号溝と出土遺物……141
第143図　4区83・85号溝と出土遺物……142
第144図　4区84号溝……143
第145図　4区第1面水田……143
第146図　4区12号遺構……144
第147図　4区13・14号遺構……145
第148図　4区15号遺構……145
第149図　4区12・15号遺構断面図……146
第150図　4区13号遺構断面図……147
第151図　4・5区グリッド出土遺物……147
第152図　墨書一覧図(1)……152
第153図　墨書一覧図(2)……153
第154図　墨書一覧図(3)……154
第155図　胎土分析土器（福島曲戸遺跡・福島飯塚遺跡）……155

表　目　次

第1表　遺跡一覧表……7
第2表　4区141号溝出土墨書土器一覧表……60・61
第3表　4区141号溝出土土器集計表……63
第4表　墨書位置集計表……154
第5表　4・5区6面水田計測表、4区7面水田計測表…167・168

写真図版　目次

PL1　遺跡を上空から望む（航空写真）
PL2　1　4・5区第8面全景（東から）
　　2　4区第8面全景（北から）
PL3　1　4区第7面水田（上空から）
　　2　5区第7面232号土坑
　　3　5区第7面236号土坑
　　4　5区第7面233号土坑
　　5　5区第7面233号土坑土層断面
PL4　1　4区第6面水田全景（上空から、下方が北）
　　2　4区第6面水田（上空から）
PL5　1　4区第6面水田（東から）
　　2　5区第6面水田（北西から）
PL6　1　4区第5.5面全景（上空から、左が北）
PL7　1　4区第5.5面全景（北から）
　　2　4区第5.5面全景（上空から、下方が北）
PL8　1　4区第5.5面4号住居（北から）
　　2　4区第5.5面8号住居（東から）
PL9　1　4区第5.5面11号住居（西から）
　　2　4区第5.5面12号住居（西から）
PL10　1　4区第5.5面92・93号溝（南から）
　　2　4区第5.5面94号溝（南から）
　　3　4区第5.5面95号溝（南から）
　　4　4区第5.5面100・101・103～108号溝（南から）
PL11　1　4区第5.5面102号溝（南から）
　　2　4区第5.5面148号溝（北から）
　　3　4区第5.5面149・150・152～154号溝（南から）
　　4　5区第5.5面151号溝（北西から）
PL12　1　4区第5.5面第141号溝調査状況（南から）
　　2　4区第5.5面第141号溝調査状況（南東から）
　　3　4区第5.5面第141号溝調査状況（南から）
　　4　4区第5.5面第141号溝調査状況（南西から）
　　5　4区第5.5面第141号溝調査状況（北から）
PL13　1　4区第5.5面141号溝全景（北から）
　　2　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（3、1）
　　3　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（307）
　　4　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（479）
　　5　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（78）
PL14　1　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（107）
　　2　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（136、右側）
　　3　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（162）
　　4　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（456）
　　5　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（94）
　　6　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（157）
　　7　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（105）
　　8　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（308）
PL15　1　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（91）
　　2　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（262）
　　3　4区第5.5面141号溝遺物出土（135）
　　4　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（135）
　　5　4区第5.5面141号溝遺物出土状況（南から）
PL16　1　4区第5,5面掘立柱建物群（上空から、下方が北）
　　2　4区第5,5面18号掘立柱建物（東から）
　　3　4区第5,5面19号掘立柱建物（東から）
　　4　4区第5,5面20号掘立柱建物（東から）
　　5　4区第5,5面21号掘立柱建物（北から）
PL17　1　4区第5,5面22号掘立柱建物（北から）

2　4区第5,5面203号土坑
3　4区第5,5面151号土坑
4　4区第5,5面151号土坑土層断面
5　4区第5,5面25号井戸
6　4区第5,5面25号井戸土層断面
7　4区第5,5面141号溝　杭出土状況
8　4区第5,5面141号溝　杭出土状況
ＰＬ18　1　4区第5面全景（上空から、上方が北）
2　4区第5面15号井戸
3　4区第5面15号井戸土層断面
4　4区第5面16号井戸
5　4区第5面16号井戸土層断面
ＰＬ19　1　4区第5面152号土坑
2　4区第5面152号土坑土層断面
3　4区第5面水田（南から）
4　5区第5面水田（南から）
5　4区第5面87・88～90号溝（南東から）
6　5区第5面125・133～136号溝（北から）
7　5区第5面230号溝（北から）
ＰＬ20　1　4区第3面全景（南から）
2　4区第3面153・154号土坑
3　4区第3面153・154号土坑土層断面
4　4区第3面155・156号土坑
5　4区第3面155・156号土坑土層断面
ＰＬ21　1　4区第3面86号溝（東から）
2　4区第3面110・120号溝（東から）
3　4区第3面111号溝（西から）
4　4区第3面112・117・119号溝（南から）
ＰＬ22　1　4区第3面113号溝（東から）
2　4区第3面114号溝（南から）
3　4区第3面118号溝（南から）
4　5区第3面水田畦畔断面
ＰＬ23　1　5区第2面121・122号溝（西から）
2　5区第2面121～123号溝（東から）
3　5区第2面124・126～128号溝（北から）
4　5区第2面126・127号溝（西から）
5　5区第2面128号溝（西から）
6　5区第2面139号溝（北から）
ＰＬ24　1　4区第1面全景（上空から、上方が北）
2　4区第1面81号溝（南から）
3　4区第1面82号溝（西から）
4　4区第1面83号溝（北から）
ＰＬ25　1　4区第1面12号遺構（南から）
2　4区第1面13号遺構（西から）
3　4区第1面14号遺構（西から）
4　4区第1面15号遺構（東から）
ＰＬ26　4区第5.5面141号溝出土遺物（1）（墨書土器1）
ＰＬ27　4区第5.5面141号溝出土遺物（2）（墨書土器2）
ＰＬ28　4区第5.5面141号溝出土遺物（3）（墨書土器3）
ＰＬ29　4区第5.5面141号溝出土遺物（4）（墨書土器4）
ＰＬ30　4区第5.5面141号溝出土遺物（5）（墨書土器5）
ＰＬ31　4区第5.5面141号溝出土遺物（6）（墨書土器6）
ＰＬ32　4区第5.5面141号溝出土遺物（7）（墨書土器7）
ＰＬ33　4区第5.5面141号溝出土遺物（8）（墨書土器8）
ＰＬ34　4区第5.5面141号溝出土遺物（9）
ＰＬ35　4区第5.5面141号溝出土遺物（10）
ＰＬ36　4区第5.5面141号溝出土遺物（11）
ＰＬ37　4区第5.5面141号溝出土遺物（12）
ＰＬ38　4区第5.5面141号溝出土遺物（13）（杭1）
ＰＬ39　4区第5.5面141号溝出土遺物（14）（杭2）
ＰＬ40　4区4号・5号・8号住居出土遺物
ＰＬ41　4区9号・10号・11号・12号住居出土遺物
ＰＬ42　81号～83号・91号・94号・96号・100号・102号・
111号・113号溝出土遺物
ＰＬ43　121号・143号溝出土遺物
ＰＬ44　144号・148号・151号・203号溝
151号～153号・203号・231号土坑出土遺物
第9面グリッド・第1面グリッド出土遺物

胎土分析報告書　図表目次　　第四紀地質研究所

第1表　胎土性状表 ……160
第2表　化学分析表 ……161
第3表　タイプ分類表 ……162
第4表　組成分類表 ……162
第1図　三角ダイヤグラム位置分類表 ……163
第2図　菱形ダイヤグラム位置分類表 ……163
第3図　MO-Mi-Hb三角ダイヤグラム ……164
第4図　MO-Ch,Mi-Hb菱角ダイヤグラム ……164
第5図　Qt-Pl図……165
第6図　SiO2-Al2O3図 ……165
第7図　Fe2O3-MgO図 ……166
第8図　K2O-CaO図……166

Ⅰ　発掘調査と遺跡の概要

1　発掘調査に至る経過

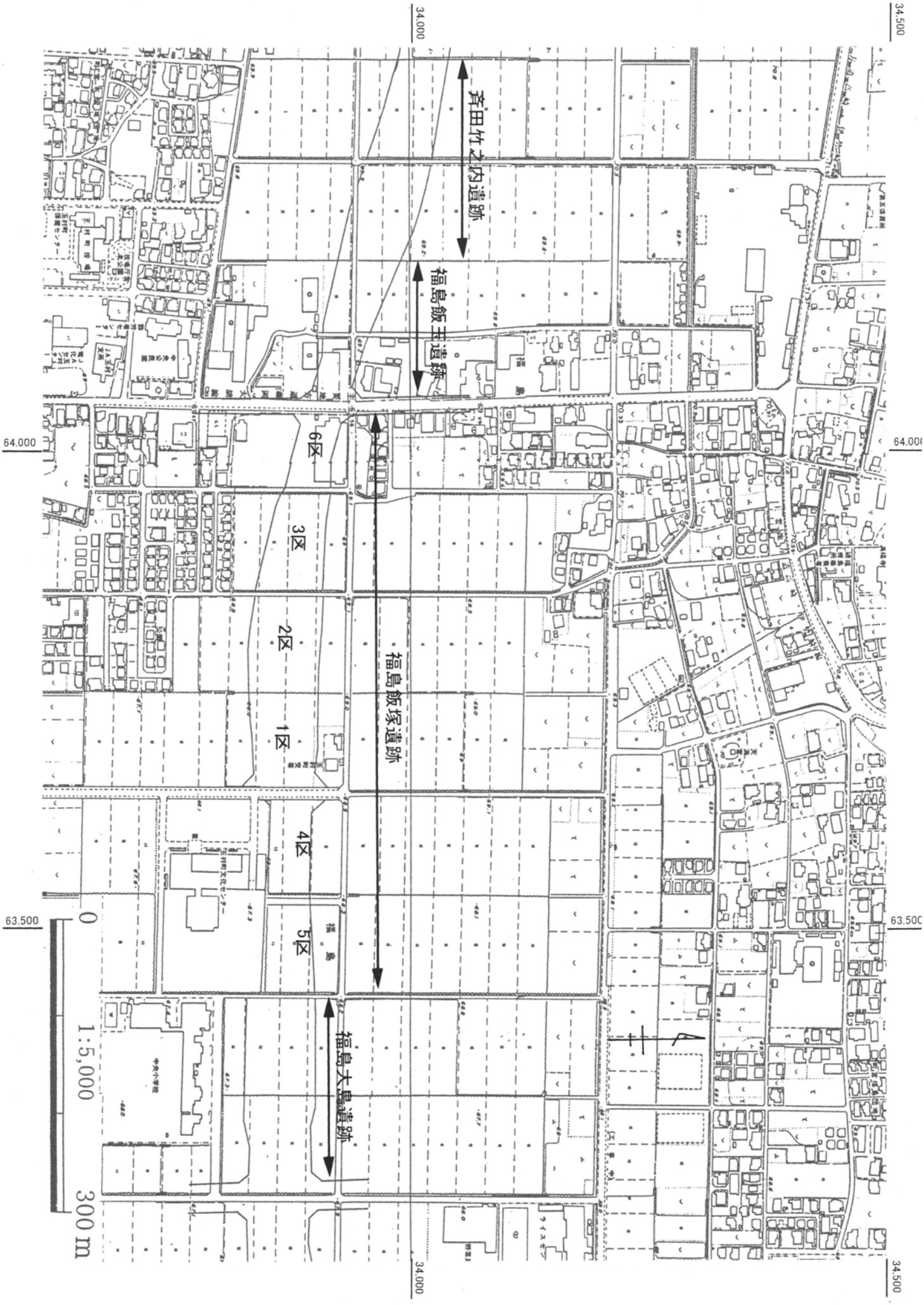
東毛広域幹線道路は、高崎駅東口を起点とし、伊勢崎市、太田市、館林市などの東毛地域の主要都市を結び、東北自動車道館林インターチェンジを経て、板倉町に至る延長58.6kmの広域幹線道路である。

県央と東毛の地域間の連携を深め、沿線の産業立地、物流の効率化、生活圏の拡大など、地域発展に貢献する交通網の整備の一環として事業計画が策定されるものとなった。

昭和37年度に東北自動車道館林インターチェンジ周辺から事業化されて以降、順次工事が着手され、平成18年度には39.35km（事業進捗率67%）が供用延長される計画となっている。この間、埋蔵文化財の発掘調査も順調に実施されている。

今回の玉村町地内の事業は、国道354号高崎玉村バイパスとして、平成５年度から道路改築事業として延長5.3kmが事業化された。計画路線内の埋蔵文化財

第１図　遺跡位置図（国土地理院１/20万「宇都宮」「長野」）



第２図　国道354号高崎玉村バイパス路線図

についても県教育委員会および県土木部、伊勢崎土木事務所による協議を経て、平成８年度から発掘調査が着手されることになった。

発掘調査は、工事工程との関連から主要地方道藤岡大胡バイパス（平成13年12月15日開通）から西側の計画路線から順次着手するものとなった。

平成８年度には、町道345号の袴橋部のカルバートボックス部の調査を福島大島遺跡として実施した。平成９年度には引き続き福島大島遺跡の調査を行った。平成10年度～平成12年度は、工事工程との関係により調査途中での中断時期をはさみながら福島飯塚遺跡の発掘調査を実施した。なお、平成12年度には路線内の土質調査および土圧試験を行うため、斉田竹之内遺跡を部分的に２ａ区として先行調査を実施した。平成13年度は福島飯玉遺跡、斉田竹之内遺跡、平成14年度は福島飯玉遺跡、斉田竹之内遺跡、斉田中耕地遺跡、平成15年度は斉田中耕地遺跡、平成16年度は斉田中耕地遺跡、上新田中道東遺跡の発掘調査を行い、順次完了している。

なお、平成16年度の上新田中道東遺跡の発掘調査からは、計画路線全線ではなく、側道部のみの調査となっている。

高崎玉村バイパス建設も進み、平成13年12月には主要地方道藤岡大胡バイパスから主要地方道藤岡大胡線間の0.82kmが暫定２車線で部分開通し、平成18年３月には主要地方道藤岡大胡線から都市計画道路与六分前橋線間の1.2kmが供用開始となった。引き続き工事工程に沿って埋蔵文化財発掘調査が実施される予定となっている。

2　整理業務の経過

国道354号高崎玉村バイパスに関連する発掘調査は、概ね前記のように実施されてきた。発掘調査は平成８年度から継続的（一時中断）に実施されていることから、整理業務および発掘調査報告書の刊行についてもなるべく近接した時期に着手し、整理業務の進捗をはかるとともに、調査報告書のすみやかな刊行が期待された。発掘調査が先行しているため、整理についても早期にという方向で協議が行われたが、発掘調査の進捗と関連して、整理業務については平成15年度から着手する計画となった。

玉村工区における埋蔵文化財中・長期整理計画については策定中であったが、整理業務１年次の平成15年度は調査遺跡のうち、特に平安時代の墨書土器が大量に出土した福島飯塚遺跡から着手する計画となった。報告書の刊行は次年度とし、整理業務も継続事業として実施された。

しかし、年度後半に至り継続事業として着手した整理業務について、急遽同年度にて一旦中断する事態となった。そのため、年度末にはその時点までの整理各種資料（遺物、図面、写真、その他記録類）をすべて収蔵庫へ撤収するとともに、整理業務そのものも１年次で中断ということになった。

その後、２年間の中断期間をおいて平成18年度に整理業務が再開された。当事業に係る整理業務の２年次を迎えることになった。再開に当たっては、平成15年度に実施した整理業務の継続となり、本年度に報告書を第１分冊として刊行するとともに、整理業務は継続する計画となっている。なお、高崎玉村バイパスに伴う埋蔵文化財整理計画も早急に策定される予定となっている。

3　遺跡の立地と周辺の遺跡

ａ　遺跡の立地

福島飯塚遺跡の所在する佐波郡玉村町は、関東平野の北西端に位置し、東経139°・北緯36°を測る。地形的には低湿地と微高地の違いによる多少の高低差はあるものの、北西方向から南東方向に緩やかに傾斜する平坦地となっている。標高は68m～69mを測る。町の北東部を利根川が北西から南東に流れ、西には井野川が南流している。また、南には井野川と合流し南東方向に流れる烏川がある。このように、この玉村町は古くから利根川や烏川といった大きな河川に囲まれた水利に恵まれてきた地である。町の郊外には圃場整備により整然と区画された水田地帯が広がり、米麦二毛作を中心とした農業が行われている。

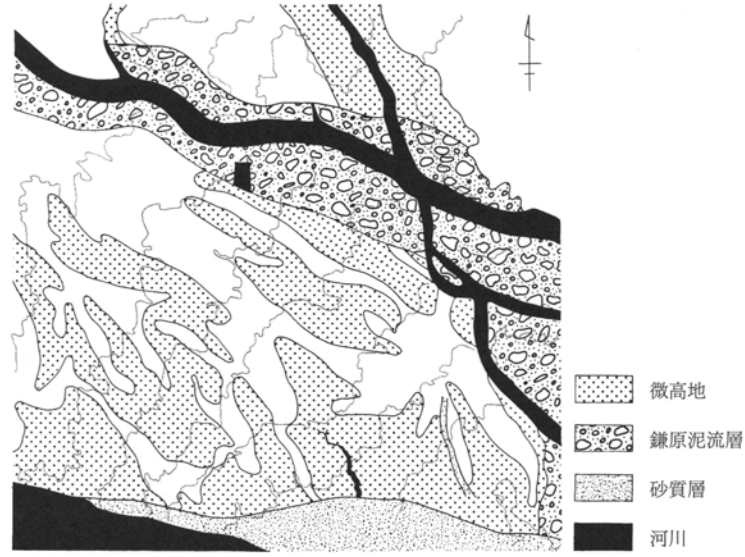
また、赤城山・榛名山・妙義山に代表される上毛三山をはじめとし、さらに遠方には北に谷川岳、西には浅間山といった県境の山々を一望することができる。

遺跡の南約1.3kmに日光例幣使道（現国道354）が東西に、西約3.5kmには関越自動車道が南北に走る。北約2.0kmには平成12年３月に伊勢崎Ｉ．Ｃまで開通した高崎を分岐点とする北関東自動車道が東西に横断する。遺跡周辺には近年、隣接する前橋市や高崎市、伊勢崎市などのベットタウンとして住宅が激増し、人口もここ数年で著しく増加した。また、開発の余波による大型店舗の進出や工場、倉庫などといった企業関連の施設も増加の傾向にあり、それに伴い主要道路の建設や整備、利根川の橋架建設などの交通網の整備が大々的に行われ、町はここ数年で著しい発展を遂げてきている。

福島飯塚遺跡はこの玉村町の中央部利根川右岸、前橋台地の南端に立地する。この前橋台地は、洪積世後期、利根川によってもたらされた厚さ200m以上で堆積した前橋砂礫層の上に約20,000年～24,000年前の浅間山の山体崩壊に起因する前橋泥流が極めて短期的にこの台地を覆い堆積し形成されたものである。凝灰角礫岩を含むこの地層は前橋泥流堆積層と呼ばれ、西は群馬郡南部から高崎市北・東部の平野部へと広がり、東は前橋市の北東部から伊勢崎市西部にかけて厚さ10m以上堆積しており、烏川と広瀬川とに挟まれた県央の平野地域の基盤層となっている。この前橋泥流堆積層の上には、シルト・粘土・砂・泥炭層などによって構成されている水成ローム層が堆積しているが、シルト・泥炭層は水中や湿潤な環境で形成されることから、この時期の前橋台地が湿地状態であったことを示している。科学的分析によると、水成ローム層に含まれる泥炭質粘土層は約13,000年前という測定値を示し、現在の1000m～1500mの山岳地帯の落葉樹林帯を形成する植生が推定できることから、ウルム氷期に比定されるようである。

こうして形成された前橋台地上には洪積世後期以降、利根川をはじめとする幾つかの小河川が流れ、小規模ながら氾濫原を各所に形成していった。特に台地の東側を流れる利根川は、榛名山南東裾野の末端を浸食する形で南流し、前橋市大手町付近から玉村町五料付近まではこの台地を貫通している。約24,000年前は、総社町辺りから新前橋～染谷川、滝川付近を流れ井野川に注いでいたとされ、その後約17,000年前には榛名山で発生した泥流により埋め立てられ、赤城南西麓緑の広瀬川低地帯にその流路を変更している。現在の河道に移ったのは中世後期であると考えられている。その後、利根川は大きな変流をこそ起きなかったが、洪水などの氾濫を度々起こし周辺の小河川に影響を与えながらこの台地を刻み続けた。その結果、後背湿地と微高地とが複雑に入り組んだ地形が形成されたのである。このように利根川の存在は玉村町の地形形成の大きな要因となっている。

利根川は、中世の変流後も幾度となく大洪水を引き起こし、近年に至っても昭和22年のキャサリン台風の直撃を受け、町は氾濫によって大きな被害を被っている。本遺跡からも利根川の洪水堆積層に被覆された水田跡や同層に埋没した館跡が確認されている。



第３図　地形模式図

b　周辺の遺跡

玉村町は近年著しい開発に伴い、多くの発掘調査が行われている。その調査結果から周辺地域の歴史が明らかになってきている。今回の調査では平安時代の溝から数多くの墨書土器が出土し、その資料的価値は高く注目を集めた。以下では玉村町周辺の遺跡について時代ごとに記す。

【旧石器時代】現在の地形が形成されたのは２万数千年前とされ、しかも低湿地であったため人間が生活できる環境ではなかったとされている。

【縄文時代】縄文時代の遺構は台地縁辺部にわずかに認められる程で、この時代の遺跡は稀薄である。福島曲戸遺跡(８)や上之手石塚Ⅲ遺跡(45)から土坑が検出されているが、これらに伴う集落は確認されておらず、前橋台地上は依然として湿潤な状態が続いたため、居住地としての環境を備えていなかったと考えられる。

【弥生時代】玉村町の西に隣接する高崎市の井野川流域は県内では最も弥生文化の盛んな地域の一つであるが、玉村町にはその痕跡すら認められていない。上之手石塚Ⅲ遺跡から土坑が検出されている程度である。

しかし、今後の調査によって弥生時代の遺構が確認される可能性は少なくない。

【古墳時代】玉村町に大規模な集落が形成されるようになったのは、４世紀初頭と考えられている。これは微高地部から古墳前期の土器が多く出土するようになり、遺跡の拡大傾向を示していることから推測される。

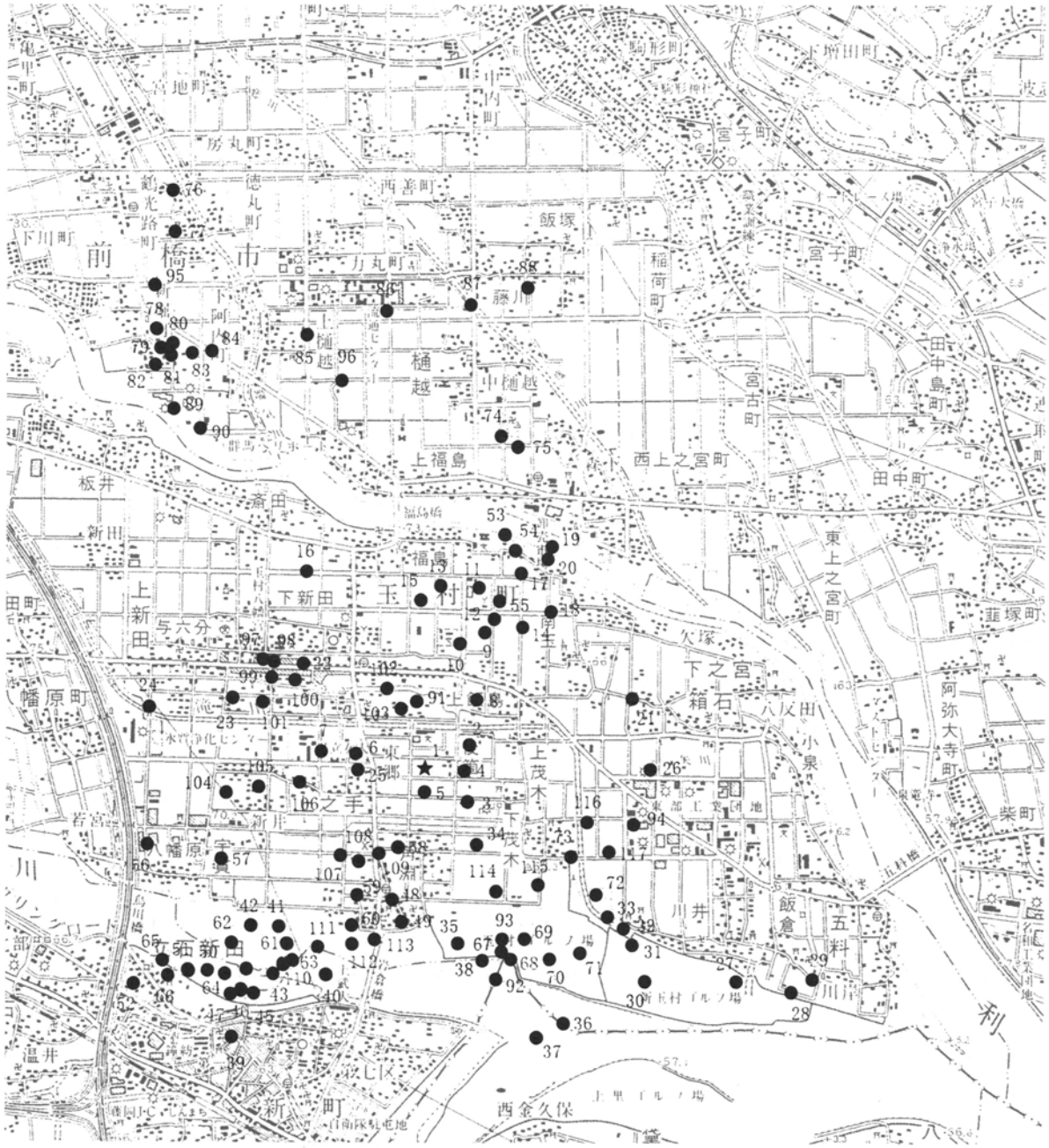
前期の集落跡は福島曲戸遺跡や福島稲荷木遺跡(５)上之手八王子遺跡(42)、上飯島芝根Ⅱ遺跡(34)などがある。上之手八王子遺跡では竪穴住居の外周に方形の溝を巡らす環濠住居が検出されている。下郷遺跡(52)、北原遺跡(30)などの遺跡からは古墳時代前期の周溝墓が検出されている。中でも下郷遺跡では28基の方形周溝墓を中心に円形周溝墓や前方後円墳などが数多く検出されている。また、行花文鏡２面が出土した軍配山古墳(38)もこの時期の築造と考えられている。中期・後期の遺跡は小泉大塚越遺跡(28)、小泉長塚遺跡(29)などから検出された古墳や梨ノ木山古墳(37)、オトカ塚古墳(36)などがある。特に小泉大塚越遺跡や小泉長塚遺跡で検出された古墳は「上毛古墳綜覧」に記載されていない新たな古墳の発見であり、貴重な遺物も数多く出土し注目を集めた。福島曲戸遺跡や福島久保田遺跡(２)などの低地からは小区画水田などの生産遺構がHr-FA下から検出されている。

【奈良・平安時代】倭那類抄によれば那波郡には朝倉、鞘田、田子、佐味、倭文、池田、荒束の七つの郷があり、このうち佐味・鞘田郷の一部、朝倉郷の一部が現在の玉村町に比定する可能性があると考えられている。この時期の集落は数多く存在し、福島稲荷木遺跡、上飯島芝根Ⅱ遺跡、上之手八王子遺跡、行人塚遺跡(44)、神人村Ⅱ遺跡(18)、原浦遺跡(19)、原浦Ⅱ遺跡(20)などで確認されている。金免遺跡(15)や深町遺跡(23)、中道西遺跡(24)、三境遺跡(33)、三境Ⅱ遺跡(32)からは1108年の浅間山噴火による軽石で埋まった水田跡を中心とした生産遺構が検出されている。一万田遺跡(14)では柵列や瓦が確認されており郡衙や寺などの施設が存在していたことが考えられる。また、砂町遺跡(13)や上福島尾柄町遺跡(11)からは推定東山道が検出されている。本遺跡においても溝から数多くの墨書土器が出土している。

【中・近世】浅間山噴火による災害から、人々は再び水田区画をつくり始めた頃、微高地上には周囲に溝を巡らせ、内部に掘立柱建物群の立ち並ぶ屋敷が出現し始める。田口下元屋敷跡(22)は齋田環濠屋敷群と呼ばれる中のひとつで、２重構えで外郭は東西80m×120m、内郭は東西45m×45mの規模をもち、1560年前後に築かれたものとされている。宇貫遺跡(50)では大堀を２重に巡らせた宇貫館と呼称される遺構が検出され、下郷遺跡や上之手石塚遺跡(47)、福島大光坊遺跡(３)、福島大島遺跡(４)、阿佐美館(17)などの遺跡からも中世の館跡が検出されている。本遺跡からも洪水層に埋没した館跡が検出され

ている。利根川変流以降この地域は度重なる水害の被害を受けていたため、洪水層下からは洪水ごとに復旧した水田や畠が多くの遺跡から検出されている。特に1783年の浅間山噴火に伴う泥流と軽石(As-A）に覆われた遺跡からは状態の良い遺構や遺物が検出されている。上福島中町遺跡(10)からは泥流に埋もれた建物跡や当時の生活用具が数多く検出され注目を集めた。また、利根川右岸の利根添遺跡(26)では矢川の堤防と村境の役割を果たしていたと考えられる土手が検出され、樋越諏訪前遺跡(21)は家屋や植え込み、土手、畑などが検出されている。柄田添遺跡(16)、沖遺跡(27)、小泉大塚越遺跡、小泉長塚遺跡からは畑が検出され、特に柄田添遺跡では畑や水田から当時の耕作痕や足跡が明瞭な形で検出されている。

〔参考文献〕
『玉村町誌』　通史編上巻1992
『玉村町の遺跡』　玉村町教育委員会1992



第４図　遺跡分布図（国土地理院１/５千「前橋」「高崎」）

第1表　遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	遺跡の内容
1	福島飯塚遺跡	玉村町福島	本書所収。
2	福島久保田遺跡	玉村町福島	古墳時代、平安時代の住居、水田。中世の掘立柱建物、水田。
3	福島大光坊遺跡	玉村町福島	古墳時代、奈良・平安時代の住居、水田。中世の屋敷堀等。
4	福島大島遺跡	玉村町福島	古墳時代の水田、平安時代の住居、水田。中世居館跡。
5	福島稲荷木遺跡	玉村町福島	古墳時代、奈良・平安時代の住居等。
6	福島飯玉遺跡	玉村町福島	中世の水路。
7	斉田竹ノ内遺跡	玉村町福島	平安時代の住居、井戸。中世の水路、環濠屋敷。近世の水田、畑。
8	福島曲戸遺跡	玉村町福島	古墳、奈良・平安時代の住居、掘立柱建物、水田。近世の復旧溝等。
9	上福島遺跡	玉村町福島	古墳時代の溝、ピット。平安時代の水田。近世の畑。
10	上福島中町遺跡	玉村町上福島	近世の建物、畑、道。中世の堀、溝、土坑。平安時代住居、土坑。古墳時代の溝。
11	上福島尾柄町遺跡	玉村町上福島	平安時代の水田。推定東山道（牛堀・矢ノ原ルート）
12	尾柄町遺跡	玉村町上福島	平安時代の水田。
13	砂町遺跡	玉村町上福島	古墳時代の用水路、奈良・平安時代の道路遺構（東山道）、平安時代の水田。
14	一万田遺跡	玉村町上福島	奈良・平安代住の官衛跡か。
15	金免遺跡	玉村町上福島	平安時代の水田。
16	柄田遺跡	玉村町上福島	奈良・平安時代の住居、水田。江戸時代の畑。
17	阿佐美館	玉村町樋越	中世居館。
18	神人村II遺跡	玉村町樋越	奈良・平安時代住居跡。
19	原浦遺跡	玉村町樋越	平安時代の住居他。
20	原浦II遺跡	玉村町樋越	古墳時代の溝。平安時代の集落。鎌倉時代以降の溝。
21	樋越諏訪前遺跡	玉村町樋越	江戸時代の家屋、植え込み、土手、溝、畑。
22	田口下屋敷遺跡	玉村町斉田	中世の屋敷跡。
23	深町遺跡	玉村町上新田	平安時代の水田。
24	中道西遺跡	玉村町上新田	平安時代の水田。近世の溝。
25	布留坡遺跡	玉村町上新田	平安時代の水田。
26	利根添遺跡	玉村町下之宮	江戸時代の畠、土手遺構。
27	沖遺跡	玉村町川井	江戸時代の畠・旧河川跡。
28	小泉大塚越遺跡	玉村町小泉	古墳（後期）。平安時代水田。江戸時代の畠。
29	小泉長塚遺跡	玉村町小泉	古墳（後期）。江戸時代の畠。
30	北原遺跡	玉村町川井	古墳時代、方形周溝墓。奈良・平安時代の集落。
31	平塚堰北遺跡	玉村町川井	平安時代のピット。江戸時代の水田。
32	三境II遺跡	玉村町上茂木	平安時代の水田。
33	三境遺跡	玉村町上茂木	平安時代の水田。
34	上飯島芝根II遺跡	玉村町上飯島	古墳時代前期の集落。奈良・平安時代の集落、水田。
35	五郎作巡遺跡	玉村町後箇	平安時代の住居、掘立柱建物跡。近・現代の溝。
36	オトカ塚古墳	玉村町下茂木	古墳（後期）。
37	梨ノ木山古墳	玉村町下茂木	古墳（後期）。
38	軍配山古墳	玉村町角渕	古墳（前期）。
39	御門遺跡	玉村町角渕	古墳時代の円形周溝墓・方形周溝墓状遺構・住居跡。
40	粉糠島遺跡	玉村町上之手	平安時代の溝、土坑。
41	上之手八王子II遺跡	玉村町上之手	平安時代の住居、溝。中世以降の溝。
42	上之手八王子遺跡	玉村町上之手	古墳時代前期集落跡。奈良・平安時代集落跡。
43	原屋敷II遺跡	玉村町上之手	平安時代住居跡・溝跡。中世以降溝跡。
44	行人塚遺跡	玉村町上之手	奈良・平安時代の集落。
45	上之手石塚III遺跡	玉村町上之手	縄文・弥生時代土坑。平安時代の住居、溝。中世の溝、土坑。
46	上之手石塚IV遺跡	玉村町上之手	奈良時代の住居。平安～近・現代の溝。
47	上之手石塚遺跡	玉村町上之手	古墳時代前期方形周溝墓、住居。奈良・平安時代の住居。中世居館。
48	曲田遺跡	玉村町上之手	平安時代の掘立柱建物跡、井戸、溝。
49	曲田遺跡II	玉村町上之手	平安時代の水田。
50	宇貫遺跡	玉村町宇貫	古墳時代前期の住居・土坑。中世居館。
51	赤城II遺跡	玉村町宇貫	古墳・奈良時代の土坑。中・近世の溝。
52	下郷遺跡	玉村町宇貫	古墳時代前期の方形周溝墓、古墳。中世居館。

参考文献一覧

No.	遺跡名	参考文献
2	福島久保田遺跡	『福島久保田遺跡 福島大光坊遺跡』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　報告書第317集　2003
3	福島大光坊遺跡	『福島久保田遺跡 福島大光坊遺跡』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　報告書第317集　2003
4	福島大島遺跡	『年報16・17』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　1997・1998
5	福島稲荷木遺跡	『福島稲荷木遺跡』　玉村町教育委員会
6	福島飯玉遺跡	『年報21』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　2002
7	斉田竹之内遺跡	『年報21』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　2002
8	福島曲戸遺跡	『福島曲戸遺跡・上福島遺跡』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　報告書第309集　2002
9	上福島遺跡	『福島曲戸遺跡・上福島遺跡』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　報告書第309集　2002
10	上福島中町遺跡	『上福島中町遺跡』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　報告書第318集　2003
11	上福島尾柄町遺跡	『上福島尾柄町遺跡』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　報告書第302集　2003
12	尾柄町遺跡	『尾柄町遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第４集　1992
13	砂町遺跡	『年報18』　群馬県埋蔵文化財調査事業団　1999
14	一万田遺跡	『玉村町の遺跡』　玉村町教育委員会　1992
15	金免遺跡	『金免遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第１集　1989
16	柄田添遺跡	『柄田添遺跡』　玉村町教育委員会
17	阿佐美館	『群馬古城累の研究』　山崎一著
18	神人村Ⅱ遺跡	『神人村Ⅱ遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第３集　1992
19	原浦遺跡	『原浦遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第20集　1998
20	原浦Ⅱ遺跡	『原浦Ⅱ遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第16集　1996
21	樋越諏訪前遺跡	『群馬の遺跡２―発掘最前線97』　群馬県教育委員会　1997
22	田口下屋敷遺跡	『田口下屋敷遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第36集 2000
23	深町遺跡	『玉村町の遺跡』　玉村町教育委員会　1992
24	中道西遺跡	『中道西遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第17集　1996
25	布留坡遺跡	『布留坡遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第27集　1998
26	利根添遺跡	『利根添遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第23集　1998
27	沖遺跡	『沖遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第32集　1999
28	小泉大塚越遺跡	『小泉大塚越遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第10集　1993
29	小泉長塚遺跡	『玉村町の遺跡』　玉村町教育委員会　1992
30	北原遺跡	『北原遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第14集　1995
31	平塚堰北遺跡	『平塚堰北遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第15集　1996
32	三境Ⅱ遺跡	『三境・三境Ⅱ遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第18集　1997
33	三境遺跡	『三境・三境Ⅱ遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第18集　1997
34	上飯島芝根Ⅱ遺跡	『玉村町の遺跡』　玉村町教育委員会　1992
35	五郎作巡遺跡	『五郎作巡遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第21集　1998
36	オトカ塚古墳	『上毛古墳綜覧―芝根村２号墳』
37	梨ノ木山古墳	『上毛古墳綜覧―玉村１号墳』
38	軍配山古墳	『上毛古墳綜覧―芝根村３号墳』
39	御門遺跡	『御門遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第22集
40	粉糠島遺跡	『粉糠島遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第25集　1998
41	上之手八王子Ⅱ遺跡	『上之手八王子Ⅱ・原屋敷Ⅱ遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第19集　1997
42	上之手八王子遺跡	『上之手八王子遺跡』　玉村町教育委員会　1991
43	原屋敷Ⅱ遺跡	『上之手八王子Ⅱ・原屋敷Ⅱ遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第19集　1997
44	行人塚遺跡	『玉村町の遺跡』　玉村町教育委員会　1992
45	上之手石塚Ⅲ遺跡	『上之手石塚Ⅲ遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第８集　1998
46	上之手石塚Ⅳ遺跡	『上之手石塚Ⅳ遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第12集　1993
47	上之手石塚遺跡	『上之手石塚遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第39集　2000
48	曲田遺跡	『曲田遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第30集　1999
49	曲田Ⅱ遺跡	『曲田Ⅱ遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第31集　1999
50	宇貫遺跡	『宇貫遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第34集　1999
51	赤城Ⅱ遺跡	『赤城Ⅱ遺跡』　玉村町教育委員会　報告書第13集　1993
52	下郷遺跡	『下郷遺跡』　群馬県教育委員会　1980

4　調査の方法と経過

a　グリッドの設定（第５図）

国道354号高崎玉村バイパスに伴う埋蔵文化財発掘調査においては、国家座標に基づき玉村町全域を網羅するように南東隅の座標Ｘ＝30,000・Ｙ＝60,000を起点とする10km四方の区画を設定し、それを「地区」と呼称した。

そして、その「地区」を１km四方に分割し、南東隅から北に向けて１～100の番号を平行式に付して「区」（大区画）とした。

次にこの大区画を100m四方に分割し大区画同様に番号を付し、「中グリッド」とした。

さらに中グリッドを５m四方に分割し、「小グリッド」と称した。小グリッドには南東隅を起点として西方向（Ｘ軸方向）にアラビア数字を「１～20」、北方向（Ｙ軸方向）にアルファベットを「Ａ～Ｔ」と付した。発掘調査の実施にあたってはこの「小グリッド」を基本としている。

なお、福島飯塚遺跡４区・５区は、「34区」（大区画）の「49・59・69」（中グリッド）に位置する。

この報告書で記載するグリッドは、このような大・中・小の各区画のうち、基本的に「中グリッド」および「小グリッド」を表記することで特定している。例えば「49M-17グリッド」と呼称するものは、「49」中区画、「M-17」小区画あらわしている。

b　調査区の設定

発掘調査に際しては、基準とする区画やグリッドとは別に、Ｒ354号高崎玉村バイパス計画路線を南北に走行する現道および水路を境界として、任意の調査区に区分けした。この調査区は１区から６区とし、発掘調査を着手した順に区名称が付されている。グリッド設定図中の調査区内に表記する「１区～６区」がこの任意の調査区呼称である。

c　調査の方法

調査対象地は水田地域を横断するため、耕作期には用水が導水され、遺構調査に影響を生じることが想定されるため、事前に調査区周囲に排水用の溝を設定した。その際、土層断面の観察を行い、堆積土層や遺構確認面確認の把握に努めた。

この段階で、複数の火山噴出物堆積層や洪水氾濫層などが土層中に確認することができ、同時に複数の遺構面の存在も認識されるものであった。さらにそのような自然堆積層、遺構面は遺跡内に均一に存在するのではなく、比較的小範囲で残存状況が異なる点も看取された。

発掘調査に際しては、表土および火山噴出物堆積層や洪水氾濫層などの遺構確認面被覆層についてはバックホーによる重機掘削を行い、人力での遺構検出作業を継続的に実施した。

確認された遺構は、中央部に土層確認用のベルトを設定し、調査を進めた。なお、土坑、ピットなど小規模な遺構についてはこの限りではない。

遺構名称は、住居・掘立柱建物・土坑・溝・ピットなど遺構種別ごとに１号から順次番号を付した。基本的に福島飯塚遺跡（１区～６区）全体での通番とした。しかし、調査年次や調査地点が複数年にわたるため、一部に重複や欠番も生じていた。原則として調査時の遺構名称および番号のまま報告しているが、重複などが明らかな場合は、資料整理段階で変更した。

なお、遺構番号の序列は遺構の時間的前後関係を示すものではない。

遺構の記録は、実測図化と写真撮影により行った。遺構の図化は、調査区内をグリッドに準じて縮尺40分の１で割図とし、遺構の状況に沿って縮尺20分の１により図化した。特殊な場合はこの限りではない。

遺構写真は、モノクロ写真を６×７判および35ミリ１眼レフ、カラー（リバーサル）を35ミリ１眼レフにて撮影した。しかし、広範囲にわたる水田遺構や遺物の分布状況などは業者に委託し、気球による航空写真測量や光波測量などで効率化を図った。状況によっては高所作業車を利用して写真撮影による記録を行った。

d　調査経過

発掘調査は平成11年４月１日から平成12年１月31日まで実施された。調査経過について日誌からその概要を報告しておく。

なお、福島飯塚遺跡は平成10年４月１日から発掘

調査が着手され、当年度の通年事業として実施される計画であった。発掘調査は１区から開始し、２区・３区も同時に調査対象となった。R354号バイパス路線は東西に通過するため、南北に走行する現道である数本の町道の跨橋工事が優先されるため、各調査区の町道に接する地点の調査を先行する計画となった。跨橋工事部の調査を終了させ、その後路線部へという調査計画で進行していた。

しかし、年度後半に至り工事計画等との関係から同年11月30日にて急遽調査を中断する状況となった。この段階では、当初の調査計画に沿って１区・２区・３区の調査を行っていたため、発掘調査を進めながら、中断できるような準備も同時に行うものとなった。中断時は、調査遺構についてはマットにて保護し、ブルーシートで被覆することで遺構の保護を図った。

このような経緯のなかで、平成11年４月１日に発掘調査が再開されたのである。

この報告書は、平成11年４月以降に実施した４区および５区について行うものであるが、調査再開であるため中断していた１区・２区・３区も同時進行で調査が実施されている。

調査経過について月毎に内容を示すが、本書では報告しない１区～３区についても簡単に触れるが、それは上記のような理由による。

調査経過

平成11（1999）年４月

１日より調査準備。プレハブ施設は前年度に設置したものを使用する。１区から調査着手のため、調査区全面を保護していた被覆シートおよびマット類を除去する。第６面からの調査再開となる。

２区・３区は溜水が多く、ほぼ水没状態のため、排水準備を行う。排水後、遺構被覆シート類の除去を行い、遺構確認作業を継続する。

下旬から４区の調査に着手する。町道架橋橋脚部分の工事が先行して実施されることになったため、工事部の調査を早期に終了させる必要が生じる。

５月

１区は、微高地部に住居や土坑、井戸などを確認する。黒色土中からも土器類の出土は多い。年代的には古墳時代の遺物が主体。

２区で検出された中世館（環濠屋敷）の調査継続。環濠区画内に多数のピット群が集中し、掘立柱建物が複数重複して存在するとみられる。

３区は、第５面であるAs-B層下水田調査継続する。部分的に区画整理事業による影響を受け、残存状況はあまり良好ではない。As-B層もかなり層厚が薄く、部分的に畦畔が残存する程度のようである。

４区は、表土掘削とともに、第１面の遺構確認を行なう。As-A埋設用の復旧溝や溝が検出される。

６月

２区の中世館（環濠屋敷）は溝に区画された内部がさらに２区画に分割される構造であることがわかった。西区画では掘立柱建物群が存在し、東区画では土坑群が存在する。

４区第１面は1783年浅間山噴火に伴う火山噴出物（As-A）の処理を目的にした埋設用の溝群である復旧溝が複数の群単位で確認された。近年の区画整理事業による掘削のため、残存状況は不良であり遺構下部のみの検出にとどまる。

７月

２区の中世館の調査継続。掘立柱建物群、土坑群調査および実測を行なう。

４区も調査継続し、As-B層下水田検出。南西部に微高地がみられ、竪穴住居１軒確認する。As-B層下水田調査終了後、下層の調査へと進む。

８月

２区の中世館の調査継続。

４区は橋脚工事部分の範囲を終了し、埋め戻しを行なう。引き続き、工事部分以外の調査について調査着手。下旬より橋脚工事が始まる。第１面～第３面の調査を行なう。

９月

２区の中世館の調査継続。

４区は第５面、As-B層下水田調査を行なう。

５区の調査も並行して実施する。区画整理事業による表土移動による攪乱のため、遺構の残存状況は

全般的にあまりよくない。

10月

2区の中世館の調査継続。

4区は第5面の水田調査終了後、下層の遺構面の調査着手。水田耕土下で大規模な溝を確認。他に住居、掘立柱建物、土坑なども認められる。同路線内の発掘調査ではこれまで見つかっていない遺構確認面であるため、これまでの遺構面名称と共通するようにこの面を「5.5面」として調査を実施する。さらに溝内から墨書土器が複数出土することも確認する。

5区も調査を継続して行なう。

23日(土)、24日(日)本部にて平成11年度公開普及デー開催。

11月

4区141号・143号・144号溝調査継続。141号溝から墨書土器が多数出土する。特に「家」の墨書が目立つ。26日(金)平川　南国立歴史民俗博物館教授に墨書土器の指導を受ける。その際、須恵器小片に残存する漆紙文書が摘出された。

28日(日)玉村町で開催された生涯学習フェスティバルにあわせ遺跡を一般公開し、説明会を実施した。

12月

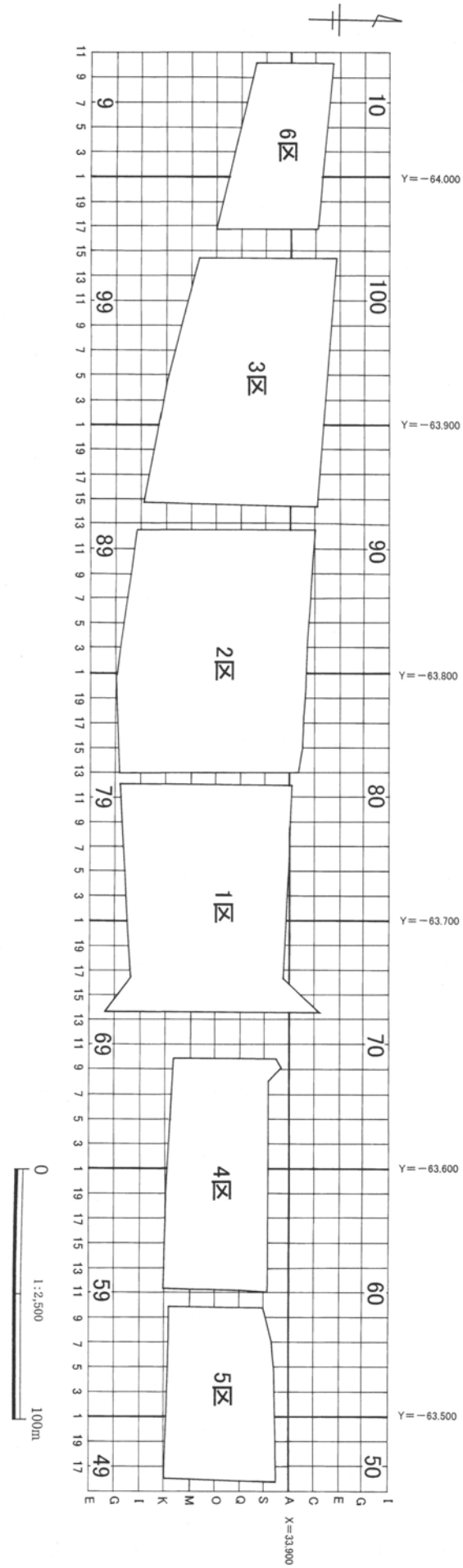
4区は5.5面の調査を継続する。掘立柱建物、土坑等の調査。5区は6面水田および7面水田の調査。

R354福島飯塚遺跡の発掘調査は平成11年4月から平成12年3月の期間で実施する工程であったが、急遽計画変更により平成12年1月にて中断することになった。そのため、各区の調査計画について見直し、4区および5区は工事計画の関係から、1月にて調査終了するものとした。他区は調査途中の状態でマット、シート類で養生し、次年度以降の再開に支障のないよう保護することとした。

平成12（2000）年1月

4区、5区は調査完了し、埋め戻しを行う。2区は調査途中で、全面をマット、シート類により被覆、土嚢により固定し保護対策を講じる。

31日(月)にて機材等撤収し、平成11年度R354福島飯塚遺跡の発掘調査を中断という状態で終了した。



第5図　グリッド設定図

II　発掘調査の記録

1　遺跡の概要

a　基本土層と遺構確認面（第６図）

調査対象区域の現状は水田としての土地利用が行われていた。この地域は、昭和30年代に広範な土地改良事業が実施され、区画整備が完了していることから、平坦な水田地帯となっていた。標高は68m前後である。

そのため、現状では平坦で変化に乏しい地形に見えるものの、周辺における発掘調査によっても明らかなように地表下には複雑な微地形が埋没していることも伺われている。

このような複雑な埋没地形の形成には、北側に東流する利根川等の洪水氾濫層の流出、浅間山や榛名山の火山噴出物や関連して発生した泥流の堆積などが大きく影響する。さらには、各時代を通じて営まれた居住域や田畑の耕作など、人々の営力による開墾もやはり大きな影響を及ぼしている。このような自然・人的営力により複雑な地形が形成されるとともに、同一地点に複数の遺構面が形成されることにもなっている。

さらに、複数の遺構面の存在は一様ではなく、近接地点にあっても残存状況が異なる場合も珍しくない。

福島飯塚遺跡は調査区を現道や用排水路により便宜的に１区から６区に区分けして発掘調査を実施している。延長570mとなるが、各区ごと、または同区内でも埋没土層が相違し、遺構面も連続しない状況が見受けられ、調査中も苦慮する場面も多々生じた。

今回報告する４区および５区についても別の区や隣接遺跡に認められていなかった遺構面が検出されている。これまでの発掘調査では、上位の遺構面を１面とし、以下順次２面、３面と下位の遺構面を表記してきた。４区も同様に遺構面を１面から付しながら調査を進めていた。なお、遺構調査に際しては、事前に試掘トレンチにより下層までの土層確認および埋没遺構面の把握を行っていた。しかし、調査が第５面のAs-B埋没水田に及んでこれまでとは異なる遺構面の存在が認められた。69L－２グリッドから69S－２グリッドにかけて第５面水田面が大きくくぼんでいたのである。当初、第５面の下位にはHr-FPに伴う泥流堆積層に埋没する水田が確認されていることから、次は同水田の調査を予定していた。第５面水田面に確認された大きなくぼみはその下位に存在する平安時代の溝であることがわかったのである。つまり、第５面のAs-B埋没水田の下層で、第６面のHr-FP泥流の上層に位置することになる。遺構面とすれば第５面下であることから第６面となるが、この面が４区および５区のみで確認されこれまで確認されてこなかった点と、第６面の名称はすでにこれまでの調査でほぼ同一面として定着しつつあった名称のため、今回の遺構面については「5.5面」と呼称した。今回の報告にあたっても調査時同様に「5.5面」として記載する。

１層　表土　昭和30年代に実施された土地改良事業により形成された水田耕作土層。

２層　暗褐色シルト質層。極めて軟弱な層で、河川の氾濫により堆積した洪水層。表土下のこの層上面で、第１面の遺構が検出される。

３－ａ層　褐色シルト質層。やや粘性を持つ洪水層。２層が残存しない地点では、この土層上でも第１面の遺構が確認できる。

３－ｂ層　褐色シルト質層。軟弱な洪水層。この層上で第２面遺構群が検出される。

４－ａ層　暗褐色土層。As-Bを混入するため、やや砂質。「B混」と通称される層。この層上で第３面の遺構群が検出される。

４－ｂ層　黒褐色土層。As-Bを混入する。含有量は上層の４－ａ層に比べ多く、より砂質感が強い。「B混」と通称される層。この層上で第４面の水田が確

認される。

As-B層　1108（天仁元）年浅間山噴火により堆積した火山灰層。玉村町域内の埋蔵文化財調査によって、広範囲に分布が確認されている。

5層　黒褐色粘質土層。As-Bに埋没する水田耕作土層。As-Bに被覆された水田が第5面として検出される。

6層　灰黄褐色粘質土層。土層面は水田耕作等により攪乱されているため、遺構確認面として把握できない。4区では同層中に平安時代の集落や溝を確認したため、この層中に確認された遺構群を「5.5面」とした。

7層　黄褐色土層。明黄褐色シルトを50%程度含む。

8層　黄橙色シルト質土層。Hr-FPに伴い発生した洪水堆積層。「FP泥流」と通称される層。

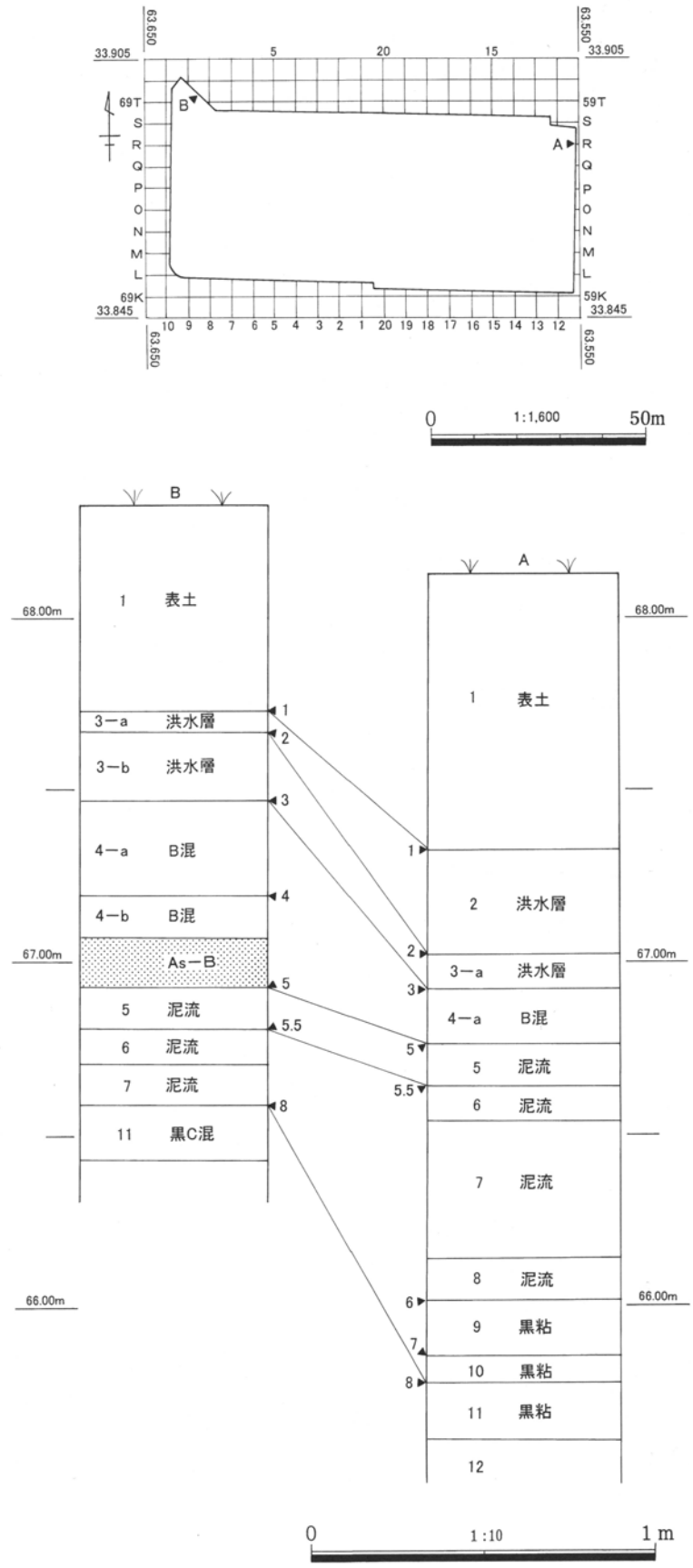
9層　黒褐色粘質土層。8層に被覆される水田耕土。第6面遺構確認面。

10層　黒色粘質土層。9層下の同層面で部分的に畦畔を検出。第7面遺構確認面。

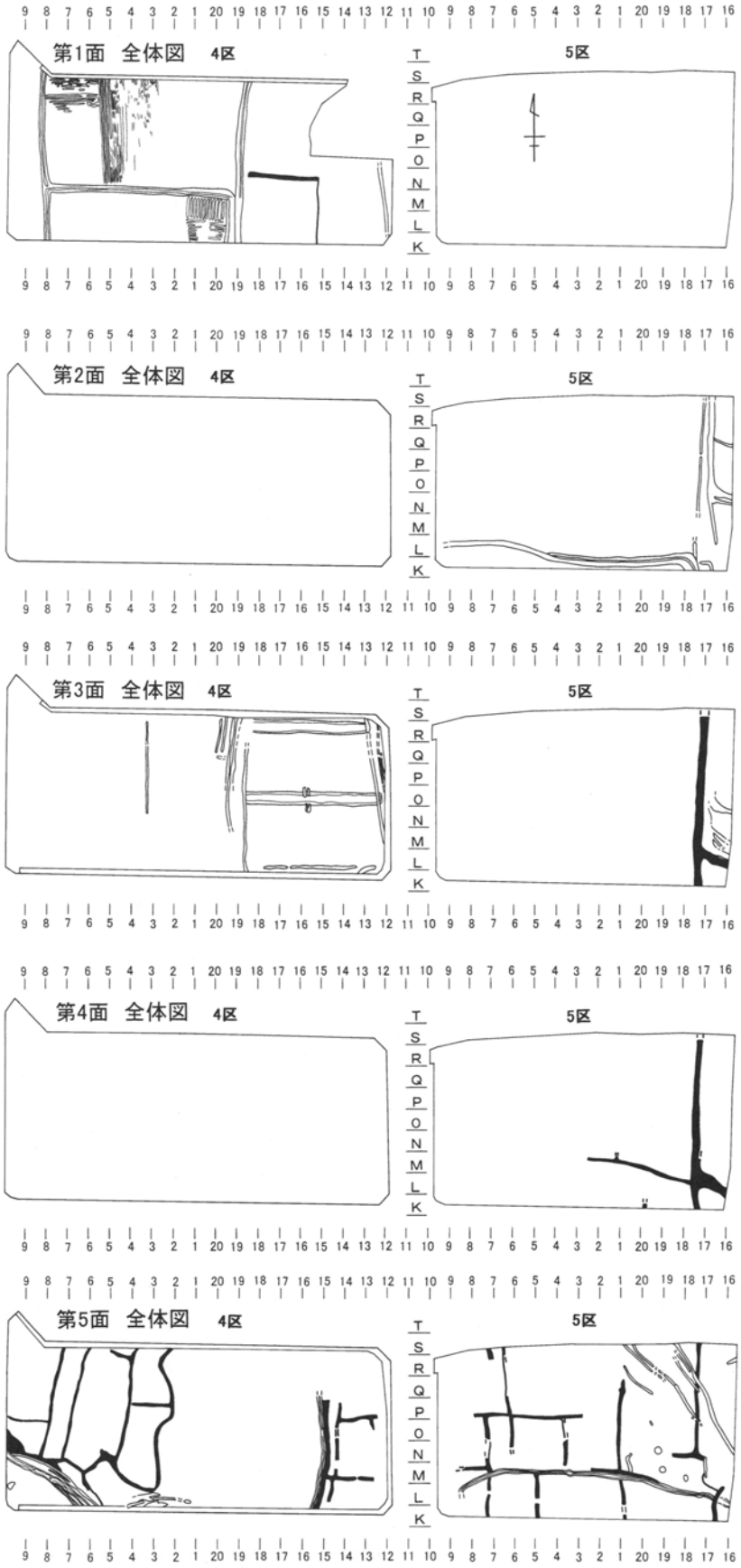
11層　黒色粘質土層。As-Cを混入する層。「C混」と通称される。As-C降下後の水田耕作により、同軽石が鋤き込まれることで形成された層。第8面の水田耕土層。

12層　暗褐色粘土層。この層中から縄文時代および弥生時代の遺物が少量ながら出土する。

今回の調査では遺構は検出されていない。



第6図　基本土層図（福島飯塚遺跡4区）



第１面：1783(天明３)年浅間山噴火により堆積した火山灰の除去を目的にした復旧溝が確認される。また、田畑の区画用の溝も認められる。

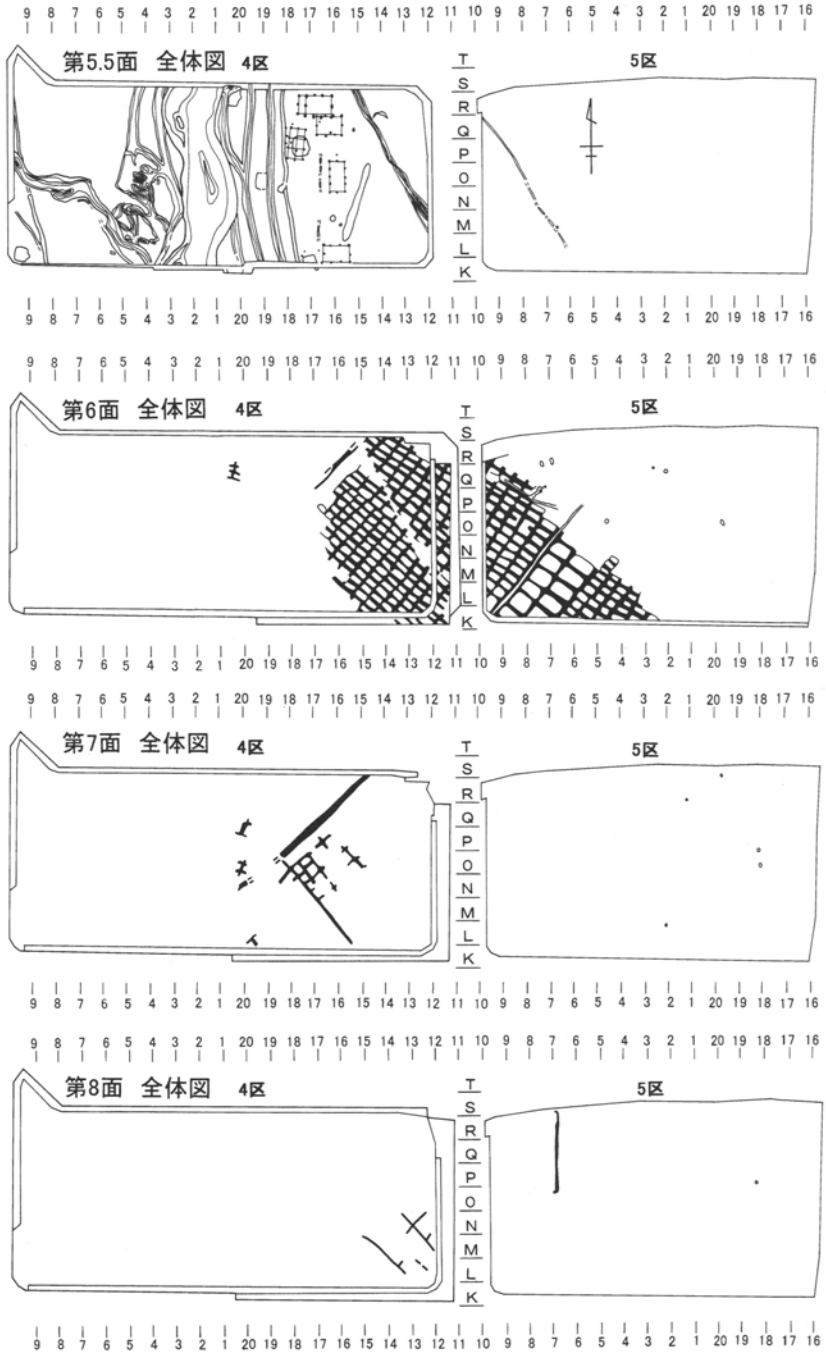
第２面：河川洪水による氾濫層に覆れた近世の水田が確認された。残存状況は不良であるが、一部に畦畔およびそれに沿った溝が認められた。

第３面：中世の水田が確認された。畦畔や溝、さらには耕作痕も認められる。５区東端部にはやや太い南北に走行するアゼも認められた。

第４面：中世の水田が確認された。残存状況は不良であるが、５区東端部には第３面水田とほぼ同位置に南北走行のアゼが認められた。

第５面：1108(天仁元)年浅間山噴火に伴う火山灰に被覆された水田が確認された。周辺においても同火山灰下に水田が認められている。

第７図　遺構概要図(１)



第8図　遺構概要図(2)

第5.5面：第5面の水田下に確認された平安時代の集落で大規模な溝と溝内から大量の墨書土器が出土した。また、漆紙文書も確認された。

第6面：6世紀中葉榛名山二ツ岳噴火に伴い発生した泥流堆積物に被覆された古墳時代の小区画水田が確認された。

第7面：第6面水田下に確認された小区画水田。被覆層が遺失する部分が多く、残存状況も不良。時期的には6世紀初頭の古墳時代とみられる。

第8面：3世紀後半浅間山噴火に伴う火山灰(As-C)を耕土に含む水田が確認された。残存状況は不良で、部分的な確認に留まる。

4区・5区確認遺構一覧表

	4区	5区
1面	12～15号遺構　81～85号溝	
2面		水田　121～124・126～128・139号溝
3面	153～156号土坑　86・110～114・117～120・171～173号溝	水田　227・228・131・132号溝
4面		水田
5面	水田　87～90・109・130号溝	水田　201・231号土坑　15・16号井戸
	125・133～138号溝	
5.5面	4・5・8～12号住居　18～22号堀立柱建物　151・203・210号土坑　151号溝	
	205・210号土坑　1～5・7～12号ピット　25号井戸　144～147号溝	
	91～108・141～150・152～156・227号溝	
6面	水田	水田　206～209・211～213号土坑　157・158号溝
7面	水田 152号土坑	232～236号土坑
8面	水田	水田　237号土坑

b　遺構の概要(第７、８図)

各遺構確認面の内容について、調査状況および遺構の概要を示しておきたい。

なお、報告する確認面は単一時期の生活面もしくは時間差の少ない文化面というものではなく、基本的に埋没遺構面が上層からの影響（耕作などによる人的攪乱や自然的要因）を受けることで、複数の時期・時代が混在する状態を示している。しかし、遺構面の中には、As-BやHr-FPもしくはHr-FAに伴う泥流堆積物による当時の生活面を広く被覆する場合もある。複数の遺構面が存在する遺跡では、このような自然災害による被覆層が確認遺構面の相対的な時間を示す基準ともなっている。

また、複数におよぶ遺構確認面は低地部分に存在し、その途中に残る微高地は基本的に同一確認面での確認となっている。このことが、遺構面の確認をより複雑にしている。つまり、低地部分で認められたある遺構面を調査する過程で、地表面では認められない微高地が存在した場合、この微高地面がその遺構面に相当するとは限らないことによる。この地域は歴史的に河川災害が多く、さらに近年圃場整備も完了していることから、現状では平坦な地形が形成され、地表面では不明な微高地が埋没している。

特に、As-B降下以前には広域に水田化されるため、この段階で微高地はさらに把握されにくい存在となっている。

第１面

基本的に1783（天明３）年浅間山噴火による被災地（耕作地）の復旧のための火山灰埋設溝（復旧溝）が認められる。この地域では、広範囲に確認されているが、近年の土地改良事業により削平されている部分も多い。４区では方形の区画溝内に復旧溝群が検出されている。なお、方形の溝には火山灰の埋設はみられない。火山灰堆積後に灰を除去し、地割りを復旧するための溝を掘り、その区画毎に復旧溝を掘り、火山灰の埋設、そして耕作土の再整地により耕作地の復旧を実施している。５区は近年の土地改良事業によりほとんど同遺構面が失われている。

なお、利根川に近接する地点では、噴火に伴い発生した泥流堆積物の復旧溝も確認されている。なお、利根川対岸に所在する上福島中町遺跡では、泥流に埋没した家屋群が発掘調査されている。

第２面

洪水による氾濫層に覆われた面で、時期は江戸時代であると考えられる。攪乱が多く、残存状況は不良である。今回の調査でも４区ではこの遺構面が攪乱により遺失している。５区では調査区東端および南端部にアゼと共に、このアゼに沿うように水路とみられる溝が検出されている。東端部で検出された南北方向に走行をもつアゼは、その下位の第３面および第４面でもほぼ同位置にアゼがあり、この地域の基本的な地割りを示す存在であるといえる。

第３面

As-Bを多く含むいわゆる「As-B混土」の上面で検出される遺構面で、洪水層により被覆される。４区では溝および土坑がこの遺構面から検出されている。溝はほぼ南北方向や東西方向の走行を示し、部分的な検出ながら整然とした配置にみえる。東西方向の溝が３条検出されているが、16m程でほぼ等間隔に並列する。さらにこの３条の溝は、南北端はそれぞれ南北方向に走行する溝で途切れる。特に東端部は南北に走行する溝部で末端をもち終結している。さらにこれらの溝群は南北方向に走行する溝を限界とし、東西方向への延長はない。南北方向に走行する溝群は小規模であるが、ほぼ30m程の間隔をおいてやはり並列する。これら４区で確認された溝群は、全体として方形に巡るように位置する。溝以外には土坑が４基検出されるのみであり、居住域としての性格は見受けられない。

４基の土坑はほぼ同規模の楕円形土坑で、２基づつ並び、さらに溝の開口部に接するように位置する。溝との何らかの関係をもつのであろうが、性格は不明である。５区では畦畔が確認されていることから、４区の溝群および土坑についても水田耕作に伴う施設もしくは耕作痕跡になるものと考えられる。

5区では南北方向のアゼが検出された。このアゼの土層をみると複数回にわたり土が寄せられている状況が認められることから、経年的にアゼとして利用されていたものと見られる。なお、この位置のアゼは上層の第2面および下層の第4面でも検出されており、さらに下層の第5面でもほぼ同位置にアゼが認められている。周辺の状況については明確ではないが、このような継続的なアゼ位置の存在は、条里制区画に関連するものと推定することもできる。沿線の発掘調査の進展とともに再検討する必要がある。

第4面

やはりAs-Bを含む層に形成される遺構面である。残存状況は不良であり、4区ではほとんど遺構の痕跡は認められていない。5区では前記のように上位の遺構面および下位の遺構面とも共通する位置にアゼが検出されている。なお、東西方向にも部分的ながらアゼが確認された。

第5面

As-Bに埋没する水田面が確認されている。標高は67.50mから67.30m前後で、ほぼ平坦な面に形成されている。しかし、下層に埋没する遺構との関連で水田面に起伏が生じる部分も認められる。4区中央やや西に存在する南北方向のアゼ（グリッドラインでは69-2および69-3ライン付近）が大きく歪んでいるが、これは、下層に存在する大規模な141号溝の埋没土が沈下したために、それに伴い第5面の水田面も帯状のくぼみとなったためである。畦畔は部分的に遺失するが、調査区全域に水田面が広がっている。なお、東側に位置する南北方向のアゼ(グリッドラインでは49-17ライン付近)は第4面から第2面のアゼ位置に共通する位置に存在する。また、4区南西隅部には微高地が一部存在する。この微高地縁辺には溝が数条巡るが、水田に伴う水路とみられる。なお、5区ではAs-B層がほとんど遺失しており4-a層が第5面水田面を被覆する状況であった。

第6面

Hr-FA泥流に被覆される水田面。部分的であるが、良好な小区画水田が検出されている。4区西側は上層に141号溝などの遺構群が存在するため大半が遺失したものとみられる。5区東側もやはり残存状況が不良であるが、地形的にこの部分がやや高くなっていることから被覆層が薄く、上層からの営力により遺構面が攪乱されてしまったものと思われる。さらに小区画水田が残存する範囲、北西から南東方向への部分がやや低位部となっていたことから、このような残存状況となったものと考えられる。

第7面

第6面水田耕土下の土層面で検出された水田面で、部分的にHr-FPに伴う泥流堆積物が認められることから、同泥流発生直前の古墳時代の小区画水田であるとみられる。残存状況は不良で、確認される水田面も少ないが、明らかに遺構面として把握できるものである。なお、小区画水田の形状は第6面水田とはやや相違するが、4区に確認された北東から南西方向に走行する大畦畔は両面水田に共通する。

第8面

As-Cを混入する土層面で確認された水田面。残存状況は極めて不良である。4区および5区で断片的に検出されている。3世紀末から4世紀代の水田とみられる。

第9面

第8面以下には遺構面の確認はなかった。しかし、縄文土器、弥生土器の出土があることから、この時期の遺構が近隣に存在するものとみられる。

なお、弥生時代中期の土器の出土が確認されることから、この地域の開田時期も第8面水田より遡るものと考えられる。周辺の調査においては、同期の遺構や水田などの存在に注意する必要があるだろう。

2　第９面の調査

a　概　　要

主として微高地部に認められるローム層上での遺構確認および旧石器時代関連の試掘調査を行った。

ローム層面での遺構確認は、縄文時代の遺構を含め最終確認も目的として実施したものである。

また、旧石器時代の試掘については微高地を中心にAs-YP層まで行っている。

これらの調査により、この調査段階での遺構は検出されなかった。また、旧石器時代についても石器の出土は確認されていない。

しかし、５区の微高地部に量的には少ないが縄文土器、弥生土器および石器類が出土している。土器、石器類は、微高地に堆積する黒色土中から出土したもので、遺構に伴うものではない。

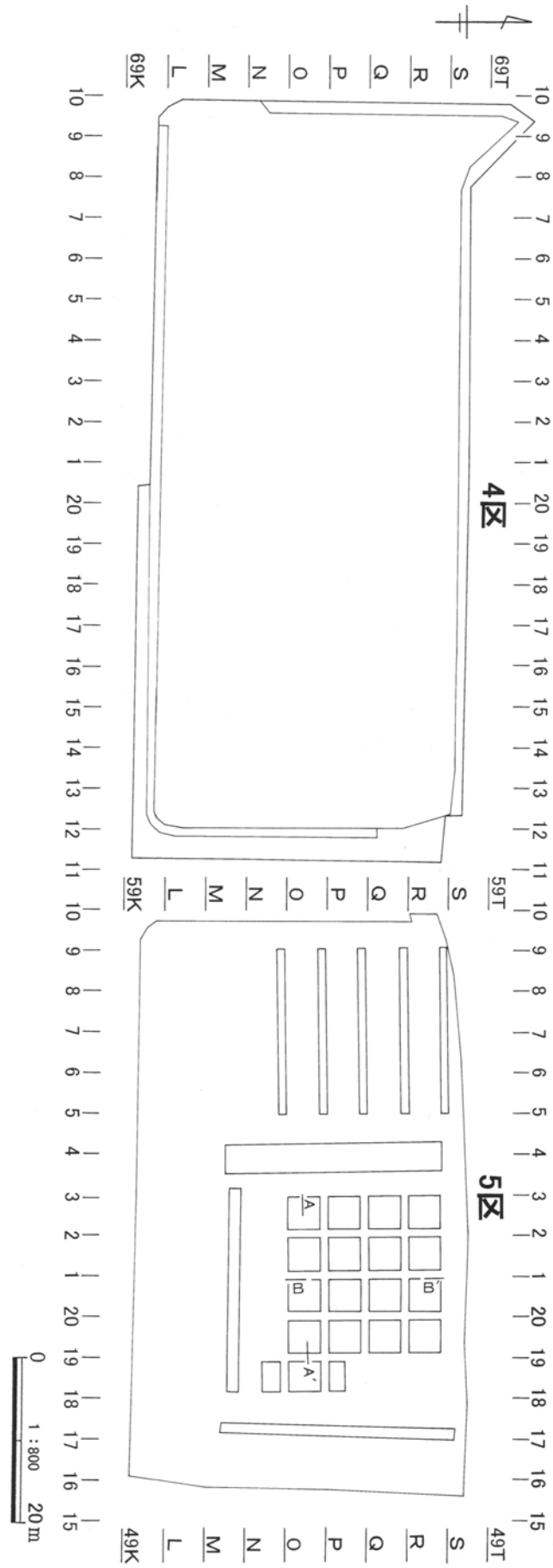
以下、出土遺物について報告するが土器については出土土器の全点を掲載した。

b　縄文土器（第11図１、PL44）

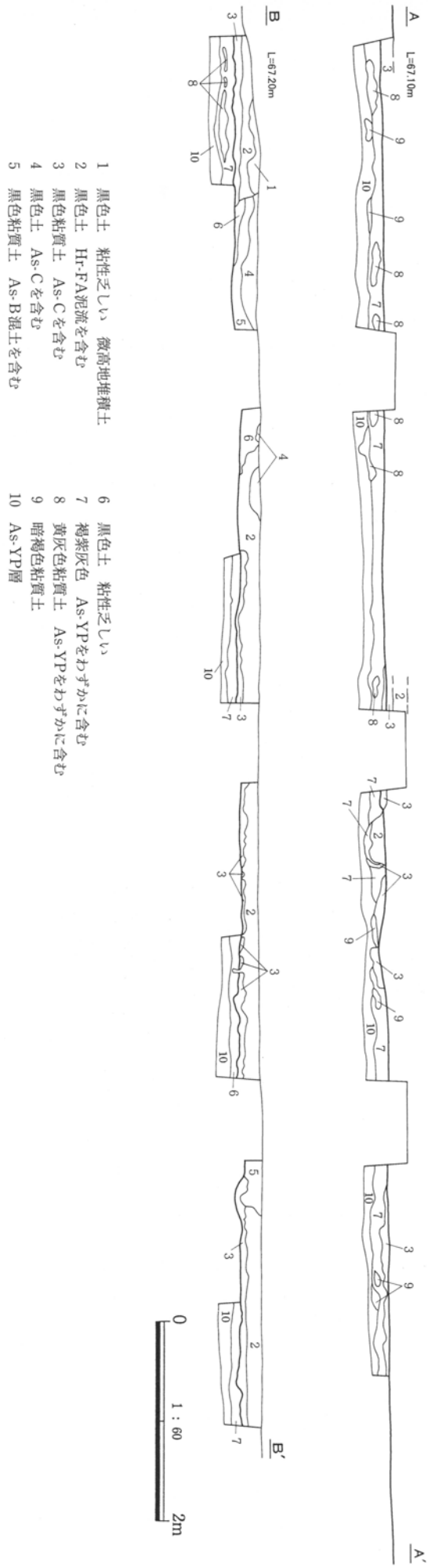
１は深鉢肩部片で、くの字状に張り出す器形を呈する。幅４㎜前後の単一沈線により横走線文が施され、その平行線間に弧線文が加えられる。縄文はLR横位であり、弧線文内は磨消縄文としている。加曾利Ｂ２式土器に相当する。胎土は砂粒含有量が多く、特に石英粒が目立つ。色調は褐色を呈する。土器断面もほぼ同様の色調を示すことから、安定した焼成状態であったものとみられる。49Ｐ-19グリッド出土。

c　弥生土器（第11図２～６、PL44）

２は壺の肩部片で、ヘラ描文による菱形文が施される。ヘラ描文は、５条ないし６条により文様構成され、条間隔もやや不規則であり重複する部分も認められる。ヘラ描文は幅２㎜程度であるが、施文具の施文角度によって表出される沈線幅にやや相違が生じるため、太細もしくは深浅が不規則となる。また、菱形文の一方のヘラ描文に沿って刺突文が認められる。この刺突文は幅２㎜前後で、土器面に認められる刺突形状は三角形状を呈する。しかし、刺突文底面を観察すると中央部に円形の盛り上がりが認



第９図　第９面全体図



第10図　５区第９面トレンチ土層断面図

められる。このことは、三角形の施文具が使用されたのではなく、植物の茎もしくは中空の円形施文具を使用したものと考えられる。土器面上での三角痕跡は、施文具が土器面に対し垂直に刺突されたのではなく、45度前後の角度で刺突されたため、円形の刺突痕とはならず、施文具の一方の面が深めに刺突されることで、一見三角形にみえるような刺突文となったことがわかる。しかし、この刺突文が、三角形状の刺突形状を意図的に施したのか、土器面と施文具の角度という施文手法が優先されたものかは不明である。胎土は緻密で、砂粒含有量は少ない。器面は灰黄褐色を呈するが、土器断面には黒化層が観察される。49M-19グリッド出土。

３は壺の肩部片で、半裁竹管状施文具による平行横走線文が施される。この横走線文帯に接して、斜行線文が認められる。欠損しているため、文様構成は不明だがおそらく菱形文構成の一部であろうとみられる。胎土は緻密で、砂粒含有量は少ない。色調は黄橙色を呈し、土器断面には黒化層が観察される。49M-20グリッド出土。

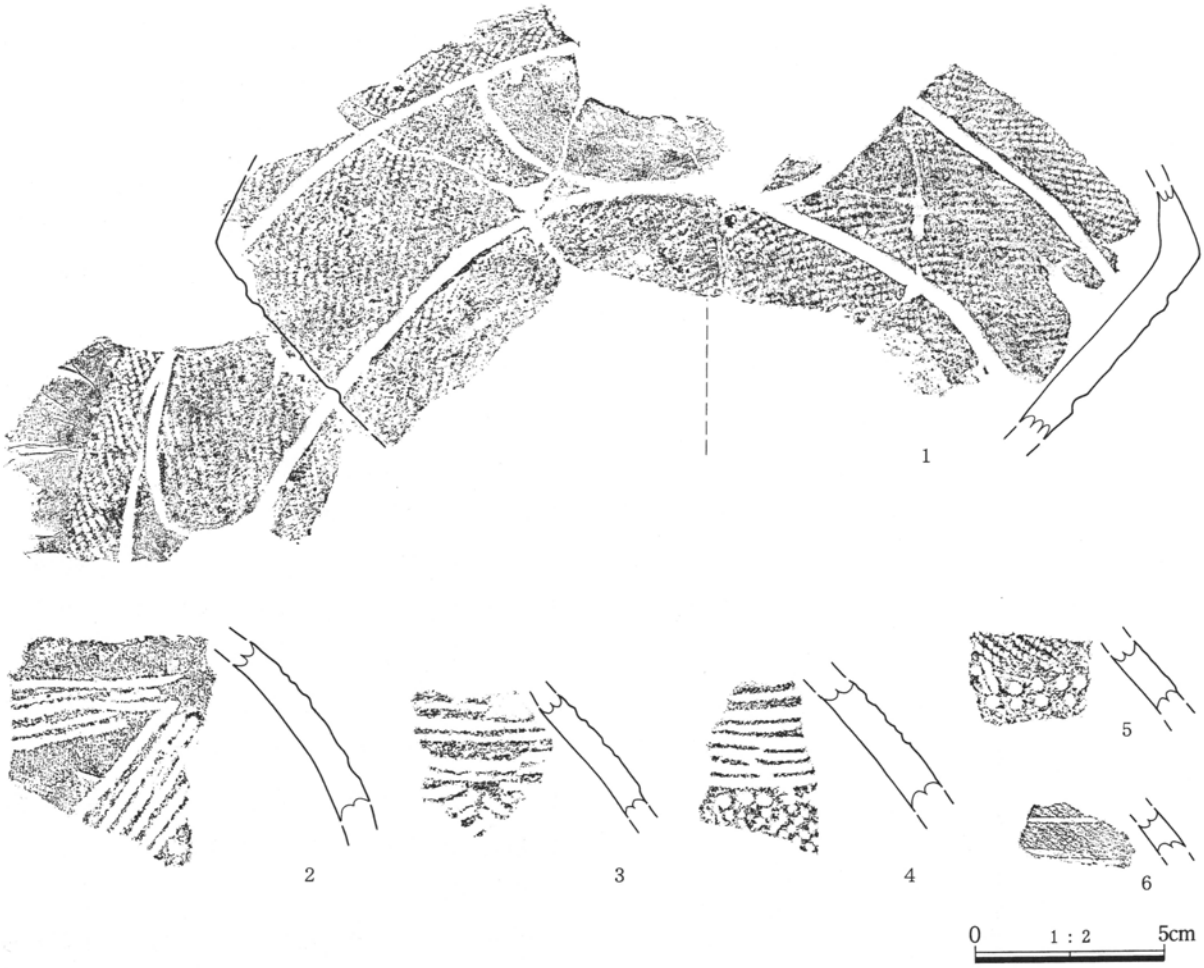
４は壺の肩部片で、単一沈線による横走線文が施される。さらに、この横線文帯に沿って刺突文列が加えられる。この刺突文は径２㎜前後の植物茎もしくは竹管状の円形中空の施文具により施されるもので、刺突文の底部中央には円形の盛り上がりが残る。また、施文手法は土器面に対し垂直に施文具をあてるのではなく、土器面に斜位に刺突する。そのため、施文具の一側面のみが深く刺突され、角度によっては円形の刺突形状を示さず、半裁竹管状の形状を呈するものも認められる。なお、刺突文および横走線文は類似する太さや施文形状を示すことから、同様の施文具を使用していることが考えられる。刺突文列は一条であり、その下位にはＬ横位が施される。胎土は緻密で、砂粒含有量は少ない。色調は黄橙色を呈し、土器断面には黒化層が観察される。49N-20グリッド出土。

５は壺の肩部片で、刺突文列および縄文が認められる。横位の刺突文列は２列施されるが、その間に

は断面三角形状の微隆起が認められる。この微隆起は、刺突文の施文に伴い生じた隆起ではなく、刺突文施前のものである。微隆起部分を観察すると、両側にわずかなくぼみ面をもつことがわかる。なお、微隆起は貼付けによる加飾ではない。これらを前提に施文手法を考えると、指頭による横位の撫でにより生じる微隆起であると考えられる。この微隆起両側に沿って、刺突文列が施される。刺突文は、植物の茎状の施文具により器面に対し斜位に加えることで、円形の刺突痕跡ではなく、半円形の刺突文が形成されることになる。縄文は繊維痕の残存により、２段単節縄文のようにみえるが、施される縄文は１段Ｒ横位である。胎土は緻密で、砂粒含有量は少ない。色調は明黄褐色で、土器断面もほぼ同様な色調を示す。安定した焼成状態によるものとみられる。49M-19グリッド出土。

６は小破片であり、文様構成等は不明な部分が多い。斜行する整形痕が認められ、単一沈線による横走線文が施される。胎土は緻密で、砂粒含有量は少ない。色調はにぶい褐色を呈し、土器断面は灰褐色を示す。59Ｐ-１グリッド出土。

２～６は、弥生時代中期の御新田式土器に位置づけられる資料である。



第11図　グリッド出土土器

3　第８面の調査

a　概　　要

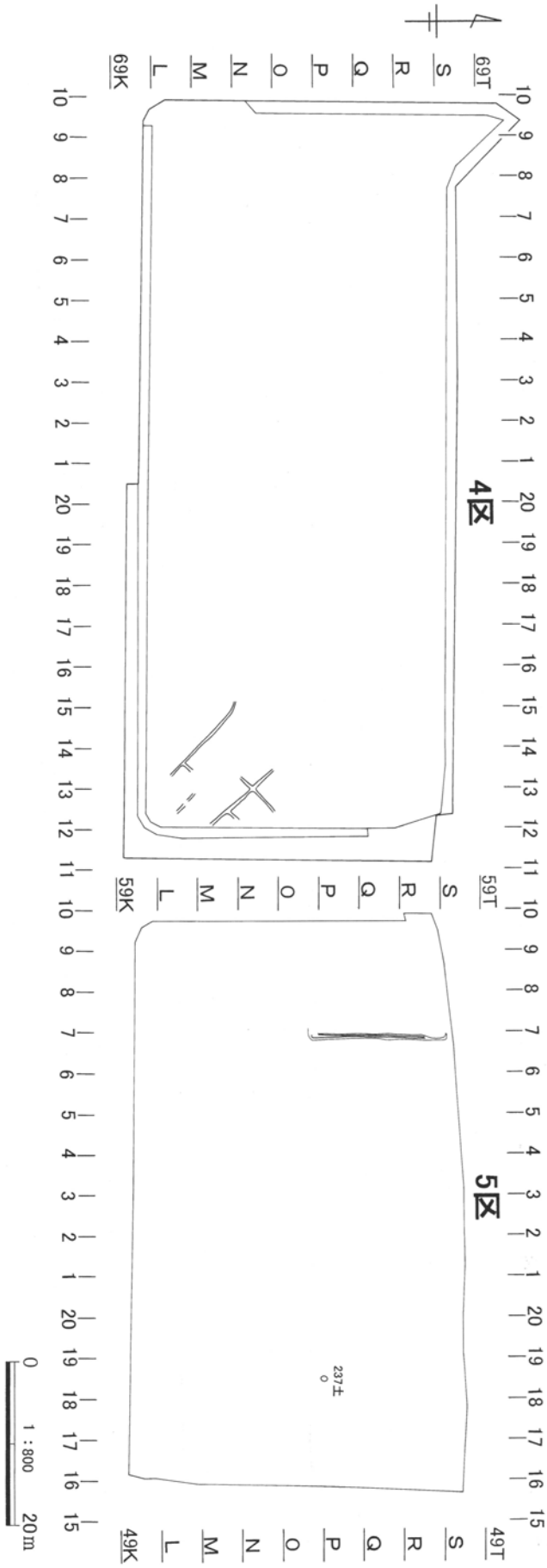
As-C（３世紀後半）を混入する黒色粘質土層上面で水田が検出された。この土層は周辺の発掘調査において「C混」と通称される層で、同層上に遺構が確認される可能性の高い面でもある。

今回の調査においても土層断面で「C混」が分層され、面的にも広がりをもつことが把握されたため、同層面で遺構確認の精査を行った。その結果、水田の痕跡として畦畔を検出するものとなった。

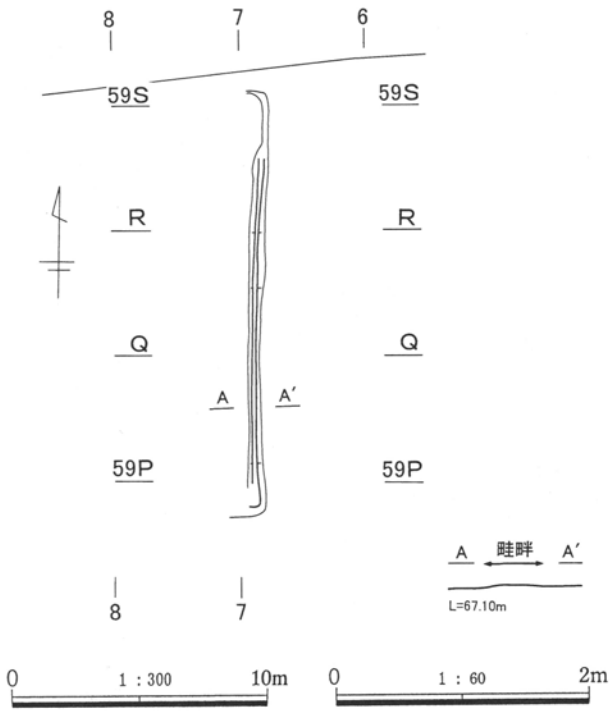
ここで検出された畦畔は、残存状況は不良であり、土質もしくは色調の差異によりその痕跡が認められた。

４区では南西から北東方向への水田区画が形成されている。この水田区画は上層の第７面および第６面水田と共通するもので、地形に即して形成されたものと考えられる。畦畔が断片的であるため、水田面の計測ができないが、残存部で推定すると一辺４m前後の規模であるものとみられる。

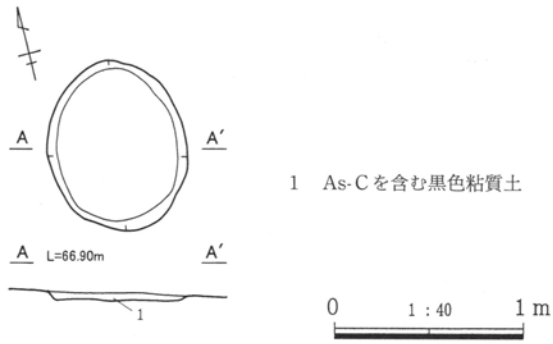
５区では南北方向に畦畔状の痕跡が１条認められ、浅い楕円形土坑が１基検出された。これらの遺構は性格については不明である。



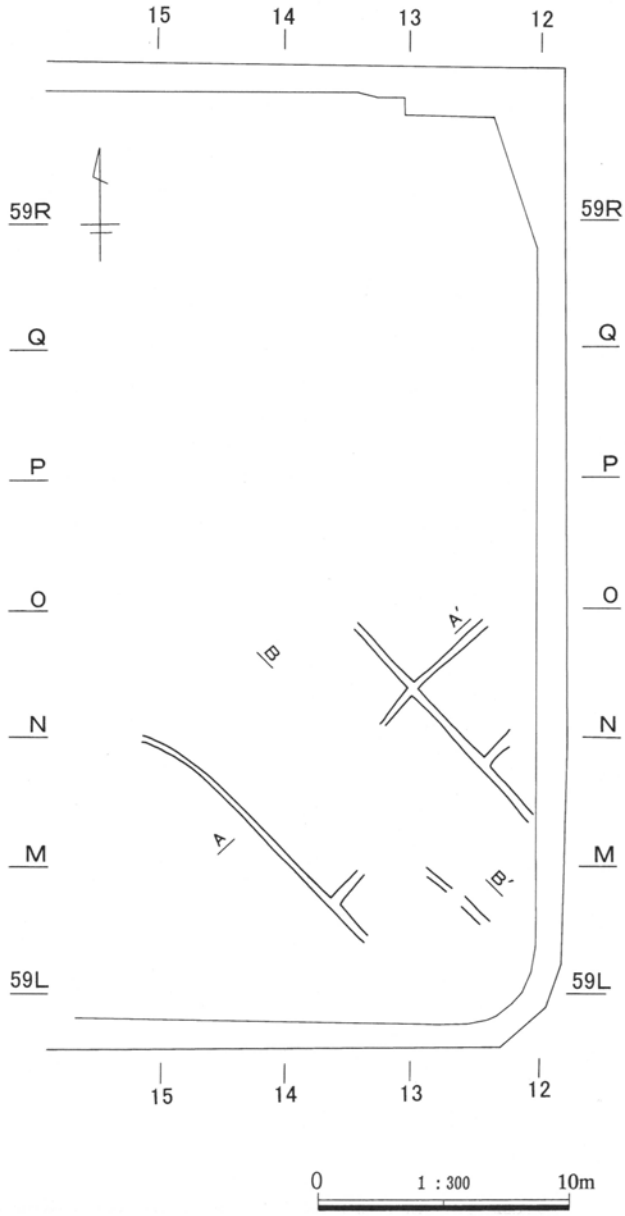
第12図　第８面全体図

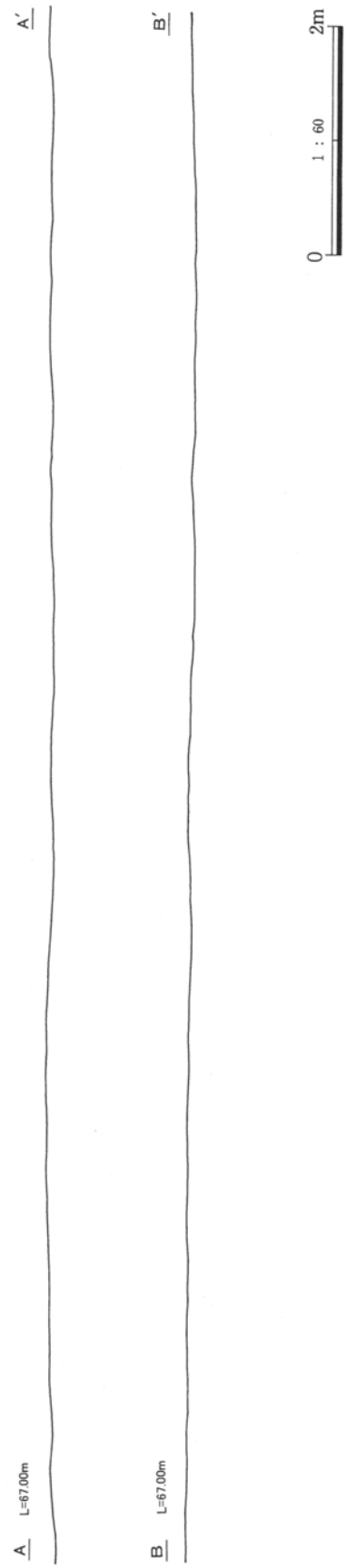


第13図　５区第８面水田



第14図　237号土坑





第15図　4区第8面水田

4　第７面の調査

a　概　　要

榛名山二ッ岳の火山噴火（６世紀初頭）は火山噴出物(Hr-FA)と共に、泥流も発生させている。この地域では、この火山噴火に伴う影響は、火山噴出物の堆積ではなく、同時に発生した泥流によるものが大きい。この泥流は通称「FA泥流」と呼称され、周辺地域の発掘調査の基準層として認識されている。

古墳時代に継起した榛名山二ッ岳の火山噴火はそれぞれ火山噴出物(Hr-FAおよびHr-FP)と同時に泥流を発生させている。この地域では、両時期とも泥流による影響があり、それぞれの泥流堆積が認められ、また埋没水田の確認も行われている。さらに、各時期とも被災後にも水田が継続されることも理解されている。そのため、新旧の水田が層状に確認される場合と、新期の水田耕作により、古期の水田が攪乱され、遺失する場合も生じる。なお、埋没水田面は各地点によって一様ではなく、残存状況も異なる場合が多い。

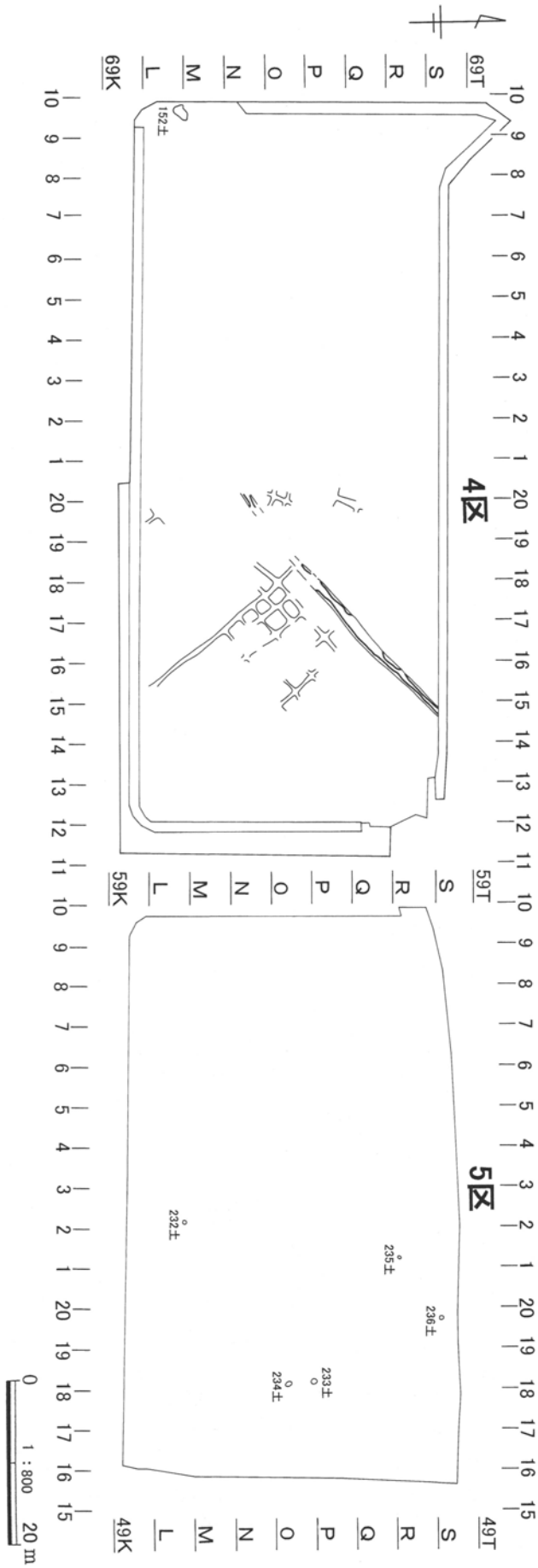
b　水田（第17図、PL３）

今回の調査では、第７面遺構確認面として水田を検出している。検出された水田は小区画水田であり、４区で部分的に残存している。水田面は部分的確認を含めると40面が検出されたが、区画が明らかな水田面は５区画程度である。この５面の平均面積は2,04m²となる。また、北東から南西方向に向け、大アゼが一条確認されている。第17図に示すセクションポイントA-A′にかかるアゼである。これは小区画水田を区画する畦畔に比し、明確に規模が大きいもので基本的な水田区画を示すアゼとなるものだろう。４区東端部から５区にかけては水田区画はまったく把握できていない。

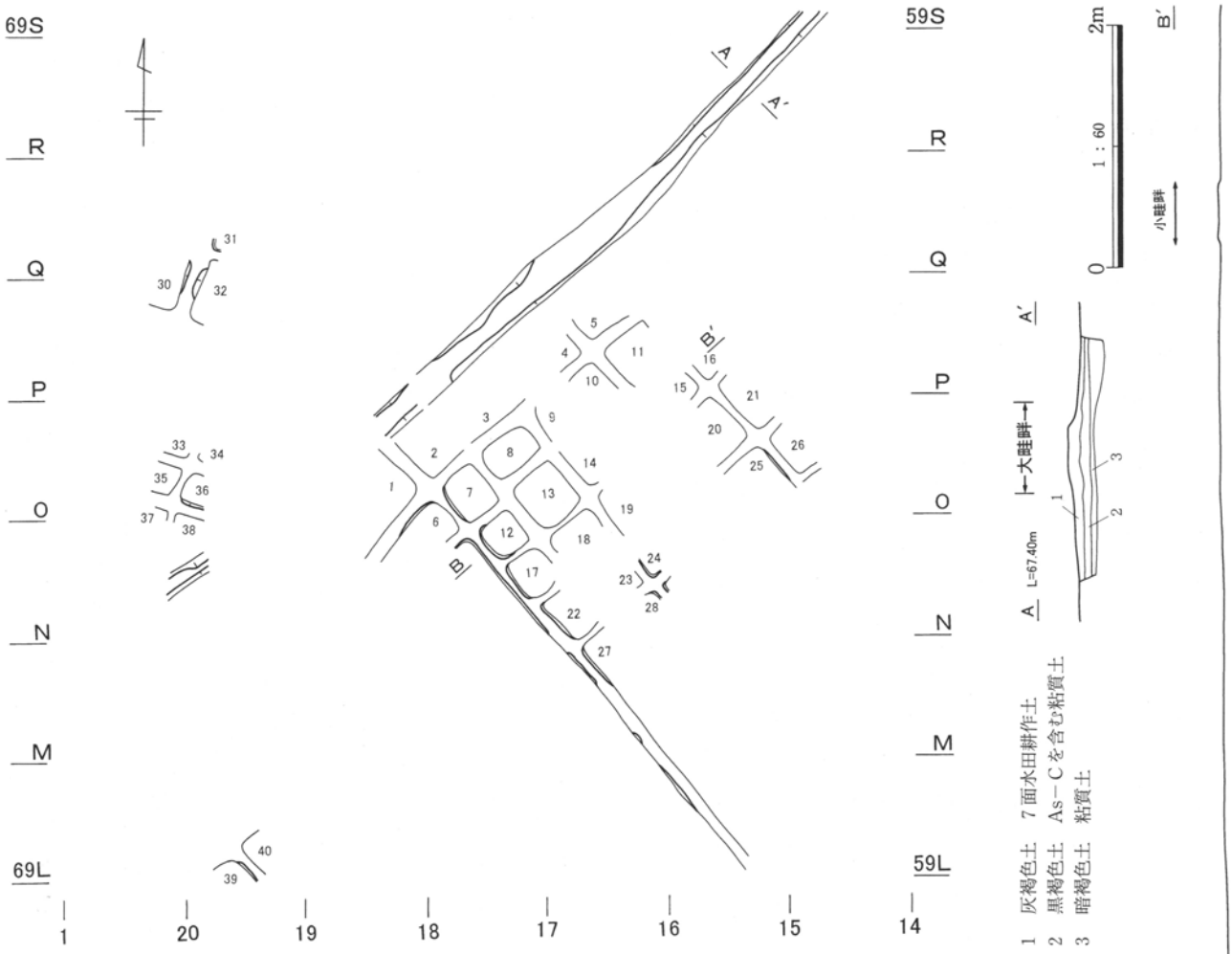
おそらく５区西半部までは水田が存在したものと考えられる。土坑が点在する周辺は微高地となることから、水田耕作範囲は、４区東半部から５区西半部の範囲であろうと思われる。

c　土坑（第18図、PL３）

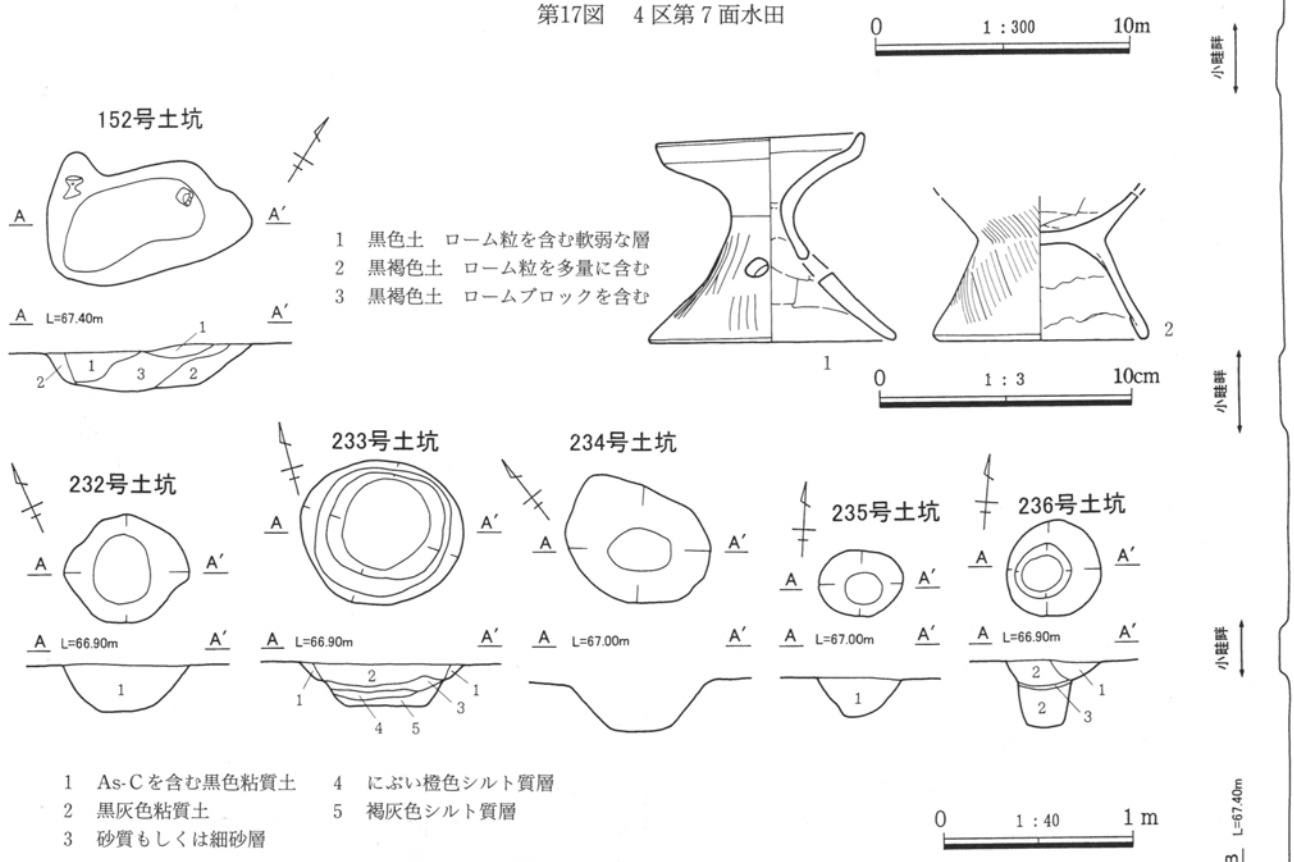
土坑は６基確認された。いずれも微高地上に掘り込まれたものとみられる。やや不整な楕円形土坑であり、152号土坑以外は伴出遺物は認められない。



第16図　第７面水田



第17図　4区第7面水田



第18図　4区152・5区232・233・234・235・236号土坑と出土遺物

5　第６面の調査

a　概要（第19図）

榛名山二ッ岳の火山噴火に伴い発生した泥流は、この地域に広く堆積していることが発掘調査により確認されている。この泥流層中には、Hr-FPが混入するが、降下時の堆積ではなく、この時期に発生した泥流に混入したものであると観察されている。この地域周辺では「FP泥流」と通称される層であり、複数存在する遺構埋没土層の基準土層の１つともなっている。時期は、Hr-FPと同時期である６世紀中葉に位置づけられる。

この泥流層下に埋没水田が存在することも周辺の調査により明らかとなっている。

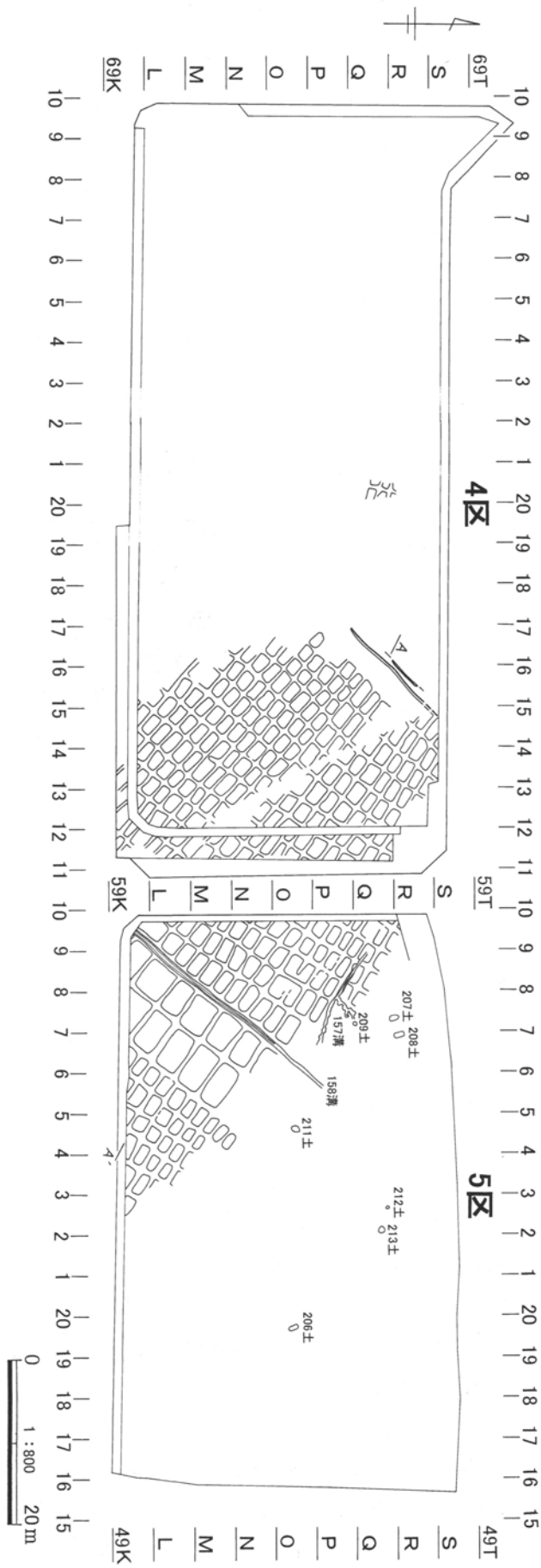
b　水田（第23、24図、PL４、５）

４区および５区においてもこの土層により埋没した水田が確認された。

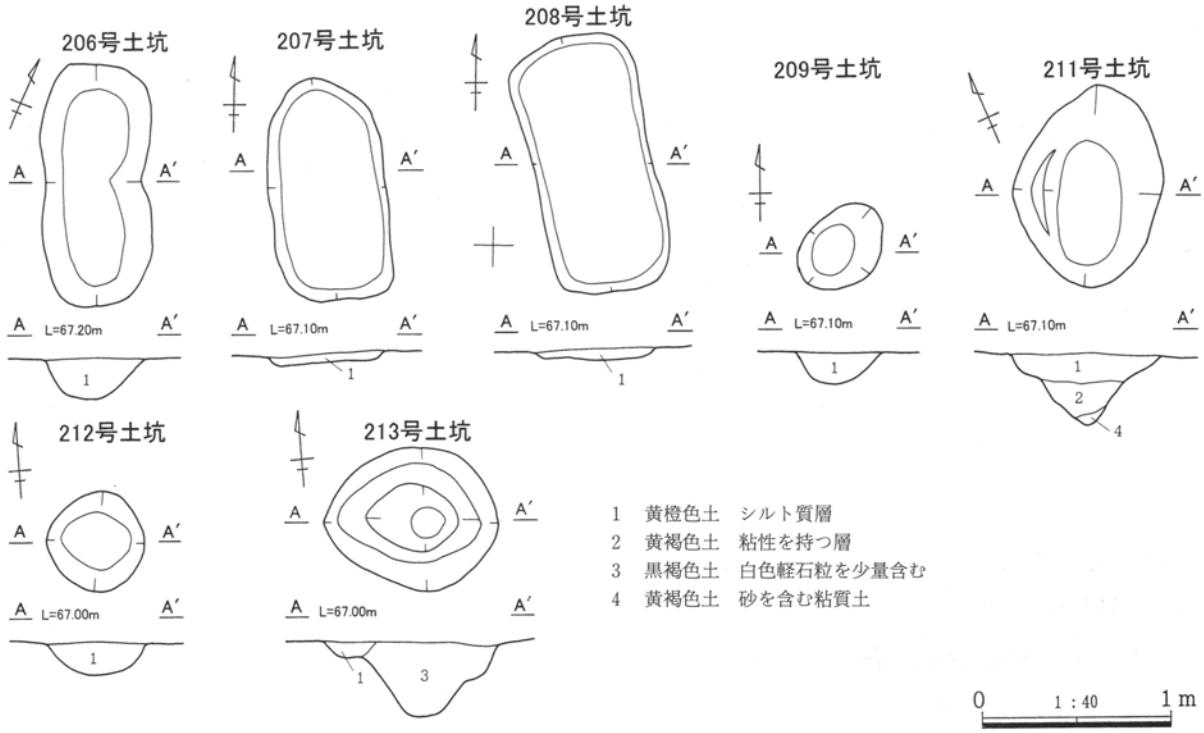
水田面を被覆する「FP泥流」は黄橙色シルト質層であり、埋没水田面は黒褐色粘質土層のため、遺構確認面まで順次掘り下げると、畦畔が小区画状に検出されることで、残存状況が不良であっても遺構の存在は明瞭に認識できる。

確認された水田面は部分的であるが、ちょうど残存地点が地形的にやや低くなる部分でもある。４区西半部および５区東半部には微高地が存在するため、北西から南東方向に認められる低位部に水田が形成されたものとみられる。小区画水田の畦畔の方向性もこの地形に沿ったものと考えられ、用水も北西から南東への懸け流しによる水利が行なわれたものといえる。小区画の水田面は部分的確認を含めおよそ300面を数える。なお、小区画水田の畦畔とは異なるアゼが二ヶ所で認められる。４区のエレベーションポイントＡに近接する幅60cm前後のアゼと158号溝に伴うアゼである。両アゼともＮ-50°-Ｅ前後で、ほぼ平行関係となり、約50m程度の間隔をもつ。この大アゼが基本的な区画になり、その中に小区画の水田面が形成されたものと考えられる。

水田面には平均3.3m²の区画（Ａ区画）とやや大きい平均13.2m²の区画（Ｂ区画）の２種が認められる。



第19図　第６面全体図



第20図　5区206・207・208・209・211・212・213号土坑

B区画は水田番号256～267の12面が確認されている。B区画はA区画の平均面積の4倍の面積をもつことになる。調査範囲では、B区画の水田区画は5区158号溝に伴う大区画アゼ東側に沿って2列存在する。他はA区画とした小区画水田であるが、畦畔は碁盤の目状に整然とした配置となる。しかし、B区画とした水田区画は畦畔がA区画の水田とはやや食い違いが認められる。また、A区画の水田面は長軸短軸比は1：0.6前後、B区画も長軸短軸比1：0.6前後を計測し、ほぼ一致する数値を示す。

c　溝（第21、22図）

157号溝（第21図）

59P・Q－6～8グリッドに位置し、小区画水田長軸方向にそって延長する溝である。幅30cm、深さ6cm前後で、延長670cm程度が確認された。黄褐色シルト質土により埋没する。壁面の一部には延長方向から異方向へ不規則な流路が認められる。畦畔上を走行することから、表流水の流路が部分的に残存したものとみられる。

158号溝（第22図）

5区の大アゼに伴う溝である。幅50cm、深さ10cmで、アゼ中央に位置し、黄褐色シルト質土により埋没する。延長31mが確認された。用水機能をもつ溝とみられる。溝の途中には分水する痕跡は認められないことから、2地点間の用水目的の溝とみられる。水田の灌水は基本的に懸け流しによるものと考えられる。

d　土坑（第20図）

第6面で確認された土坑は以下報告する7基である。いずれも伴出遺物がなく、時期や性格が不明な点もあるが、検出状況から水田に前後する時期の遺構と考えられる。分布をみるといずれも5区にあり、また水田検出部分の北東側に認められている。この部分は微高地が存在する地点でもあり、各土坑は水田面ではなく、微高地上に掘りこまれた遺構と考えられる。

206号土坑　49O-19グリッドに位置し、長軸125cm、短軸60cmの楕円形平面を呈し、深さは22cmを測る。

207号土坑　59Q・R－7グリッドに位置し、長軸118cm、短軸60cmの楕円形平面を呈し、深さは5cmである。

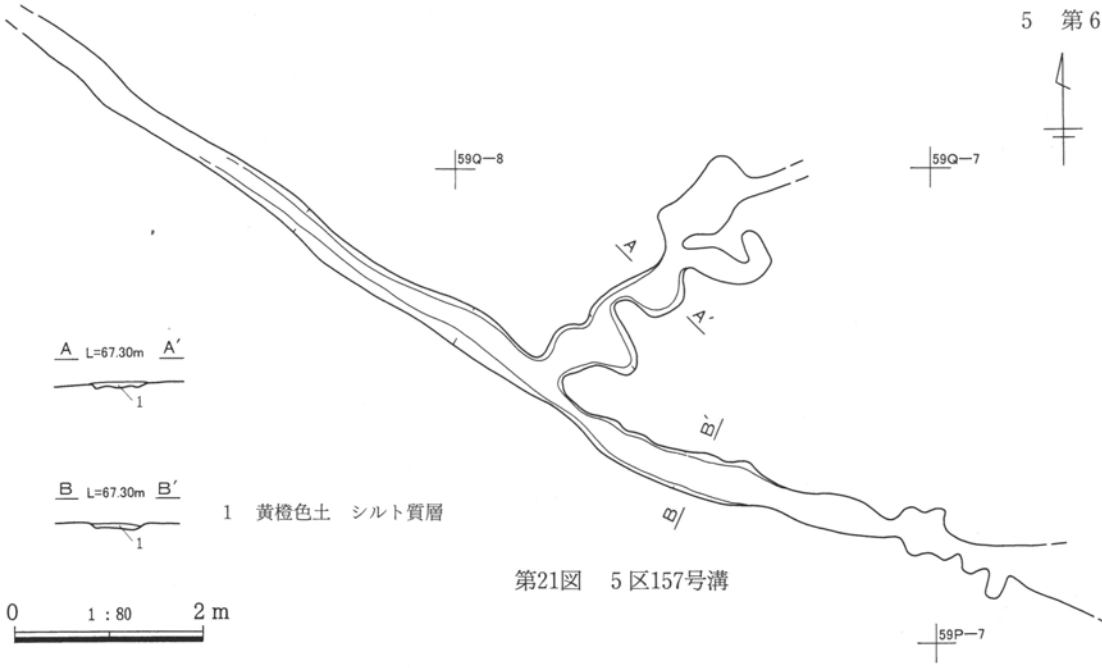
208号土坑　59Q・R－6グリッドに位置し、長軸140cm、65cmの楕円形平面を呈し、深さは5cmを測る。

209号土坑　59Q－7グリッドに位置し、長軸55cm、短軸40cmの楕円形平面を呈し、深さは18cmを測る。

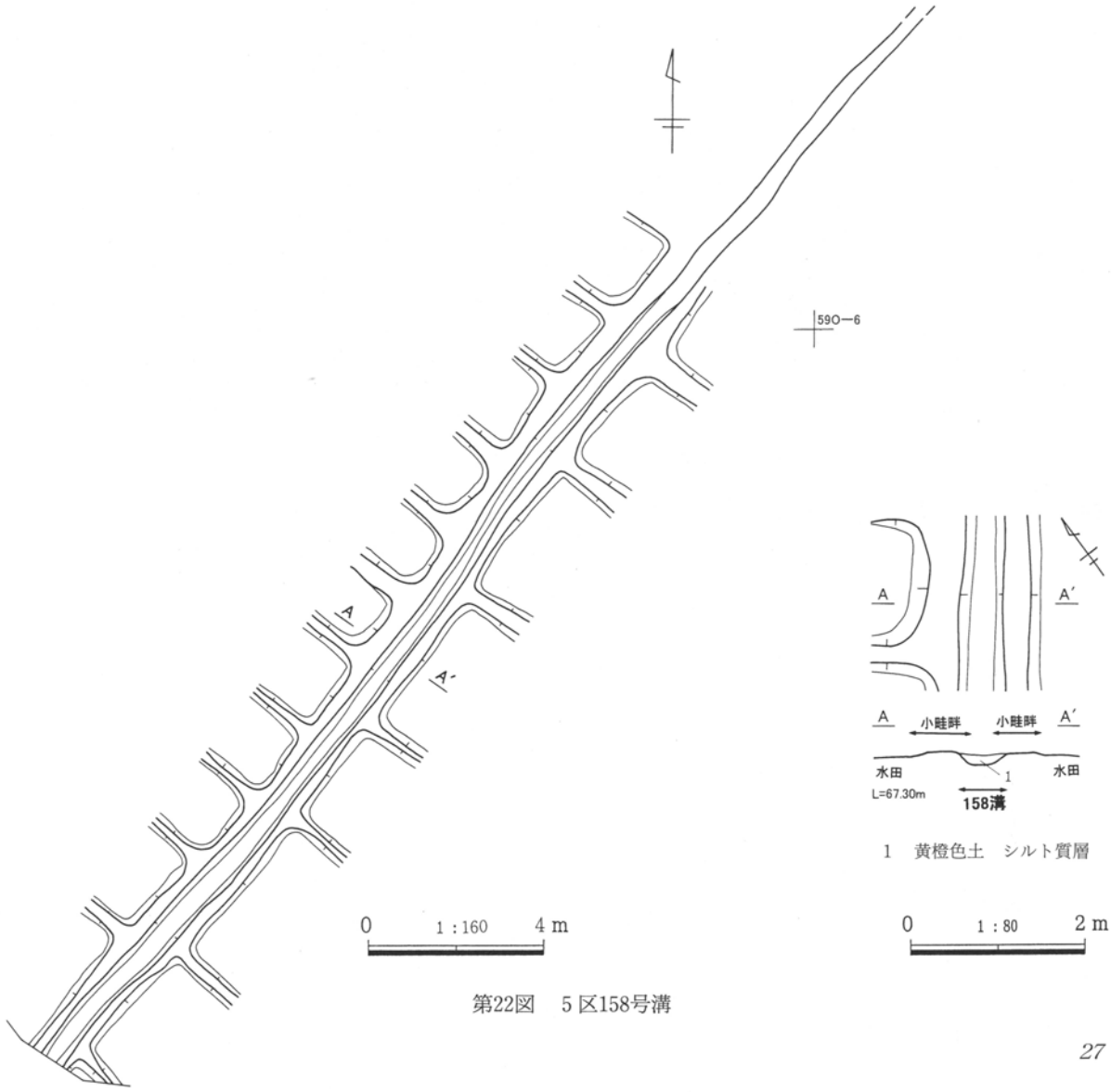
211号土坑　59O－4グリッドに位置し、長軸100cm、短軸80cmの楕円形平面を呈し、深さは40cmを測る。

212号土坑　59Q－2グリッドに位置し、径55cm程度の円形平面を呈し、深さは18cmを測る。

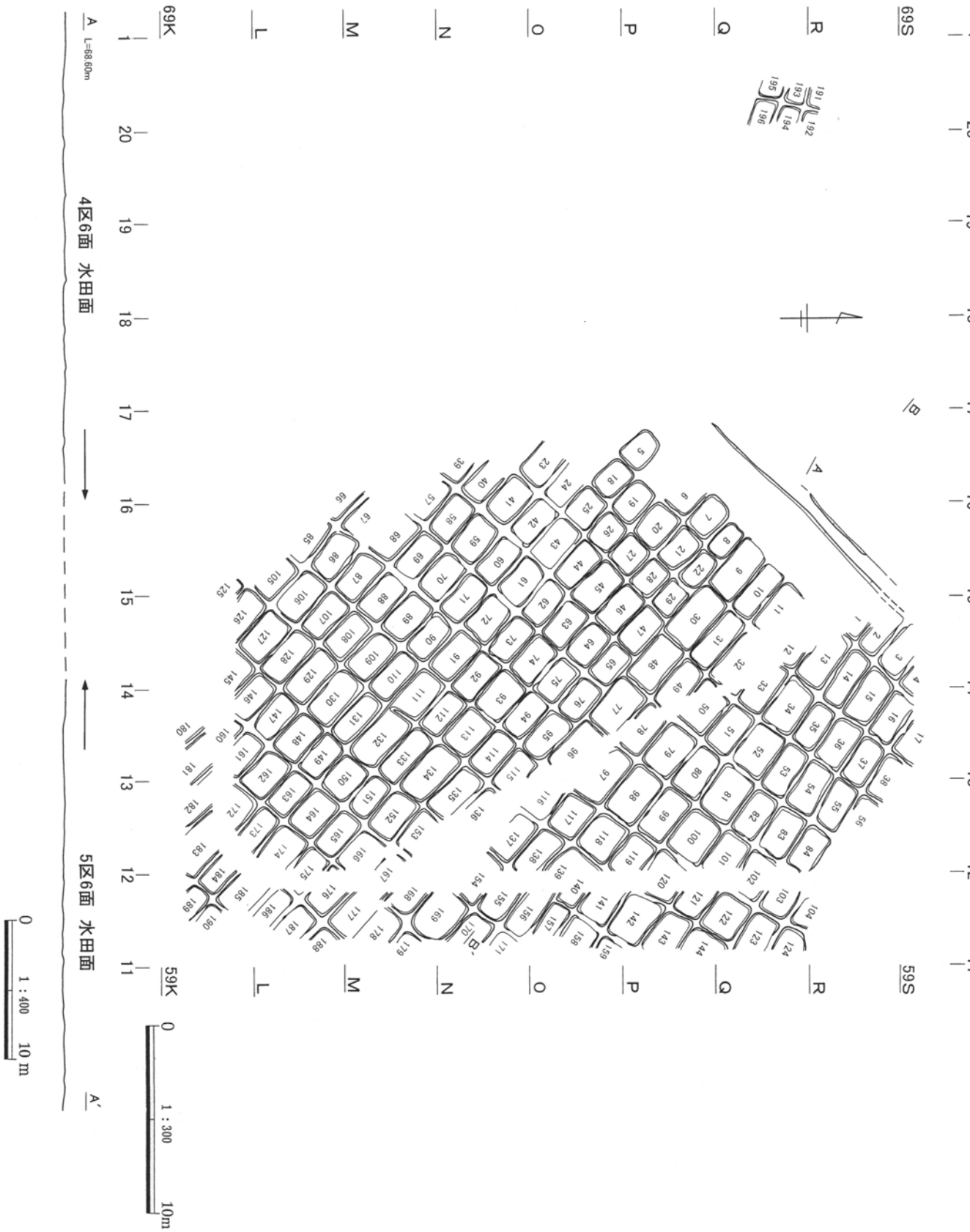
213号土坑　59Q－2グリッドに位置し、長軸95cm、短軸75cmの楕円形平面を呈し、深さは40cmを測る。



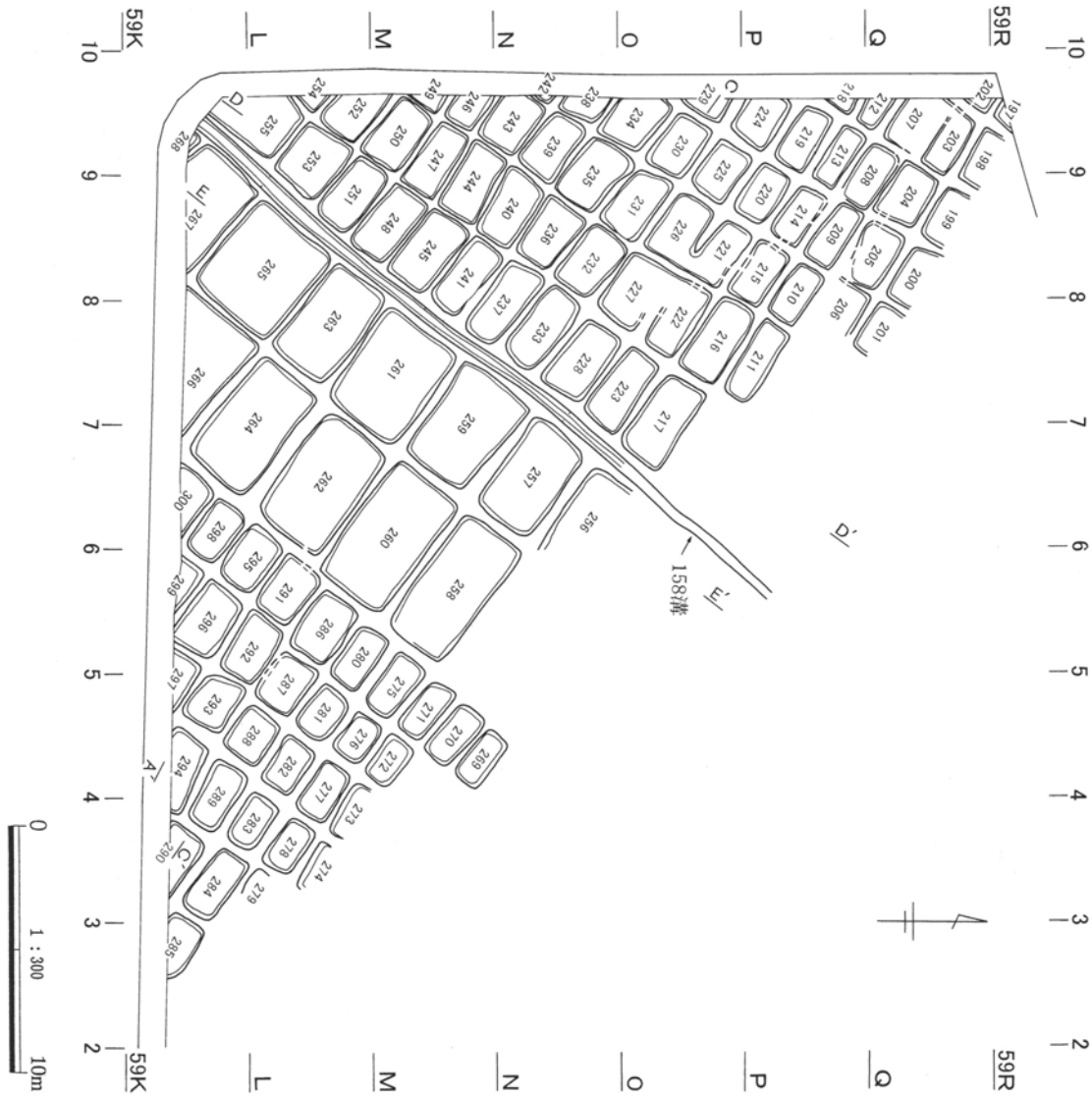
第21図　５区157号溝



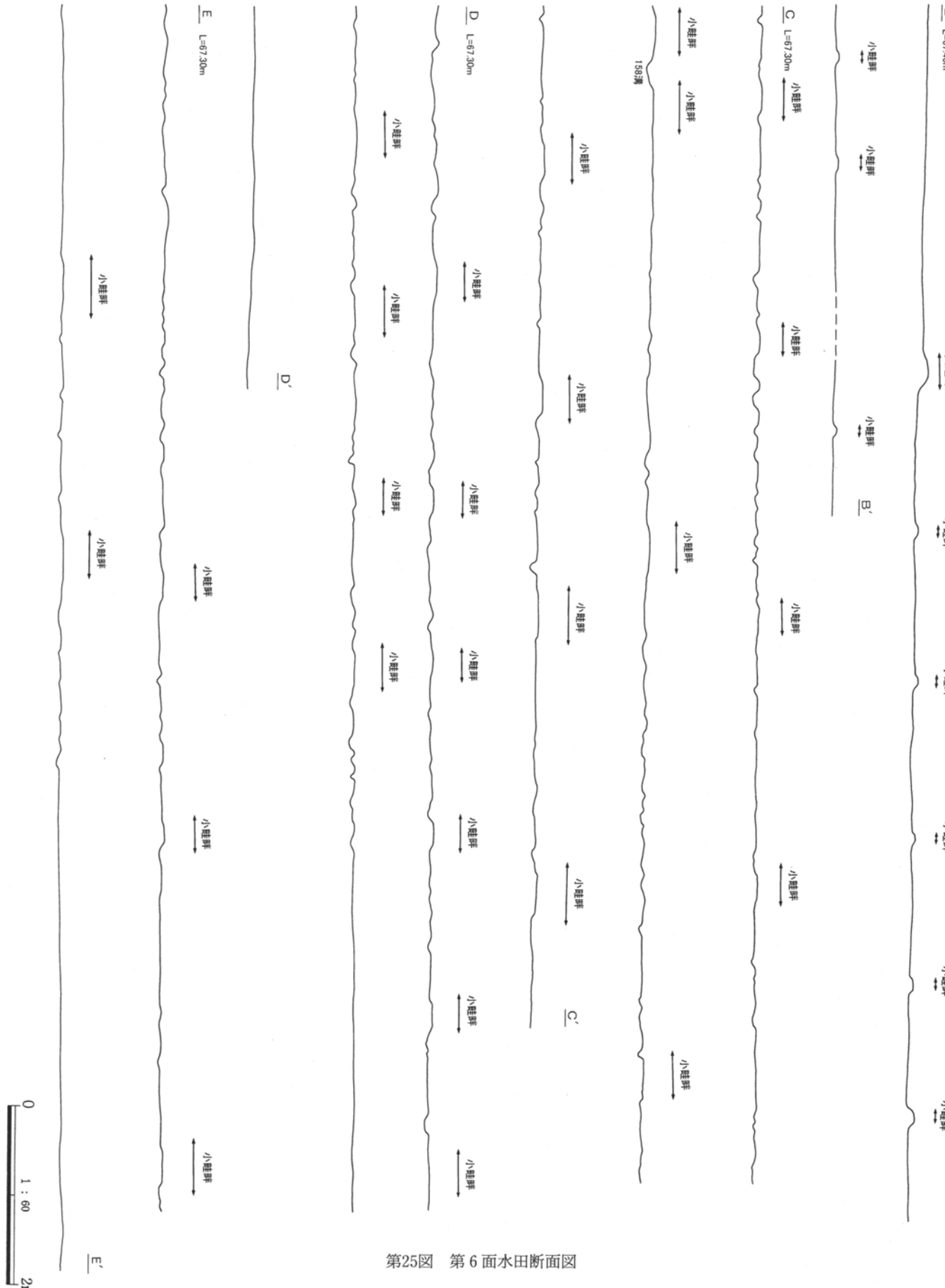
第22図　５区158号溝



第23図　4区第6面水田



第24図　5区第6面水田



第25図　第６面水田断面図

6　第5.5面の遺構と遺物

a　概要　（第26図）

国道354号高崎玉村バイパスに伴う一連の発掘調査では、計７面前後の遺構確認面が検出されてきた。今回の調査でもこれまでの調査成果と大きな相違はなく、多数面にわたる遺構確認面が把握できている。さらに、新たな遺構面の確認が今回の調査の特徴といえる。

これまで、As-B埋没水田の下位には泥流に埋没する古墳時代水田の存在が確認されていた。

今回の発掘調査でも、遺構面はほぼ同様に捉え進めていた。

しかし、４区で第５面にあたるAs-B下水田の検出の際、水田面が帯状に大きくくぼんでいる部分が認められた。確認時もほぼ水平に堆積するAs-B層がレンズ状の堆積状態を示していた。水田面の調査からは、このくぼみが水田耕作時のものではなく、As-B埋没後にその後の土圧により帯状に沈んだものとみられた。

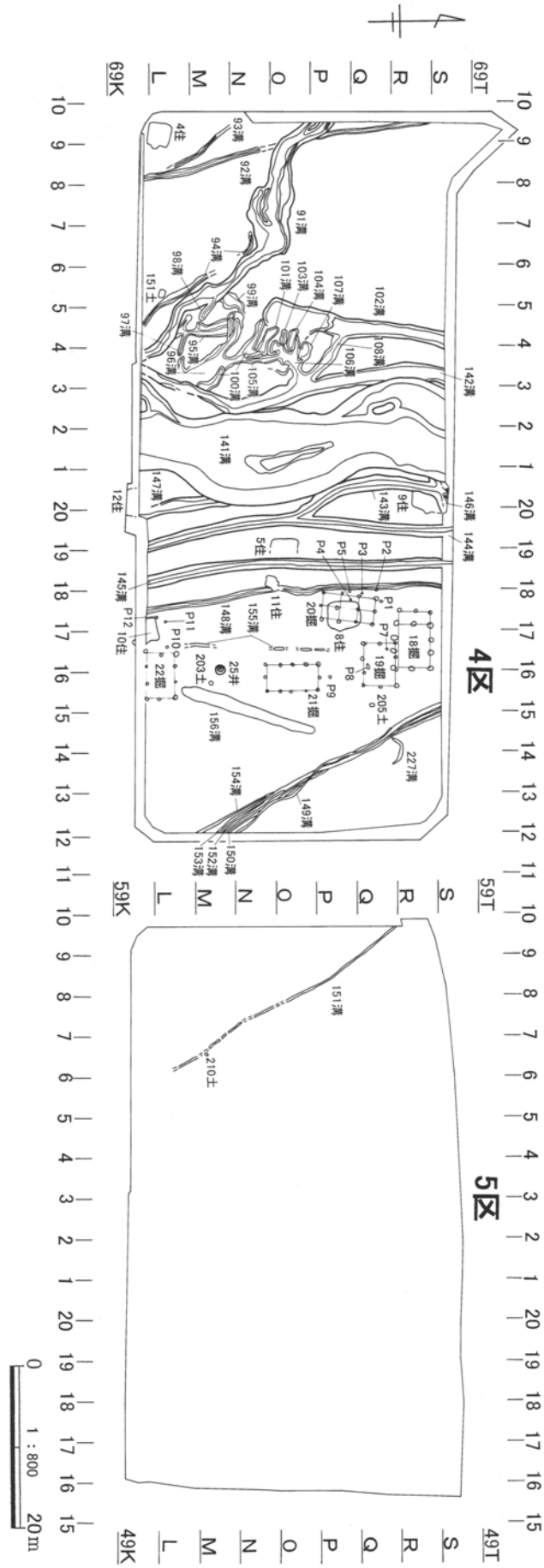
第５面の水田調査後に土層確認を行った結果、水田面が帯状にくぼむ部分には、大規模な溝の存在がわかり、さらに接して住居等の遺構も広がることが把握できた。

すでに他区において、第６面として泥流下の古墳時代水田面をあてていたため、この第５面水田下に検出された遺構面については「5.5面」と呼称するものとした。

確認遺構は、竪穴住居７軒、掘立柱建物５棟、井戸１基、土坑４基、ピット11基、溝34条などがある。

しかし、この5.5面は時期的に限定される遺構面ではなく、As-B埋没水田より古く、６世紀中葉のHr-FPより新しいという時間幅をもつ遺構確認面であるといえる。ここで確認される遺構は、古墳時代から平安時代に位置付けられものが含まれることになる。

第5.5面の遺構群で最も特徴的な遺構は、４区のほぼ中央に位置する141号溝である。この5.5面とした



第26図　第5.5面全体図

調査面の調査の契機となった溝であり、その規模および出土遺物の特徴からも注目される遺構であり、この遺跡を性格づけるものといえる。

この141号溝の西側と東側ではその様相が大きく異なっている。

西側は、町道跨橋工事に先行する橋脚工事のために部分的に発掘調査を実施していた。この調査時には141号溝の存在は未確認であり、第５面As-Ｂ層下水田調査終了後、掘り下げながら遺構検出を実施した。その過程のなかで、南西隅の微高地上で住居を１軒、その北側の低地部で不規則な溝群が複数重複して確認された。これらの溝群は微高地に沿って巡る水路も認められるが、形態が不明確で遺構として把握しにくいものも含まれる。調査の過程では、それぞれ溝状の遺構として捉えたが、5.5面として調査した141号溝および東側の南北に走行する溝群とは形態差は明らかであり、その性格も異なるものと考えられる。95号溝～101号溝や103号溝～107号溝などは溝としてではなく、第５面水田に係わる耕作時の遺構の可能性もある。

東側では、限定された範囲に遺構が集中している。遺構群は時間幅をもち、重複関係を有しているが、９世紀代に継起した集落が特徴的である。

竪穴住居は６軒検出されたが、いずれも他遺構と重複関係をもつ。しかし、住居の残存状況が不良で、部分的な検出にとどまっているため、遺構間の重複について新旧関係を示す情報は少ない。これらの住居は、141号溝および東隣する溝群と重複する地点に分布する。分布地点は限定され、掘立柱建物群より東側には認められず、南北方向のみに広がりが看取できる。

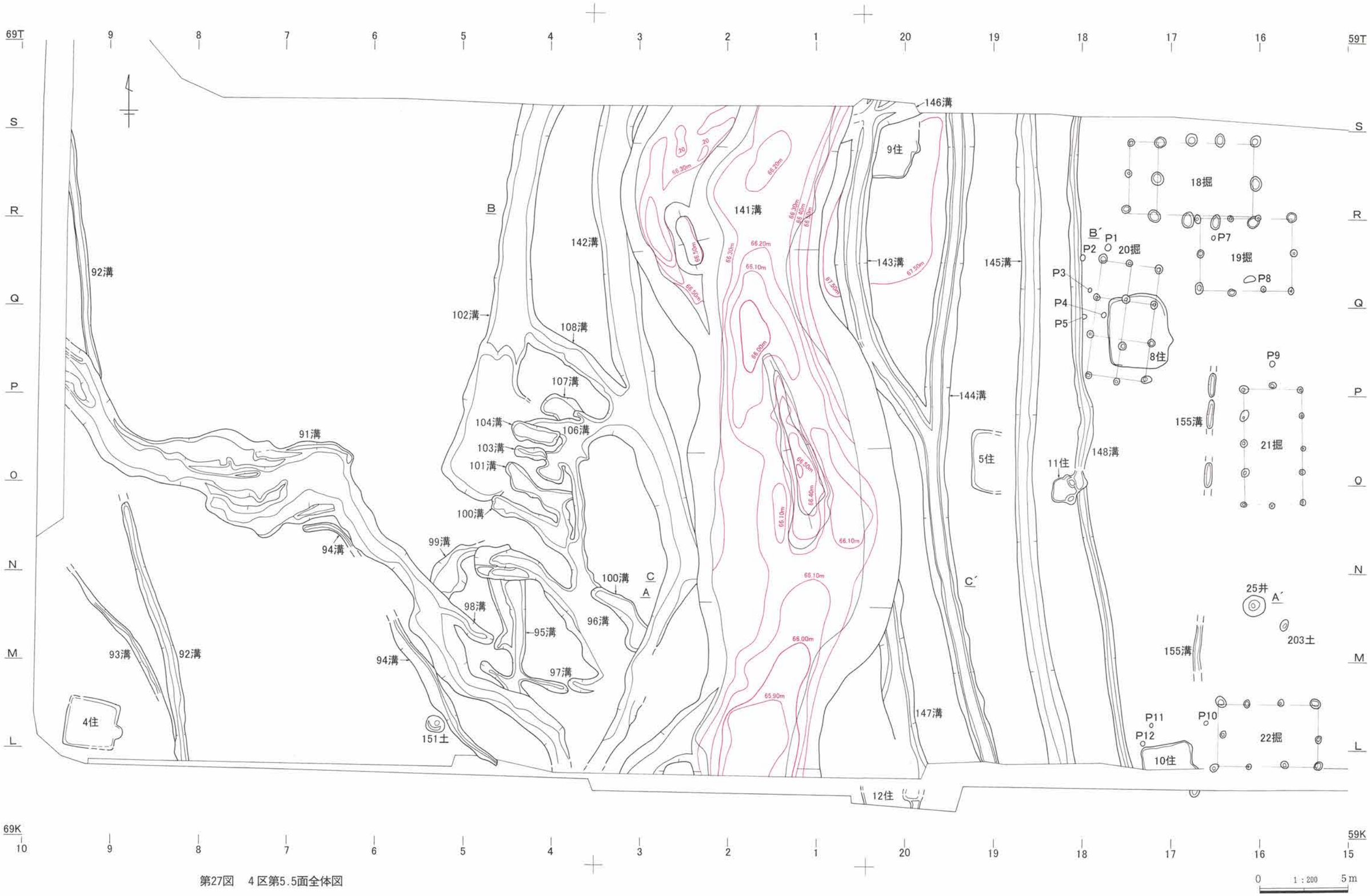
掘立柱建物は５棟確認し、141号溝に東接する溝群に沿って平行するように分布している。なお、20号掘立柱建物については、住居と重複するが掘立柱建物が新しい。また、18号・19号掘立柱建物はほぼ同規模の建物で、並行して存在し柱穴が一部重複するが、その新旧関係は不明である。

18号・19号・21号・22号掘立柱建物については、棟方向に共通性が認められ、建物群の関連性を看取させる。18号と19号掘立柱建物も新旧関係をもつということばかりではなく、その時間的関係には建て替えなども含めた継続性も想定し得るような位置関係を有している。20号掘立柱建物は、他掘立柱建物とは棟方向をやや異にする。さらに、この20号掘立柱建物のみが内部に柱を持つ総柱であり、他棟は、側柱のみで構成される建物である。建物形態の相違が性格差を示し、そのため棟方向の相違も生じているのかもしれない。

主要な溝群は南北方向に走行する。

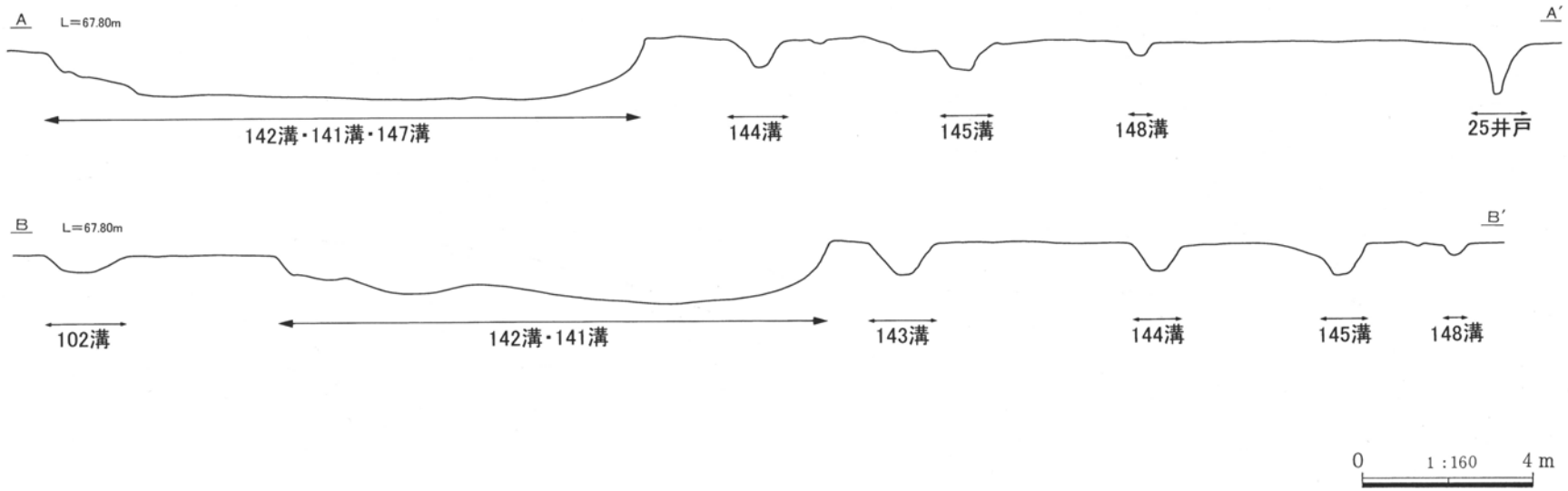
141号溝は、幅10m前後の大規模な溝で、検出長は38m程となる。第５面のAs-Ｂ下水田が耕作される時点では完全に埋没しており、水田面が形成されていた。土層断面からは、Hr-FP層を掘り込んでいることから溝の時期は６世紀中葉以降、12世紀初頭までが存続年代の最大幅であるが、出土遺物から９世紀代が中心であると判断できる。規模に比し調査長が限定されるため、底面傾斜は顕著に観察しにくいが、わずかに北から南方向への流路を示す。調査時にも激しい流水があったが、溝の堆積土も砂やシルトの互層により埋没しているところから、常時流水があったものだろう。溝幅は最大10m前後計測する部分もあるが、これは壁面崩落により広がったものとみられる。また、平面形状が緩やかに蛇行しているが、これにも壁面崩落が影響しているとみられる。しかし、この溝に沿って確認されている溝群も同様に緩やかに弧状に湾曲している状態が認められるところから、141号溝の湾曲も当初の形状だとみられる。

141号溝に並行して認められる溝群は、141号溝同様にこの地点にのみ確認されている。重複関係も認められるが、ある時間幅のなかで継起した遺構群であるとみられる。141号溝西側では、102号溝および142号溝が関連する溝であり、その南側に確認された不規則な溝群は、これらの溝を壊している。同様に東側では、143号溝～148号溝が一群の溝群となる。これらの溝群は、141号溝との位置関係に共通性が認められるとともに、逆台形断面を呈し、深さも類似

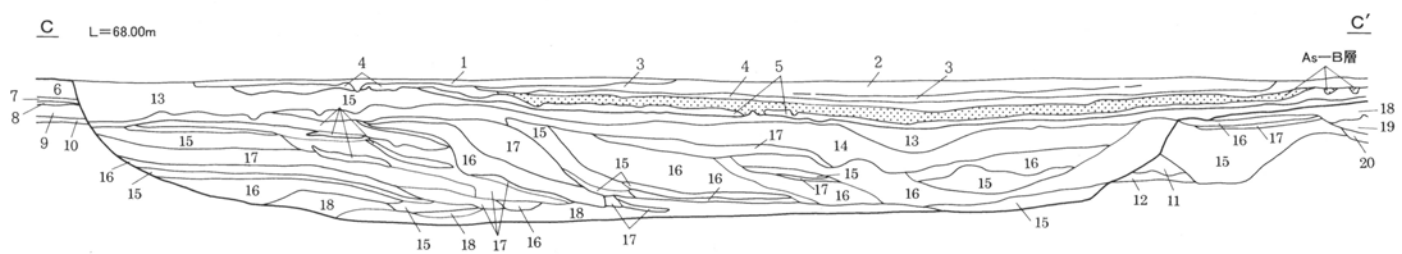


第27図　4区第5.5面全体図

0　1：200　5m



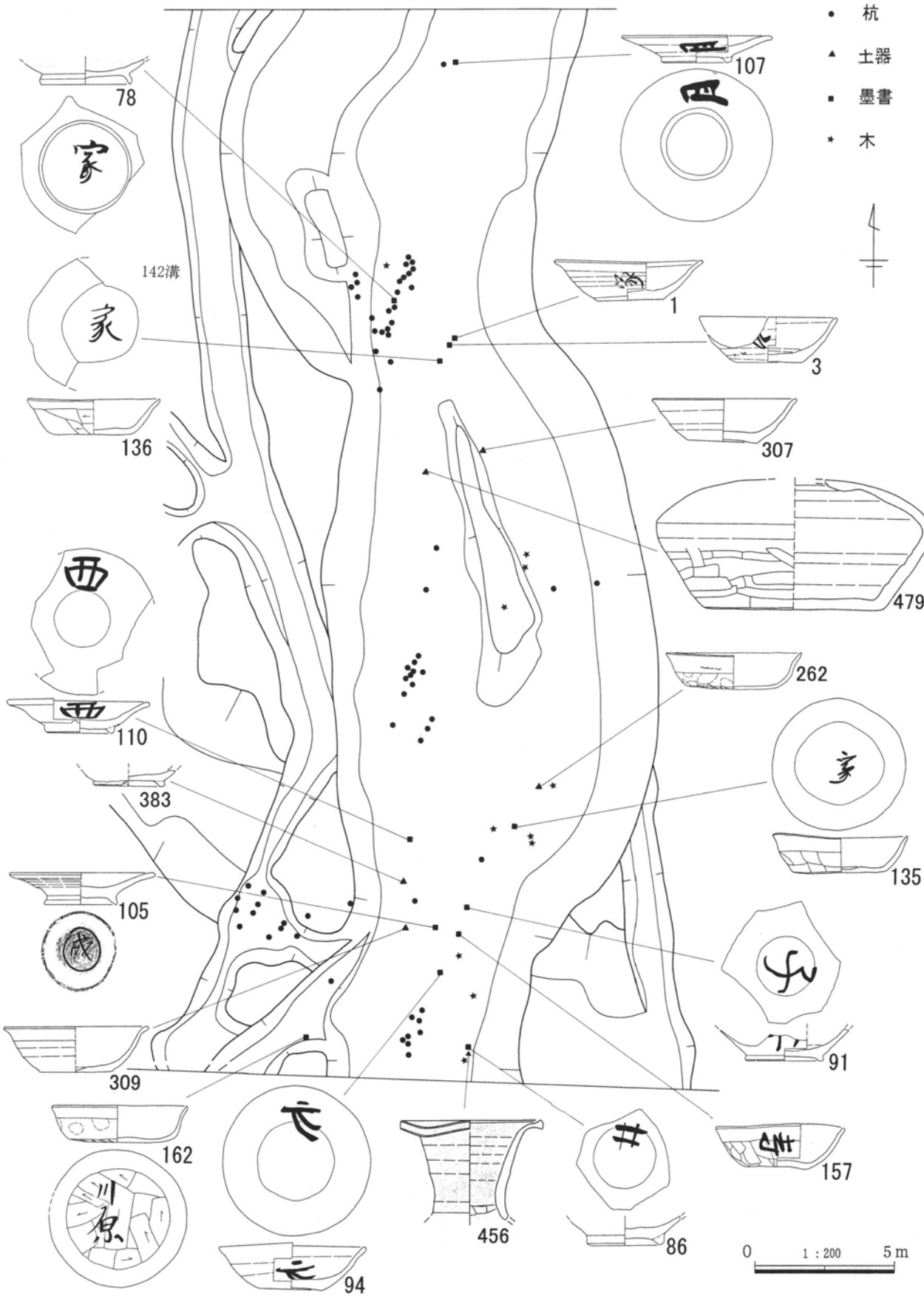
第29図　102・141～145・147・148号溝、25号井戸断面図



1　暗褐色土　As-Bを含む
2　暗褐色土　As-Bを含む
3　黒褐色土　As-Bを含む
4　黒褐色土　As-Bを含む
As-B層　（堆積後に141号溝部分が陥没）
5　黒褐色土　粘質土　5面水田耕作土
6　暗黄橙色　シルト質層
7　灰黄褐色土　細砂、シルト質層
8　黄褐色土　粘性をもつシルト質層
9　黄褐色土　粘質土層
10　黒褐色土　粘質土層、As-Cを含む
11　褐灰色　粘質土
12　黄褐色土　粘質土
13　黄褐色土　粘性をもつシルト質層
14　暗褐色土　粘性をもつシルト質層
15　砂層
16　シルト層
17　細砂、シルト互層
18　黄褐色土　シルト質層
19　黒褐色土　粘質土層
20　砂層

0　1:80　2 m

第28図　141号溝土層断面図



第30図　141号溝遺物出土位置図

するという形態上の共通性も認められる。このうち142号、143号および147号溝は141号溝と重複する。141号溝との時間的関係は、埋没土層の観察により147号溝が古いことは確認できたが、他の溝については不明である。しかし、平面形からみると、142号、143号溝とも141号溝の壁体拡張により重複関係をもつに至ったような形状を示している。142号、143号とも弧状に湾曲するが、その形態は141号溝の平面形状に沿ったものとみられる。両溝が近接する部分の壁体が崩落することにより、最終的にこのような平面的位置関係を示すものと観察される。

これら以外の遺構として、井戸や土坑、ピット類が少数検出されている。井戸は1基検出され、21号掘立柱建物と22号掘立柱建物間に位置する。掘立柱建物と井戸の時間的関係を示す情報は各遺構からはないが、両者の平面的な位置関係からは、関連性が伺うことができる。また、土坑、ピットについても掘立柱建物群に接して点在する。

これらの遺構群は、141号溝および東接する溝群の東側の限定された範囲に分布する。掘立柱建物間、掘立柱建物と住居間に重複が認められるため、単一時期ではないが、継続した時間のなかで継起したものとみられる。

b　141号溝（第27図、PL13）

形状：幅10m前後の大規模な溝である。深さは確認面から150cmである。平面形はわずかに蛇行するが、ほぼ南北方向の流路となる。なお、調査長は38.5mである。底面はほぼ平坦で、壁体は東壁で約168度、西壁で148度前後の角度で立ち上がる。底面には20cm前後の砂層が堆積し、埋没土中にも砂層、シルト層、砂礫等が互層となっている。発掘調査中も大量の湧水があり、この溝には豊富な水流があったとみられる。しかし、溝の平面規模に比し、調査長が限定されるため、底面傾斜が明確ではないが、わずかながら北から南側への傾斜があるように調査所見を得ている。蛇行する溝形状は、流水による浸食や壁体崩落による影響もあろうが、底面流路も蛇行状になることから、当初の形状と大きな変化は生じていないとみられる。特に、北半部の蛇行は、その東西に接する142号溝と143号溝が弧状となり、141号溝と沿う形態となることからも看取できる。

埋没状況：土層断面の観察では砂層、シルト層、粘質土層などによる互層となっている。As-B埋没水田が形成される段階には完全に埋没し、平坦面となっていた。全体的に粘性の強い埋没土層であり、底面には層厚20cm前後の砂層が堆積している。

出土遺物：遺物は土器類が中心であり、その大半は底面に堆積する砂層から出土している。土器量は総破片数12477点と大量である。器種をみると、土師器坏9120点、須恵器椀1692点、土師器甕1113点、須恵器甕197点、その他となり、土師器坏に大きく偏重する。出土状態は、完形および大型片も含まれるが、破片が大半である。断面はシャープな例が多く、流水によって移動したとはいえないものが多い。隣接地から投入されたものであると考えられる。さらに、これらの大量の土器類に混在して墨書土器が総数252点出土すると共に、漆紙文書や灯明皿等も含まれる。

出土遺物は土器類の他に底面に打ち込まれた杭が78本確認された。各杭は溝底部下が残存し、上部は遺失しているため、本来の長さは不明である。溝底面は硬質な地層であることから、杭は直接打撃により打ち込まれたとみられる。直径は10cm～15cmを計測する。打ち込み深は、溝底面下60cm前後から30cm程度である。なお、南端部の溝中央に認められた一群の杭は、深度が10cm前後と浅い。これは、発掘調査に伴う湧水処理用のポンプ設置により溝底面が掘り下がってしまったことによる可能性がある。杭はほぼ垂直に打ち込まれ、意図的に角度をもって斜位に打ち込まれる例は認められない。杭は溝全域に分布するのではなく、集中的に打ち込まれている。本数の相違はあるが、4箇所の集中地点が認められる。各集中地点では、杭に規則性は看取されず、一定の範囲にまとまって打ち込まれた様子が結果として残されている。そのため、杭の設置状況からなんらかの構造物を特定はできていない。橋もしくは桟橋の

支柱の可能性も考慮したが、確定できない。

墨書土器：総数252点の墨書土器が出土している。本報告書では全点掲載した。墨書土器は大量に出土した他の土器類と混在して確認されている。溝底部に堆積した砂層から出土するが、湧水が激しく、その処理を行いながらの調査であったため、出土地点を記録しえた墨書土器は少ない。調査最終段階で、排水処理が継続的に行えるようなった時点で、出土地点の記録が実施できた程度にとどまる。そのため、全体の出土傾向は把握できないが、出土地点が判明した例からみると、偏在するような出土状況ではなく、溝内広範囲に出土するものと思われる。これは、他の土器類と同様の出土状況を示しているものと考えられる。

漆紙文書：漆紙が付着する須恵器片が3点出土した。いずれも遺物洗浄段階で判明したもので、出土地点は不明であり、他土器類と混在して出土したものである。この3点を赤外線カメラにより観察したところ、2点は紙部分のみであったが、1点について文字が確認された。この資料は須恵器坏口縁部片で、3文字（内2文字は判読不明）のみが残存するもので、文書自体の内容は把握できない。

さらに、漆を貯蔵するための須恵器壺片も1点出土している。

時期：確認状況からは、As-B 埋没水田耕土下に検出され、Hr-FP層を切っていることから6世紀～12世紀の間に時期的位置づけができる。さらに、墨書土器を含め、大量に出土した土器類は9世紀第三四半期を中心とすることから、溝の時期もほぼ同様に位置付けが行われる。しかし、溝内からはより古い時期の遺物の出土も認められる。周辺からの流入とも考えられるが、より古い段階に小規模な溝もしくは流路が存在し、それが最終的に大規模な溝へと変遷したことも可能性も否定できない。古墳時代水田の開田期まで遡ることも考えられよう。

c　墨書土器（第31図～第50図、PL26～PL33）

141号溝から出土した墨書土器は総数252点におよぶ。いずれも溝下層および底面から出土している。墨書される器種は須恵器椀・坏および土師器坏を主とし、須恵器皿、土師器鉢、灰釉陶器がわずかに含まれる。器種別の出土点数は、須恵器椀　89点、須恵器　坏　33点、土師器　坏　122点、須恵器　皿　5点、土師器　鉢　1点、灰釉陶器　2点となり、須恵器椀・坏および土師器坏が97％を占める。

これらの土器は、大半が一文字墨書であり、2文字のものが5点認められるのみである。使用される文字は、須恵器椀に「家、大、月、西、保ヵ、井ヵ、用、子、㊀、十、七、㊁、家寺」、須恵器坏に「家、大、㊇、◎、χ、ㅠ、ㅅ」、土師器坏に「家、宮、寺、上、十万、川原、」、須恵器皿に「家、月、西、㊇、市」、灰釉陶器に「家」、等が認められる。このうち「大、成、月、西」は須恵器の複数器種に認められる。

しかし、最も特徴的な文字は「家」であり、全ての器種に認められるとともに、量的にも最も多い。墨書土器総数252点中、125点と半数におよぶ出土量である。

・墨書の位置について

墨書土器に記される文字の位置について集計したものが第4表である。

まず、墨書土器の器種別に文字の位置を比較してみたい。

須恵器椀では、体部外面が52％と半数を占める。文字の向きが判別できる41点の内、23例が横位である。

須恵器坏では、底部内面が58％となる。土師器坏では71％が底部内面に偏在するが、墨書の位置では須恵器坏と同様の傾向といえる。

次に、墨書の大半を占める「家」が記される資料についての墨書位置を比較してみよう。

須恵器椀では、体部外面が61％、須恵器坏では底部内面が65％となる。これは、器種別の墨書位置のあり方とほぼ共通するものであろう。

土師器坏では、底部内面が100％と極めて明確な位置の傾向があり、墨書土師器の位置傾向に比し、さらに強い偏在性を示す。

次に、「家」墨書以外の墨書土器の位置について集計しておく。須恵器椀では体部外面35%、須恵器坏では底部内面46%、土師器坏では底部内面が46%と多少比率傾向の相違はあるものの、ほぼ同様の傾向を示す。

これらのことから、器種によって墨書位置がある程度限定されることであり、さらに「家」墨書についてみればその傾向はより明確である。

特に土師器坏の場合、「家」が記される位置は底部内面にほぼ限定しえるほどである。須恵器坏でも墨書部位は底面内側が多いことから、坏の共通する傾向といえる。

「家」墨書をもつ土師器坏の部位の偏在性は、集中的もしくは継続的な行為の結果のようにみることができる。

なお、墨書土器は141号溝から集中して出土している。周辺の住居や土坑等の遺構からの出土はない。

このような集中的な出土状況から、集落で執り行われた祭祀に用いられた後に141号溝内にこられの墨書土器が投入されたことを示しているものと考えられる。墨書土器に多少の時間幅が認められる場合でも、墨書土器を用いる祭祀の継続的な行為が行われた結果とみることができる。

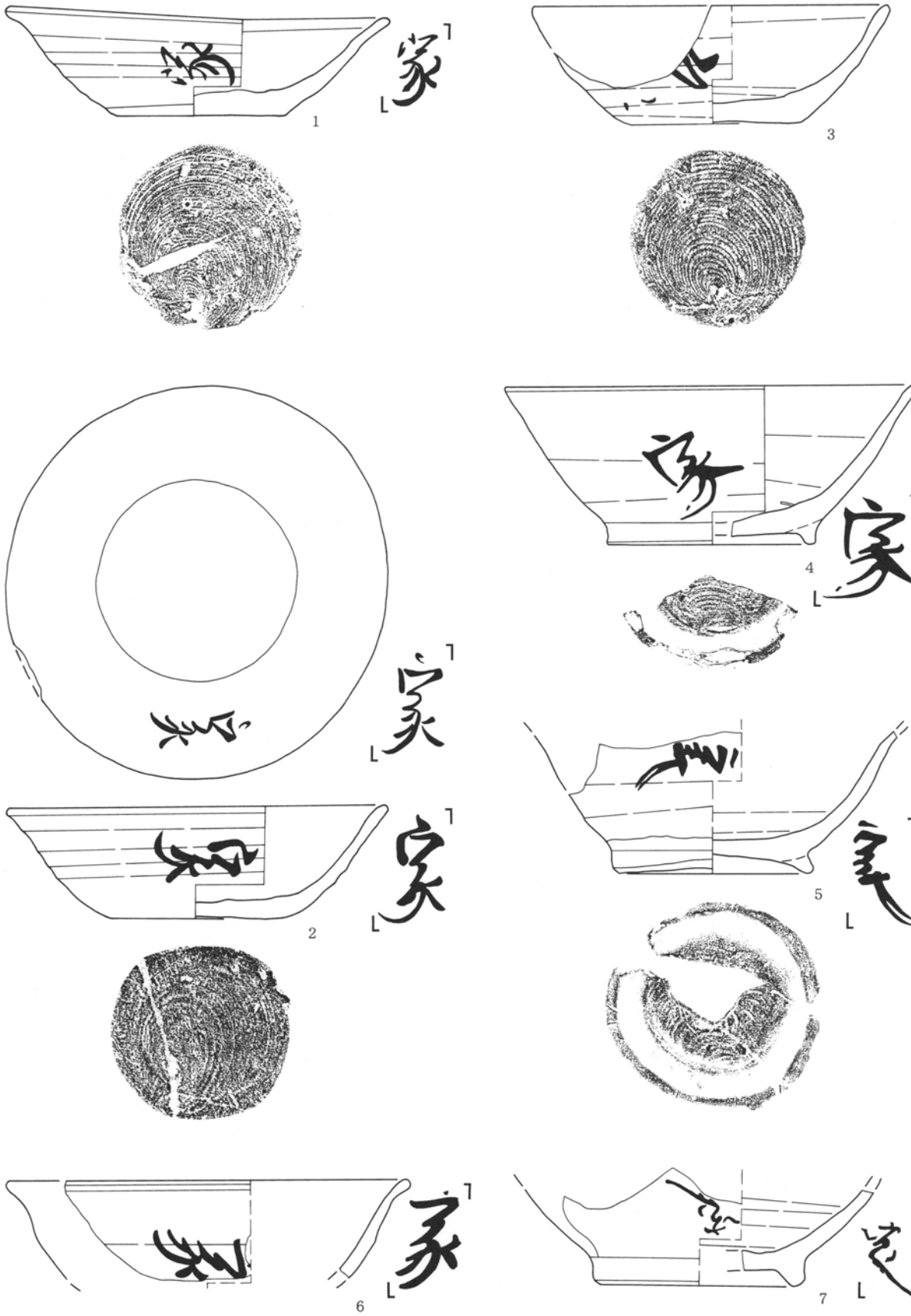
墨書土器の他、特徴的な出土遺物として漆紙文書付着土器や漆の貯蔵用とした壺、灯明皿がある。いずれも、他の遺物類と混在して出土したもので、特定の出土状況をもつものではない。これらの土器類は、遺物洗浄の際に摘出されたものである。

漆紙文書は3点検出された。いずれも須恵器坏であり、うち1点に文字が認められた。他例は、漆紙の付着は確認されたが、文字は認められていない。須恵器壺の漆の付着する例が1点認められた。外面にも一部漆の付着がみられるが、内面には層状に漆が付着している。外面の漆は他の容器へ移す際、垂れたものが付着したためとみられ、内面のやや厚く付着する漆は、内部に貯蔵していたものが固着したものとみられる。漆が付着する土器は上記の例のみである。なお、漆紙文書の土器片については、接合資料に注意したが関連する土器について認められなかった。

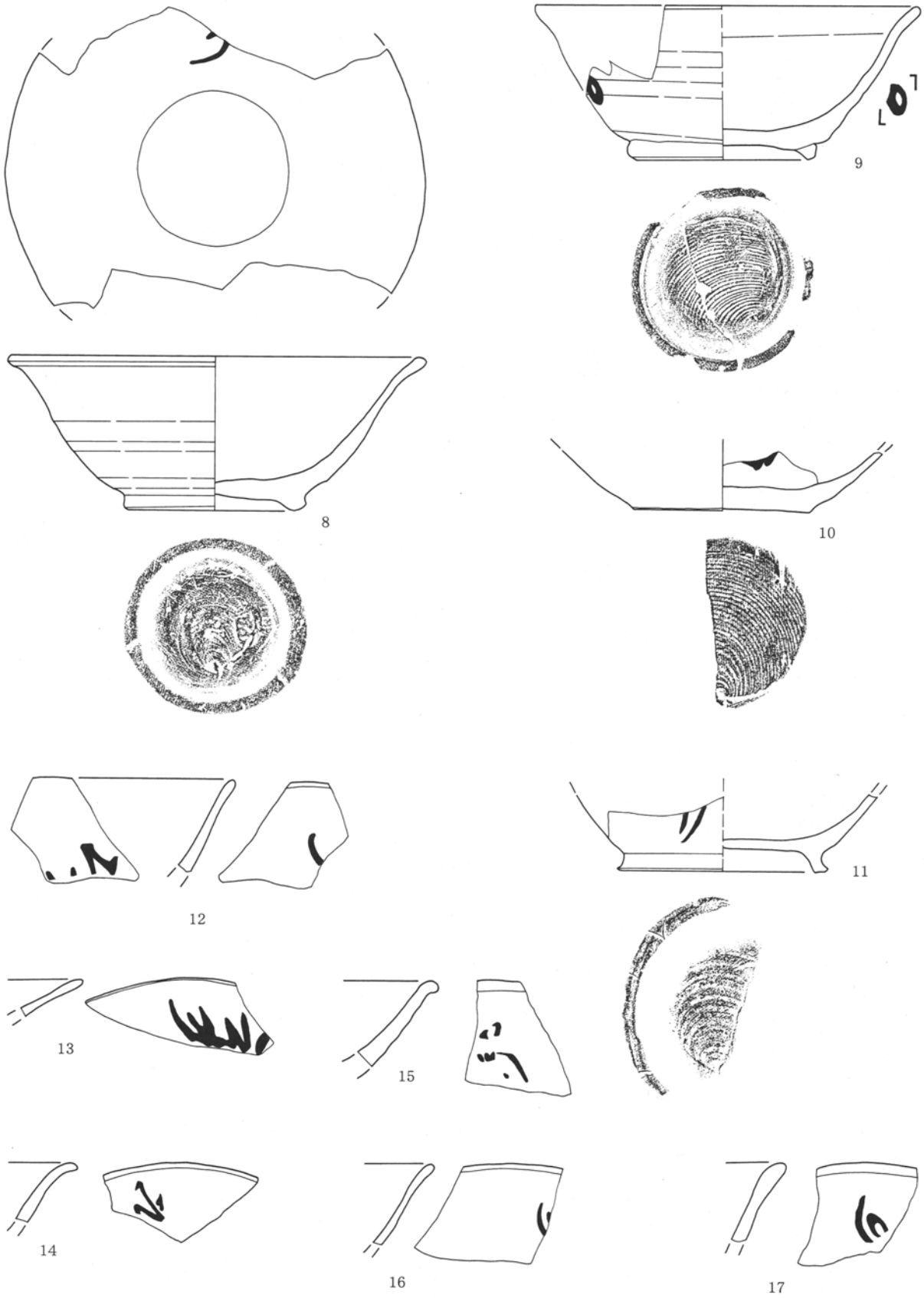
灯明皿は、土師器坏および須恵器椀等が転用される。これらは口縁部内面に灯心の痕跡が残存すると共に、体部内面および口唇部に油煙の付着が観察される。出土量は少ないが、墨書土器に係わる祭祀行為に関連することも考えられる。

また、141号溝からは墨書土器と共に12000点余の土器片も出土している。出土量を破片点数で比較すると、総点数の73%を土師器坏、須恵器椀・坏が13%、土師器甕が9%、須恵器甕が2%、その他となる。点数の比較では土師器坏が大半を占めるが、これらの資料は破損率が高く、小片が主体で、そのため破片数が増加するということかもしれない。そのように考えても出土量は多い。土師器坏には墨書土器と接合関係をもつ資料も含まれる可能性もあるが、おそらく墨書をもたない土器も多数におよぶとみられる。このような数量の多さは、土師器坏も墨書土器を伴う祭祀行為に関連する可能性を示しているのかもしれない。出土する器種が土師器坏に偏重することも、祭祀行為に関連することを示唆しているものと考えられる。なお、土師器坏の出土総数のなかで墨書をもたない土師器坏は99%を占める。集中的に大量出土した墨書をもつ土師器坏は出土総数の中でみれば1%にすぎない。

なお、墨書土器は141号溝から集中的に出土しているが、グリッドからも3点出土している。第51図1～3に示す墨書土器である。1は4区、2・3は5区のグリッド出土であり、141号溝をはじめ他遺構との関連は不明である。1は土師器坏で、体部（口縁部）内面に墨書が認められるが、小片のため字形は不明である。2の須恵器坏は、体部内・外面に横位に「国ヵ」が認められる。3の土師器坏は、体部外面に墨書が認められる。一部消失するが、横位の「家」だと推定される。



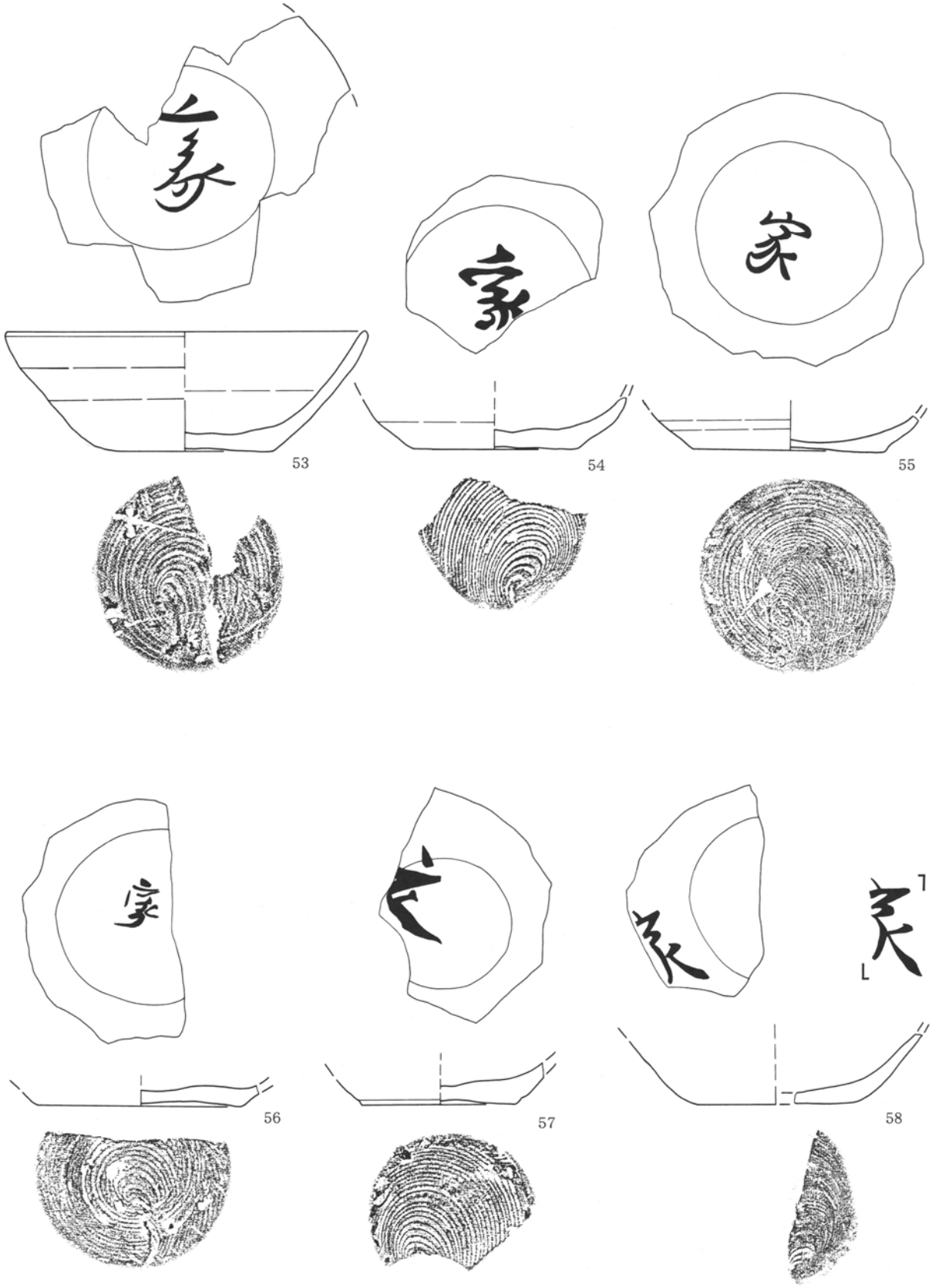
第31図　141号溝出土墨書土器（1）



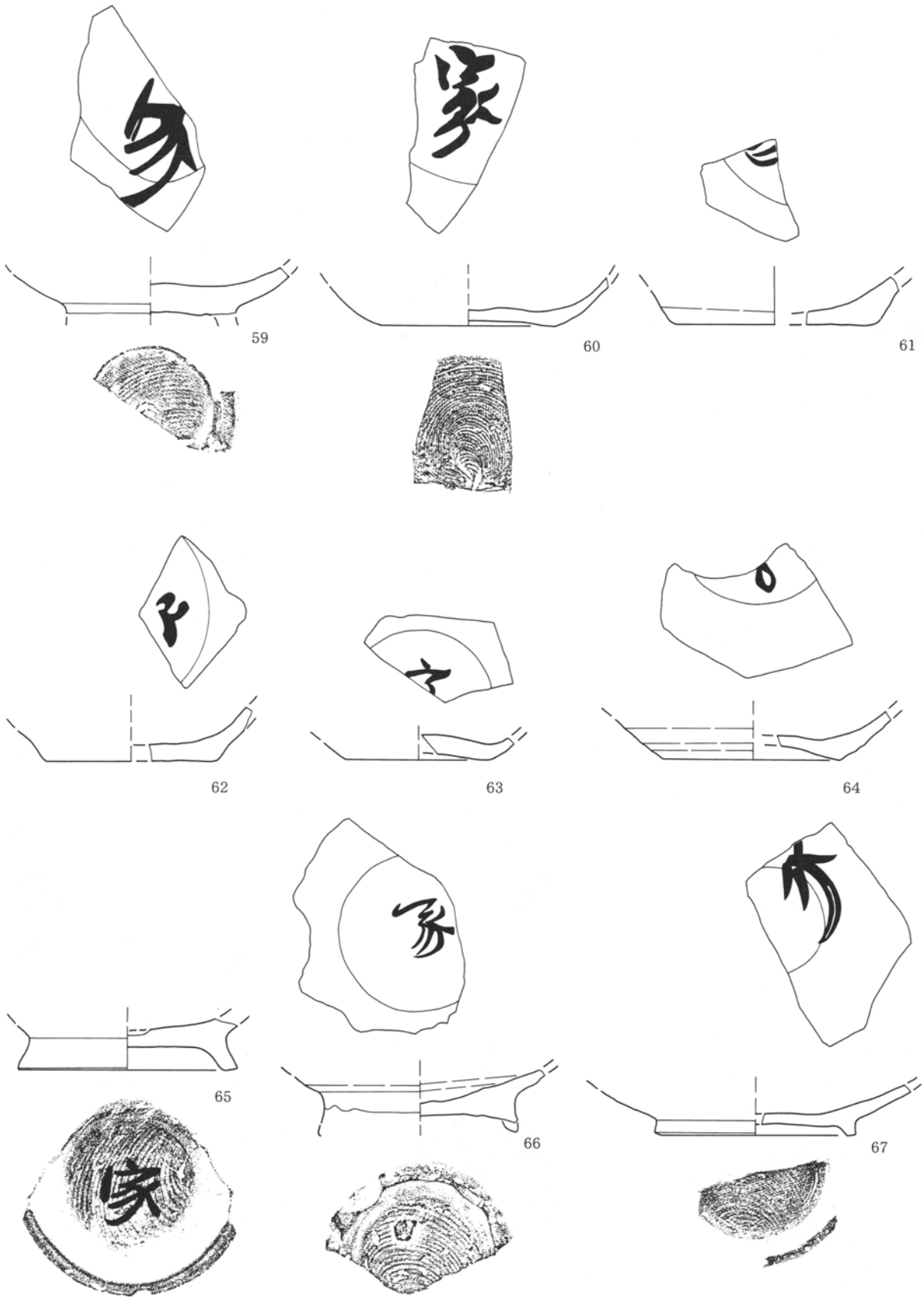
第32図　141号溝出土墨書土器（2）

第33図　141号溝出土墨書土器（3）

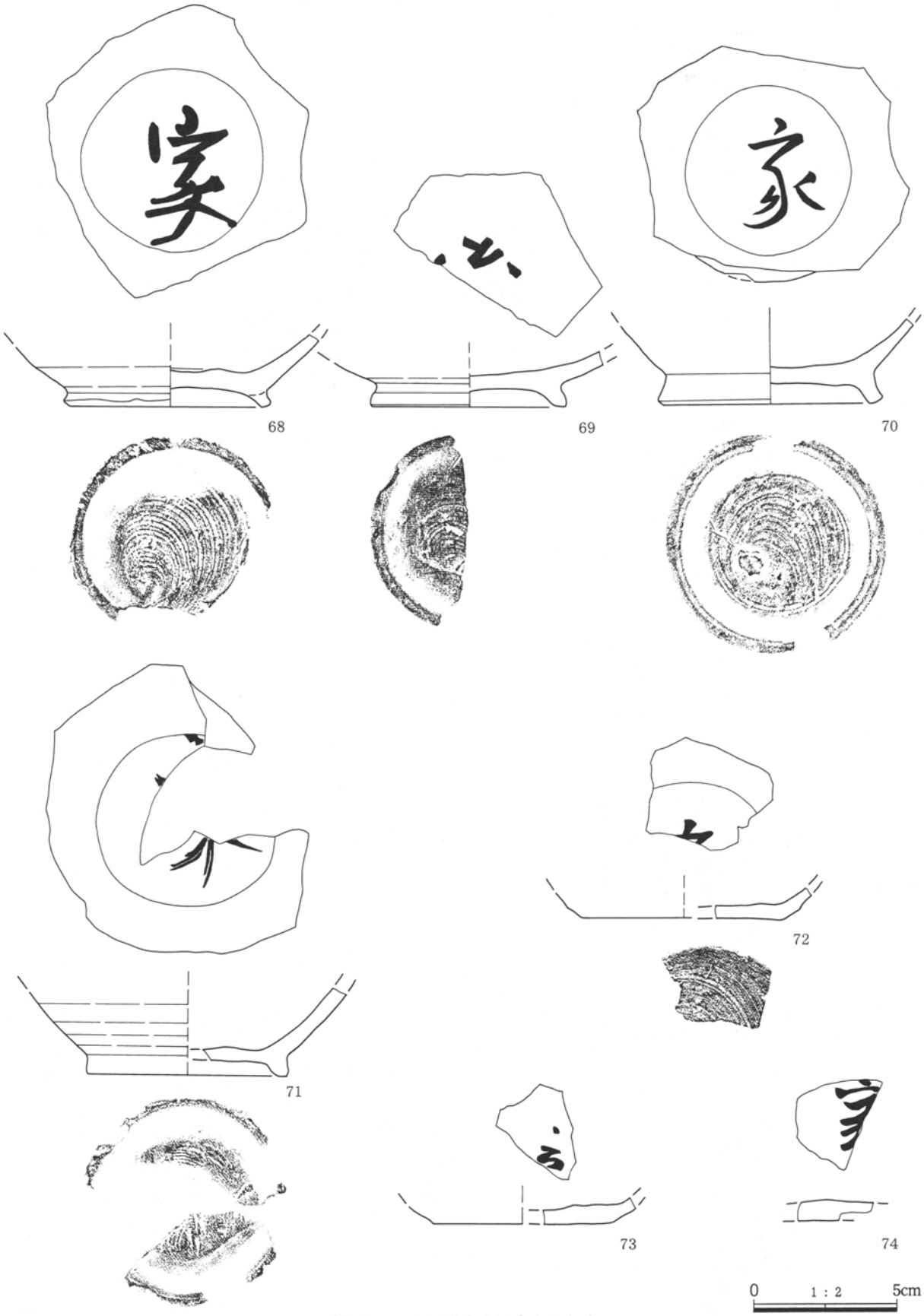
0　1：2　5cm



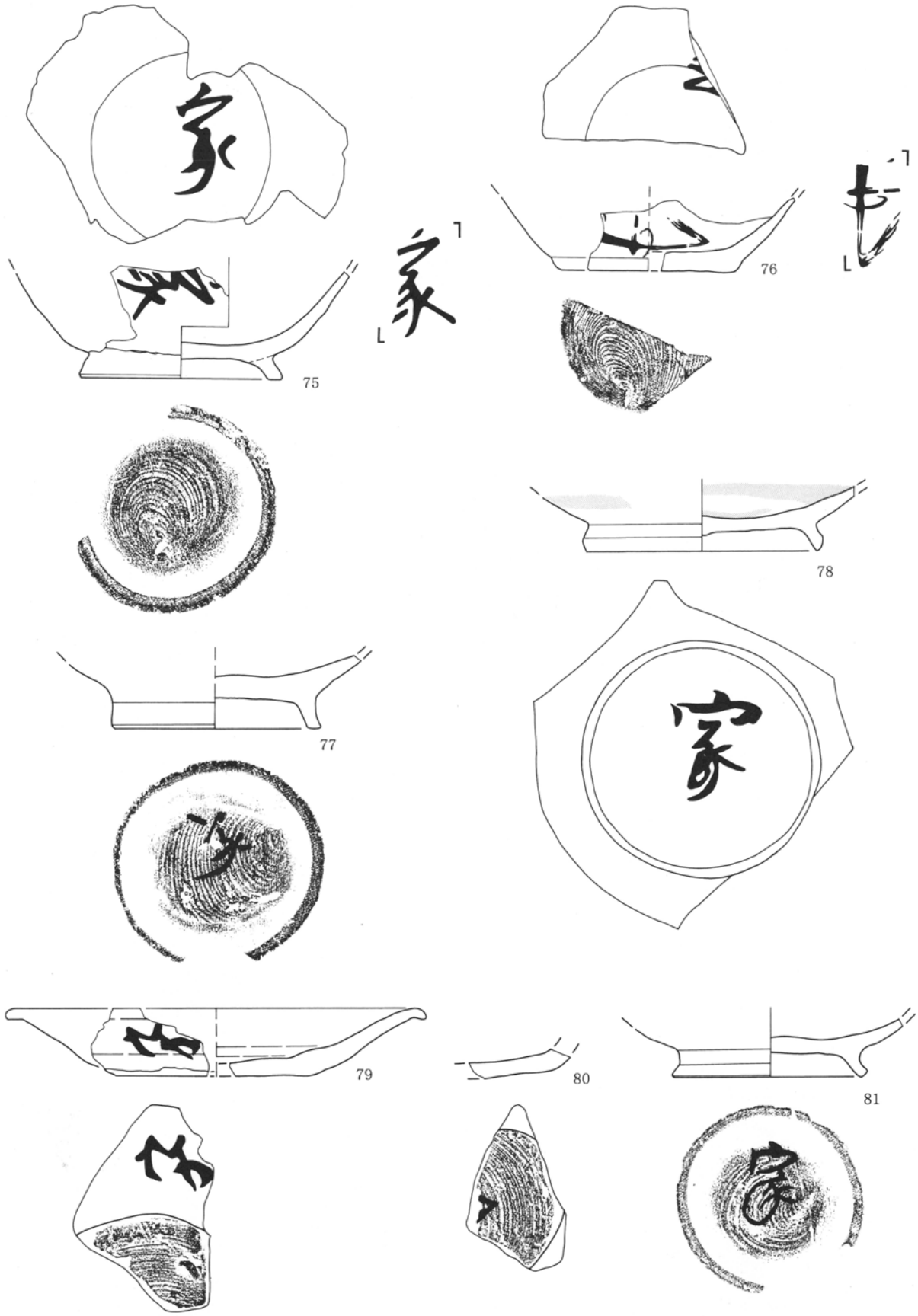
第34図　141号溝出土墨書土器（4）



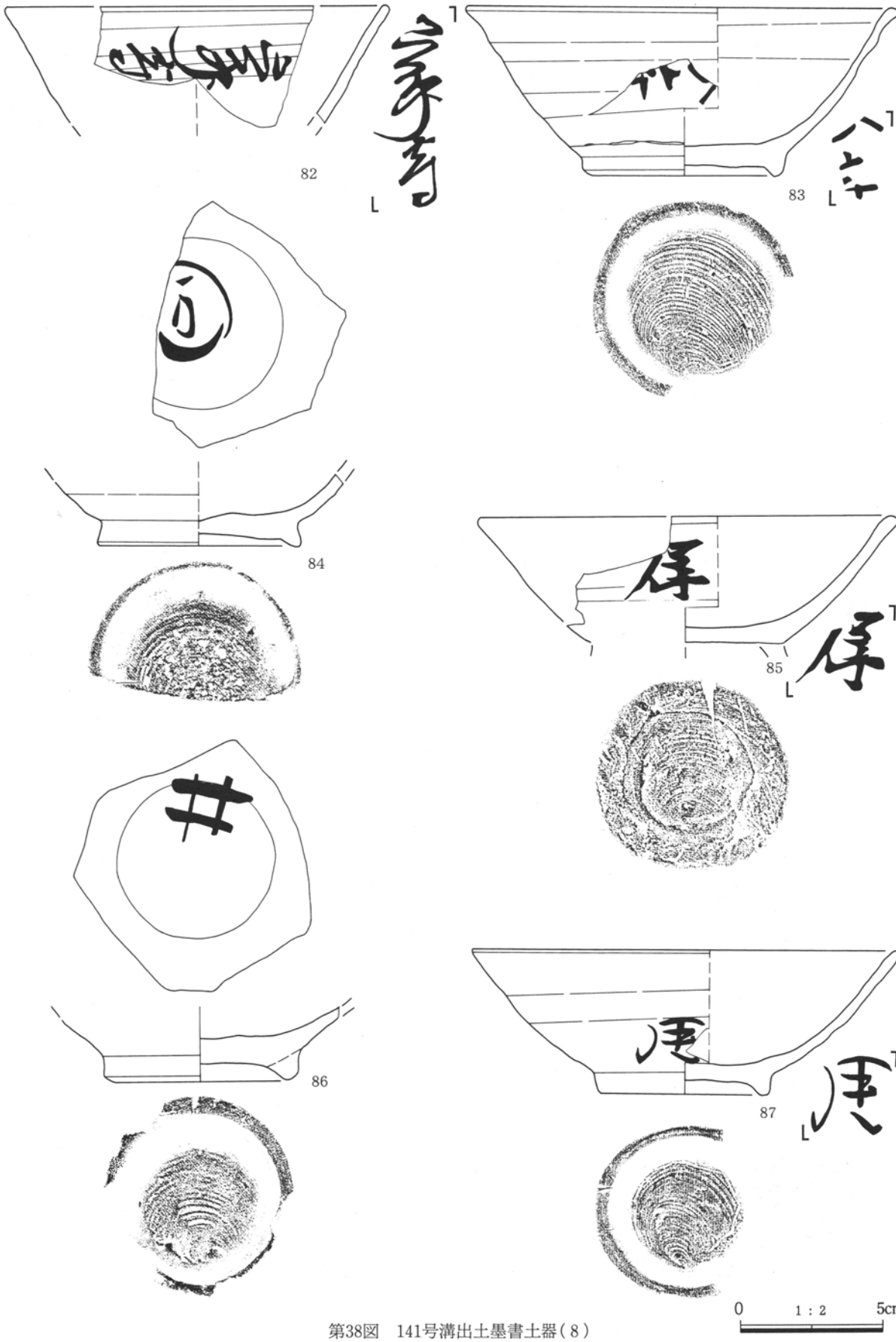
第35図　141号溝出土墨書土器（5）



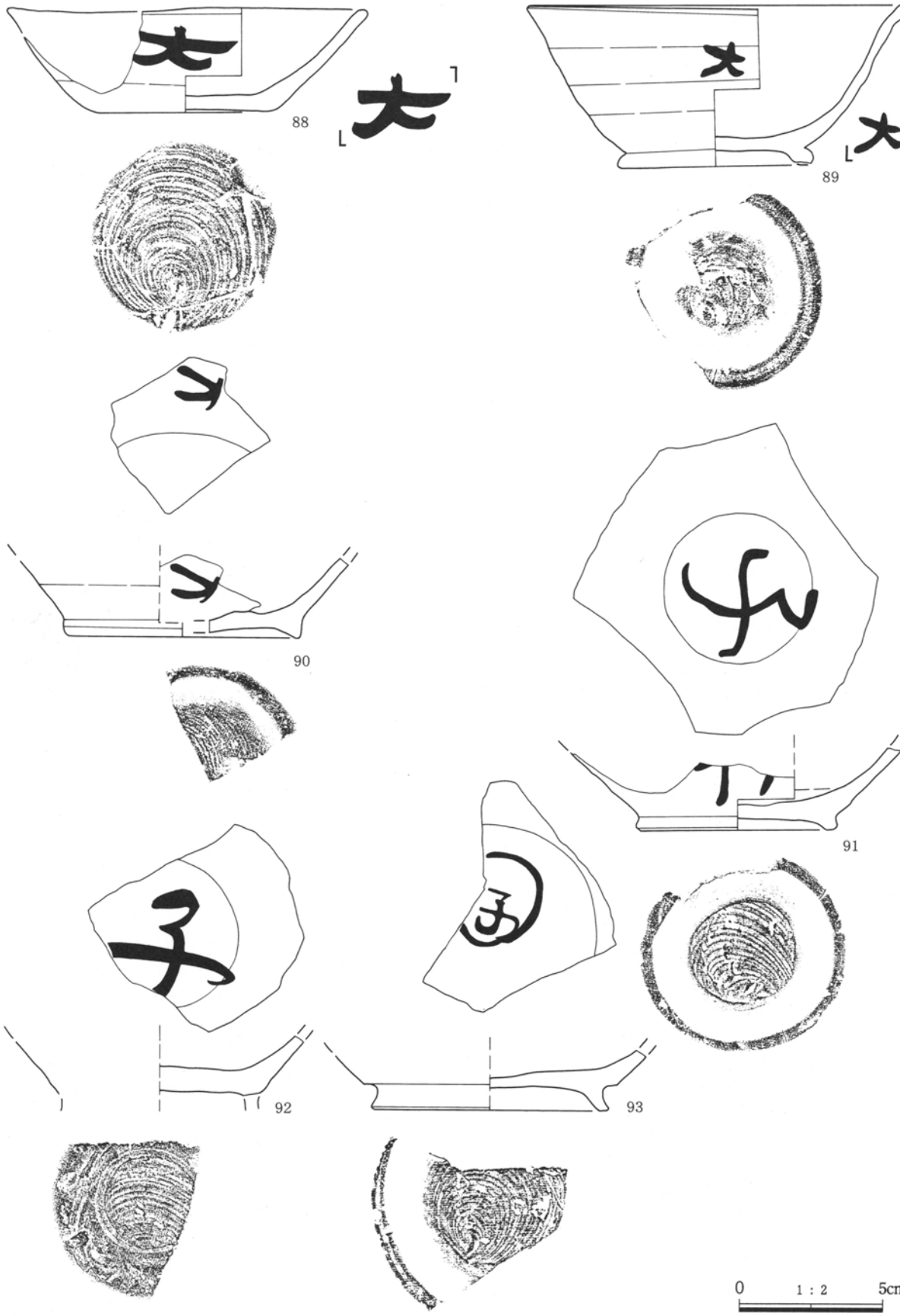
第36図　141号溝出土墨書土器（6）



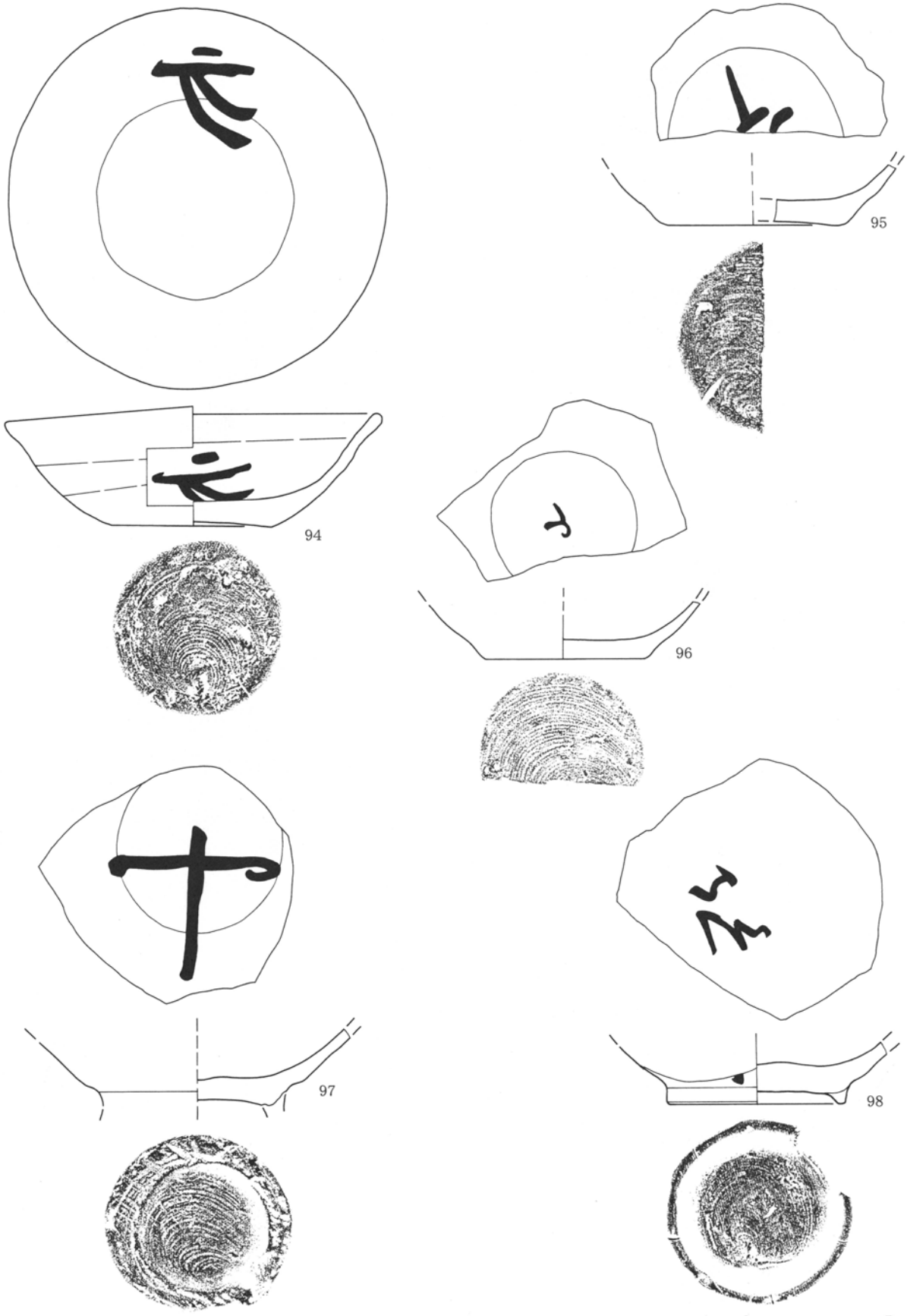
第37図　141号溝出土墨書土器（7）



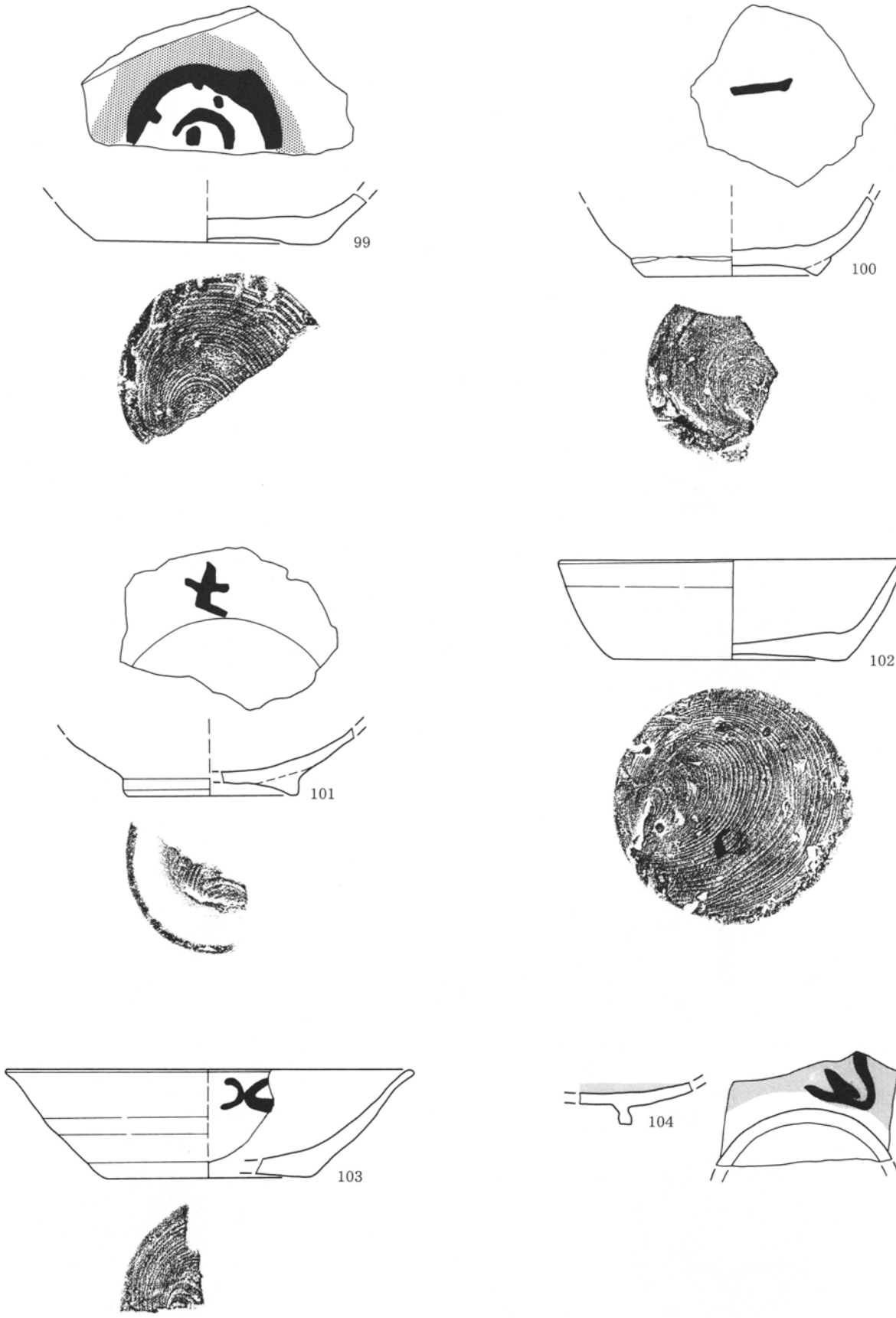
第38図　141号溝出土墨書土器（8）



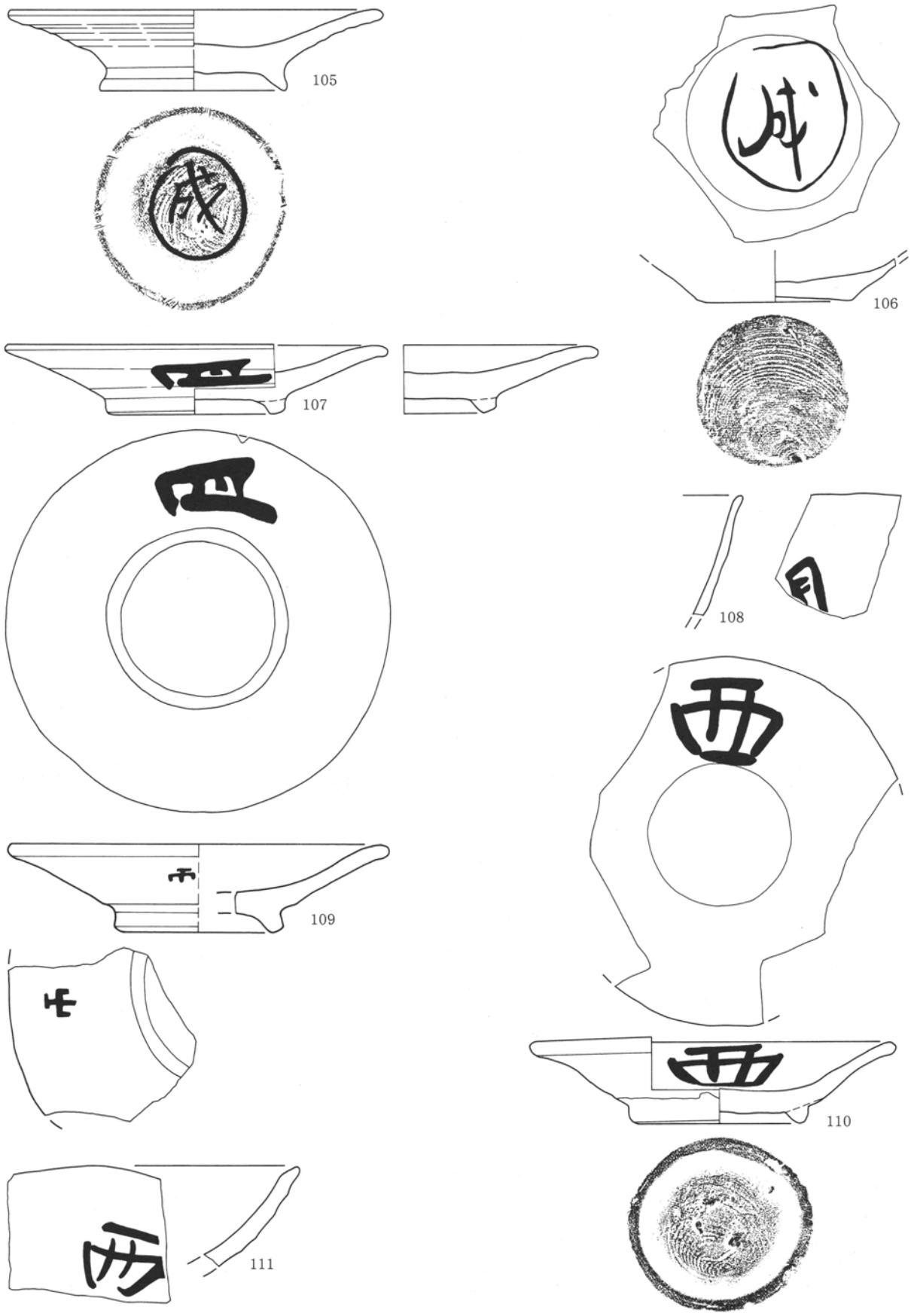
第39図　141号溝出土墨書土器（9）



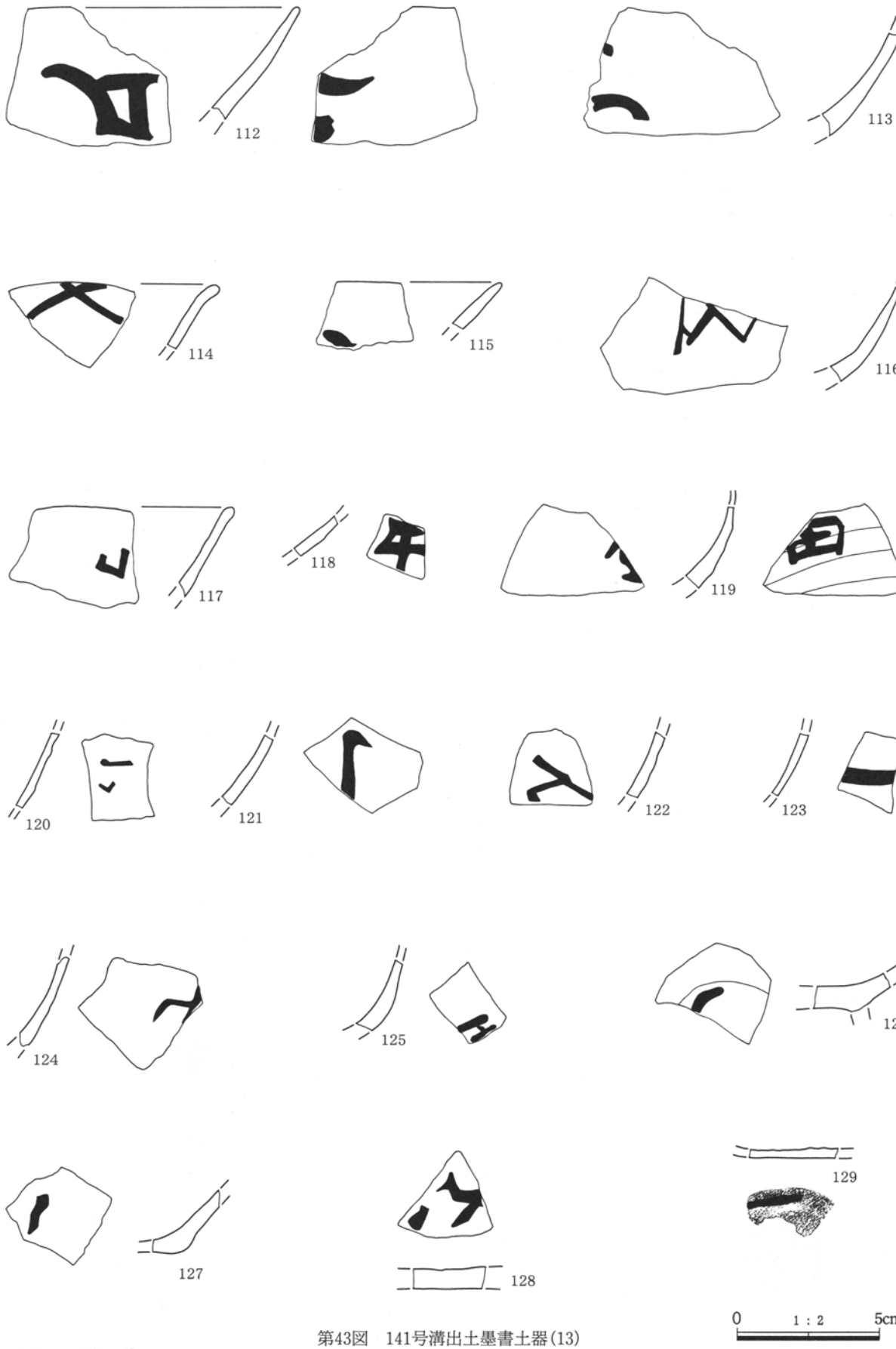
第40図　141号溝出土墨書土器(10)



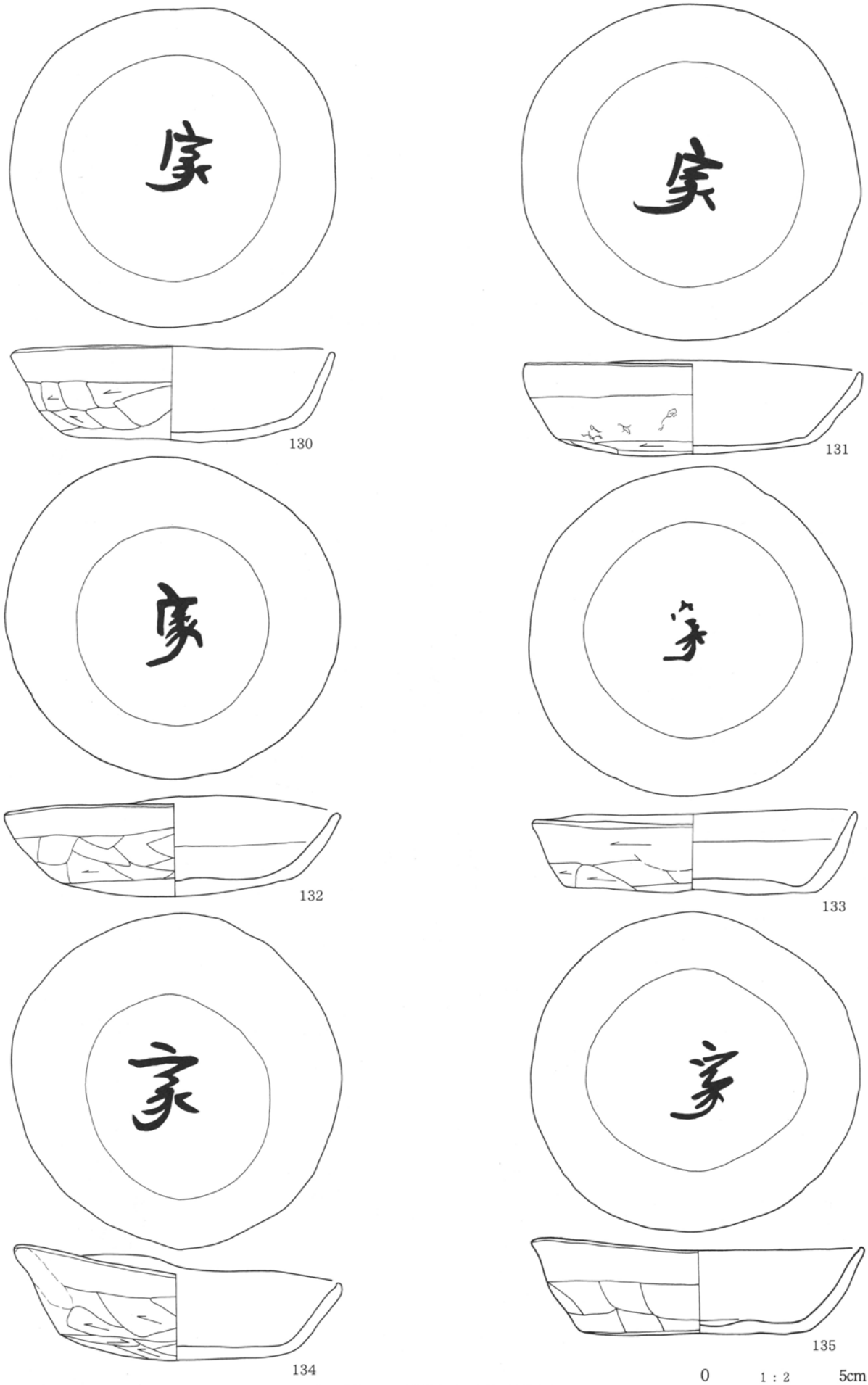
第41図　141号溝出土墨書土器(11)



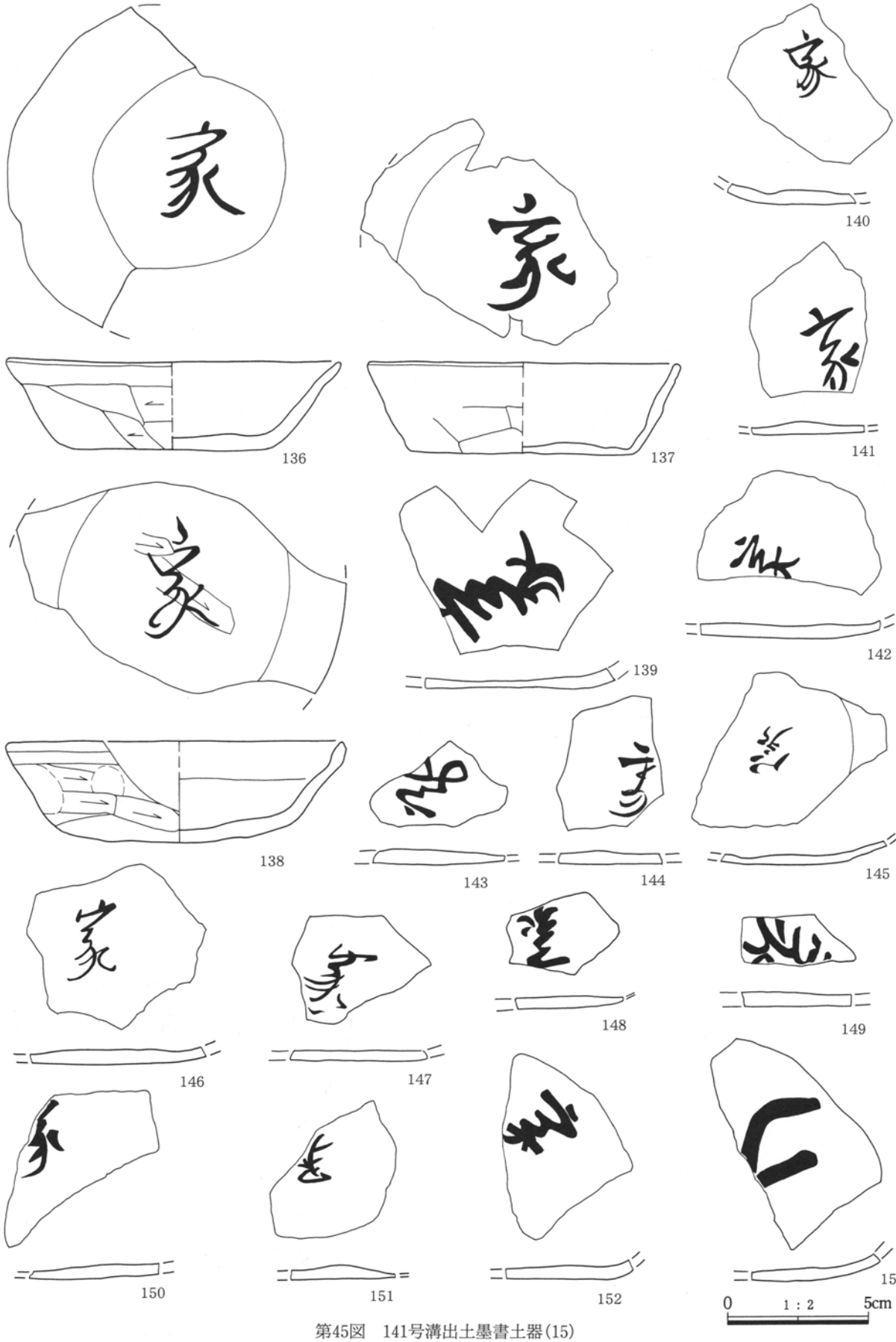
第42図　141号溝出土墨書土器(12)



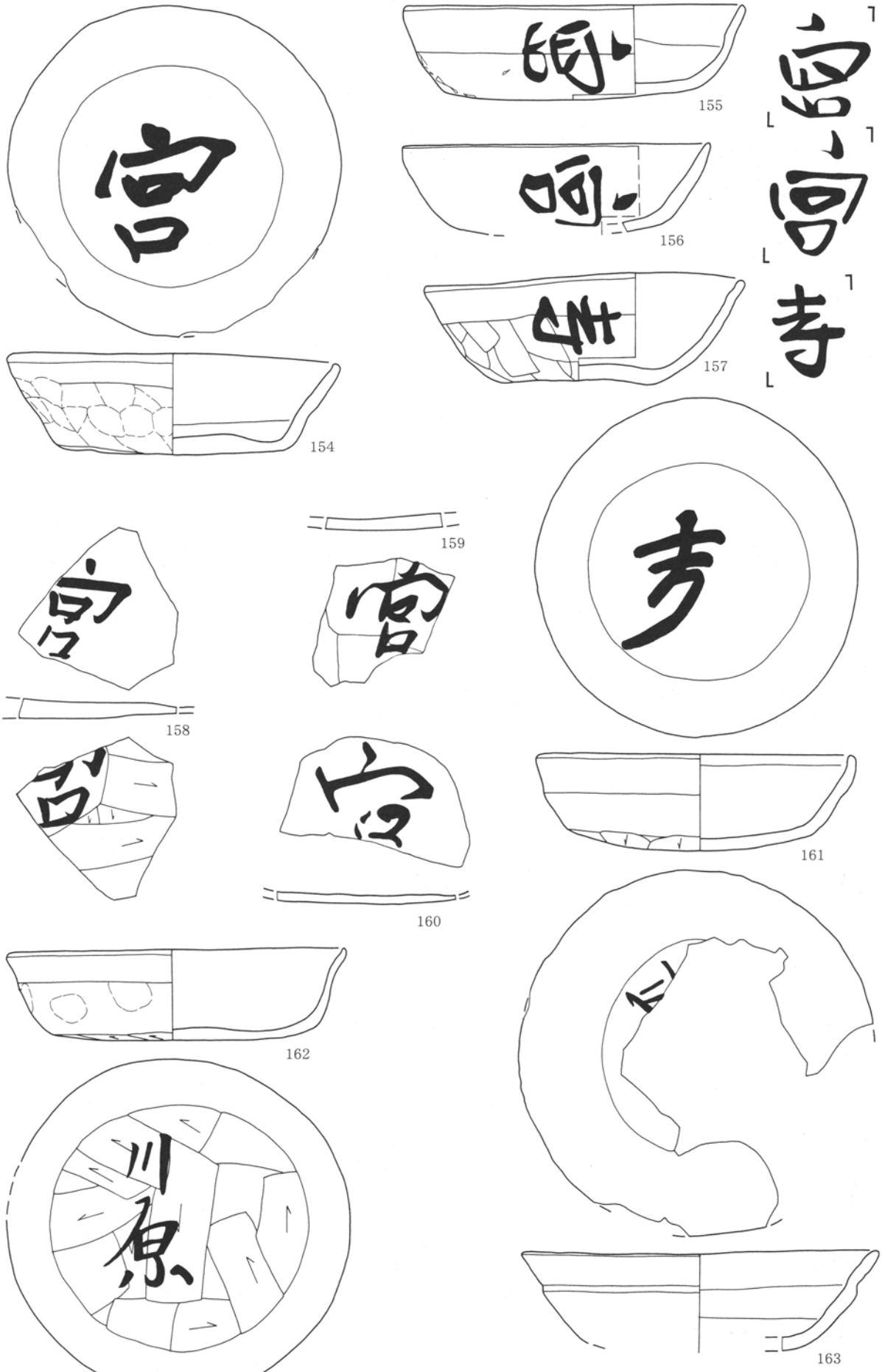
第43図　141号溝出土墨書土器(13)



第44図　141号溝出土墨書土器(14)

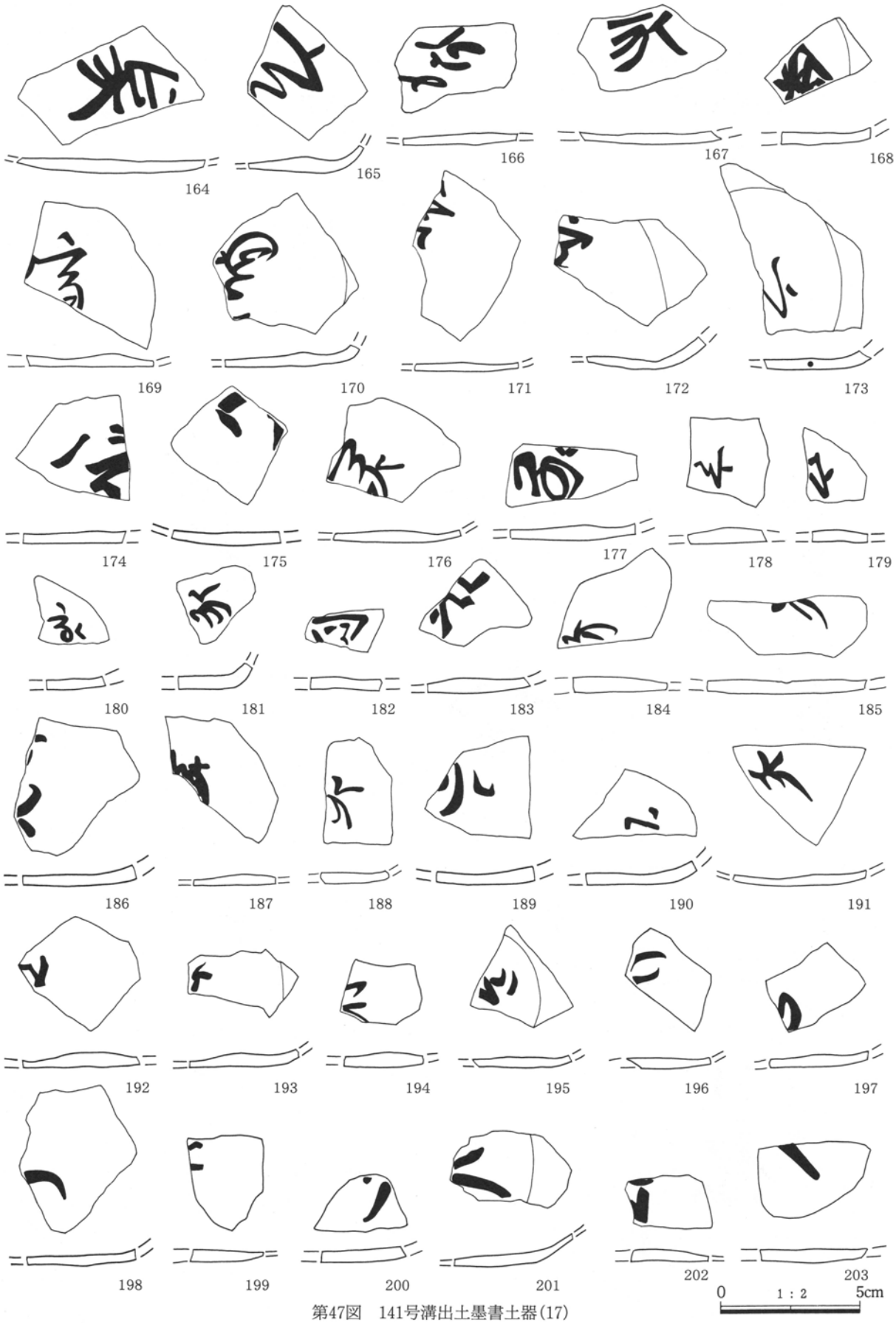


第45図　141号溝出土墨書土器(15)

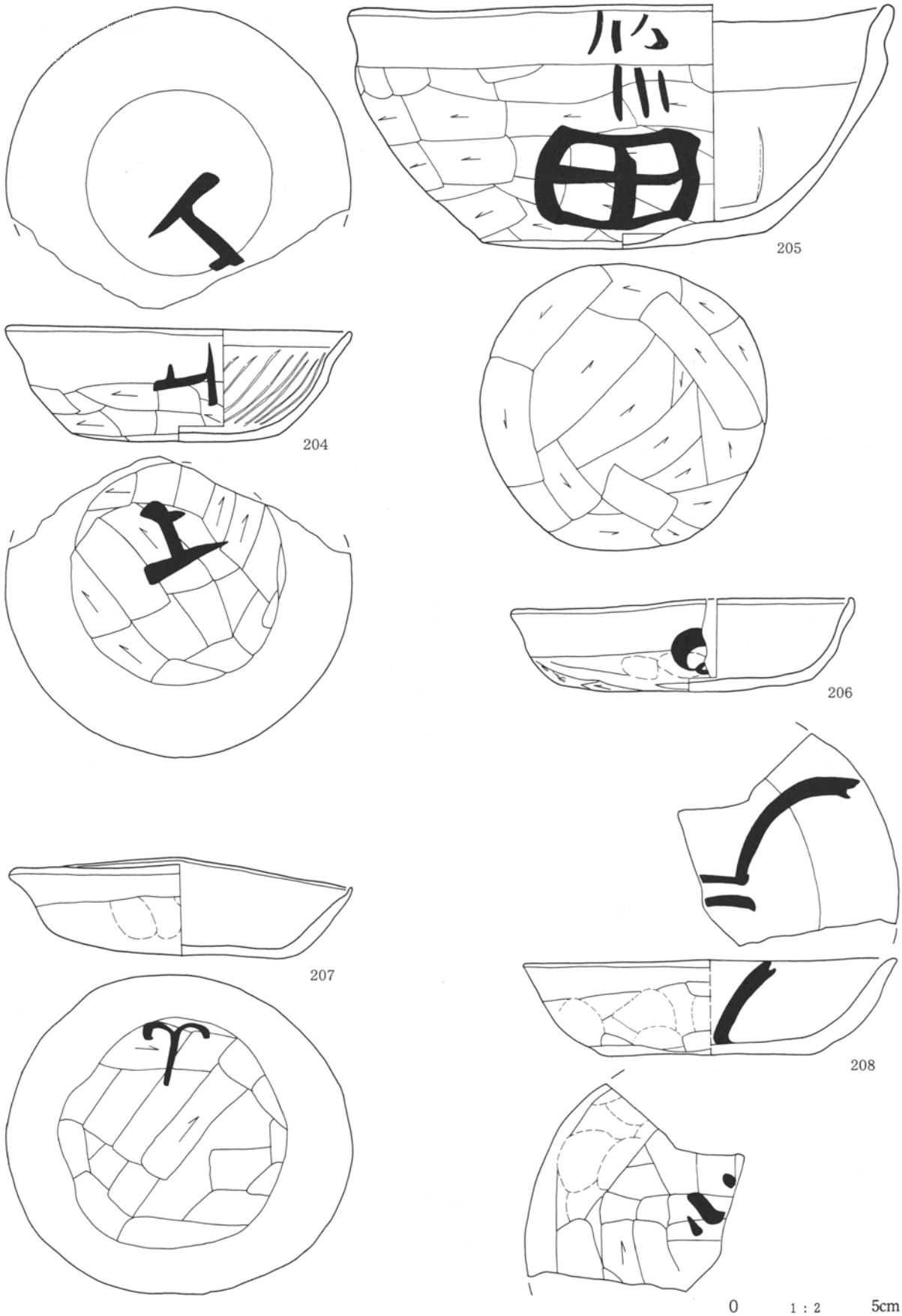


第46図　141号溝出土墨書土器(16)

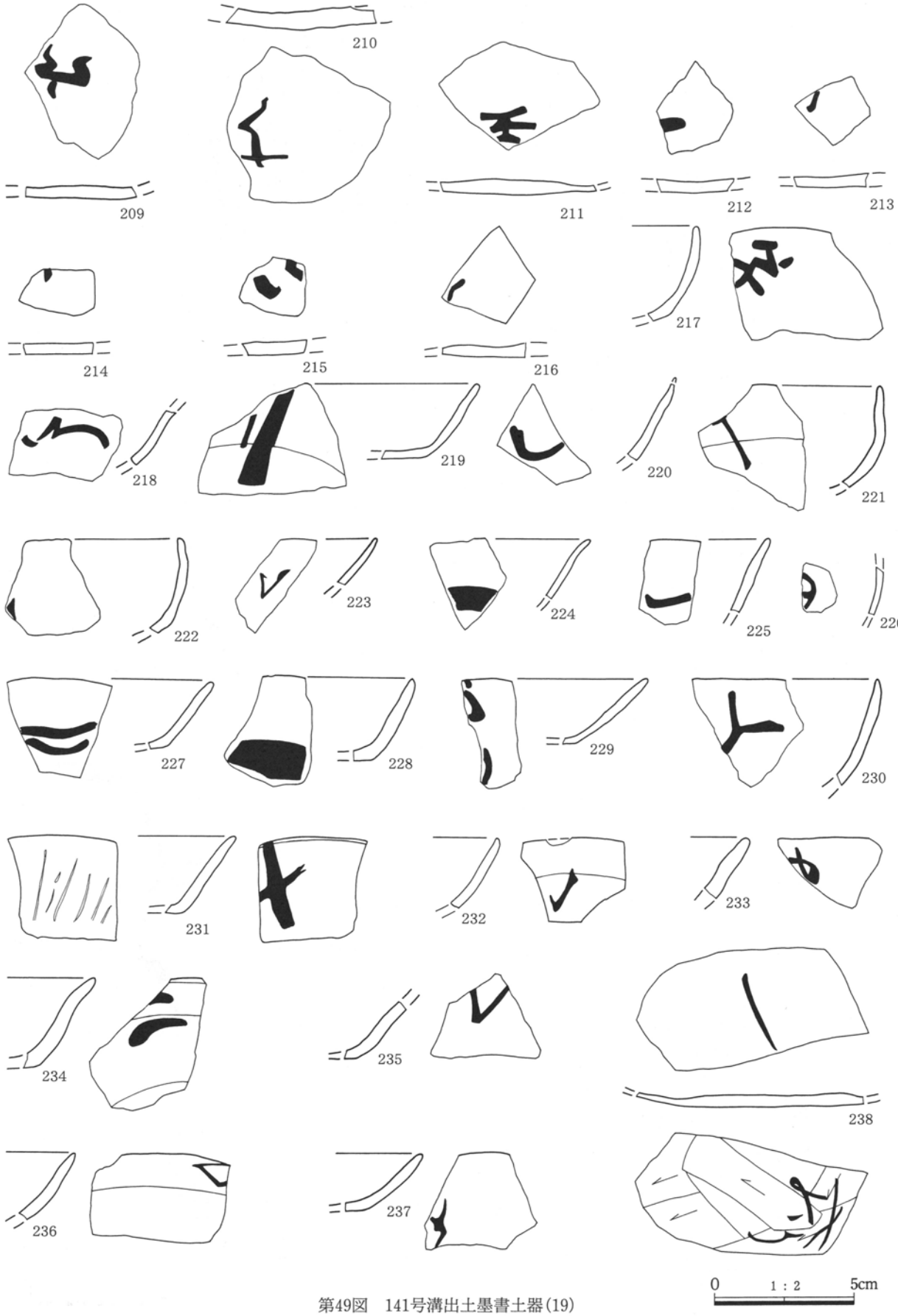
0　1：2　5cm



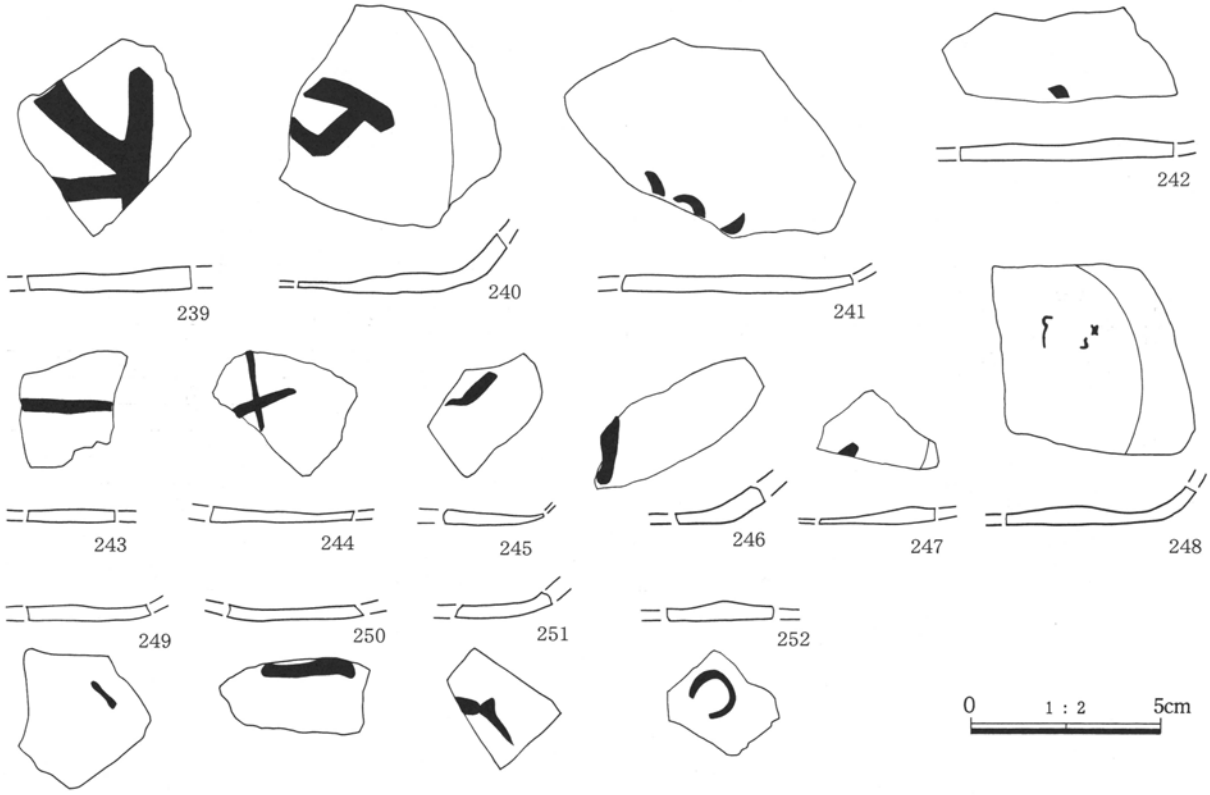
第47図　141号溝出土墨書土器(17)



第48図　141号溝出土墨書土器(18)



第49図　141号溝出土墨書土器(19)



第50図　141号溝出土墨書土器(20)

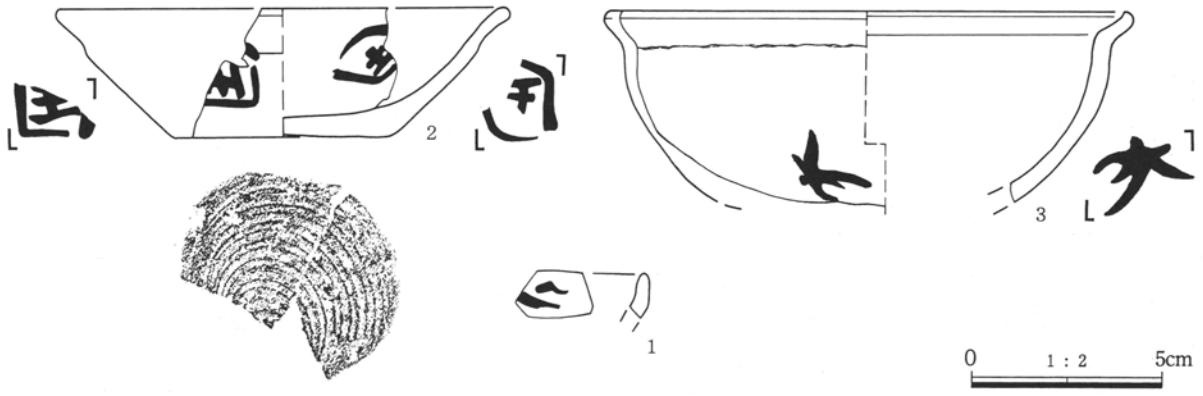
・グリッド出土墨書土器（第51図）

141号溝から多数の墨書土器が出土したが、他の地点からはほとんど出土例はない。

141号溝の東側に確認された竪穴住居群および掘立柱建物群などにより構成される集落内からも墨書土器は確認されていない。

しかし、グリッド出土遺物に3点の墨書土器が確認された。4区で1点、5区で2点であり、141号溝出土ではないが、この3点の墨書土器についてもあわせて掲載し、報告しておきたい。

第51図　1は土師器坏の口縁部片で、内面に墨書が認められる。4区69M-1グリッド。2は須恵器坏で体部内外面に「国ヵ」が横位に墨書される。5区49O-19グリッド。3は土師器鉢で、体部外面に一部不明だが「家ヵ」が横位に墨書される。49M-17グリッド。



第51図　グリッド出土墨書土器

第２表　141号溝出土墨書土器一覧表(第31図～第50図)

遺物番号	器　種	墨　書	墨　書　位　置
1	須恵器坏	家	体部・外面・横位
2	須恵器坏	家、家	体部・内面・外面・横位
3	須恵器坏	家	体部・外面・横位
4	須恵器椀	家	体部・外面・正位
5	須恵器椀	家	体部・外面・横位
6	須恵器椀	家	体部・外面・横位
7	須恵器椀	家	体部・外面・倒位
8	須恵器椀	家カ	体部・内面・正位
9	須恵器椀	家カ	体部・外面
10	須恵器坏	□	体部・内面
11	須恵器椀	家	体部・外面・正位
12	須恵器椀	家、家	体部・内面・外面・横位
13	須恵器椀	家	体部・外面・横位
14	須恵器椀	家	体部・外面・横位
15	須恵器椀	家カ	体部・外面・横位
16	須恵器椀	家	体部・外面・横位
17	須恵器椀	家	体部・外面・横位
18	須恵器椀	家	体部・外面・正位
19	須恵器椀	家	体部・外面・横位
20	須恵器椀	家	体部・外面・横位
21	須恵器椀	家	体部・外面・横位
22	須恵器椀	家	体部・外面・横位
23	須恵器椀	家カ	体部・外面・横位
24	須恵器椀	家カ	体部・外面
25	須恵器椀	家	体部・内面・横位
26	須恵器椀	家	体部・外面・横位
27	須恵器椀	家カ	体部・内面
28	須恵器椀	家	体部・外面・横位
29	須恵器椀	家	体部・外面・正位
30	須恵器椀	家	体部・外面・横位
31	須恵器椀	家	体部・外面・正位
32	須恵器椀	家カ	体部・外面
33	須恵器椀	家カ	体部・外面
34	須恵器椀	家	体部・外面・横位
35	須恵器坏	家	体部・外面・正位
36	須恵器坏	家カ	体部・外面
37	須恵器椀	家	体部・外面・正位
38	須恵器椀	□、寺カ	体部・外面・横位
39	須恵器椀	家	体部・内面・倒位
40	須恵器椀	家カ	体部・外面
41	須恵器椀	家	体部・内面・倒位
42	須恵器椀	家	体部・内面・横位
43	須恵器椀	家カ	体部・内面
44	須恵器椀	家カ	体部・外面・倒位
45	須恵器椀	家	体部・内面・倒位
46	須恵器椀	□	体部・内面
47	須恵器椀	家カ	体部・外面・横位
48	須恵器椀	□	体部・内面
49	須恵器椀	家	体部・外面・横位
50	須恵器椀	□	体部・外面
51	須恵器椀	□	体部・外面
52	須恵器坏	□	底部・内面
53	須恵器坏	家	底部・内面
54	須恵器坏	家	底部・内面
55	須恵器坏	家	底部・内面
56	須恵器坏	家	底部・内面
57	須恵器坏	家	底部・内面
58	須恵器坏	家	底部・内面
59	須恵器椀	家	底部・内面
60	須恵器坏	家	底部・内面
61	須恵器坏	家	底部・内面
62	須恵器坏	家カ	底部・内面
63	須恵器坏	家	底部・内面
64	須恵器坏	家カ	底部・内面
65	須恵器椀	家	底部・外面
66	須恵器椀	家	底部・内面
67	須恵器椀	家	底部・内面
68	須恵器椀	家	底部・内面
69	須恵器椀	家カ	底部・内面
70	須恵器椀	家	底部・内面
71	須恵器椀	家カ	底部・内面
72	須恵器坏	家	底部・内面
73	須恵器坏	家	底部・内面
74	須恵器椀	家	底部・内面
75	須恵器椀	家、家	底部・内面／体部・外面・横位
76	須恵器坏	家カ	体部・内面・倒位／外面
77	須恵器椀	家	底部・外面
78	灰釉陶器椀	家	底部外面
79	須恵器皿	家	体部・外面・横位
80	須恵器坏	家	底部・外面
81	須恵器椀	家	底部・外面
82	須恵器椀	家寺	体部・外面・横位
83	須恵器椀	家寺	体部・外面・横位
84	須恵器椀	㋕	底部・内面
85	須恵器椀	保	体部・外面・正位
86	須恵器椀	井	底部・内面
87	須恵器椀	用	体部・外面・正位
88	須恵器坏	大	体部・外面・正位
89	須恵器椀	大	体部・外面・正位
90	須恵器椀	大カ	体部・内面・倒位
91	須恵器椀	子、□	底部・内面／体部・外面
92	須恵器椀	子	底部・内面
93	須恵器椀	㋖	底部・内面
94	須恵器坏	〆	体部・内面
95	須恵器坏	□	底部・内面
96	須恵器坏	丿	底部・内面
97	須恵器椀	十	底部・内面
98	須恵器椀	□	底部・内面／体部・外面
99	須恵器坏	◎	底部・内面
100	須恵器椀	□	底部・内面
101	須恵器椀	七	体部・内面・正位
102	須恵器坏	□	底部・外面
103	須恵器坏	χ	体部・内面
104	灰釉陶器皿	□	体部・外面
105	須恵器皿	㊍	底部・外面
106	須恵器坏	㊍	底部・内面
107	須恵器皿	月	体部・外面・横位
108	須恵器椀	月カ	体部・外面・正位
109	須恵器皿	市	体部・外面・正位
110	須恵器皿	西	体部・内面・正位
111	須恵器椀	西	体部・内面・正位
112	須恵器椀	□、□	体部内面・外面
113	須恵器椀	□	体部・内面
114	須恵器椀	□	体部・内面
115	須恵器椀	□	体部・内面
116	須恵器椀	□	体部・内面
117	須恵器椀	家カ	体部・内面・横位
118	須恵器椀	□	体部・外面
119	須恵器椀	田、□	体部・外面・内面
120	須恵器椀	家カ	体部・外面・横位
121	須恵器椀	□	体部・外面
122	須恵器椀	□	体部・内面
123	須恵器椀	□	体部・外面
124	須恵器椀	家カ	体部・外面
125	須恵器椀	□	体部・外面
126	須恵器椀	□	底部・内面
127	須恵器坏	□	体部・内面
128	須恵器坏	□	底部・内面

遺物番号	器　種	墨　書	墨　書　位　置
129	須恵器坏	□	底部・外面
130	土師器坏	家	底部・内面
131	土師器坏	家	底部・内面
132	土師器坏	家	底部・内面
133	土師器坏	家	底部・内面
134	土師器坏	家	底部・内面
135	土師器坏	家	底部・内面
136	土師器坏	家	底部・内面
137	土師器坏	家	底部・内面
138	土師器坏	家	底部・内面
139	土師器坏	家	底部・内面
140	土師器坏	家	底部・内面
141	土師器坏	家	底部・内面
142	土師器坏	家	底部・内面
143	土師器坏	家	底部・内面
144	土師器坏	家	底部・内面
145	土師器坏	家	底部・内面
146	土師器坏	家	底部・内面
147	土師器坏	家	底部・内面
148	土師器坏	家	底部・内面
149	土師器坏	家	底部・内面
150	土師器坏	家	底部・内面
151	土師器坏	家	底部・内面
152	土師器坏	家	底部・内面
153	土師器坏	□	底部・内面
154	土師器坏	宮	底部・内面
155	土師器坏	宮カ	体部・外面・横位
156	土師器坏	宮	体部・外面・横位
157	土師器坏	寺	体部・外面・横位
158	土師器坏	宮	底部・内面／外面
159	土師器坏	宮	底部・外面
160	土師器坏	宮	底部・内面
161	土師器坏	十万	底部・内面
162	土師器坏	川原	底部・外面
163	土師器坏	□	底部・内面
164	土師器坏	家	底部・内面
165	土師器坏	家	底部・内面
166	土師器坏	家カ	底部・内面
167	土師器坏	家	底部・内面
168	土師器坏	家	底部・内面
169	土師器坏	家	底部・内面
170	土師器坏	家	底部・内面
171	土師器坏	家	底部・内面
172	土師器坏	家	底部・内面
173	土師器坏	家	底部・内面
174	土師器坏	家	底部・内面
175	土師器坏	□	底部・内面
176	土師器坏	□	底部・内面
177	土師器坏	家	底部・内面
178	土師器坏	家	底部・内面
179	土師器坏	家	底部・内面
180	土師器坏	□	底部・内面
181	土師器坏	家	底部・内面
182	土師器坏	□	底部・内面
183	土師器坏	□	底部・内面
184	土師器坏	家	底部・内面
185	土師器坏	家	底部・内面
186	土師器坏	家カ	底部・内面
187	土師器坏	家	底部・内面
188	土師器坏	家	底部・内面
189	土師器坏	□	底部・内面
190	土師器坏	□	底部・内面
191	土師器坏	家	底部・内面
192	土師器坏	□	底部・内面
193	土師器坏	家カ	底部・内面
194	土師器坏	家カ	底部・内面

遺物番号	器　種	墨　書	墨　書　位　置
195	土師器坏	家	底部・内面
196	土師器坏	家カ	底部・内面
197	土師器坏	家カ	底部・内面
198	土師器坏	家	底部・内面
199	土師器坏	家カ	底部・内面
200	土師器坏	家カ	底部・内面
201	土師器坏	□	底部・内面
202	土師器坏	□	底部・内面
203	土師器坏	□	底部・内面
204	土師器坏	上、上、上	体部・外面／底部・内面・外面
205	土師器鉢	□□田カ	体部・外面・正位カ
206	土師器坏	□	体部・外面
207	土師器坏	丿	底部・外面
208	土師器坏	□	底部・内面・外面
209	土師器坏	□	底部・内面
210	土師器坏	□	底部・外面
211	土師器坏	家	底部・内面
212	土師器坏	□	底部・内面
213	土師器坏	□	底部・内面
214	土師器坏	□	底部・内面
215	土師器坏	□	底部・内面
216	土師器坏	□	底部・外面
217	土師器坏	□	体部・外面・横位
218	土師器坏	□	体部・内面
219	土師器坏	□	体部・底部・内面
220	土師器坏	□	体部・内面
221	土師器坏	□	体部・底部・内面
222	土師器坏	□	体部・内面
223	土師器坏	□	体部・内面
224	土師器坏	□	体部・内面
225	土師器坏	□	体部・内面
226	土師器坏	□	体部・内面
227	土師器坏	□	体部・内面
228	土師器坏	□	底部・内面
229	土師器坏	□	体部・内面
230	土師器坏	□	体部・内面
231	土師器坏	□	体部・外面
232	土師器坏	□	体部・外面
233	土師器坏	□	体部・外面
234	土師器坏	□	体部・外面
235	土師器坏	□	体部・外面
236	土師器坏	□	体部・外面
237	土師器坏	□	体部・外面
238	土師器坏	□	底部・外面／内面
239	土師器坏	□	底部・内面
240	土師器坏	□	底部・内面
241	土師器坏	□	底部・内面
242	土師器坏	□	底部・内面
243	土師器坏	□	底部・内面
244	土師器坏	□	底部・内面
245	土師器坏	□	底部・内面
246	土師器坏	□	底部・内面
247	土師器坏	□	底部・内面
248	土師器坏	□	底部・内面
249	土師器坏	□	底部・外面
250	土師器坏	□	底部・外面
251	土師器坏	□	底部・外面
252	土師器坏	□	底部・外面

d　漆紙文書（第52、53図253、254、255、PL34）

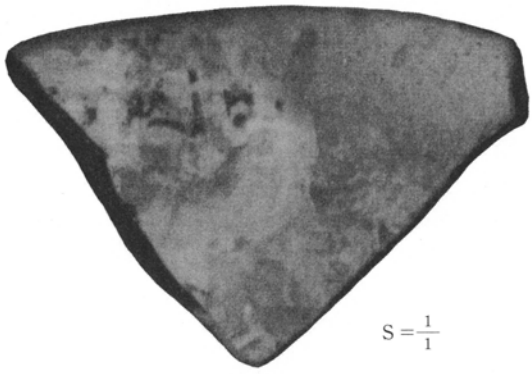
141号溝内から墨書土器をはじめとする大量の土器類が出土しているが、その中に漆紙が付着する土器片が3点含まれていた。内1点に文字が確認され、漆紙文書が確認された。

253は須恵器坏口縁部片で6cm×4.5cm程度の小破片である。この資料は平成11(1999)年11月26日に平川　南国立歴史民俗博物館教授による墨書土器の指導を受けた際、確認されたものである。肉眼では文字の判読はできないため、赤外線カメラにより3文字が残存していることがわかり、その内1文字が読み取ることができ、他2文字は大半が消失するため不明と判読された。その結果、「□　巳　□」と解釈された。「巳」は「以」に同義であり、文字の大きさがほぼ1cm四方であることから経典等より行政文書の可能性も推定できるとの助言を受けた。（下図　赤外線カメラ画像参照。）

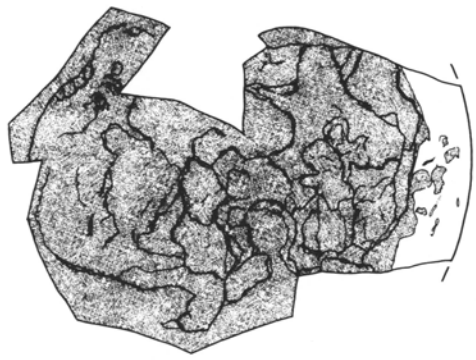
254は須恵器坏口縁部の小破片に漆紙が付着する資料であるが、残存部が極めて小さいため文字は確認されない。255は須恵器坏で1/3程度残存し、内面に漆紙が不規則に丸まった状態で残存している。くしゃくしゃの状態であるが、残存量はやや大きいものであるが文字については認められていない。

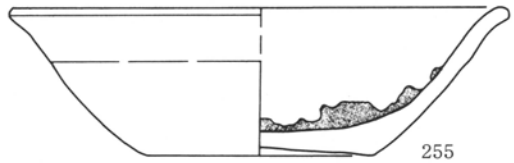
256は漆紙資料ではないが、須恵器壺の頸部片で内面に漆が付着したものである。漆貯蔵用に使用されたものとみられる。

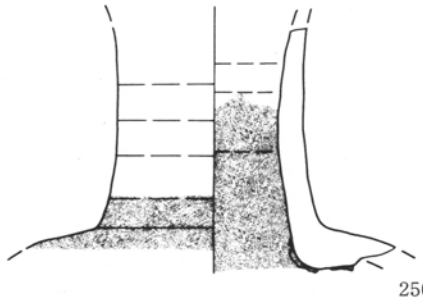
漆紙文書、漆付着資料はこの4例が全てであり、いずれも9世紀後半に位置づけられる。



第52図　141号溝出土漆紙文書（赤外線カメラによる画像）







0　1：2　5cm

第53図　141号溝出土漆紙文書、漆付着土器

e　その他の出土遺物(第54図～第72図、PL34～PL37)

溝内からは大量の土器類が出土しているが、その総数を完形土器もしくは小破片等、遺物の残存率を区別せず集計すると12,477点を数える。(右表、141号溝出土土器集計表参照。)

器種別に出土点数をみると、土師器坏が9,120点で全体の73%を占め、次に須恵器坏・椀が1,692点で13パーセント、土師器甕が1,113点で9パーセント、須恵器甕が197点で2パーセント、その他355点、3パーセントという集計となる。

大量に出土した土器類は、土師器坏が7割強とその主体をしめ、さらに須恵器坏・椀を加えると86パーセントと坏・椀という器種に高い偏在性を示す。つまり、溝内から出土した土器類は土師器坏（須恵器坏・椀）の出土量に起因していることがわかる。

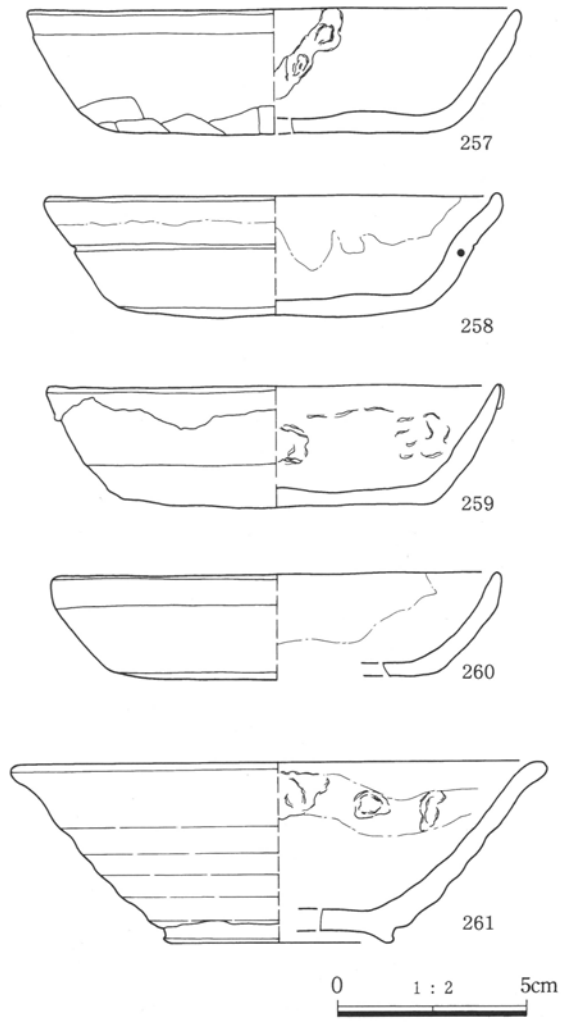
これらの土器類は141号溝の埋没土下層もしくは底面付近から出土したもので、壁体崩落や流入による混入もあろうが、多くはこの溝が開口していた時間幅の中で溝内に入ったものと考えられる。特に、土師器坏（須恵器坏・椀）はその量的な多さから、墨書土器と同様に溝への投入という祭祀的行為に伴うことが考えられる。なお、これらの坏・椀類については細片は除外したが、墨書土器として確認された破片と同様な破片資料については、赤外線カメラによる観察を実施し、墨書土器の摘出に努めている。

溝内から出土した土器類は、大半が破片資料であるが、いつの時点で破片となったかは不明である。

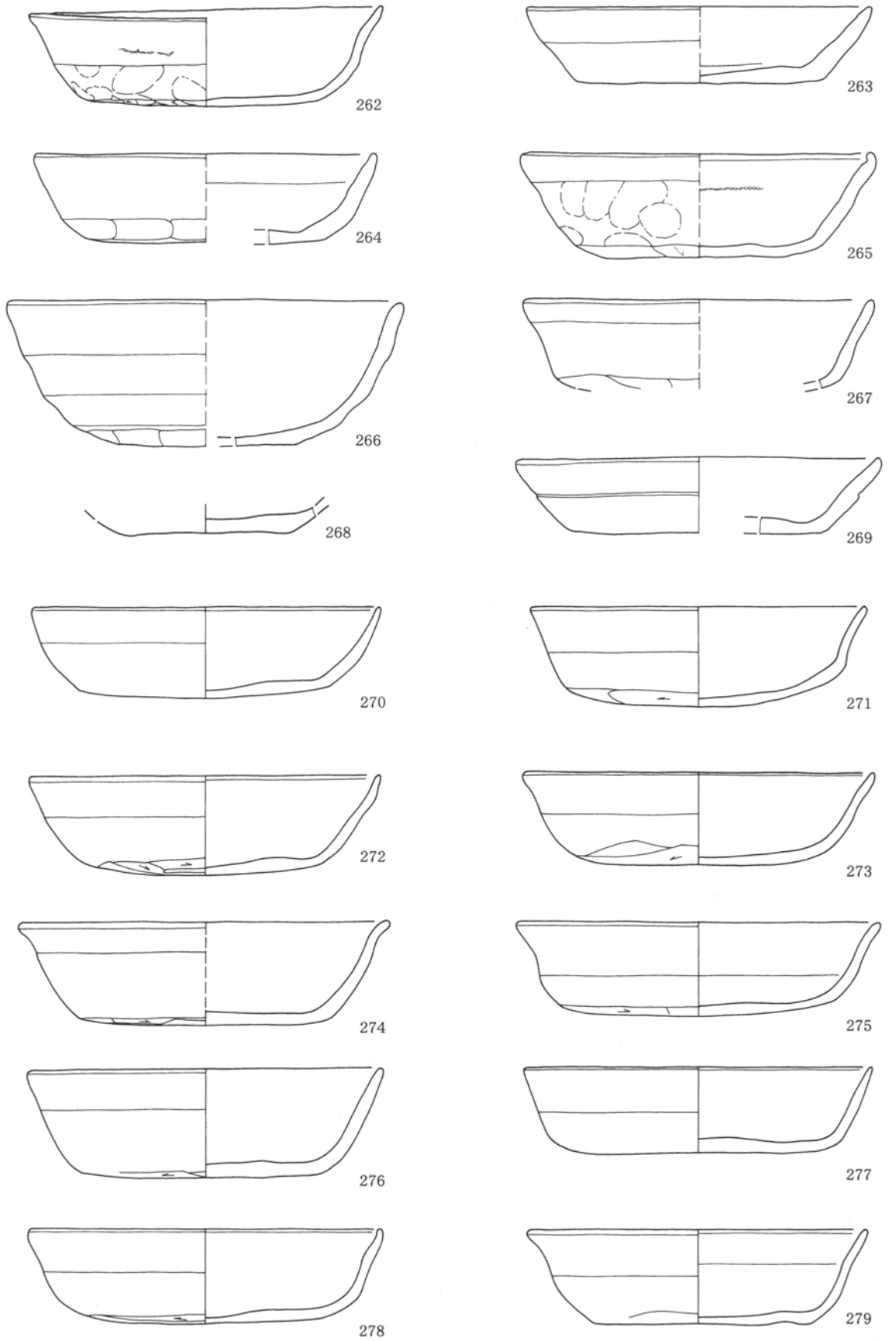
また、土師器坏や須恵器坏・椀はほとんどが通常の器種であるが、その中に量的には少ないが灯明用器として使用されるものも認められる。4点図示したが、他に破片にも内面に油煙状の黒色化した付着物が観察される資料も散見されているが、明確に灯明皿としたものか判断できなかった。図示した資料は、内面に油煙状のタールが付着し、さらに灯心痕が認められるものである。各資料とも、土師器坏、須恵器椀を灯明用器として転用した資料であり、こられの用具も墨書土器およびその他の土師器坏等を用いた祭祀行為に供用されたものとみられる。(第54図)

第3表　141号溝出土土器　集計表

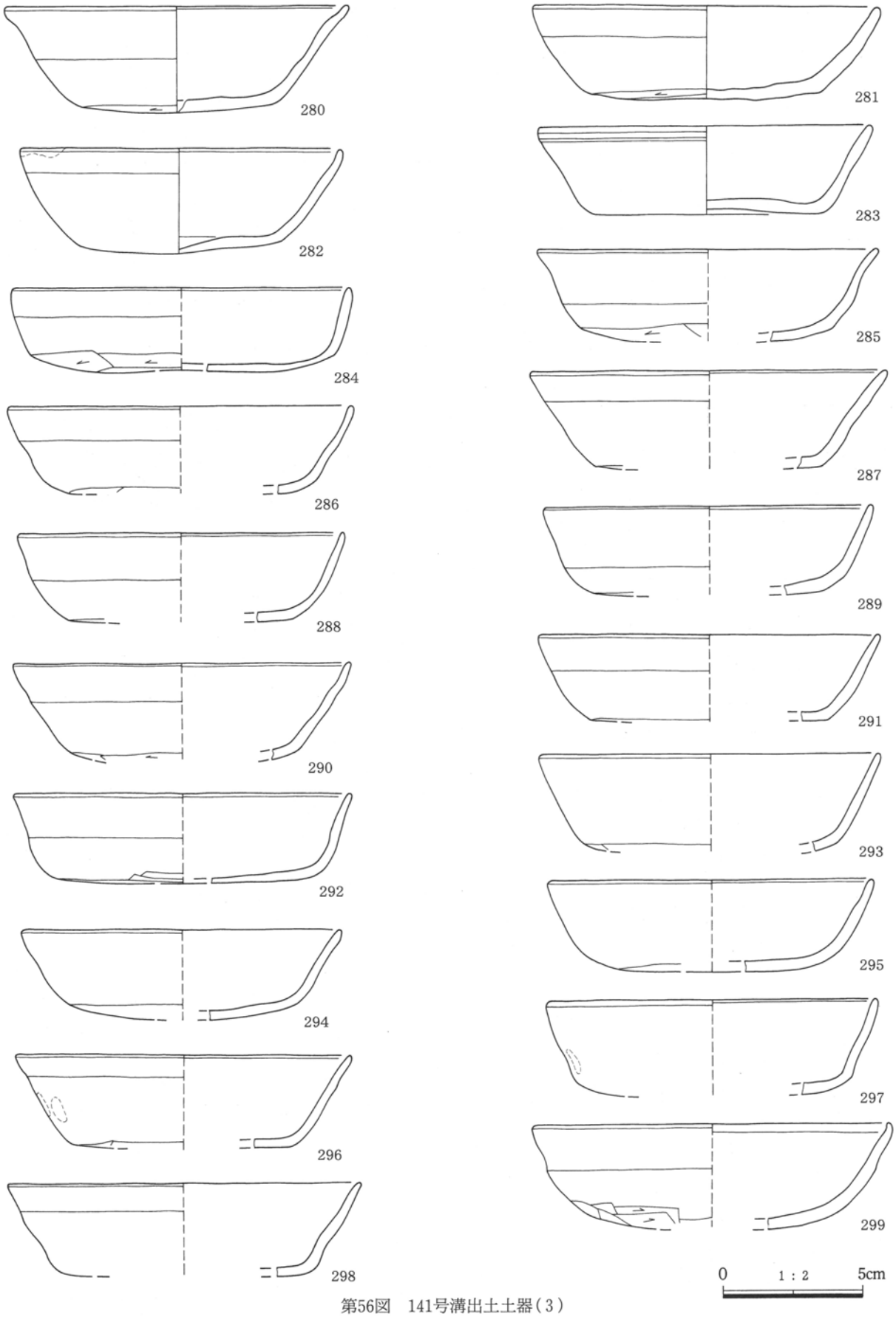
土師器　坏類	9120点	73%
	口縁部2903体・底部6217	
須恵器椀・坏類	1692点	13%
	口縁部577、体・底部1115	
土師器　甕類	1113点	9%
	口縁部164、体・底部949	
須恵器　甕類	197点	2%
	口縁部7、体・底部190	
その他	355点	3%
総　　数	12,477点	



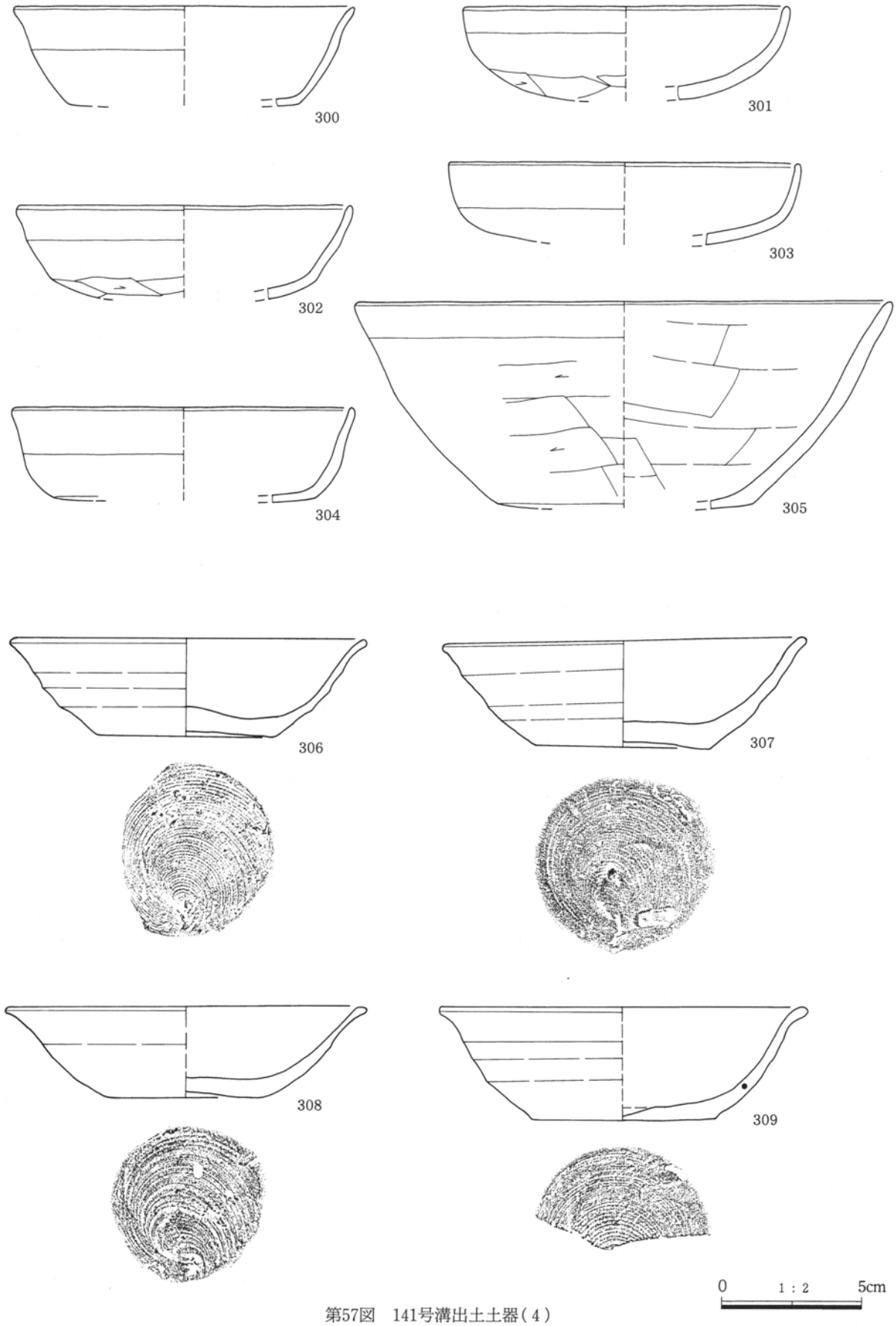
第54図　141号溝出土土器(1)



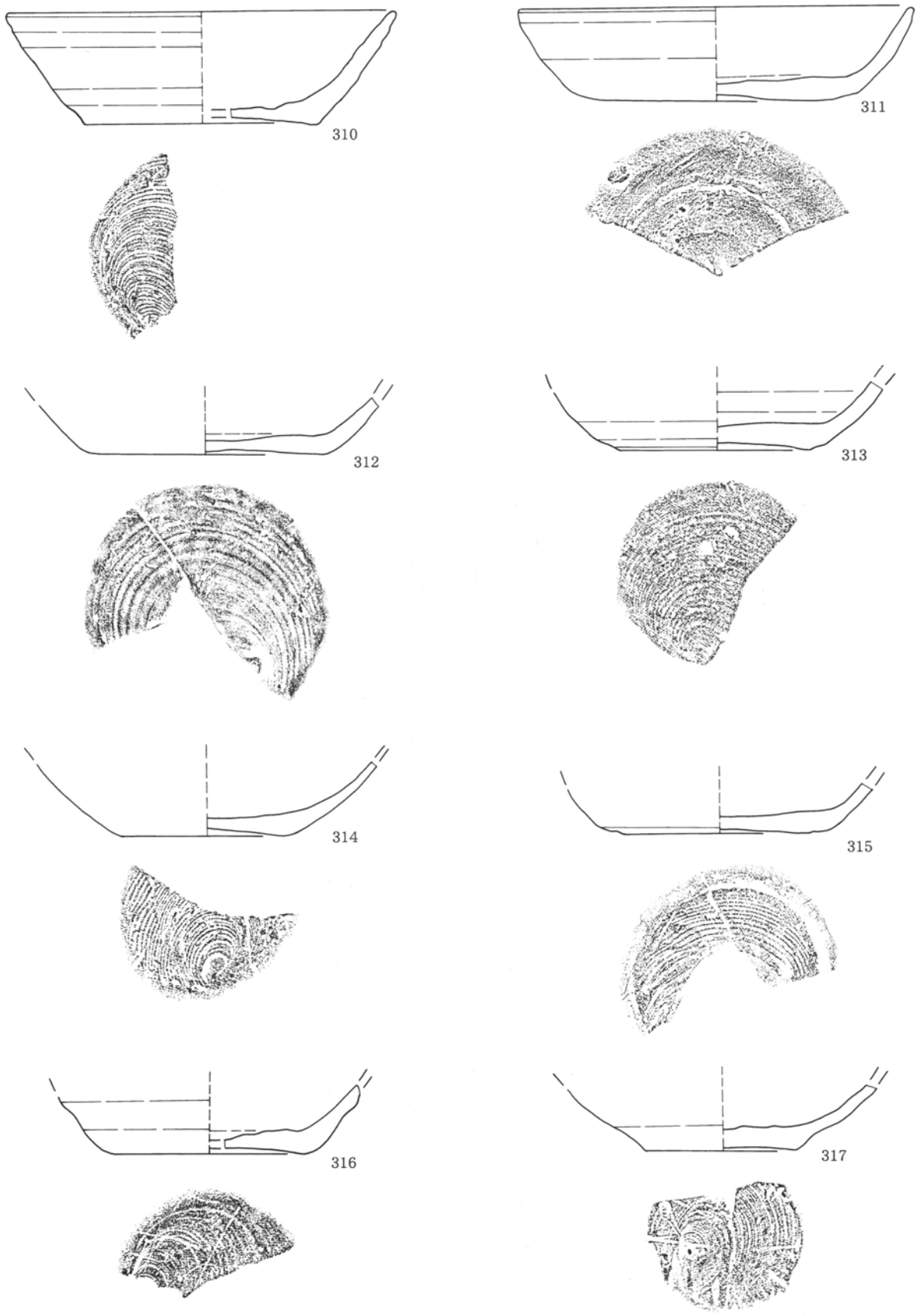
第55図　141号溝出土土器（2）



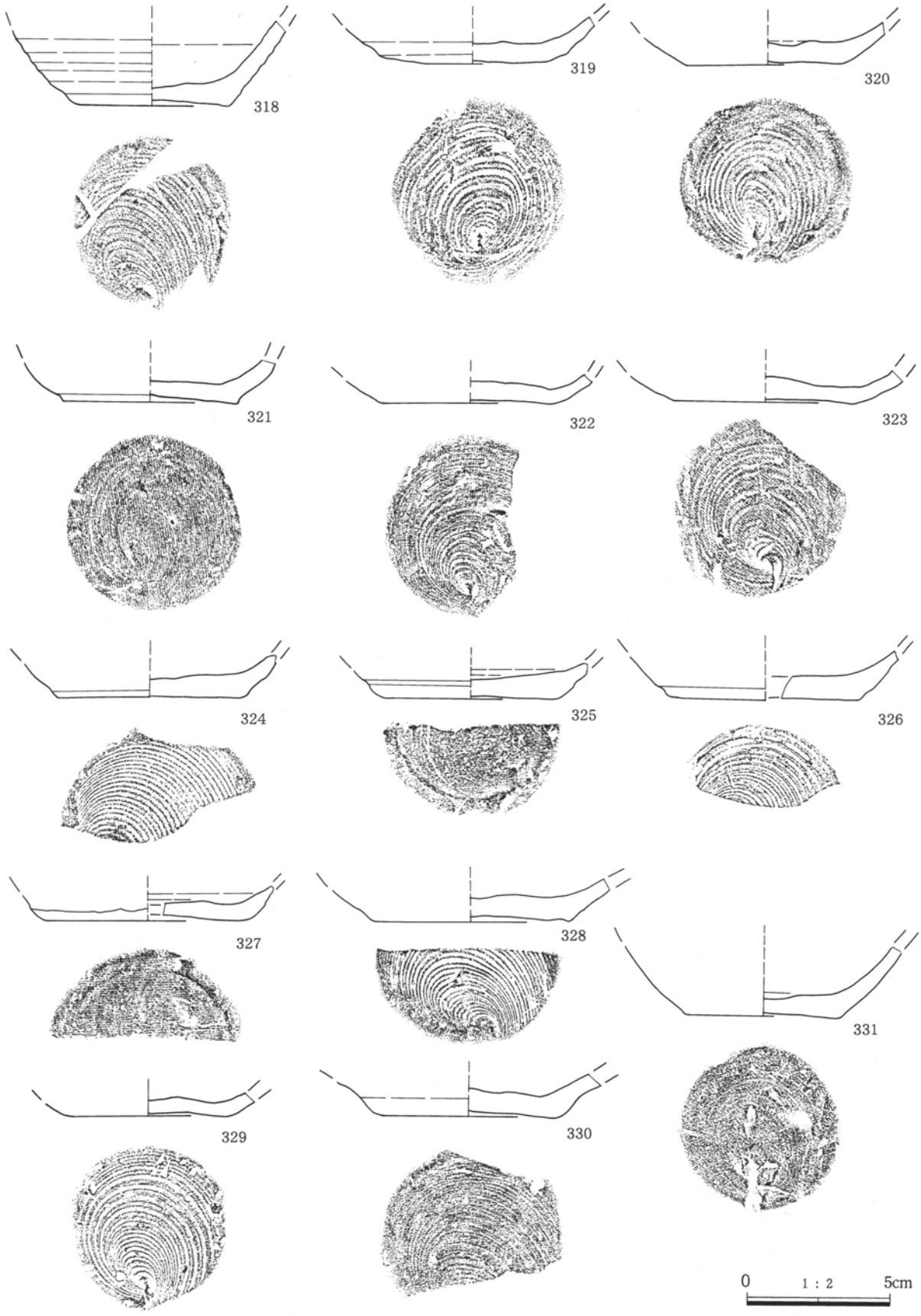
第56図　141号溝出土土器（3）



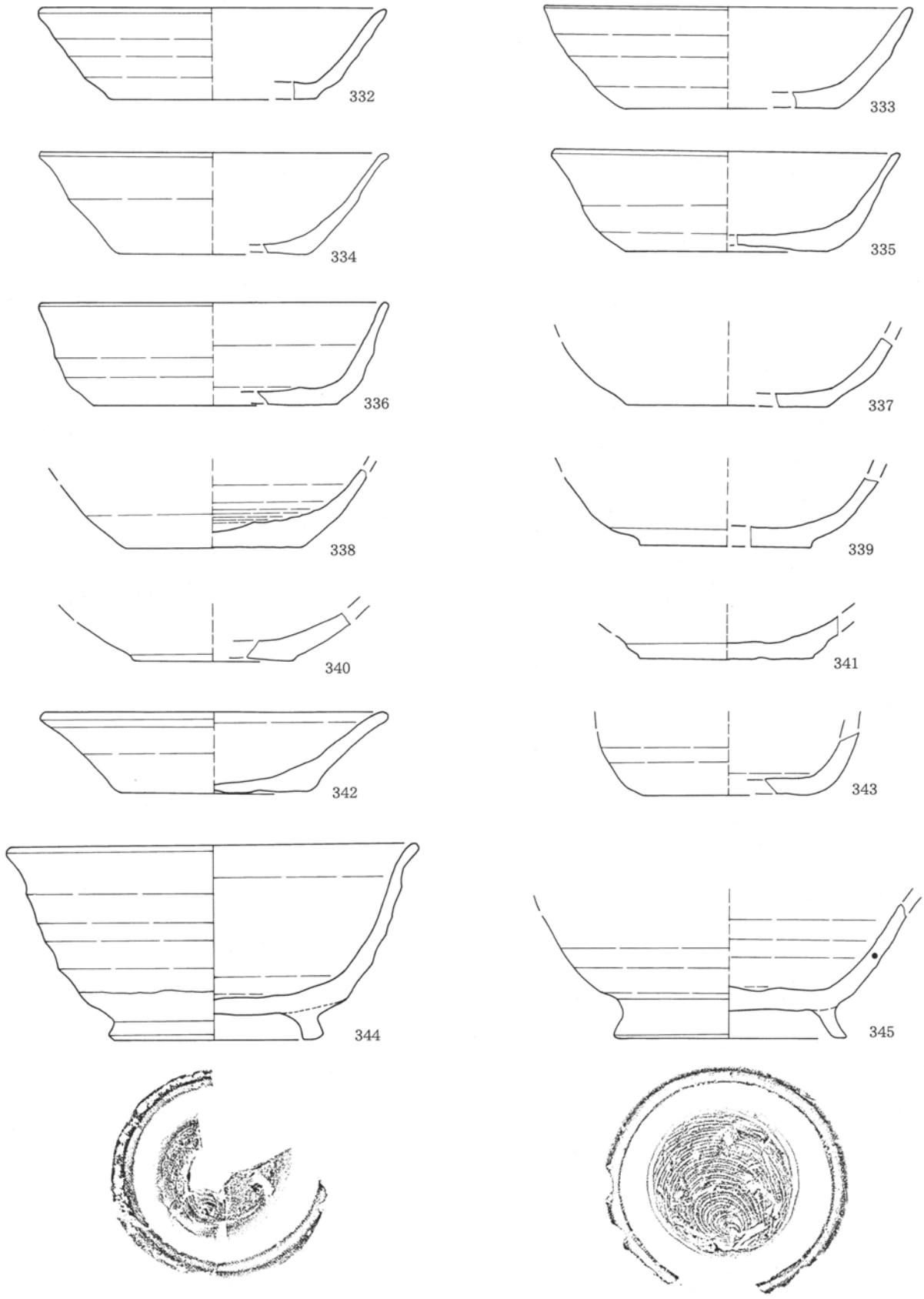
第57図　141号溝出土土器（4）



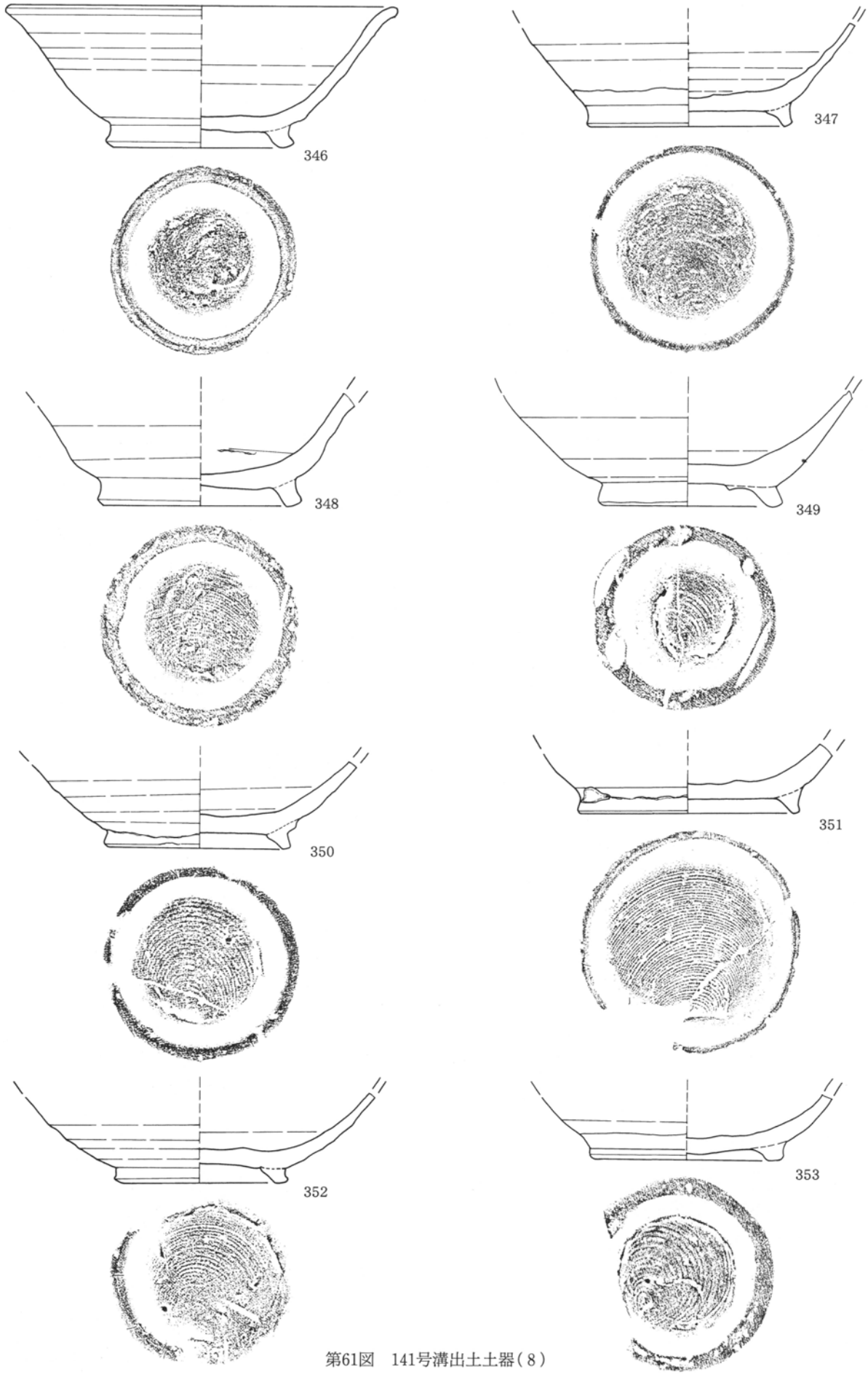
第58図　141号溝出土土器（5）



第59図　141号溝出土土器（6）

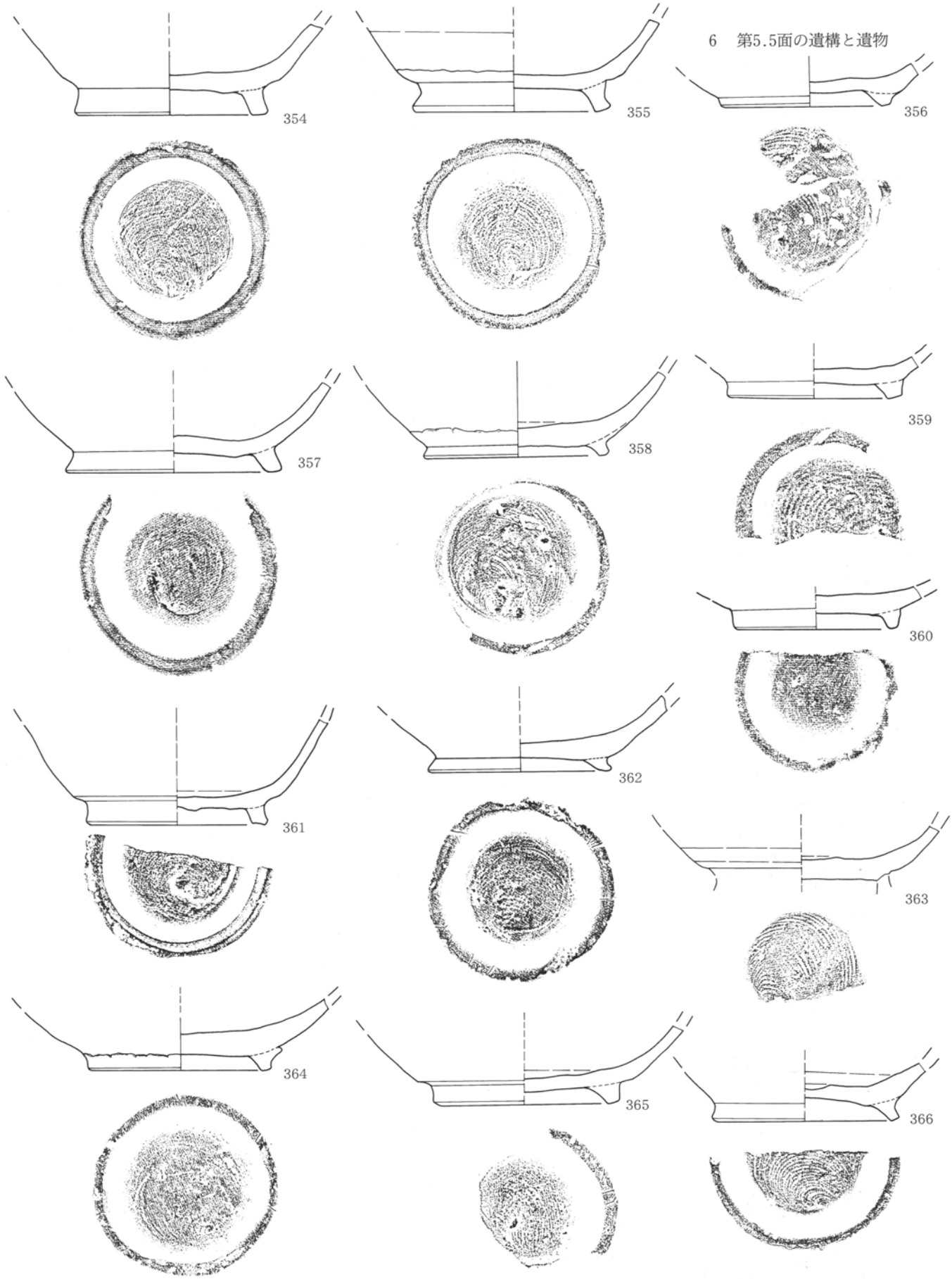


第60図　141号溝出土土器（7）



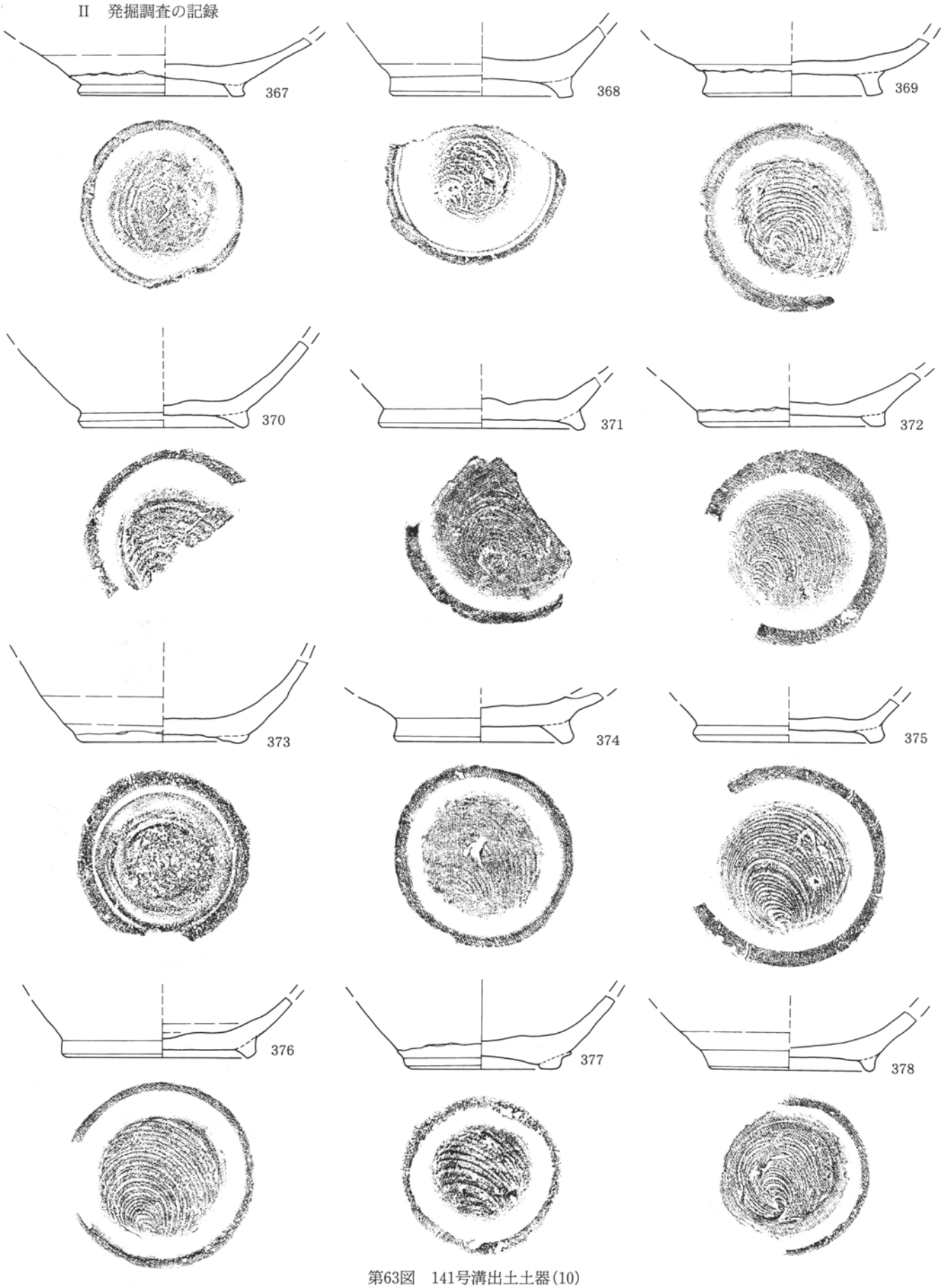
第61図　141号溝出土土器(8)

0　1：2　5cm



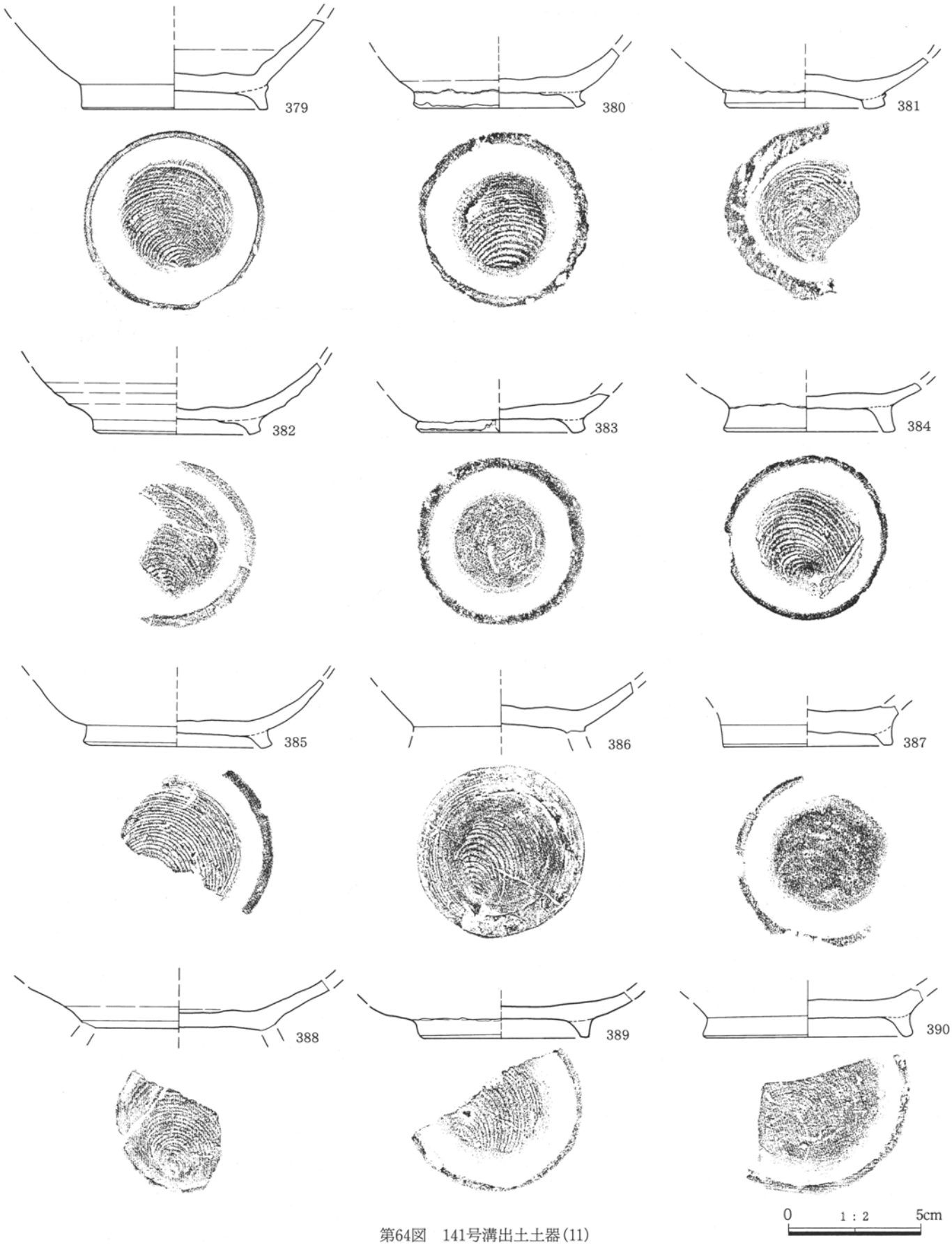
第62図　141号溝出土土器(9)

0　1：2　5cm

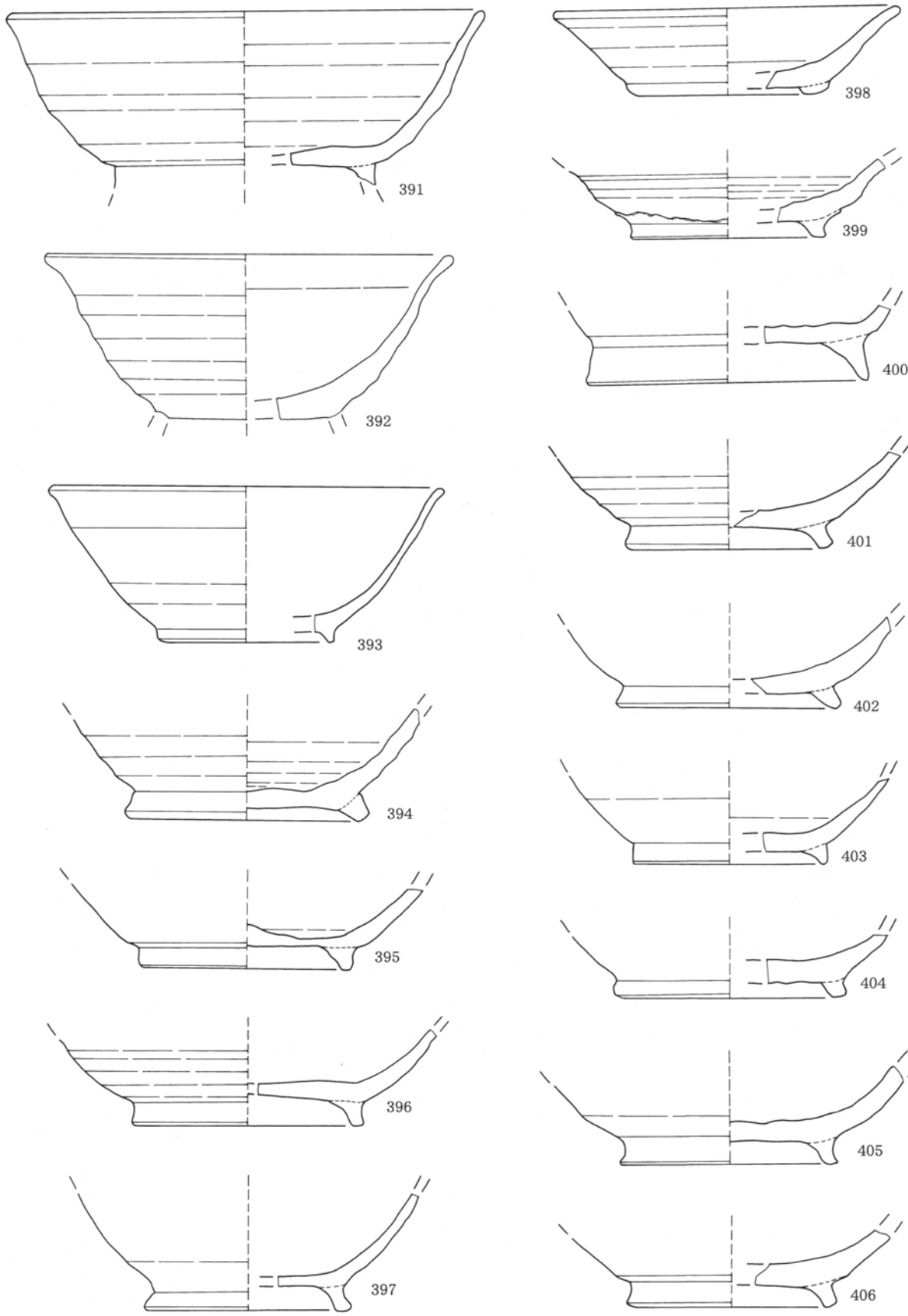


第63図　141号溝出土土器(10)

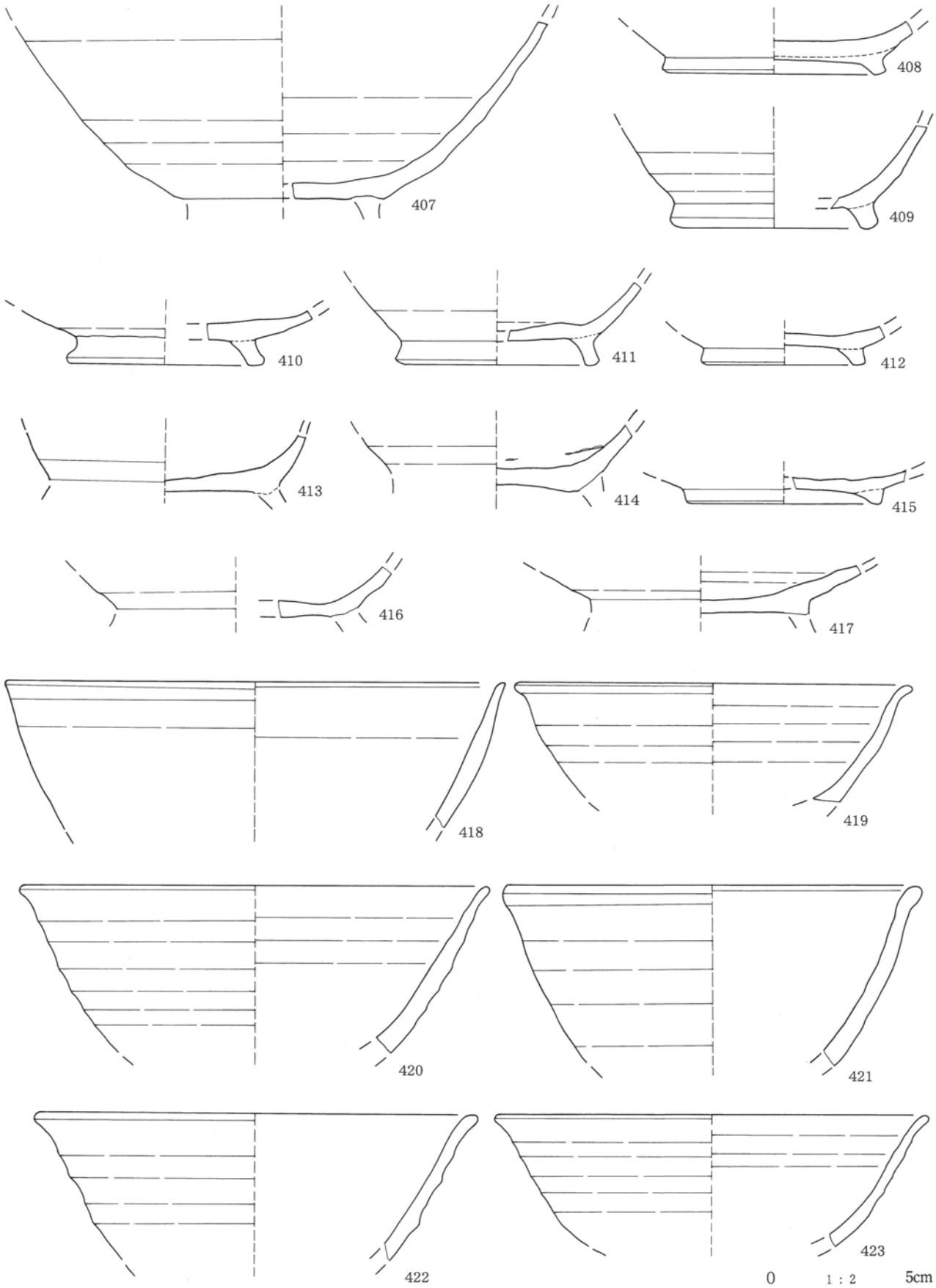
0　1：2　5cm



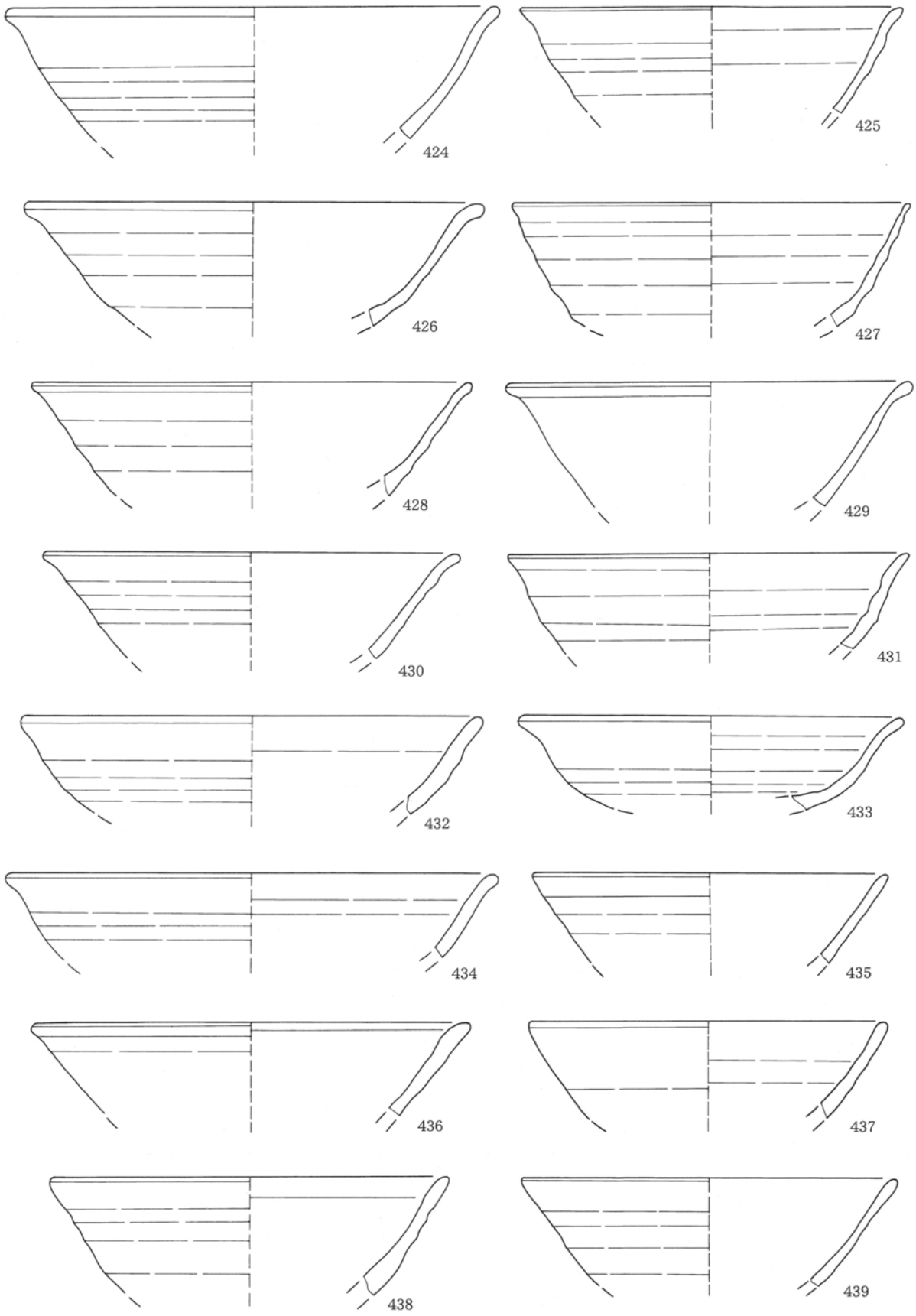
第64図　141号溝出土土器(11)



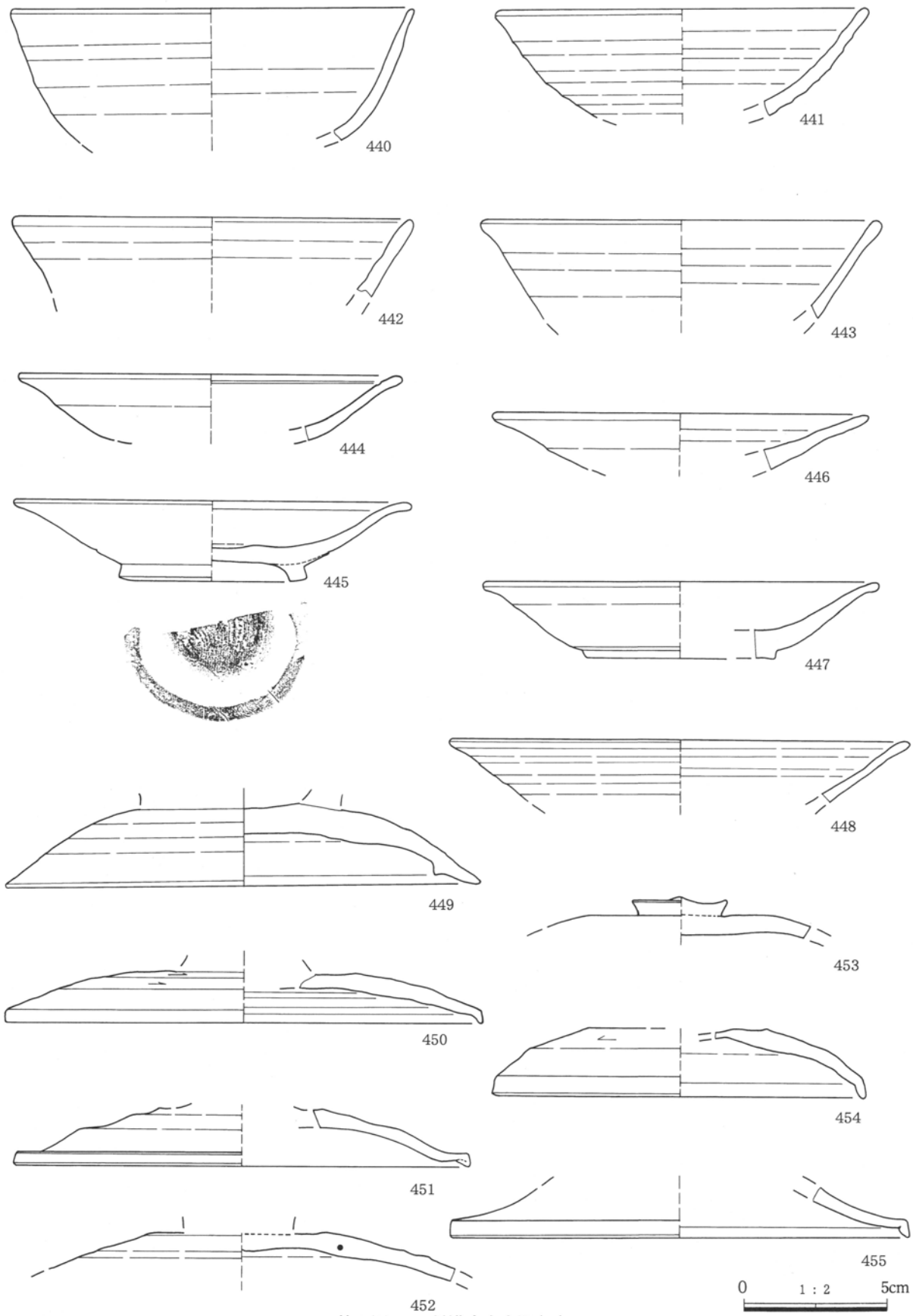
第65図　141号溝出土土器(12)



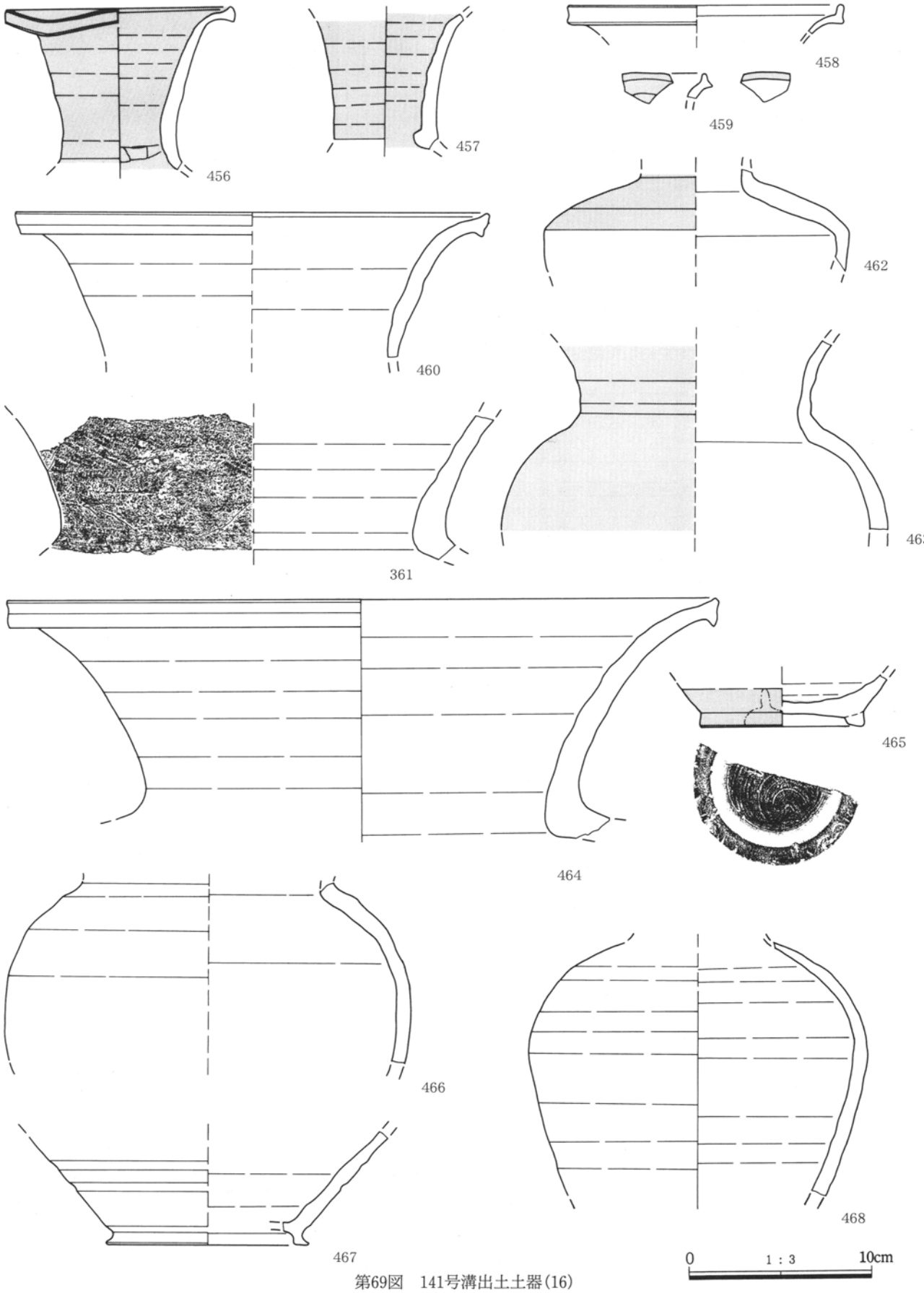
第66図　141号溝出土土器(13)



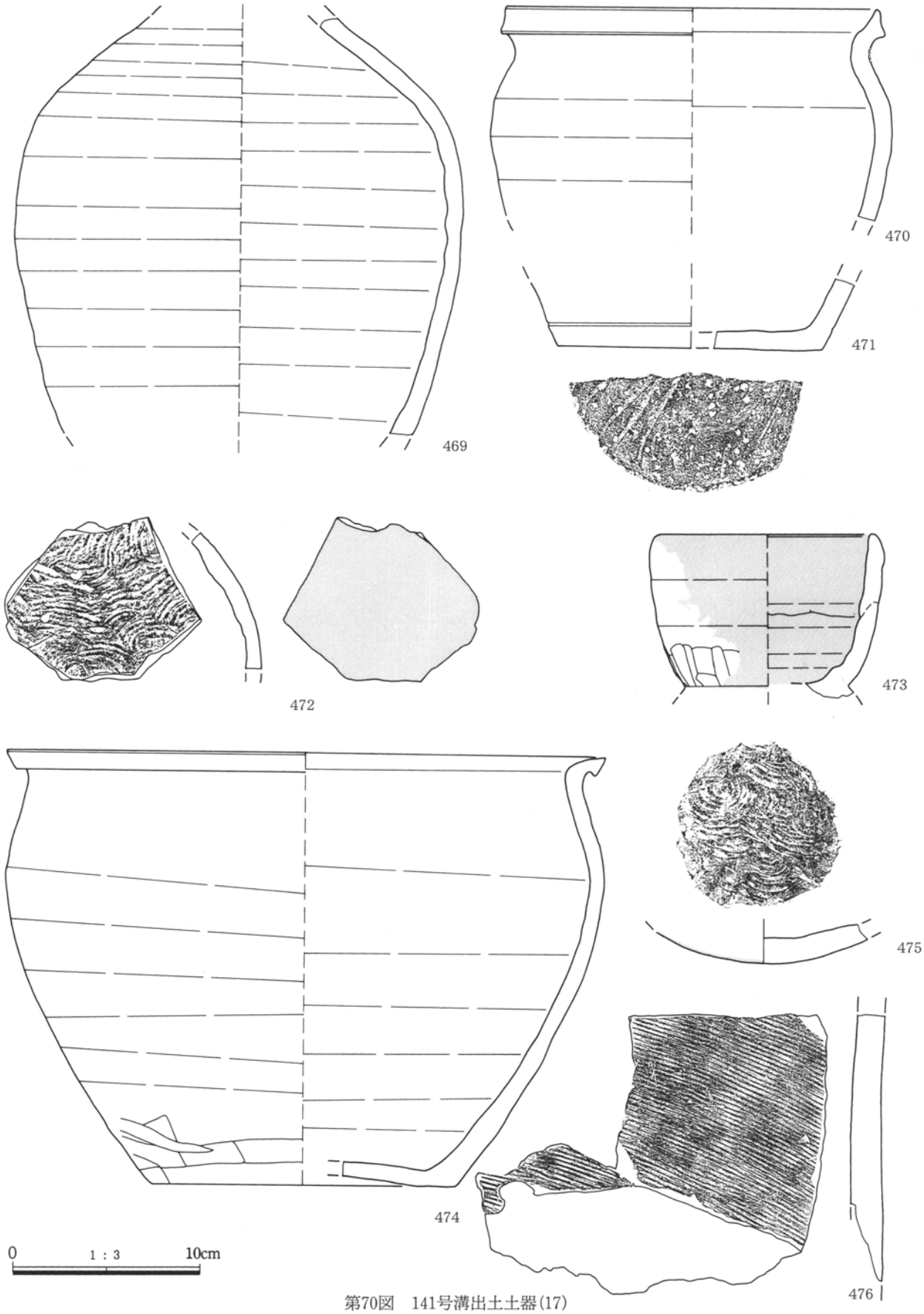
第67図　141号溝出土土器(14)



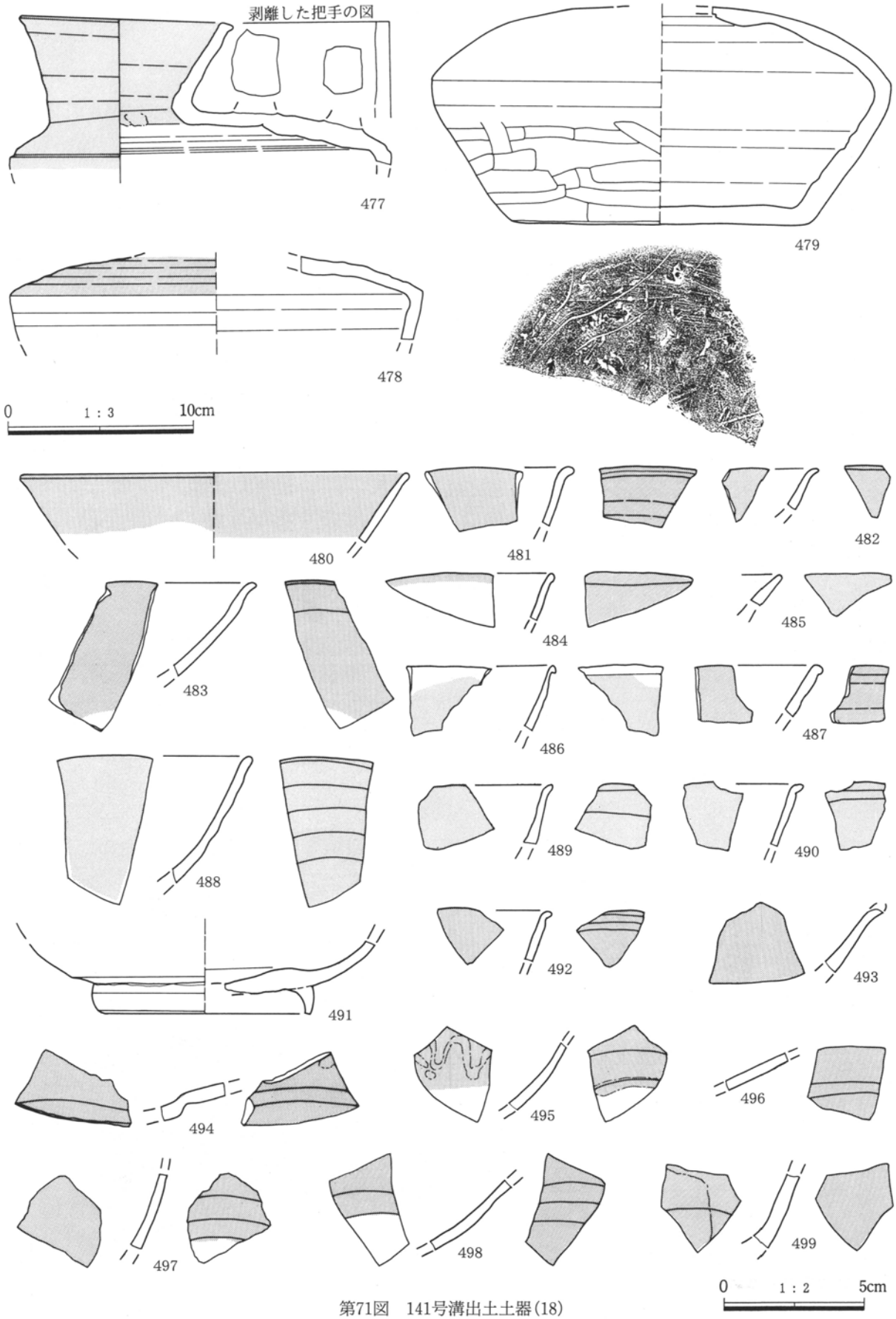
第68図　141号溝出土土器(15)



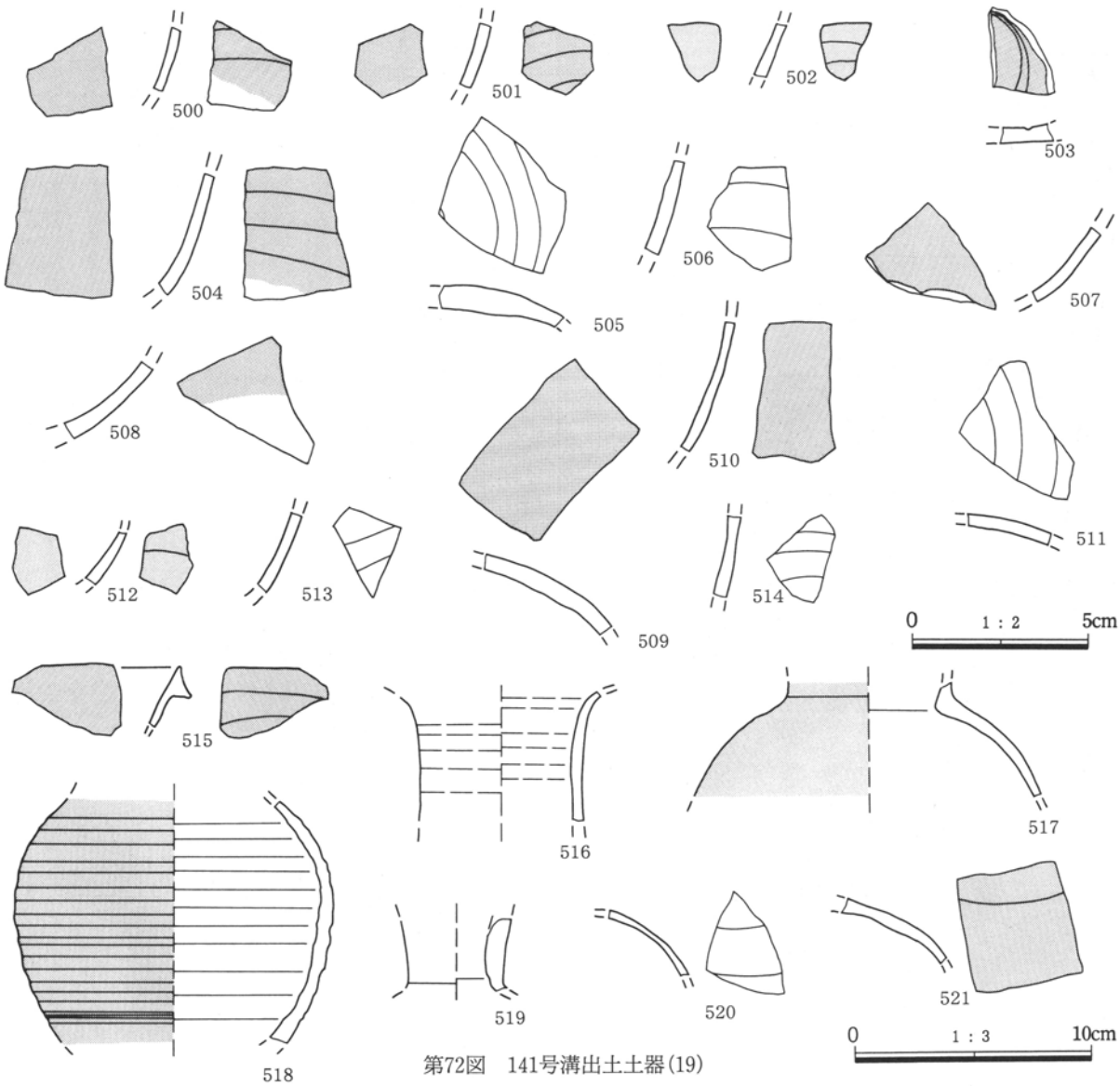
第69図　141号溝出土土器(16)



第70図　141号溝出土土器(17)



第71図　141号溝出土土器(18)

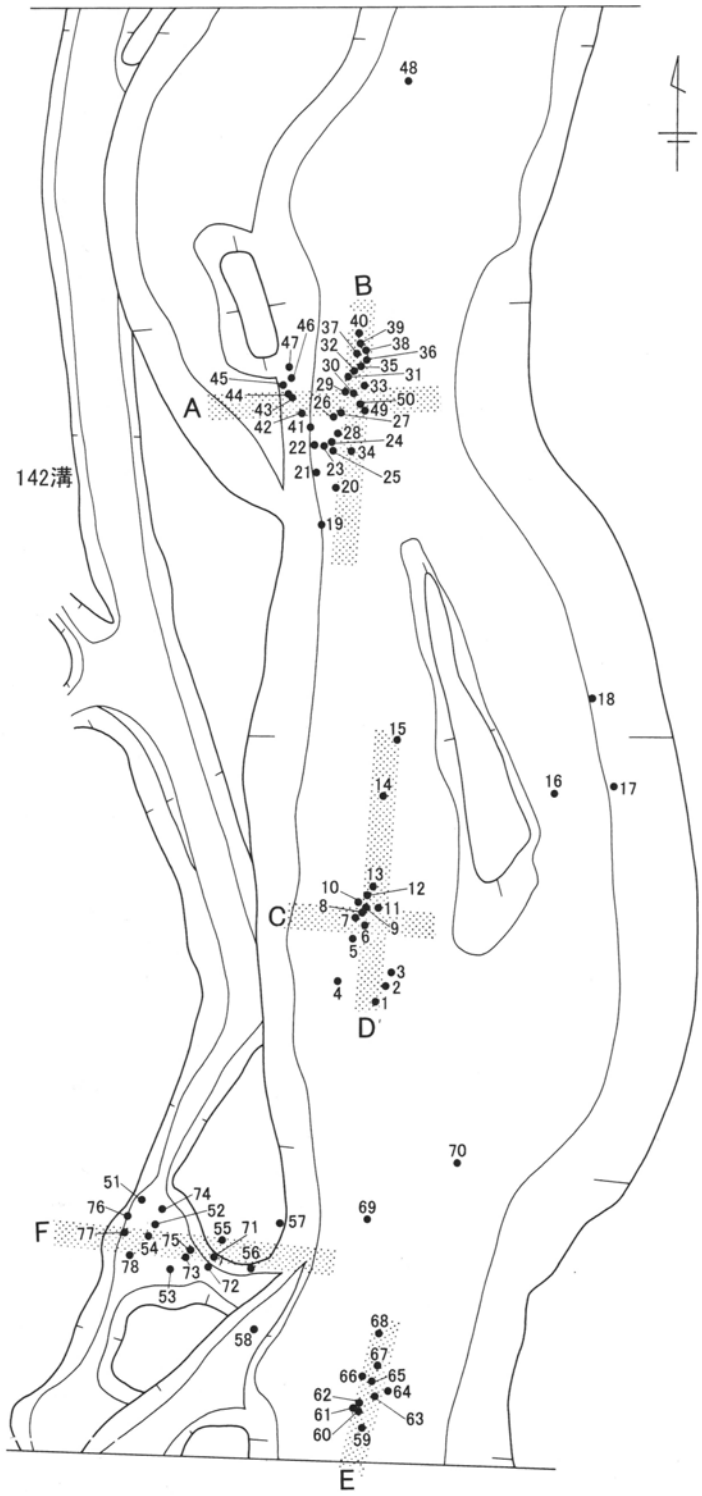


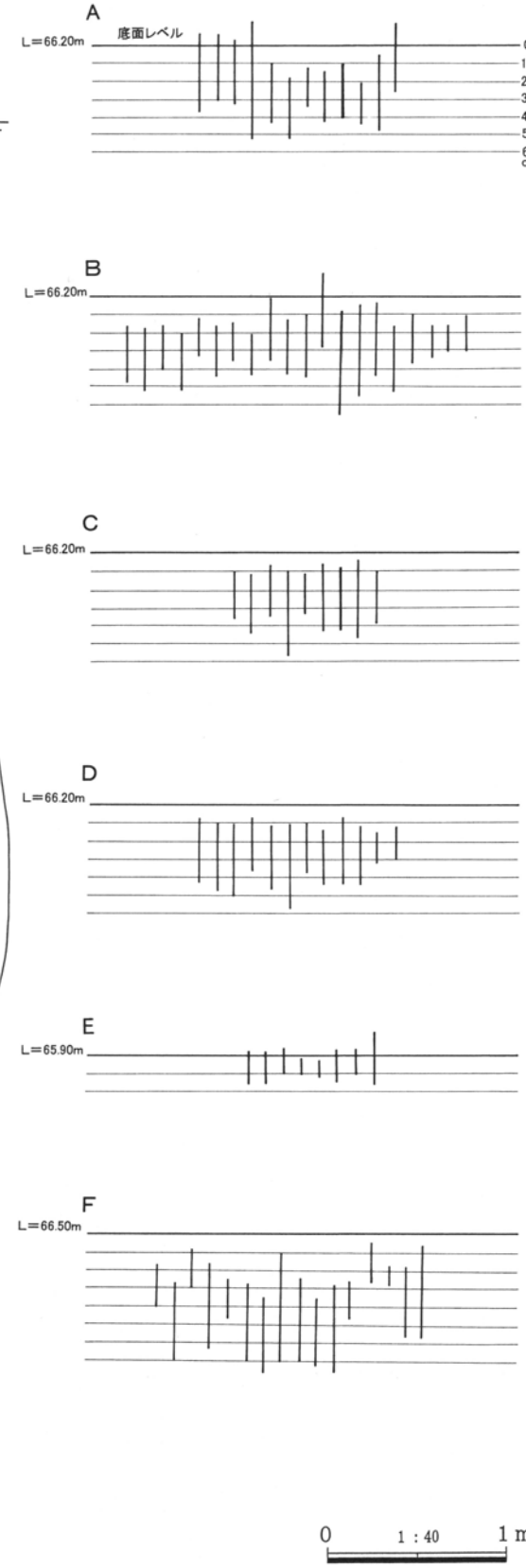
第72図　141号溝出土土器(19)

f　杭（第75図～第79図、PL38～PL39）

溝底面に打ち込まれた杭については、78本が認められた。底面下の杭先端部のみ残存し、上部は遺失し、本来の長さは不明である。先端部は、鉈等の工具により面取りされながら、尖端が形成される。

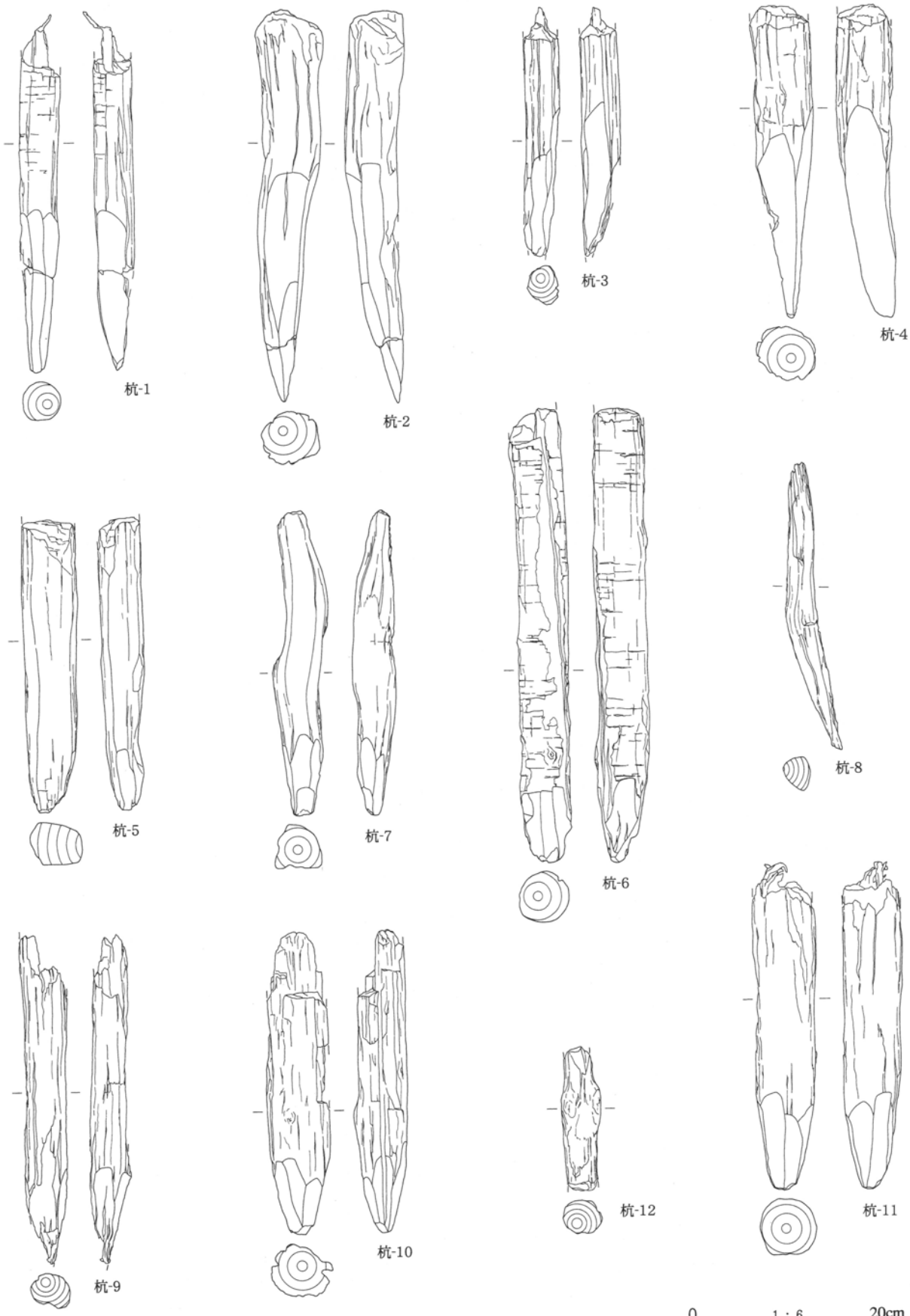
杭は、上部に打撃を加えることで、打ち込まれる。径5㎝～7㎝程度であり、多くは表皮が残っている。打ち込まれる位置をみると、溝内に4ヶ所の集中地点が認められる。それぞれの集中地点をみると、密集して打ち込まれるものの、規則性は認められない。また、これらの集中地点は溝下端付近や溝底面中央もしくは中段面など、位置も一定していない。打ち込みの深さは、溝底面から30㎝から60㎝前後を測る。溝底面の土層は硬質であることから、このような打ち込み深をもつ杭については、かなり強固な設置状況であるものといえる。しかし、上部が遺失する段階でも杭が抜けることなく、固定したままで先端部が残存していることは、この杭がそれほどの打ち込み強度を必要としていたものと考えることができる。流水のある溝内に打ち込まれる杭の用途としては、渡架橋、法面補強、しがらみ、桟橋等の構造物の基礎、もしくは標識等が考えられるが、検出状況からこれらの杭群の用途について特定できない。しかし、多数の墨書土器や大量の土器の出土などから祭祀行為を推定させることから、杭群も関係をもつものと考えられる。



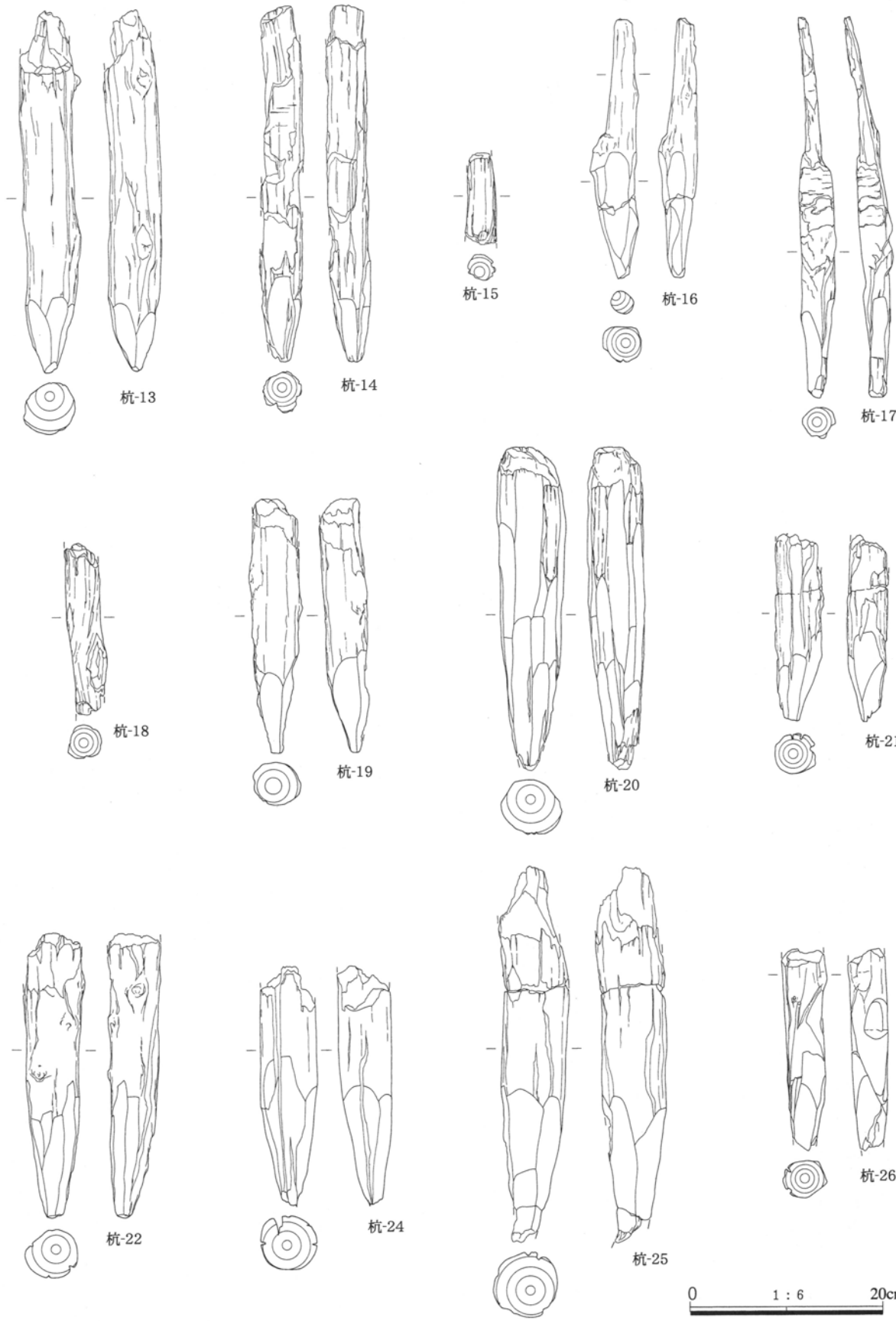


第73図　141号溝杭出土位置図

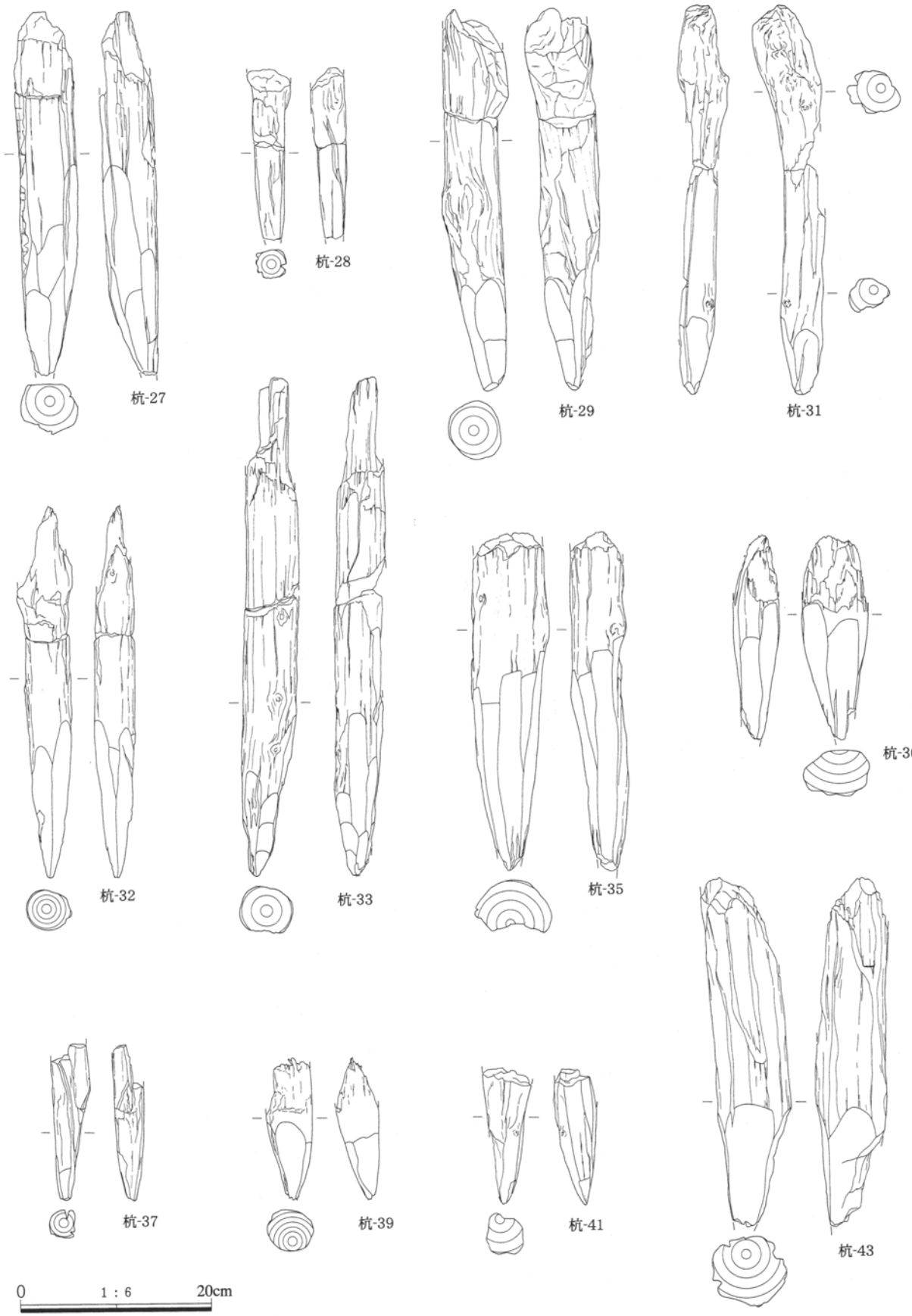
第74図　141号溝杭打設深度図



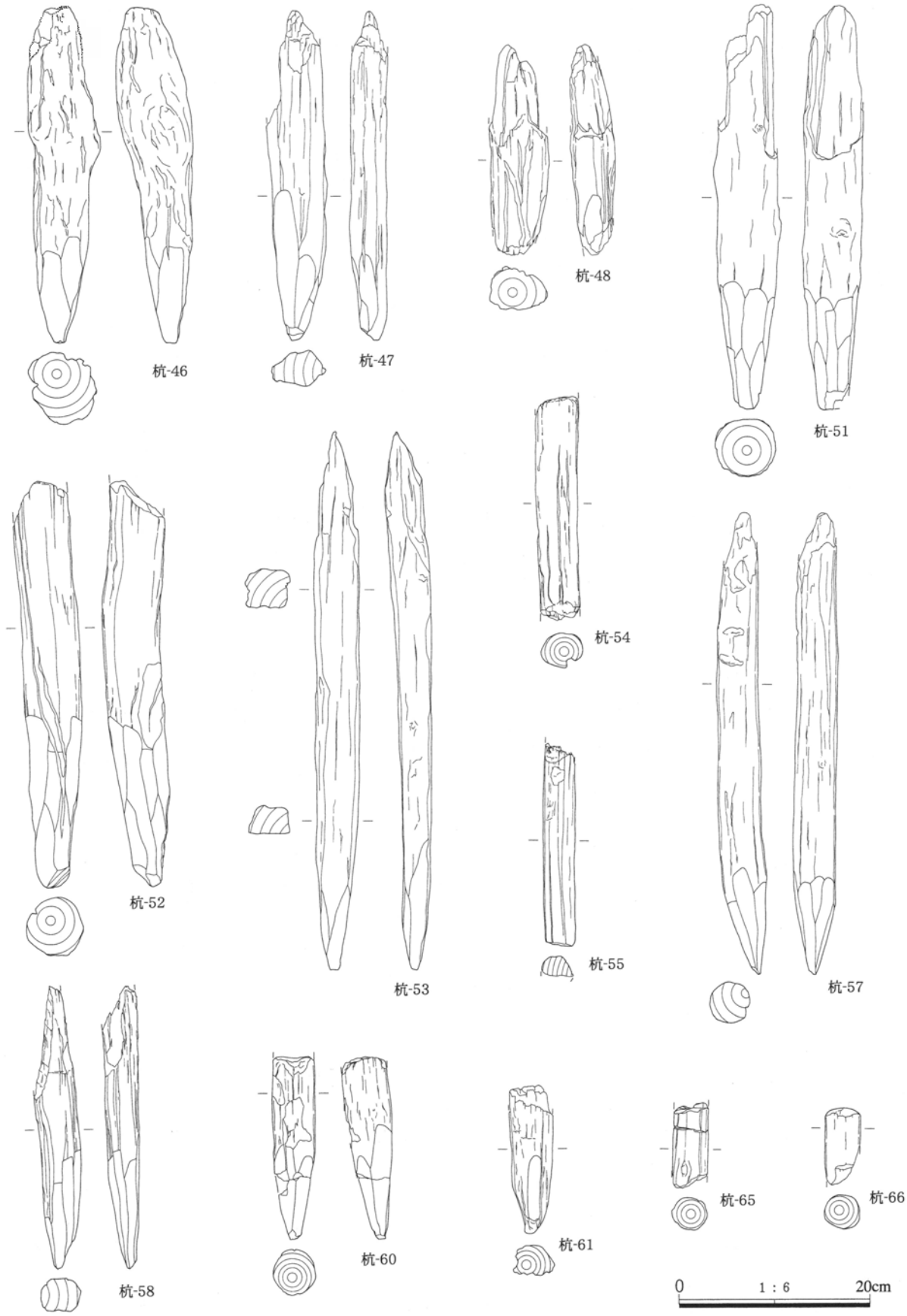
第75図　141号溝出土杭（1）



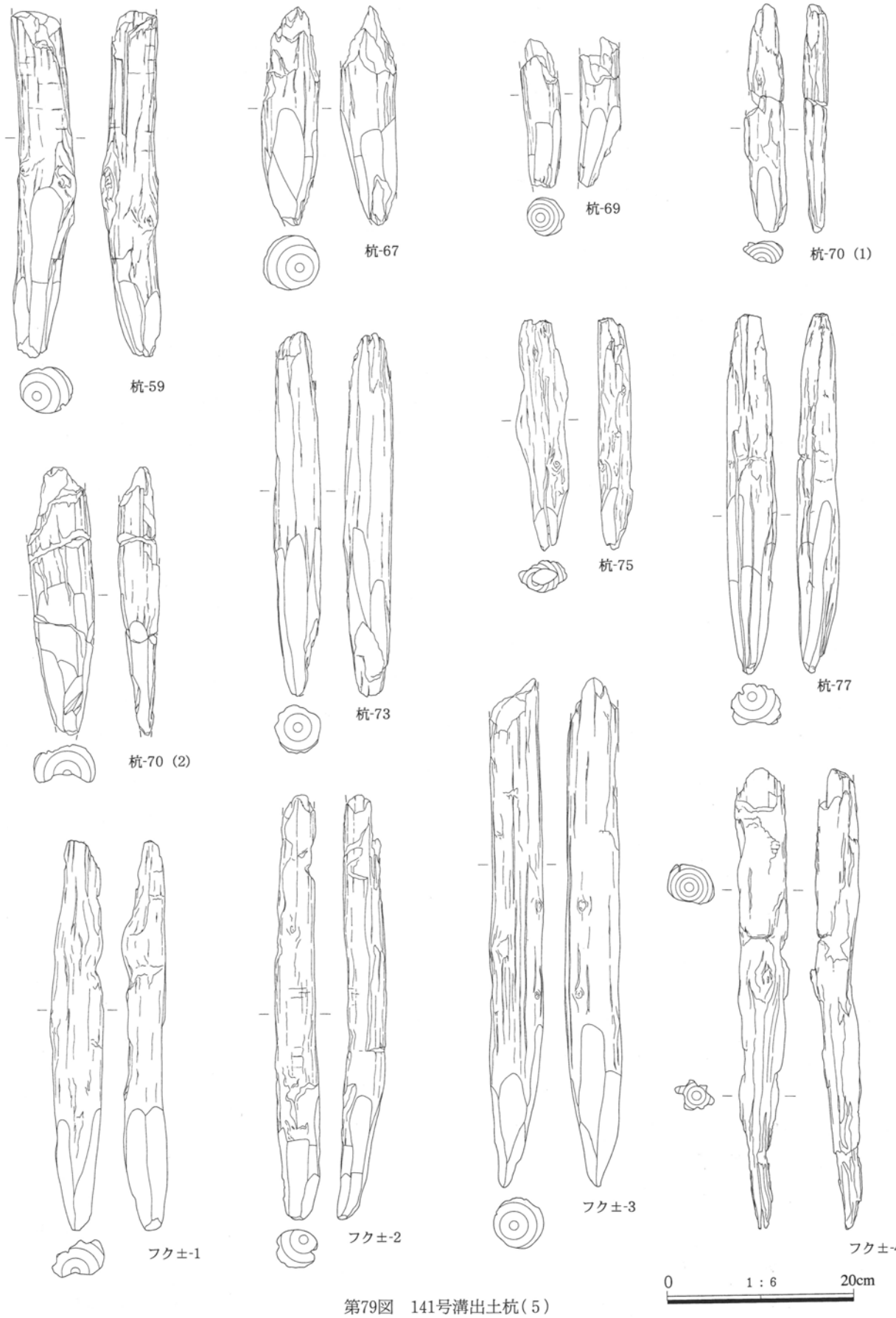
第76図　141号溝出土杭（2）



第77図　141号溝出土杭（3）



第78図　141号溝出土杭（4）



第79図　141号溝出土杭（5）

g　住　居

住居は4区で7軒確認された。これらのうち4号住居以外は141号溝東側に集中する。これらの住居は他遺構との重複、上層の水田耕作による撹乱の影響から残存状況は極めて不良であり、部分的確認にとどまる。しかし、9世紀代の集落が形成されていたことが確認され、さらに集落の形態が南北方向は不明ながら、東西は幅20m程度の範囲に限定されるという特徴的なものであることが把握できた。ちょうど、141号溝および他溝群に東接して分布する様子が看取されることになる。検出された住居の位置をみても南壁および北壁に接した位置に住居が存在していることからもその広がりは確実だろう。

4号住居は、これらの6軒の住居とは位置を異にする。4区南西部分は、北西から南東にかけて存在する微高地縁辺にあたる地点で、他6軒とは距離が離れているだけではなく、立地も異なっている。

4号住居（第80図、PL 8）

位置　59L-8・9グリッド

形態　方形

規模　290cm×290cm　　**床面積**　82.6m²

カマド　東壁やや南寄り。上層からの耕作により大半は遺失している。焼土からカマドの存在が確認された。

床　ほぼ水平であるが、硬化面は認められず、全体に軟弱である。

柱穴　認められない。

掘り方　一部に不規則な掘り込みがみられるが、住居に伴う掘り方であるかは不明。

遺物　須恵器片、土師器片の出土が確認されたが、残存量は少ない。

所見　4区南西部に位置し、微高地上に立地する。この微高地は1区へ連続する微高地の縁辺であるが、4区南側に住居の広がりが予想される。

時期　床面上から出土した土器類から、9世紀後半の住居とみられる。

5号住居（第81図）

位置　59N・O-19グリッド

形態　方形

規模　350cm×（395cm）　　**床面積**　—

カマド　住居残存部ではカマドは認められない。83号溝により壊された可能性が高い。

床　ほぼ水平な面が認められたが、硬化面は確認されない。

柱穴　確認されていない。

掘り方　不明である。

遺物　床面上に須恵器片、土師器片が認められた。

所見　住居上部はほとんど遺失し、下部のみ検出された。確認深もきわめて浅く、数cm程度である。

時期　出土土器から9世紀後半の住居であるとみられる。

8号住居（第82図、PL 8）

位置　59P・Q-17グリッド

形態　横長長方形

規模　420cm×330cm　　**床面積**　130.0　m²

カマド　東壁中央に設置。

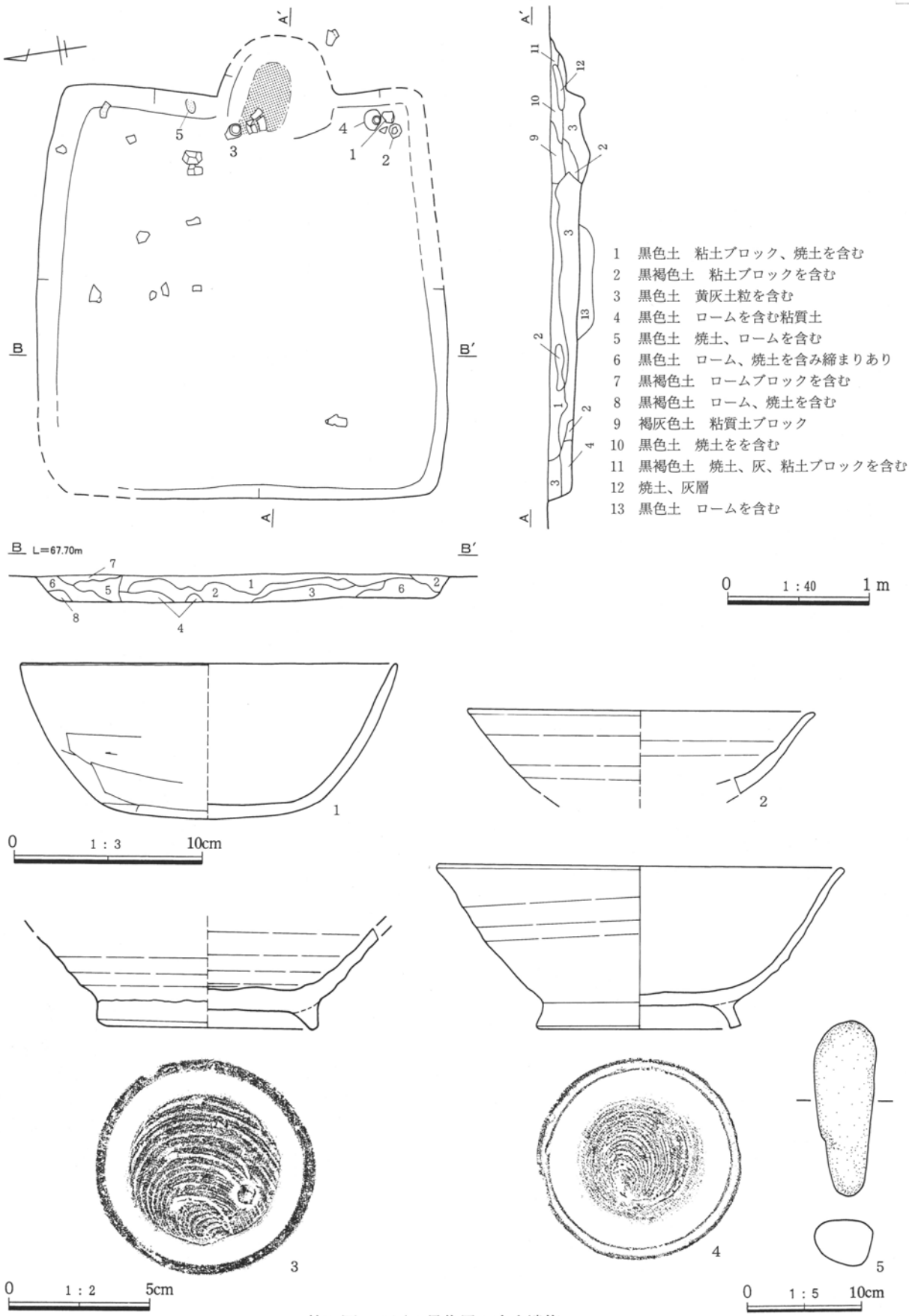
床　住居中央付近に貼床状の面が検出された。この部分は、**掘り方**　上面に床面が形成されている。残存状況が不良のため、その周辺については床面が遺失している。なお、中央部分に認められた床は周辺よりやや硬い程度で、良好な硬化面とはなっていない。

柱穴　床面上に不規則な小穴が認められるが、柱穴としての規則的な配置は確認できない。

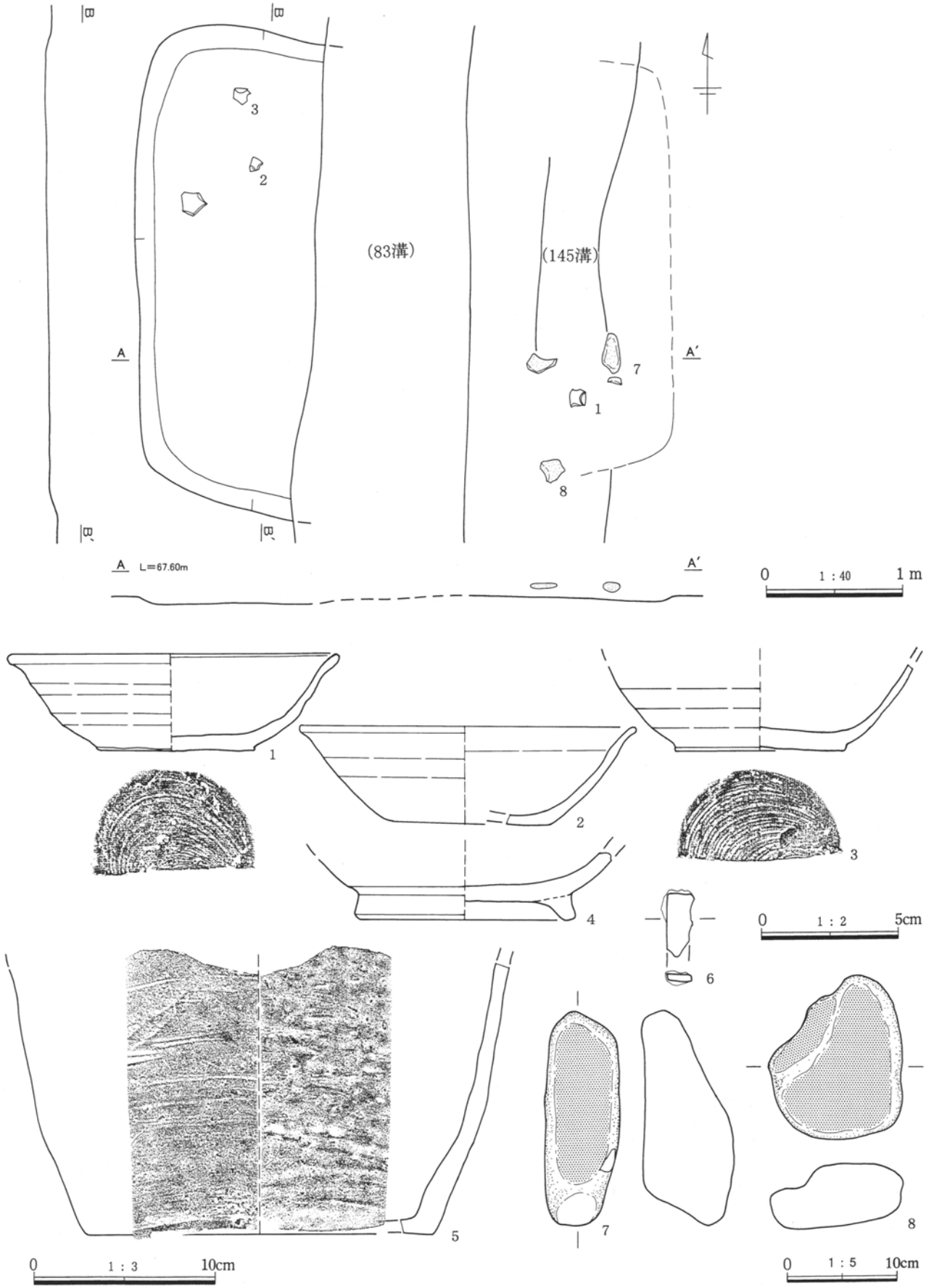
掘り方　住居北西壁部に沿って幅50cm前後、深さ15cm前後の溝状の掘り方が認められた。また、南東隅に不整円形の掘り込みが検出された。床面では未確認であったため、掘り方と判断されたが位置からみると貯蔵穴の可能性もある。

遺物　土師器坏・甕、須恵器坏・椀・蓋および灰釉陶器などが出土している。

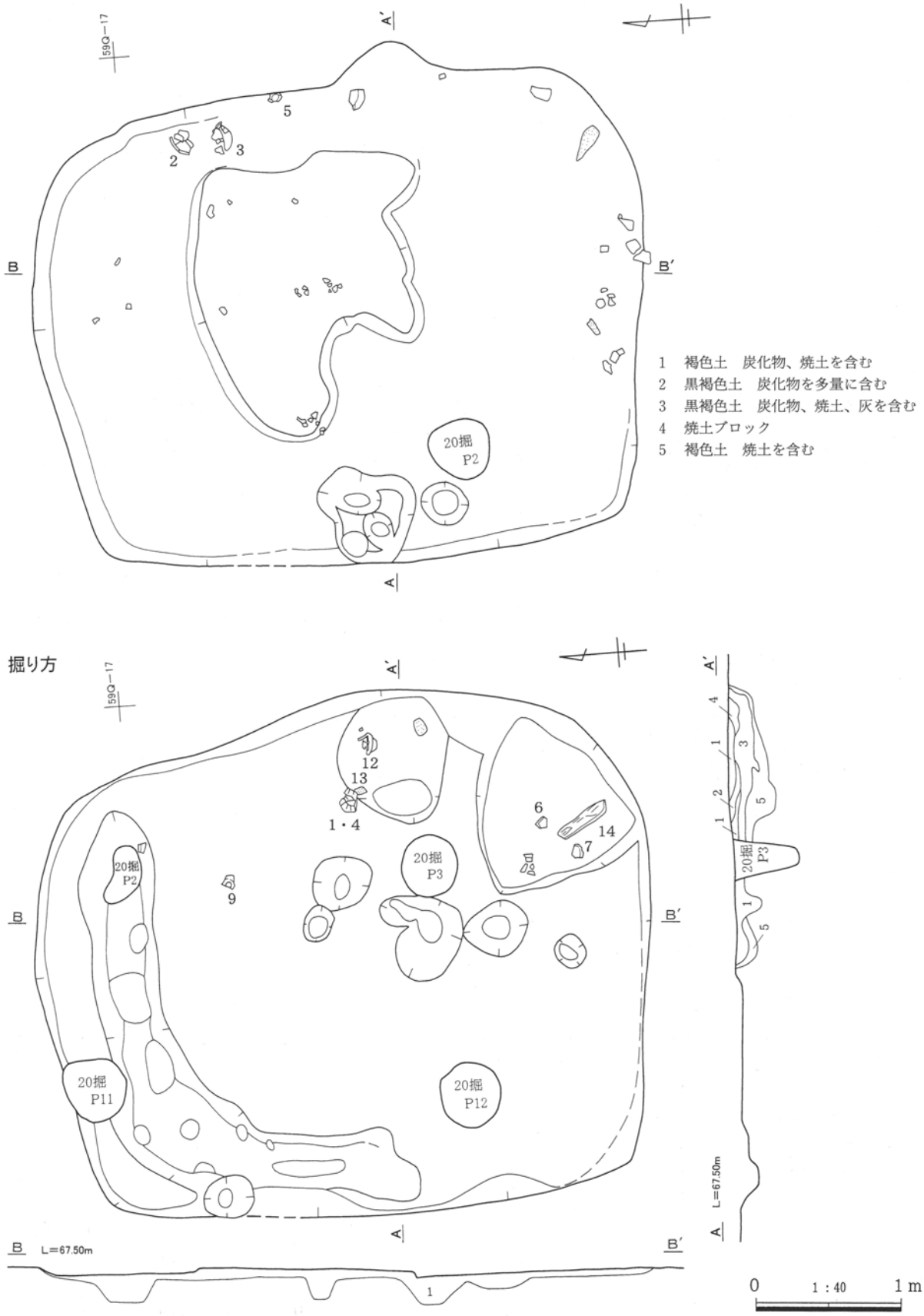
所見　20号掘立柱建物と重複する。新旧関係は、本



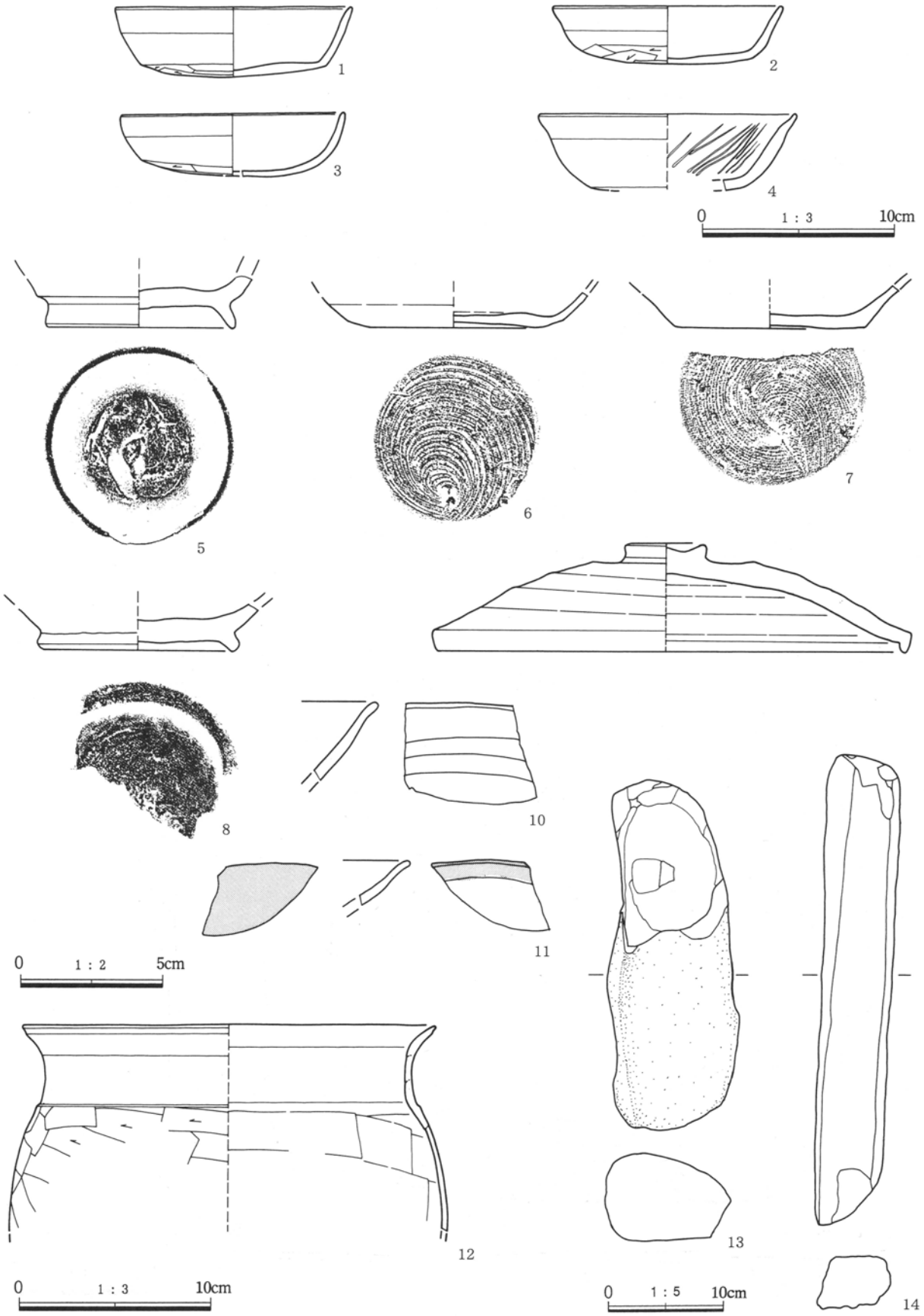
第80図　4区4号住居と出土遺物



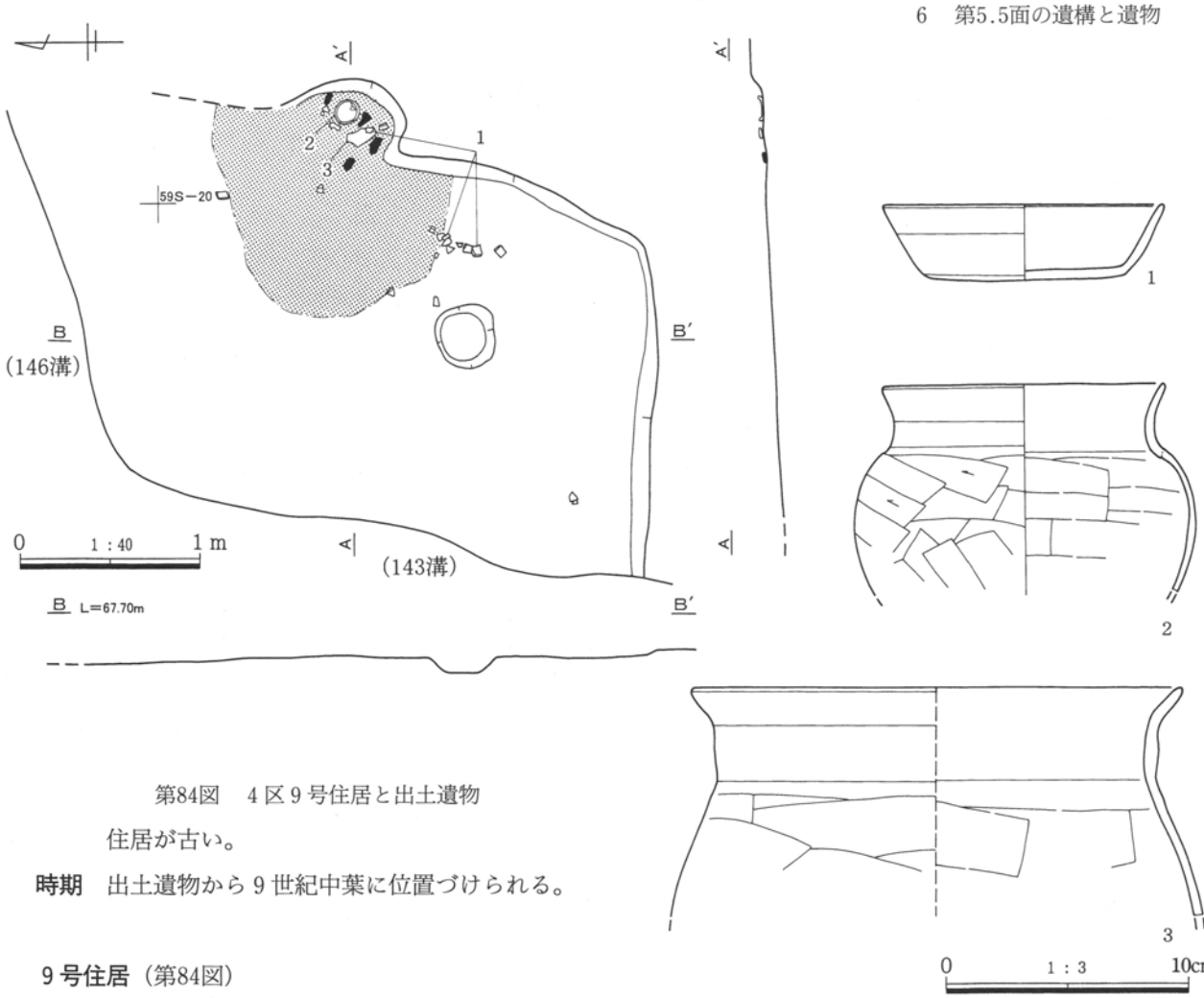
第81図　4区5号住居と出土遺物


59Q−17
A′
A
B
B′
20掘
P2
1　褐色土　炭化物、焼土を含む
2　黒褐色土　炭化物を多量に含む
3　黒褐色土　炭化物、焼土、灰を含む
4　焼土ブロック
5　褐色土　焼土を含む
掘り方
1・4
20掘
P3
20掘
P11
20掘
P12
L=67.50m
0　1:40　1m

第82図　4区8号住居



第83図　4区8号住居出土遺物



第84図　4区9号住居と出土遺物

住居が古い。

時期　出土遺物から9世紀中葉に位置づけられる。

9号住居（第84図）

位置　59R-19・20グリッド

形態　住居北西側が溝により切られ、平面形不明。

規模　—　　**床面積**　—

カマド　東壁に設置。幅60cm、奥行き30cm程度で、上半部は遺失し、残存状況は不良である。

床　地山面に平坦面が形成され、床面とする。硬化面は認められていない。

柱穴　南東隅の住居対角線上とみられる位置に径30cm、深さ15cmの小穴が検出された。他部分が不明のため確定できないが、柱穴の可能性が考えられる。

掘り方　不明。

遺物　カマド部から土師器坏・甕が出土している。

所見　西半部を143号溝、北半部を146号溝により切られるため、住居全体の4分の3程度が遺失し、残存状況は不良である。

時期　出土遺物から9世紀中葉に位置づけられる。

10号住居（第85図）

位置　59K・L-16・17グリッド

形態　南壁部が未検出のため、不明。

規模　290cm×—cm　　**床面積**　—

カマド　東壁に設置される。掘り方のみ残存し、使用面は遺失している。焼土、灰もほとんど認められない。

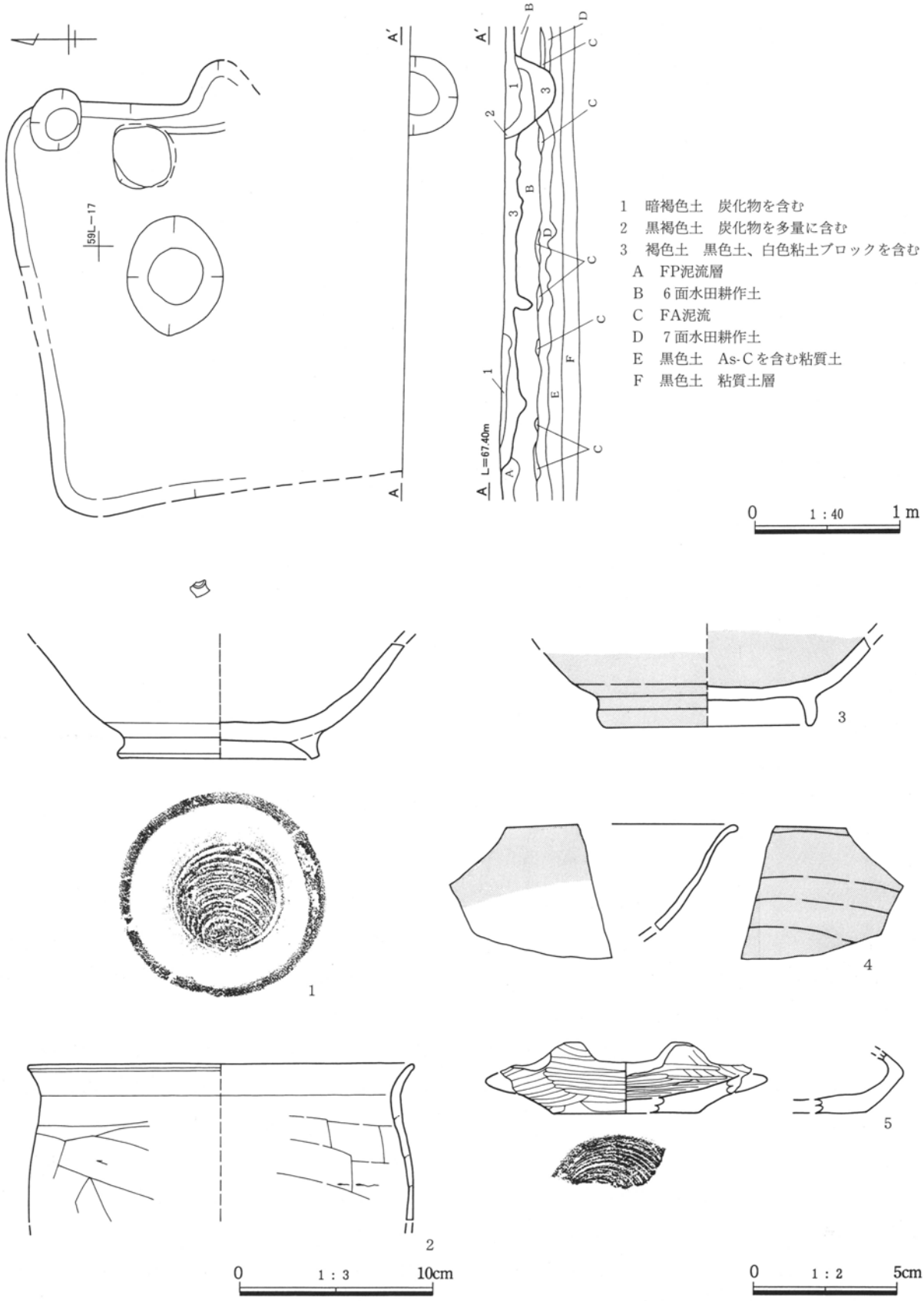
床　上層の水田耕作の撹乱により遺失している。

柱穴　住居内に小穴が認められるが、柱穴については不明。

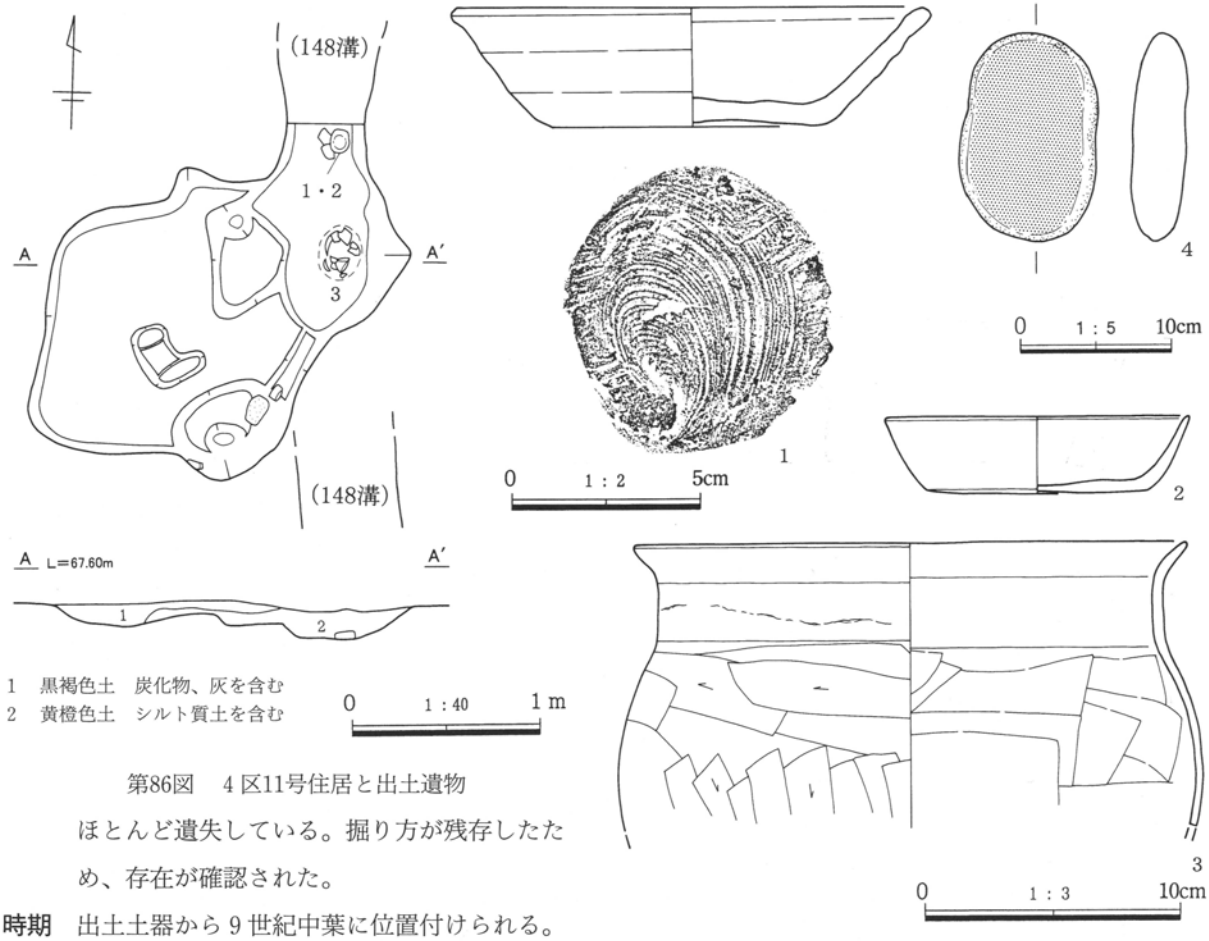
掘り方　住居確認時点で掘り方であった。住居全域が不規則に掘り下げられ、褐色土により埋土される。床面は遺失している。

遺物　住居（掘り方）から須恵器椀、灰釉陶器が出土している。

所見　上層の水田耕作により床面を含め、上半部は



第85図　4区10号住居と出土遺物



第86図　4区11号住居と出土遺物

ほとんど遺失している。掘り方が残存したため、存在が確認された。

時期　出土土器から9世紀中葉に位置付けられる。

11号住居（第86図、PL 9）

位置　59K・L-16・17グリッド

形態　部分的な残存のため不明。

規模　—　　**床面積**　—

カマド　—

床　ほとんど確認できない。

柱穴　不明。

掘り方　床面は遺失し、掘り方のみ残存する。不規則な掘り込みをもち、黒褐色土および黄橙色土により埋土される。

遺物　住居（掘り方）から土師器坏・甕、須恵器坏が出土している。

所見　148号溝の上に形成された住居である。残存状況は不良で掘り方のみ残存し、部分的確認にとどまる。

時期　出土土器から9世紀中葉に位置づけられる。

12号住居（第87図、PL 9）

位置　59K-19・20グリッド

形態　北側および南側が未確認のため不明。

規模　330cm×—cm　　**床面積**　—m²

カマド　東壁に設置される。

床　**掘り方**　埋土上部および地山に床として平坦面が形成される。硬化面は認められない。

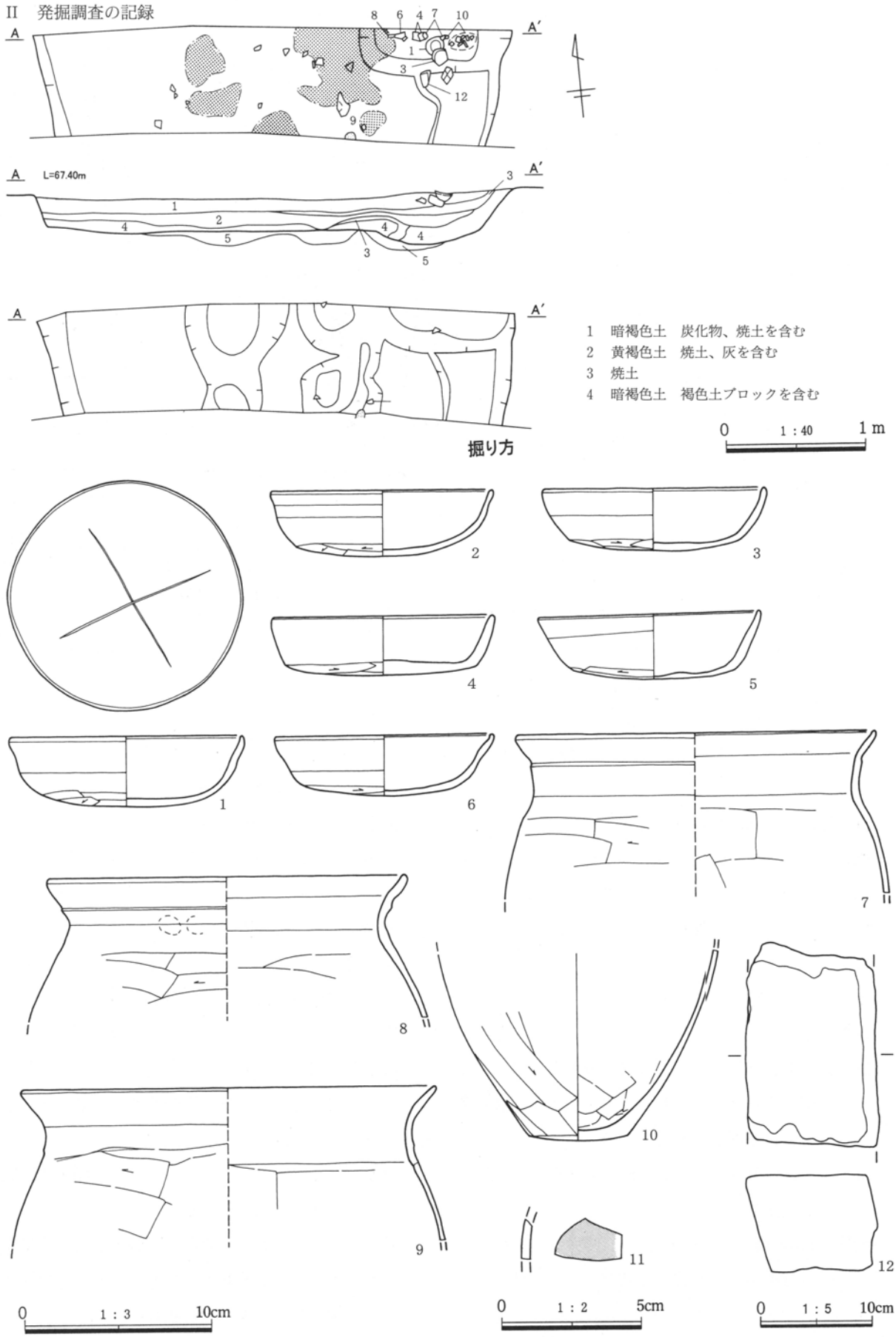
柱穴　不明。

掘り方　部分的であるが、住居東側に不規則な掘り方が確認された。西側は地山面を床面としている。

遺物　主としてカマド部分より土師器坏・甕、灰釉陶器が出土している。

所見　残存状況が不良であり、調査区南端部に位置するため部分的確認にとどまる。147号溝と重複するが、本住居が新しい。

時期　出土土器から9世紀中葉に位置づけられる。



第87図　4区12号住居と出土遺物

h　掘立柱建物

掘立柱建物は5棟が確認された。141号溝の東側に集中し、整然とした位置関係であり、時間的に近接したもしくは同時期に存在する遺構群であるものとみられる。特に18号、19号、21号、22号の各掘立柱建物は、主軸方位が共通し、計画的なもしくは規則的な配置となっている。

18号・19号掘立柱建物は重複するが、新旧関係は柱穴間からは確認できない。両掘立柱建物は規模もほぼ同様で、棟方向も一致していることから類似する用途をもつ建物とみられる。また、重複関係も側部分が接近して並行するようにややずれるような位置にある。このような位置関係からみると、旧掘立柱建物を前提に、新掘立柱建物を設置したと考えられ、強い関連性が看取できる。このような点から、18号および19号掘立柱建物にみられる重複関係は建て替えの可能性が高いと考えられる。

21号掘立柱建物と22号掘立柱建物は11m前後の間隔に位置する。21号掘立柱建物は棟方向を南北に、22号掘立柱建物は、18号および19号掘立柱建物と同様に東西に棟方向をもつ。

これら4棟は南北方向に列状に並び、規則的な配置となっている。

20号掘立柱建物は南北方向に列状に並ぶ掘立柱建物群に西接する。この1棟のみ棟方向も相違し、さらに構造も他掘立柱建物と異なり総柱となっている。

18号、19号、21号、22号掘立柱建物が整然とした棟方向をもつことから、20号掘立柱建物の棟方向のわずかな相違がより目立つが、このことが掘立柱建物群間の関連性の有無を示すとはいえない。

18号と19号掘立柱建物の2棟は重複することから時間差をもつが、位置関係からみてこれら5棟が同時に存在していた可能性は高いものとみられる。

掘立柱建物群とともに井戸（25号井戸）が1基確認されている。出土遺物はないため、時期について確定できないが、位置からみると掘立柱建物との関連性が看取できる。25号井戸は、21号および22号掘立柱建物間の中央に位置し、帯状に並ぶ掘立柱建物群の配列と同様の位置関係をもつようにみることができる。

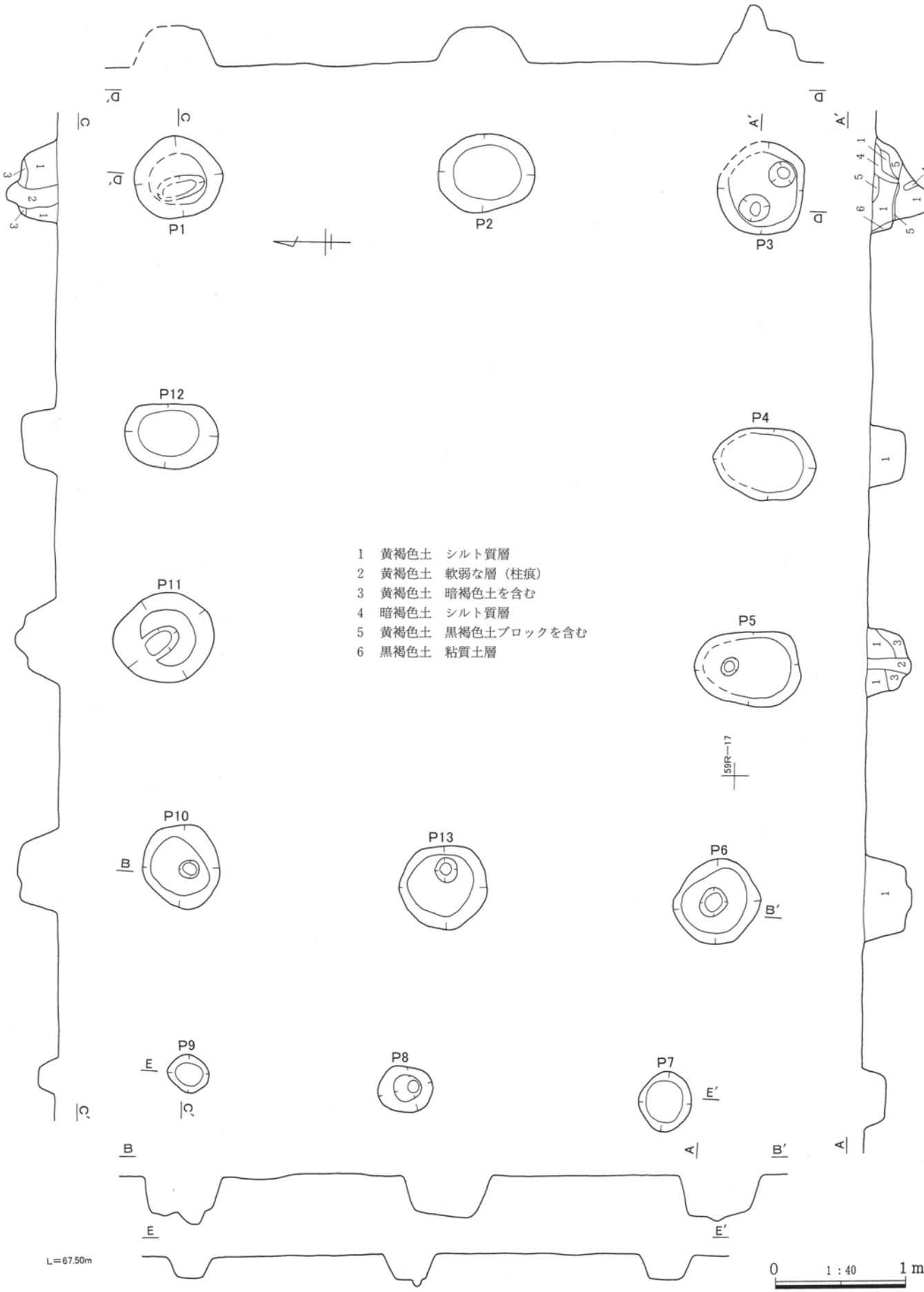
2基の土坑について、掘立柱建物群に近接して確認された。205号土坑は19号掘立柱建物の東側に、203号土坑は21号井戸の北東側にそれぞれ接して位置する。両土坑とも小型で、確認深は浅いが、203号土坑からはほぼ完形の土師器坏が2点出土している。

21号掘立柱建物と22号掘立柱建物に西接して、155溝が確認されている。残存状況は不良のため、断片的な確認であり、全形は把握できないが、両掘立柱建物に並行するような位置に存在している。掘立柱建物群のなかで、何らかの区画を示す小溝である可能性もある。

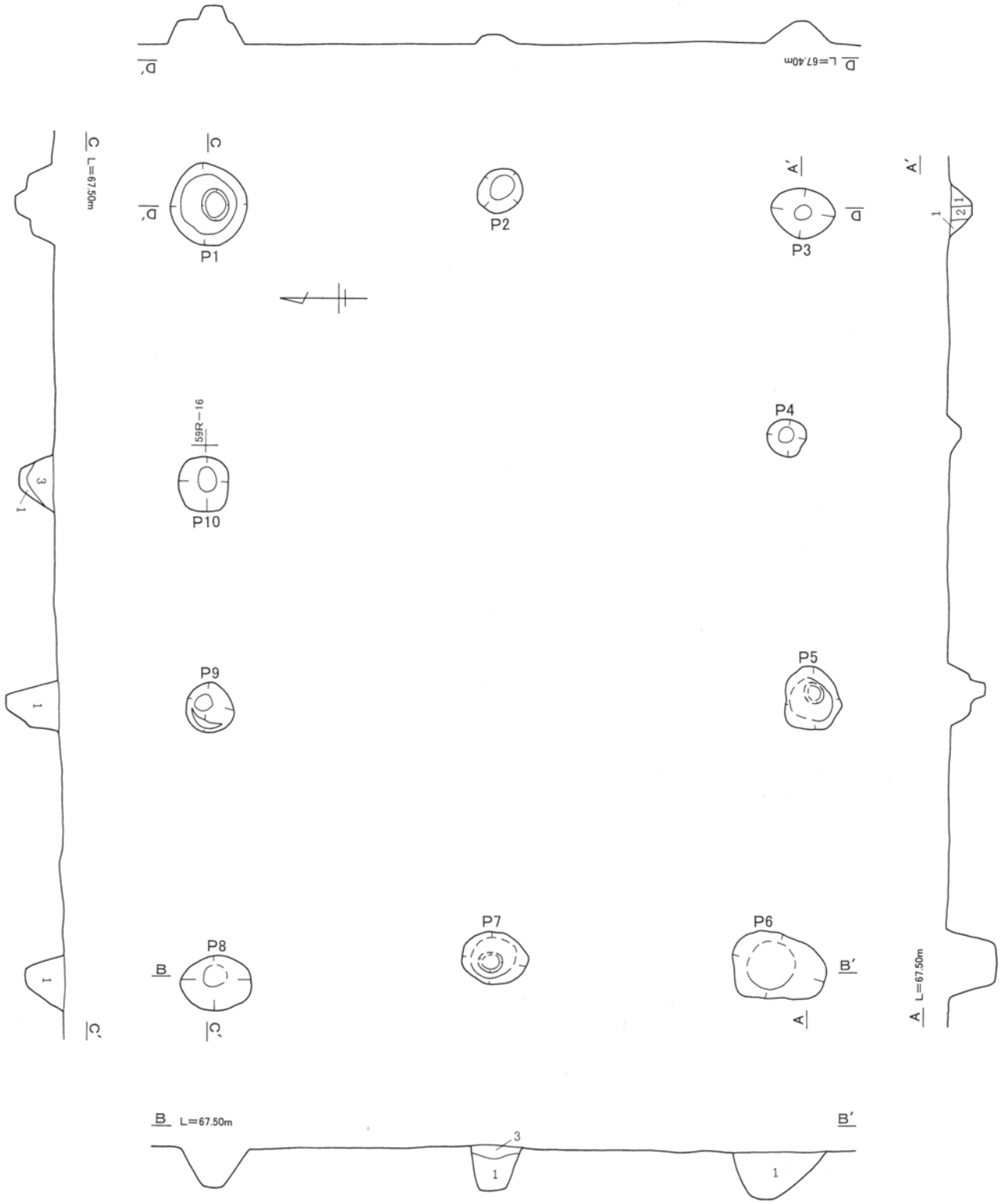
掘立柱建物群、21号井戸、203号・205号土坑は、整然とした位置関係からみて、一連の遺構群の可能性が高い。これらの遺構により集落を形成していたと考えることができる。さらに、この遺構群は竪穴住居群に東接し、一例のみ竪穴住居と掘立柱建物の重複はあるが、分布域をわずかに異にしている。このような分布差が、時期差によるものか、集落形態によるものか確定できないが、一例のみとはいえ、確認された重複例が住居が古く、掘立柱建物が新しいという点は重要だといえる。

住居群は141号溝の東側に並ぶ溝群と重複する位置に分布する。新旧関係が不明もしくは不明確な場合が多いが、11号住居や12号住居は重複する溝より新しく、9号住居は溝が新しいとの調査所見が得られている。溝群もやや時間幅をもち、変遷していることになるが、掘立柱建物群は、これら溝群が存在する地点を避けながら、さらに溝群に沿って接して形成されているようにみえる。

さらに注目されることは、竪穴住居および掘立柱建物による集落形成は、141号溝東側に特徴的に行われるという点である。そして、溝に並行するように集落は帯状に広がりをもつという限定された範囲に分布している。南北方向へ集落が広がることは確実であるが、東側は狭い範囲にのみに分布している。



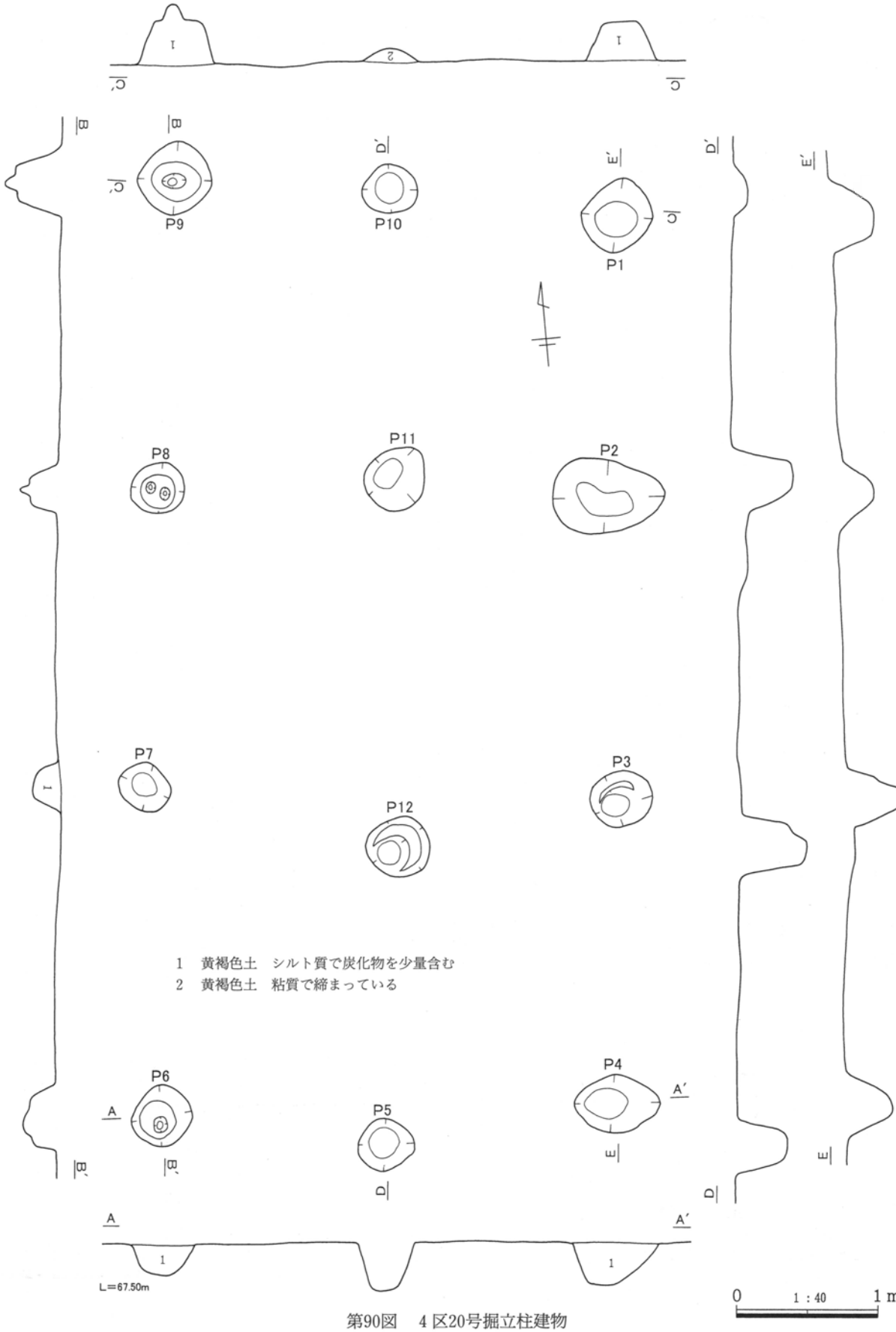
第88図　4区18号掘立柱建物



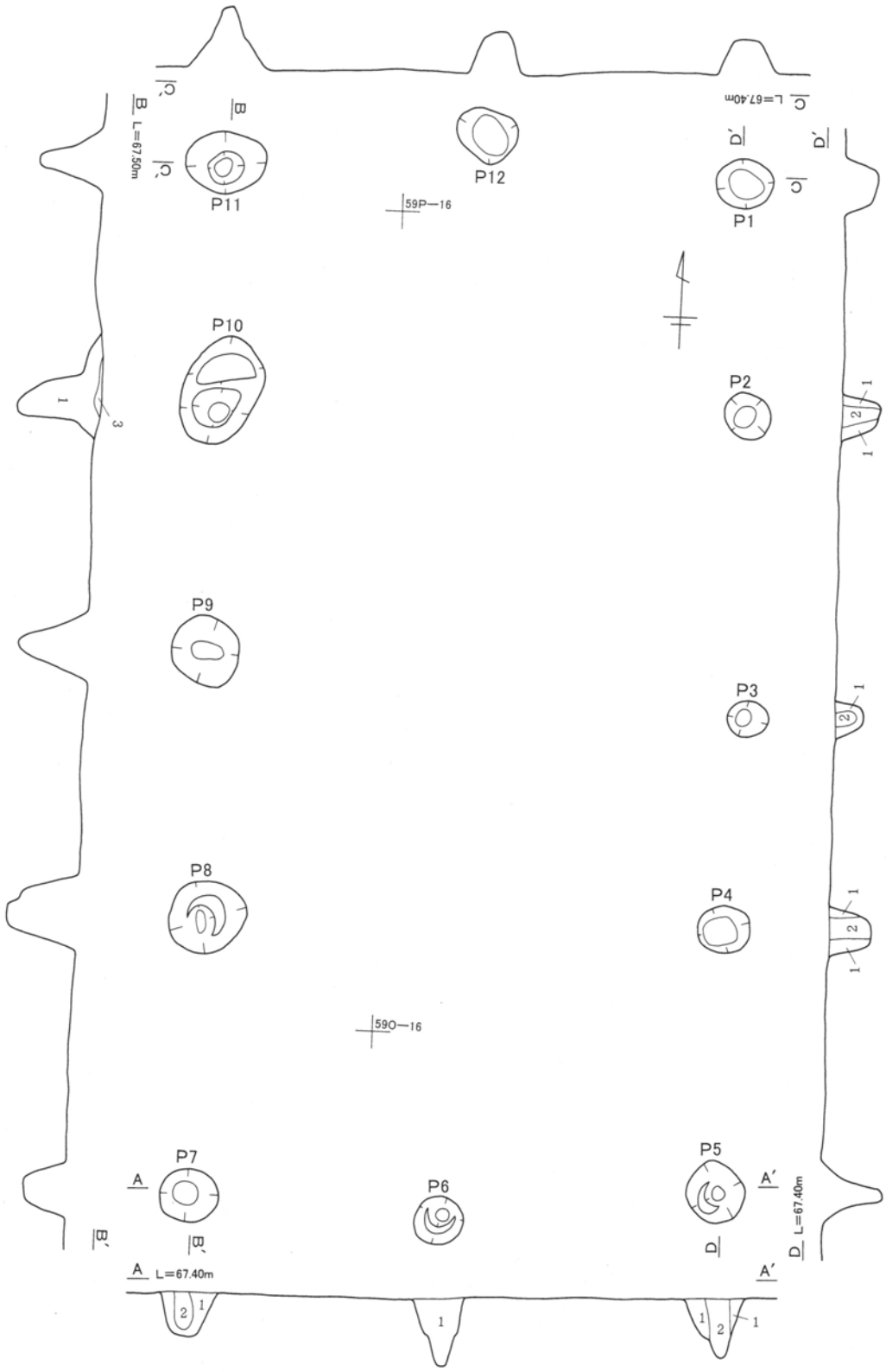
1　黄褐色土　焼土、黒褐色土を少量含む
2　灰黄褐色土　粘性をもつ
3　褐色土　炭化物、焼土を少量含む

0　1：40　1 m

第89図　4区19号掘立柱建物



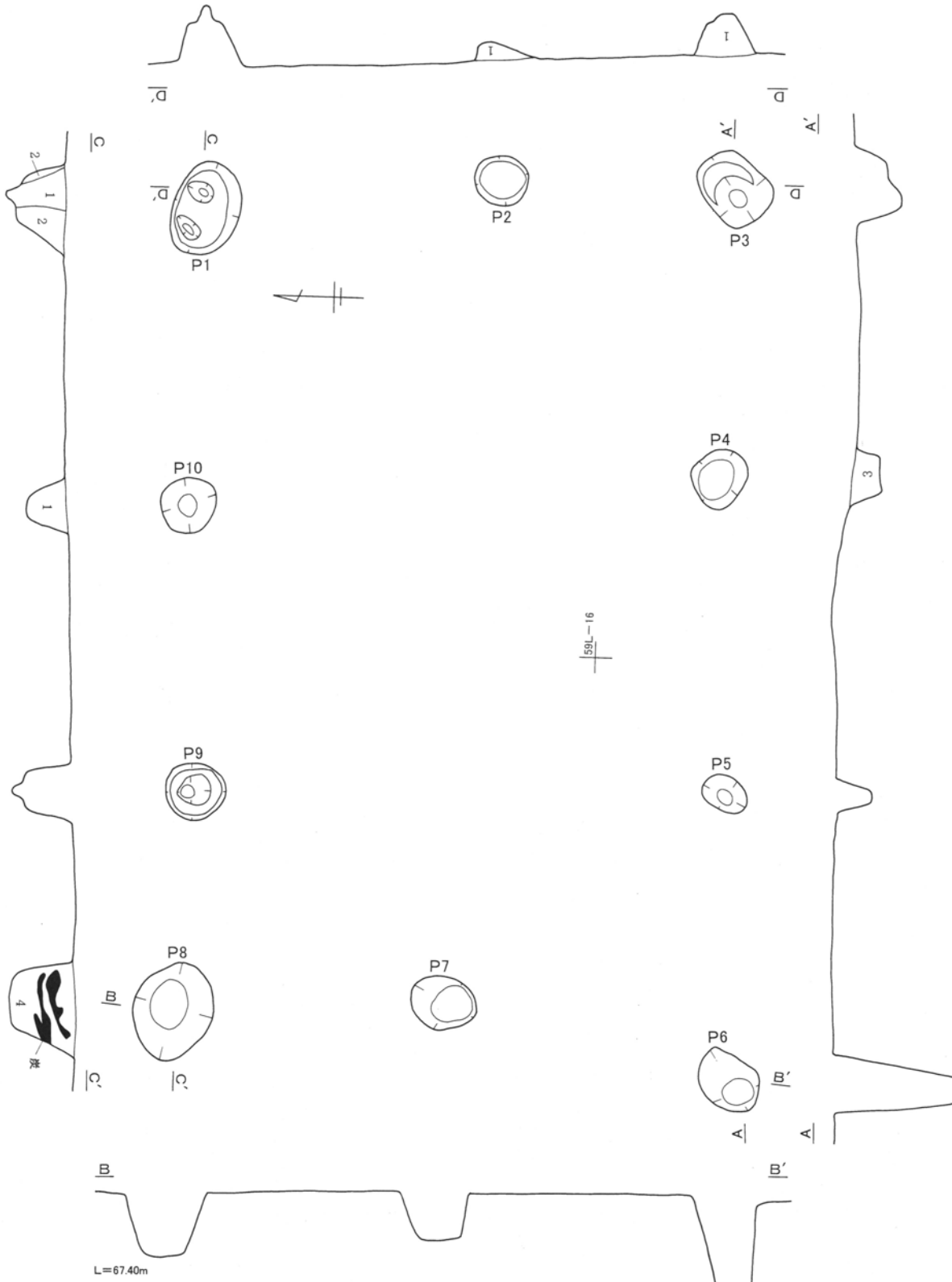
第90図　4区20号掘立柱建物



1　灰褐色土　シルト質
2　黄褐色土　柱痕
3　黒褐色土　灰、炭化物を含む

0　1：40　1 m

第91図　4区21号掘立柱建物



1　灰褐色土　砂質
2　黄褐色土　粘性をもつ
3　暗褐色土　シルト質
4　黒褐色土炭化物を含む

0　1：40　1 m

第92図　4区22号掘立柱建物

18号掘立柱建物（第88図、PL16）

59R-16•17グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の規模で、桁行長は540cm、梁行長は420cmを計測する。柱間は桁行180cm、梁行210cmである。桁行方位はN-90°-Wとなる。

柱穴は径60cm前後で、ほぼ垂直に掘り込まれる。また、底面に柱痕とみられる円形のくぼみが認められる場合もある。また、柱穴を半裁した際に土層断面に柱痕が確認できる例もあり、これらから柱穴に存在した柱は径14cm前後が多いということがわかる。

なお、この掘立柱建物は3間×2間の側柱によって構成される建物であるが、西側に沿って径30cm～40cmの小穴が並ぶ。この小穴が柱穴だとしても、3間×2間を構成する柱穴より小さいため、伴う構造物としても庇等の補助的なものといえる。

19号掘立柱建物（第89図、PL16）

59Q-15•16グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の規模で、桁行長は530cm、梁行長は390cmを計計測する。柱間は桁行177cm、梁行180cmである。桁行方位はN-90°-Wである。柱穴は側柱のみで構成され、径60cm～30cm程度である。柱穴底面や半裁した際の土層断面に柱痕とみられる痕跡があるが、これからみると、径12cm程度の柱が使用されたものと考えられる。なお、北接して18号掘立柱建物が並列し、重複するが、新旧関係を示す情報が乏しいため時間的前後関係は不明である。

20号掘立柱建物（第90図、PL16））

59P-17•18グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の規模で、総柱の掘立柱建物である。桁行長660cm、梁行長330cmを計測する。桁行方位はN-6°-Eを計測し、他の掘立柱建物に比較するとやや方向を異にする。他の4棟がほぼ方位に則した整然とした分布状態を示すことから目立つ。この掘立柱建物のみが総柱であることと関連することかもしれない。なお、8号住居と重複するが、本掘立柱建物が新しい。また、148号溝と接するが、直接する遺構間の重複がないため、新旧関係は把握できていない。各柱穴は、径40cmから50cm前後、深さは20cmから40cm前後を測る。

21号掘立柱建物（第91図、PL16）

59N～P-15・16グリッドに位置する。桁行4間、梁行2間の規模で、桁行長は630cm、梁行長は330cmを測る。桁行方位はN-0-Wを示す。柱間はやや不規則で、130cm～170cm間の計測値を示す。柱間隔は西側列が東側列に比し、やや整然とする。東側列は各柱間ごとに間隔が異なっている。柱穴は径30cm～50cm前後で、深さは30cm～50cmを測る。

22号掘立柱建物（第92図、PL17）

59K・L-15・16グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の規模で、桁行長は北側列で530cm、南側列で590cm、梁行長は360cmを測る。柱間は不規則で、最も距離が短いP8—P9間が140cm、最も長いP3—P4が210cmを計測する。柱穴は径30cm～50cm前後で、深さは15cm～80cmとかなり差異が大きいが、平均35cm程度である。なお、柱間が不規則ながら、柱穴はほぼ方形に並ぶが、P6は西側に柱穴1つ分ずれる位置にある。北側列と南側列の長さの相違はこのP6の位置のずれが起因している。

I　井戸（第93図、PL17）

竪穴住居群および掘立柱建物群の分布地点に井戸が1基確認されている。25号井戸は59M-16グリッドに位置し、21号掘立柱建物と22号掘立柱建物の中間に存在する。両掘立柱建物とはほぼ等距離であり、整然とした配置状況を示している。この位置関係からみると掘立柱建物との強い関連性を伺うことができる。径130cm×120cmでほぼ円形を呈し、深さは125cmを測る。

J　土坑（第94図、PL17）

計4基を報告する。この内203号土坑、205号土坑

は竪穴住居群、掘立柱建物群に接した地点に検出されたが、151号土坑は141号溝の西側に確認された不規則な溝群に接した位置にあり、210号土坑は５区で151号溝に接した位置に検出された。

151号土坑

69Ｌ－５グリッドに位置する。径110cmのやや歪みのある円形平面で、深さは45cmである。底面は起伏があり、平坦面は認められない。微高地縁辺部にあるが、土坑の性格や用途を示す情報は得られていない。

203号土坑

59M-15グリッドに位置する。径65cm×50cmの楕円形平面で、深さは10cm程度である。25号井戸の東南部に隣接するが、井戸と用途上の関連を有するかについては不明である。

205号土坑

59Q-15グリッドに位置する。径65cm×45cmの長方形平面を呈し、深さ４cm程度が残存していた。19号掘立柱建物の東約２m程の位置に存在する。

210号土坑

59M－６グリッドに位置する。径40cm前後で円形平面を呈し、深さは18cmを測る。５区にあたり、北西から南東方向に走行する151号溝に接して検出されている。

k　ピット（第95図）

柱穴状の小規模な円形遺構であり、竪穴住居群および掘立柱建物群の分布域に検出されている。19号掘立柱建物、20号掘立柱建物、22号掘立柱建物および10号住居に接して分布する。径30cm～40cm、深さ20cm～35cm前後の円形ピットである。検出された掘立柱建物の柱穴とほぼ同程度の規模であり、形態も類似している。しかし、何らかの構造を示すような規則的な配置はみられず点在する。各掘立柱建物もしくは竪穴住居に伴う副次的な遺構なのかもしれない。

l　溝（第96図～第108図、PL10、PL11）

多数の溝が検出されている。この確認面では、141号溝が最も規模が大きく、さらに大量の遺物の出土がしたことからこの溝のみが注目されたが、周辺にも様々な溝が検出されている。それぞれの性格は不明なものが多いが、その位置から次の４群にわけてみることができる。

第Ａ群の溝群

141号溝に接した位置でほぼ平行する溝群。

102号溝・108号溝・142号溝・143号溝・144号溝・145号溝・146号溝・147号溝・148号溝がこれにあたる。141号溝と重複し、時間的に前後する溝や、これらの溝間で重複する例もあり、同時期の溝群ではないが、位置および形態などに共通性が看取され、時期的な幅をもつにしても、時間的な継続性もしくは関連性が伺えるものである。141号溝との関連性も不明だが、平面形状や位置は141号溝に沿っているようにみえるとともに、141号溝周辺にのみ存在する点からも関連性を考えるものである。なお、141号溝と重複する溝については、いずれも141号溝が時間的に新しいという調査所見が得られている。

これらの溝群は、141号溝に平行するように並んでいるが、部分的には溝間が連結するような部分もあり、やや複雑な形状も示している。なお、確認深度は相違するが、断面形は基本的に逆台形を呈する点は共通する。

143号溝・144号溝は枝分かれするように途中から分岐するが、これは土層断面の観察から143号溝が古く、144号溝が新しいという所見を得ている。このような溝の平面的な関係は、141号溝の西側に位置する102号溝・108号溝・142号溝にも類似する溝の位置関係をみることができる。141号溝に平行する102号溝と142号溝間に108号溝が両溝を繋ぐように位置し、平面上は142号溝が途中で108号溝・102号溝に分岐するような位置関係でもある。この溝間は新旧関係は把握されていない。また、102号溝は南側に不規則な落ち込み状の溝群が集中するためわかりにくいが、108号溝と接する部分よりさらに延長するようである。このようにみると、143号溝も144号溝から弧状に分岐するのみではなく、南側に検出されている147

号溝と連続する可能性もあるとみられる。さらに143号溝は北端部で146号溝とした東西方向に走行をもつとみられる溝と重複する。両溝が同時存在か新旧関係をもつものかは不明だが、146号溝を延長すれば東側で144号溝と、西側で142号溝と接するようになる。144号溝・145号溝・148号溝はほぼ平行する。144号溝・145号溝は溝底部中央間、400cm前後であるが最も広い場所で550cm、最も狭い場所で350cmを測り、間隔に広狭が認められ全くの平行関係とはいえないかもしれない。両溝は幅130cm前後、深さ70cm前後で、断面形状も逆台形を呈し、規模や形態上にも共通性がある。148号溝はこれらの溝とほぼ平行関係にあるが、幅50cm、深さ40cmとやや規模が小さくなる。また、145号溝との間隔は、最大400cm前後、最小で250cm前後であり、両溝の平行関係には幅に広狭が認められる。これらの溝には下層に砂層やシルト質層の堆積が認められ、ある程度の水流があったことがわかる。しかし、この水流痕跡が溝群の性格を決定付けるものかは確定できない。この溝については、水路の可能性が高いが、道路に伴う側溝の可能性も考えることができる。141号溝に平行するように位置すること、竪穴住居とは重複するが、掘立柱建物群とも平行する位置に走行することなどから考えることができる。さらにこれらの逆台形断面を呈する溝群が同一の機能を有していたかも確定はできない。

なお、148号溝の東側7mから5mの位置にほぼ平行し155号溝が認められるが、残存状況が不良で断片的な確認にとどまる。

第B群の溝

91号・95号～101号・103号～107号溝が該当する。これらについては、溝として遺構名称を付しているがその走行は不明瞭で極めて不規則な遺構群である。141号溝の南西部で、102号溝と142号溝に囲まれる範囲に位置し、かなり細かな起伏がみられる地点となっている。砂の堆積も認められることから、何らかの水流の影響を受けているものとみられるが、流路であるのか、滞留水によるものかいずれかであろうが、検出状況からは、滞留水の可能性が高いものと考えられる。

第C群の溝

4区南西部の微高地縁辺をめぐる溝で、91号・94号溝が該当する。平面形および断面形とも不規則であり、流水の影響が大きいものとみられる。

第D群の溝

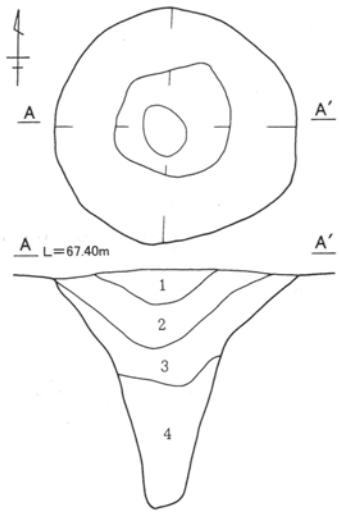
北西から南東方向に走行をもつ溝で、4区で149号・150号・152号～154号溝と5区の151号溝がこれに該当する。

これらの溝群の走行はほぼ地形に沿ったものとみられ、両溝はおよそ22m程度の間隔で、ほぼ平行する位置関係となっている。4区の149号・150号・152号～154号溝は同一地点に集中し、重畳している。計5本の溝が確認されるが、ほぼ等間隔で平行する部分もあるが、重複する部分も認められる。このことから時間的前後関係をもつものと考えられるが、5本の溝の検出状況から明確ではないが、近接する時間幅で形成されたものとみられる。埋没土は類似し、いずれもシルト質である。5区の151号溝は幅20cm、深さ8cm程度の小規模な溝であり、底面には不規則ながらくぼみが連続的に認められ、凸凹している。走行は類似するが、4区の溝群とはその形態は相違しているため、性格は異なるものとみられる。耕作痕の可能性があろう。

なお、149号・150号・152号～154号溝に接して227号溝が存在する。幅や深さ等を含め、形態も先の溝群と類似するが、弧状に確認されたのみでさらに走行も異にすることから、D群の溝群に関係するものかは不明である。

156号溝（第107図）

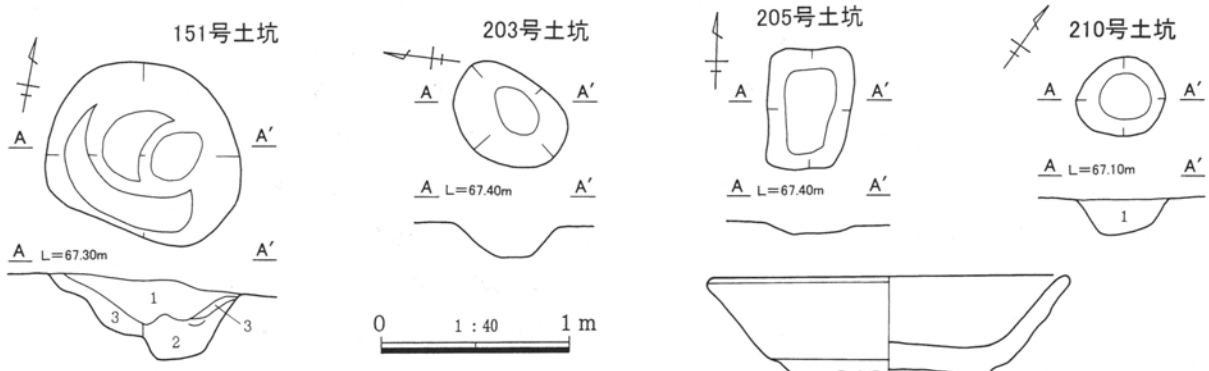
59L～P-14・15グリッドに位置する。幅140cm、深さ8cmで、埋没土中から土錘が1点出土した。北東から南西方向に軸をもつ。長さ17m前後で両端部は途切れているが、さらに延長するかは不明である。他の溝に比べ形態や位置に共通性はみられず、異質な遺構である。掘立柱建物群による集落に伴う痕跡なのかもしれない。



1　黄褐色土　シルト質で軽石を含む
2　褐灰色土　粘質土
3　灰褐色土　軽石を含む
4　暗褐色土　粘質土

0　1：40　1 m

第93図　4区25号井戸

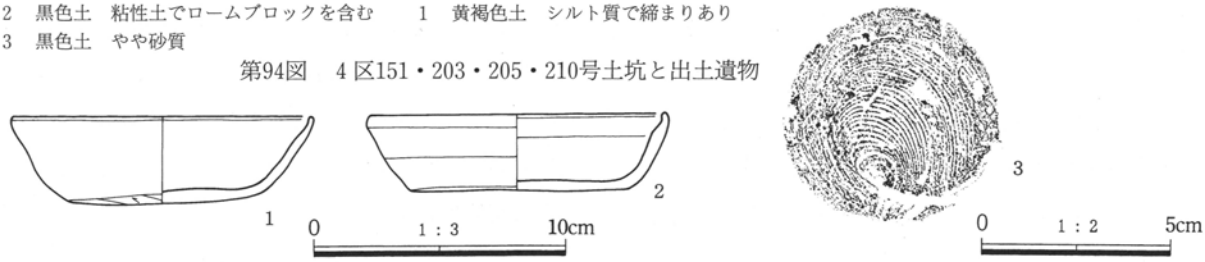


0　1：40　1 m

1　黒褐色土　粘性土でローム粒を含む
2　黒色土　粘性土でロームブロックを含む
3　黒色土　やや砂質

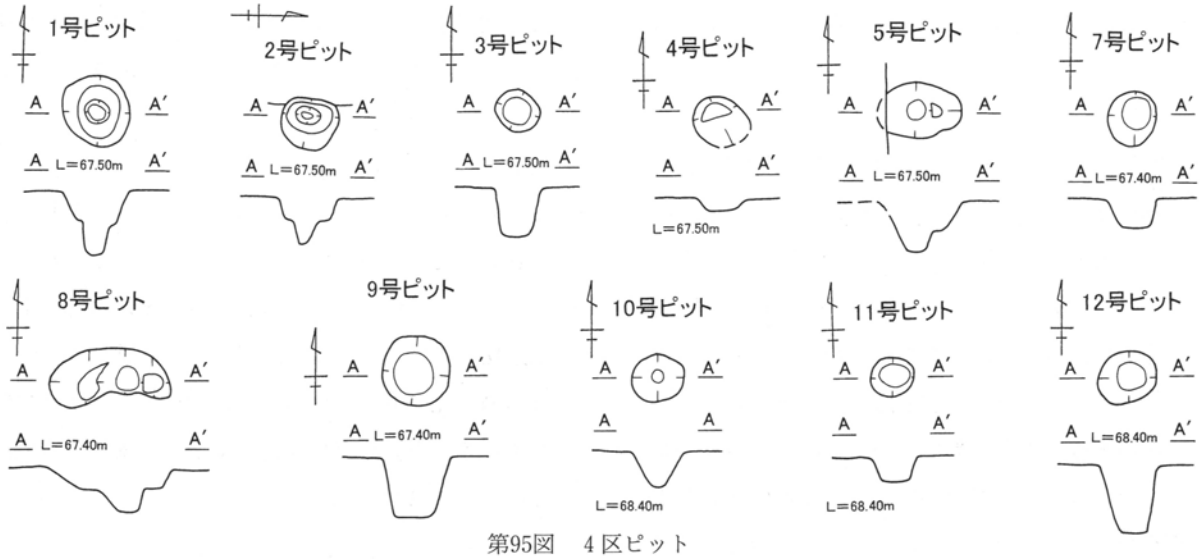
210号土坑
1　黄褐色土　シルト質で締まりあり

第94図　4区151・203・205・210号土坑と出土遺物



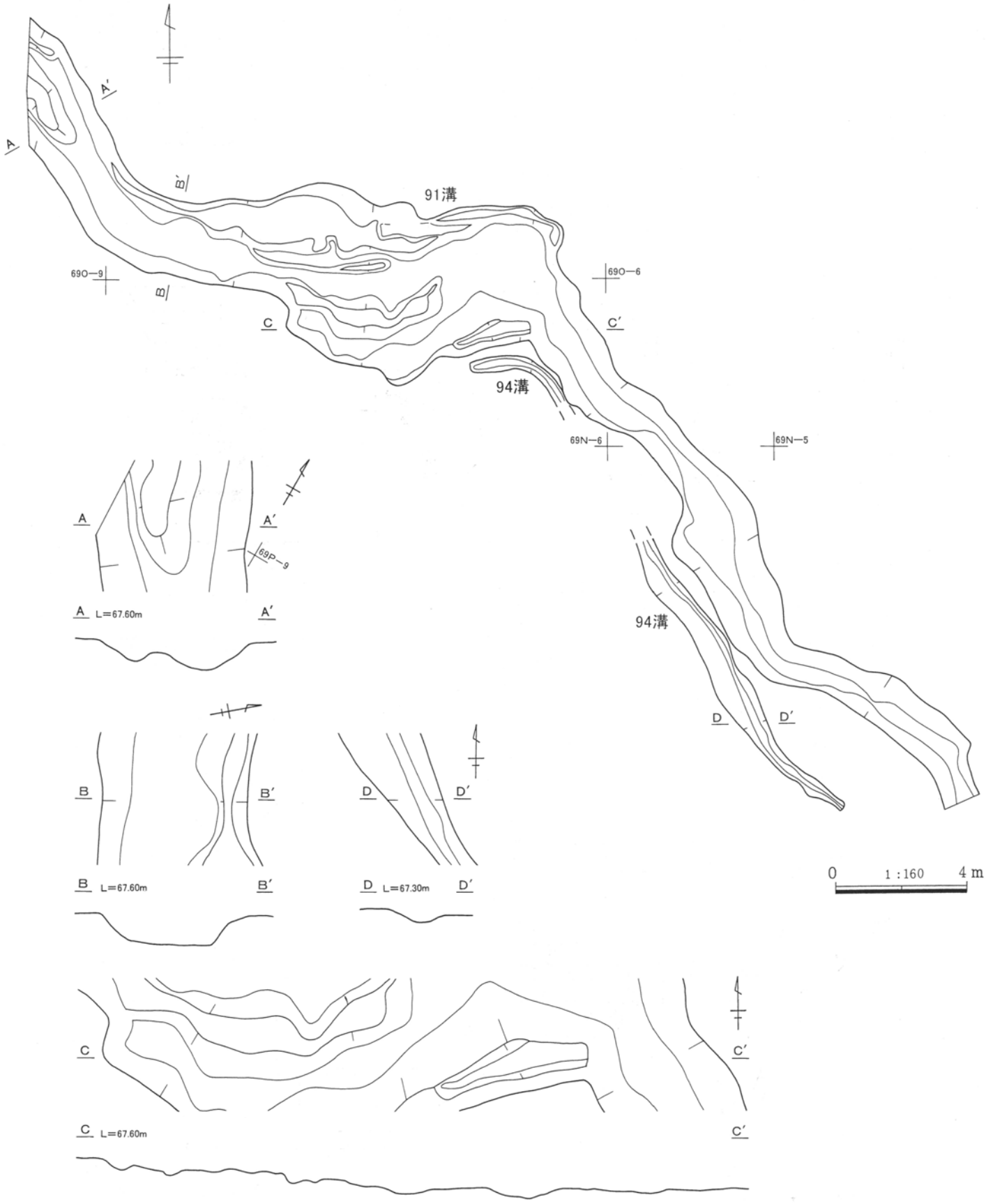
0　1：3　10cm

0　1：2　5cm

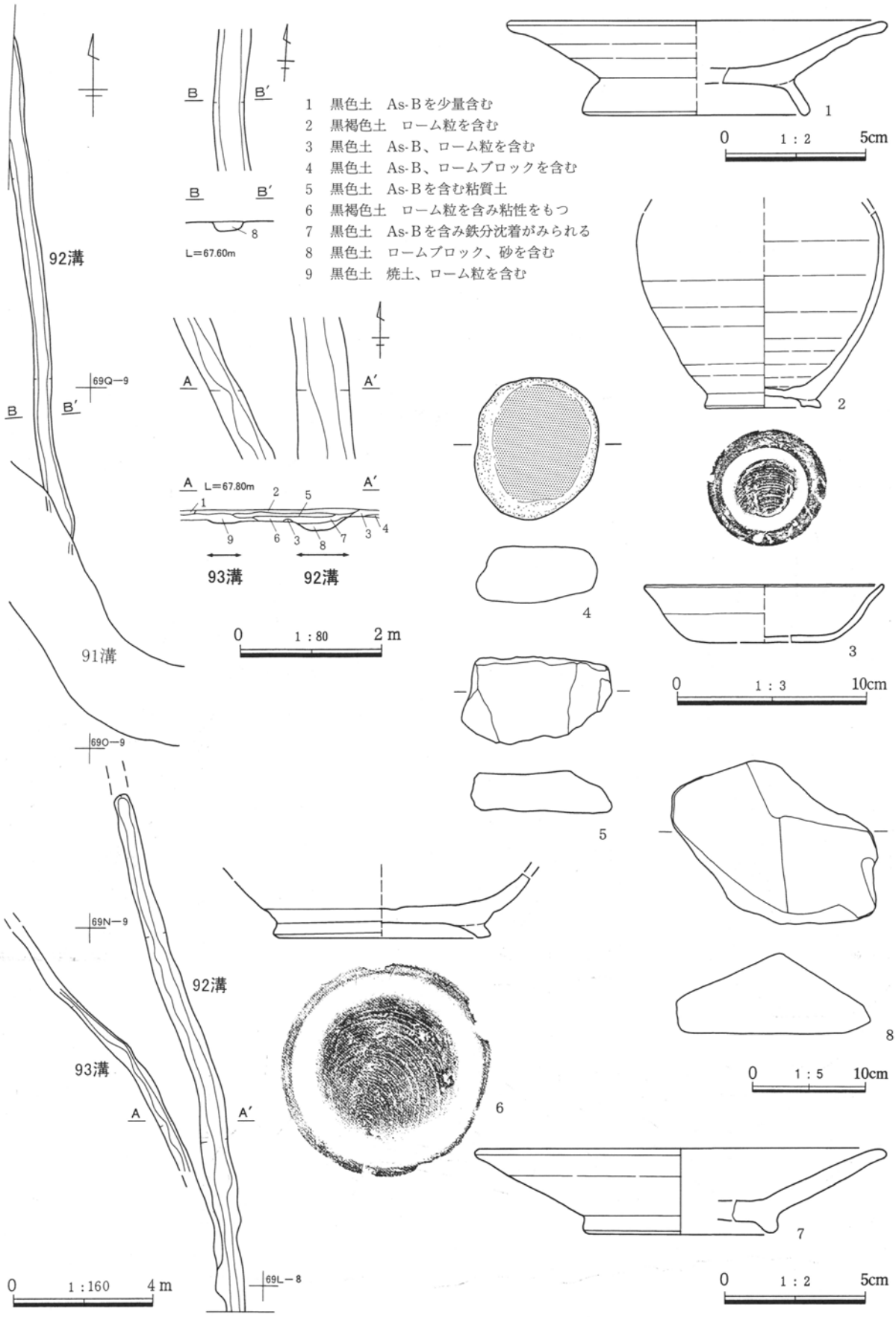


第95図　4区ピット

0　1：40　1 m

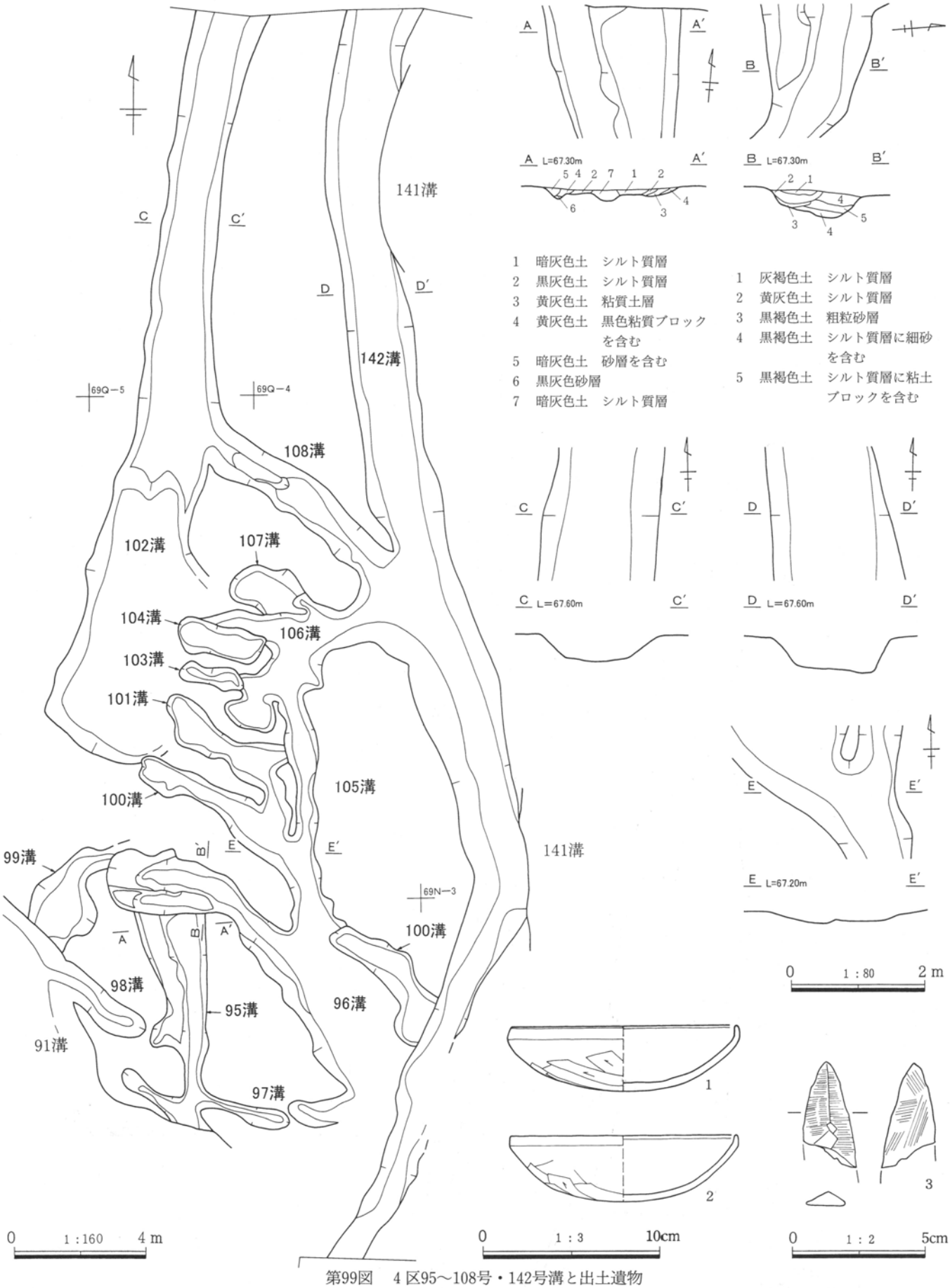


第96図　4区91・94号溝

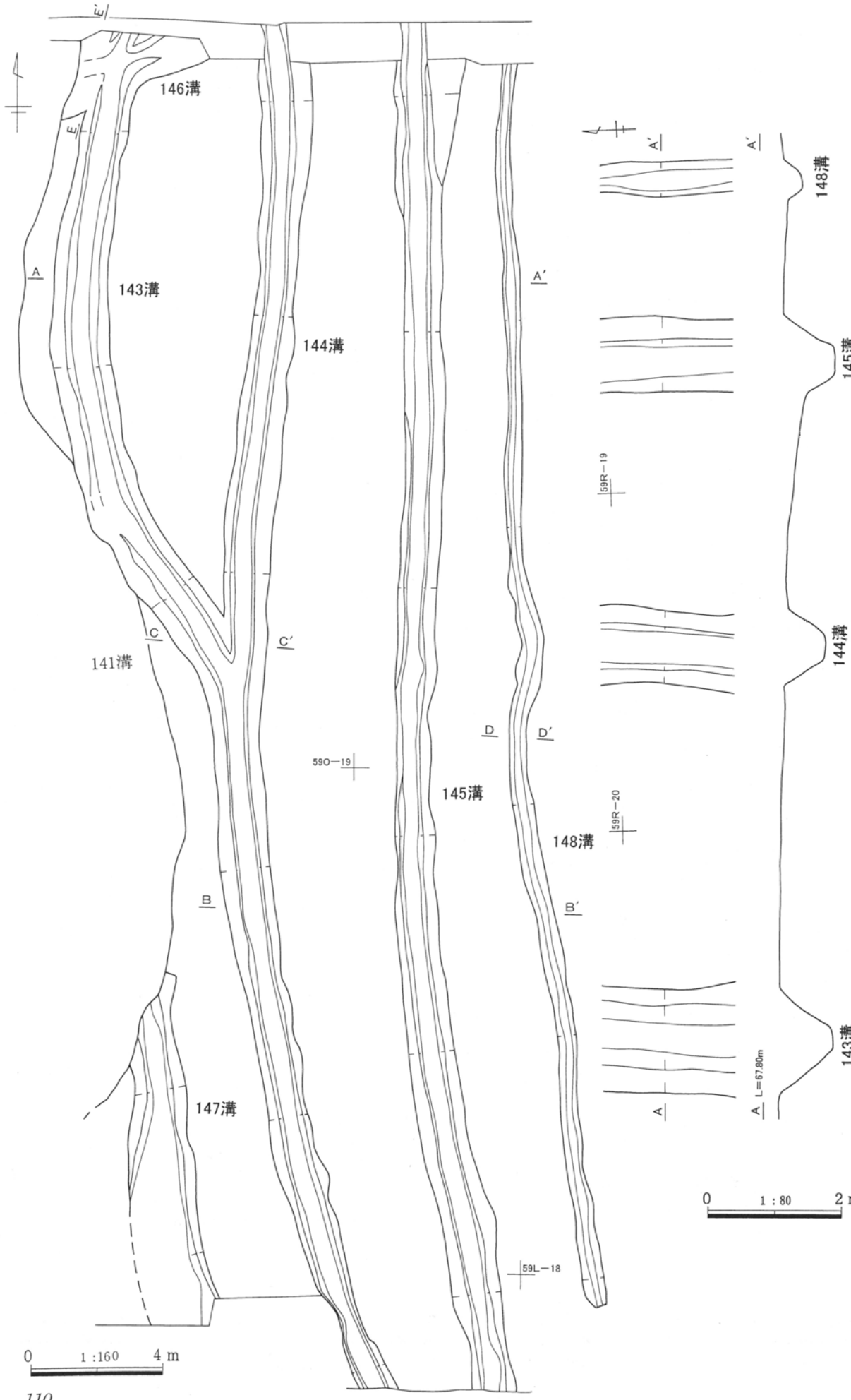


第97図　4区92・93号溝

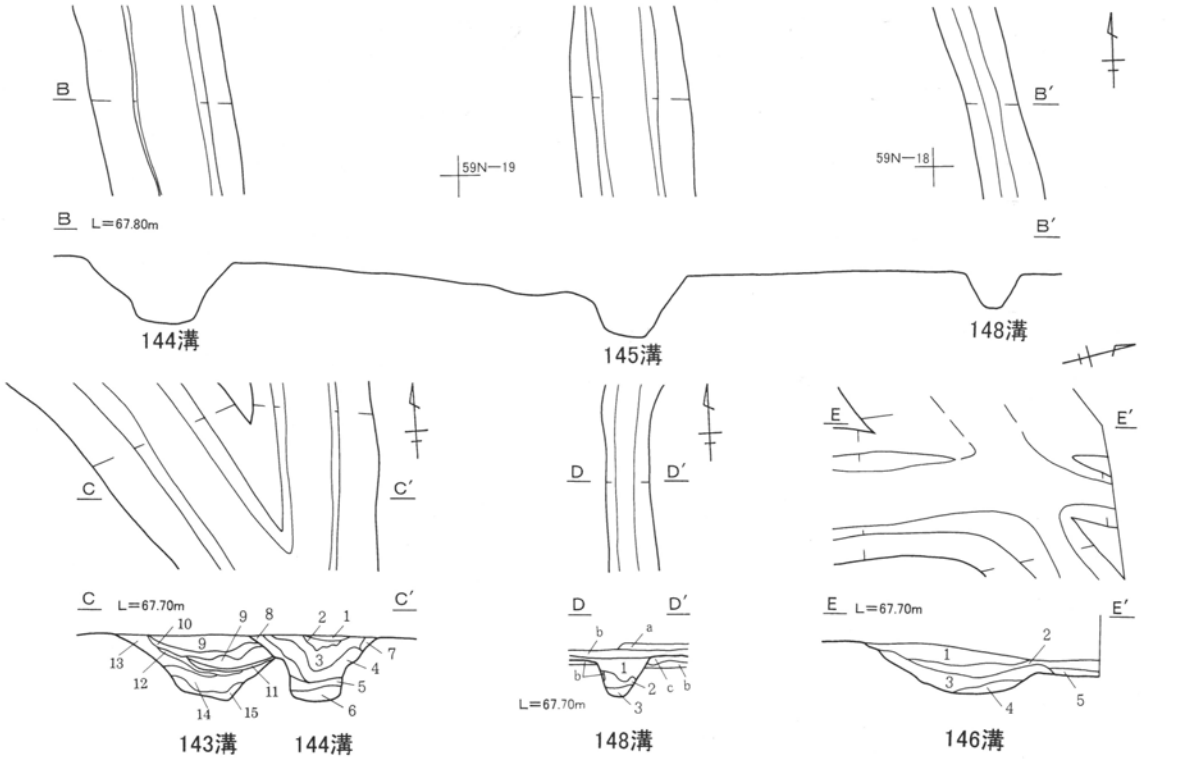
第98図　4区91・94号溝出土遺物



第99図　4区95〜108号・142号溝と出土遺物



第100図　4区143・144・145・146・147・148号溝



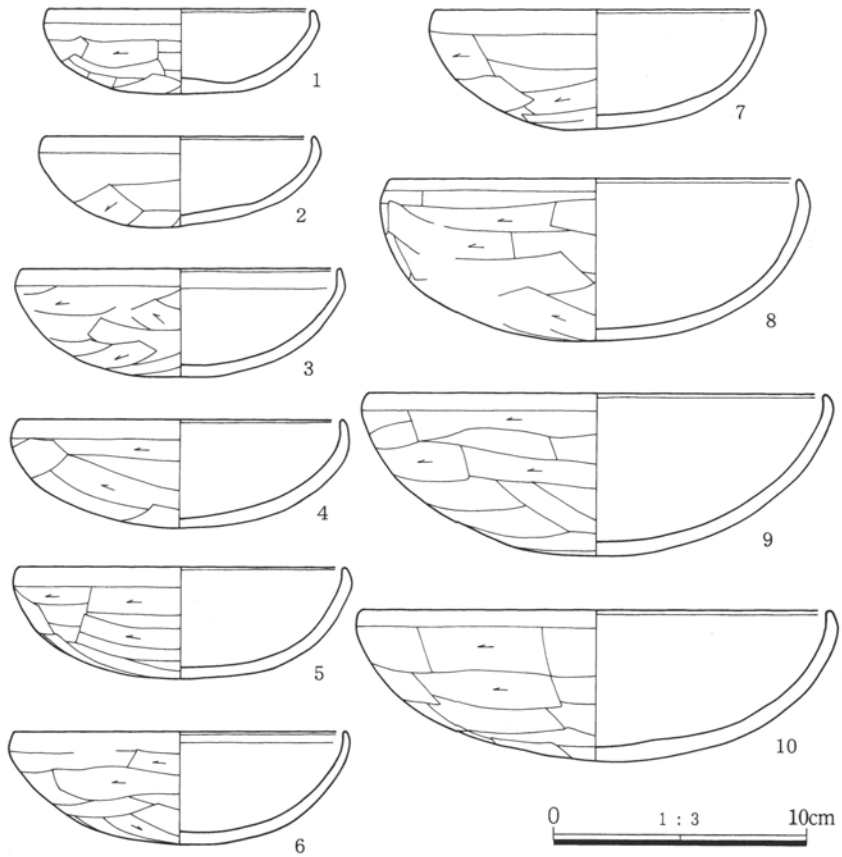
0　1：80　2 m

第101図　4区143～146号・148号溝断面

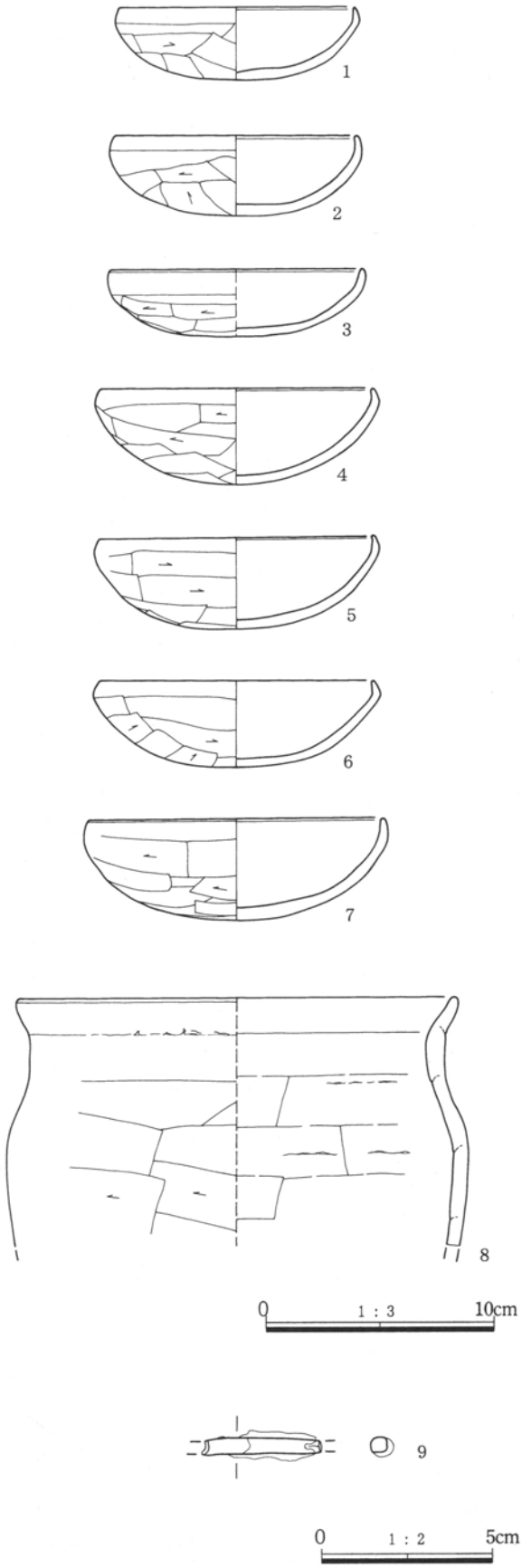
4区5.5面143・144号溝
1　暗褐色土　粘性をもち締まりあり
2　黒褐色土　軽石粒を含み締まりあり
3　暗褐色土　シルト質層
4　褐色土　シルト質で砂層を含む
5　暗褐色土　砂を多量に含む
6　黄褐色土　砂層が互層堆積する
7　褐色土　白色粒子を含み締まりあり
8　褐色土　黒色粒子を含む
9　褐色土　シルト質層
10　灰褐色土　シルト質層
11　黄褐色土　シルト質層
12　暗褐色土　シルト質層
13　暗褐色土　白色粒子を含む
14　黄褐色砂層
15　灰褐色砂層

4区5.5面148号溝
1　黄褐色土　黒褐色土を含む
2　黄褐色土　シルト質層
3　暗褐色土　シルト質層
　a　褐色土　As-Bを含む
　b　暗褐色土　As-Bを含む
　c　黄褐色土　シルト質層
　d　黄褐色土　Hr-FP泥流層

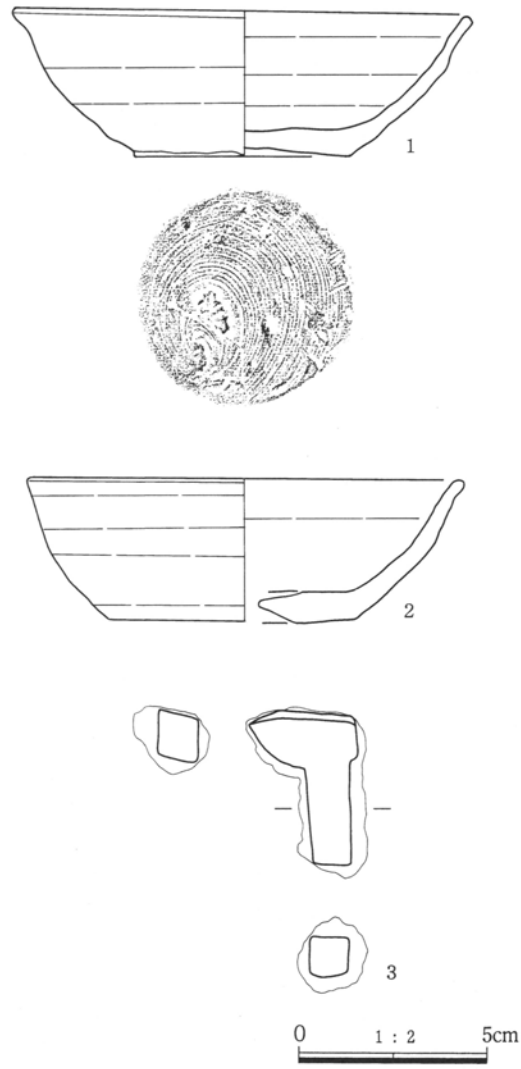
4区5.5面146号溝
1　黄褐色土　シルト質層
2　暗褐色土　シルト質層
3　灰褐色土　シルト質層
4　黄橙色層　シルト質層
5　灰黄色土　砂層



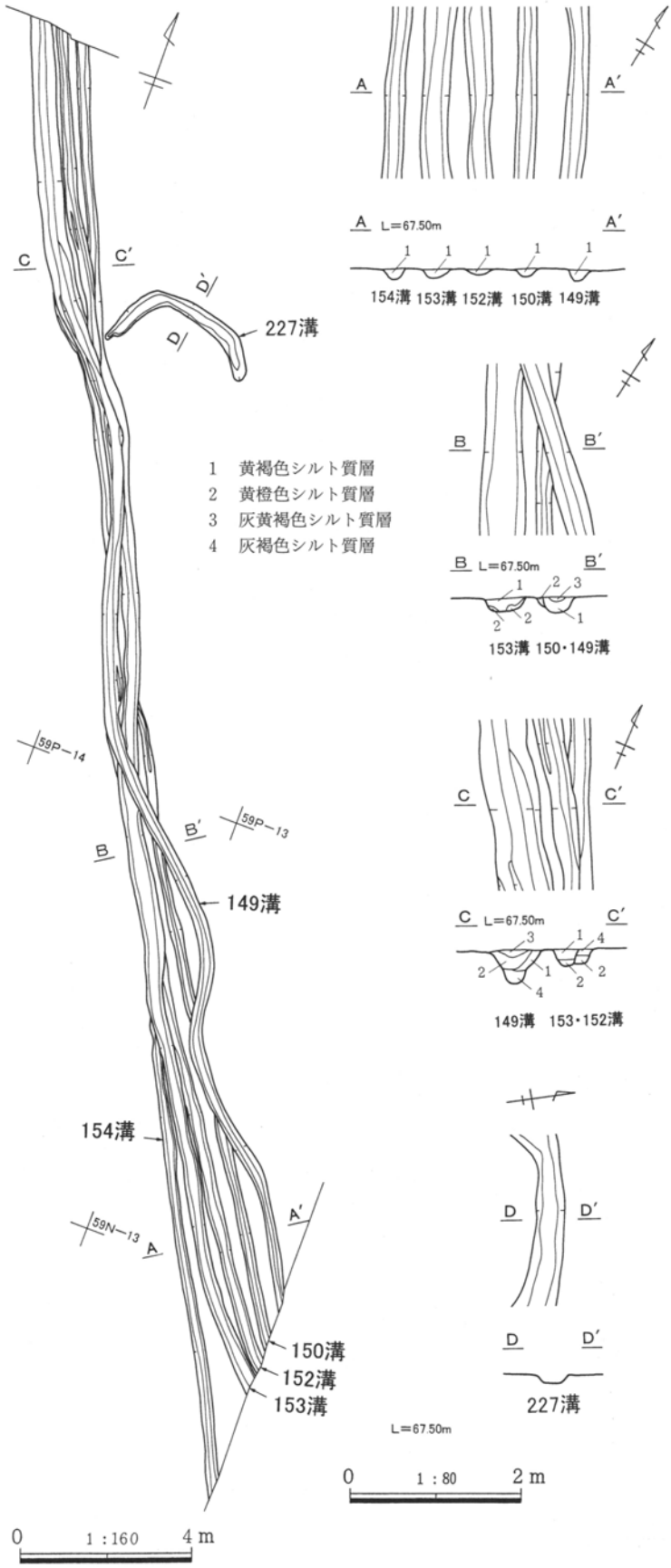
第102図　4区143号溝出土遺物



第103図　4区143号・144号溝出土遺物

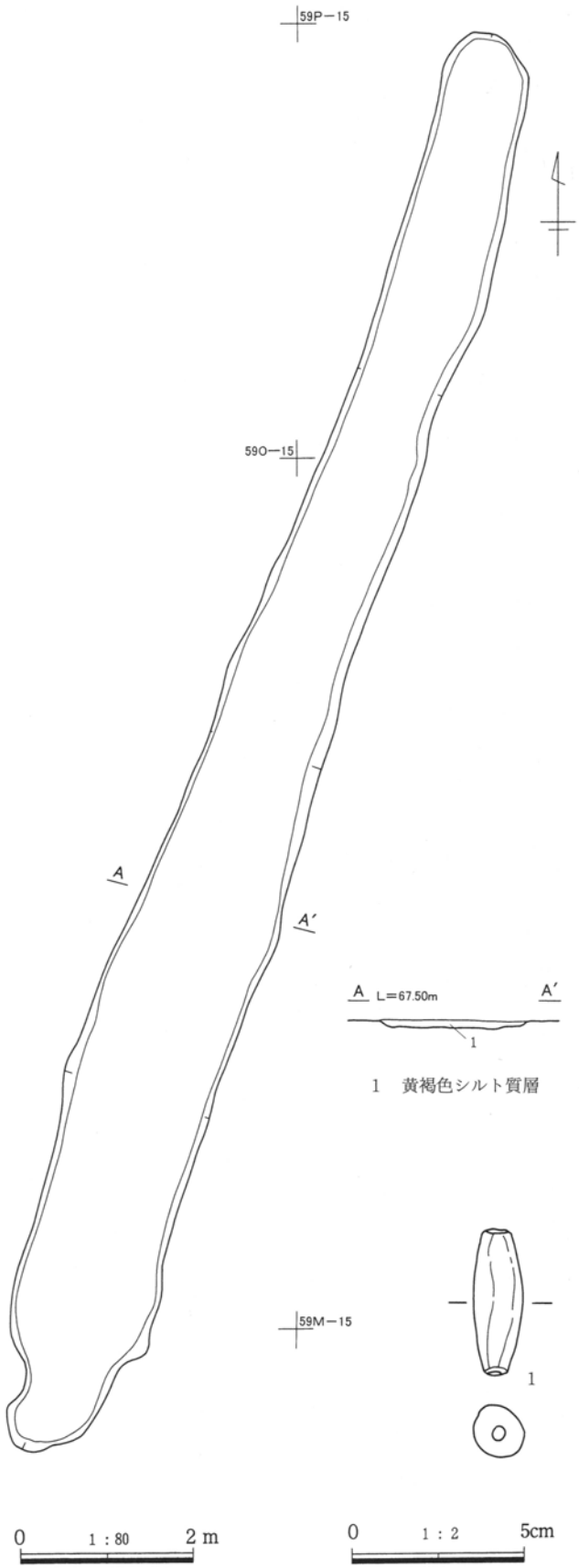


第104図　4区148号溝出土遺物

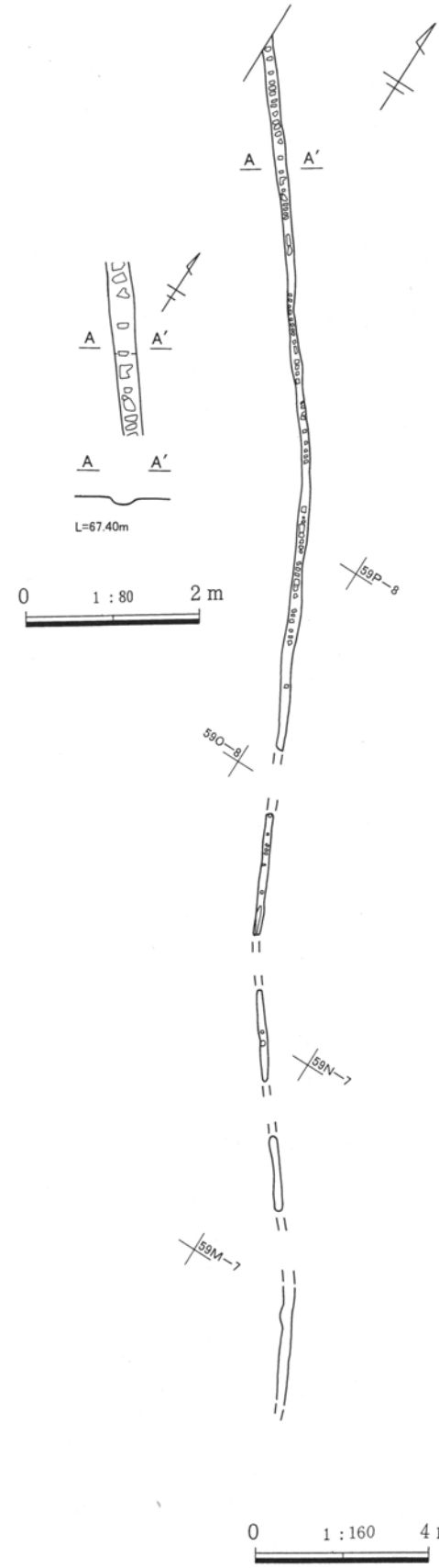


第105図　4区149・150・152～154号・227号溝

第106図　4区155号溝



第107図　4区156号溝と出土遺物



第108図　5区151号溝

7　第５面の調査

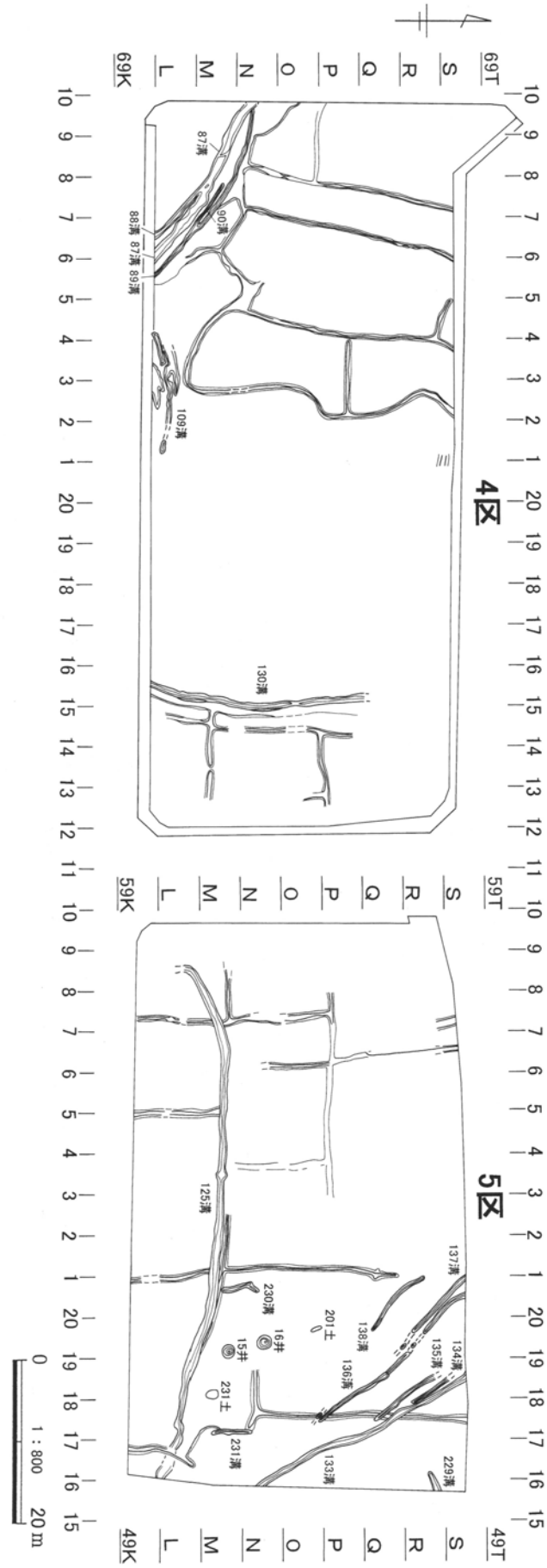
a　水田（第118図～第120図、PL19）

1108（天仁元）年噴出の浅間山Ｂ軽石（As-Ｂ）に埋没する遺構面であり、周辺遺跡の発掘調査でも広く水田面が検出されている。

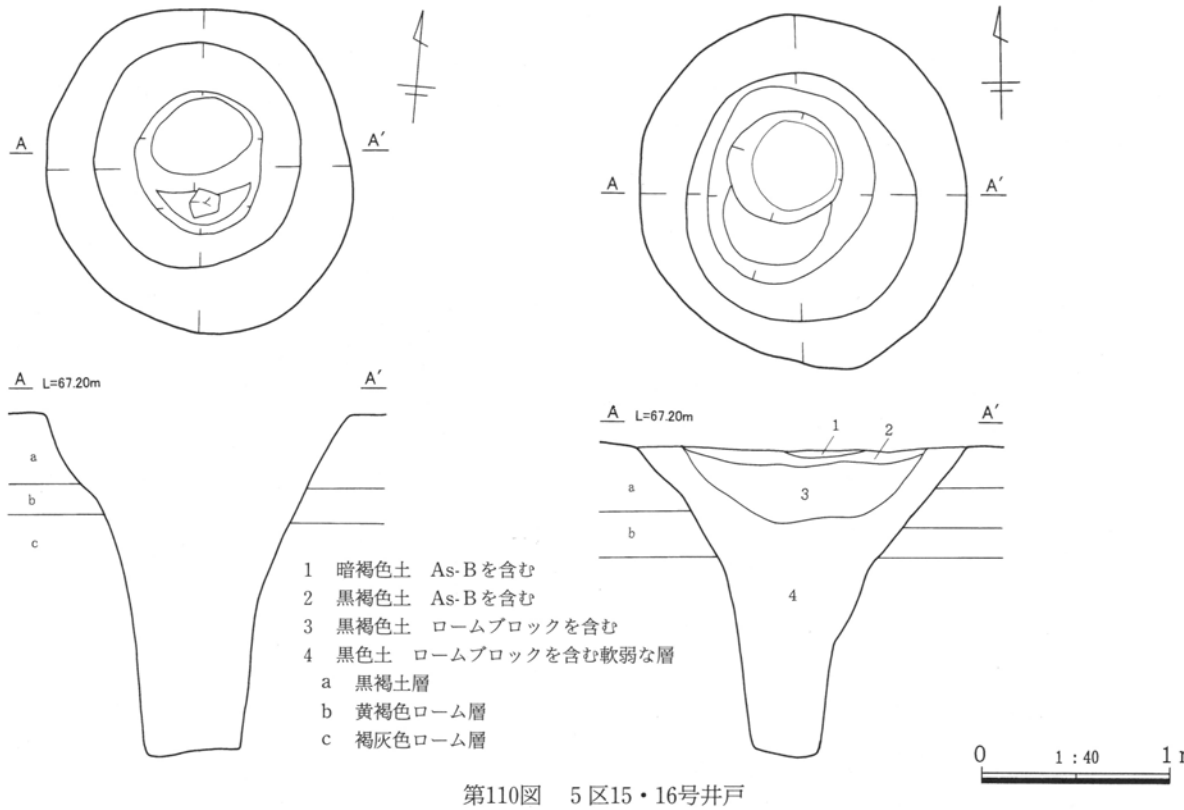
この調査においても、As-Ｂ層下に水田が検出された。全体的にAs-Ｂ層の残存状況は不良である。比較的残存状況の良好な４区西半部でも層厚５cm～10cm程度であり、同区東半部から５区では、As-Ｂ層が残存せず、基本土層４層にあたるAs-Ｂを混入する土層（通称Ｂ混土層）が直接水田を被覆する状態であった。

確認された畦畔はほぼ東西南北方向に走行をもつ。玉村町域で推定されている古代条理区画に沿ったものと理解される。

検出された畦畔は、被覆するテフラ層が遺失する部分が多く、さらに土圧により低平化することからわずかな高まりとして認識できる程度である。おそらく４区、５区とも全域が水田であると思われるが、４区中央部分には畦畔がほとんど確認されていない。この部分は、5.5面とした遺構確認面で住居群、掘立柱建物柱群および溝群が検出された区域と一致する。５面においては、遺構とみられるような痕跡はまったく観察されていないため、水田が広がっていた可能性とともに、耕作地としてではない土地利用がおこなわれていた可能性も考慮しなければならない。ただ、5.5面で確認されたような居住域としての利用は確認状況からないものと考えられる。４区西端部は畦畔が東西南北の走行ではなく。地形に沿った水田区画が認められる。この部分では、南西隅部に微高地が存在し、その縁辺から畦畔が延びているため、検出された他の水田区画とその走行を異にしている。また、微高地縁辺には87号～90号溝が巡っている。これらの溝はやや不規則な平面形を示し、底面も起伏をもつ、不定形な溝群である。微高地縁辺に沿って巡ることから、水田に伴う水路としての機能をもつものと考えられる。この部分では、溝群に接して畦畔がちょうど放射状に設置されてい

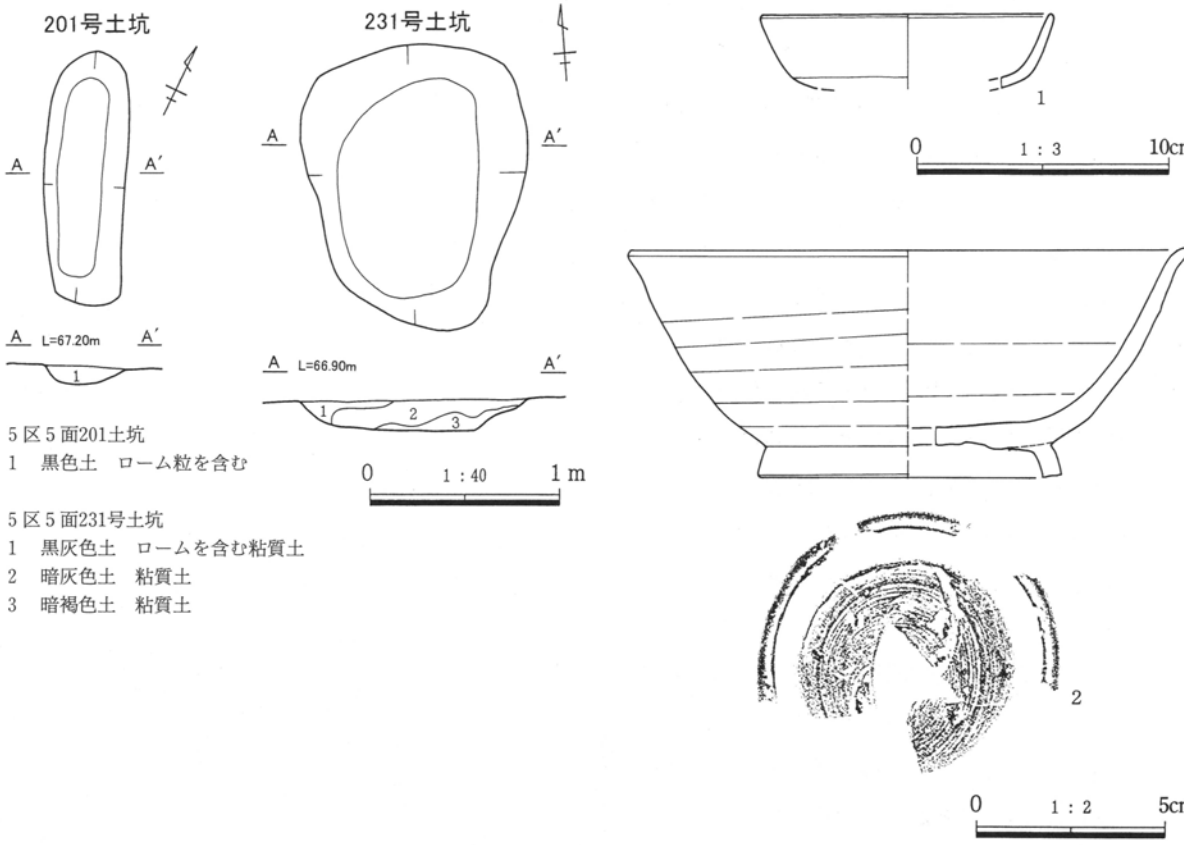


第109図　第５面全体図



1　暗褐色土　As-Bを含む
2　黒褐色土　As-Bを含む
3　黒褐色土　ロームブロックを含む
4　黒色土　ロームブロックを含む軟弱な層
a　黒褐土層
b　黄褐色ローム層
c　褐灰色ローム層

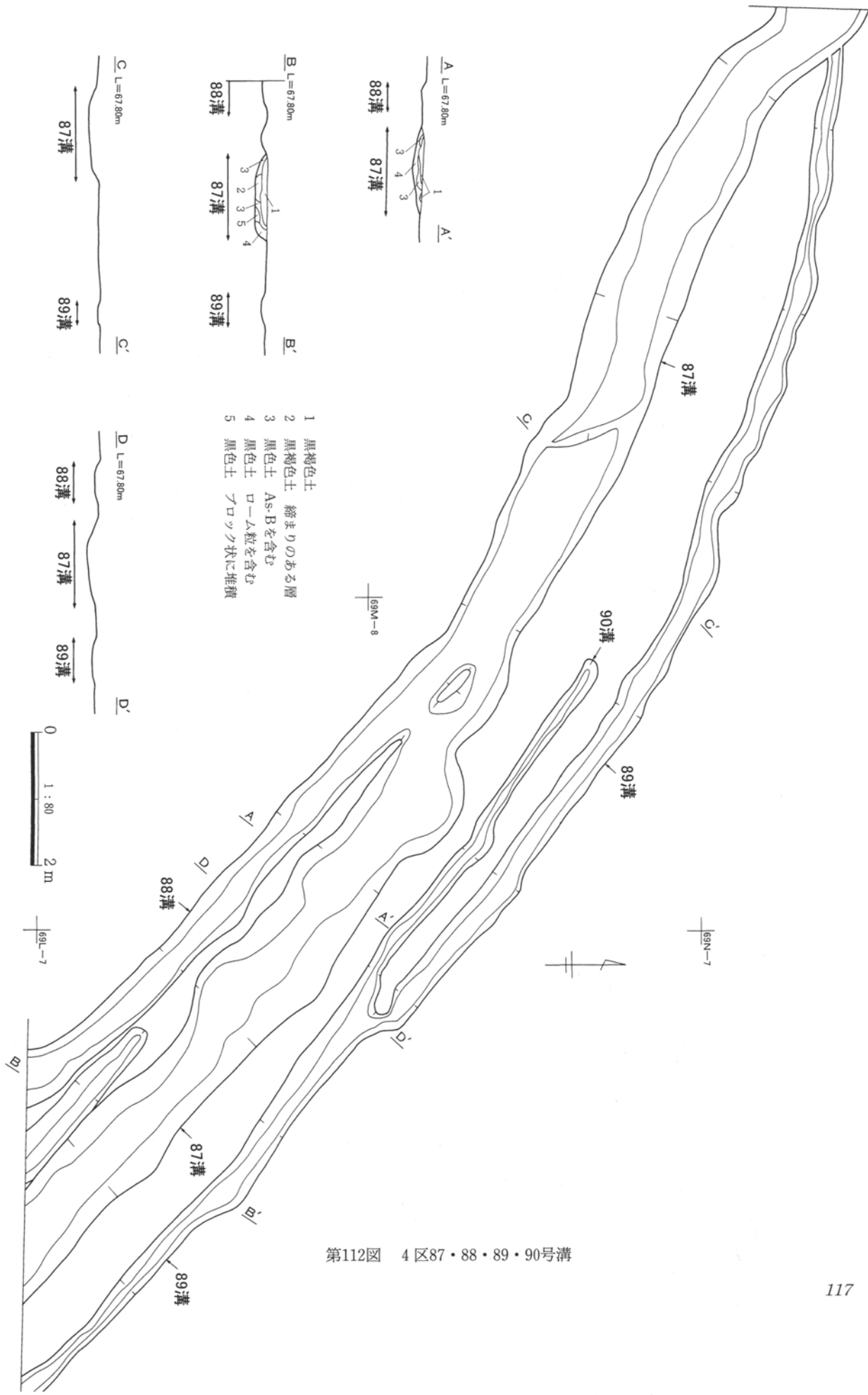
第110図　5区15・16号井戸



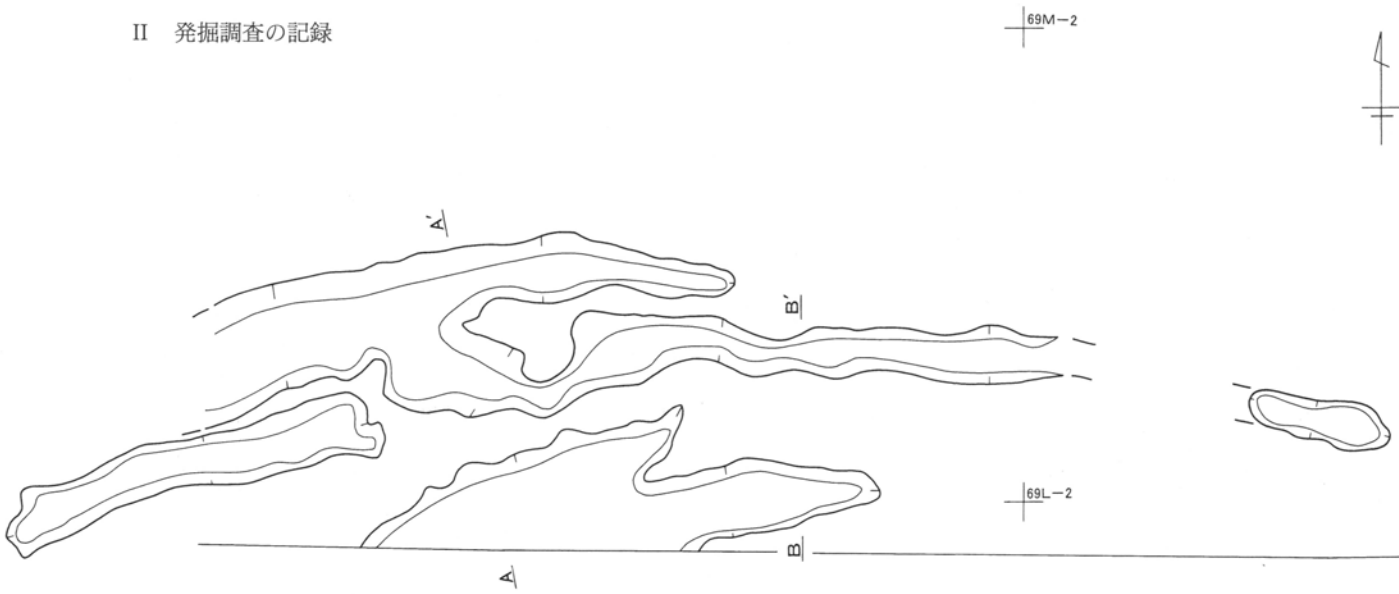
5区5面201土坑
1　黒色土　ローム粒を含む

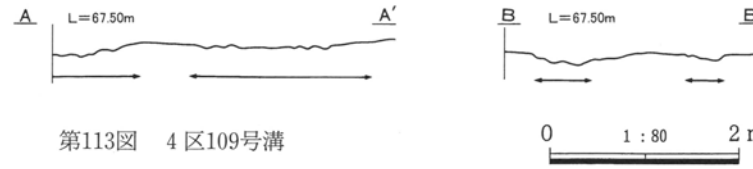
5区5面231号土坑
1　黒灰色土　ロームを含む粘質土
2　暗灰色土　粘質土
3　暗褐色土　粘質土

第111図　5区201・231号土坑と出土遺物

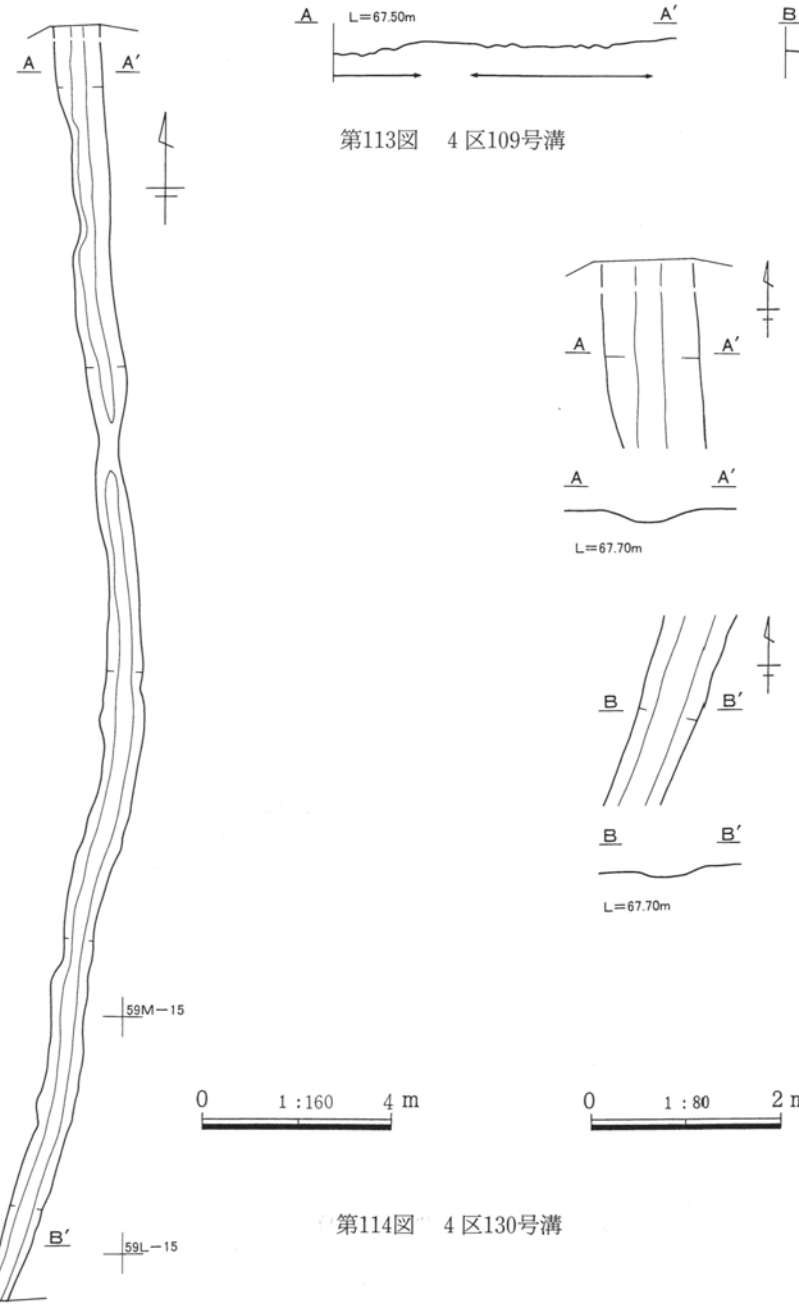


第112図　4区87・88・89・90号溝

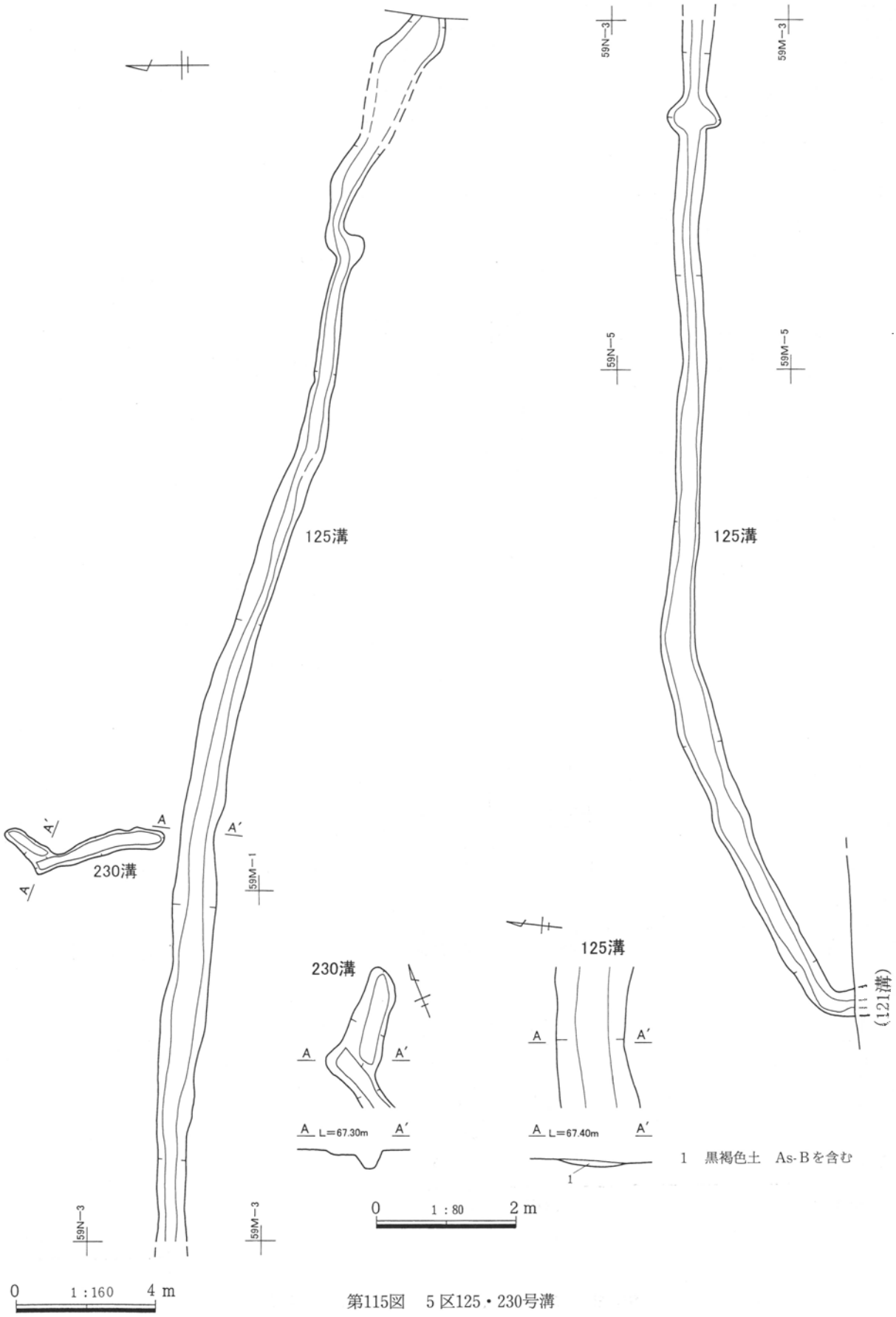




第113図　4区109号溝

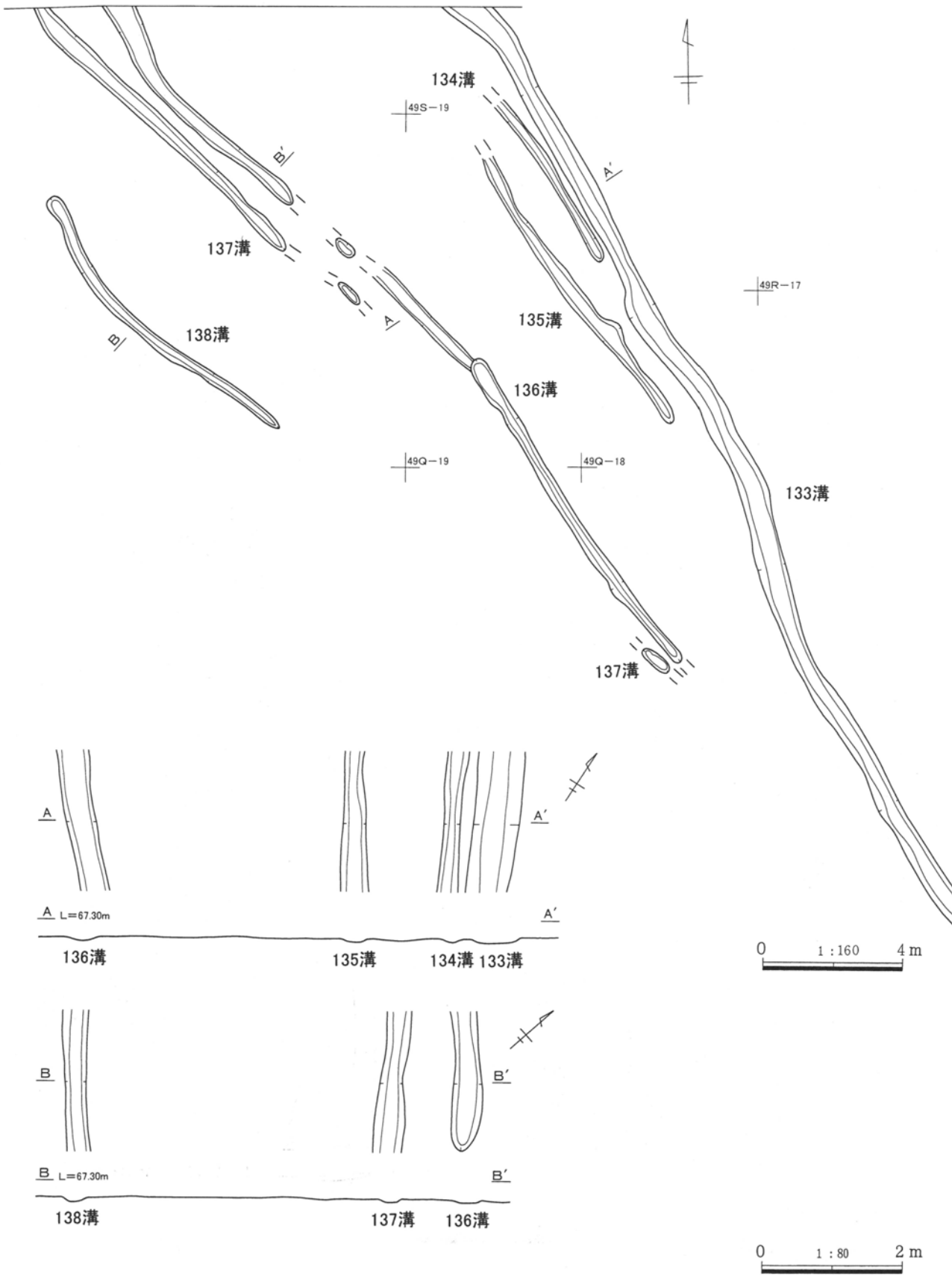


第114図　4区130号溝



1　黒褐色土　As-Bを含む

第115図　5区125・230号溝



第116図　5区133・134・135・136・137・138号溝

る。なお、この付近の畦畔の歪みは、下位に存在する141号溝の影響である。

b　井戸（第110図）

5区で2基の井戸が検出された。15号井戸は49M-19グリッド、16号井戸は49O-19グリッドに位置し、第5面水田検出に伴い、水田面上で確認されている。なお、両井戸は約4mの間隔をもって並んでいる。

15号井戸は、長軸170cm、短軸160cmを測るほぼ円形平面を呈し、深さは180cmである。16号井戸は径180cmの円形平面を呈し、深さは160cmである。両井戸とも下半部は円筒形を呈し、上半部である開口部は漏斗状に広がりをもつ。このように、2基の井戸は近接して位置するとともに、規模や形態も類似している。時間的関係は不明だが、このような点から近接した時期に存在し、関連性を有す遺構であるとみられる。

C　土坑（第111図）

201号土坑

49O-19グリッドに位置する。長軸130cm、短軸40cm、深さ10cmの長円形平面の土坑で、弧状の断面形を呈する。坑内からの出土遺物は認められない。

231号土坑

49M-18グリッドに位置する。長軸150cm、短軸120cmで、やや不規則な楕円形平面を呈する。深さは15cmで、底面は平坦である。埋没土から、土師器坏および須恵器椀が出土している。

d　溝（第112図～第117図）

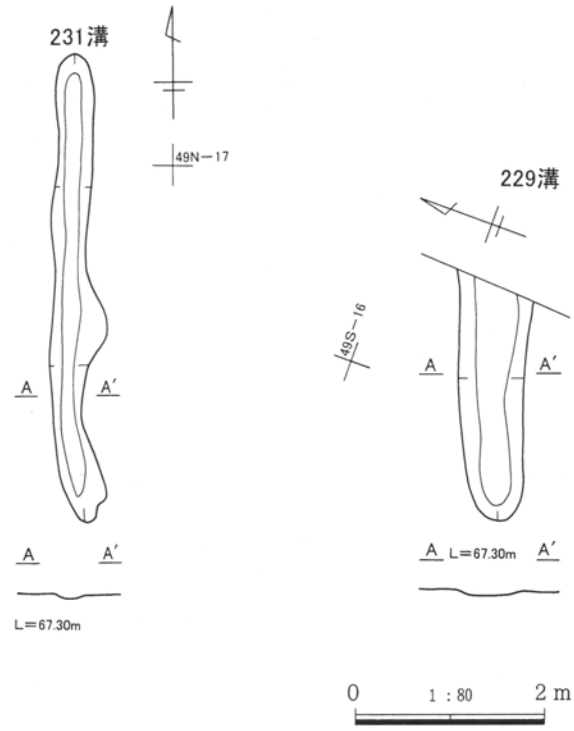
溝は、4区・5区にそれぞれ検出されている。小規模なものが多く、位置や走行から次のように分類できる。

(A)　87号～90号溝

4区南西隅に認められた微高地縁辺を巡る溝群。複数の溝が重畳しているため、平面形上は単一時期の溝を把握できない。重複関係が明確ではないことから、近接した時期に継続的に繰り返し存在したことが考えられる。

(B)　133号～138号溝

5区で確認された一群で、南西から北東方向に走行をもつ溝群。この遺構確認面はほぼ平坦であるが、



第117図　5区229・231号溝

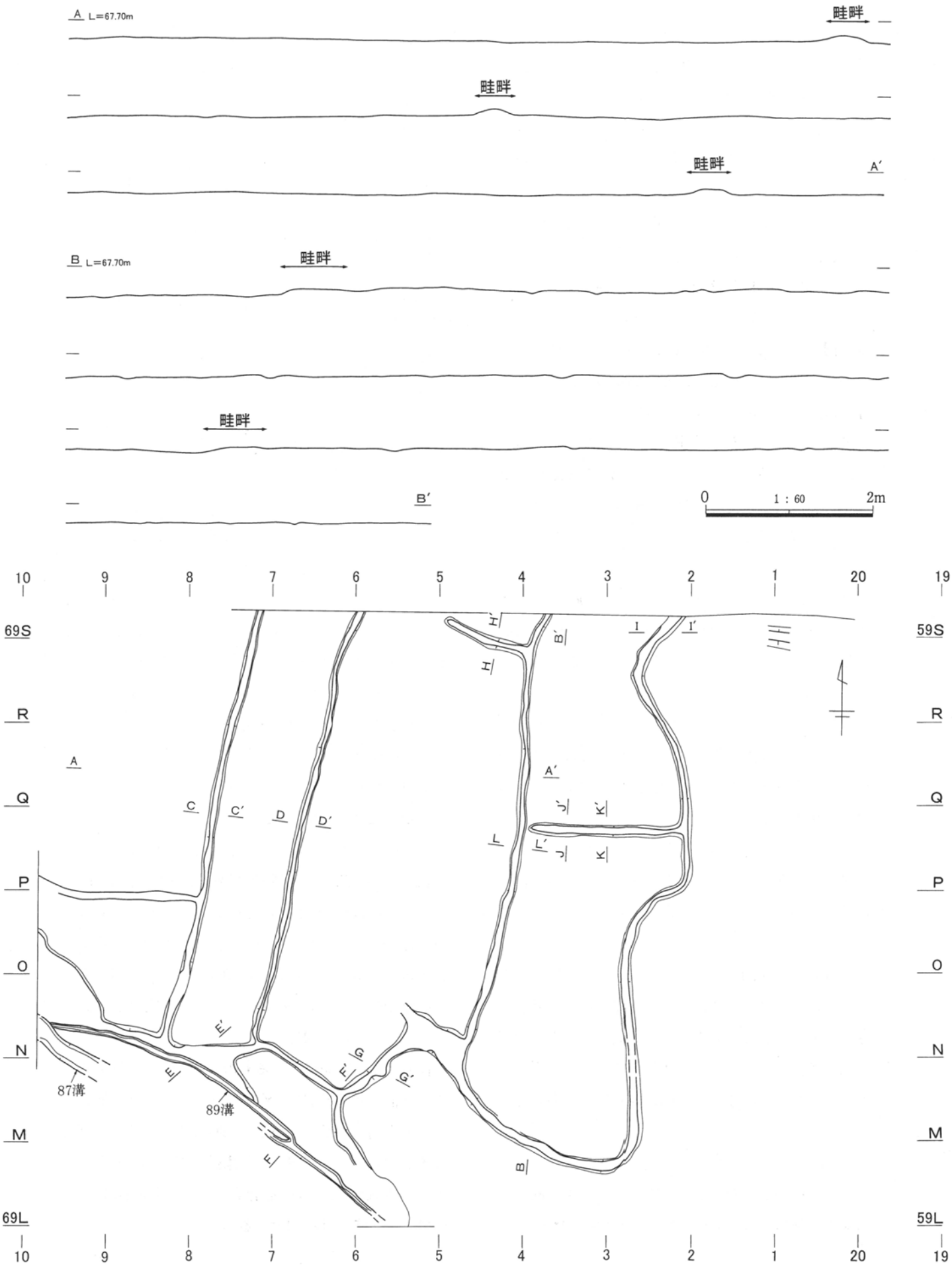
地形はわずかにこれらの溝群の走行に傾斜している。規模は133号溝が幅66cmとやや幅広であるが、他溝は35cm～50cmの幅で、平均40cm程度である。深さは5cm前後と浅く、上部が遺失しているであろうが小規模な溝群といえる。走行もやや不安定で、不規則に蛇行する。

(C)　125号、130号、230号、231号溝

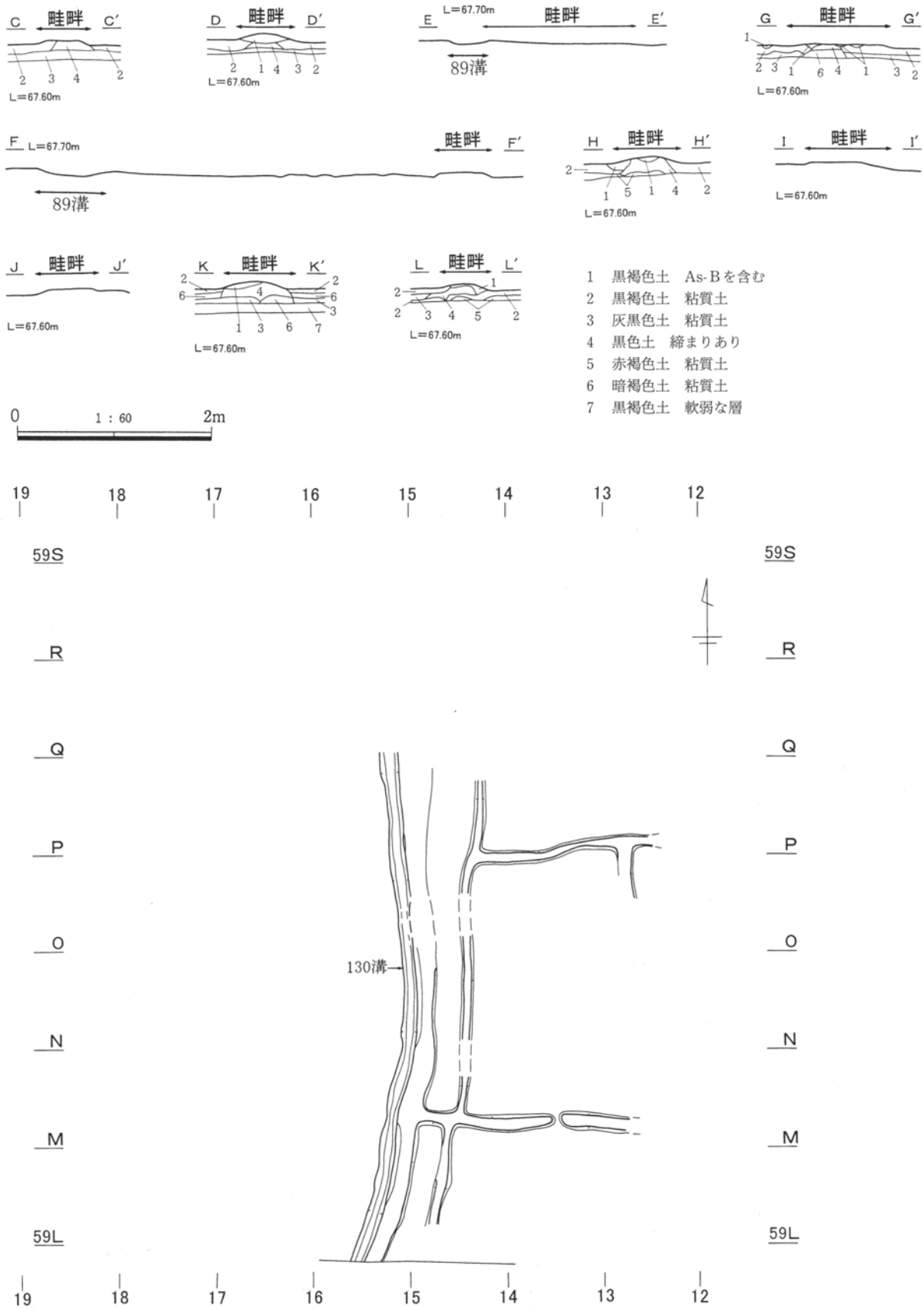
基本的に畦畔に沿った位置に認められる溝である。125溝は東西方向の畦畔に沿っているが、溝が時間的には新しく、畦畔上を横切っている。130号溝は、南北方向の畦畔に沿った位置に認められた。畦際に設置される水路とみられる。230号溝および231号溝も畦畔の走行にほぼ一致するが、部分的な確認である。

(D)　109号、229号溝

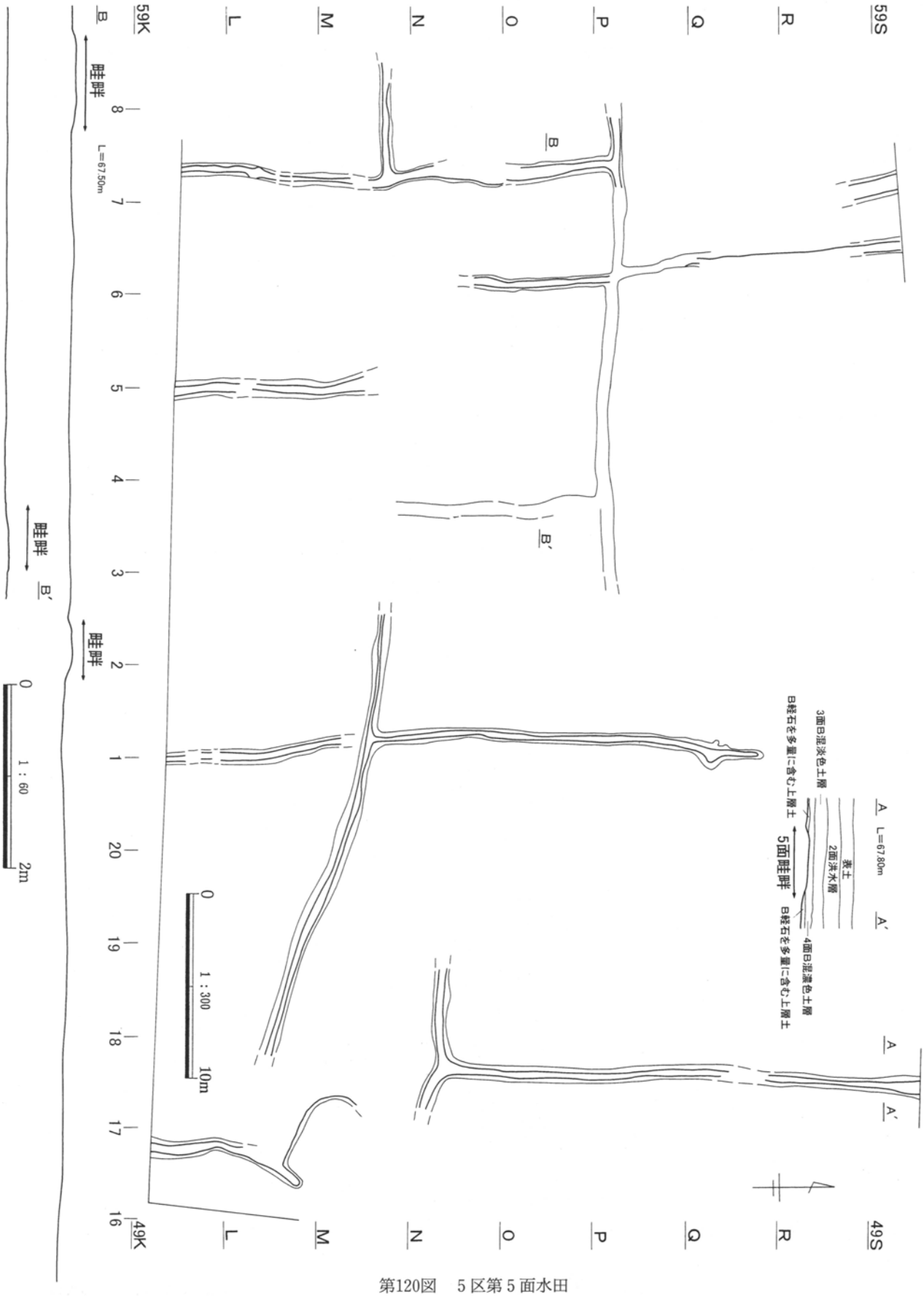
他溝とは走行を異にするもので、一部の確認のみである溝。109号溝は4区南壁部で検出された溝群で、不規則な平面形を呈し、弧状に走行する不安定な遺構である。229号溝は5区東壁部で検出されたもので、幅80cm、深さ5cmを計測するが確認延長は250cmであり、走行は不明である。



第118図　4区第5面水田（1）



第119図　４区第５面水田（２）



第120図　5区第5面水田

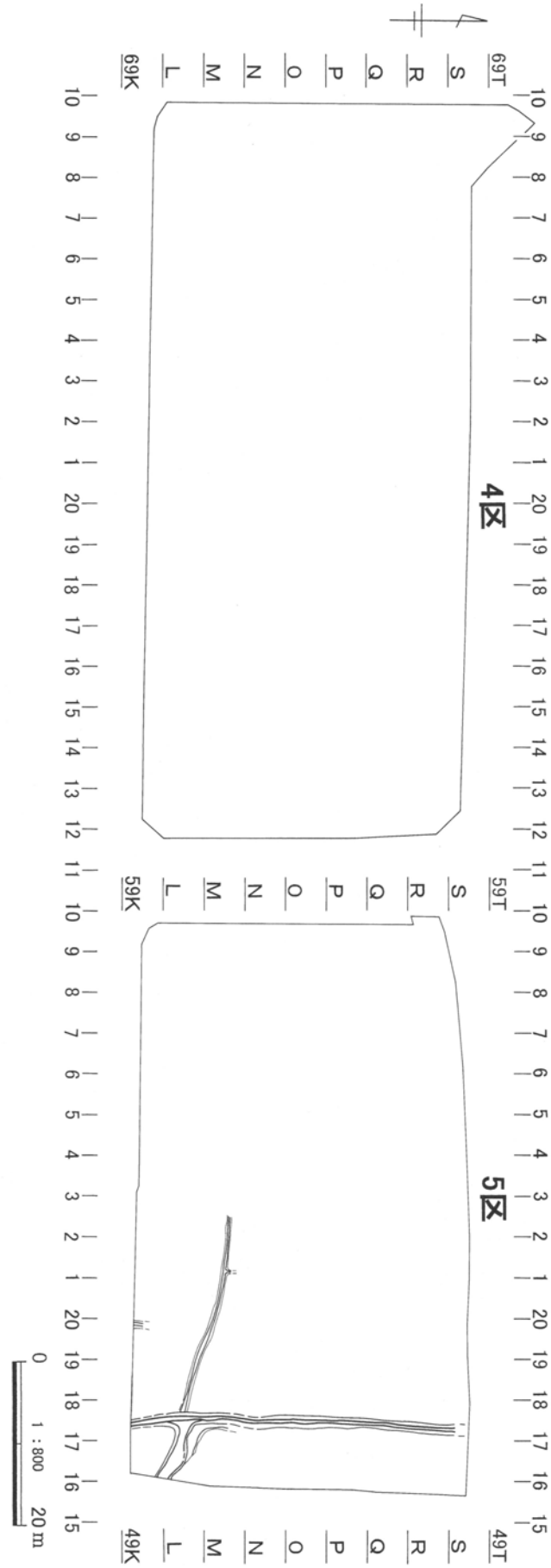
8　第４面の遺構

a　概要（第121図）

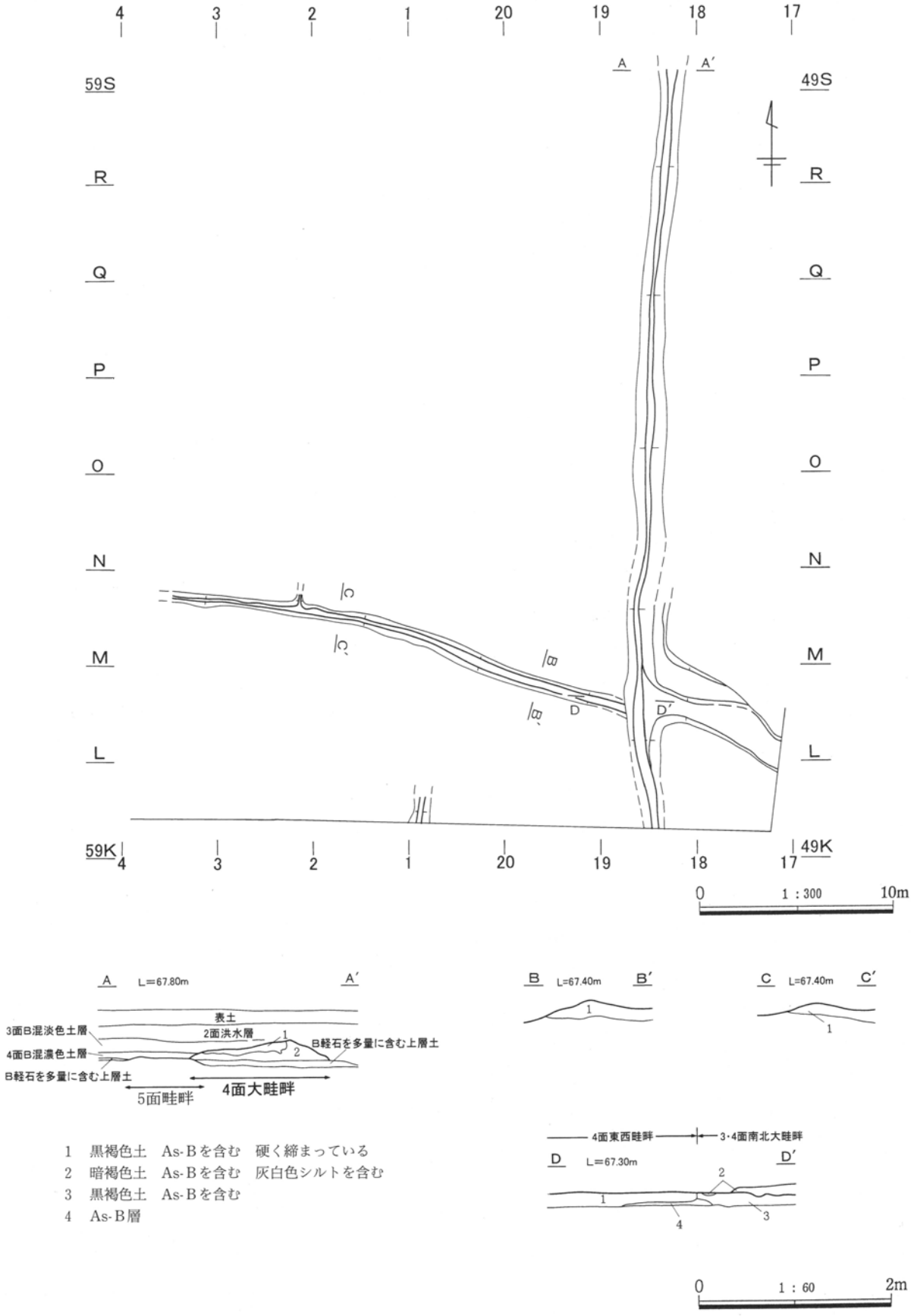
この地域では、As-Bを含む土層は広範囲に確認され、その層中には遺構面が存在することが明らかとなっている。この土層は通称「B混土」と呼ばれ、多くの地点で単一層ではなく、分層されることが共通する特徴となっている。通称のように土層中にAs-Bが混入することが特徴であるが、その混入もブロック状ではなく、均一に含まれており、撹拌されたような状態である。1108（天仁元）年に噴出したAs-Bが降下堆積した後、土壌が形成され、さらに耕作が行なわれることでこの土層が堆積したことになる。また、土層断面をみるとわずかながら黄褐色シルト質層が薄層状に観察される。このことは、土層の形成に際して水の影響力も存在していた可能性を伺わせる。人為的、自然的な営力によって、同土層が形成されてきたものと考えておきたい。その過程で営まれた生活面が痕跡として検出されるものと思われる。同土層の形成は、これまでの調査成果から中世に相当し、確認される遺構は水田の他、環濠集落（館）が特徴的な存在となっている。

b　水田（第122図、PL）

今回の調査においても、この土層が２層に分層され、４面では水田が検出された。４区では、４面の遺構確認面である基本土層４－ｂが部分的な残存であるため、遺構は検出できなかった。５区では、17グリッド付近に南北方向のアゼが検出され、東西方向も部分的に確認された。この南北アゼは、幅160cm前後と幅広である。他アゼがほとんど残存しないが、この南北アゼは明瞭に検出された。これは下層の第５面および上層の第３面においても、ほぼ同様の位置にアゼが存在しているためであろうと考えられる。つまり、この南北アゼが少なくとも1108（天仁元）年以降、中世まで継続的に踏襲されてきたことが要因となるのだろう。土地区画の基準となる位置にこのアゼが設定されていたものとみられる。これに関連する条里制に関連する調査事例は明確ではないが、今後の検討事例となるものと考えられる。なお、畦畔以外の遺構および遺物の出土は認められていない。



第121図　第４面全体図



1　黒褐色土　As-Bを含む　硬く締まっている
2　暗褐色土　As-Bを含む　灰白色シルトを含む
3　黒褐色土　As-Bを含む
4　As-B層

第122図　5区第4面水田

9　第３面の遺構

a　概要（第123図）

第３面は基本土層４－ａ層上面を確認面とし、３層にあたる褐色シルト質の洪水堆積層により被覆される。

４区では南北方向および東西方向に走行する溝が検出され、５区では南北方向のアゼが確認された。

b　溝（第127図～第134図、PL21、22）

４区の溝はほぼ方形に巡り、規則的な位置関係をもつようにみられる。これらに溝について、走行する方位ごとに概要を示しておきたい。

・南北方向に走行する溝群。

112号溝、114号溝～119号溝、171号溝および172号溝の８本がある。

112号溝は、59Ｐ～Ｒ-18･19グリッドに位置する。幅25cm、深さ20cmを測り、117号溝と重複する。北壁から延長６ｍ程度で南側への延長は不明となる。

114号溝は、59Ｍ～Ｓ-12グリッドに位置し、幅50cm、深さ20cm、延長30ｍ程度確認された。走行はＮ-10°-Ｗ示す。115溝は、59Ｐ～Ｒ-12グリッドに位置し、幅20cm、深さ３cm程度で、一部不明ながら延長16mが確認された。116号溝は、59Ｐ～Ｑ-12グリッドに位置し、幅25cm、深さ３cmで、延長６ｍが確認された。この114号～116号溝は並行関係にあり、114号溝と115号溝は２ｍ前後の間隔で、115号溝と116号溝は近接する。道路に伴う側溝の可能性があろう。

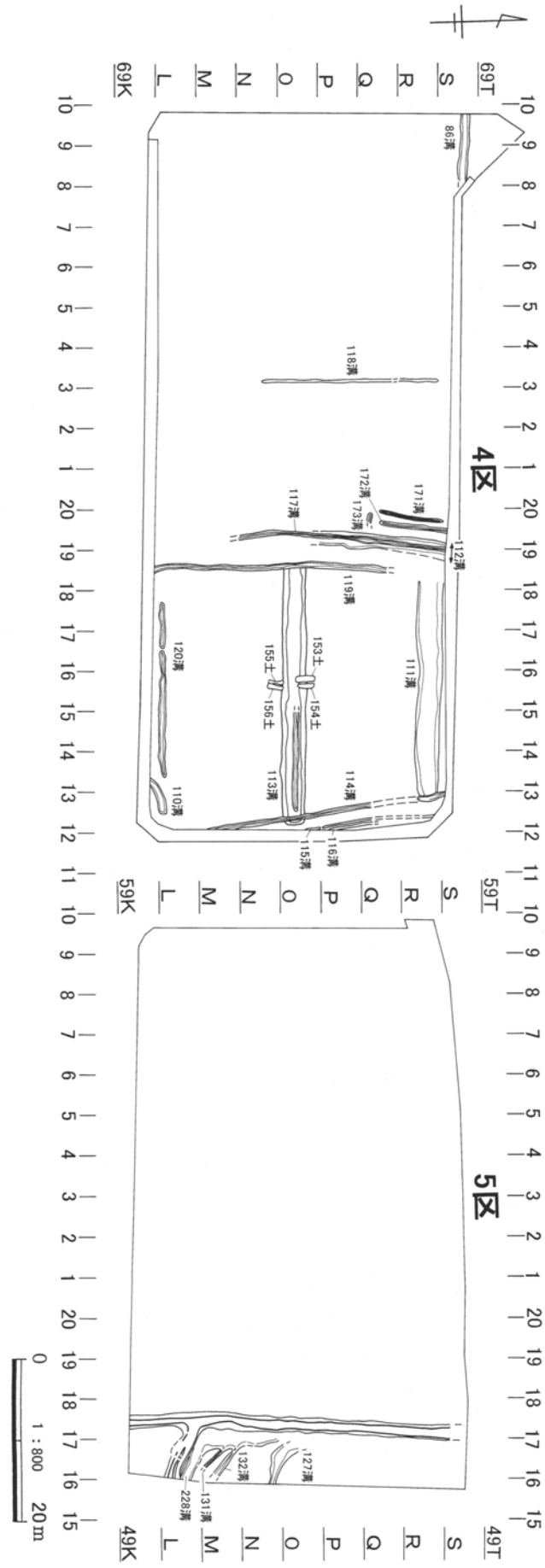
117号溝、119号溝、171号溝、172号溝は幅50cm前後、深さ10cm前後で、59-18･19グリッドラインに位置し、ほぼ南北方向に走行する。117号溝・119号溝間は350cm～400cm、117号溝･172号溝間は250cm、172号・171号溝間は100cmを計測する。

118号溝は幅30cm、深さ８cmで、69-３グリッドラインに沿った位置に確認された直線的な溝である。延長22m程度であり、南および北側への延長部は不明である。

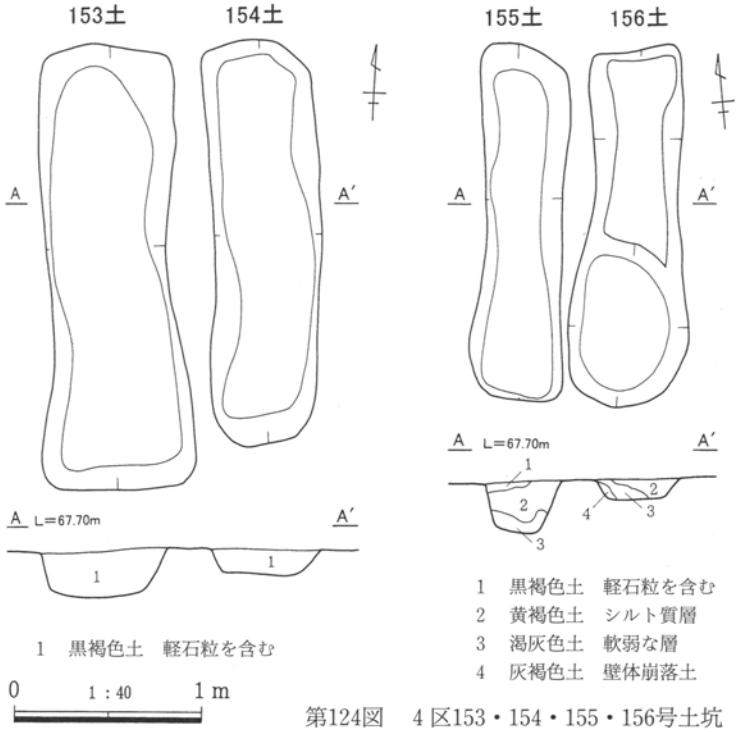
・東西方向に走行する溝群

86号溝、111号溝、113号溝、120号溝、173号溝がある。

111号溝は59Ｒグリッドラインに、113号溝は59Ｏ



第123図　第３面全体図



第124図　4区153・154・155・156号土坑

グリッドラインに沿い、およそ165cmの間隔をもって平行する。幅300cm、深さ20cm前後でほぼ同規模を示す。断面形も鍋底状で同様の形態となる。113号溝は、東側底面中央に幅60cm、深さ10cmの小溝が認められる。また、中央付近には4基の土坑（153号～156号土坑）が溝縁辺部に並列して確認された。溝と土坑の時間的関係は不明であるが、位置からみると溝に関連する土坑と考えられる。113号溝から165cm南側に120号溝が平行する。溝幅が111号および113号溝と異なるが、等間隔に平行することから、関連した溝群であるとみられる。120号溝は、幅70cm、深さ3cm程度で延長21.5mが確認された。

この規模はちょうど113号溝底面中央に存在する小溝と同規模であることから、上部の幅広の溝部が遺失している状態である可能性がある。なお、120号溝の東側に110号溝が認められている。この溝は、走行が不規則で東西もしくは南北に走行する溝群とは異なるものとみられる。幅80cm、深さ3cmを計測する。

173号溝は幅40cm、深さ7cmで、確認延長は20cm程度であり、東西方向の走行を示すが部分的確認のみであるため、不明である。

86号溝は69Tグリッドラインに平行し、幅100cm、深さ28cmを計測する。確認延長は10m程度で、両端部は調査区外へ延びている。

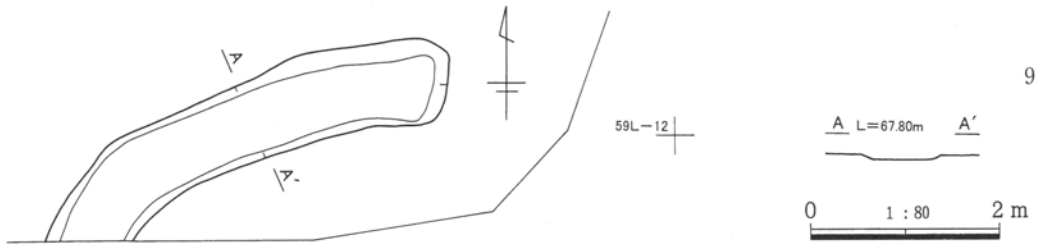
C　土坑（第124図、PL20）

4基確認され、133号溝に接して2基づつ並列した状態で検出された。153号と154号土坑、155号と156号土坑がそれぞれ2基一対となっている。計測規模は相違するが、形態は類似しており、規則的な位置関係とともに関連性をもつ土坑群であると考えられる。

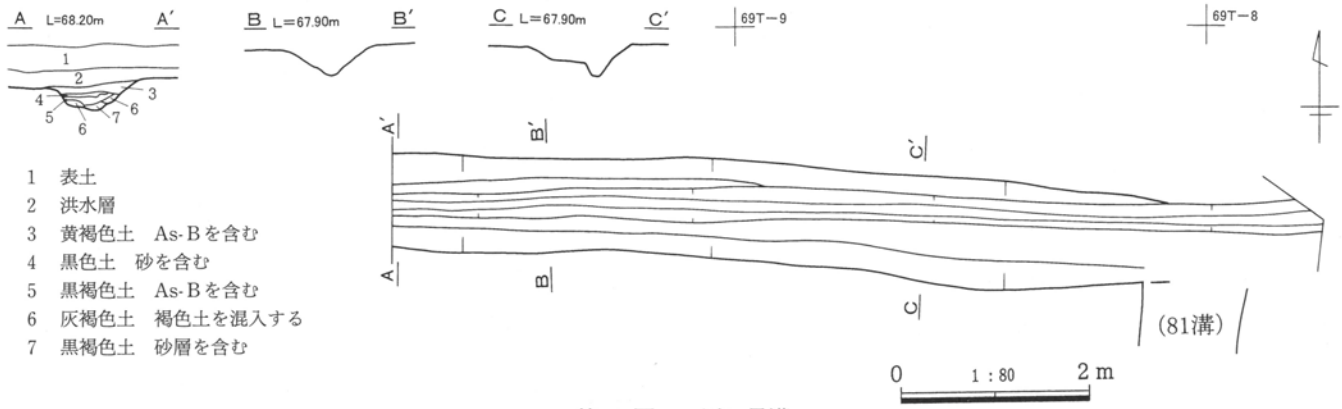
153号土坑は長軸235cm、短軸80cm、深さ20cmで隅丸長方形を呈する。154号土坑は長軸210cm、短軸70cm、深さ10cmで、隅丸長方形を呈する。155号土坑は長軸190cm、短軸50cm、深さ30cmで、隅丸長方形を呈する。156号土坑は長軸180cm、短軸50cm、深さ10cmで、隅丸長方形を呈する。並列する土坑はほぼ同様の形態を示すが、深さについては相違が目立つ。一方がやや深いことが、並列する土坑間の特徴となっている。

5区では49-17グリッドラインに沿って南北方向に走行するアゼが検出された。この南北に走行するアゼは、幅180cm前後を測り、下位の第4面水田にもほぼ同位置で確認されたものである。5区にはこの南北アゼから東側に延長するアゼが1箇所認められるほかは、畦畔はまったく確認できなかった。

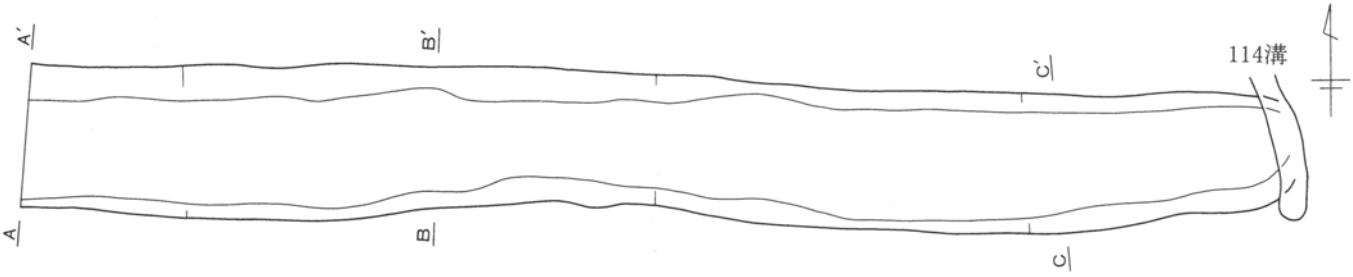
また、この南北アゼの東側の南寄りにやや不規則な溝が確認された。平面形状は一定せず、確認範囲も狭いため不明だが、埋没土が砂礫を含むシルト質土であることから水田耕作に伴う水路であるものとみられる。アゼの一部には拳大から掌大の礫が認められている。当時はアゼ内に入れ、補強として使用されたものと思われる。

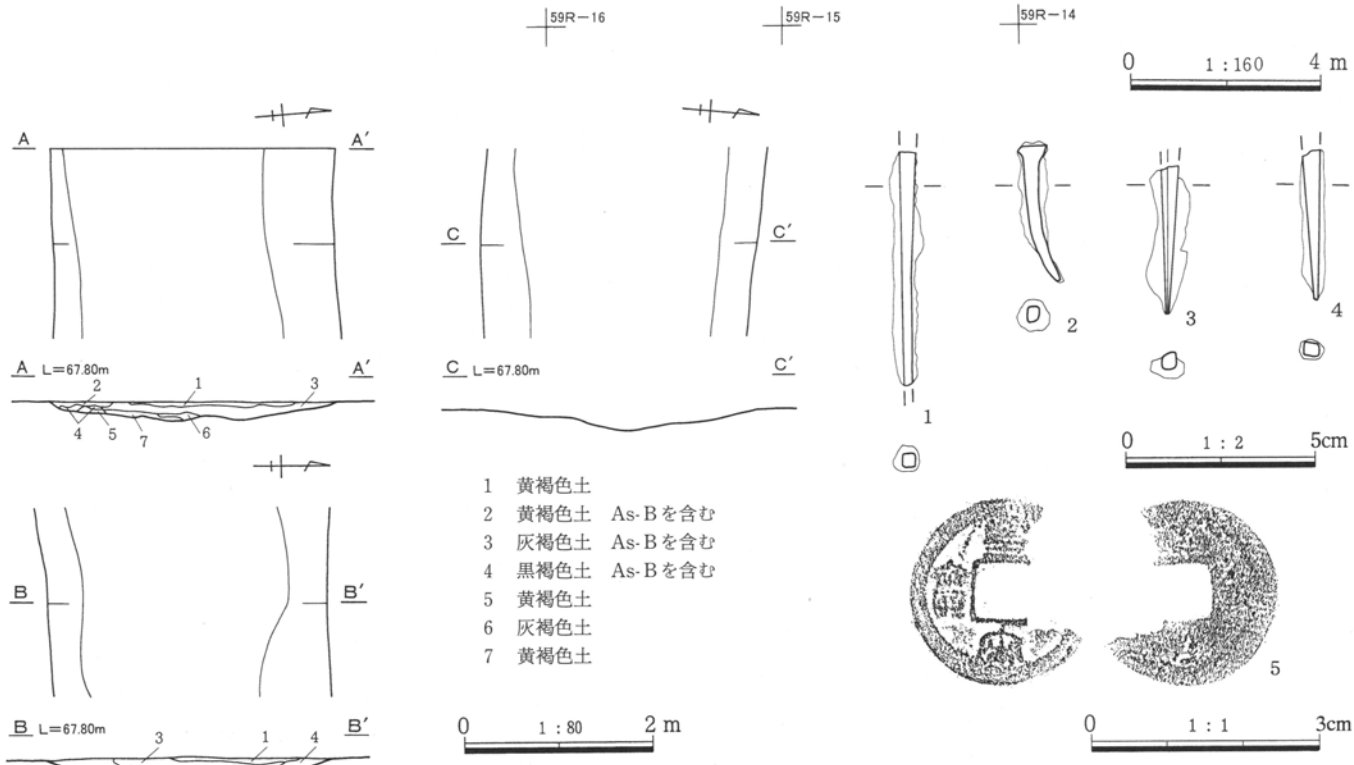


第125図　4区110号溝

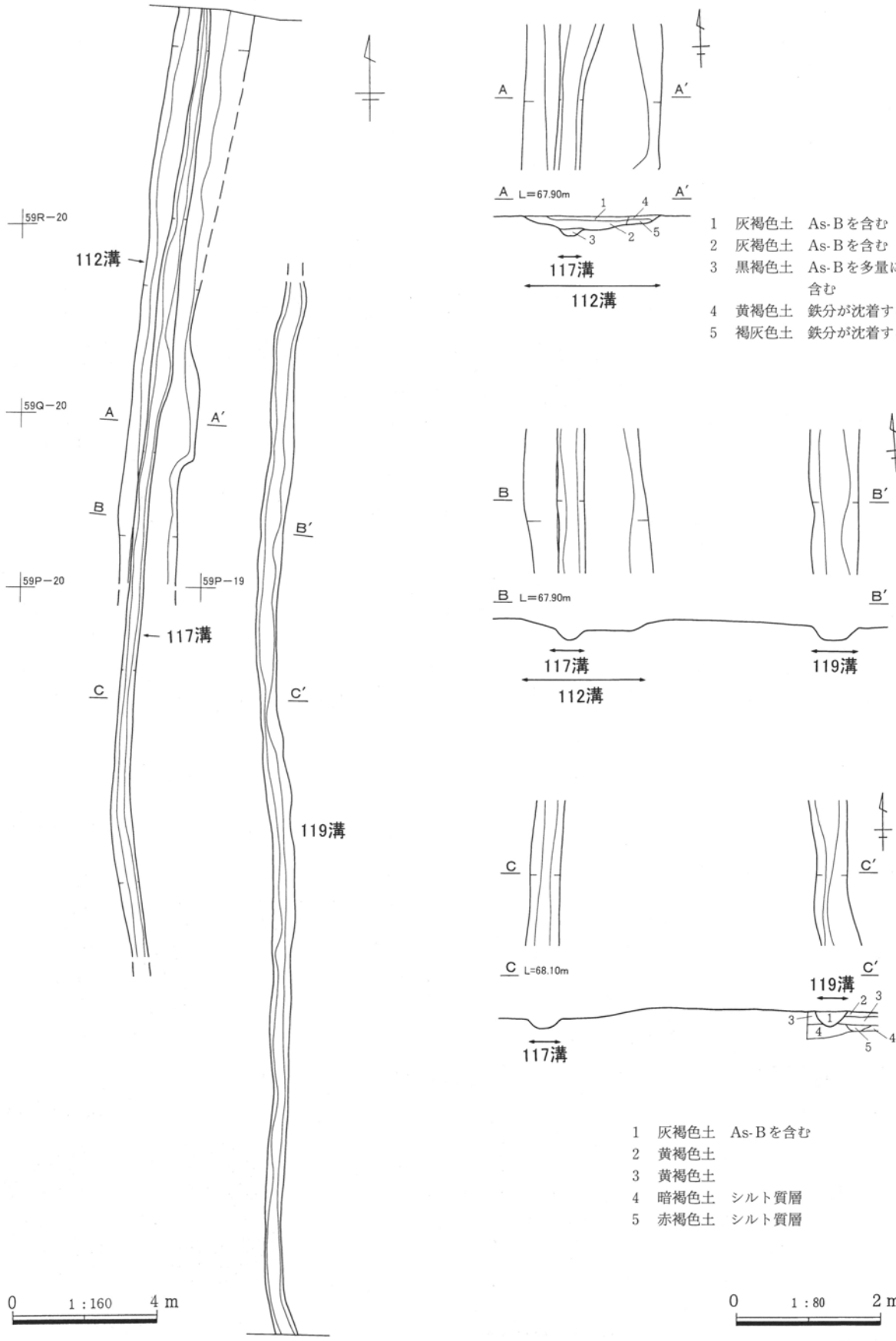


第126図　4区86号溝

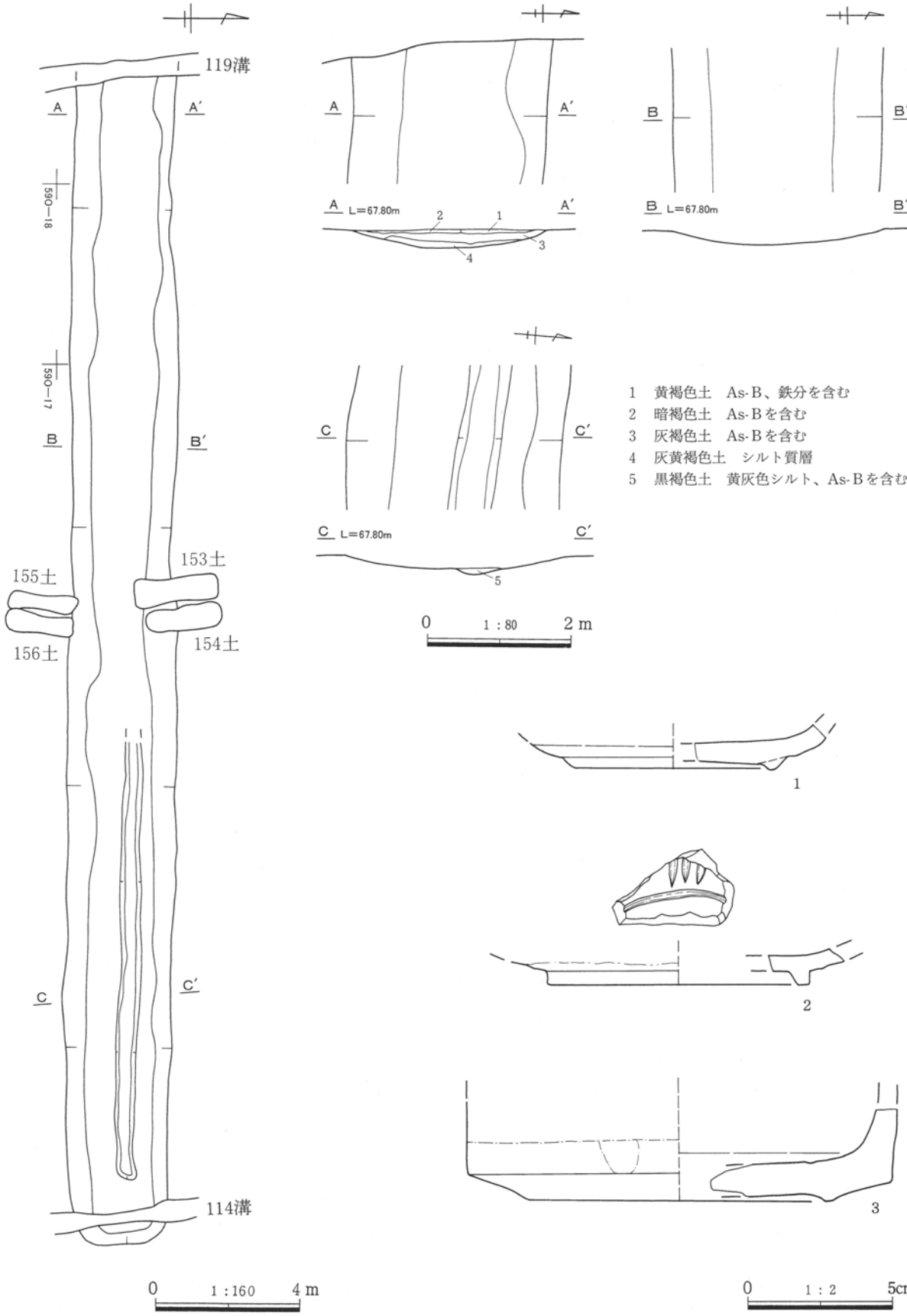




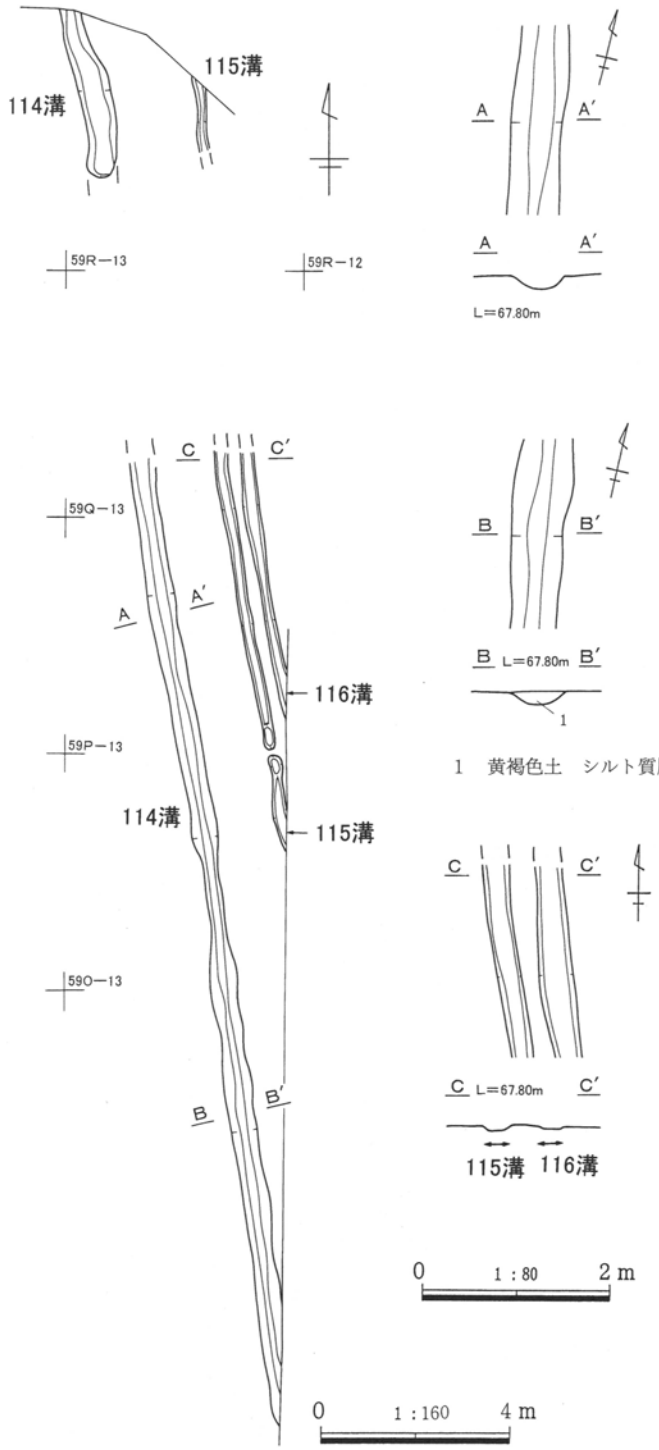
第127図　4区111号溝と出土遺物



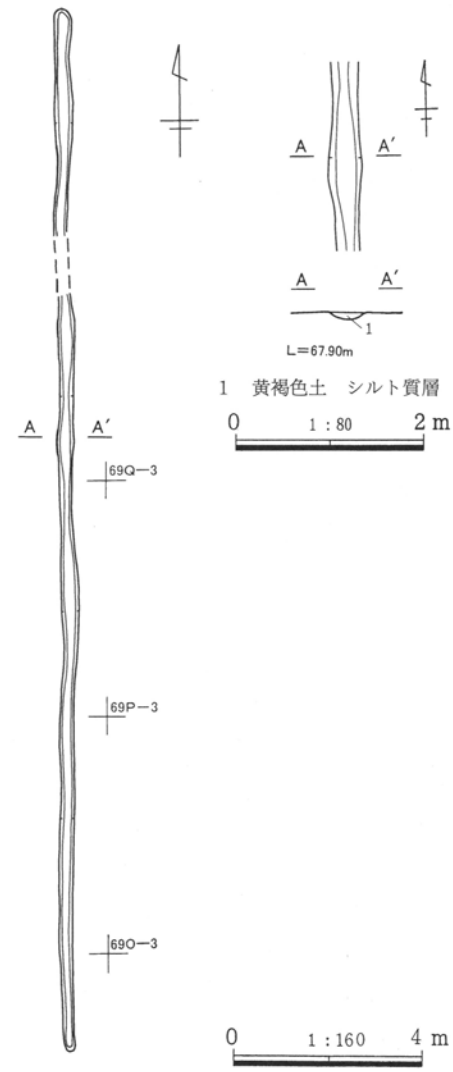
第128図　4区112・117・119号溝



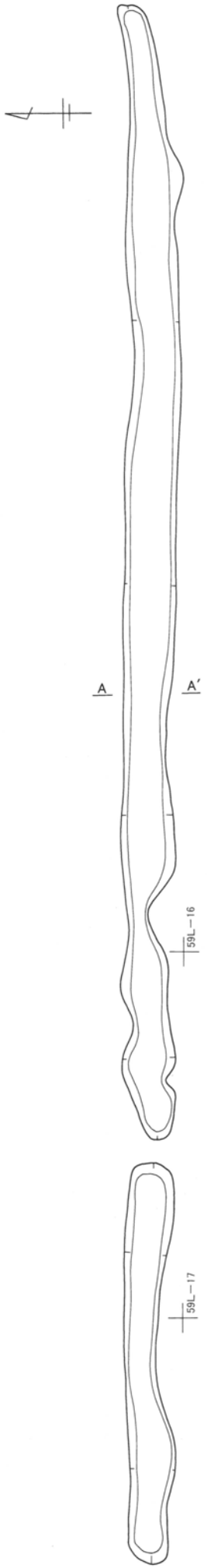
第129図　４区113号溝と出土遺物



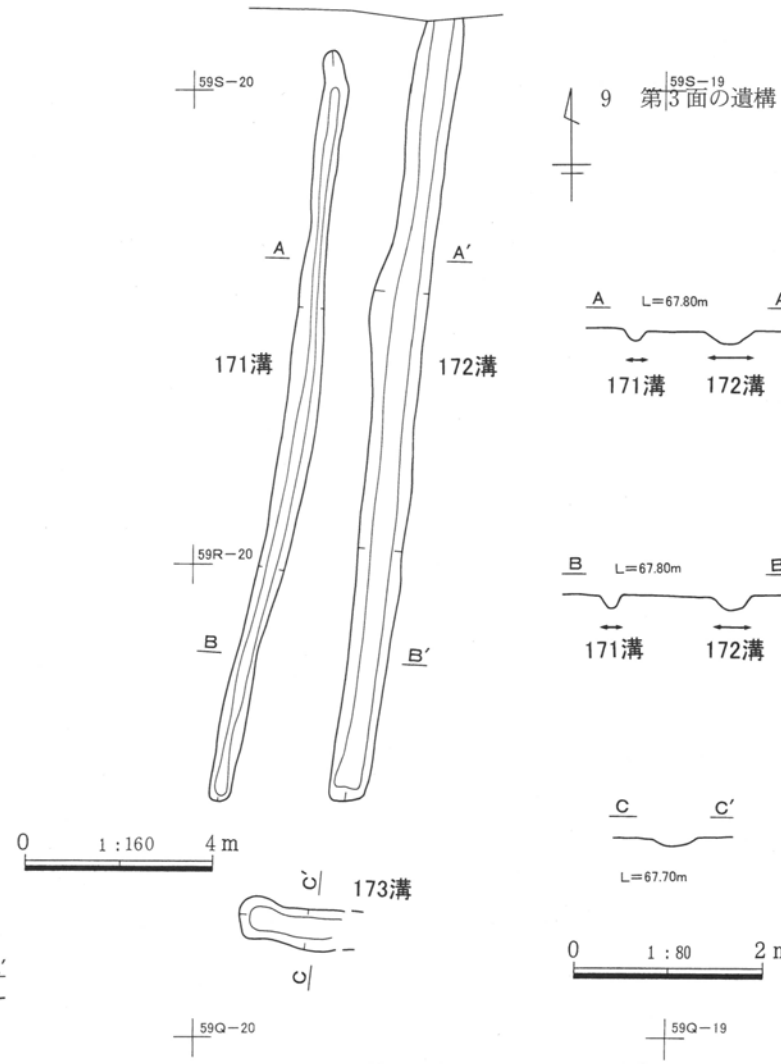
第130図　4区114・115・116号溝



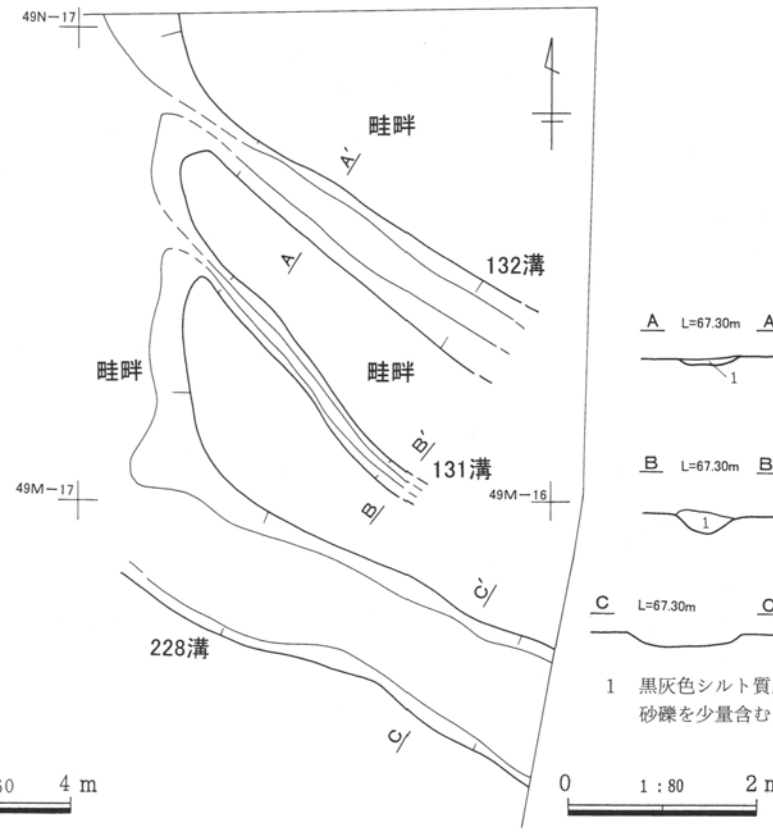
第131図　4区118号溝



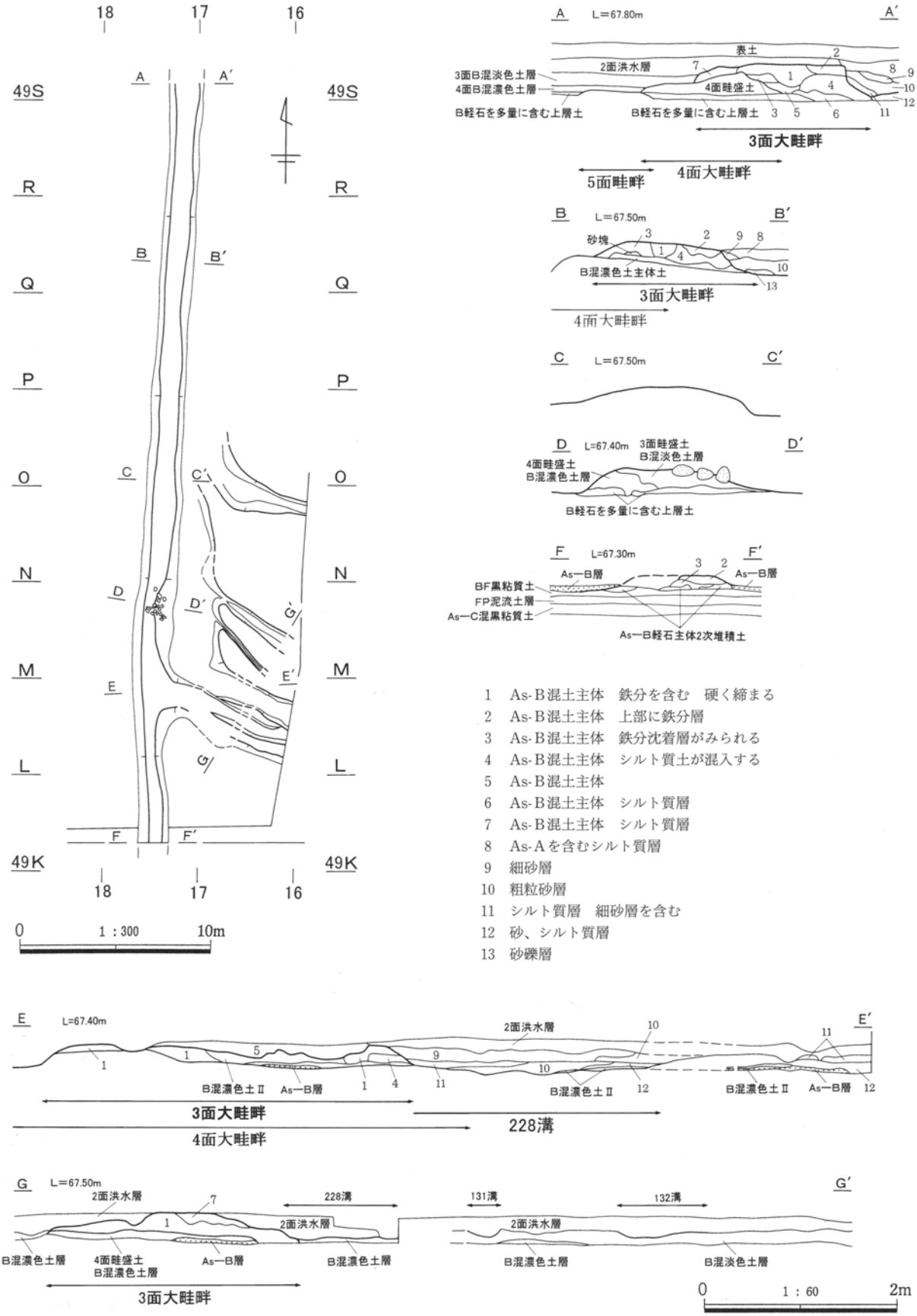
第132図　4区120号溝



第133図　4区171・172号溝



第134図　5区131・132・228号溝



1　As-B混土主体　鉄分を含む　硬く締まる
2　As-B混土主体　上部に鉄分層
3　As-B混土主体　鉄分沈着層がみられる
4　As-B混土主体　シルト質土が混入する
5　As-B混土主体
6　As-B混土主体　シルト質層
7　As-B混土主体　シルト質層
8　As-Aを含むシルト質層
9　細砂層
10　粗粒砂層
11　シルト質層　細砂層を含む
12　砂、シルト質層
13　砂礫層

第135図　5区第3面水田

10　第２面の調査

a　概要（第136図）

第２面の遺構確認面は、河川氾濫による洪水堆積層に覆われるとともに、確認面も洪水堆積層面となる。

今回の調査では、５区で溝が複数本確認された。４区では残存状況が不良のため遺構は不明である。

b　溝（第137図、139図、PL23）

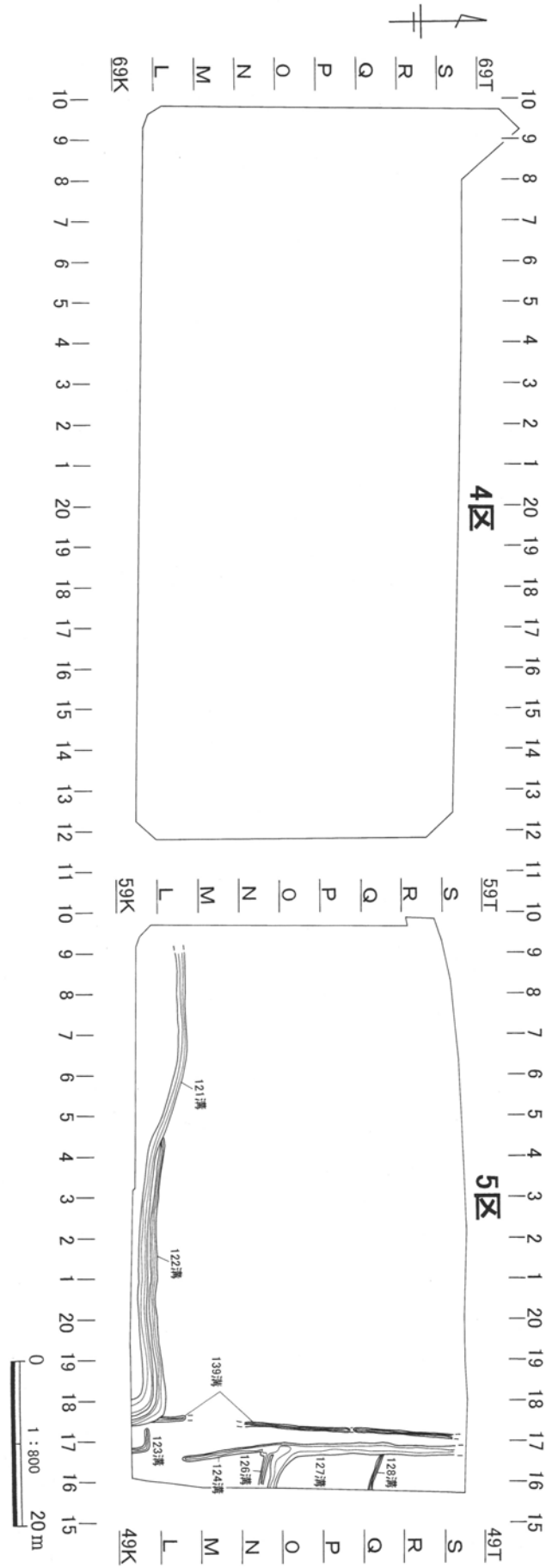
確認された溝は次のような特徴がみられる。49-17グリッドライン付近に南北方向に走行する溝とそこから東に延長する溝の一群と、直角の屈曲部をもつ一群の溝である。

49-17グリッドライン付近に溝群は、139号溝、124号溝、126号溝、127号溝、128号溝が認められる。

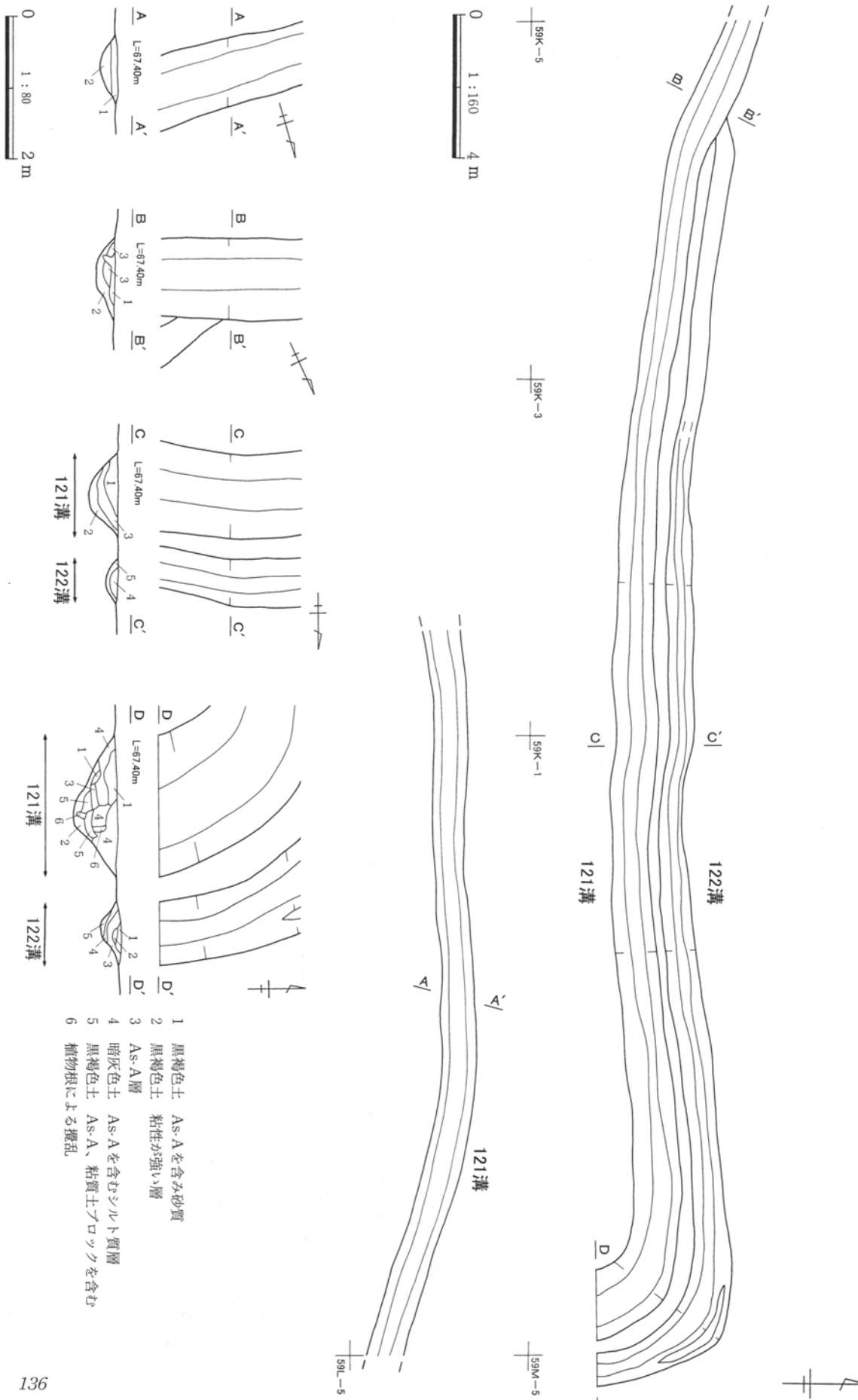
139号溝は、49K～S-17グリッドに位置し、幅40cm、深さ12cmで部分的に途切れるが、ほぼ南北方向に走行をもつ。124号溝は、49L～O-16グリッドに位置し、幅65cm、深さ18cmを測る。この溝は、別溝番号であるが127号溝と連続していることから、溝幅や深度に相違はあるものの、一連の溝であるものと思われる。

127号溝は49N～S-15・16グリッドに位置し、幅120cm、深さ20cmを測り、ほぼ南北方向の走行を示す。なお、49N-16グリッド付近で東側に屈曲する。この屈曲部の両壁面には礫が壁面に沿って立て並べられる。屈曲部であることから、水流により壁面が侵食されることを防ぐためであろうか。126号溝は127号溝南側の東に屈曲する部分に平行し、124号溝に連続する溝である。幅40cm、深さ10cmで、東方向に延長する。溝番号を異にしたが、検出状況から124号溝と同一の遺構の可能性が高いとみられる。128号溝は49Q-15・16グリッドに位置し、127号溝に東接する小溝で、幅38cm、深さ７cmを測る。東方向やや南寄りに走行する。ちょうど126号溝と平行する位置関係をもち、両溝間は14m前後を測る。

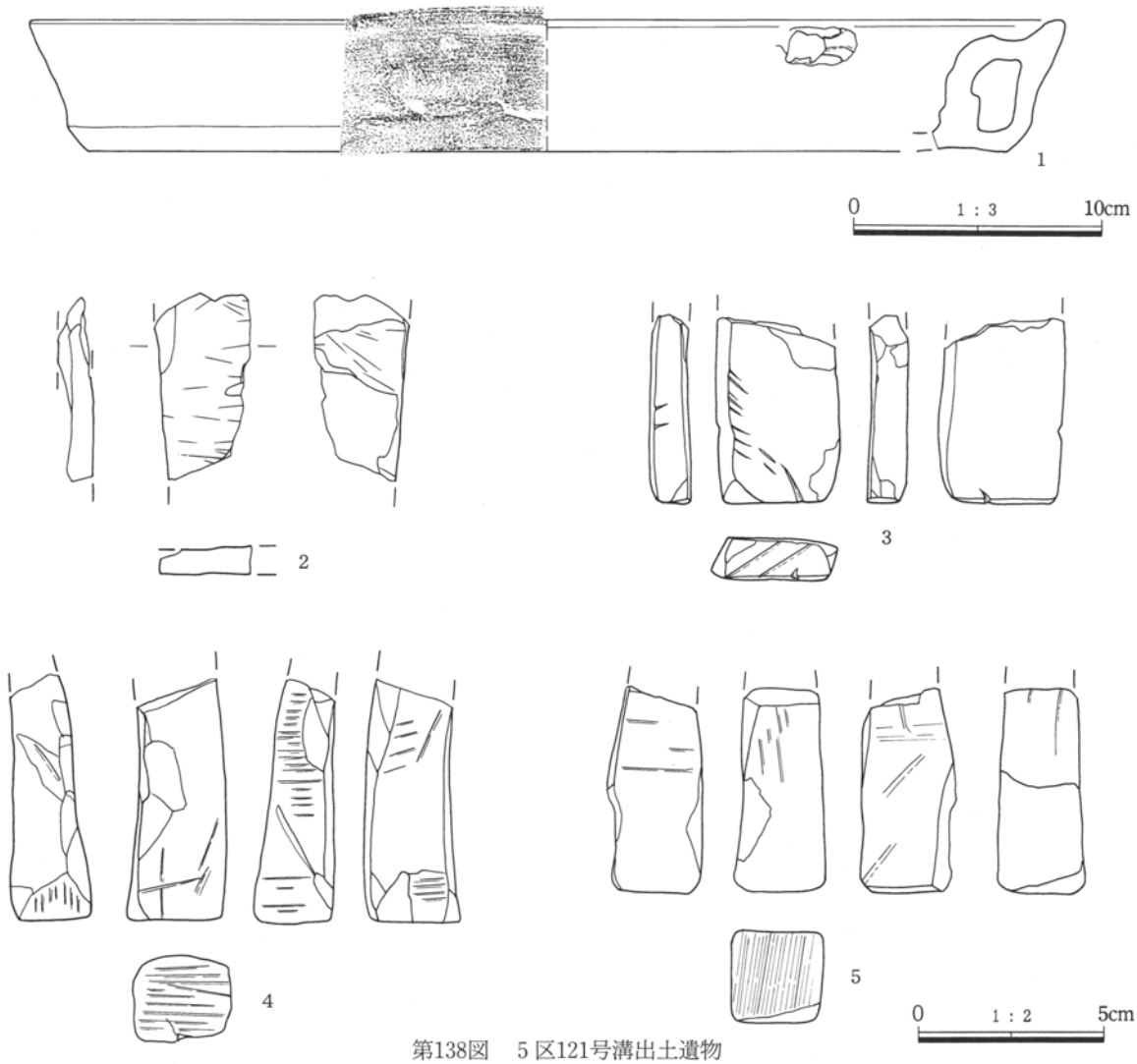
５区南側には屈曲部をもつ溝群が認められる。59M-５グリッド付近でほぼ直角に屈曲する121号溝、122号溝が平行し、59K-３グリッド付近で重複する。この２本の溝が時間的に前後関係を有するものか、同一時期に属するものかについては把握できていない。



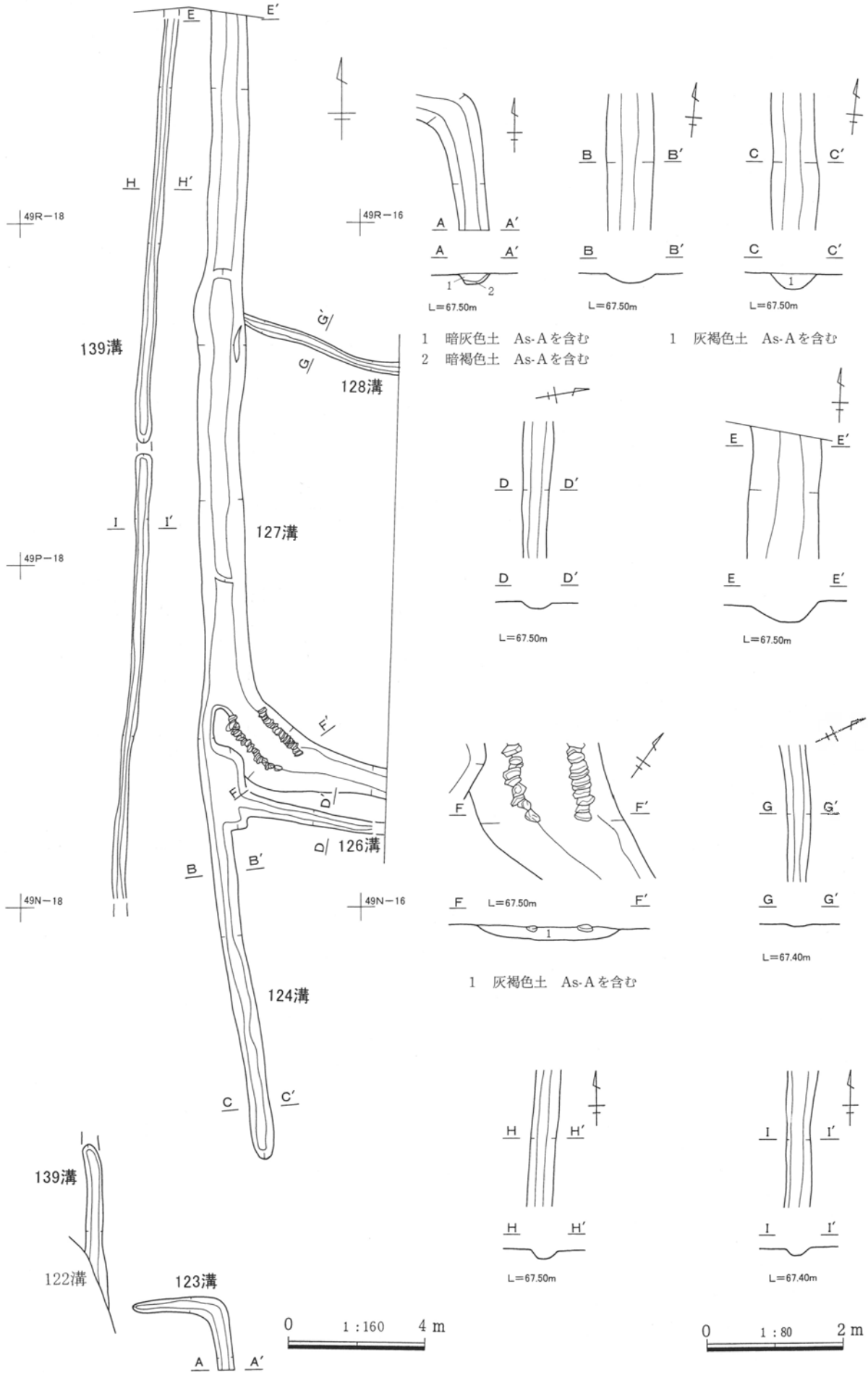
第136図　第２面全体図



第137図　5区121・122号溝



第138図　５区121号溝出土遺物



第139図　5区123・124・126・127128・139号溝

11　第１面の調査

a　概要（第140図）

表土下の河川氾濫による洪水堆積層上面を確認面とする遺構面である。

この第１面の遺構面は1783（天明３）年降下のAs-Aによる被災の復旧に関連した遺構が検出される。今回の調査でも、４区においてAs-Aの除去を目的にした火山灰埋設用の復旧溝および水路とみられる溝が南北および東西に走行している。また、部分的であるが、畦畔も確認されている。

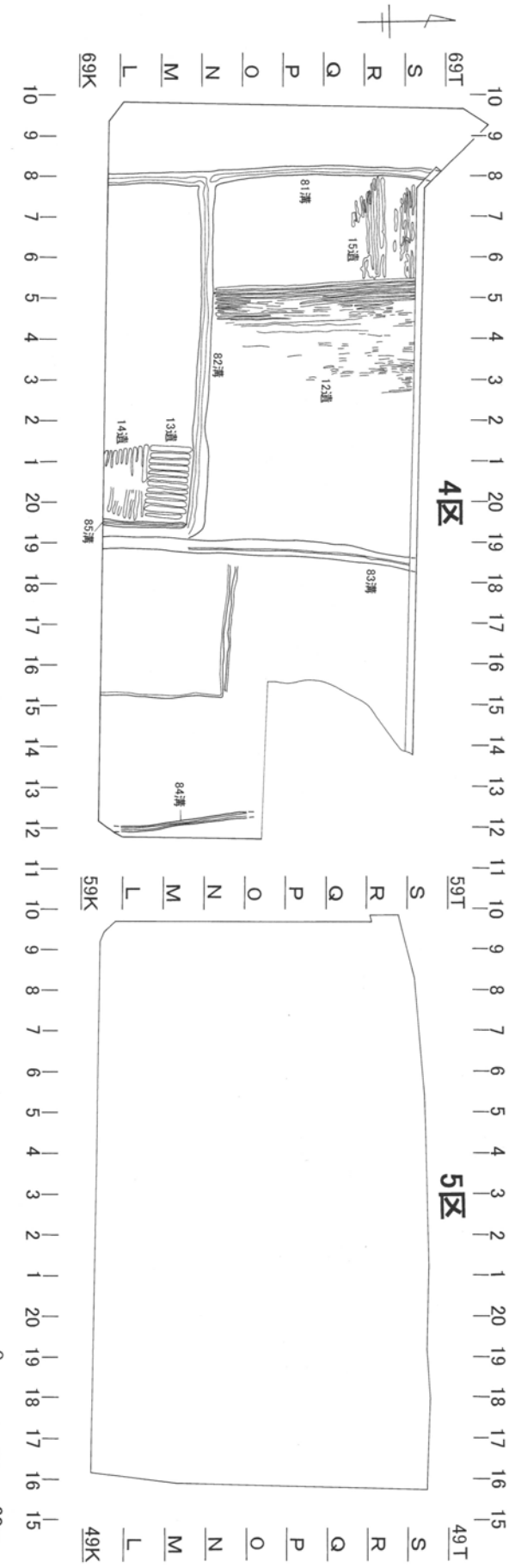
検出された遺構の状態から判断すると、As-A降下以降の遺構と以前の遺構が残存しているものとみられる。

b　溝（第）141～144図、PL24）

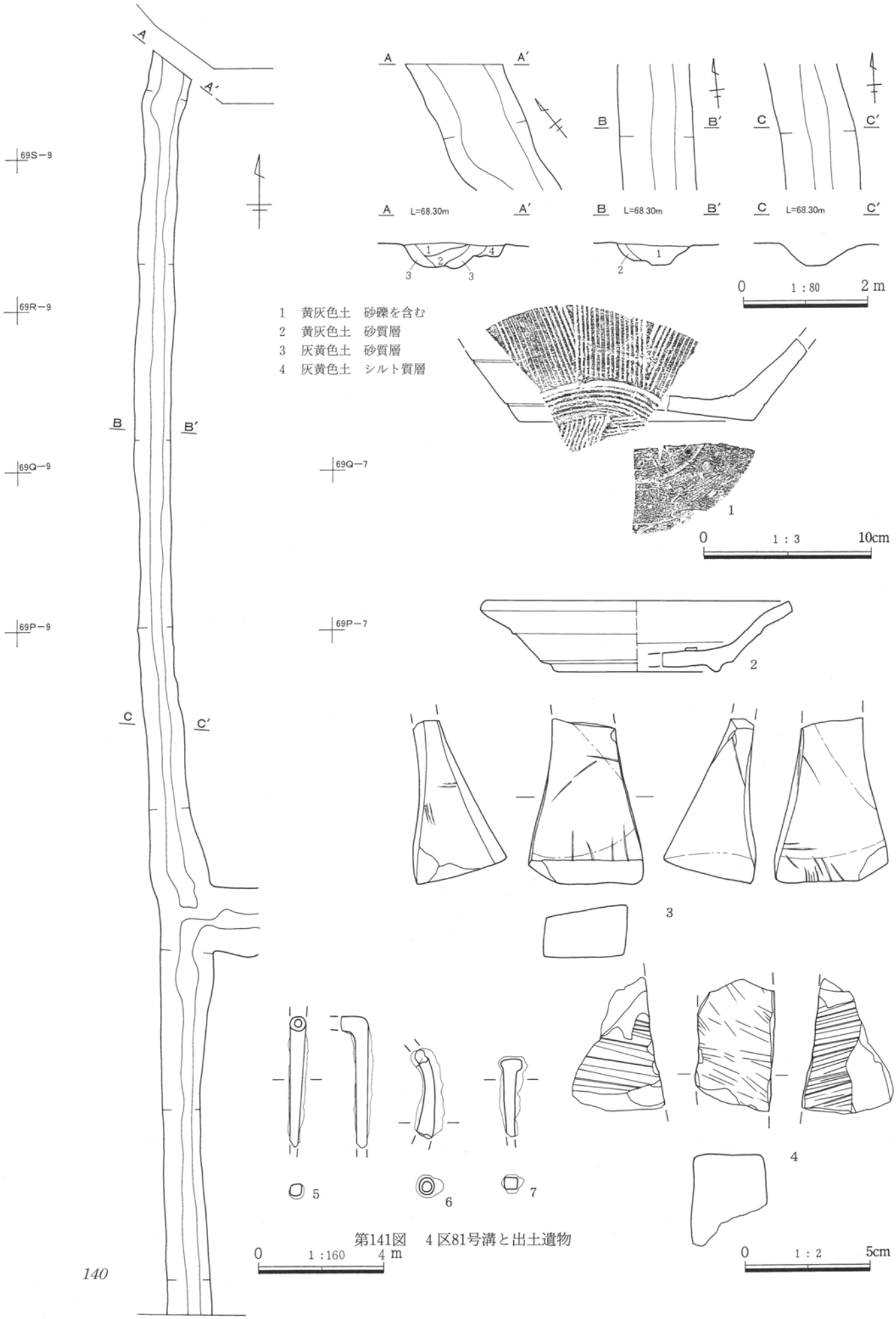
81号溝は、69K～S－7・8グリッドに位置し南北方向に走行する。幅110cm、深さ30cmで69M－7グリッド付近で82号溝が繋がり東側に延長し、南北に走行する83号溝に接する。この溝群により、ほぼ方形の区画が形成される。82号溝は43mを計測する。なお、81号溝と83号溝はほぼ平行するが溝間の距離は44.5mから47mと多少の広狭が認められる。82号溝は、59M・N－19・20グリッドに位置し、ほぼ東西方向に走行し、81号溝・83号溝を結ぶ。幅140cm、深さ40cmを測る。83号溝は59K～S－18・19グリッドに位置し、幅180cm、深さ50cmを測る。81号溝からは擂鉢、砥石、鉄釘等が埋没土中から出土している。82号溝からは擂鉢、椀等が、83号溝からは砥石等が出土している。なお、83号溝には杭が数本打ち込まれた部分がある。杭は径５cm程度で、法面および底面に認められた。エレベーションポイントB－B′付近であり、４ヶ所杭痕が確認された。杭痕は溝の横断面に沿っても認められるが、走行に沿って40cm程度の間隔をもって打設される。当時は２m程度の溝幅をもつものとみられることから、簡易な架橋の支柱の可能性が高いと思われる。なお、これらの溝内にはAs-Aの堆積は認められない。

c　復旧溝

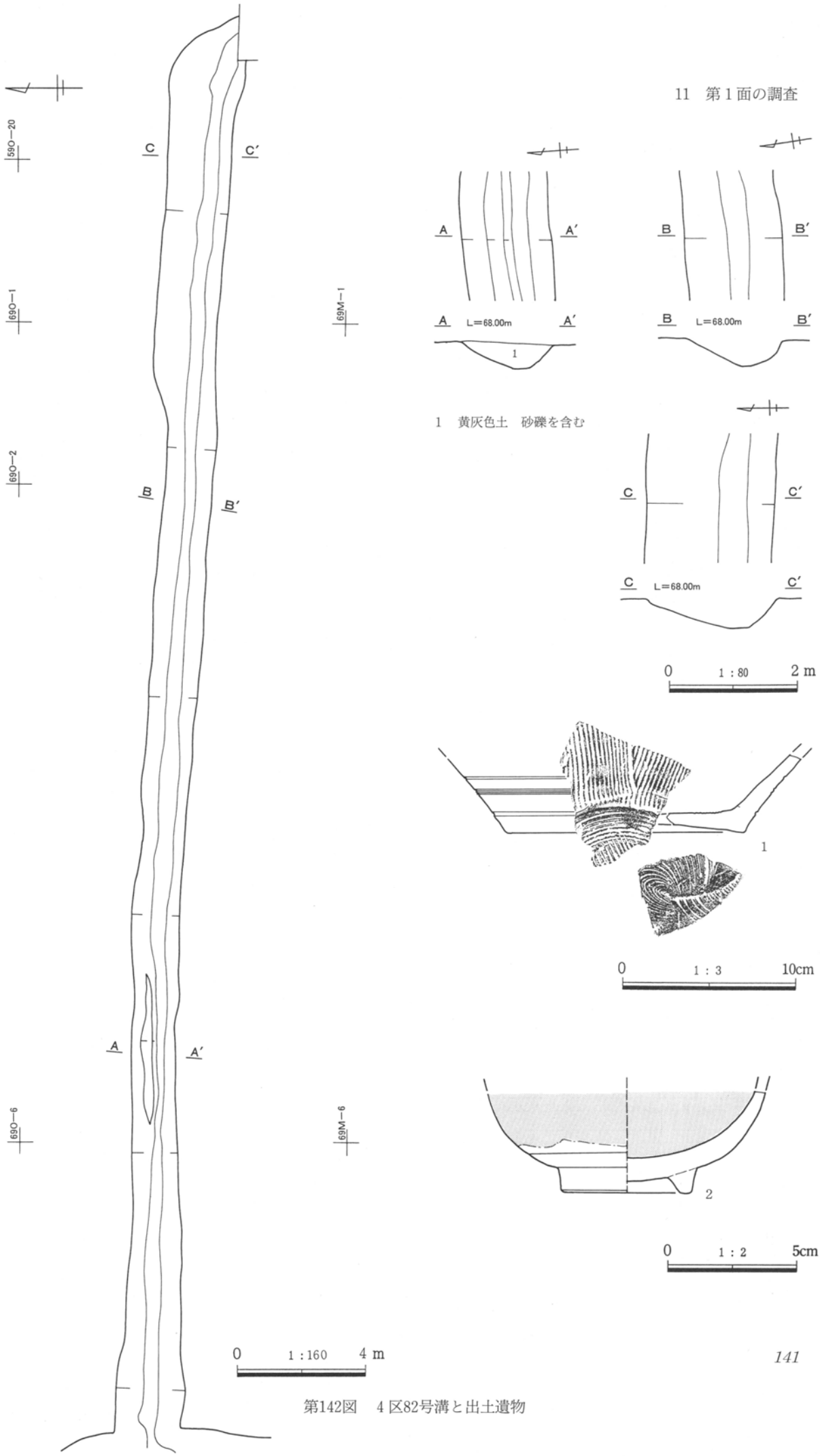
堆積したAs-Aの除去・処理を目的にした復旧溝が４ヶ所検出された。いずれも方形に巡る区画溝に



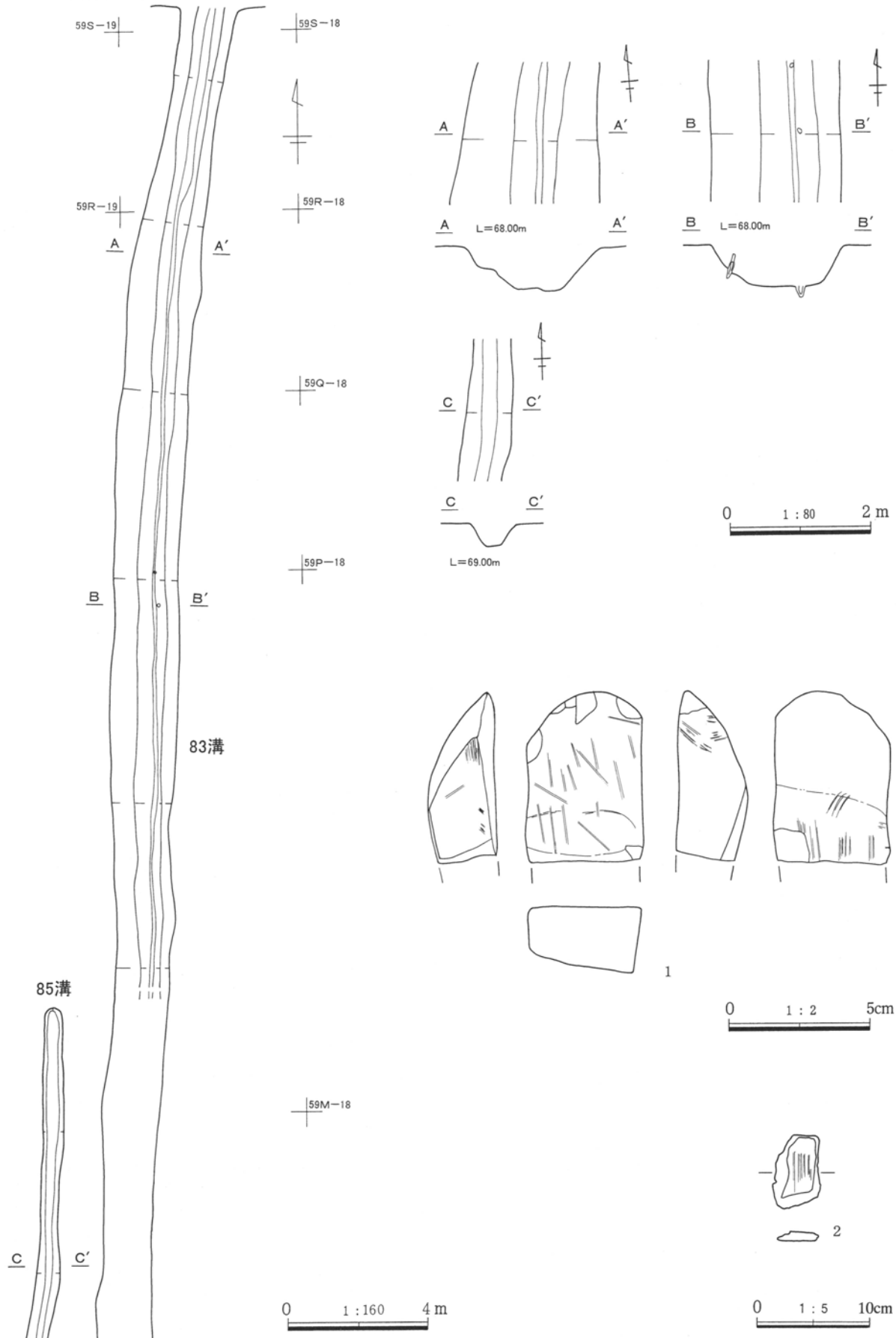
第140図　第１面全体図



第141図 4区81号溝と出土遺物



第142図　４区82号溝と出土遺物

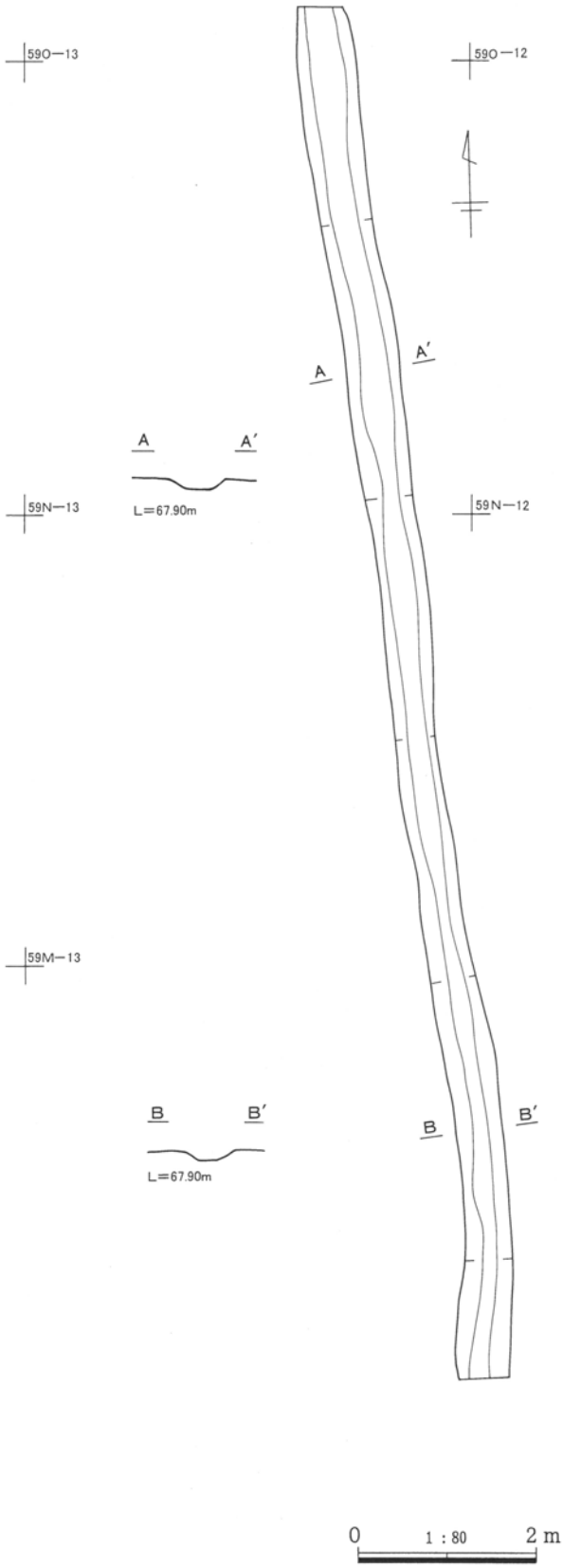


第143図　4区83・85号溝と出土遺物

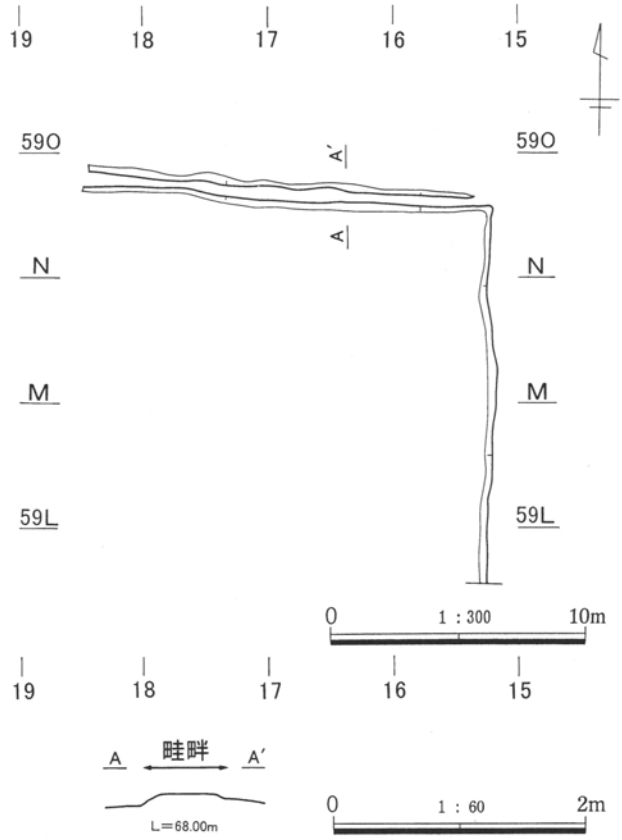
沿って位置する。12号遺構および15号遺構は上層が大きく削平され残存状況は不良であり、遺失する部分も多い。12号遺構は土層断面ではAs-Aを埋設した復旧溝が観察されたが、面的に検出された遺構状況は不良である。土層断面をみると、溝下部に混入の少ないAs-Aが認められ、その上位に復旧溝を掘りあげた地山とAs-Aが大量に含む土層が堆積している。溝内にまず掻き寄せたAs-Aを埋設し、その後に埋め戻す際に地山が火山灰に混在したものとみられる。

13号遺構は１単位の溝幅が60cm前後、深さが20cm～30cm程度が残存する。溝間隔は15cm前後を測る。単位溝が12本で１群が形成され、南北方向に走行する。規模は東西９m、南北５m程で、平面積は約45㎡を測る。

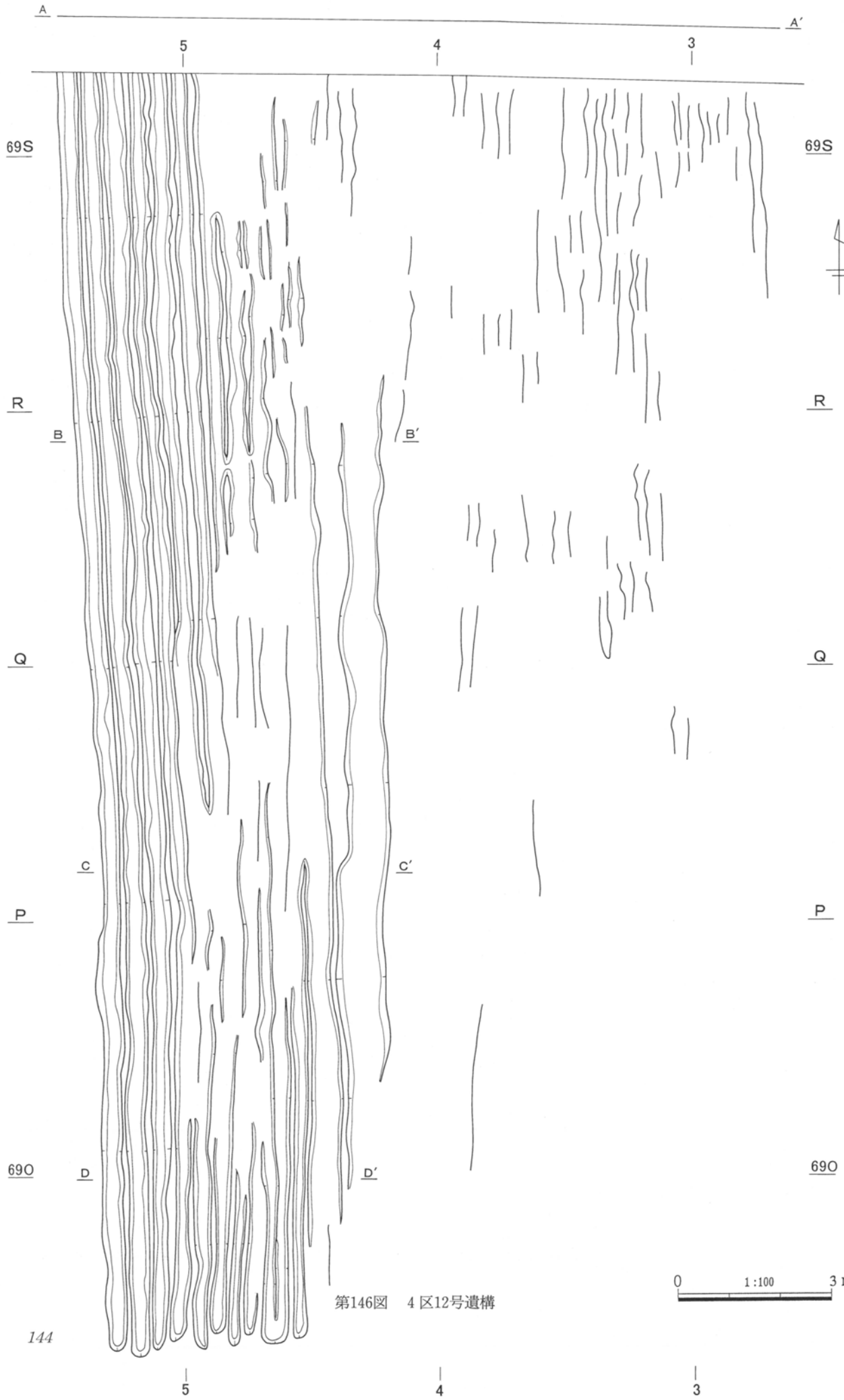
14号遺構は、13号遺構に接するが復旧溝の走行は南北となる。南列は調査区外であるため、範囲は不明だが、東西の範囲は13号遺構と一致している。耕作地の地境がこのように復旧溝の設置に現れている



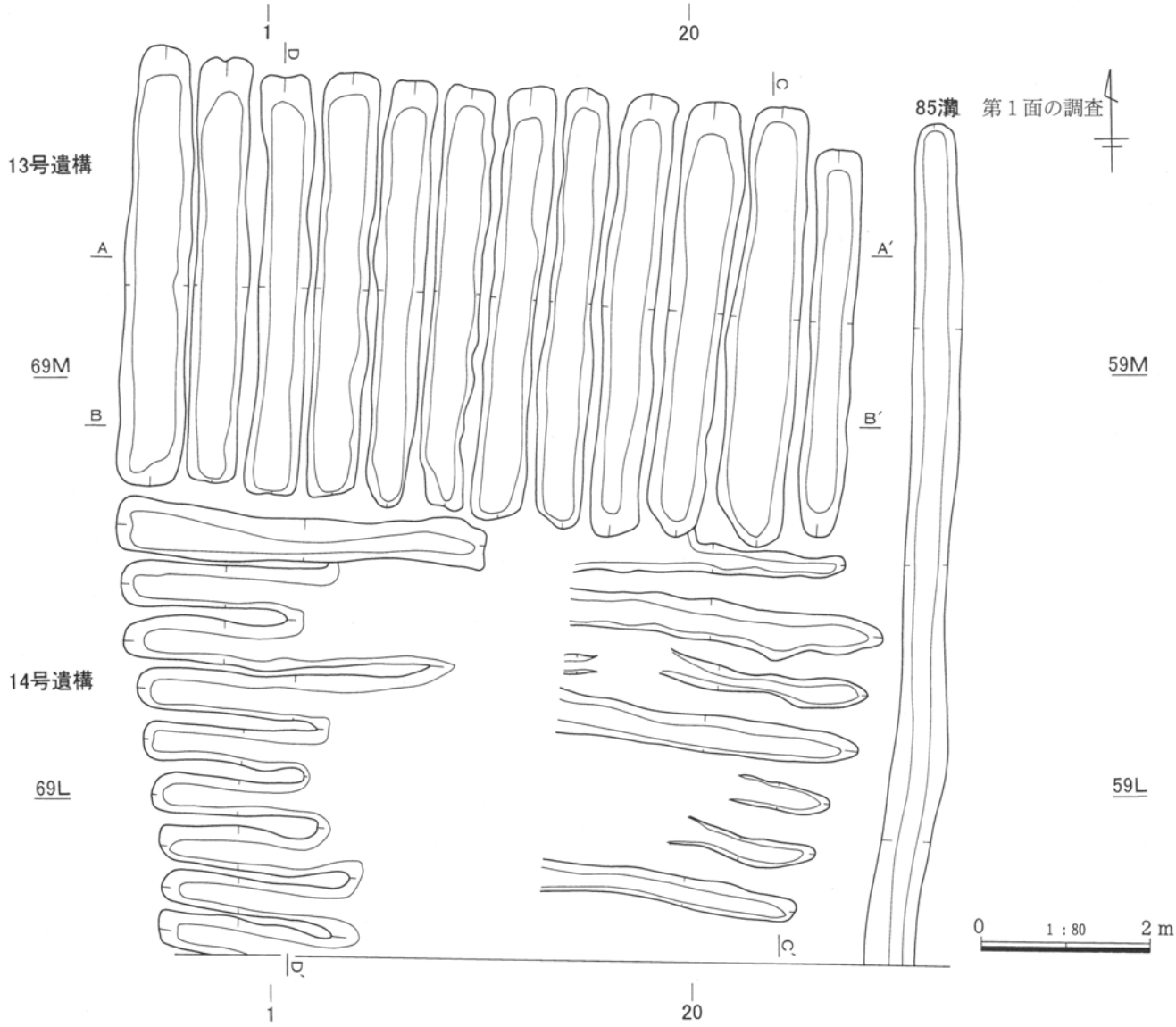
第144図　４区84号溝



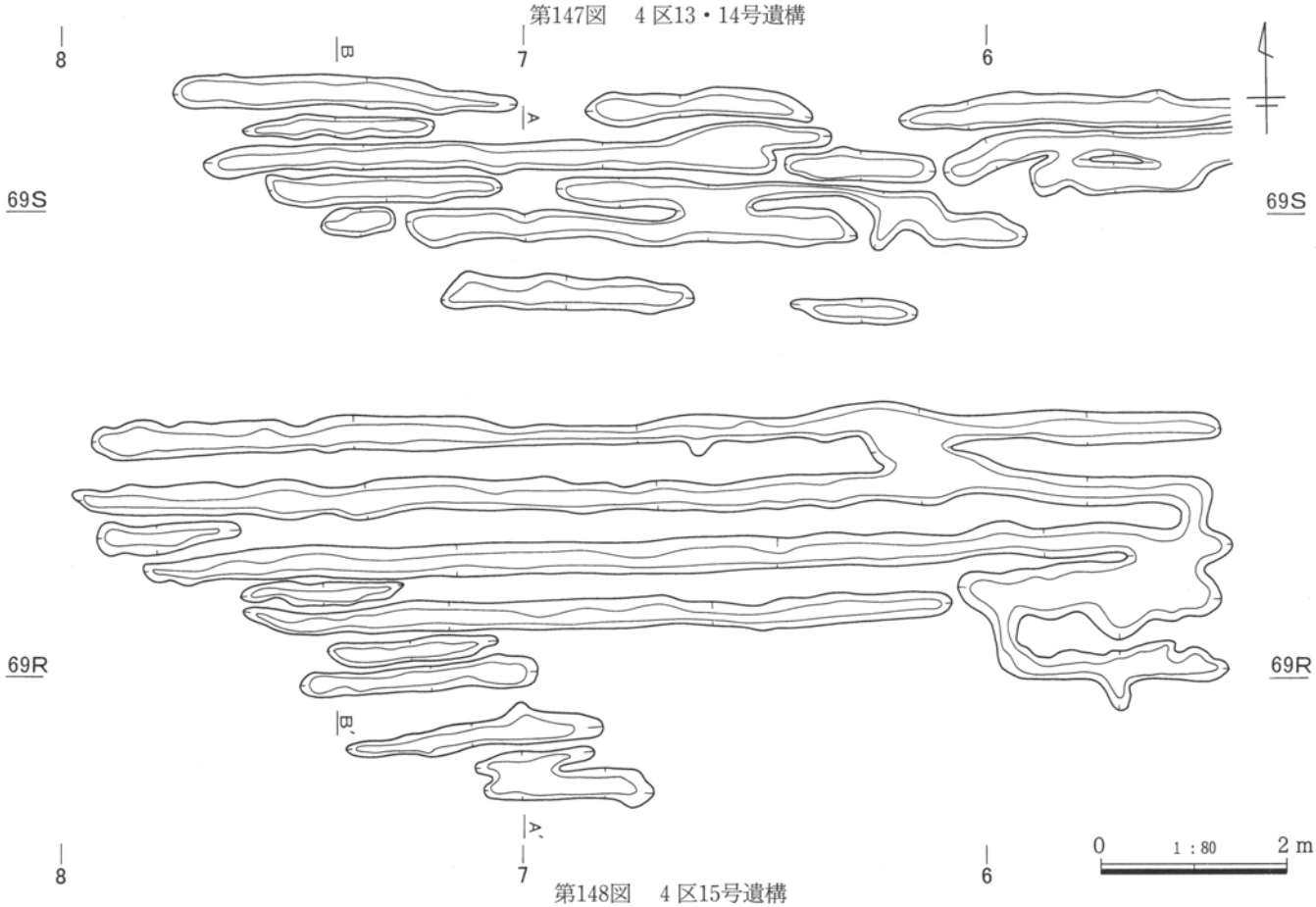
第145図　４区第１面水田



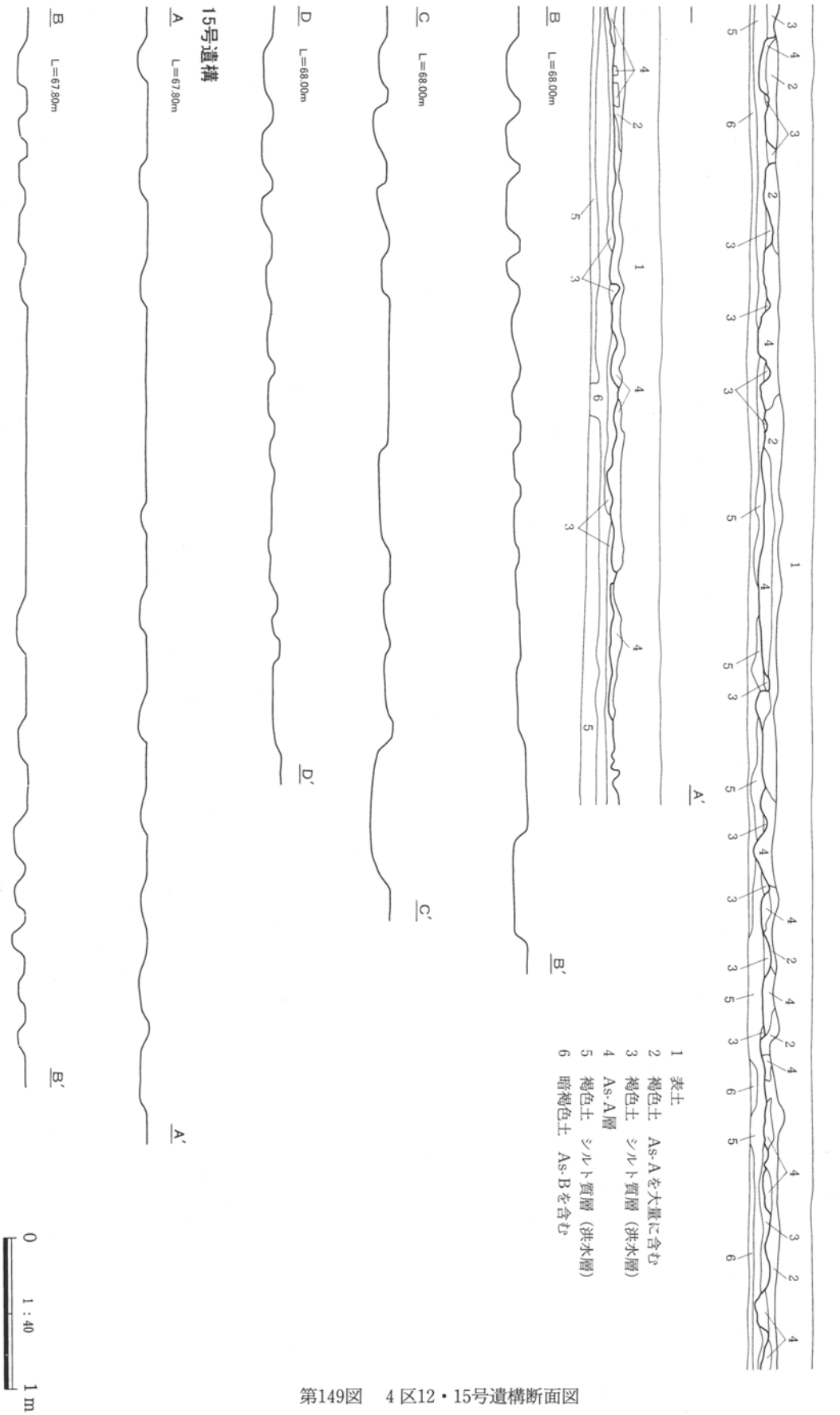
第146図　4区12号遺構



第147図　４区13・14号遺構



第148図　４区15号遺構



第149図　4区12・15号遺構断面図

のだろうか。このような関係は、12号遺構と15号遺構にもみることができる。なお、83号遺構以東に復旧溝は確認されていない。この部分には部分的ながら畦畔が検出された。83溝以東は水田、以西は畠として利用されていたものとみられる。

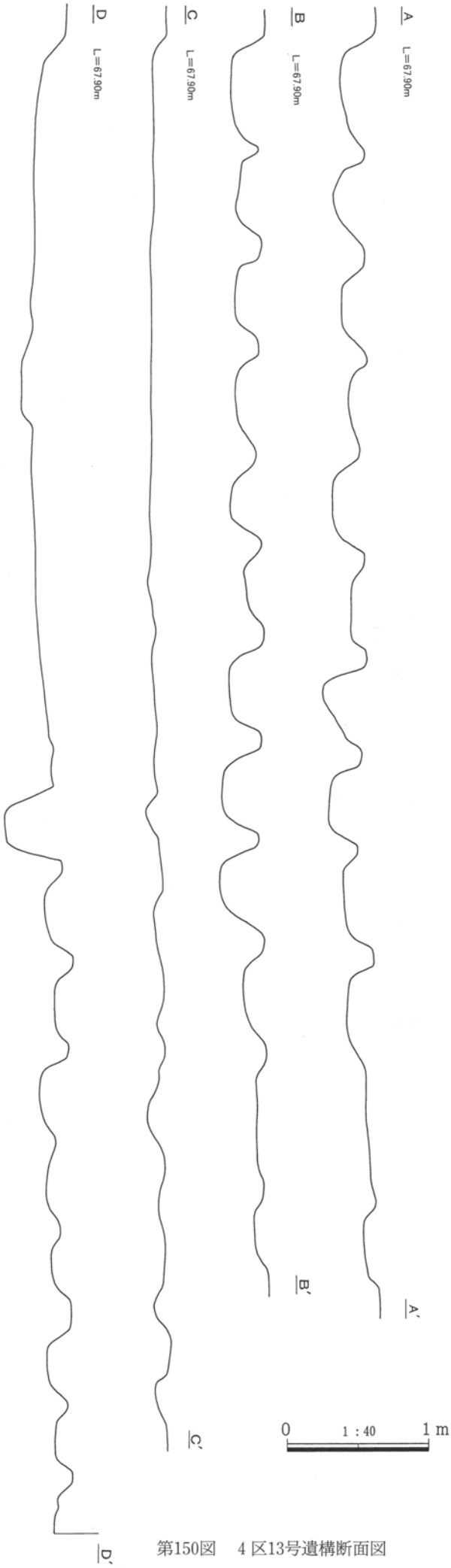
グリッド出土遺物（第151図）

１、２は４区表土下の第１面出土の砥石である。２点とも石材は砥沢石である。

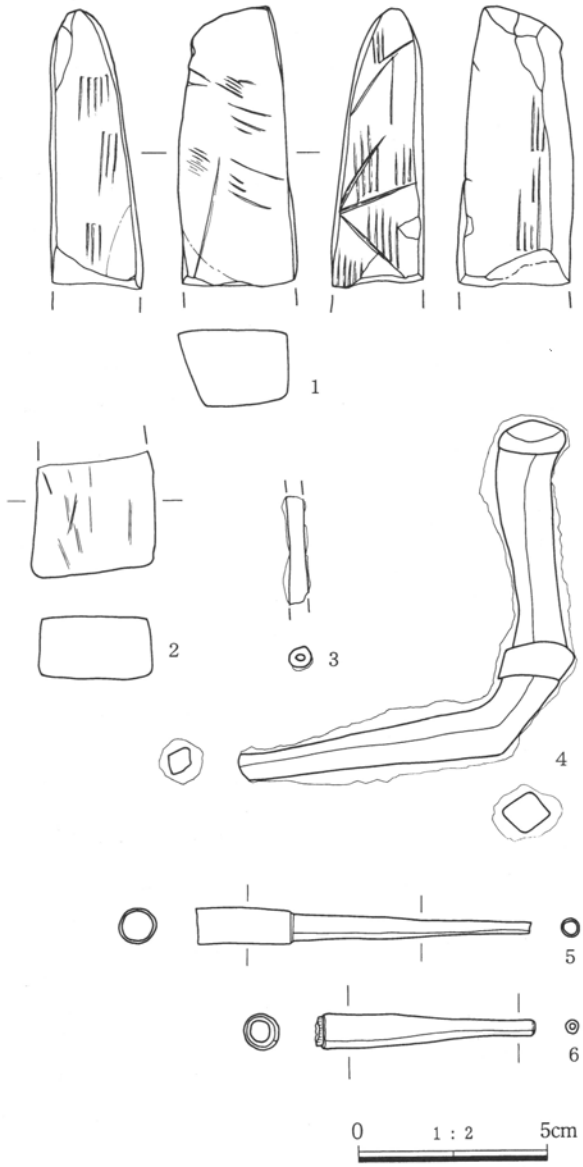
３は、５区出土の鉄製釘片。

４は、４区出土の鉄製釘で、断面は方形を呈する。

５、６は５区出土で、５は49K-16グリッドから出土した。青銅製の煙管吸口で、６には端部に木質がわずかに残る。



第150図　４区13号遺構断面図



第151図　４・５区グリッド出土遺物

12　調査のまとめ

古代集落から出土する墨書土器については資料の集積とともに研究も活発に行なわれている。その中で、役所や寺院以外から出土する墨書土器は、基本的には複数の集落を含む集団もしくは単一集落さらに住居単位での祭祀・儀礼行為に伴い用いられたもので、書かれる文字はその祭祀・儀礼行為の主体者もしくは集団の標識的記号であろう、との理解がなされている。

今回、大量に出土した墨書土器についても、古代集落出土の墨書土器について考えられている祭祀・儀礼的性格のなかで把握されるものと思われるが、調査成果について、整理しておきたい。

a　出土状況

4区および5区の調査により墨書土器は総数255点が確認された。この内、3点のみがグリッド出土であり、その他252点はすべて141号溝から出土した資料である。

141号溝は4区で検出された最大幅10m、深さ150cmを計測する大規模なものであり、1108（天仁元）年のAs-Bに埋没する水田面の下層に存在する。

これまでの周辺遺跡の発掘調査では、As-B下水田の下層では6世紀代の古墳時代の遺構面が検出されていた。福島飯塚遺跡でもほぼ同様の遺構確認面がとらえられていた。しかし、4区ではこれと異なる状況が認められた。As-B層は残存状況は良好ではなかったものの、同層下には水田が検出された。その水田面の一部に南北方向に弧状にくぼむ部分が認められた。このくぼみによって畦畔にも歪みが生じ、明らかに水田造成および耕作以後に地形変化したものとみられる。この時点で、水田下にくぼみを生じさせる遺構の存在が予想されることになった。

当初の想定であれば、As-B下水田の調査後は、いわゆる「FP泥流」に埋没する古墳時代の水田調査に進む予定であったが、その上位に遺構面の存在が把握されたことになる。調査はこのくぼみ部に対し、重機も使用しながら土層断面の確認を実施した。その結果、大規模な溝の存在が確認され、さらに「FP泥流」層を切っていることが把握された。時期は、As-B埋没水田より古く、「FP泥流」より新しいものとなる。つまり、最大で6世紀後半から12世紀の時間幅をもつ可能性が考えられることになった。

141号溝として確認されたこの溝は、当初はこれほどの規模をもつものとは考えていなかった。埋没土は粘性土、砂礫、細砂、シルトなどがラミナ状の堆積を示し、溝底面は20cm～30cmの層厚で砂礫層が堆積している。側壁近くは壁体の崩落土も堆積するが、溝内は大半が流土により埋没したものとみられる。埋没土最上層にはAs-Bがレンズ上に堆積し、その直下は同テフラ埋没水田耕土が認められる。この土層からも、溝埋没後の平坦面に水田が造成され、その後As-Bが堆積、溝埋没土が沈下することでこの部分が溝に沿ってくぼんだことがわかる。しかし、溝埋没土の沈下がAs-Bの堆積前であるか、後であるかは確定できない。しかし、埋没土の沈下要因として1108年の浅間山噴火の地殻的な影響があったのかもしれない。溝埋没土のくぼみ部でもAs-Bが水田面を直接被覆していることからも、同テフラの堆積と埋没土の沈下が近接した時間幅で生じたことを示しているものとみられる。

この溝の規模を調査するために調査区南壁にトレンチにより確認したところ、深さは約150cm前後、底面付近は湧水が激しく、さらに底部に堆積する砂礫層中から墨書土器を含め土器類の出土が目立つことなどが把握された。

埋没土上層から中層部分には遺物はほとんど含まれず、最下層の砂礫層中および溝底面に遺物が確認されている。これらの遺物出土状況から、溝埋没に伴って流入したものではなく、溝が開口し流水していた段階、溝が機能していた時期に伴う遺物とみられる。これらの土器は破片が多いものの、完形もしくは器形のわかる大形片も多く認められる。この遺物出土状況から、溝の壁体崩落によって溝周囲に存在した遺物が流入したのではなく、人為的に溝内に投入もしくは廃棄されたものと観察される。

b　出土土器

この出土遺物には特徴的な点が二点ある。一点は

出土点数が一万点を超えるほど多量である点。もう一点は墨書土器が集中的に出土している点である。まず一点目の出土点数の多さについてみてみたい。

出土遺物は土器類を中心に完形品、破片を含め集計すると12,477点が出土している。器種をみると土師器坏が73%を占め、主体的なものとなっている。次に須恵器坏・椀が13%となる。食膳具である土師器坏、須恵器坏・椀が出土量の86%と量的に大きく偏向する点は特徴的である。

次に墨書土器の多量出土についてみることにしたい。

141号溝検出時から墨書土器は確認され、調査進行と共に次々と出土したため、その点数の増加は驚くべきものであった。これまでも県内の遺跡からは多数の墨書土器が出土しているが、同一遺構から250点を数えるほどの墨書土器が出土した例は極めて珍しいだろう。

さらに、玉村町域での墨書土器出土遺跡も極めて少なく、出土遺跡例でも1遺跡から数点の出土が確認されている程度であった。その中で、大規模な溝内から大量の墨書土器が出土することは注目される事例といえる。

出土した墨書土器は、これまでの古代集落出土の墨書土器と同様に土師器坏、須恵器坏・椀という食膳具に一文字が記される資料である。墨書土器の総点数は252点を数えた。残存状況が不良で不明瞭な資料も含まれるが、明確な墨書土器と共に全点とりあげ、報告書にも全て掲載をした。

記される文字は土師器坏には「家・寺・宮・上・川原・十万・ᒍ」、須恵器坏には「家・大・㊍・◎・χ・ᠵ・ᒍ」、須恵器椀には「家・西・月・大・田・保・井・用・子・㊌・十・七・㊍・家寺」、須恵器皿には「家・西・月・㊍・市」、灰釉陶器皿には「家」が認められる。

用いられる文字をみると、平川南氏が指摘した共通性の高い30種の文字である「万・大・上・加・十・井・人・寺・生・丈・千・吉・田・本・家・西・得・仁・真・下・主・南・天・子・安・富・山・成・豊・継」の中の11種が含まれ、この点からも東国の古代集落における墨書土器の意義の範疇に含まれる資料として理解できる。

さらに2文字墨書には「川原」、「家寺」、「十万」が確認できるが、「十万」は2文字を1文字のように密着させて書く合わせ文字で記されている。この合わせ文字も、東国古代集落における墨書土器と共通する特徴となっている。

C　墨書の部位

さて、これらの墨書土器について墨書される部位をみていくと、器種ごとに一定の規制があることが読み取れる。

土師器坏、須恵器坏・椀に書かれる墨書の部位（体部内面・外面・底部内面・外面）には、次のような傾向をもつことがわかる。

まず、墨書土器全体の傾向をみてみたい。土師器坏では71%が底部内面、次は体部外面が10%となる。須恵器坏では58%が底部内面、体部外面が15%、体部内面が12%、須恵器椀では体部外面が52%、体部内面が21%、底部内面が18%という傾向がある。

土師器坏では底部内面が主たる墨書位置として選択されていることがわかる。しかし、須恵器坏は底部内面、須恵器椀は体部外面がそれぞれ主たる墨書位置として選択される傾向があるが、両者とも土師器に比し選択比率は低く、50数%前後となっている。

次に最も多く書かれる「家」墨書土器について、同様に墨書部位をみてみよう。

土師器坏では100%が底部内面となる。須恵器坏では65%が底部内面、体部外面が20%、須恵器椀では61%が体部外面、体部内面が16%、底部内面が14%という傾向を示す。墨書土器全体と同様の傾向を示すようにみられるが、「家」という同種文字で部位をみると、その偏在性がより強調されることになる。

土師器坏では確認できた資料全てが底部内面を墨書位置とする極めて強い選択性が存在する。

須恵器坏も、底部内面が主たる墨書位置として選択され「坏形土器」としての共通する傾向を伺うこともできるが、その選択性は土師器坏に比しやや弱いものとなっている。

須恵器椀は体部外面が墨書位置として選択されるものの、体部・底部の内面も墨書位置として選択される。「外面」を主たる墨書部位とすることから、そ

れ以外の墨書位置を選択する場合は体部および底部に限らず「内面」が選択されようにみえる。

いずれにしても土師器坏の「家」墨書位置の選択には底部内面という一貫した規則性が存在するように集中している。なお、「家」以外の墨書では位置には多様性がみられる。このような同器種のなかでみられる字種による墨書位置の差には何らかの意味の相違をもつものであろうか。

須恵器坏・椀も墨書位置の選択性を読み取れるが、その割合は土師器坏に比し低下している。このような墨書位置の選択性の相違は、同じ墨書土器にあっても土師器と須恵器ではその意味に差があるのであろうか。時間差も考慮しなければならないが、墨書位置の選択性の相違や器内外両面への墨書ということはなんらかの機能差を有している可能性もあろう。

特に土師器坏、須恵器坏・椀の墨書土器の半数を占める「家」墨書土器でその傾向が顕著であることを考えれば、器種における墨書部位の相違には何らかの意味があろうことは想像できることだ。その意味については不明だが、すでにこれまでの調査例により指摘されていることであるが、出土した墨書土器の墨書位置に器種による相違がこの遺跡においても認められることを報告しておきたい。

また、須恵器椀は主たる墨書位置が体部外面となるが、文字方向にも偏向が認められる。

「家」墨書でみると、40例の内、20点が横位で全体の50％となる。この他に体部外面正位が11点(28％)、体部外面倒位が２点（５％)、体部内面横位が２点（５％)、体部内面倒位が３点（７％）となる。このように土器における墨書位置に加え、文字方位にも一定の規則性が看取でき、須恵器椀では横位が主たる文字方位となる。しかし、その規則性は墨書位置の選択性と類似した偏在率を示し、強固なものとはいえないようである。

d　共通する字種

141号溝出土の墨書土器には25種ほどの文字もしくは記号状の墨書が確認できる。これらの墨書には、単一器種に使用される文字とともに、次の６文字については、複数の器種に記される。

「西」、「月」は、須恵器椀および須恵器皿に認められる。

「㊍」は、須恵器坏および須恵器皿に認められる。

「大」は、須恵器坏および須恵器椀に認められる。

「丿」は、土師器坏および須恵器坏に認められる。

これら５文字は、以上のように２器種に加えられるが、「家」については墨書土器の全器種に記され、さらに数量も最も多い。

なお、墨書される文字種が多い器種は14文字ほどを数える須恵器椀であり、土師器坏、須恵器坏・皿は５種～７種ほどの文字が使用されている。

e　二文字墨書土器

一文字墨書がほとんどを占めるなかで、二文字墨書の確実な資料が「家寺」２点、「十万」１点、「川原」１点の計４点確認できる。なお、二文字以上のいわゆる多文字墨書土器は認められていない。

「家寺」は、須恵器椀・体部外面・横位に墨書される。この器種の主要な墨書部位、文字方位と一致する。なお、「寺」は土師器坏に１点認められる。「寺」は、東国古代集落に共通する字種の一つでもあり、村落内寺院の存在や僧などによる信仰活動を推定する資料となるという指摘もある。加えて、信仰関係の文字では「宮」も認められることから、仏教関連とともに神道に関わる祭祀も墨書土器を用いた儀礼行為に含まれるということかもしれない。

「十万」は土師器坏・底部内面に墨書されるが、合せ文字として記されている。この合せ文字も東日本に共通するものとされ、二文字を密着させ、字画を省略するという字形のまま分布しているものと理解されている。「十万」も同様の合せ文字字形が、神奈川県鳶尾遺跡にみることができ、共通する字形の分布例として理解できる。「川原」は土師器坏・底部外面に墨書されている。

f　墨書土器以外の出土土器類

墨書土器は、墨書が認められることから出土遺物の中でも目立つ存在であり、さらに今回の調査例のように集中的な出土であれば、なおさら中心的遺物

としての存在感が高まることになる。しかし、141号溝から出土した土器は墨書土器のみではなく、量的には墨書土器の50倍もの出土数の土器片が主体的なものであった。その中には、墨書土器との同一個体も含まれようが、それにしても墨書をもたない日常用具としての土器が圧倒的多数として存在する点は変わらないことだろう。

出土土器を器種でみると土師器坏が73%、須恵器坏・椀が13%となり、その他に甕類が出土している。食膳具である坏・椀類が86%と集中している点が特徴的である。これらの器種は墨書土器と同様の器種であり、出土状況も同様である。このような坏・椀が集中的に出土することは、単に流入によるものとはいえないだろう。墨書土器が出土したことと同様な意味合いをもつ可能性があるものと考えられる。坏・椀という器種の量的偏向は、人為的な行為によって生じたことと思われ、それは墨書土器に代表される祭祀・儀礼行為に伴い溝内に投入されたことを意味することが考えられる。墨書土器と共に、祭祀・儀礼行為になかで使用されたものと考えることで、これだけ大量の坏・椀類が墨書土器と共に溝内から出土したことが理解できる。

g　漆紙文書

須恵器坏の口縁部小破片に漆紙文書が確認された。玉村町域での検出例は本遺跡と福島曲戸遺跡を含め2例を数えることになった。

福島曲戸遺跡例は須恵器椀底部片に漆紙文書が確認された。この資料も小破片であり、残存状況が不良で、2文字が認められるものの判読はできていない。他に6点の漆紙が付着する須恵器椀・坏の小破片も出土している。いずれも9世紀後半の資料であり、福島飯塚遺跡例とほぼ同時期のものといえる。福島曲戸遺跡は福島飯塚遺跡の北東約500mにある遺跡で、竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝などの遺構群と大量の土器類が出土した9世紀代の集落が確認されている。なお、墨書土器は4点が出土している。

福島飯塚遺跡例は3文字認められ国立歴史民俗博物館教授平川南氏により「□巳□」と分析していただいている。さらに、文字が1cm四方ほどの大きさであることから推定して経典等ではなく、文書の可能性が高いとの指摘も受けた。

他に、漆紙付着土器が2点確認できたが、文字は認められていない。また、漆付着壺が1点検出された。頸部片であるが、内面に漆が層状に付着している。漆塗り作業に要するパレットとしての坏形土器と漆保存用の壺の存在が出土数は限られるものの確認できたことから、この集落において漆塗り作業が行なわれていたことが判断できることになろう。

これらの漆紙文書及び漆紙付着土器などは、多量の墨書土器と共に溝内から出土している。しかし、漆紙付着土器は、量的にも数点と極めて少なく、墨書土器同様に祭祀行為に伴って溝内に投入されたものとは考えにくい。破損もしくは不要になった時点での廃棄ということではないだろうか。141号溝が祭祀行為に利用されていたばかりでなはなく、日常生活の中での廃棄場所であった可能性も考えることができる。

h　灰釉陶器

「家」墨書をもつ灰釉陶器皿が1点確認されている。底部外面に墨書される資料で、光ヶ丘1号窯式期に位置付けられ、土師器および須恵器における「家」墨書土器と同時期のものといえる。

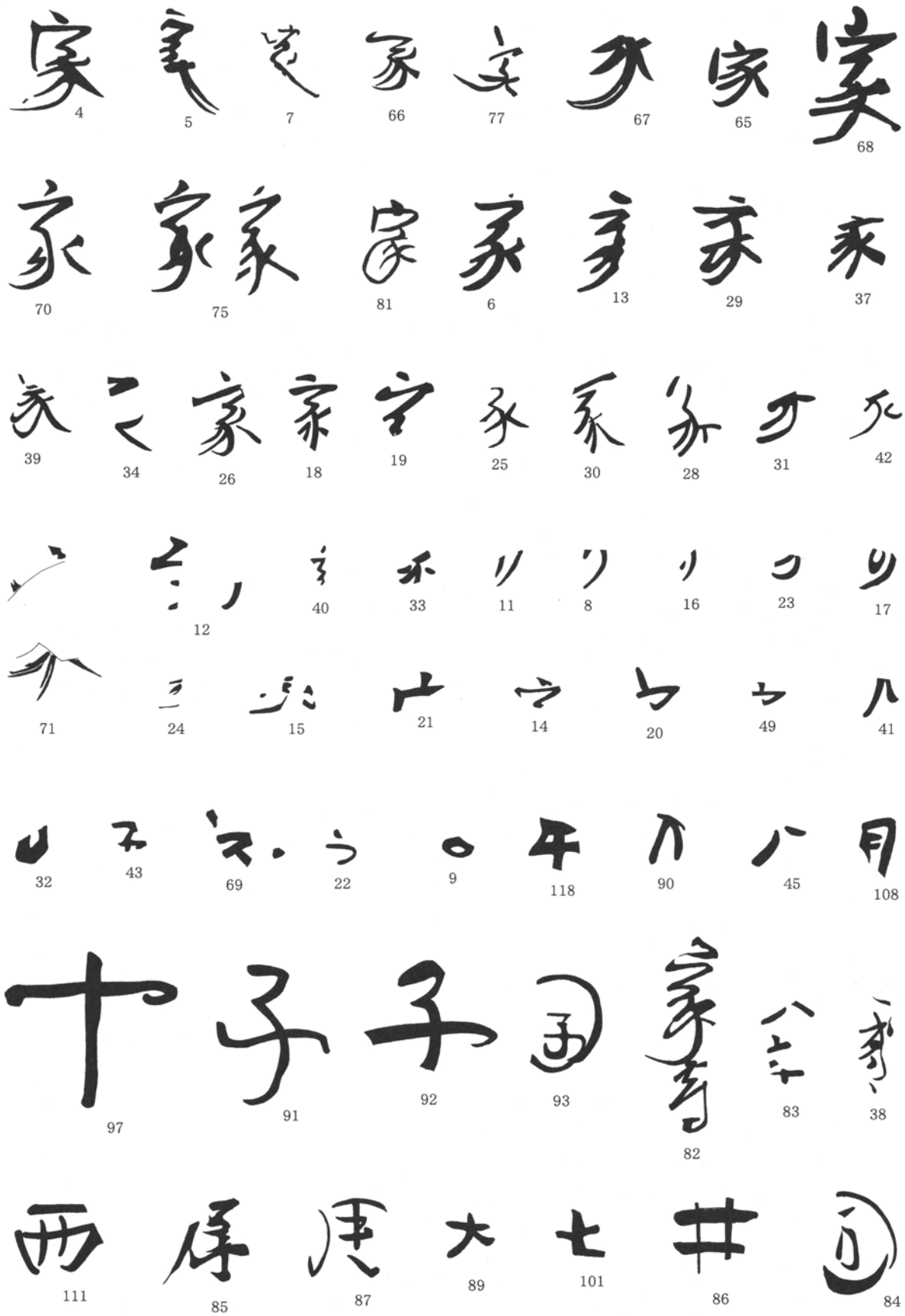
この他、小破片であるが黒笹14号窯式期（9世紀前葉）、光ヶ丘1号窯式期（9世紀後葉）、大原2号窯式期（10世紀前葉）の各期の資料が確認できる。墨書土器を含む大量の土器類と同様の時間幅に位置づけられるものといえる。

i　今後の課題

福島飯塚遺跡で検出した墨書土器は、その量の多さと大溝からの出土という点で極めて特徴的な調査となった。出土量からみて、この地域における古代集落の中心的な祭祀、儀礼の場であったものと思われる。墨書土器そのものの分析とともに、周辺における古代集落の総合的な見直しが必要となった。

今後、国道354号に伴う資料整理のなかでも再検討しながら、福島飯塚遺跡を評価する必要があるものといえる。

第152図　墨書一覧図（1）



第153図　墨書一覧図（2）

第154図　墨書一覧図（3）

第4表　墨書土器（須恵器　椀・坏、土師器　坏）墨書位置集計表

	須恵器　椀		須恵器　坏		須恵器　椀・坏計		土師器　坏	
墨書位置	点数	比率	点数	比率	点数	比率	点数	比率
体部内面	19	21%	4	12%	23	19%	10	8%
体部外面	46	52%	5	15%	51	42%	12	10%
体部内・外面	3	3%	2	6%	5	4%	0	0%
底部内面	15	18%	19	58%	33	27%	85	71%
底部外面	3	3%	3	9%	6	5%	9	7%
体・底部	3	3%	0	0%	3	3%	3	2%
底部内・外面	0	0%	0	0%	0	0%	3	2%
総点数	89		33		121		122	

「家」墨書土器（須恵器　椀・坏、土師器坏）墨書位置集計表

	須恵器　椀		須恵器　坏		須恵器　椀・坏		土師器　坏	
墨書位置	点数	比率	点数	比率	点数	比率	点数	比率
体部内面	9	16%	0	0%	9	12%	0	0%
体部外面	35	61%	4	20%	39	51%	0	0%
体部内・外面	1	2%	2	10%	3	4%	0	0%
底部内面	8	14%	13	65%	21	27%	53	100%
底部外面	3	5%	1	5%	4	5%	0	0%
体部・底部	1	2%	0	0%	1	1%	0	0%
総点数	57		20		77		53	

「家」以外墨書土器（須恵器　椀・坏、土師器　坏）墨書位置集計表

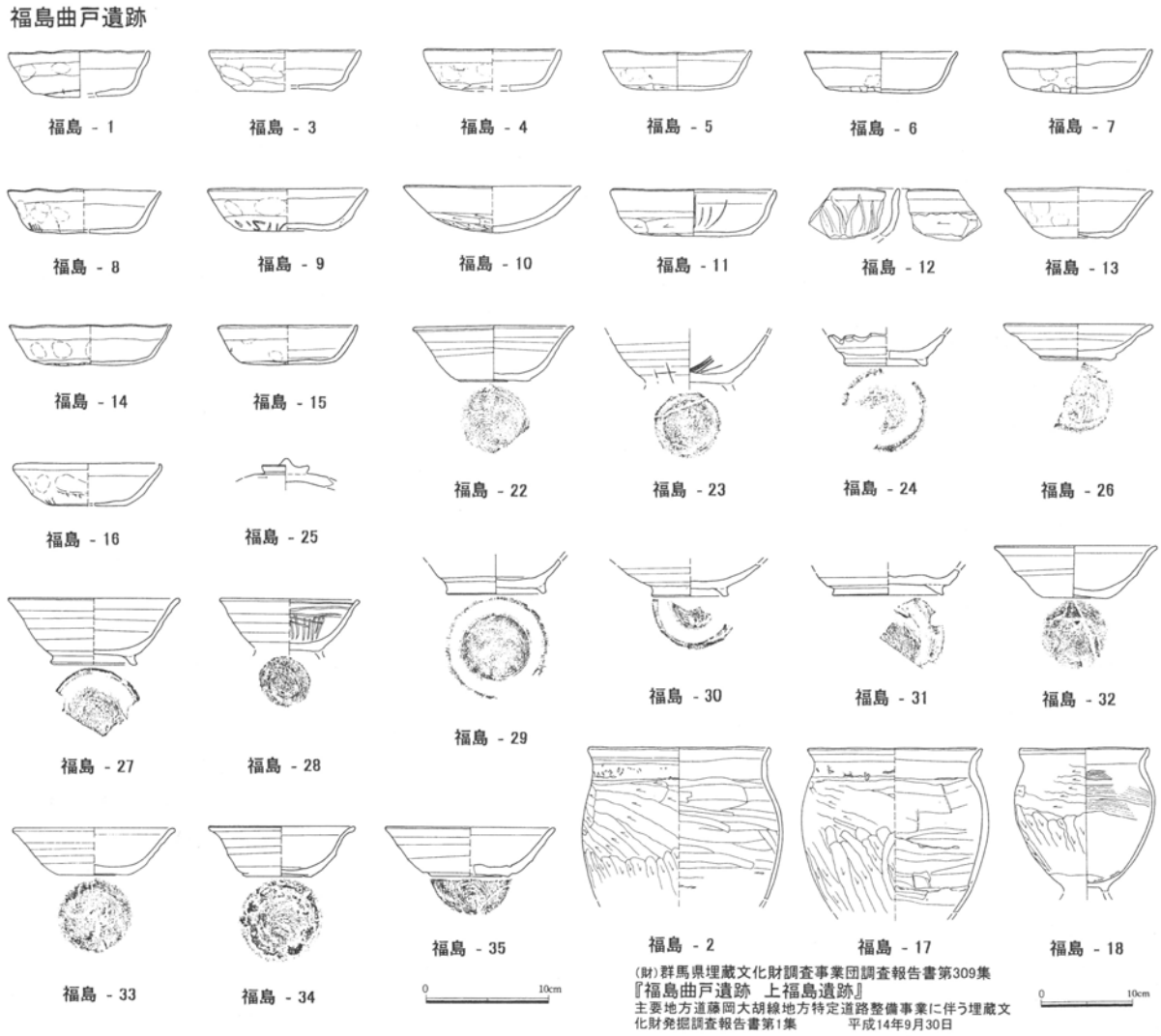
	須恵器　椀		須恵器　坏		須恵器　椀・坏		土師器　坏	
墨書位置	点数	比率	点数	比率	点数	比率	点数	比率
体部内面	10	31%	4	31%	14	31%	10	14%
体部外面	11	35%	1	8%	12	27%	12	17%
体部内・外面	2	6%	0	0%	2	4%	0	0%
底部内面	7	22%	6	46%	13	30%	32	46%
底部外面	0	0%	2	15%	2	4%	9	13%
体部・底部	2	6%	0	0%	2	4%	3	5%
底部内・外面	0	0%	0	0%	0	0%	3	5%
総点数	32		13		45		69	

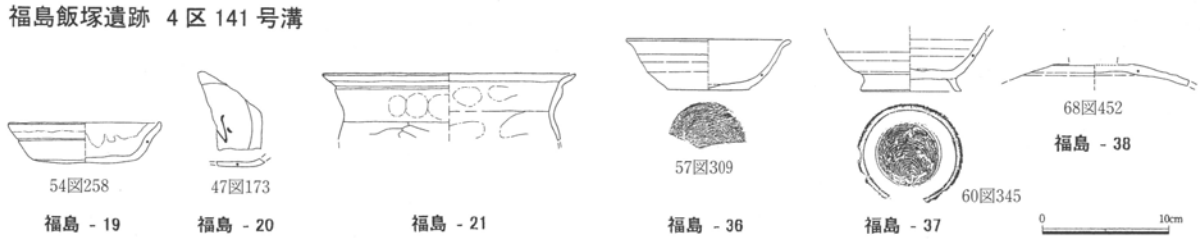
13　出土遺物の胎土分析

福島飯塚遺跡を含む国道354号高崎玉村バイパス関連および藤岡大胡線に伴う埋蔵文化財調査などの発掘調査により奈良・平安時代の集落が検出され、数多くの須恵器・土師器が出土している。

特に、9世紀代の遺物類が出土量も多く、主体的な存在となっている。

これらの中には、墨書土器や漆紙文書などの注目される遺物類も存在するとともに、さらに数多くの土器類も出土している。9世紀代の土器類について、胎土分析によって須恵器坏・椀類と須恵器甕類の胎土の異同、土師器坏と土師器甕類の胎土の異同および産地の推定などの解明に資する情報として、胎土分析を実施した。福島飯塚遺跡の比較対象試料として玉村町福島曲戸遺跡はじめ伊勢崎市光仙坊遺跡・舞台遺跡などのデータを利用した。以下、報告によるものとする。





第155図　胎土分析土器（福島曲戸遺跡・福島飯塚遺跡）

14胎土分析報告書

鑑　定　報　告
(株)第四紀　地質研究所　井　上　　巖

平成16年３月

(株)第四紀　地質研究所

目次

1　実験条件
2　実験結果の取扱
3　Ｘ線回折試験結果
　3－1　タイプ分類
　3－2　石英―斜長石の相関について
4　化学分析結果
　4－1　SiO２-Al２Ｏ３の相関について
　4－2　Fe２Ｏ３-MgOの相関について
　4－3　Ｋ２Ｏ-CaOの相関について
5　まとめ

図表目次

第１表　胎土性状表
第２表　化学分析表
第３表　タイプ分類一覧表
第４表　組成分類表
第１図　三角ダイヤグラム位置分類図
第２図　菱形ダイヤグラム位置分類図
第３図　Mo-Mi-Hb三角ダイヤグラム
第４図　Mo-Ch、Mi-Hb菱形ダイヤグラム
第５図　Qt-Pl図
第６図　SiO２-Al２Ｏ３図
第７図　Fe２Ｏ３-MgO図
第８図　Ｋ２Ｏ-CaO図

Ｘ線回折試験及び化学分析試験

1　実験条件

1－1　試料

分析に供した試料は第１表胎土性状表に示す通りである。

Ｘ線回折試験に供する遺物試料は洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉砕し、粉末試料として実験に供した。化学分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーテングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。

1－2　Ｘ線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はＸ線回折試験によった。測定には日本電子製JDX-8020Ｘ線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。Target：Cu，Filter：Ni，Voltage：40kV，Current：30mA，ステップ角度：0.02°　計数時間：0.5秒。

1－3　化学分析

元素分析は日本電子製5300LV型電子顕微鏡に2001型エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧：15kV、分析法：スプリント法、分析倍率：200倍、分析有効時間：100秒、分析指定元素10元素で行った。

2　Ｘ線回折試験結果の取扱い

実験結果は第１表胎土性状表に示す通りである。第１表右側にはＸ線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織が示してあり、左側には、各胎土に対する分類を行った結果を示している。

Ｘ線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に現われる各鉱物に特有のピークの強度を記載したものであ

る。

2－1　組成分類

1）　Mont-Mica-Hb三角ダイヤグラム

第1図に示すように三角ダイヤグラムを1～13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。

Mont、Mica、Hbの三成分の含まれない胎土は記載不能として14にいれ、別に検討した。三角ダイヤグラムはモンモリロナイト（Mont)、雲母類（Mica)、角閃石（Hb）のX線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント（%）で表示する。

モンモリロナイトはMont/Mont＋Mica＋Hb＊100でパーセントとして求め、同様にMica, Hbも計算し、三角ダイヤグラムに記載する。

三角ダイヤグラム内の1～4はMont, Mica, Hbの3成分を含み、各辺は2成分、各頂点は1成分よりなっていることを表している。

位置分類についての基本原則は第1図に示す通りである。

2）Mont-Ch,　Mica-Hb菱形ダイヤグラム

第2図に示すように菱形ダイヤグラムを1～19に区分し、位置分類を数字で記載した。記載不能は20として別に検討した。

モンモリロナイト（Mont)、雲母類（Mica)、角閃石（Hb)、緑泥石（Ch）の内、

a）3成分以上含まれない、b）Mont, Chの2成分が含まれない、c）Mica, Hbの2成分が含まれない、の3例がある。

菱形ダダイヤグラムはMont-Ch, Mica-Hbの組合せを表示するものである。Mont-Ch, Mica-Hbのそれぞれのx線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎に　パーセントで表すもので、例えば、Mont/Mont＋Ch＊100と計算し、Mica, Hb, Chも各々同様に計算し、記載する。

菱形ダイヤグラム内にある1～7はont, Mica, Hb, Chの4成分を含み、各辺はMont, Mica, Hb, Chのうち3成分、各頂点は2成分を含んでいることを示す。

位置分類についての基本原則は第2図に示すとおりである。

3）化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として、ノーマル法(10元素全体で100%になる)で計算し、化学分析表を作成した。化学分析表に基づいてSiO2-Al2O3図、Fe2O3-MgO図、K2O-CaO図の各図を作成した。これらの図をもとに、土器類を元素の面から分類した。

3　X線回折試験結果

3－1　タイプ分類

第1表胎土性状表には福島飯塚遺跡より出土した須恵器、土師器と比較対象遺物としての光仙坊遺跡・舞台遺跡の須恵器、新里村小林遺跡・新里村雷電山遺跡の平瓦が記載してある。

第3表タイプ分類一覧表に示すように土器はA～Gの7タイプに分類された。

Aタイプ：Hbの1成分を含み、Mont, Mica, Chの3成分に欠ける。

Bタイプ：Mica, Hb, Chの3成分を含み、Mont 1成分に欠ける。

Cタイプ：Mica, Hbの2成分を含み、Mont, Chの2成分に欠ける。

Dタイプ：Mica, Hb, Chの3成分を含み、Mont 1成分に欠ける。
組成的にはBタイプに類似するが検出強度が異なる。

Eタイプ：Mica, Hbの2成分を含み、Mont, Chの2成分に欠ける。
組成的にはCタイプに類似するが検出強度が異なる。

Fタイプ：Mica 1成分を含み、Mont, Hb, Chの3成分に欠ける。

Gタイプ：Mont, Mica, Hb, Chの4成分に欠ける。
高温で焼成されているために鉱物は分解してガラスに変質している。

3－2　石英（Qt）－斜長石（Pl）の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を制作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るということは個々の集団が持つ土器制作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり、言い換えれば、各地の砂はおのおの固有の石英と斜長石比を有していると言える。

第5図Qt-Pl図に示すように、土器はQt-Ｐ１の相関における強度領域が低領域から高領域にかけて5グループと“その他”に分類された。

（Ｉ～IIIの３タイプは胎土の化学分析に基づくSiO２-Al２Ｏ３の相関図において分類されたものである。）

「Ｉタイプ：Qt小・Pl高」

Qtが600～1900、Plが200～630の領域に分布する。曲戸地区と飯塚地区の土師器と須恵器が集中する。

「Ｉタイプ：Qt大・Pl高」

Qtが1800～3000、Plが400～800の領域に分布する。曲戸地区の土師器と須恵器が集中する。

「IIタイプ：Qt小・Pl」

Qtが900～1800、Plが０～220の領域に分布する。H15舞台遺跡須恵器が集中する。

「IIタイプ：Qt大・Pl低」

Qtが1600～3000、Plが100～450の領域に分布する。三和工業団地の舞台遺跡の須恵器が集中し、飯塚地区の須恵器が混在する。

「IIIタイプ」

Qtが1100～1600、Plが150～450の領域に分布する。光仙坊遺跡と舞台遺跡の須恵器が集中する。

“その他”：飯塚地区の福島-20はPlの強度が高く、どのグループにも属さず、異質である。

4　化学分析結果

第2表化学分析表には福島飯塚遺跡より出土した須恵器、土師器と比較対象遺物としての光仙坊遺跡・舞台遺跡の須恵器、新里村小林遺跡・新里村雷電山遺跡の平瓦が記載してある。

分析結果に基づいて第6図SiO２-Al２Ｏ３図、第7図Fe２Ｏ３-MgO図、第8図Ｋ２Ｏ-CaO図を作成した。

第6図SiO２-Al２Ｏ３図を基準として、土器はＩ～IIIの３タイプと“その他”に分類した。

4－1　SiO２-Al２Ｏ３の相関について

第6図SiO２-Al２Ｏ３図に示すように土器はＩ～IIIの３タイプと“その他”に分類した。

Ｉタイプ：SiO２が50～68%、Al２Ｏ３が16～28%の領域に分布する。
曲戸地区と飯塚地区の須恵器と土師器が集中する。

IIタイプ：SiO２が60～68%、Al２Ｏ３が22～27%の領域に分布する。
三和工業団地の舞台遺跡の須恵器類が集中し、H15舞台遺跡の須恵器が共存する。

IIIタイプ：SiO２が62～75%、Al２Ｏ３が16～25%の領域に分布する。光仙坊遺跡とH15舞台遺跡の須恵器が共存する。

“その他”：福島-34の曲戸地区の須恵器はPlの強度が高く異質である。

4－2　Fe２Ｏ３-MgOの相関について

第7図Fe２Ｏ３-MgO図に示すように土器は4グループと“その他”に分類した。

「Ｉタイプ」

Fe２Ｏ３が4～17%、MgOが0.5～3.5%の領域に分布する。曲戸地区と飯塚地区の須恵器と土師器が集中する。

「IIタイプ・Qt大：Pl低」

Fe２Ｏ３が4～8%、MgOが0.2～1.2%の領域に分布する。三和工業団地の舞台遺跡の土器が集中する。

「IIタイプ・Qt小：Pl低」

Fe２Ｏ３が7～13%、MgOが0～1.0%の領域に分布する。H15舞台遺跡と舞台遺跡の土器が共存する。

「IIIタイプ」

Fe_2O_3が2～7％、MgOが0～0.5％の領域に分布する。光仙坊遺跡の須恵器が集中する。

“その他”：福島-26と44はFe_2O_3が15％＋と高く、福島-6はMgOが4.0％＋と高く、異質である。

4－3　K_2O-CaOの相関について

第8図K_2O-CaO図に示すように土器は4グループと“その他”に分類した。

「Ⅰタイプ」

K_2Oが1.4～3.8％、CaOが0.5～3.2％の領域に分布する。曲戸地区と飯塚地区の須恵器と土師器が集中する。

「Ⅱタイプ・K_2O小」

K_2Oが1.0～2.4％、CaOが0.3～1.2％の領域に分布する。三和工業団地の舞台遺跡の土器が集中し、H15舞台遺跡の土器が共存する。

「Ⅱタイプ・K_2O大」

K_2Oが2.5～3.5％、CaOが0～0.8％の領域に分布する。H15舞台遺跡の土器が集中する。

“その他”：福島－6はCaOが4％＋と高く異質である。

5　まとめ

X線回折試験と蛍光X線分析結果に基づいて、土器胎土を第3表タイプ分類表と第4表組成分類表に示すように分類した。

1）Ⅰタイプは曲戸地区と飯塚地区の須恵器と土師器、Ⅱタイプは三和工業団地の舞台遺跡の須恵器とH15舞台遺跡の須恵器と土師器、Ⅲタイプは光仙坊遺跡の須恵器と地域ごとによって分類される。

2）Ⅰタイプは「Ⅰタイプ：Qt小・Pl高」、「Ⅰタイプ：Qt大・Pl高」、「Ⅰタイプ：Qt小・Pl低」と細分される。「Ⅰタイプ：Qt小・Pl高」が最も多く、土師器と須恵器が該当する。Ⅰタイプは曲戸地区と飯塚地区の土器が該当し、地区による胎土の成分差はない。焼成温度に関していえば、Pl高は焼成温度が低く、Pl低は高温焼成を意味し、須恵器と土師器はともにPl低で、焼成温度が低い領域で共存し、温度差はあまりない。材質的にはSiO_2とAl_2O_3の領域が広く、粘土を調整して、材質管理をしているというよりは土器に適合するある粘土を採取し、直接砂をある量混合して土器の粘土としているようである。調整した粘土であればSiO_2とAl_2O_3の領域が狭くなるはずである。曲戸地区と飯塚地区の須恵器の一部は焼成温度が高いものがあり、これらは別のタイプとした。

3）SiO_2-Al_2O_3の相関では、ⅡタイプはSiO_2とAl_2O_3の狭い領域に集中し、三和工業団地の舞台遺跡の須恵器とH15舞台遺跡の須恵器が共存する。しかし、Qt-Plの相関ではQt小の領域にH15舞台遺跡の須恵器が集中し、Qt大の領域に三和工業団地の舞台遺跡の須恵器が集中し、砂の混合比が異なり、製作集団が異なる。

4）Ⅲタイプは光仙坊遺跡の須恵器が集中し、SiO_2-Al_2O_3、Fe_2O_3-MgO、K_2O-CaOの3つの相関において曲戸地区、飯塚地区、舞台遺跡の各遺跡の土器とはそれぞれ領域が異なり、明らかに別の独立した組成を示す。

第1表　胎土性状表

試料No.	タイプ分類	組成分類		粘土鉱物および造岩鉱物														備考			
		Mo-Mi-Hb	Mo-Ch-Mi-Hb	Mont	Mica	Hb	Ch(Fe	Ch(Mg)	Qt	Pl	Crist	Mullite	K-fels	Halloy	Kaol	Pyrite	Au	器種	器形	時代	備考
舞台—1	G	14	20						1753	59	306	96						須恵器	甕	6C後半	谷地
舞台—2	A	5	20			85			1629	124	280							須恵器	甕	6C後半	谷地
舞台—3	A	5	20			77			2537	390	257							須恵器	甕	6C後半	谷地
舞台—4	G	14	20						1565	61	678	101						須恵器	壺	6C後半	谷地
舞台—5	G	14	20						1011	202	1081	66						須恵器	提瓶	6C後半	A1—25住
舞台—6	G	14	20						1672	120	611	58						須恵器	高杯	6C後半	E3—99住
舞台—7	G	14	20						1225	68	181	210						須恵器	提瓶	6C後半	E3—105住
舞台—8	G	14	20						1580	60	835	126						須恵器	長頸瓶	6C後半	E—109住
舞台—9	G	14	20						1107	75	785	162						須恵器	甕	6C後半	E2—114住
舞台—10	G	14	20						1388	59	637	159						須恵器	横瓶	6C後半	E2—122住
舞台—11	G	14	20						1290	98	540	184						須恵器	甕	6C後半	E3—171住
舞台—12	A	5	20			66			2348	192	153		183					須恵器	壺	6C後半	E3—204住
舞台—13	G	14	20						1955	176	156							須恵器	高杯	6C後半	E3—129
舞台—14	G	14	20						2673	61	456	134	82					須恵器	甕	6C	はA32住
舞台—15	G	14	20						1258	89	780	179						須恵器	甕	6C	はA32住
舞台—16	G	14	20						1128	80	165	174						須恵器	甕	6C	はA32住
舞台—17	C	6	20		61	99			1855	502								土師器	杯	6C後半	谷地
舞台—18	A	5	20			113			1325	187								土師器	杯	6C後半	谷地
舞台—19	A	5	20			118			1713	304								土師器	杯	6C後半	谷地
舞台—20	F	8	20		91				2355	443	126							土師器	杯	6C後半	谷地
舞台—21	A	5	20			205			971	407	394							土師器	杯	6C後半	谷地
舞台—22	D	7	9		164	115	133	50	1801	361								土師器	杯	6C後半	谷地
舞台—23	G	14	20						1414	106	897	183						須恵器	甕	7C	新里村小林
舞台—24	G	14	20						678	313	571	148						須恵器	甕	7C	新里村小林
舞台—25	A	5	20			165			1313	218	501							瓦	平瓦	7C	新里村雷電山
舞台—26	A	5	20			100			835	118	946	102						瓦	平瓦	7C	新里村雷電山
舞台—27	A	5	20			82			2238	412	171							須恵器	坏	9C	1号窯
舞台—28	A	5	20			81			2056	390	142							須恵器	坏	9C	1号窯
舞台—29	E	7	20		74	72			2079	326	133		211					須恵器	坏	9C	1号窯
舞台—30	G	14	20						1959	256	167	51						須恵器	坏	9C	1号窯
舞台—31	A	5	20			47			2550	313	211	44						須恵器	坏	9C	1号窯
舞台—32	A	5	20			84			1967	318	153	56						須恵器	坏	9C	1号窯
舞台—33	A	5	20			68			2879	246	133	45						須恵器	坏	9C	1号窯
舞台—34	E	7	20		101	91			1600	315	160							須恵器	坏	9C	1号窯
舞台—35	A	5	20			119			1903	308	172							須恵器	坏	9C	1号窯
舞台—36	G	14	20						2398	255	162	55						須恵器	坏	9C	1号窯
舞台—37	A	5	20			61			2410	248	143	54						須恵器	坏	9C	9号窯
舞台—38	G	14	20						2438	305	105	49						須恵器	坏	9C	9号窯
舞台—39	G	14	20						2381	180	168	62						須恵器	坏	9C	9号窯
舞台—40	F	8	20		109				2604	351	134		176					須恵器	坏	9C	9号窯
舞台—41	G	14	20						2728	415	103							須恵器	坏	9C	9号窯
舞台—42	E	7	20		100	82			2043	261	120		179					須恵器	坏	9C	9号窯
舞台—43	G	14	20						1421	265	181							須恵器	坏	9C	9号窯
舞台—44	A	5	20			80			2734	297	137							須恵器	蓋	9C	9号窯
舞台—45	G	14	20						2465	358	127							須恵器	坏	9C	9号窯
舞台—46	F	8	20		78				2369	329								須恵器	坏	9C	9号窯
福島—1	D	7	9		159	127	158		1501	367	73							土師器	杯	9C	曲戸地区
福島—2	E	7	20		128	117			2257	693								土師器	甕	9C	曲戸地区
福島—3	D	7	9		159	107	164		1525	308								土師器	杯	9C	曲戸地区
福島—4	E	7	20		104	91			1066	420	119							土師器	杯	9C	曲戸地区
福島—5	E	7	20		108	84			1125	349	102							土師器	杯	9C	曲戸地区
福島—6	A	5	20			69			1305	473	96							土師器	杯	9C	曲戸地区
福島—7	E	7	20		122	80			1342	477	90							土師器	杯	9C	曲戸地区
福島—8	D	7	9		162	103	146		1439	344								土師器	杯	9C	曲戸地区
福島—9	D	7	9		162	101	126		1160	377								土師器	杯	9C	曲戸地区
福島—10	A	5	20			96			1327	329	196							土師器	杯	9C	曲戸地区
福島—11	E	7	20		121	98			1235	332	98							土師器	杯	9C	曲戸地区
福島—12	A	5	20			88			695	514								土師器	杯	9C	曲戸地区
福島—13	E	7	20		140	91			1059	535	73							土師器	杯	9C	曲戸地区
福島—14	E	7	20		134	119			1516	270								土師器	杯	9C	曲戸地区
福島—15	E	7	20		137	101			1362	348	86							土師器	杯	9C	曲戸地区
福島—16	D	7	9		191	102	136		1296	327	73							土師器	杯	9C	曲戸地区
福島—17	D	7	9		148	101	141		1402	414								土師器	甕	9C	曲戸地区
福島—18	A	5	20			107			1829	296	252							土師器	甕	9C	曲戸地区
福島—19	D	7	9		182	126	104		1273	241	81							土師器	杯	9C	飯塚地区
福島—20	E	7	20		166	102			1447	1031	97							土師器	杯	9C	飯塚地区
福島—21	B	6	10		110	123	227		1767	453	94							土師器	甕	9C	飯塚地区
福島—22	E	7	20		103	102			1417	290	166							須恵器	杯	9C	曲戸地区
福島—23	E	7	20		147	98			1243	357	76							須恵器	椀	9C	曲戸地区
福島—24	G	14	20						2097	324	150							須恵器	椀	9C	曲戸地区
福島—25	G	14	20						2740	671	106							須恵器	蓋	9C	曲戸地区
福島—26	G	14	20						2648	544	80							須恵器	杯	9C	曲戸地区
福島—27	C	6	20		70	104			2010	437	99							須恵器	椀	9C	曲戸地区
福島—28	D	7	9		180	95	143		1488	465	91							須恵器	椀	9C	曲戸地区
福島—29	E	7	20		183	145			2224	361	124							須恵器	椀	9C	曲戸地区
福島—30	D	7	9		278	181	158		2043	567	73							須恵器	椀	9C	曲戸地区
福島—31	G	14	20						2693	69	100	88						須恵器	椀	9C	曲戸地区
福島—32	D	7	9		146	98	162		1493	528	72							須恵器	杯	9C	曲戸地区
福島—33	E	7	20		128	96			2853	498	81		227					須恵器	杯	9C	曲戸地区
福島—34	G	14	20						1655	107	131		106					須恵器	杯	9C	曲戸地区
福島—35	G	14	20						2346	252	108	56						須恵器	杯	9C	曲戸地区
福島—36	G	14	20						1893	162	96		127					須恵器	椀	9C	飯塚地区
福島—37	A	5	20			55			2056	241	88		140					須恵器	杯	9C	飯塚地区
福島—38	G	14	20						2889	174	103		211					須恵器	蓋	9C	飯塚地区
福島—39	A	5	20			102			1405	360	200							須恵器	杯	9C	光仙坊遺跡1号窯
福島—40	G	14	20						1317	223	1104	99						須恵器	杯	9C	光仙坊遺跡2号窯
福島—41	G	14	20						1263	486	358	75						須恵器	甕	9C	光仙坊遺跡2号窯
福島—42	A	5	20			90			1436	370	210	90						須恵器	杯	9C	光仙坊遺跡4号窯
福島—43	G	14	20						1333	236	528	78						須恵器	杯	9C	光仙坊遺跡5号窯
福島—44	G	14	20						1187	217	913	110						須恵器	杯	9C	光仙坊遺跡6号窯
福島—45	G	14	20						1370	286	1014	111						須恵器	杯	9C	光仙坊遺跡7号窯
福島—46	G	14	20						1482	208	894	98						須恵器	杯	9C	光仙坊遺跡8号窯
福島—47	G	14	20						1803	343	150	106						須恵器	杯	9C	光仙坊遺跡9号窯
福島—48	G	14	20						1315	246	1039	87						須恵器	杯	9C	光仙坊遺跡10号窯
福島—49	G	14	20						1334	416	1055	106						須恵器	甕	9C	光仙坊遺跡10号窯
福島—50	G	14	20						1316	172	1158	98						須恵器	杯	9C	光仙坊遺跡11号窯
福島—51	G	14	20						2105	312	452	113						須恵器	杯	9C	光仙坊遺跡13号窯
福島—52	G	14	20						1559	375	225	113						須恵器	甕	9C	光仙坊遺跡13号窯
福島—53	G	14	20						2086	221	134							須恵器	甕	9C	光仙坊遺跡9号窯
福島—54	A	5	20			57			2205	525	316							須恵器	甕	9C	舞台遺跡1号
福島—55	G	14	20						1403	127	696	83						須恵器	杯	9C	舞台遺跡2号
福島—56	A	5	20			67			1252	214	216	97						須恵器	杯	9C	舞台遺跡3号
福島—57	G	14	20						1519	154	630	111						須恵器	杯	9C	舞台遺跡4号
福島—58	A	5	20			124			1238	325	162							須恵器	杯	9C	舞台遺跡5号
福島—59	G	14	20						2107	232	463	76						須恵器	杯	9C	舞台遺跡6号
福島—60	A	5	20			116			1920	275	195							須恵器	杯	9C	舞台遺跡7号
福島—61	G	14	20						1804	227	353	62						須恵器	杯	9C	舞台遺跡8号
福島—62	G	14	20						1250	275	554	109						須恵器	杯	9C	舞台遺跡9号
福島—63	G	14	20						755	353	1018	119						須恵器	杯	9C	舞台遺跡10号

Mont：モンモリロナイト　Mica：雲母類　Hb：角閃石　Ch：緑泥石(Ch:Fe 一次反射、Ch:Mg 二次反射)　Qt：石英　Pl：斜長石　Crist：クリストバライト
Mullite：ムライト　K-fels：カリ長石　Halloy ：ハロイサイト　Kaol：カオリナイト　Pyrite:黄鉄鉱　Au：普通輝石　Py:紫蘇輝石

第２表　化学分析表

試料名	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	NiO	Total	器種	器形	時代	出土遺跡
舞台―１	0.02	0.46	20.06	68.59	2.84	0.35	0.98	0.41	6.23	0.06	100.00	須恵器	甕	６Ｃ後半	谷地
舞台―２	0.70	0.00	20.66	64.66	1.49	0.66	1.43	0.14	10.25	0.02	100.01	須恵器	甕	６Ｃ後半	谷地
舞台―３	1.16	0.00	19.10	73.72	2.43	0.76	0.70	0.11	2.01	0.00	99.99	須恵器	甕	６Ｃ後半	谷地
舞台―４	0.84	0.06	21.18	61.00	1.76	0.42	1.60	0.50	12.66	0.00	100.02	須恵器	壺	６Ｃ後半	谷地
舞台―５	0.53	1.33	20.67	65.84	1.12	0.54	1.11	0.41	8.43	0.03	100.01	須恵器	提瓶	６Ｃ後半	Ａ１―25住
舞台―６	0.92	0.00	20.10	62.44	1.77	0.59	1.49	0.54	12.10	0.05	100.00	須恵器	高杯	６Ｃ	Ｅ３―99住
舞台―７	0.63	0.05	22.36	65.18	3.42	0.26	1.01	0.56	6.52	0.00	99.99	須恵器	提瓶	６Ｃ後半	Ｅ３―105住
舞台―８	0.00	0.18	18.92	68.63	2.71	0.39	1.26	0.61	7.23	0.08	100.01	須恵器	長頸瓶	６Ｃ後半	Ｅ―109住
舞台―９	1.03	0.00	23.02	63.71	2.07	0.50	0.93	0.07	8.60	0.06	99.99	須恵器	甕	６Ｃ後半	Ｅ２―114住
舞台―10	0.71	0.00	19.63	64.50	1.56	0.40	1.07	0.64	11.32	0.16	99.99	須恵器	横瓶	６Ｃ後半	Ｅ２―122住
舞台―11	1.10	0.00	22.54	65.58	1.91	0.85	1.21	0.45	6.28	0.08	100.00	須恵器	甕	６Ｃ後半	Ｅ３―171住
舞台―12	0.50	0.00	22.46	63.36	1.68	0.77	1.59	0.38	9.27	0.00	100.01	須恵器	壺	６Ｃ後半	Ｅ３―204住
舞台―13	0.72	0.37	19.43	64.23	1.72	0.89	1.24	0.51	10.81	0.08	100.00	須恵器	高杯	６Ｃ後半	Ｅ３―129
舞台―14	0.35	0.00	20.99	70.29	2.58	0.21	0.94	0.30	4.24	0.10	100.00	須恵器	甕	６Ｃ	はＡ32住
舞台―15	0.98	0.00	20.88	66.78	1.81	0.77	1.16	0.14	7.38	0.10	100.00	須恵器	甕	６Ｃ	はＡ32住
舞台―16	0.67	0.00	20.24	67.08	3.22	0.54	0.77	0.45	7.02	0.00	99.99	須恵器	甕	６Ｃ	はＡ32住
舞台―17	1.01	2.54	20.61	56.58	3.47	1.04	2.22	0.46	11.89	0.20	100.02	土師器	杯	６Ｃ後半	谷地
舞台―18	0.97	2.12	19.75	56.12	2.60	1.10	1.59	0.94	14.80	0.00	99.99	土師器	杯	６Ｃ後半	谷地
舞台―19	0.71	0.00	19.62	68.47	0.89	1.09	1.01	0.50	7.71	0.00	100.00	土師器	杯	６Ｃ後半	谷地
舞台―20	1.07	0.00	21.71	65.14	1.93	0.72	1.37	0.24	7.65	0.17	100.00	土師器	杯	６Ｃ後半	谷地
舞台―21	0.59	0.00	19.81	73.24	0.80	1.35	1.27	0.17	2.73	0.03	99.99	土師器	杯	６Ｃ後半	谷地
舞台―22	1.11	1.67	20.25	57.24	3.35	1.82	2.19	0.48	11.62	0.27	100.00	土師器	杯	６Ｃ後半	谷地
舞台―23	0.75	0.00	21.10	66.81	1.51	0.76	1.14	0.31	7.60	0.03	100.01	須恵器	甕	７Ｃ	新里村小林
舞台―24	1.15	0.00	26.14	61.83	1.60	1.33	1.32	0.36	6.26	0.00	99.99	須恵器	甕	７Ｃ	新里村小林
舞台―25	0.66	0.00	25.59	66.08	0.72	0.72	1.07	0.11	4.86	0.19	100.00	瓦	平瓦	７Ｃ	新里村雷電山
舞台―26	0.76	0.00	23.28	64.23	1.05	0.80	1.86	0.63	7.37	0.01	99.99	瓦	平瓦	７Ｃ	新里村雷電山
舞台―27	1.18	1.28	24.37	63.35	1.98	0.89	1.19	0.25	5.51	0.00	100.00	須恵器	坏	９Ｃ	舞台―１
舞台―28	0.75	0.84	24.43	62.80	1.99	0.68	0.89	0.15	7.46	0.00	99.99	須恵器	坏	９Ｃ	舞台―２
舞台―29	0.83	0.74	24.64	63.77	1.32	0.76	1.13	0.00	6.82	0.00	100.01	須恵器	坏	９Ｃ	舞台―３
舞台―30	0.76	0.86	24.32	64.63	1.53	1.14	1.13	0.41	5.22	0.00	100.00	須恵器	坏	９Ｃ	舞台―４
舞台―31	0.72	0.76	21.29	64.57	1.92	1.10	1.11	0.00	8.43	0.09	99.99	須恵器	坏	９Ｃ	舞台―５
舞台―32	0.65	0.57	22.83	66.91	1.34	0.81	1.09	0.01	5.71	0.08	100.00	須恵器	坏	９Ｃ	舞台―６
舞台―33	1.02	1.06	22.45	64.39	2.31	0.87	1.13	0.00	6.77	0.00	100.00	須恵器	坏	９Ｃ	舞台―７
舞台―34	0.59	0.40	22.58	66.75	1.15	0.66	0.69	0.00	6.59	0.59	100.00	須恵器	坏	９Ｃ	舞台―８
舞台―35	0.69	1.13	23.49	65.56	1.23	0.88	0.76	0.04	6.23	0.00	100.01	須恵器	坏	９Ｃ	舞台―９
舞台―36	0.80	0.93	23.84	63.50	1.84	1.04	1.10	0.17	6.58	0.19	99.99	須恵器	坏	９Ｃ	舞台―10
舞台―37	0.90	0.72	22.04	63.91	2.19	0.62	1.33	0.52	7.70	0.06	99.99	須恵器	坏	９Ｃ	舞台―11
舞台―38	0.98	0.76	23.36	64.77	1.72	0.63	0.99	0.38	6.40	0.00	99.99	須恵器	坏	９Ｃ	舞台―12
舞台―39	0.81	1.13	21.72	64.00	1.91	0.59	1.12	0.03	8.32	0.36	99.99	須恵器	坏	９Ｃ	舞台―13
舞台―40	1.25	0.53	23.69	64.96	1.65	0.68	1.17	0.41	5.27	0.38	99.99	須恵器	坏	９Ｃ	舞台―14
舞台―41	0.32	0.24	32.24	56.83	1.43	0.55	1.04	0.17	7.13	0.05	100.00	須恵器	坏	９Ｃ	舞台―15
舞台―42	0.79	0.40	23.41	65.51	1.40	0.65	1.11	0.15	6.58	0.00	100.00	須恵器	坏	９Ｃ	舞台―16
舞台―43	1.16	0.40	25.46	62.99	1.45	0.82	1.19	0.14	6.35	0.05	100.01	須恵器	坏	９Ｃ	舞台―17
舞台―44	0.98	0.74	22.32	65.48	2.50	0.56	0.87	0.43	6.06	0.07	100.01	須恵器	蓋	９Ｃ	舞台―18
舞台―45	1.15	0.84	25.52	61.29	1.96	0.91	1.01	0.53	6.79	0.00	100.00	須恵器	坏	９Ｃ	舞台―19
舞台―46	0.76	0.82	27.09	61.19	1.61	0.82	1.02	0.33	6.34	0.00	99.98	須恵器	坏	９Ｃ	舞台―20
福島―１	0.97	2.25	18.97	58.32	3.77	1.41	1.41	1.07	11.83	0.00	100.00	土師器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―２	1.23	1.06	21.41	62.22	2.66	1.48	1.33	0.31	8.27	0.03	100.00	土師器	甕	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―３	1.06	2.95	19.44	55.35	3.45	1.27	1.27	0.93	14.26	0.00	99.98	土師器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―４	1.06	1.14	22.17	60.56	2.40	1.65	1.07	0.54	9.41	0.00	100.00	土師器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―５	1.09	1.12	23.45	55.77	1.75	1.64	0.83	0.78	13.43	0.13	99.99	土師器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―６	0.77	4.26	17.77	55.34	2.60	4.32	1.30	1.35	12.17	0.12	100.00	土師器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―７	1.96	0.79	25.31	57.94	1.70	2.40	0.77	1.24	7.88	0.00	99.99	土師器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―８	1.20	2.51	19.52	54.58	3.67	1.38	1.49	1.52	14.03	0.11	100.01	土師器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―９	0.81	2.40	21.52	54.36	4.05	1.07	1.44	1.08	13.27	0.00	100.00	土師器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―10	0.92	1.91	22.35	58.42	2.63	1.53	1.32	0.83	10.08	0.00	99.99	土師器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―11	1.11	1.04	22.01	59.99	2.12	1.38	1.20	1.31	9.75	0.10	100.01	土師器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―12	0.78	1.06	22.69	59.39	1.47	1.42	1.17	0.59	11.43	0.00	100.00	土師器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―13	1.46	1.55	20.20	55.25	2.68	2.23	1.22	1.17	14.08	0.17	100.01	土師器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―14	0.96	2.19	20.39	59.63	3.01	1.52	1.58	0.65	10.07	0.00	100.00	土師器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―15	1.25	2.08	20.82	60.84	2.37	1.37	0.96	1.74	8.57	0.00	100.00	土師器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―16	1.01	3.00	21.35	56.37	3.36	1.48	1.44	1.44	10.55	0.00	100.00	土師器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―17	1.02	2.43	20.49	52.53	3.11	1.29	1.45	0.94	16.64	0.11	100.01	土師器	甕	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―18	0.76	0.67	22.75	61.81	1.66	2.20	2.21	0.51	7.43	0.00	100.00	土師器	甕	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―19	1.21	1.94	22.60	58.05	2.93	1.61	1.19	0.81	9.65	0.00	99.99	土師器	杯	平安時代（９Ｃ）	飯塚地区
福島―20	2.02	1.48	23.46	60.29	2.10	2.93	0.79	0.71	6.14	0.08	100.00	土師器	杯	平安時代（９Ｃ）	飯塚地区
福島―21	0.78	1.38	22.33	59.26	1.96	1.37	1.39	0.59	10.88	0.07	100.01	土師器	甕	平安時代（９Ｃ）	飯塚地区
福島―22	1.15	1.67	20.14	58.53	2.68	1.58	1.21	0.70	11.93	0.41	100.00	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―23	0.86	2.10	19.61	57.02	3.18	1.27	1.44	0.56	13.75	0.20	99.99	須恵器	椀	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―24	1.39	0.18	23.47	61.38	1.90	1.47	0.87	0.25	9.04	0.05	100.00	須恵器	椀	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―25	0.78	0.10	23.71	59.91	1.96	0.44	1.36	1.47	10.09	0.18	100.00	須恵器	蓋	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―26	0.83	0.28	23.00	51.13	2.44	0.71	1.37	0.69	19.55	0.00	100.00	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―27	0.30	1.75	26.75	55.09	1.52	1.02	1.57	0.75	11.22	0.03	100.00	須恵器	椀	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―28	1.04	2.16	19.48	57.31	3.39	1.51	1.22	1.13	12.59	0.16	99.99	須恵器	椀	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―29	0.43	1.95	21.49	64.98	2.23	1.15	0.81	0.53	6.37	0.04	99.98	須恵器	椀	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―30	0.43	3.02	22.21	61.25	2.32	1.54	1.17	0.43	7.48	0.16	100.01	須恵器	椀	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―31	0.14	0.42	20.89	67.31	2.68	0.41	1.05	0.23	6.65	0.23	100.01	須恵器	椀	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―32	0.92	3.02	20.69	58.33	3.72	1.39	1.52	0.60	9.75	0.04	99.98	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―33	0.95	1.03	19.67	64.03	2.17	1.11	1.37	0.52	9.14	0.00	99.99	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―34	0.87	1.30	30.90	49.47	3.22	1.31	1.88	0.74	10.32	0.00	100.01	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―35	0.75	0.81	21.69	66.06	1.97	0.42	0.79	0.27	7.08	0.15	99.99	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	曲戸地区
福島―36	0.59	0.48	22.60	57.72	2.49	0.84	1.31	1.02	12.60	0.34	99.99	須恵器	椀	平安時代（９Ｃ）	飯塚地区
福島―37	0.83	0.91	24.21	57.39	2.44	0.68	1.31	0.74	11.41	0.09	100.01	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	飯塚地区
福島―38	1.11	0.39	21.05	65.73	3.03	0.74	1.08	0.47	6.40	0.00	100.00	須恵器	蓋	平安時代（９Ｃ）	飯塚地区
福島―39	0.51	0.00	20.39	72.54	0.40	0.77	0.84	0.21	4.26	0.09	100.01	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	光仙坊遺跡１号窯
福島―40	0.79	0.01	22.63	66.08	0.83	0.85	1.38	0.40	7.03	0.00	100.00	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	光仙坊遺跡２号窯
福島―41	0.72	0.06	21.42	67.87	0.79	0.77	1.24	0.49	6.52	0.13	100.01	須恵器	甕	平安時代（９Ｃ）	光仙坊遺跡２号窯
福島―42	0.45	0.33	17.08	74.66	0.80	0.82	0.98	0.21	4.46	0.21	100.00	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	光仙坊遺跡４号窯
福島―43	0.85	0.00	23.13	67.53	0.77	1.11	1.21	0.42	4.82	0.14	99.98	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	光仙坊遺跡５号窯
福島―44	0.83	0.06	20.67	59.36	0.82	1.09	1.21	0.84	15.11	0.00	99.99	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	光仙坊遺跡６号窯
福島―45	0.73	0.18	23.72	65.03	0.45	1.14	1.96	0.55	6.16	0.09	100.01	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	光仙坊遺跡７号窯
福島―46	1.08	0.83	22.99	64.72	1.08	1.37	1.29	0.51	6.14	0.00	100.01	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	光仙坊遺跡８号窯
福島―47	1.07	0.00	22.42	70.08	0.34	0.87	0.84	0.38	3.76	0.24	100.00	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	光仙坊遺跡９号窯
福島―48	0.94	0.27	23.85	65.71	0.84	1.68	1.06	0.40	5.19	0.05	99.99	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	光仙坊遺跡10号窯
福島―49	0.68	0.00	23.29	69.36	0.52	0.81	0.91	0.33	4.11	0.00	100.01	須恵器	甕	平安時代（９Ｃ）	光仙坊遺跡10号窯
福島―50	0.65	0.33	24.66	65.91	0.70	2.07	0.82	0.19	4.66	0.00	99.99	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	光仙坊遺跡11号窯
福島―51	0.77	0.43	18.45	72.06	1.15	0.70	0.96	0.31	4.85	0.32	100.00	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	光仙坊遺跡13号窯
福島―52	0.63	0.00	22.42	67.74	0.97	0.84	1.38	0.57	5.36	0.08	99.99	須恵器	甕	平安時代（９Ｃ）	光仙坊遺跡13号窯
福島―53	2.48	0.74	20.26	62.14	2.80	0.96	1.25	0.60	8.50	0.27	100.00	須恵器	甕	平安時代（９Ｃ）	光仙坊遺跡９号窯
福島―54	0.57	0.12	24.30	65.06	1.71	1.07	1.13	0.26	5.79	0.00	100.01	須恵器	甕	平安時代（９Ｃ）	舞台遺跡１号
福島―55	0.52	0.00	24.59	63.58	0.88	0.82	1.17	0.53	7.90	0.00	99.99	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	舞台遺跡２号
福島―56	0.45	0.00	25.62	61.54	0.64	0.90	1.22	0.71	8.72	0.20	100.00	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	舞台遺跡３号
福島―57	0.83	0.28	22.03	66.78	1.29	0.85	1.26	0.47	6.20	0.00	99.99	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	舞台遺跡４号
福島―58	0.87	0.00	24.01	63.92	1.12	1.08	1.31	0.44	7.26	0.00	100.01	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	舞台遺跡５号
福島―59	1.75	0.00	22.66	63.89	1.53	2.30	1.11	0.37	6.04	0.35	100.00	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	舞台遺跡６号
福島―60	0.57	0.46	22.24	66.35	1.29	0.69	1.15	0.40	6.86	0.00	100.01	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	舞台遺跡７号
福島―61	1.10	0.54	20.98	62.39	1.33	0.92	1.39	0.61	10.49	0.25	100.00	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	舞台遺跡８号
福島―62	0.94	0.00	24.36	63.18	1.64	1.09	1.53	0.31	6.94	0.00	99.99	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	舞台遺跡９号
福島―63	0.85	0.00	26.29	60.83	0.84	1.29	1.30	0.60	7.95	0.05	100.00	須恵器	杯	平安時代（９Ｃ）	舞台遺跡10号

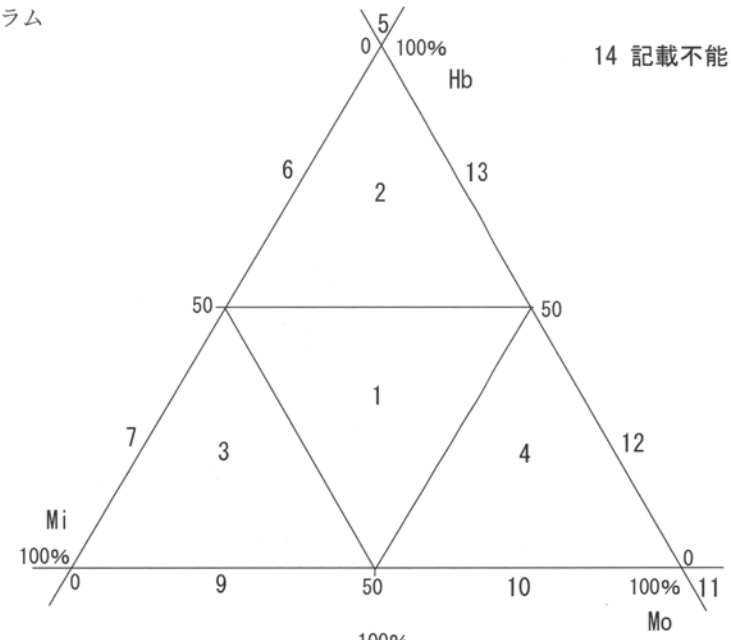
第３表　タイプ分類表

試料No.	タイプ分類	備考			
		器種	器形	時代	備考
福島―６	A	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―10	A	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―12	A	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―18	A	土師器	甕	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―37	A	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	飯塚地区
福島―39	A	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡１号窯
福島―42	A	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡４号窯
福島―54	A	須恵器	甕	平安時代（９ｃ）	舞台遺跡１号
福島―56	A	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	舞台遺跡３号
福島―58	A	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	舞台遺跡５号
福島―60	A	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	舞台遺跡７号
福島―21	B	土師器	甕	平安時代（９ｃ）	飯塚地区
福島―27	C	須恵器	椀	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―１	D	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―３	D	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―８	D	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―９	D	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―16	D	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―17	D	土師器	甕	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―19	D	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	飯塚地区
福島―28	D	須恵器	椀	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―30	D	須恵器	椀	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―32	D	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―２	E	土師器	甕	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―４	E	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―５	E	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―７	E	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―11	E	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―13	E	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―14	E	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―15	E	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―20	E	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	飯塚地区
福島―22	E	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―23	E	須恵器	椀	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―29	E	須恵器	椀	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―33	E	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―24	G	須恵器	椀	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―25	G	須恵器	蓋	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―26	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―31	G	須恵器	椀	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―34	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―35	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―36	G	須恵器	椀	平安時代（９ｃ）	飯塚地区
福島―38	G	須恵器	蓋	平安時代（９ｃ）	飯塚地区
福島―40	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡２号窯
福島―41	G	須恵器	甕	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡２号窯
福島―43	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡５号窯
福島―44	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡６号窯
福島―45	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡７号窯
福島―46	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡８号窯
福島―47	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡９号窯
福島―48	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡10号窯
福島―49	G	須恵器	甕	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡10号窯
福島―50	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡11号窯
福島―51	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡13号窯
福島―52	G	須恵器	甕	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡13号窯
福島―53	G	須恵器	甕	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡９号窯
福島―55	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	舞台遺跡２号
福島―57	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	舞台遺跡４号
福島―59	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	舞台遺跡６号
福島―61	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	舞台遺跡８号
福島―62	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	舞台遺跡９号
福島―63	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	舞台遺跡10号

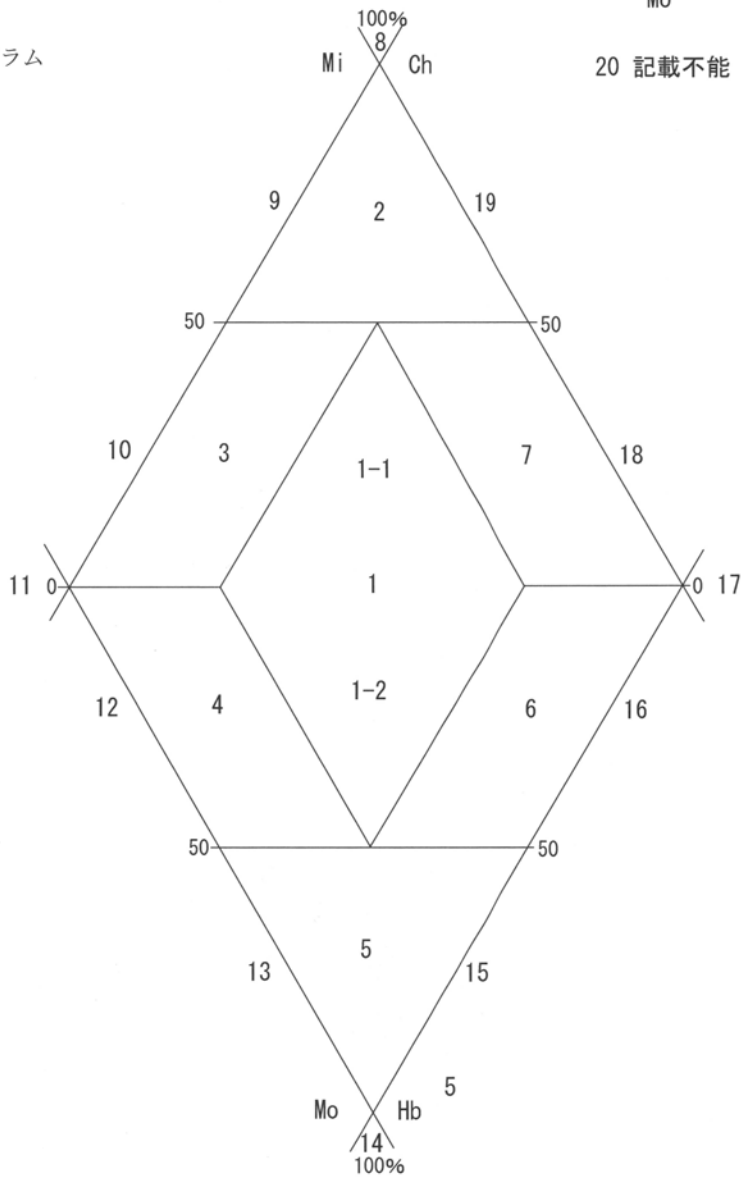
第４表　組成分類表

試料No.	タイプ分類	備考			
		器種	器形	時代	備考
Ⅰタイプ：Qt小・Pl高					
福島―１	D	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―３	D	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―４	E	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―５	E	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―６	A	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―７	E	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―８	D	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―９	D	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―10	A	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―11	E	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―12	A	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―13	E	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―14	E	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―15	E	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―16	D	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―17	D	土師器	甕	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―18	A	土師器	甕	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―19	D	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	飯塚地区
福島―21	B	土師器	甕	平安時代（９ｃ）	飯塚地区
福島―22	E	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―23	E	須恵器	椀	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―28	D	須恵器	椀	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―30	D	須恵器	椀	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―32	D	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
Ⅰタイプ：Qt大・Pl高					
福島―２	E	土師器	甕	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―25	G	須恵器	蓋	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―26	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―27	C	須恵器	椀	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―33	E	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
Ⅰタイプ：Qt大・Pl低					
福島―24	G	須恵器	椀	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―29	E	須恵器	椀	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―31	G	須恵器	椀	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―35	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区
福島―36	G	須恵器	椀	平安時代（９ｃ）	飯塚地区
福島―37	A	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	飯塚地区
福島―38	G	須恵器	蓋	平安時代（９ｃ）	飯塚地区
Ⅰタイプ：Qt大・Pl最高					
福島―20	E	土師器	杯	平安時代（９ｃ）	飯塚地区
Ⅱタイプ：Qt小・Pl高					
福島―63	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	舞台遺跡10号
Ⅱタイプ：Qt小・Pl中					
福島―55	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	舞台遺跡２号
福島―56	A	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	舞台遺跡３号
福島―57	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	舞台遺跡４号
福島―58	A	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	舞台遺跡５号
福島―62	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	舞台遺跡９号
Ⅱタイプ：Qt大・Pl高					
福島―54	A	須恵器	甕	平安時代（９ｃ）	舞台遺跡１号
Ⅱタイプ：Qt大・Pl低					
福島―59	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	舞台遺跡６号
福島―60	A	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	舞台遺跡７号
福島―61	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	舞台遺跡８号
Ⅲタイプ：Qt小・Pl中					
福島―39	A	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡１号窯
福島―40	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡２号窯
福島―41	G	須恵器	甕	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡２号窯
福島―42	A	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡４号窯
福島―43	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡５号窯
福島―44	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡６号窯
福島―45	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡７号窯
福島―46	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡８号窯
福島―48	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡10号窯
福島―49	G	須恵器	甕	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡10号窯
福島―50	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡11号窯
福島―52	G	須恵器	甕	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡13号窯
Ⅲタイプ：Qt大・Pl低					
福島―47	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡９号窯
福島―51	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡13号窯
福島―53	G	須恵器	甕	平安時代（９ｃ）	光仙坊遺跡９号窯
その他：Qt大・Pl低					
福島―34	G	須恵器	杯	平安時代（９ｃ）	曲戸地区

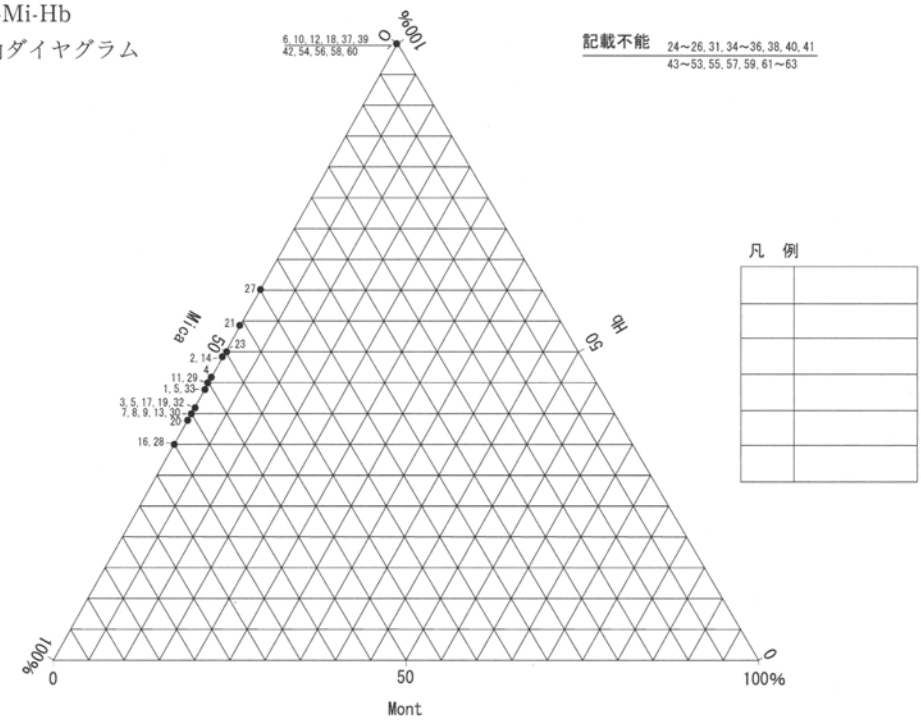
第１図　三角ダイヤグラム
位置分類図



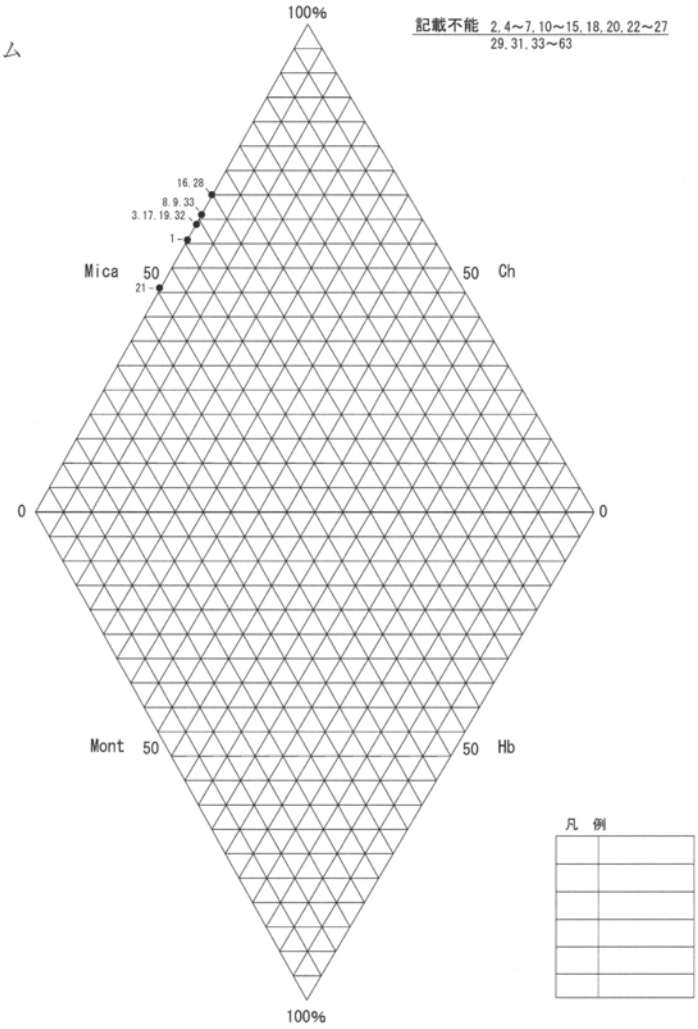
第１図　菱形ダイヤグラム
位置分類図

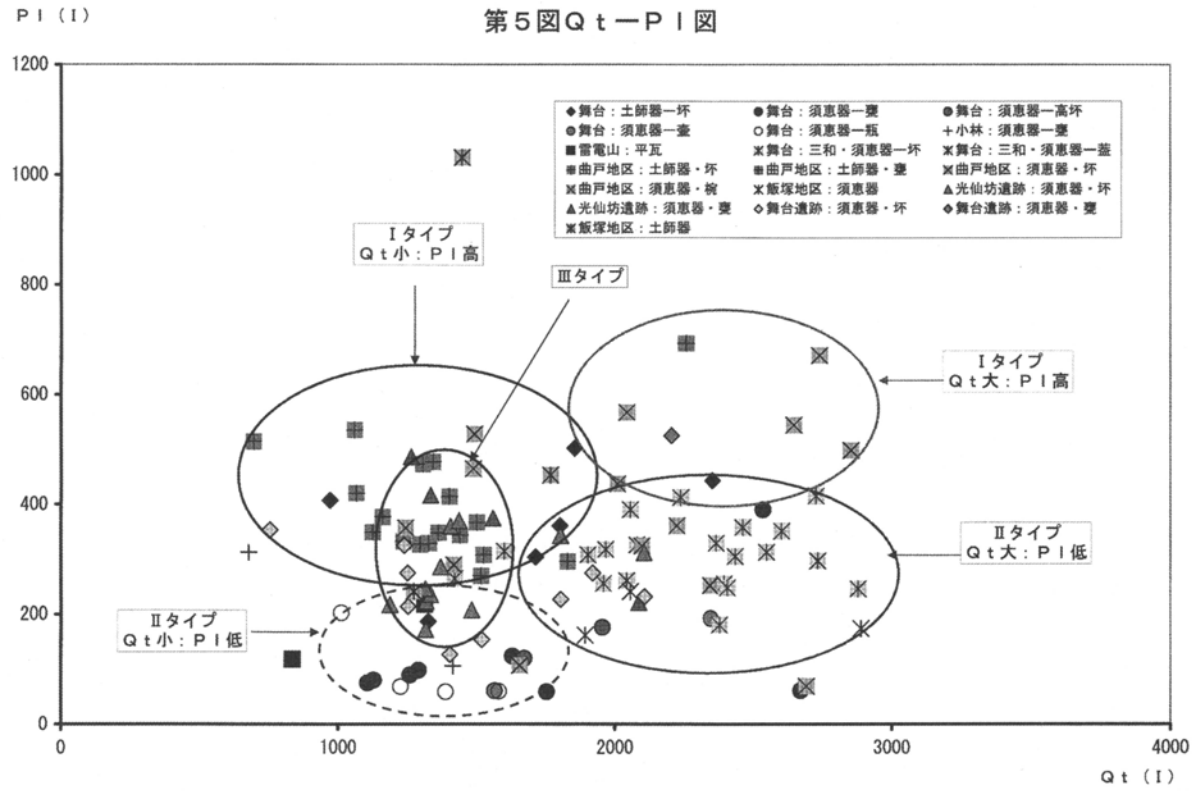


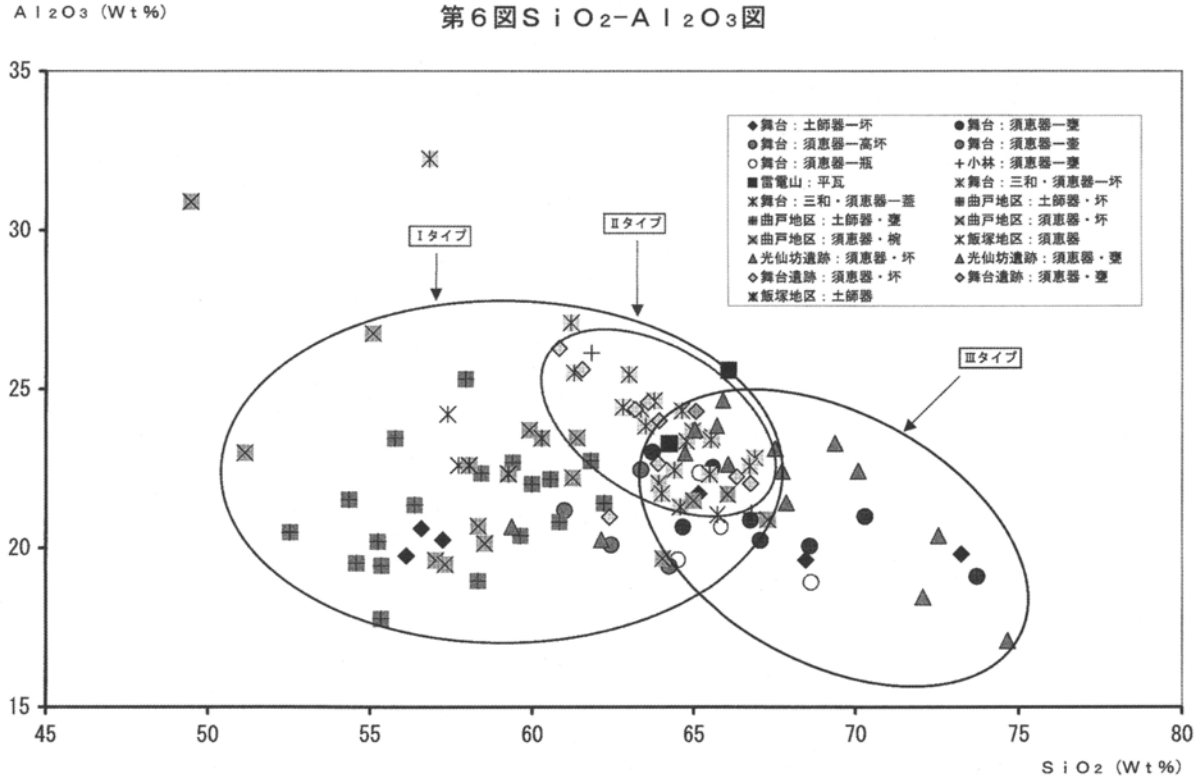
第１図　Mo-Mi-Hb
三角ダイヤグラム

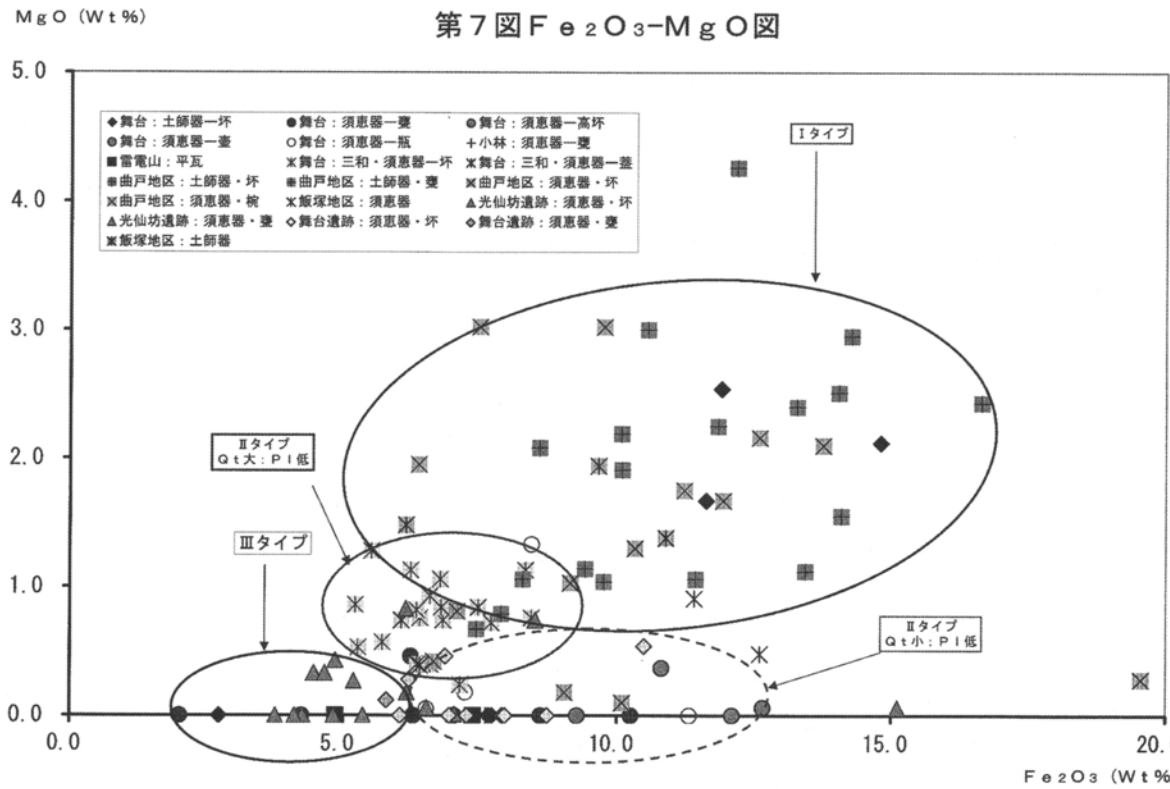


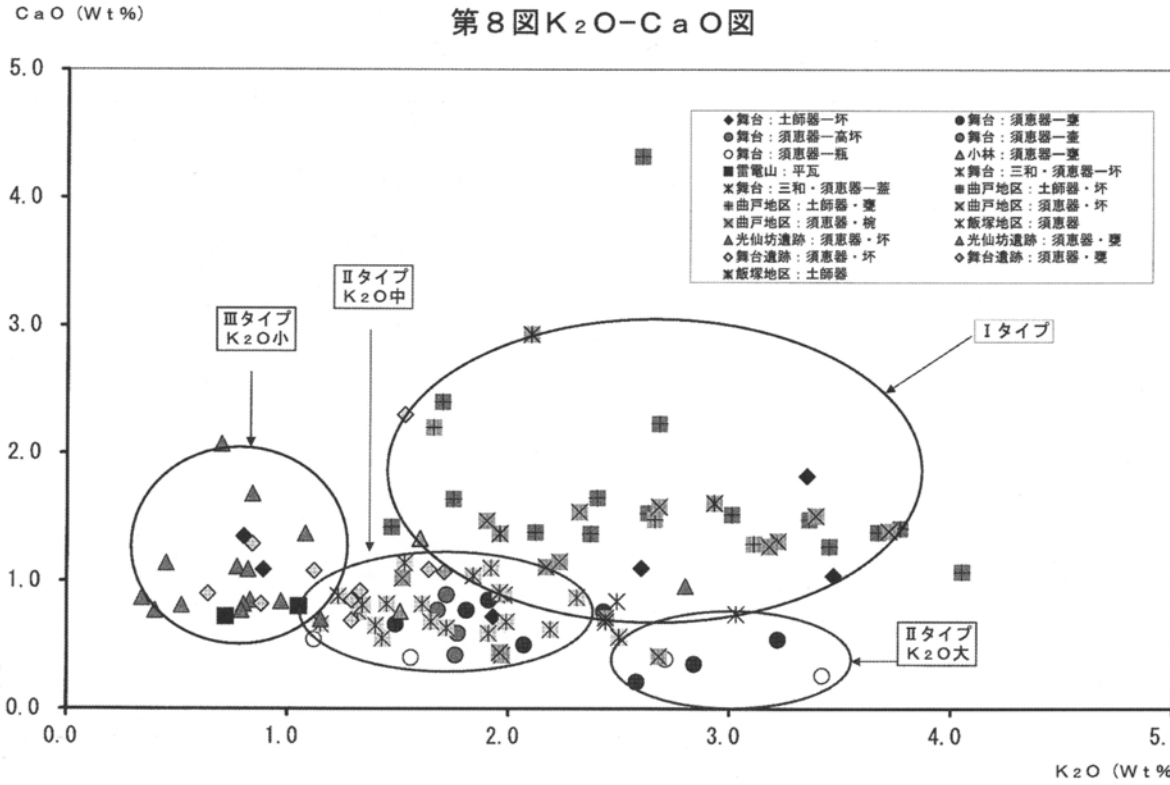
第１図　Mo-Mi-Hb
菱形ダイヤグラム




第5図Ｑｔ－ＰＩ図
ＰＩ（Ｉ）
Ｑｔ（Ｉ）
Ｉタイプ
Ｑｔ小：ＰＩ高
Ⅲタイプ
Ｉタイプ
Ｑｔ大：ＰＩ高
Ⅱタイプ
Ｑｔ大：ＰＩ低
Ⅱタイプ
Ｑｔ小：ＰＩ低
◆舞台：土師器一坏
●舞台：須恵器一甕
●舞台：須恵器一高坏
●舞台：須恵器一壺
○舞台：須恵器一瓶
＋小林：須恵器一甕
■雷電山：平瓦
舞台：三和・須恵器一坏
舞台：三和・須恵器一蓋
曲戸地区：土師器・坏
曲戸地区：土師器・甕
曲戸地区：須恵器・坏
曲戸地区：須恵器・椀
飯塚地区：須恵器
光仙坊遺跡：須恵器・坏
光仙坊遺跡：須恵器・甕
舞台遺跡：須恵器・坏
舞台遺跡：須恵器・甕
飯塚地区：土師器


第6図ＳｉＯ2－ＡｌＯ3図
Ａｌ2Ｏ3（Ｗｔ％）
ＳｉＯ2（Ｗｔ％）
Ｉタイプ
Ⅱタイプ
Ⅲタイプ
◆舞台：土師器一坏
●舞台：須恵器一甕
●舞台：須恵器一高坏
●舞台：須恵器一壺
○舞台：須恵器一瓶
＋小林：須恵器一甕
■雷電山：平瓦
舞台：三和・須恵器一坏
舞台：三和・須恵器一蓋
曲戸地区：土師器・坏
曲戸地区：土師器・甕
曲戸地区：須恵器・坏
曲戸地区：須恵器・椀
飯塚地区：須恵器
光仙坊遺跡：須恵器・坏
光仙坊遺跡：須恵器・甕
舞台遺跡：須恵器・坏
舞台遺跡：須恵器・甕
飯塚地区：土師器


MgO（Wt%）
第7図Fe2O3-MgO図
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
0.0
5.0
10.0
15.0
20.0
Fe2O3（Wt%）
◆舞台：土師器一坏
●舞台：須恵器一甕
●舞台：須恵器一高坏
●舞台：須恵器一壷
○舞台：須恵器一瓶
＋小林：須恵器一甕
■雷電山：平瓦
✱舞台：三和・須恵器一坏
✱舞台：三和・須恵器一蓋
✱曲戸地区：土師器・坏
✱曲戸地区：須恵器・甕
✱曲戸地区：須恵器・坏
✱曲戸地区：須恵器・椀
✱飯塚地区：須恵器
▲光仙坊遺跡：須恵器・坏
▲光仙坊遺跡：須恵器・甕
◇舞台遺跡：須恵器・坏
◇舞台遺跡：須恵器・甕
✱飯塚地区：土師器
Ⅰタイプ
Ⅱタイプ
Qt大：PI低
Ⅲタイプ
Ⅱタイプ
Qt小：PI低


CaO（Wt%）
第8図K2O-CaO図
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
0.0
1.0
2.0
3.0
4.0
5.0
K2O（Wt%）
◆舞台：土師器一坏
●舞台：須恵器一甕
●舞台：須恵器一高坏
●舞台：須恵器一壷
○舞台：須恵器一瓶
▲小林：須恵器一甕
■雷電山：平瓦
✱舞台：三和・須恵器一坏
✱舞台：三和・須恵器一蓋
✱曲戸地区：土師器・坏
✱曲戸地区：土師器・甕
✱曲戸地区：須恵器・坏
✱曲戸地区：須恵器・椀
✱飯塚地区：須恵器
▲光仙坊遺跡：須恵器・坏
▲光仙坊遺跡：須恵器・甕
◇舞台遺跡：須恵器・坏
◇舞台遺跡：須恵器・甕
✱飯塚地区：土師器
Ⅲタイプ
K2O小
Ⅱタイプ
K2O中
Ⅰタイプ
Ⅱタイプ
K2O大

第5表　4・5区6面水田計測表

No.	長軸(m²)	短軸(m)	面積(m)
1	—	—	—
2	2.08	0.96	(2.49)
3	—	1.28	—
4	—	—	—
5	1.84	1.34	2.27
6	—	—	—
7	1.91	1.33	2.58
8	1.92	1.10	1.89
9	3.19	1.42	4.66
10	3.11	1.18	3.59
11	2.84	—	—
12	—	—	—
13	3.10	1.44	(4.04)
14	3.10	1.08	3.18
15	2.69	1.38	3.84
16	2.50	1.22	3.11
17	—	—	—
18	1.94	1.39	2.57
19	2.10	1.36	2.72
20	2.10	1.58	3.23
21	2.04	1.24	2.47
22	1.92	0.99	1.90
23	—	1.49	—
24	—	1.34	—
25	1.98	1.48	2.79
26	1.75	1.38	2.38
27	1.66	1.52	2.49
28	1.78	1.20	2.20
29	1.70	1.12	2.07
30	3.20	1.68	5.26
31	3.20	1.15	3.80
32	—	—	—
33	2.75	—	—
34	2.62	1.52	4.07
35	2.38	1.11	2.65
36	2.52	1.42	3.63
37	2.40	1.28	2.91
38	2.30	—	—
39	—	—	—
40	—	1.20	—
41	2.26	1.48	3.37
42	2.48	1.28	3.26
43	2.60	1.54	3.97
44	2.48	1.36	3.42
45	2.56	1.52	3.98
46	2.48	1.40	3.29
47	2.31	1.33	3.03
48	2.76	1.57	4.49
49	2.81	1.20	(2.99)
50	2.38	—	—
51	2.46	1.44	3.51
52	2.46	1.74	4.25
53	2.56	1.14	3.17
54	2.65	1.34	3.54
55	2.50	1.26	3.06
56	—	—	—
57	2.22	—	—
58	2.30	1.29	2.95
59	2.28	1.48	3.34
60	2.43	1.18	2.99
61	2.40	1.40	3.28
62	2.38	1.24	2.92
63	2.34	1.30	3.08
64	2.16	1.38	2.90
65	2.10	1.18	2.52
66	—	—	—
67	—	—	—
68	2.61	—	—
69	2.50	1.29	3.25
70	2.30	1.40	3.23
71	2.50	1.30	3.11
72	2.12	1.42	3.16
73	2.42	1.28	3.07
74	2.30	1.40	3.26
75	2.21	1.29	2.86
76	2.14	1.28	2.70
77	2.86	1.78	4.86
78	2.40	—	—
79	2.58	1.69	4.31
80	2.49	1.48	3.64
81	2.69	1.78	4.61
82	2.44	1.27	3.08
83	2.40	1.48	3.56
84	2.80	1.22	(2.88)
85	—	—	—
86	2.52	1.42	3.45
87	2.42	1.43	3.32
88	2.52	1.32	3.47
89	2.50	1.44	3.49
90	2.38	1.18	2.81
91	2.50	1.32	3.45
92	2.56	1.22	3.22
93	2.42	1.62	4.04
94	2.40	1.26	3.10
95	2.54	1.34	3.31
96	3.08	—	—
97	3.06	1.24	(4.14)
98	2.98	1.70	5.07
99	2.70	1.52	4.06
100	2.42	1.86	4.50
101	—	1.54	—
102	—	—	—
103	—	1.46	—
104	—	—	—
105	2.24	—	—
106	2.62	1.46	3.70
107	2.50	1.28	3.20
108	2.42	1.31	3.11
109	2.54	1.34	3.28
110	2.66	1.19	3.21
111	2.50	1.50	3.71
112	2.32	1.12	2.66
113	2.24	1.58	3.56
114	2.42	1.28	3.11
115	2.30	1.32	(2.66)
116	—	—	—
117	2.08	1.58	3.23
118	2.10	1.89	3.79
119	2.29	(1.38)	—
120	—	—	—
121	—	1.38	—
122	2.10	1.73	3.73
123	—	1.44	—
124	—	1.42	—
125	—	—	—
126	—	1.40	—
127	2.52	1.52	3.92
128	2.92	1.32	3.80
129	2.98	1.36	3.97
130	2.94	1.44	4.20
131	2.86	1.12	2.91
132	3.18	1.52	4.81
133	3.14	1.14	3.62
134	3.12	1.60	4.91
135	2.90	1.28	3.86
136	—	—	—
137	2.42	1.30	3.19
138	2.58	1.18	(3.11)
139	—	—	—
140	—	—	—
141	—	1.56	—
142	2.58	1.74	4.66
143	—	1.58	—
144	—	1.98	—
145	—	—	—
146	2.50	1.28	(3.07)
147	2.44	1.22	2.94
148	2.40	1.45	3.52
149	2.26	1.22	2.87
150	2.06	1.58	3.18
151	2.18	1.12	2.36
152	2.48	1.44	3.57
153	2.34	—	—
154	—	—	—
155	—	1.39	—
156	—	1.19	—
157	—	0.98	—
158	—	1.68	—
159	—	—	—
160	—	—	—
161	—	12.1	—
162	2.49	1.46	3.65
163	2.30	1.20	2.76
164	2.29	1.56	3.72
165	2.34	1.28	2.86
166	2.38	—	—
167	—	—	—
168	—	1.44	—
169	2.64	1.88	5.04
170	—	1.50	—
171	—	—	—
172	—	—	—
173	—	1.18	—
174	—	1.67	—
175	—	1.20	—
176	—	1.40	—
177	—	—	—
178	—	1.62	—
179	—	—	—
180	—	—	—
181	—	1.49	—
182	—	—	—
183	—	1.79	—
184	—	1.20	—
185	—	1.76	—
186	—	1.09	—
187	—	1.36	—
188	—	—	—
189	—	1.06	—
190	—	—	—
191	—	—	—
192	—	—	—
193	—	0.90	—
194	—	0.98	—
195	—	1.21	—
196	—	1.12	—
197	—	—	—
198	2.10	—	—
199	2.20	—	—
200	2.26	—	—
201	1.92	—	—
202	—	—	—
203	2.38	0.98	2.43
204	2.18	1.52	3.40
205	2.34	1.38	2.98
206	—	—	—
207	—	—	—
208	2.44	1.11	2.54
209	2.50	1.01	2.55
210	2.26	1.14	2.49

4・5区6面水田計測表

No.	長軸(m²)	短軸(m)	面積(m)
281	2.00	1.32	2.53
282	1.90	1.24	2.35
283	1.92	1.04	1.92
284	2.60	1.24	3,23
285	2.46	—	—
286	2.38	1.66	3.77
287	2.08	1.60	2.89
288	1.72	1.40	2.48
289	2.40	1.14	2.66
290	—	—	—
291	2.30	1.51	3.38
292	2.46	1.48	3.54
293	1.92	1.40	2.59
294	2.80	—	—
295	2.18	1.46	3.14
296	2.56	1.54	3.97
297	—	—	—
298	2.22	1.20	2.68
299	—	—	—
300	—	—	—
211	3.16	1.06	3.19
212	—	0.72	—
213	2.40	0.86	2.12
214	2.24	1.18	2.56
215	2.28	1.30	2.92
216	3.02	1.48	4.84
217	3.48	1.64	5.78
218	—	—	—
219	2.32	1.12	2.64
220	1.98	1.20	2.37
221	2.42	1.18	2.87
222	2.96	1.30	4.04
223	3.16	1.36	4.46
224	—	1.42	—
225	2.00	1.40	2.83
226	2.40	1.44	3.51
227	2.66	1.62	4.49
228	2.92	1,54	4.59
229	—	—	—
230	2.34	1.39	2.97
231	2.62	1.48	3.61
232	2.58	1.52	4.02
233	3.22	1.42	4.41
234	—	1.64	—
235	2.70	1.80	4.66

No.	長軸(m²)	短軸(m)	面積(m)
237	3.24	1.30	4.20
238	—	1.40	—
239	2.40	1.50	3.56
236	2.50	1.42	3.85
240	2.65	1.48	4.06
241	3.00	1.28	3.62
242	—	—	—
243	—	1.58	—
244	2.80	1.70	4.18
245	3.10	1.56	5.03
246	—	1.14	—
247	2.80	1.26	3.59
248	2.92	1.50	4.39
249	—	—	—
250	2.64	1.56	1.14
251	2.66	1.49	3.96
252	—	1.72	—
253	2.34	1.98	4.63
254	—	—	—
255	—	2.42	—
256	—	—	—
257	41.8	2.34	9.48
258	5.46	2.60	13.94
259	43.8	2.90	12.31
260	54.2	3.06	16.29
261	4.32	3.24	13.83
262	4.92	3.02	14.28
263	4.26	2.52	10.28
264	4.82	3.14	13.18
265	4.20	3.72	15.22
266	—	3.76	—
267	—	2.88	—
268	—	—	—
269	2.06	0.96	1.87
270	2.28	1.10	2.34
271	2.10	1.00	2.04
272	1.70	0.86	1.43
273	2.28	—	—
274	—	—	—
275	2.40	1.06	2.60
276	1.78	1.16	2.03
277	2.26	1.36	2.91
278	1.92	1.04	1.98
279	—	—	—
280	2.34	1.26	2.80

4区7面水田計測表

No.	長軸(m²)	短軸(m)	面積(m)
1	—	—	—
2	—	—	—
3	—	—	—
4	—	—	—
5	—	—	—
6	—	1.72	—
7	2.10	1.62	3.32
8	2.20	1.38	3.06
9	—	—	—
10	—	—	—
11	2.16	—	—
12	1.68	1.50	2.49
13	2.32	2.04	4.72
14	—	—	—
15	—	—	—
16	—	—	—
17	1.72	15.60	2.57
18	2.10	—	—
19	—	—	—
20	2.46	—	—
21	2.64	—	—
22	2.12	—	—
23	—	—	—
24	—	—	—
25	—	—	—
26	2.10	—	—
27	—	—	—
28	—	—	—
29	—	—	—
30	—	—	—
31	—	—	—
32	2.68	—	—
33	—	—	—
34	—	—	—
35	1.30	—	—
36	1.26	—	—
37	—	—	—
38	—	—	—
39	—	—	—
40	—	—	—

参考文献

平川　南『墨書土器の研究』　吉川弘文館　2000年

高島英之『古代出土文字資料の研究』　東京堂出版　2000年

群馬県教育委員会『群馬県出土の墨書・刻書土器集成1』　1989年

群馬県教育委員会『群馬県出土の墨書・刻書土器集成2』　1992年

群馬県教育委員会『群馬県出土の墨書・刻書土器集成3』　1998年

遺物観察表

挿図番号 図版番号	遺構名 出土位置	種別 器種	計測値 cm 口径・底径・器高	焼成 色調	製作技法の等の特徴
第11図 1 PL44	グリッド 49-P-19	縄文土器 深鉢	頸部(径) 26 — — —	酸化 褐色	頸部が算盤玉状を呈する深鉢。口唇欠損するが、口縁部は無文で短く立ち上がる。頸部に単一沈線文による平行線文間に括弧状沈線文が加えられる。括弧状沈線文内は磨消縄文とする。縄文はL横位。加曾利B 2式。
第11図 2 PL44	グリッド 49-M-19	弥生土器 壺	肩部 — — —	酸化 灰黄褐色	ヘラ描きによる菱形文が施される。菱形文の一側辺に竹管状施文具による刺突文が加えられる。中期中葉。
第11図 3 PL44	グリッド 49-M-20	弥生土器 壺	肩部 — — —	酸化 にぶい黄橙色	平行線文が横走し、その下位に菱形文の一部が観察される。平行線文は半裁竹管状の施文具により施される。胎土は緻密。中期中葉。
第11図 4 PL44	グリッド 49-N-20	弥生土器 壺	肩部 — — —	酸化 にぶい黄橙色	平行線文帯に沿って半裁竹管状施文具により刺突文が列状に加えられる。その下位にはL横位が観察される。胎土は緻密。中期中葉。
第11図 5 PL44	グリッド 49-M-9	弥生土器 壺	肩部 — — —	酸化 明黄橙色	微隆起線の両側に植物径状の施文具による刺突文列が加えられる。縄文はR横位。胎土は緻密。中期中葉。
第11図 6 PL44	グリッド 59-P-1	弥生土器 壺	肩部 — — —	酸化 にぶい褐色	器面に植物径による斜行する浅い擦痕状の痕跡が認められる。文様は単一沈線文が施される。胎土は緻密。中期中葉。
第18図 1 PL44	152土坑 埋没土	土師器 器台	ほぼ完形 8.0 9.5 8.2	酸化 橙色	台部端部はヨコ撫で。脚部ヘラ磨き。脚部の円孔は3ヶ所。白色粒、輝石粒を含む。
第18図 2 PL44	152土坑 埋没土	土師器 台付甕	胴部下位～台部1/2 — (8.0) —	酸化 橙色	S字口縁台付甕脚部。外面ハケ目後撫で。白色粒、輝石粒を含む。
第31図 1 PL26	141溝 埋没土	須恵器 坏	完形 13.2 5.9 3.8	還元 灰黄色	墨書土器。体部外面に横位に「家」。底部右回転糸切り痕。
第31図 2 PL26	141溝 埋没土	須恵器 坏	完形 13.2 6.0 3.8	還元 灰白色	墨書土器。体部内面および外面に横位に「家」。底部右回転糸切り痕。
第31図 3 PL26	141溝 埋没土	須恵器 坏	口縁部一部欠 12.2 5.9 4.1	還元 明赤灰色	墨書土器。体部外面に横位に「家」。底部右回転糸切り痕。
第31図 4 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁～底部1/4 (14.2) (7.2) 5.5	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に正位に「家」。底部右回転糸切り痕。
第31図 5 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	1/2 — 6.9 (4.9)	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に横位に「家」。底部右回転糸切り痕。
第31図 6 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (14.0) — (3.4)	還元 灰色	墨書土器。体部外面に横位に「家」。底部右回転糸切り痕。
第31図 7 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (6.8) (3.9)	還元 浅黄色	墨書土器。体部外面に倒位に「家」。底部に回転糸切り痕。
第32図 8 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	1/2 (14.4) 6.4 5.4	還元 灰オリーブ色	墨書土器。体部内面に正位に「家」。底部に右回転糸切り痕。
第32図 9 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	1/2 (13.3) 6.5 5.3	還元 灰色	墨書土器。体部外面に正位に「家」。底部に右回転糸切り痕。
第32図 10 PL26	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (6.0) (2.0)	還元 にぶい褐色	墨書土器。体部外面に倒位に「　」。底部に右回転糸切り痕。
第32図 11 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.2) (3.0)	還元 灰色	墨書土器。体部外面に横位に「家」。
第32図 12 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部内外面に横位に「家」。底部に右回転糸切り痕。
第32図 13 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部外面に横位に「家」。
第32図 14 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に横位に「家」。
第32図 15 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に横位に「家」。
第32図 16 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀ヵ	口縁部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に横位に「家」。
第32図 17 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に横位に「家」。
第33図 18 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部外面に正位に「家」。
第33図 19 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に横位に「家」。
第33図 20 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に横位に「家」。
第33図 21 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部外面に横位に「家」。
第33図 22 PL26	141溝 埋没土	須恵器 坏ヵ	口縁部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に横位に「家」。
第33図 23 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀ヵ	口縁部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部外面に倒位に「家」。
第33図 24 PL26	141溝 埋没土	須恵器 坏ヵ	口縁部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部外面に横位に「家」。
第33図 25 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。体部内面に横位に「家」。
第33図 26 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	体部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部外面に横位に「家」。
第33図 27 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	体部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。体部内面に倒位に「家」。
第33図 28 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	体部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に横位に「家」。
第33図 29 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀ヵ	体部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部外面に正位に「家」。
第33図 30 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀ヵ	体部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に横位に「家」。

遺物観察表

挿図番号 図版番号	遺構名 出土位置	種別 器種	計測値 cm 口径・底径・器高	焼成 色調	製作技法の等の特徴
第33図 31 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	体部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部外面に正位に「家」。
第33図 32 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	体部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に正位に「家」カ。
第33図 33 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	体部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部外面に正位に「家」。
第33図 34 PL26	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部外面横位に「家」。
第33図 35 PL27	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部外面に正位に「家」。
第33図 36 PL27	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部外面に正位に「家」カ。
第33図 37 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	体部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部外面に正位に「家」。
第33図 38 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	体部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部外面に横位に「□　寺カ」。
第33図 39 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀	体部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部内面に倒位に「家」。
第33図 40 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	体部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。体部内面に倒位に「家」。
第33図 41 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部内面に倒位に「家」。
第33図 42 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	口縁部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。体部内面に横位に「家」。
第33図 43 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	口縁部 — — —	還元 灰黄色	墨書土器。体部内面に正位に「家」。
第33図 44 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	口縁部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部外面に倒位に「家」。
第33図 45 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	体部 — — —	還元 灰黄色	墨書土器。体部内面に横位に「家」。
第33図 46 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	体部 — — —	還元 灰黄色	墨書土器。体部内面に横位に「家」カ。
第33図 47 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	口縁部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に横位に「家」。
第33図 48 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	口縁部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部内面に「家」カ。
第33図 49 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	体部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部外面に正位に「家」。
第33図 50 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	体部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部が外面に「家」カ。
第33図 51 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	体部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部外面に「家」カ。
第33図 52 PL27	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — — —	還元 にぶい黄橙色	墨書土器。底部内面に「家」カ。
第34図 53 PL27	141溝 埋没土	須恵器 坏	1/2 (12.5)　6.0　4.1	還元 暗灰色～灰色	墨書土器。底部内面に「家」。底部に右回転糸切り痕。
第34図 54 PL27	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (5.7)　—	還元 灰色	墨書土器。底部内面に「家」。底部に左回転糸切り痕。
第34図 55 PL27	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — 6.6　—	還元 灰色	墨書土器。底部内面に「家」。底部に右回転糸切り痕。
第34図 56 PL27	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (7.1)　—	還元 灰色	墨書土器。底部内面に「家」底部に右回転糸切り痕。
第34図 57 PL27	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (5.4)　—	還元 灰色	墨書土器。底部内面に「家」。底部に右回転糸切り痕。
第34図 58 PL27	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (6.4)　—	還元 灰白色	墨書土器。体部内面に横位に「家」。底部に回転糸切り痕。
第35図 59 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (4.5)　—	還元 灰白色	墨書土器。底部内面に「家」。高台部はく落。底部に右回転糸切り痕。
第35図 60 PL27	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (6.0)　—	還元 灰白色	墨書土器。底部内面に「家」。底部に右回転糸切り痕。
第35図 61 PL27	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (7.8)　—	還元 灰色	墨書土器。底部内面に「家」。底部に回転糸切り痕。
第35図 62 PL27	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (6.0)　—	還元 灰色	墨書土器。底部内面に「家」。底部に右回転糸切り痕。
第35図 63 PL27	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (5.0)　—	還元 灰白色	墨書土器。底部内面に「家」。底部に回転糸切り痕。
第35図 64 PL27	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (6.0)　—	還元 黄灰色	墨書土器。底部内面に「家}カ。底部に右回転糸切り痕。
第35図 65 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.6)　—	還元 灰色	墨書土器。底部外面に「家」。底部に右回転糸切り痕。
第35図 66 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (6.7)　—	還元 黄灰色	墨書土器。底部内面に「家」。底部に右回転糸切り痕。
第35図 67 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.0)　—	還元 灰白色	墨書土器。底部から体部の内面に横位に「家」。一部に筆割れがみられる。底部に右回転糸切り痕。
第36図 68 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 7.2　—	還元 灰白色	墨書土器。底部内面に「家」。底部に右回転糸切り痕。
第36図 69 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.8　—	還元 灰色	墨書土器。底部内面に「家」。底部に右回転糸切り痕。
第36図 70 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 7.8　—	還元 灰色	墨書土器。底部内面に「家」。底部に右回転糸切り痕。
第36図 71 PL27	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	底部 — 6.0　2.2	還元 灰白色	ロクロ整形。回転右回り。底部ヘラ撫で、高台貼付。施釉方法は刷毛塗り底部見込み部も僅かに施釉。光ヶ丘1号窯式期。

挿図番号 図版番号	遺構名 出土位置	種別 器種	計測値 cm 口径・底径・器高	焼成 色調	製作技法の等の特徴
第36図 72 PL27	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (7.0) —	還元 灰色	墨書土器。底部内面に「家」。底部に右回転糸切り痕。
第36図 73 PL27	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (6.0) —	還元 灰白色	墨書土器。底部内面に「家」。底部に回転糸切り痕。
第36図 74 PL27	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — — —	還元 灰色	墨書土器。底部内面に「家」。底部に回転糸切り痕。
第37図 75 PL28	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 7.1 —	還元 灰色	墨書土器。底部内面、体部外面に横位に「家」。底部に右回転糸切り痕。
第37図 76 PL28	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (6.0) —	還元 灰白色	墨書土器。体部内面に倒位に「家」、体部外面に□。底部に右回転糸切り痕。
第37図 77 PL28	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 7.4 —	還元 灰色	墨書土器。底部外面に「家」。底部に右回転糸切り痕。
第37図 78 PL28	141溝 埋没土	灰釉陶器 皿	底部 — 6.0 —	還元 灰白色	墨書土器。底部外面に「家」。
第37図 79 PL28	141溝 埋没土	須恵器 皿	1/8 (14.6) (7.0) 2.8	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に横位に「家」。底部に右回転糸切り痕。
第37図 80 PL28	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — — —	還元 灰色	墨書土器。底部外面に「家」。底部に回転糸切り痕。
第37図 81 PL28	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.8 —	還元 褐灰色	墨書土器。底部外面に「家」。底部に右回転糸切り痕。
第38図 82 PL28	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (13.6) — —	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に横位に「家寺」。
第38図 83 PL28	141溝 埋没土	須恵器 椀	2/3 (15.2) 7.0 5.9	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に横位に「家寺」。底部右回転糸切り痕。
第38図 84 PL28	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.2) —	還元 灰白色	墨書土器。底部内面に「㋕」。底部に右回転糸切り痕。
第38図 85 PL28	141溝 埋没土	須恵器 椀	2/3 (14.7) — (4.5)	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に正位に「保」。底部に右回転糸切り痕。
第38図 86 PL28	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (6.8) —	還元 灰白色	墨書土器。底部内面に「井」。底部に右回転糸切り痕。
第38図 87 PL28	141溝 埋没土	須恵器 椀	1/3 (15.0) 6.0 5.1	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に正位に「用」。底部に右回転糸切り痕。
第39図 88 PL28	141溝 埋没土	須恵器 坏	4/5 12.6 6.2 3.6	還元 灰色	墨書土器。体部外面に正位に「大」。底部に右回転糸切り痕。
第39図 89	141溝 埋没土	須恵器 椀	ほぼ完形 13.3 6.5 5.6	還元 暗灰色	墨書土器。体部外面に正位に「大」。底部に右回転糸切り痕。
第39図 90 PL28	141溝 埋没土	須恵器 椀	1/5 — (8.0) —	還元 明黄褐色	墨書土器。体部外面に横位に□。底部に回転糸切り痕。
第39図 91 PL28	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 7.0 —	還元 灰白色	墨書土器。底部内面に「子」、体部外面に□。底部に右回転糸切り痕。
第39図 92 PL28	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — — —	還元 灰色	墨書土器。底部内面に「子」。底部に右回転糸切り痕。高台部剝落。
第39図 93 PL28	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (8.2) —	還元 灰白色	墨書土器。底部内面に「㋖」。底部に右回転糸切り痕。
第40図 94 PL28	141溝 埋没土	須恵器 坏	完形 13.2 5.2 4.1	還元 灰黄色	墨書土器。体部内面に「ℵ」。底部内面に同心円状に平滑面が形成される。底部に右回転糸切り痕。
第40図 95 PL29	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (6.3) —	還元 オリーブ黒色	墨書土器。底部内面に□。器内外面に黒色付着物。底部に右回転糸切り痕。
第40図 96 PL29	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (5.8) —	還元 灰色	墨書土器。底部内面に「ル」。底部に右回転糸切り痕。
第40図 97 PL29	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (6.0) —	還元 灰黄褐色	墨書土器。底部内面に「十」。高台部剝落。底部に右回転糸切り痕。
第40図 98 PL29	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.2 —	還元 灰色	墨書土器。底部内面に「　」。底部に右回転糸切り痕。
第41図 99 PL29	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。底部内面に円形の墨書。同心円状の墨痕の可能性もある。底部に右回転糸切り痕。
第41図 100 PL29	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (6.0) —	還元 黄灰色	墨書土器。底部内面に「　」。高台部剝落。底部に右回転糸切り痕。
第41図 101 PL29	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.0 —	還元 灰色	墨書土器。体部内面に「七」。底部に回転糸切り痕。
第41図 102 PL29	141溝 埋没土	須恵器 坏	完形 12.0 8.1 3.5	還元 灰色	墨書土器。底部外面に「　」。底部に右回転糸切り痕。
第41図 103 PL29	141溝 埋没土	須恵器 坏	1/4 (14.0) (7.0) 3.2	還元 淡黄色	墨書土器。体部内面に「χ」。底部に回転糸切り痕。
第41図 104 PL29	141溝 埋没土	灰釉陶器 皿	底部 — — —	還元 灰オリーブ色	墨書土器。体部外面に「　」。
第42図 105 PL29	141溝 埋没土	須恵器 皿	2/3 (13.3) 6.6 2.8	還元 明オリーブ灰	墨書土器。底部外面に「㋝」。底部に右回転糸切り痕。
第42図 106 PL29	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — 5.4 —	還元 灰色	墨書土器。底部内面に「㋝」。底部に右回転糸切り痕。
第42図 107 PL29	141溝 埋没土	須恵器 皿	完形 13.6 6.3 2.5	還元 灰色	墨書土器。体部外面に横位に「月」。底部に回転糸切り痕。
第42図 108 PL29	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部外面に倒位に「家ヵ」。
第42図 109 PL29	141溝 埋没土	須恵器 皿	1/6 (13.4) (6.0) 3.1	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に「?」。
第42図 110 PL29	141溝 埋没土	須恵器 皿	2/3 12.9 6.2 3.0	還元 灰白色	墨書土器。体部内面に正位に「西」。底部に右回転糸切り痕。
第42図 111 PL29	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 — — —	還元 灰黄色	墨書土器。体部内面に正位に「西」。
第43図 112 PL29	141溝 埋没土	須恵器 椀　ヵ	口縁部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部内面に倒位に「　」、外面に「　」。

挿図番号 図版番号	遺構名 出土位置	種別 器種	計測値 cm 口径・底径・器高	焼成 色調	製作技法の等の特徴
第43図 113 PL29	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	体部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部内面に「　」。
第43図 114 PL29	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	口縁部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部内面に口縁部にかけて「×」。
第43図 115 PL29	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	口縁部 — — —	還元 にぶい黄橙色	墨書土器。体部内面に「　」。
第43図 116 PL29	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	体部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部内面に「　」。
第43図 117 PL29	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	口縁部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。体部内面に「　」。
第43図 118 PL29	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	体部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部外面に「　」。
第43図 119 PL29	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	体部 — — —	還元 浅黄色	墨書土器。体部外面に「田」、体部内面に「　」。
第43図 120 PL29	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	体部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に「　」。
第43図 121 PL29	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	体部 — — —	還元 灰色	墨書土器。体部外面に「　」。
第43図 122 PL29	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	体部 — — —	還元 褐灰色	墨書土器。体部内面に「　」。
第43図 123 PL29	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	体部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に「　」。
第43図 124 PL29	141溝 埋没土	須恵器 椀 カ	体部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に「　」。
第43図 125 PL29	141溝 埋没土	須恵器 坏 カ	体部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。体部外面に「　」。
第43図 126 PL29	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — — —	還元 灰白色	墨書土器。底部内面に「　」。底部に回転糸切り痕。
第43図 127 PL29	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — — —	還元 灰色	墨書土器。底部内面に「　」。底部に回転糸切り痕。
第43図 128 PL29	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — — —	還元 にぶい黄橙色	墨書土器。底部内面に「　」。底部に右回転糸切り痕。
第43図 129 PL29	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — — —	還元 褐灰色	墨書土器。底部外面に「　」。底部に回転糸切り痕。
第44図 130 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	完形 11.8　8.4　3.4	酸化 橙色	墨書土器。底部内面中央に「家」。体部下半、底部ヘラ削り。器体はやや歪みがある。器厚も不均一。体部に型肌がみられる。
第44図 131 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	はぼ完形 12.3　9.4　3.4	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面中央に「家」。体部下半、底部ヘラ削り。器体はやや歪みがある。器厚も不均一。体部に型肌がみられる。
第44図 132 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	完形 12.3　8.9　3.7	酸化 明黄褐色	墨書土器。底部内面中央に「家」。体部下半、底部ヘラ削り。器体はやや歪みがある。器厚も不均一。体部に型肌がみられる。
第44図 133 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	ほぼ完形 11.8　9.2　3.1	酸化 橙色	墨書土器。底部内面中央に「家」。体部下半、底部ヘラ削り。底部は平らで縁辺には明確な稜をもつ。外面中央に円形の凹がある。
第44図 134 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	2/3 12.0　8.6　4.2	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面中央に「家」。体部下半、底部ヘラ削り。器体はやや歪みがある。器厚も不均一。
第44図 135 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	完形 12.0　8.2　3.6	酸化 橙色	墨書土器。底部内面中央に「家」。体部下半、底部ヘラ削り。底部は平らで縁辺には明確な稜をもつ。外面中央に円形の凹がある。
第45図 136 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	1/2 (12.0)　8.2　3.6	酸化 橙色	墨書土器。底部内面中央に「家」。体部下半、底部ヘラ削り。器体はやや歪み、体部に型肌がみられる。
第45図 137 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	1/3 (11.0)　(8.0)　3.2	酸化 橙色	墨書土器。底部内面中央に「家」。体部下半、底部ヘラ削り。器厚はやや不均一。底部は平らで、縁辺には稜をもつ。
第45図 138 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	1/2 (12.0)　8.2　3.6	酸化 橙色	墨書土器。底部内面中央に「家」。体部下半、底部縁辺ヘラ削り。底部外面中央に型肌がみられる。
第45図 139 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第45図 140 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 橙色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第45図 141	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい黄橙色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第45図 142 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第45図 143 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい黄橙色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第45図 144 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第45図 145 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第45図 146 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第45図 147 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第45図 148 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第45図 149 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第45図 150 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第45図 151 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第45図 152 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第45図 153 PL30	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「家ヵ」。底部ヘラ削り。

挿図番号 図版番号	遺構名 出土位置	種別 器種	計測値 cm 口径・底径・器高	焼成 色調	製作技法の等の特徴
第46図 154 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	完形 12.0 3.6 8.1	酸化 橙色	墨書土器。底部内面に「宮」。体部下半に指頭痕残る。底部ヘラ削り。器体にやや歪みあり。
第46図 155 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	2/3 12.2 8.8 3.3	酸化 にぶい橙色	墨書土器。体部外面に横位に「宮ヵ」。体部下半、底部ヘラ削り。体部に型肌がみられる。
第46図 156 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	口縁～体部 (5.4) (7.5) (3.2)	酸化 橙色	墨書土器。体部外面に横位に「宮ヵ」。体部下半、底部ヘラ削り。体部に型がみられる。
第46図 157 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	完形 11.5 5.2 4.0	酸化 にぶい橙色	墨書土器。体部外面に横位に「寺」。体部下半、底部ヘラ削り。器体はやや丸みをもつ。
第46図 158 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい赤褐色	墨書土器。底部内面に「宮」、外面に「宮」。底部ヘラ削り。
第46図 159 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部外面に「宮」。底部ヘラ削り。
第46図 160 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい褐色	墨書土器。底部内面に「宮」。底部ヘラ削り。
第46図 161 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	完形 11.5 8.8 3.5	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「十万」。体部下半、底部ヘラ削り。底部縁辺には稜をもつ。内面には撫でが認められる。
第46図 162 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	完形 12.3 9.3 3.2	酸化 橙色	墨書土器。底部外面に「川原」。体部に指頭痕、底部ヘラ削り。
第46図 163 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	2/3 (12.9) — 3.2	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「　」。体部に凹面が巡り、口縁部に稜が形成される。体部、底部ヘラ削り。
第47図 164 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 165 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 166 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 167 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 168 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 169 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 170 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 171 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 172 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 173 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。 胎土分析試料
第47図 174 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 175 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 176 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 177 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 178 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 179 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 180 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 181 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 182 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 183 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 184 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 185 PL31	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 186 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 187 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 188 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 189 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 190 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 191 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 192 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 193 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 194 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。

遺物観察表

挿図番号 図版番号	遺構名 出土位置	種別 器種	計測値 cm 口径・底径・器高	焼成 色調	製作技法の等の特徴
第47図 195 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 196 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 197 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家」。底部ヘラ削り。
第47図 198 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家ヵ」。底部ヘラ削り。
第47図 199 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家ヵ」。底部ヘラ削り。
第47図 200 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家ヵ」。底部ヘラ削り。
第47図 201 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家ヵ」。底部ヘラ削り。
第47図 202 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家ヵ」。底部ヘラ削り。
第47図 203 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙褐色	墨書土器。底部内面に「家ヵ」。底部ヘラ削り。
第48図 204 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	2/3 12.2 7.3 3.9	酸化 にぶい褐色	墨書土器。底部内面、底部外面、体部外面に横位に「上」。体部、底部ヘラ削り。体部内面には放射状、底部には螺旋状の磨きが加えられる。
第48図 205 PL32	141溝 埋没土	土師器 鉢	完形 19.2 10.0 8.5	酸化 橙色	墨書土器。体部外面に「□ □ 田」。口縁部横撫で、体部、底部ヘラ削り。体部内面ヘラ撫で。口縁部平坦ではなく、起伏がある。
第48図 206 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	1/2 12.0 8.8 3.2	酸化 にぶい橙色	墨書土器。体部外面に「 」。体部下半、底部ヘラ削り。口縁部横撫で。体部はやや丸みをもつ。
第48図 207 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	完形 12.2 8.4 3.5	酸化 橙色	墨書土器。底部外面に「 」。体部下半、底部ヘラ削り。体部に型肌がみられる。器体は歪みがある。
第48図 208 PL32	141溝 埋没土	土師器 坏	1/4 (13.2) (7.2) 3.3	酸化 橙色	墨書土器。体部から底部にかけて内面に「 」。体部下半、底部ヘラ削り。
第49図 209 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい黄橙色	墨書土器。底部内面に「 」。底部ヘラ削り。
第49図 210 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 橙色	墨書土器。底部外面に「 」。底部ヘラ削り。
第49図 211 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「 」。底部ヘラ削り。
第49図 212 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 橙色	墨書土器。底部内面に「 」。底部ヘラ削り。
第49図 213 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 橙色	墨書土器。底部内面に「 」。底部ヘラ削り。
第49図 214 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 橙色	墨書土器。底部内面に「 」。底部ヘラ削り。
第49図 215 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 橙色	墨書土器。底部内面に「 」。底部ヘラ削り。
第49図 216 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 橙色	墨書土器。底部内面に「 」。底部ヘラ削り。
第49図 217 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	口縁部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。体部外面に横位の「家ヵ」。
第49図 218 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	体部 — — —	酸化 にぶい黄橙色	墨書土器。体部内面に「 」。
第49図 219 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	口縁～底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。体部から底部内面に「 」。体部、底部ヘラ削り。
第49図 220 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	体部 — — —	酸化 橙色	墨書土器。体部内面に「 」。
第49図 221 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	口縁部 — — —	酸化 明褐色	墨書土器。体部から底部内面に「 」。底部ヘラ削り。
第49図 222 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	口縁部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。体部内面に「 」。口縁部横撫で、体部ヘラ削り。
第49図 223 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	口縁部 — — —	酸化 明褐色	墨書土器。体部内面に「 」。
第49図 224 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	口縁部 — — —	酸化 にぶい褐色	墨書土器。体部内面に「 」。
第49図 225 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	口縁部 — — —	酸化 橙色	墨書土器。体部内面に「 」。
第49図 226 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	体部 — — —	酸化 にぶい赤褐色	墨書土器。体部内面に「 」。
第49図 227 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	口縁部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。体部内面に「 」。口縁部横撫で。
第49図 228 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	口縁部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。体部内面に「 」。
第49図 229 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	口縁部 — — —	酸化 橙色	墨書土器。体部内面に「 」。
第49図 230 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	口縁部 — — —	酸化 橙色	墨書土器。体部内面に「 」。
第49図 231 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	口縁部 — — —	酸化 橙色	墨書土器。体部外面に「 」。体部内面に放射状の磨き。口縁部横撫で。
第49図 232 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	口縁部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。体部外面に「 」。口縁部横撫で。
第49図 233 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	口縁部 — — —	酸化 にぶい黄橙色	墨書土器。体部外面に「 」。
第49図 234 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	口縁部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。体部外面に「 」。口縁部横撫で、体部ヘラ削り。
第49図 235 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	体部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。体部外面に「 」。底部ヘラ削り。

挿図番号 図版番号	遺構名 出土位置	種別 器種	計測値 cm 口径・底径・器高	焼成 色調	製作技法の等の特徴
第49図 236 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	口縁部 — — —	酸化 にぶい黄橙色	墨書土器。体部外面に「　」。口縁部横撫で、体部ヘラ削り。
第49図 237 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	口縁部 — — —	酸化 にぶい褐色	墨書土器。体部外面に「　」。
第49図 238 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい黄橙色	墨書土器。底部内面に「　」。底部ヘラ削り。
第50図 239 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 灰黄褐色	墨書土器。底部内面に「　」。底部ヘラ削り。
第50図 240 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「　」。底部ヘラ削り。
第50図 241 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「　」。底部ヘラ削り。
第50図 242 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「　」。底部ヘラ削り。
第50図 243 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「　」。底部ヘラ削り。
第50図 244 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「　」。底部ヘラ削り。
第50図 245 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「　」。底部ヘラ削り。
第50図 246 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「　」。底部ヘラ削り。
第50図 247 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「　」。底部ヘラ削り。
第50図 248 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部内面に「　」。底部ヘラ削り。
第50図 249 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部外面に「　」。底部ヘラ削り。
第50図 250 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部外面に「　」。底部ヘラ削り。
第50図 251 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部外面に「　」。底部ヘラ削り。
第50図 252 PL33	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。底部外面に「　」。底部ヘラ削り。
第51図 1 PL33	4区 69M-1	土師器 坏	口縁 — — —	酸化 にぶい橙色	墨書土器。体部内面に「　」。
第51図 2 PL33	5区 490-19	須恵器 坏	1/5 (12.0) 6.0 (3.5)	還元 灰黄色	墨書土器。体部内面、外面に横位に「国ヵ」。底部右回転糸切り痕。
第51図 3 PL33	5区 49M-17	土師器 鉢	口縁 — — —	酸化 橙色	墨書土器。体部外面に「　」。(家ヵ)
第53図 253 PL34	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁 — — —	還元 灰白色	漆紙文書付着。体部に稜を持つ。内面に漆紙が付着し、「□巳□」の3文字が残る。
第53図 254 PL34	141溝 埋没土	須恵器 坏	口縁 — — —	還元 灰白色	漆紙付着。一部に漆紙が残る。小範囲のみの残存のため、文字は認められない。
第53図 255 PL34	141溝 埋没土	須恵器 坏	1/2 (13.2) 6.0 3.9	還元 灰白色	漆紙付着。漆容器として使用され、蓋紙が付着し残存したものであるが、紙の残存部分が少なく、文字は認められない。底部右回転糸切り痕。
第53図 256 PL34	141溝 埋没土	須恵器 壺	頸部 — — —	還元 灰色	頸部内側の漆は一方に片寄って付着する。貯蔵する漆を注ぎ入れる際、付着した痕跡である。
第54図 257 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	1/4 (13.0) (8.0) 3.3	酸化 にぶい黄橙色	口縁部横撫で、底部ヘラ削り。内面および口縁部外面に煤が付着し黒色化する。口縁部に灯心痕残る。
第54図 258 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	1/4 (12.0) (8.4) 3.2	酸化 にぶい橙色	口縁部横撫で、底部ヘラ削り。体部に稜をもつ。口縁部内外面に煤および油煙が付着する。胎土分析試料
第54図 259 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	2/3 12.0 8.0 3.2	酸化 にぶい橙色	口縁部横撫で、底部ヘラ削り。内外面に煤が付着し、黒色化する。口縁部に油煙が付着し、灯心痕が残る。
第54図 260 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	1/4 (12.0) (8.4) (2.7)	酸化 にぶい黄橙色	口縁部横撫で、底部ヘラ削り。体部内面に煤および油煙が付着する。
第54図 261 PL34	141溝 埋没土	須恵器 椀	1/4 (14.0) (6.0) 4.8	還元 灰色	体部内外面および底面に煤および油煙が付着し、黒色化する。口縁部内面に層状に油煙が付着し、灯心痕も残る。
第55図 262 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	3/4 12.0 8.0 3.2	酸化 橙色	口縁部横撫で、底部ヘラ削り。整形はやや粗雑で、器面には凹凸がみられる。
第55図 263 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	1/2 (11.8) (8.4) 2.6	酸化 にぶい黄橙色	口縁部横撫で、底部ヘラ削り。器内外面に煤が吸着し、黒色化する。
第55図 264 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	1/2 (11.8) (8.0) 3.1	酸化 にぶい橙色	口縁部横撫で、底部ヘラ削り。体部は丸みをもつ。
第55図 265 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	1/2 (12.0) (8.2) 3.6	酸化 にぶい黄橙色	口縁部横撫で、底部ヘラ削り。体部に指頭痕が残る。整形はやや粗雑で、器面は凹凸がみられる。内外面が黒色化する。
第55図 266 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	1/4 (13.6) (6.2) 4.9	酸化 にぶい黄橙色	口縁部横撫で、底部ヘラ削り。体部はやや丸みをもつ。内面は炭素吸着がみられ、黒色化する。
第55図 267 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	1/4 (12.0) (9.6) 3.0	酸化 にぶい黄橙色	口縁部横撫で、底部ヘラ削り。内面に煤状の付着物がみられる。
第55図 268 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	底部 — — —	酸化 にぶい橙色	底部ヘラ削り。整形は粗雑で、器面に凹凸がみられる。
第55図 269 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	1/4 (12.4) (8.2) 2.5	酸化 にぶい橙色	口縁部横撫で、底部ヘラ削り。体部に凹線が巡り、稜をもつ。器内面および口縁部外面に煤状付着物があり黒色化する。灯明皿の可能性もある。
第55図 270 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	完形 11.8 8.6 3.1	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。整形はやや粗雑で、器形に歪みがあり、器面も凹凸がある。白色粒、角閃石を含む。
第55図 271 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	完形 11.4 9.0 3.4	酸化 にぶい橙色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。整形はやや粗雑で、器形に歪みがあり、器面も凹凸がある。白色粒、雲母を含む。
第55図 272 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	完形 12.0 8.2 3.4	酸化 にぶい橙色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。整形はやや粗雑で、器形に歪みがある。白色粒、角閃石を含む。
第55図 273 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	完形 11.9 8.2 3.2	酸化 にぶい橙色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。底面外面に十字状の擦痕が認められる。白色粒を含む。

遺物観察表

挿図番号 図版番号	遺構名 出土位置	種別 器種	計測値 cm 口径・底径・器高	焼成 色調	製作技法の等の特徴
第55図 274 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	2/5 (12.5) (8.6) 3.5	酸化 にぶい橙色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。口縁部はやや外反ぎみで、端部は丸みをもつ。白色粒、角閃石を含む。
第55図 275 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	3/5 12.3 9.4 3.2	酸化 にぶい赤褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。白色粒、黒色粒、石英粒を含む。
第55図 276 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	1/2 (12.0) 8.0 3.7	酸化 にぶい赤褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。体部は直線的に立ち上がる。白色粒、石英粒を含む。
第55図 277 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	5/8 11.8 8.6 3.1	酸化 にぶい橙色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。体部は直線的に立ち上がる。白色粒、石英粒、雲母を含む。
第55図 278 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	1/2 12.0 8.3 3.3	酸化 にぶい橙色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。体部に凹面が巡り、やや丸みをもつ。白色粒、角閃石を含む。
第55図 279 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	5/8 11.4 7.2 3.2	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。口縁部はやや外反ぎみで、体部は丸みをもつ。白色粒、角閃石を含む。
第56図 280 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	3/4 12.3 6.9 3.8	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。体部はやや深めで、口縁部はわずかに外反ぎみ。白色粒、角閃石を含む。
第56図 281 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	3/4 12.2 8.2 3.4	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。底部中央に円形の窪みがある。内面に一部煤状の付着物がみられる。白色粒、石英粒を含む。
第56図 282 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	2/3 11.4 7.2 3.8	酸化 にぶい赤褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。整形はやや粗雑で、器形に歪みがあり、底部も凹凸をもつ。口縁部に煤、油煙の付着がみられる。
第56図 283 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	3/4 11.8 8.4 3.2	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。底部はほぼ平ら。体部下端にわずかに丸みをもつ。白色粒、角閃石を含む。
第56図 284 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	2/5 (12.0) (10.8) 3.0	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。白色粒、石英粒を含む。
第56図 285 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	2/5 (12.0) (9.0) —	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。口縁部はやや外反ぎみ。白色粒角閃石を含む。
第56図 286 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	1/4 (12.0) (8.0) —	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。口縁部はわずかに内湾ぎみ。白色粒、角閃石を含む。
第56図 287 PL34	141溝 埋没土	土師器 坏	1/3 (12.6) (8.0) —	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。整形はやや粗雑で、器形に歪みがある。白色粒、角閃石を含む。
第56図 288 PL35	141溝 埋没土	土師器 坏	1/4 (11.6) (8.0) —	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。整形はやや粗雑で、器形は歪みがあり、口縁部も凹凸する。白色粒を含む。
第56図 289 PL35	141溝 埋没土	土師器 坏	1/4 (11.6) (8.0) —	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。白色粒、黒色粒、石英粒を含む。
第56図 290 PL35	141溝 埋没土	土師器 坏	1/4 (12.0) (8.0) —	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。体部に凹線が巡る。白色粒、黒色粒、角閃石、雲母を含む。
第56図 291 PL35	141溝 埋没土	土師器 坏	1/5 (12.0) (8.5) —	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。整形はやや粗雑で、器形に歪みがあり、器厚も一定しない。黒色粒、雲母を含む。
第56図 292 PL35	141溝 埋没土	土師器 坏	1/3 (12.0) (8.8) —	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。整形はやや粗雑で、器形に歪みがある。白色粒、角閃石を含む。
第56図 293 PL35	141溝 埋没土	土師器 坏	1/4 (12.0) (9.0) —	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。体部は直線的に立ち上がる。白色粒、黒色粒、角閃石を含む。
第56図 294 PL35	141溝 埋没土	土師器 坏	1/3 (11.4) (8.2) —	酸化 にぶい橙色	口縁部横撫で、体部撫で、体部ヘラ削り。整形はやや粗雑で、器形に歪みがある。白色粒、石英粒、黒色粒を含む。
第56図 295 PL35	141溝 埋没土	土師器 坏	1/5 (11.4) (6.7) —	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。体部はやや丸みをもつ。黒色粒、角閃石を含む。
第56図 296 PL35	141溝 埋没土	土師器 坏	1/5 (12.0) (7.6) —	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。整形はやや粗雑で、器形に歪みがある。白色粒、角閃石、雲母を含む。
第56図 297 PL35	141溝 埋没土	土師器 坏	1/5 (11.6) (7.9) —	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。体部下端にやや丸みをもつ。白色粒、黒色粒を含む。
第56図 298 PL35	141溝 埋没土	土師器 坏	1/5 (12.6) (8.4) —	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。白色粒、角閃石を含む。
第56図 299 PL35	141溝 埋没土	土師器 坏	1/5 (12.6) — —	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。体部は丸みを持つ。口唇部はわずかに内傾ぎみ。白色粒、角閃石を含む。
第57図 300 PL35	141溝 埋没土	土師器 坏	1/7 (12.0) (8.2) —	酸化 橙色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。体部は丸みを持つ。白色粒、角閃石、石英粒を含む。
第57図 301 PL35	141溝 埋没土	土師器 坏	1/5 (11.4) — —	酸化 明赤褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。体部および口縁部は丸みをもつ。白色粒、角閃石を含む。
第57図 302 PL35	141溝 埋没土	土師器 坏	1/8 (11.8) — —	酸化 にぶい褐色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。白色粒、角閃石、雲母を含む。
第57図 303 PL35	141溝 埋没土	土師器 坏	1/5 (12.3) — —	酸化 にぶい橙色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。体部は丸みをもち、浅め。白色粒、角閃石を含む。
第57図 304 PL35	141溝 埋没土	土師器 坏	1/8 (12.0) (9.4) —	酸化 にぶい橙色	口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。体部はやや丸みをもつ。白色粒、角閃石を含む。
第57図 305 PL35	141溝 埋没土	土師器 鉢	1/6 (19.0) (9.0) —	酸化 にぶい橙色	口縁部横撫で、体部ヘラ削り。内面ヘラ撫で。体部はわずかに丸みをもつ。白色粒、角閃石を含み。
第57図 306 PL35	141溝 埋没土	須恵器 坏	1/2 (12.6) 6.4 (3.5)	還元 褐灰色	底部に右回転糸切り痕。断面は褐色を呈する。白色粒を含む。
第57図 307 PL35	141溝 埋没土	須恵器 坏	口縁部一部欠 12.9 6.2 3.9	還元 灰黄色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第57図 308 PL35	141溝 埋没土	須恵器 坏	2/3 (12.8) 5.0 3.2	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。口縁部はやや外反ぎみ。白色粒を含む。
第57図 309 PL35	141溝 埋没土	須恵器 坏	1/2 (13.0) (6.4) 4.0	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。口縁部はやや外反ぎみ。白色粒を含む。
第58図 310 PL35	141溝 埋没土	須恵器 坏	1/4 (13.4) (8.0) (3.3)	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。体部は直線的に立ち上がる。白色粒を含む。
第58図 311 PL35	141溝 埋没土	須恵器 坏	1/3 (13.4) (8.0) 3.2	還元 灰色	底部ヘラきり。白色粒を含む。
第58図 312 PL35	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — 8.2 —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第58図 313 PL35	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — 6.4 —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第58図 314	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — 5.8 —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。体部はやや丸みをもつ。白色粒を含む。

挿図番号 図版番号	遺構名 出土位置	種別 器種	計測値 cm 口径・底径・器高	焼成 色調	製作技法の等の特徴
第58図 315	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (6.6) —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第58図 316	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (7.0) —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第58図 317	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — 5.2 —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第59図 318 PL35	141溝 埋没土	須恵器 坏	体部～底部 — 5.2 —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。体部にロクロ目が明瞭に残る。内外面に煤状の付着物のため。黒色化する。白色粒を含む。
第59図 319 PL35	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — 6.0 —	還元 オリーブ黒色	底部に左回転糸切り痕。器内外面とも炭素吸着し、黒色化する。白色粒含む。
第59図 320	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — 5.5 —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。器内外面とも黒色化。
第59図 321 PL35	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — 6.0 —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第59図 322	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — 6.0 —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第59図 323	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — 6.4 —	還元 灰黄色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第59図 324	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (6.4) —	還元 灰色	底部に回転糸切り痕。白色粒、黒色粒を含む。
第59図 325	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — 6.0 —	還元 灰色	底部に回転糸切り痕。白色粒を含む。
第59図 326	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (6.0) —	還元 灰色	底部に回転糸切り痕。白色粒を含む。
第59図 327	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (6.6) —	還元 灰色	底部に回転糸切り痕。白色粒を含む。
第59図 328	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (7.4) —	還元 灰黄色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第59図 329	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — 5.6 —	還元 灰黄褐色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第59図 330	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (6.4) —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第59図 331 PL35	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — 5.4 —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第60図 332	141溝 埋没土	須恵器 坏	1/8 (12.0)(7.2)(3.1)	還元 灰色	底部に回転糸切り痕。白色粒を含む。
第60図 333	141溝 埋没土	須恵器 坏	1/6 (12.6)(7.6)(3.5)	還元 灰色	底部に回転糸切り痕。白色粒を含む。
第60図 334	141溝 埋没土	須恵器 坏	1/5 (12.0) (6.7) 3.5	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第60図 335 PL35	141溝 埋没土	須恵器 坏	1/4 (11.9)(7.0)(3.4)	還元 灰色	底部に回転糸切り痕。底部内面は同心円状に平滑面が認められる。白色粒を含む。
第60図 336	141溝 埋没土	須恵器 坏	1/5 (12.0) (8.4) 3.5	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第60図 337	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (7.0) —	還元 灰色	底部に回転糸切り痕。白色粒、黒色粒を含む。
第60図 338	141溝 埋没土	須恵器 坏	1/4 — (6.4) —	還元 灰白色	底部に回転糸切り痕。白色粒を含む。
第60図 339	141溝 埋没土	須恵器 坏	1/5 — (5.9) —	還元 灰色	底部に回転糸切り痕。白色粒を含む。
第60図 340	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (5.5) —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第60図 341	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (6.0) —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第60図 342	141溝 埋没土	須恵器 坏	1/5 (12.0) (6.5) 2.8	還元 灰色	底部に回転糸切り痕。体部はやや強く開く。白色粒を含む。
第60図 343	141溝 埋没土	須恵器 坏	底部 — (6.0) —	還元 灰色	底部に回転糸切り痕。体部下端は丸みをもつ。白色粒を含む。
第60図 344 PL35	141溝 埋没土	須恵器 椀	1/3 (14.2) 7.4 6.2	還元 灰黄色	体部にロクロ目が残る。底部に右回転糸切り痕。
第60図 345 PL35	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 8.0 —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。胎土分析資料
第61図 346 PL35	141溝 埋没土	須恵器 椀	1/5 (14.2) 6.8 5.1	還元 灰色	底部右回転糸切り痕。口縁端部やや外反ぎみ。白色粒を含む。
第61図 347 PL35	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 7.5 —	還元 灰オリーブ色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第61図 348 PL35	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 7.4 —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第61図 349 PL35	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.7 —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。内面に重ね焼き痕が残る。白色粒、黒色粒を含む。
第61図 350 PL35	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.8 —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第61図 351 PL35	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 8.0 —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第61図 352	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.3 —	還元 灰黄色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第61図 353 PL35	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 7.0 —	還元 黄灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を多く含む。
第62図 354 PL35	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 7.3 —	還元 にぶい黄褐色	底部に右回転糸切り痕。白色粒、石英粒を含む。
第62図 355 PL35	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 7.4 —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。

遺物観察表

挿図番号 図版番号	遺構名 出土位置	種別 器種	計測値 cm 口径・底径・器高	焼成 色調	製作技法の等の特徴
第62図 356	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.2 —	還元 暗灰色	底部に右回転糸切り痕。
第62図 357 PL35	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 8.0 —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第62図 358 PL35	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 7.0 —	還元 黄灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒、黒色粒を含む。
第62図 359	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (6.5) —	還元 灰オリーブ色	底部に右回転糸切り痕。高台は方形断面を呈する。白色粒を含む。
第62図 360	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (6.2) —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。白色粒、黒色粒を含む。
第62図 361 PL35	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (6.8) —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。白色粒、黒色粒を含む。
第62図 362 PL35	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.9 —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。器内外面に煤状付着物があり、黒色化する。
第62図 363 PL35	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (6.5) —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。断面は灰色を呈し、器内外面は灰白色を呈する。
第62図 364	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.8 —	還元 灰黄色	底部に右回転糸切り痕。黒色粒を含む。内面に重ね焼き痕が残る。
第62図 365 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.0) —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第62図 366 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.0) —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。内面に重ね焼き痕が残る。
第63図 367 PL35	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.3 —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。黒色粒、輝石粒を含む。
第63図 368	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.0) —	還元 灰黄色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第63図 369 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (6.7) —	還元 暗灰色	底部に右回転糸切り痕。器内外面は炭素吸着により黒色化する。白色粒を含む。
第63図 370 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (6.2) —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第63図 371	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.7) —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。器内外面は炭素吸着により黒色化する。白色粒を含む。
第62図 372 PL35	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (6.8) —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。極めて硬質に焼成される。
第63図 373 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.2 —	還元 灰白色	底部に左回転糸切り痕。白色粒、黒色粒を含む。
第63図 374 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.8 —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒、黒色粒を含む。
第63図 375 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (6.8) —	還元 明褐色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第63図 376 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 7.3 —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第63図 377 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 5.8 —	還元 黄灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第63図 378 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.2 —	還元 黄灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第64図 379 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 7.0 —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第64図 380 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.6 —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。内面に炭素吸着により黒色化する。
第64図 381 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.0 —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第64図 382 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.4 —	還元 オリーブ黒色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第64図 383 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.4 —	還元 にぶい黄橙色	底部に回転糸切り痕。白色粒、輝石粒を含む。
第64図 384 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.5 —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第64図 385	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.1) —	還元 黒色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第64図 386 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.6 —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。高台部剝落。白色粒を含む。
第64図 387	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.4 —	還元 にぶい黄橙色	底部は撫でにより糸切り痕は消失する。白色粒、黒色粒を含む。
第64図 388	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (6.5) —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。高台部剝落。白色粒を含む。
第64図 389	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (6.4) —	還元 にぶい黄橙色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第64図 390	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (8.0) —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。黒色粒を含む。
第65図 391 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	1/4 (16.6) (8.8) (6.0)	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。高台部剝落。体部にロクロ目が残る白色粒、黒色粒を含む。
第65図 392 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	1/4 (14.0) (6.4) (5.7)	還元 灰黄色	底部に回転糸切り痕。底部に重ね焼き痕が残る。白色粒、黒色粒を含む。
第65図 393	141溝 埋没土	須恵器 椀	1/8 (13.7) (6.2) (5.3)	還元 オリーブ灰色	白色粒、黒色粒を含む。
第65図 394	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (8.4) —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。体部にロクロ目が残る。白色粒、輝石粒を含む。
第65図 395	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.2) —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第65図 396	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (8.0) —	還元 灰白色	底部に回転糸切り痕。白色粒、黒色粒を含む。

挿図番号 図版番号	遺構名 出土位置	種別 器種	計測値 cm 口径・底径・器高	焼成 色調	製作技法の等の特徴
第65図 397	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.2) —	還元 灰色	底部に回転糸切り痕。白色粒を含む。
第65図 398	141溝 埋没土	須恵器 椀	1/8 (12.0)(7.0)(2.9)	還元 灰色	底部に回転糸切り痕。白色粒を含む。高台部剝落。
第65図 399	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (6.7) —	還元 灰白色	底部に回転糸切り痕。体部下端に段をもつ。白色粒を含む。
第65図 400	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (9.8) —	還元 灰白色	底部に回転糸切り痕。白色粒を含む。
第65図 401	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.2) —	還元 灰色	底部に回転糸切り痕。白色粒、輝石粒を含む。
第65図 402 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.7) —	還元 にぶい褐色	底部に回転糸切り痕。体部はやや丸みをもつ。内面に炭素吸着。
第65図 403	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (6.7) —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第65図 404	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.4) —	還元 浅黄色	底部に右回転糸切り痕。白色粒、輝石粒を含む。
第65図 405	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.4) —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。白色粒、黒色粒を含む。
第65図 406	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.2) —	還元 灰色	底部に回転糸切り痕。白色粒、輝石粒を含む。
第66図 407	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.4) —	還元 灰白色	底部に回転糸切り痕。高台部は剝落。白色粒、黒色粒を含む。
第66図 408	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (8.0) —	還元 灰白色	底部に右回転糸切り痕。白色粒、黒色粒を含む。
第66図 409	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.0) —	還元 黒褐色	底部に回転糸切り痕。白色粒、黒色粒を含む。
第66図 410	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.0) —	還元 灰色	底部に回転糸切り痕。高台はやや張り出しぎみ。白色粒を含む。
第66図 411	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.4) —	還元 灰色	底部に回転糸切り痕。白色粒、輝石粒を含む。
第66図 412	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (6.0) —	還元 褐灰色	底部に回転糸切り痕。白色粒、輝石粒を含む。
第66図 413	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (8.3) —	還元 灰色	底部に右回転糸切り痕。高台部は剝落する。白色粒を含む。
第66図 414	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (6.7) —	還元 灰白色	底部に回転糸切り痕。白色粒、黒色粒を含む。
第66図 415	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.0) —	還元 灰黒色	底部に右回転糸切り痕。器内外面および断面も黒色化する。白色粒を含む。
第66図 416 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (8.6) —	還元 灰白色	底部に回転糸切り痕。黒色粒を含む。高台部剝落。
第66図 417	141溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.7) —	還元 灰色	底部に回転糸切り痕。底部下端はやや扁平に広がる。白色粒、黒色粒を含む。
第66図 418 PL36	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (18.0) — —	還元 灰白色	口縁部にわずかな段を持つ。黒色粒を含む。
第66図 419	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (14.3) — —	還元 黒色	口縁端部はわずかに外反する。内外面および断面も黒色化する。輝石粒含む。
第66図 420	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (17.0) — —	還元 にぶい橙色	体部にロクロ目が残る。口縁部内外面のみ黒色化する。白色粒を含む。
第66図 421	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (14.5) — —	還元 黄灰色	口縁端部は丸みをもち、わずかに外側に向く。白色粒を含む。
第66図 422	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (16.0) — —	還元 褐色	体部にロクロ目が残る。白色粒を含む。
第66図 423	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (15.6) — —	還元 灰色	体部にロクロ目が残る。白色粒を含む。
第67図 424	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (17.1) — —	還元 灰色	口縁部にわずかな段を持つ。黒色粒を含む。
第67図 425	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (13.4) — —	還元 灰色	体部にロクロ目が残る。輝石粒を含む。
第67図 426	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (16.0) — —	還元 灰色	口縁端部は丸みをもち、わずかに外側に向く。白色粒を含む。器内外面および断面も黒色化する。
第67図 427	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (13.8) — —	還元 灰色	体部はやや丸みをもつ。体部下端にわずかに稜がみられる。白色粒を含む。
第67図 428	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (15.2) — —	還元 灰色	口縁端部は丸みをもつ。白色粒を含む。
第67図 429	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (14.0) — —	還元 灰色	口縁端部は丸頭状を呈し、外側に向く。白色粒を含む。
第67図 430	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (14.6) — —	還元 灰色	器内面は平滑面が形成されるが、外面は整形が粗雑で起伏がある。 白色粒を含む。
第67図 431	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (13.8) — —	還元 褐灰色	浅めの椀で、体部にロクロ目が残る。白色粒、輝石粒を含む。
第67図 432	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (16.3) — —	還元 灰白色	体部にロクロ目が残る。浅めの椀。白色粒を含む。
第67図 433	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (13.4) — —	還元 灰白色	体部が丸みをもち、口縁部は外反ぎみに開く。白色粒を含む。
第67図 434	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (17.1) — —	還元 灰白色	体部にロクロ目が残る。白色粒、輝石粒を含む。
第67図 435	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (12.3) — —	還元 灰オリーブ色	体部は直線的に立ち上がる小型の椀。白色粒を含む。
第67図 436	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (15.6) — —	還元 灰色	口縁部は内側にわずかに肥厚する。口縁端部は内外面とも灰色で、体部は黒色化する。白色粒を含む。
第67図 437	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (12.4) — —	還元 灰色	体部は直線的に立ち上がる。口縁端部は丸みをもつ。白色粒を吹くむ。

遺物観察表

挿図番号 図版番号	遺構名 出土位置	種別 器種	計測値 cm 口径・底径・器高	焼成 色調	製作技法の等の特徴
第67図 438	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (15.8) — —	還元 灰色	口縁端部は内側がやや肥厚する。口縁部は平滑面をもつが、体部は整形が粗雑で器面に起伏がある。
第67図 439	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (13.0) — —	還元 浅黄色	薄手の椀。白色粒、輝石粒を含む。
第68図 440	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (14.0) — —	還元 灰色	体部はやや丸みをもつ。白色粒を含む。
第68図 441	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (13.0) — —	還元 灰色	体部にロクロ目が残る。白色粒、輝石粒を含む。
第68図 442	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (14.0) — —	還元 灰白色	やや軟質の土器。白色粒、黒色粒を含む。
第68図 443	141溝 埋没土	須恵器 椀	口縁部 (14.0) — —	還元 灰白色	口縁端部がやや肥厚ぎみで、丸みをもつ。白色粒を含む。
第68図 444	141溝 埋没土	須恵器 皿	口縁部 (13.4) — —	還元 黒色	体部内外面とも炭素吸着により黒色化する。口縁部内側に細い凹線が巡る。白色粒を含む。
第68図 445 PL36	141溝 埋没土	須恵器 皿	1/3 (13.8) (6.6) 2.8	還元 灰白色	口縁端部が外反ぎみに開く。底部に右回転糸切り痕。白色粒、輝石粒を含む。
第68図 446	141溝 埋没土	須恵器 皿	口縁部 (13.0) — —	還元 灰白色	体部から口縁部にかけて直線的に開く。白色粒、輝石粒を含む。
第68図 447	141溝 埋没土	須恵器 皿	1/5 (13.8)(6.5)(2.7)	還元 灰色	口縁端部は丸頭状で外側に向く。白色粒を含む。
第68図 448	141溝 埋没土	須恵器 皿	口縁部 (16.0) — —	還元 灰色	体部が直線的に開く。白色粒を含む。
第68図 449 PL36	141溝 埋没土	須恵器 蓋	1/2 16.5 — —	還元 灰白色	リング状ツマミは接合部で剝落する。体部はやや丸みをもち、端部から1.5cm内側に断面三角形のかえりが付される。白色粒、黒色粒を含む。
第68図 450	141溝 埋没土	須恵器 蓋	口縁部 (16.6) — —	還元 灰色	天井部はやや扁平で、上面の削り痕は稜をもつ。端部に断面三角形の短いかえりが付される。白色粒、黒色粒を含む。
第68図 451	141溝 埋没土	須恵器 蓋	口縁 (16.0) — —	還元 灰白色	体部端部は湾曲ぎみで、端部に丸みをもつかえりが付される。白色粒、黒色粒を含む。
第68図 452	141溝 埋没土	須恵器 蓋	天井部 — — —	還元 灰白色	天井部はやや扁平で、ツマミは剝落する。天井部上面に平坦面が形成される。白色粒、黒色粒を含む。
第68図 453	141溝 埋没土	須恵器 蓋	天井部 — — —	還元 灰色	径3cmのボタン状つまみが付される。白色粒、黒色粒を含む。
第68図 454	141溝 埋没土	須恵器 蓋	口縁部 (13.0) — —	還元 灰白色	小型の蓋。端部に丸頭状のかえりが付される。白色粒を含む。
第68図 455	141溝 埋没土	須恵器 蓋	口縁部 (16.0) — —	還元 暗灰色	体部はやや湾曲し、端部に丸頭状のかえりが付される。白色粒を含む。
第69図 456 PL36	141溝 埋没土	須恵器 壺	口縁部 (12.6) — —	還元 灰色	頸部接合部で剝落。口縁部は水平方向に開くが、焼成時に大きな歪みが生じる。ロクロ整形。部分的に自然釉が付着する。白色粒を多く含む。
第69図 457 PL36	141溝 埋没土	須恵器 壺	頸部 — — —	還元 オリーブ灰色	ロクロ整形。口縁部および胴部接合部に打ち欠いたような痕跡が認められる。白色粒、黒色粒を含む。
第69図 458	141溝 埋没土	須恵器 壺	口縁部 (16.0) — (1.6)	還元 灰色	口縁部が大きく外反し、端部は短くとがりぎみに直立する。白色粒、黒色粒を含む。
第69図 459	141溝 埋没土	灰釉陶器 壺	口縁部 — — —	還元 灰オリーブ色	口縁端部は断面三角形に短く直立し、外側に浅い凹面が巡る。白色粒を含む。
第69図 460 PL36	141溝 埋没土	須恵器 甕	口縁部 (26.0) — —	還元 にぶい赤褐色	口縁部は外反し、端部は両側に張り出し、外側に稜をもつ面が形成される。器内外面にロクロ目が残る。白色粒、黒色粒を含む。
第69図 461 PL36	141溝 埋没土	須恵器 甕	頸部 — — —	還元 暗灰色	外面に浅い叩き目がみられる。白色粒を多量に含む。
第69図 462 PL36	141溝 埋没土	須恵器 長頸壺	肩部 — — —	還元 灰色	体部内面にロクロ目が残る。外面に一部自然釉が付着する。黒色粒を含む。
第69図 463 PL36	141溝 埋没土	須恵器 甕	頸部 — — —	還元 灰色	器内外面に指頭による押圧痕が残り、内面には凸凹がみられる。白色粒を含む。
第69図 464 PL36	141溝 埋没土	須恵器 甕	口縁部 (39.0) — —	還元 灰色	大型の甕。外面は布による横撫で。内面には輪積み痕が残るが、布による横撫で。白色粒を多量に含む。
第69図 465 PL37	141溝 埋没土	須恵器 壺	底部 — (9.0) —	還元 灰オリーブ色	底部に右回転糸切り痕。高台部は断面方形で扁平。一部に自然釉が付着する。白色粒を含む。
第69図 466 PL36	141溝 埋没土	須恵器 甕	肩部 — — —	還元 灰色	体部にロクロ目が残る。断面は褐灰色を呈する。白色粒を含む。
第69図 467 PL36	141溝 埋没土	須恵器 壺	底部 — (11.0) —	還元 灰白色	体部にロクロ目が残る。断面は褐灰色を呈する。白色粒、黒色粒を含む。
第69図 468 PL37	141溝 埋没土	須恵器 壺	体部 — — —	還元 オリーブ黒色	体部にロクロ目が残り、幅4㎜の凹線が2条巡る。白色粒、黒色粒を含む。
第70図 469 PL37	141溝 埋没土	須恵器 甕	体部 — — —	還元 灰色	体部最大径は24cm。白色粒を含む。
第70図 470 PL37	141溝 埋没土	須恵器 甕	口縁部 (20.0) — —	還元 灰色	口縁端部は尖りぎみで、短く直立し、外側に面をもつ。最大径は体部上半にある。白色粒を含む。
第70図 471 PL37	141溝 埋没土	須恵器 甕	底部 — (14.0) —	還元 灰色	体部下端に細い沈線が1条巡る。断面は褐灰色を呈する。白色粒を含む。
第70図 472 PL37	141溝 埋没土	須恵器 甕	体部 — — —	還元 灰白色	内面には叩き目がみられるが、凸凹である。白色粒、黒色粒を含む。
第70図 473 PL37	141溝 埋没土	須恵器 鉢ヵ	1/5 (11.8) — —	還元 灰色	器内外面に自然釉が付着する。体部はやや丸みをもち、口縁部は内湾ぎみ。体部下端に縦位のヘラ痕が認められる。白色粒、黒色粒を含む。
第70図 474 PL37	141溝 埋没土	須恵器 甕	1/2 (32.0)(16.0)23.0	還元 灰色	底部はヘラ撫で。体部下端にもヘラ撫でがみられる。口縁端部は尖りぎみで、外側に面をもつ。白色粒を含む。
第70図 475 PL37	141溝 埋没土	須恵器 甕	底部 — — —	還元 灰色	内面に叩き目がみられるが、凸凹である。また、部分的に布目痕も残る。白色粒、黒色粒を含む。
第70図 476 PL37	141溝 埋没土	須恵器 甕	体部 — — —	還元 灰白色	外面に叩き目が認められる。断面および内面はにぶい黄橙色を呈する。白色粒、黒色粒を含む。
第71図 477	141溝 埋没土	須恵器 平瓶	口縁部～肩部 (11.4) — (8.0)	還元 黄灰色	肩部接合部で剝落。体部に自然釉付着、把手剝離。黒色粒を含む。
第71図 478 PL37	141溝 埋没土	須恵器 瓶	肩部～胴部 — — (4.4)	還元 灰色	肩部面に自然釉付着。白色粒を含む。

挿図番号 図版番号	遺構名 出土位置	種別 器種	計測値 cm 口径・底径・器高	焼成 色調	製作技法の等の特徴
第71図 479	141溝 埋没土	須恵器 平瓶	胴部～底部 — (16.0) (11.6)	還元 灰色	体部ヘラ撫で。白色粒、黒色粒を含む。
第71図 480 PL37	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	口縁部 (14.0) — (2.4)	還元 灰白色	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛けか。大原2号窯式期。(釉) 明緑灰色。
第71図 481	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	口縁部 — — —	還元 灰白色	ロクロ整形。施釉方法は刷毛塗りか。光ヶ丘1号窯式期。
第71図 482	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀 カ	口縁部 — — (1.5)	還元 灰色	ロクロ整形。光ヶ丘1号窯式期～大原2号窯式期。(釉) 灰色。
第71図 483 PL37	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀 カ	口縁部 — — (3.4)	還元 にぶい黄色	ロクロ整形。口縁部下位は回転ヘラ削り。施釉方法は漬け掛けか。 大原2号窯式期。(釉) 灰色。
第71図 484	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀 カ	口縁部 — — —	還元 灰白色	ロクロ整形。施釉方法は刷毛塗りか。光ヶ丘1号窯式期。
第71図 485	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	口縁部 — — (1.1)	還元 灰白色	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛けか。大原2号窯式期。(釉)灰オリーブ色。
第71図 486	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	口縁部 — — (2.4)	還元 灰オリーブ色	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛けか。大原2号窯式期。
第71図 487	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	口縁部 — — (2.0)	還元 灰白色	ロクロ整形。大原2号窯式期。(釉) 明オリーブ灰色。
第71図 488 PL37	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀 カ	口縁部 — — (4.5)	還元 灰白色	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛けか。大原2号窯式期。(釉) 灰白色。
第71図 489	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	口縁部 — — (2.2)	還元 灰白色	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛けか。大原2号窯式期。
第71図 490	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	口縁部 — — —	還元 灰白色	ロクロ整形。光ヶ丘1号窯式期。468と同個体？
第71図 491	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	底部1/2 — (7.8) (2.5)	還元 灰白色	ロクロ整形。回転右回り。高台貼付。大原2号窯式期。
第71図 492	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	口縁部 — — (1.9)	還元 灰白色	ロクロ整形。光ヶ丘1号窯式期。458と同個体？
第71図 493	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	体部 — — (2.1)	還元 灰白色	ロクロ整形。内面全面に施釉。黒笹14号窯式期。(釉) 灰オリーブ色。
第71図 494	141溝 埋没土	灰釉陶器 段皿	体部 — — (2.0)	還元 灰白色	ロクロ整形。施釉方法?大原2号窯式期。(釉) オリーブ灰色。
第71図 495	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	胴部 — — (2.8)	還元 灰白色	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛けか。大原2号窯式期。
第71図 496	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	胴部 — — (2.4)	還元 灰白色	ロクロ整形。口縁部下位は回転ヘラ削り。大原2号窯式期。
第71図 497	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	胴部 — — 2.7	還元 灰白色	ロクロ整形。
第71図 498	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	胴部 — — (3.5)	還元 灰白色	ロクロ整形。施釉方法は刷毛塗りか。光ヶ丘1号窯式期。
第71図 499	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	体部 — — (2.6)	還元 灰白色	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛けか。大原2号窯式期。(釉) 明緑灰色。
第72図 500	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	胴部 — — (3.6)	還元 灰白色	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛けか。大原2号窯式期。 接合はしないが457と同一個体。
第72図 501	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	胴部 — — (1.8)	還元 灰白色	ロクロ整形。施釉方法は不明。
第72図 502	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	胴部 — — (2.6)	還元 灰白色	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛けか。大原2号窯式期。
第72図 503	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	底部 — — (1.4)	還元 オリーブ黄色	ロクロ整形。底部に陰刻花文とみられる凹線あり。黒笹14号窯式期。
第72図 504	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	胴部 — — (1.8)	還元 灰白色	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛けか。大原2号窯式期。 接合はしないが475と同一個体。
第72図 505	141溝 埋没土	須恵器 杯蓋	天井部 — — (3.5)	還元 灰白色	ロクロ整形。天井部回転ヘラ削り。天井部降灰付着。
第72図 506	141溝 埋没土	須恵器 長頸壺	胴部下半部 — — (2.6)	還元 明オリーブ灰色	ロクロ整形。胴部回転ヘラ削り。
第72図 507	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	体部 — — (2.6)	還元 灰白色	ロクロ整形。施釉方法は内面のみ。黒笹14号窯式期。
第72図 508	141溝 埋没土	灰釉陶器 椀	体部 — — (2.2)	還元 灰白色	ロクロ整形。施釉方法は刷毛塗りか。光ヶ丘1号窯式期。
第72図 509	141溝 埋没土	須恵器 長頸壺	胴部上位 — — (5.0)	還元 灰色	ロクロ整形。
第72図 510	141溝 埋没土	須恵器 瓶	— — (3.8)	還元 灰白色	ロクロ整形。
第72図 511	141溝 埋没土	須恵器 長頸壺	胴部上位 — — (2.4)	還元 灰オリーブ色	ロクロ整形。
第72図 512	141溝 埋没土	須恵器 椀	胴部 — — (16.6)	還元 灰白色	ロクロ整形。
第72図 513	141溝 埋没土	須恵器 長頸壺	胴部 — — (2.4)	還元 オリーブ灰色	ロクロ整形。
第72図 514	141溝 埋没土	須恵器 長頸壺	胴部下半部 — — (2.4)	還元 灰白色	ロクロ整形。
第72図 515	141溝 埋没土	須恵器 長頸壺	口縁部 — — (1.8)	還元 灰白色	ロクロ整形。
第72図 516 PL37	141溝 埋没土	須恵器 長頸壺	頸部 — — (3.2)	還元 灰白色	ロクロ整形。回転右回りか。156号溝と接合。
第72図 517	141溝 埋没土	灰釉陶器 長頸壺	肩部～胴部 — — (5.2)	還元 灰オリーブ色	ロクロ整形。光ヶ丘1号窯式期。
第72図 518	141溝 埋没土	灰釉陶器 長頸壺	体部 — — (10.3)	還元 灰白色	ロクロ整形。光ヶ丘1号窯式期。(釉) 暗オリーブ灰色。

遺物観察表

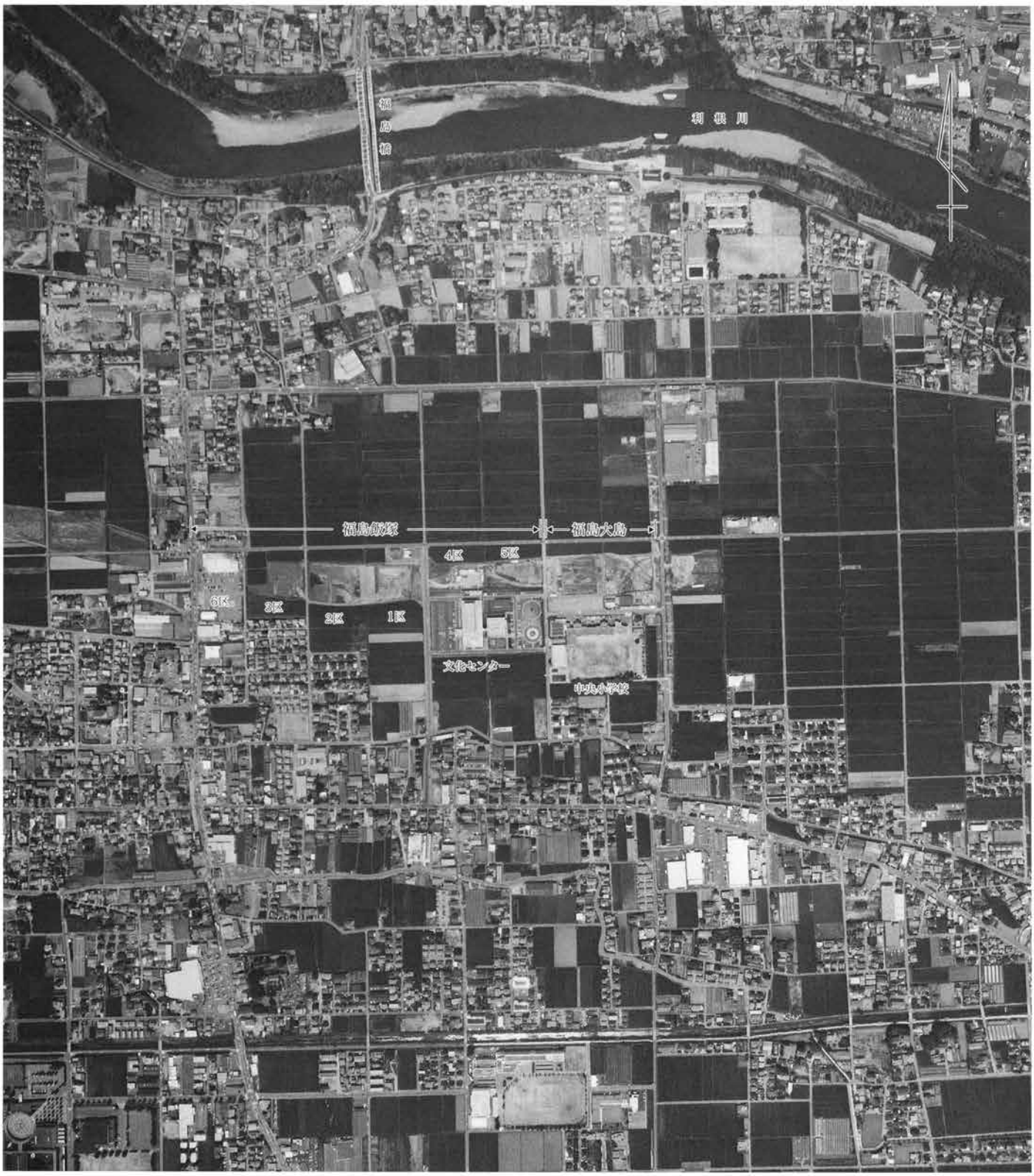
挿図番号 図版番号	遺構名 出土位置	種別 器種	計測値 cm 口径・底径・器高	焼成 色調	製作技法の等の特徴
第72図 519	141溝 埋没土	須恵器 長頸壺	頸部 — — (3.1)	還元 灰白色	ロクロ整形。頸部と胴部は二段接合。
第72図 520	141溝 埋没土	須恵器 長頸壺	体部 — — (4.7)	還元 灰オリーブ色	ロクロ整形。
第72図 521 PL37	141溝 埋没土	須恵器 長頸壺	胴部 — — (3.5)	還元 灰白色	ロクロ整形。回転右回りか。
第80図 1 PL40	4号住 埋没土	土師器 鉢	1/5 (19.8) (11.2) 8.2	酸化 にぶい橙色	口縁部ヨコ撫で。体部〜底部ヘラ削り。白色粒を含む。
第80図 2 PL40	4号住 埋没土	須恵器 坏	口縁部 (12.2) — (2.9)	還元 灰白色	軟質の坏。体部にロクロ目が残る。黒色粒を含む。
第80図 3 PL40	4号住 埋没土	須恵器 椀	体部〜底部 — 7.8 (3.5)	還元 灰色	底部右回転糸切り痕。輝石粒を含む。
第80図 4 PL40	4号住 埋没土	須恵器 椀	ほぼ完形 14.2 7.1 5.7	還元 灰色	底部右回転糸切り痕。内面に重ね焼き痕。白色粒を含む。
第80図 5	4号住 埋没土	石製品 こもあみ石	長軸15.4 短軸5.4 厚さ4.1 重量512.0		長軸端部にわずかに敲打痕が認められる。粗流輝石安山岩。
第81図 1 PL40	5号住 埋没土	須恵器 坏	1/4 (12.0) (5.8) (3.5)	還元 灰色	底部右回転糸切り痕。口縁端部やや外反ぎみに開く。白色粒を含む。
第81図 2	5号住 埋没土	須恵器 坏	1/4 (12.4) (6.0) 3.6	還元 灰色	体部右回転。底部に粗雑な糸切り痕が残る。白色粒を含む。
第81図 3	5号住 埋没土	須恵器 坏	底部 — (6.2) (3.2)	還元 灰色	底部右回転糸切り痕。体部過半にやや丸みをもつ。白色粒を含む。
第81図 4	5号住 埋没土	須恵器 椀	底部 — (8.0) (2.4)	還元 灰白色	底部右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第81図 5	5号住 埋没土	須恵器 甕	胴部〜底部 — (19.0) (14.6)	還元 灰色	体部器面に凹凸が認められる。白色粒を多く含む。
第81図 6	5号住 埋没土	鉄製品 刀子片ヵ	長さ2.4		両端欠損。
第81図 7	5号住 埋没土	石製品 磨石	長軸19.6 短軸7.0 厚さ8.2 重量1710.0		礫側面に摩耗面が形成される。砥石。粗流輝石安山岩。
第81図 8	5号住 埋没土	石製品 すり石	長軸14.8 短軸12.2 厚さ5.8 重量1460.0		礫一側面に摩耗面。粗流輝石安山岩。
第83図 1 PL40	8号住 埋没土	土師器 坏	完形 12.2 9.6 3.6	酸化 にぶい褐色	体部は直線的に立ち上がる。口縁部ヨコ撫で。体部撫で。底部ヘラ削り。白色粒、輝石粒を含む。
第83図 2 PL40	8号住 埋没土	土師器 坏	1/1 11.8 9.0 3.0	酸化 橙色	体部わずかに丸みをもち、口縁部は直線的に立ち上がる。口縁部ヨコ撫で。底部ヘラ削り。白色粒を含む。
第83図 3 PL40	8号住 埋没土	土師器 坏	1/2 11.6 — 3.3	酸化 橙色	体部は丸みをもって立ち上がる。口縁部ヨコ撫で。底部ヘラ削り。白色粒を含む。
第83図 4 PL40	8号住 埋没土	土師器 坏	1/5 (13.2) (8.0) —	酸化 にぶい黄橙色	体部はやや丸みをもち、口縁部外反ぎみ。口縁部ヨコ撫で。内面に放射状に線刻。白色粒を含む。
第83図 5 PL40	8号住 埋没土	須恵器 椀	底部 — 6.6 (1.3)	還元 灰色	高台はわずかに丸みをもち、端部は尖りぎみ。黒色粒を含む。
第83図 6 PL40	8号住 埋没土	須恵器 坏	底部 — 6.0 (1.1)	還元 灰色	底部右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第83図 7 PL40	8号住 埋没土	須恵器 坏	底部2/3残 — 6.6 (1.3)	還元 灰色	底部右回転糸切り痕。白色粒を含む。
第83図 8 PL40	8号住 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.0) (1.6)	還元 灰色	底部右回転糸切り痕。白色粒、輝石流を含む。
第83図 9 PL40	8号住 埋没土	須恵器 蓋	1/1 つまみ径2.8 26.7 3.8	還元 灰色	体部右回転。白色粒、黒色粒を含む。
第83図 10 PL40	8号住 埋没土	須恵器 椀	口縁部 — — (2.7)	還元 灰色	口唇部に丸みをもち、わずかに外反ぎみ。白色粒、輝石粒を含む。
第83図 11 PL40	8号住 埋没土	灰釉陶器 皿ヵ	口縁部 — — (1.6)	還元 灰白色	内面および口縁外面に施釉。(釉) 明オリーブ灰色。
第83図 12 PL40	8号住 埋没土	土師器 甕	口縁部〜胴部上位1/4 (21.4) — —	酸化 橙色	コの字状口縁。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。白色粒、輝石粒を含む。
第83図 13 PL40	8号住 埋没土	石製品	長軸30.4 短軸10.8 厚さ7.2 重量3727.0		カマド製造材。部分的に被熱痕。砂岩。
第83図 14 PL40	8号住 埋没土	石製品 礫	長軸40.8 短軸6.5 厚さ4.5 重量1929.0		棒状礫。カマド製造材か。黒色片岩。
第84図 1 PL41	9号住 埋没土	土師器 坏	1/2 11.4 8.2 3.1	酸化 にぶい赤褐色	口縁部ヨコ撫で。体部撫で。底部ヘラ削り。白色粒を含む。
第84図 2 PL41	9号住 埋没土	土師器 甕	口縁部〜胴部中位3/5 11.4 — —	酸化 にぶい赤褐色	口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。白色粒、黒色粒を含む。
第84図 3 PL41	9号住 埋没土	土師器 甕	口縁〜胴部上位1/5 (20.0) — —	酸化 にぶい赤褐色	口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。白色粒、黒色粒を含む。
第85図 1 PL41	10号住 埋没土	須恵器 椀	1/2 — 7.0 (3.9)	還元 灰色	底部右回転糸切り痕。黒色粒を含む。
第85図 2 PL41	10号住 埋没土	土師器 甕	口縁部〜胴部上位1/8 (19.8) — —	酸化 にぶい黄橙色	コの字状口縁。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。白色粒、輝石粒を含む。
第85図 3 PL41	10号住 埋没土	灰釉陶器 椀	底部 — (7.0) (3.0)	還元 灰白色	ロクロ整形。回転右回りか。底部はヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗りで底部見こみ部にも施釉。光ヶ丘1号窯式期。(施) 淡黄色。
第85図 4 PL41	10号住 埋没土	灰釉陶器 椀	口縁部 — — (3.7)	還元 灰白色	ロクロ整形。口縁部下位回転ヘラ削り。施釉方法は刷毛塗り。光ヶ丘1号窯式期。
第85図 5 PL41	10号住 埋没土	須恵器 耳皿	口縁部〜底部 — (5.0) —	還元 黒色	底面に回転糸切り痕。器内外面ヘラ磨きおよび黒色処理。白色粒、輝石粒を含む。
第86図 1 PL41	11号住 埋没土	須恵器 坏	完形 12.1 7.1 3.2	還元 灰色	底部右回転糸切り痕。体部は直線的に立ち上がる。白色粒を含む。
第86図 2 PL41	11号住 埋没土	土師器 坏	1/2 11.9 8.6 3.0	酸化 にぶい褐色	体部がわずかに丸みをもつ。体部ヨコ撫で。底部ヘラ削り。
第86図 3 PL41	11号住 埋没土	土師器 甕	口縁部〜胴部上位1/2 (21.6) — —	酸化 橙色	コの字状口縁。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。白色粒、黒色粒を含む。

挿図番号 図版番号	遺構名 出土位置	種別 器種	計測値 cm 口径・底径・器高	焼成 色調	製作技法の等の特徴
第86図 4 PL41	11号住 埋没土	石製品	長軸13.7 短軸8.8 厚さ3.7 重量652.0		両面に平坦面をもつ。粗流輝石安山岩。
第87図 1 PL41	12号住 埋没土	土師器 坏	口縁部一部欠損 12.4 — 3.7	酸化 にぶい赤褐色	体部にやや丸みをもつ。口唇部は内側に稜をもつ。口縁部ヨコ撫で。底部ヘラ削り。内面に線刻。黒色粒を含む。
第87図 2 PL41	12号住 埋没土	土師器 坏	1/1 11.8 8.2 3.5	酸化 橙色	体部にやや丸みをもつ。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。白色粒を含む。
第87図 3 PL41	12号住 埋没土	土師器 坏	ほぼ完形 11.6 9.0 3.3	酸化 にぶい褐色	口縁部はわずかに内湾ぎみ。口縁部ヨコ撫で。底部ヘラ削り。 白色粒、黒色粒を含む。
第87図 4 PL41	12号住 埋没土	土師器 坏	1/1 11.8 10.2 3.1	酸化 橙色	口径、底径の差が少ない。体部は直線的に立ち上がる。白色粒を含む。
第87図 5 PL41	12号住 埋没土	土師器 坏	1/1 11.6 8.5 3.6	酸化 にぶい褐色	体部にわずかに指頭痕がみられる。口縁部ヨコ撫で、底部ヘラ削り。 白色粒、黒色粒を含む。
第87図 6 PL41	12号住 埋没土	土師器 坏	4/5 11.6 8.3 3.3	酸化 明赤褐色	体部下端は丸みをもち、口縁部はやや外反ぎみ。口縁部ヨコ撫で、底部ヘラ削り。白色粒、黒色粒を含む。
第87図 7 PL41	12号住 埋没土	土師器 甕	口縁部～胴部上位1/8 (19.0) — —	酸化 にぶい橙色	コの字状口縁。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。白色粒、黒色粒を含む。
第87図 8 PL41	12号住 埋没土	土師器 甕	口縁部～胴部上位1/8 (19.0) — —	酸化 にぶい橙色	口縁部ヨコ撫で、体部ヘラ削り。頸部に指頭痕が残る。白色粒、黒色粒を含む。
第87図 9 PL41	12号住 埋没土	土師器 甕	口縁部～胴部上位 (22.0) — —	酸化 にぶい橙色	口縁部ヨコ撫で、体部ヘラ削り。白色粒、黒色粒を含む。
第87図 10 PL41	12号住 埋没土	土師器 甕	胴部中位～底部1/2 — 5.3 —	酸化 灰黄褐色	底部ヘラ削りとするが、丸みをもち不安定。白色粒を含む。
第87図 11	12号住 埋没土	灰釉器	体部 — — (1.4)	還元 灰色	外面に施釉。(釉)灰オリーブ色。
第87図 12 PL41	12号住 埋没土	石製品	長軸18.1 短軸12.0 厚さ8.6 重量3611.0		側面調整し、方形に整形。カマド釉石。粗流輝石安山岩。
第94図 1 PL44	203号土坑 埋没土	土師器 坏	完形 11.8 7.8 3.5	酸化 にぶい赤褐色	体部は丸みをもち、口唇部は短く内椀する。口縁部ヨコ撫で、底部ヘラ削り。 白色粒、輝石粒を含む。
第94図 2 PL44	203号土坑 埋没土	土師器 坏	完形 11.6 8.5 3.1	酸化 にぶい褐色	体部はやや丸みをもつ。口唇部は短く内椀する。口縁部はヨコ撫で。底部ヘラ削り。白色粒、黒色粒を含む。
第94図 3 PL44	151号土坑 埋没土	須恵器 坏	完形 9.6 5.2 2.6	還元 浅黄橙色	小型の坏。底部右回転糸切り痕。白色粒、黒色粒を含む。
第98図 1 PL42	91号溝 埋没土	須恵器 皿	1/8 (13.4) (8.0) 3.3	還元 浅黄色	口縁部は外反ぎみ。高台は高目でやや開く。黒色粒を含む。
第98図 2 PL42	91号溝 埋没土	須恵器 壺	体部～底部 — 6.1 (10.3)	還元 灰色	高台は低平で、端部は尖りぎみ。底部に回転糸切り痕。
第98図 3 PL42	91号溝 埋没土	土師器 坏	1/3 (12.6) (7.8) 3.1	酸化 にぶい橙色	体部は丸みをもち、口縁部はやや外反する。黒色粒、輝石粒を含む。
第98図 4 PL42	91号溝 埋没土	石製品 磨石	長軸12.5 短軸10.9 厚さ4.9 重量1177.0		粗流輝石安山岩。
第98図 5 PL42	91号溝 埋没土	石製品	長軸13.4 短軸7.6 厚さ3.8 重量553.0		粗流輝石安山岩。
第98図 6 PL42	94号溝 埋没土	須恵器 椀	底部 — (7.5) (2.0)	還元 黄灰色	底部右回転糸切り痕。高台は低く、開きぎみ。白色粒、黒色粒を含む。
第98図 7 PL42	94号溝 埋没土	須恵器 皿	1/5 (14.5) (6.9) 3.0	還元 灰色	体部は直線的に立ち上がる。白色粒、輝石粒を含む。
第98図 8 PL42	91号溝 埋没土	石製品	長軸18.3 短軸14.0 厚さ7.0 重量2232.0		粗流輝石安山岩。
第99図 1 PL42	96号溝 埋没土	土師器 坏	1/3 12.6 — 3.6	酸化 橙色	口縁部はやや内折ぎみに立ち上がる。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。 白色粒を含む。
第99図 2 PL42	100号溝 埋没土	土師器 坏	2/5 (12.6) — 3.7	酸化 赤褐色	後援部は短く直立する。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。白色粒を含む。
第99図 3 PL42	102溝 埋没土	鉄製品 刀子	長軸3.9 短軸2.0 厚さ0.5 重量3.37		剣形石製模造品。蛇紋岩。
第102図 1 PL43	143溝 埋没土	土師器 坏	1/1 10.5 — 3.3	酸化 にぶい橙色	口縁部やや内湾ぎみに立ち上がる。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。 白色粒を含む。
第102図 2 PL43	143溝 埋没土	土師器 坏	1/1 10.6 — 3.6	酸化 橙色	口縁部やや内湾ぎみに立ち上がり、わずかに稜をもつ。口縁部ヨコ撫で。 底部ヘラ削り。白色粒、黒色粒を含む。
第102図 3 PL43	143溝 埋没土	土師器 坏	1/1 12.6 — 4.3	酸化 橙色	口縁部やや内湾ぎみに立ち上がる。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。 白色粒を含む。
第102図 4 PL43	143溝 埋没土	土師器 坏	1/1 12.8 — 4.3	酸化 橙色	口縁部やや内湾ぎみに立ち上がる。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。 白色粒を含む。
第102図 5 PL43	143溝 埋没土	土師器 坏	1/1 12.9 — 4.4	酸化 橙色	口縁部内湾ぎみで、わずかに稜をもつ。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。 白色粒を含む。
第102図 6 PL43	143溝 埋没土	土師器 坏	ほぼ完形 13.1 — 4.5	酸化 橙色	口縁部内湾ぎみで、わずかに稜をもつ。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。 白色粒を含む。
第102図 7 PL43	143溝 埋没土	土師器 坏	1/1 12.8 — 4.7	酸化 橙色	口縁部やや内湾ぎみに立ち上がる。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。 白色粒を含む。
第102図 8 PL43	143溝 埋没土	土師器 坏	1/1 16.0 — 6.4	酸化 橙色	口縁部はやや内椀ぎみに立ち上がる。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。 白色粒を含む。
第102図 9 PL43	143溝 埋没土	土師器 坏	1/1 18.5 — 6.0	酸化 橙色	口縁部内湾ぎみで、わずかに稜をもつ。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。 白色粒を含む。
第102図 10 PL43	143溝 埋没土	土師器 坏	1/1 18.0 — 6.4	酸化 橙色	口縁部内湾ぎみで、わずかに稜をもつ。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。 白色粒を含む。
第103図 1 PL43	143溝 埋没土	土師器 坏	1/2 (10.4) — 3.2	酸化 赤褐色	口縁部内湾ぎみで、わずかに稜をもつ。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。 黒色粒を含む。
第103図 2 PL43	143溝 埋没土	土師器 坏	1/1 10.6 — 3.5	酸化 橙色	口縁部内湾ぎみで、丸みをもつ。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。 白色粒を含む。
第103図 3 PL43	143溝 埋没土	土師器 坏	2/5 (11.0) — 2.9	酸化 にぶい橙色	口縁部内湾ぎみで、丸みをもつ。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。 白色粒を含む。
第103図 4 PL43	143溝 埋没土	土師器 坏	1/1 12.0 — 4.2	酸化 赤褐色	口縁部内湾ぎみで、わずかに稜をもつ。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。 白色粒を含む。

遺物観察表

挿図番号 図版番号	遺構名 出土位置	種別 器種	計測値 cm 口径・底径・器高	焼成 色調	製作技法の等の特徴
第103図 5 PL43	143溝 埋没土	土師器 坏	1/1 12.0 — 4.0	酸化 明赤褐色	口縁部内湾ぎみで、わずかに稜をもつ。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。白色粒、黒色粒を含む。
第103図 6 PL43	143溝 埋没土	土師器 坏	8/9 12.0 — 3.8	酸化 明赤褐色	口縁部内湾ぎみで、わずかに稜をもつ。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。白色粒、黒色粒を含む。
第103図 7 PL43	143溝 埋没土	土師器 坏	3/5 12.8 — 4.4	酸化 橙色	口縁部内湾ぎみで、丸みをもつ。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。白色粒を含む。
第103図 8 PL44	144溝 埋没土	土師器 甕	口縁〜胴部中位1/8 18.0 — 6.4	酸化 にぶい橙色	コの字状口縁。口縁部ヨコ撫で。体部ヘラ削り。白色粒、黒色粒を含む。
第103図 9 PL44	144溝 埋没土	鉄製品	長さ(3.5)		釘?
第104図 1 PL44	148溝 埋没土	須恵器 坏	口縁部1/2欠 12.2 5.7 3.8	還元 黒色	底部右回転糸切り痕。底部内面に重ね焼き痕。器内外面が黒色化。
第104図 2 PL44	148溝 埋没土	須恵器 坏	1/5 11.5 (6.5) 3.7	還元 暗オリーブ灰色	底部は接合部から別離。器内外面黒色化。白色粒を含む。
第104図 3 PL44	148溝 埋没土	鉄製品	長さ4.1		器種不明。
第107図 1 PL44	156溝 埋没土	土錘 土錘	完形 長さ4.1	酸化 灰白色	孔径0.35cm。外面ヘラ削り。
第111図 1 PL44	231号土坑 埋没土	土師器 坏	1/2 11.4 — —	酸化 橙色	体部はやや丸みをもって立ち上がる。口縁部ヨコ撫で。底部ヘラ削り。白色粒、黒色粒を含む。
第111図 2 PL44	231号土坑 埋没土	須恵器 椀	(14.8) (8.0) 6.0	還元 灰色	底部右回転糸切り痕。白色粒、黒色粒を含む。
第127図 1 PL42	111号溝 埋没土	鉄製品 釘			頭頂部、先端部欠。断面方形。
第127図 2 PL42	111号溝 埋没土	鉄製品 釘	ほぼ完形 長さ(3.8)		頭頂部〜先端部。断面方形。
第127図 3 PL42	111号溝 埋没土	鉄製品 釘	長さ4.0		先端部のみ残存。頭頂部欠。断面方形。
第127図 4 PL42	111号溝 埋没土	鉄製品 釘			先端部のみ残存。頭頂部欠。
第127図 5 PL42	111号溝 埋没土	銅銭			皇宋通宝。初鋳年1039年。
第129図 1 PL42	113溝 埋没土	陶器 皿	底部 — 破片(7.0)(1.5)	還元 灰白色	瀬戸・美濃陶器、志野丸皿。全体に薄く志野釉を施す。連房段階。17C。
第129図 2 PL42	113溝 埋没土	陶器 菊皿	底部 — (9.0) (1.2)	還元 灰白色	瀬戸・美濃陶器、菊皿。内面から体部外面下位灰釉。内面の菊花状文様は細かく、高台もシャープ。古い段階のものであろう。17C。(釉)灰白色。
第129図 3 PL42	113溝 埋没土	陶器 香炉?	底部1/3 — (14.4) (3.4)	還元 灰白色	瀬戸・美濃陶器、火入れ?香炉?外面体部下位まで鉄釉。1/3残存するが脚は認められない。江戸時代。
第138図 1 PL43	121号溝 埋没土	軟質土器 焙烙	口縁部3/4 (41.6) — (5.2)	還元 黒色	耳は2ヶ所残存し、全体では3ヶ所と思われる。口縁部から体部の器表のみ黒灰色。外面体部大端ヘラ削り。18〜19C中。
第138図 2 PL43	121号溝 埋没土	石製品 砥石	長軸5.0 短軸2.5 厚さ7.0 重量12.14		破片。珪質粘板岩。
第138図 3 PL43	121号溝 埋没土	石製品 砥石	長軸5.0 短軸3.3 厚さ1.1 重量29.41		破片。砥沢石。
第138図 4 PL43	121号溝 埋没土	石製品 砥石	長軸6.5 短軸2.6 厚さ2.1 重量51.51		破片。砥沢石。
第138図 5 PL43	121号溝 埋没土	石製品 砥石	長軸5.5 短軸2.4 厚さ2.5 重量56.12		破片。砥沢石。
第141図 1 PL42	81号溝 埋没土	陶器 すり鉢	底部1/4 — (14.0) (5.0)	還元 淡黄色	瀬戸・美濃陶器、すり鉢。錆釉。底部外面から体部下位の釉をぬぐう。江戸時代。(釉)褐色。
第141図 2 PL42	81号溝 埋没土	陶器 皿	1/5 (12.4) (6.5) 2.8	還元 灰白色	美濃陶器、皿。灰釉、高台内無釉。内面目痕1ヶ所残る。17C。(釉)淡黄色。
第141図 3 PL42	81号溝 埋没土	石製品 砥石	長軸6.6 短軸4.5 厚さ2.0 重量104.53		破片。流紋岩。
第141図 4 PL42	81号溝 埋没土	石製品 砥石	長軸5.4 短軸3.6 厚さ3.6 重量53.55		破片。流紋岩。
第141図 5 PL42	81号溝 埋没土	鉄製品 釘	長さ5.2		頭頂部、先端部欠。断面方形。
第141図 6 PL42	81号溝 埋没土	鉄製品 釘	長さ3.6		頭頂部、先端部欠。断面方形。
第141図 7 PL42	81号溝 埋没土	鉄製品 釘	長さ(3.2)		頭頂部残存。断面方形。
第142図 1 PL42	82号溝 埋没土	陶器 すり鉢	底部 — (13.8) (4.2)	還元 にぶい黄褐色	瀬戸・美濃陶器、すり鉢。錆釉。底部外面から体部下位の釉をぬぐい取る。江戸時代。(釉)褐色。
第142図 2 PL42	82号溝 埋没土	陶器 椀	底部 — 5.1 (3.8)	還元 灰白色	瀬戸・美濃陶器、碗。いわゆる尾呂茶碗。飴釉。18C。(釉)オリーブ色。
第143図 1 PL42	83号溝 埋没土	石製品 砥石	長軸6.1 短軸4.1 厚さ2.3 重量101.13		破片。珪質頁岩。
第143図 2 PL42	83号溝 埋没土	石製品 板碑	長軸6.5 短軸4.2 厚さ0.8 重量36.5		板碑片。緑色片岩。
第151図 1 PL44	4区 埋没土	石製品 砥石	長軸7.4 短軸3.0 厚さ2.0 重量72.82		破片。砥沢石。
第151図 2 PL44	4区 埋没土	石製品 砥石	長軸(3.3) 短軸3.3 厚さ1.6 重量31.58		破片。砥沢石。
第151図 3 PL44	5区 埋没土	鉄製品 鉄	長さ2.8		頭頂部、先端部欠。断面円形?
第151図 4 PL44	4区 埋没土	鉄製品	長さ9.4		器種不明。断面方形。
第151図 5 PL44	5区 埋没土	鉄製品 煙管	長さ8.9		煙管吸口。長さ8.9cm。肩部に段をもつ。
第151図 6 PL44	5区 埋没土	銅製品 煙管	長さ5.6		煙管吸口。長さ5.6cm。肩部にふくらみをもつ。

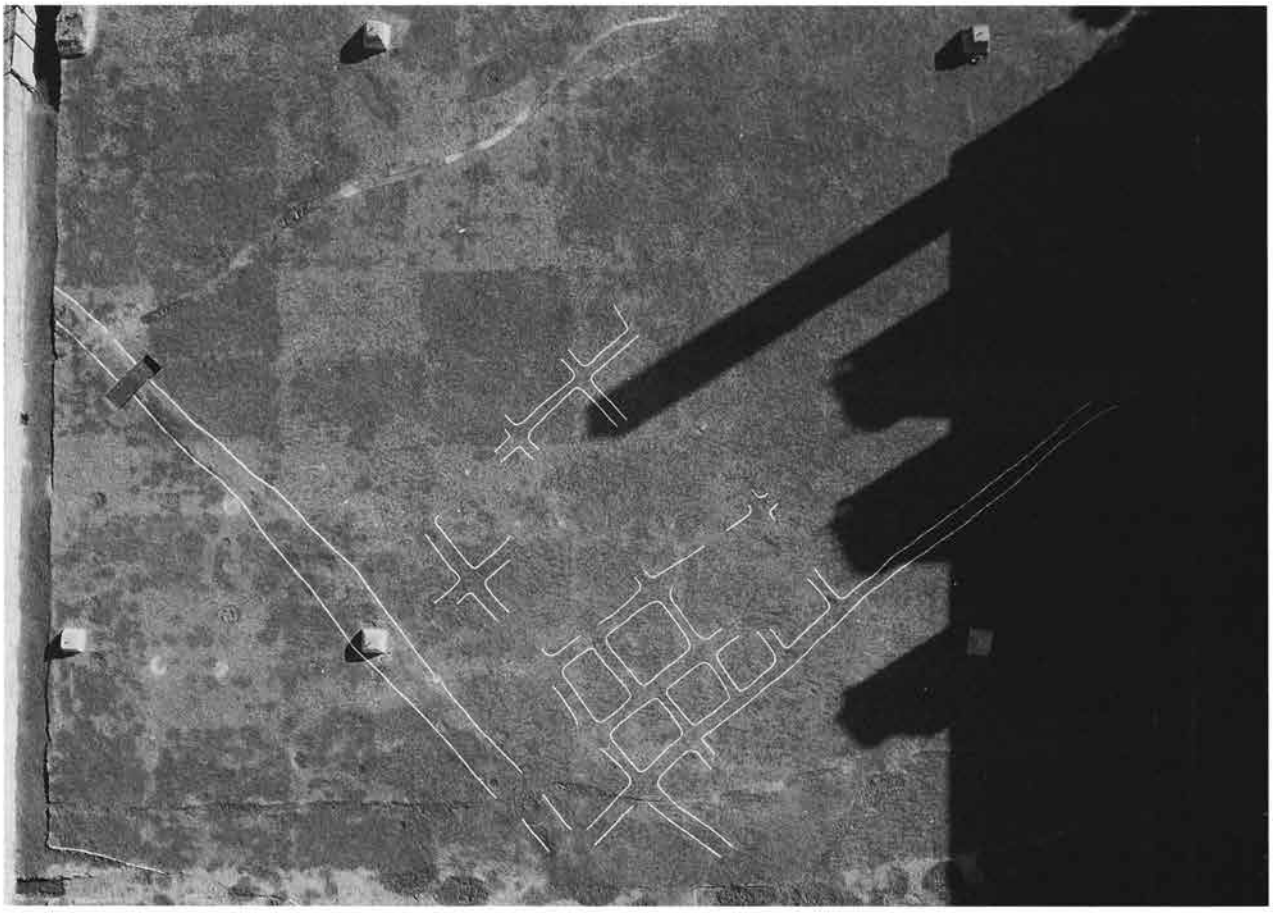
写　真　図　版



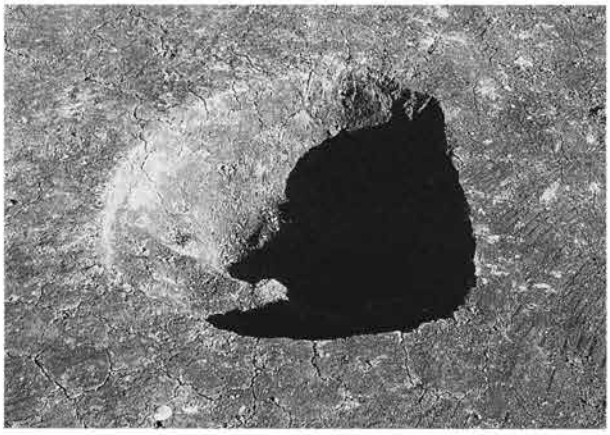
遺跡を上空から望む（航空写真）

1　4・5区第8面全景（東から）

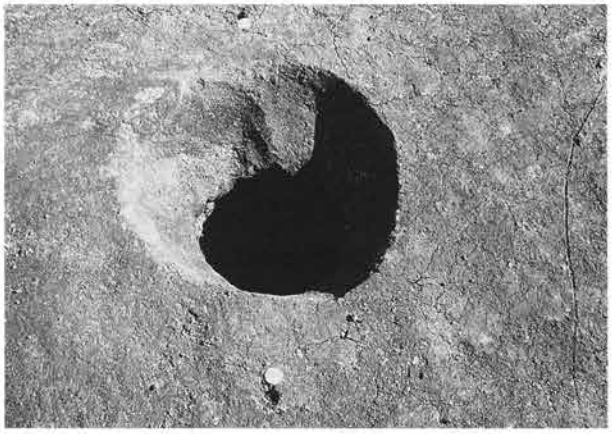
2　4区第8面全景（北から）



1　4区第7面水田（上空から）



2　5区第7面232号土坑

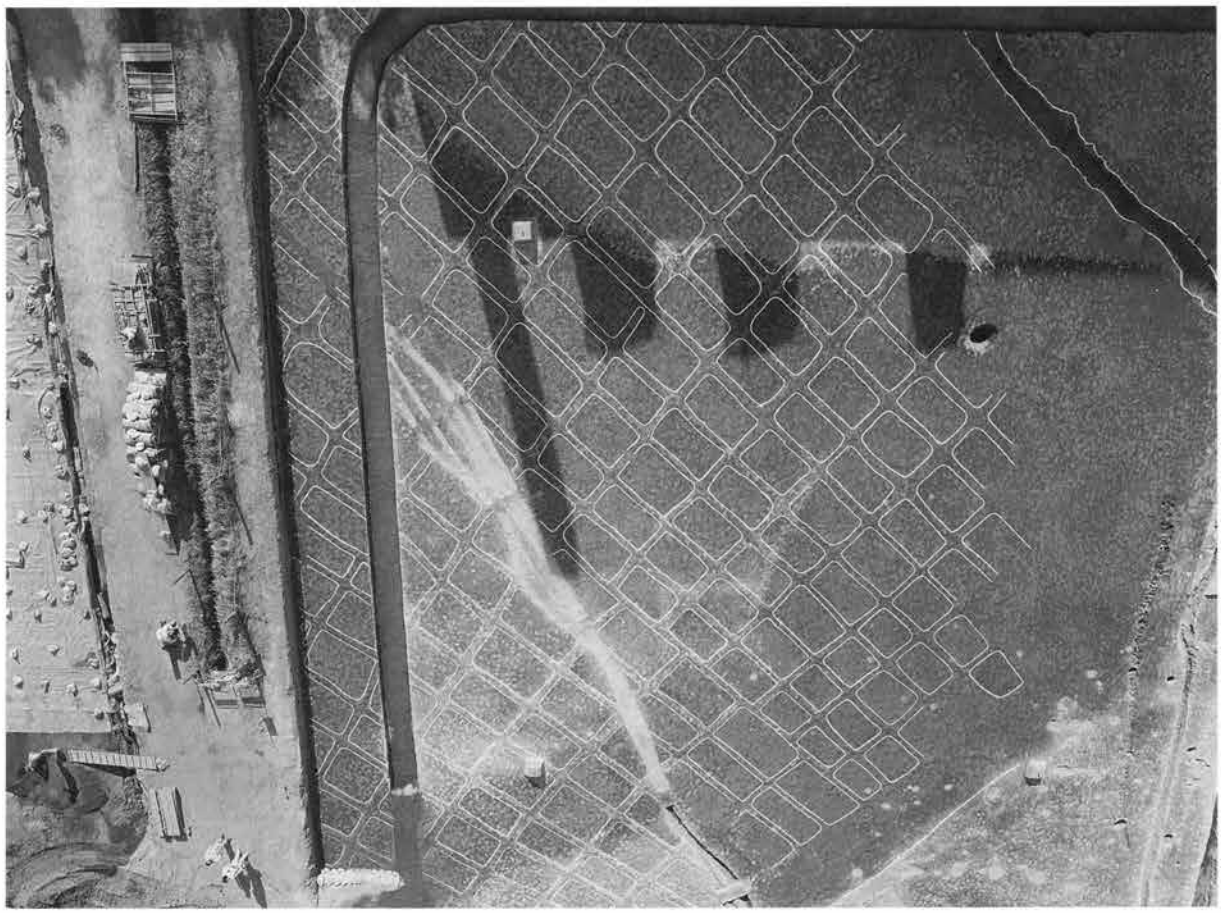


3　5区第7面236号土坑

4　5区第7面233号土坑

5　5区第7面233号土坑土層断面

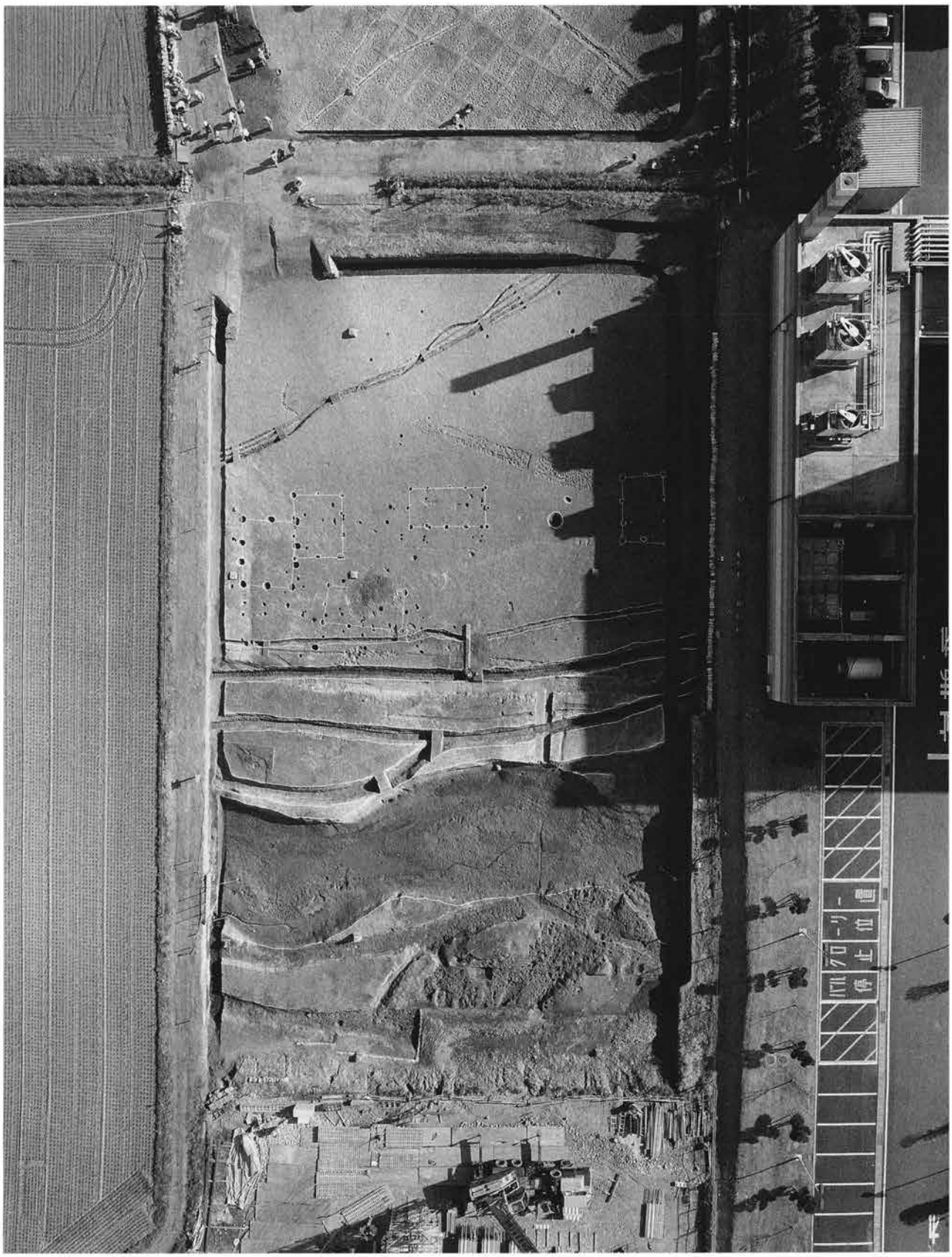
1　4区第6面水田全景（上空から、下方が北）



2　4区第6面水田(上空から)

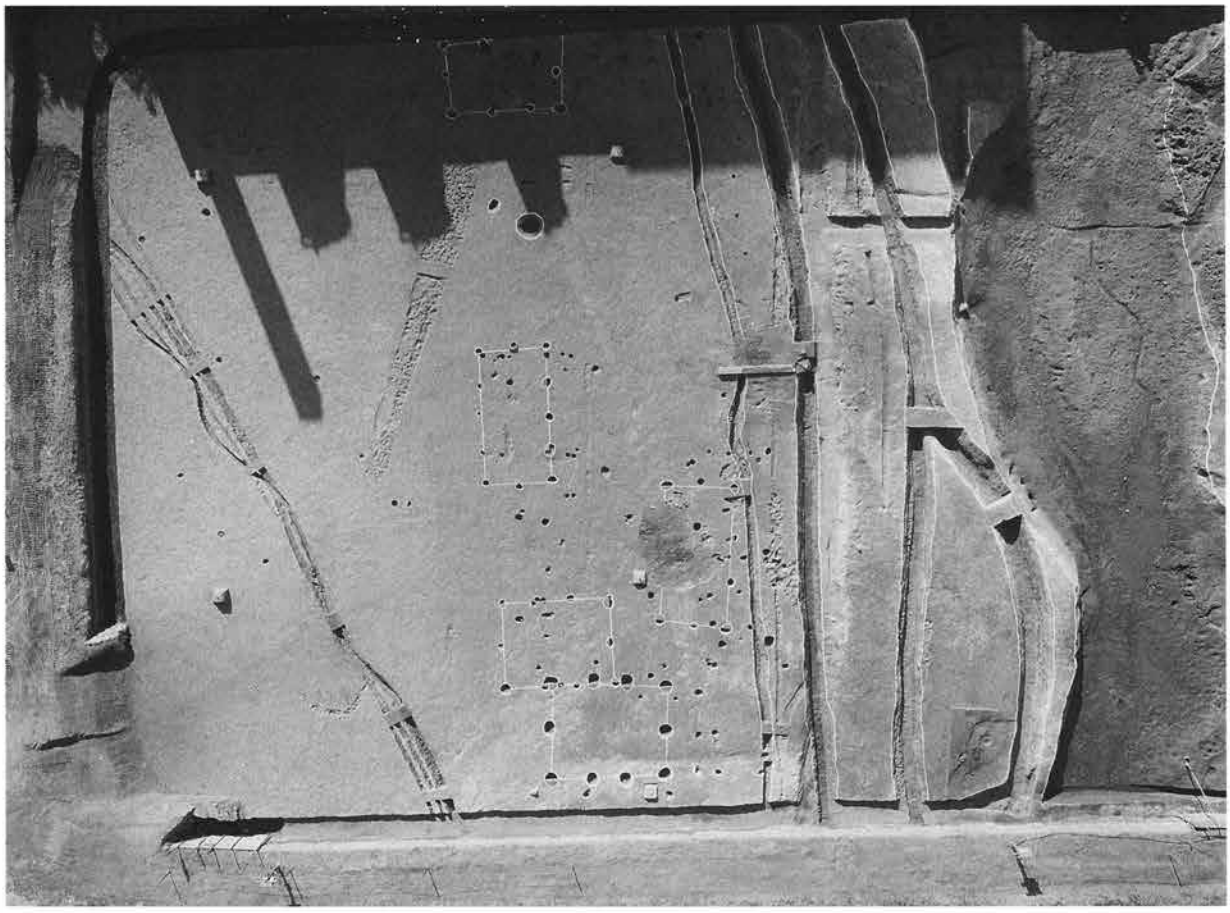
1　4区第6面水田（東から）

2　5区第6面水田（北西から）

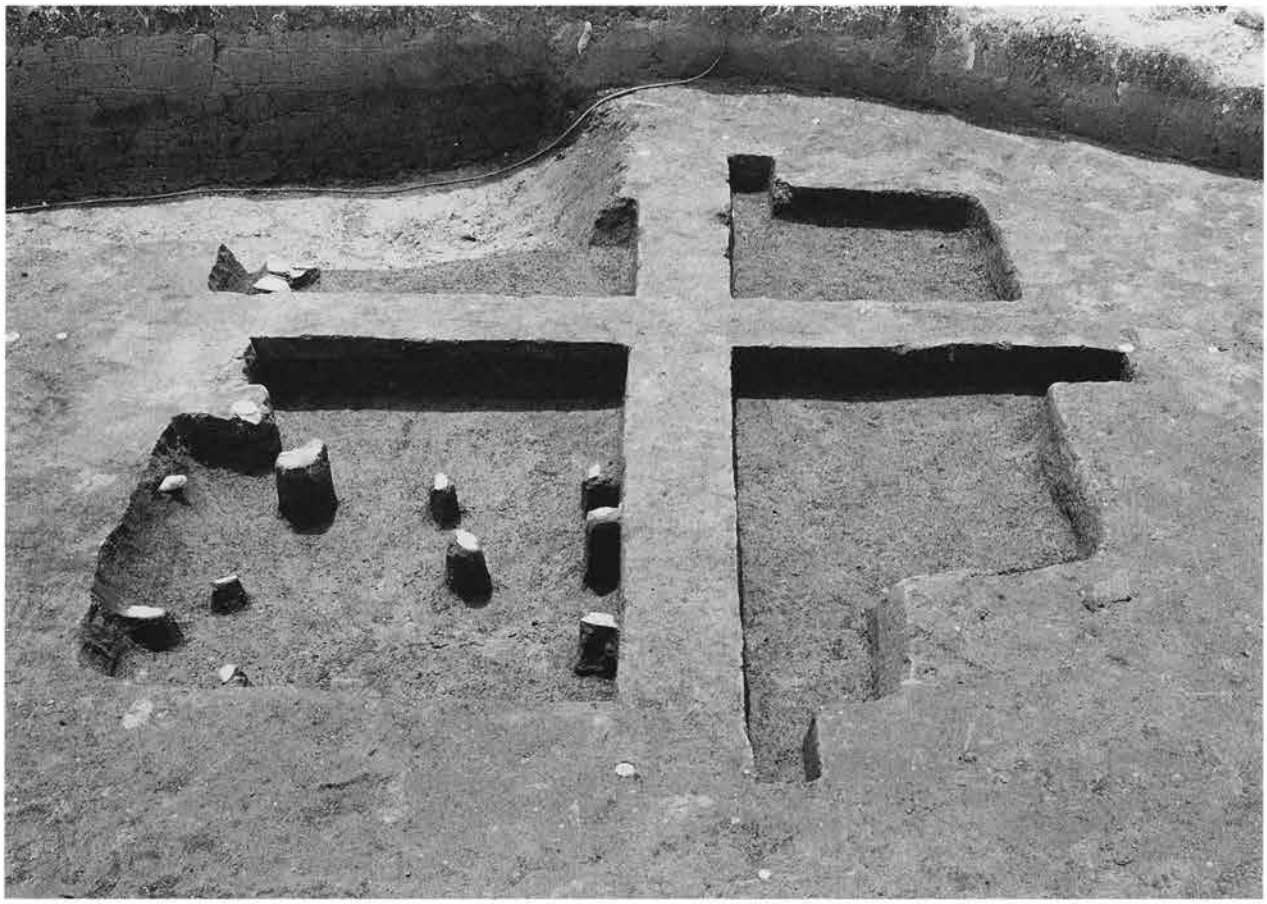


1　4区第5.5面全景（上空から、左が北）

1　4区第5.5面全景（北から）



2　4区第5.5面全景（上空から、下方が北）

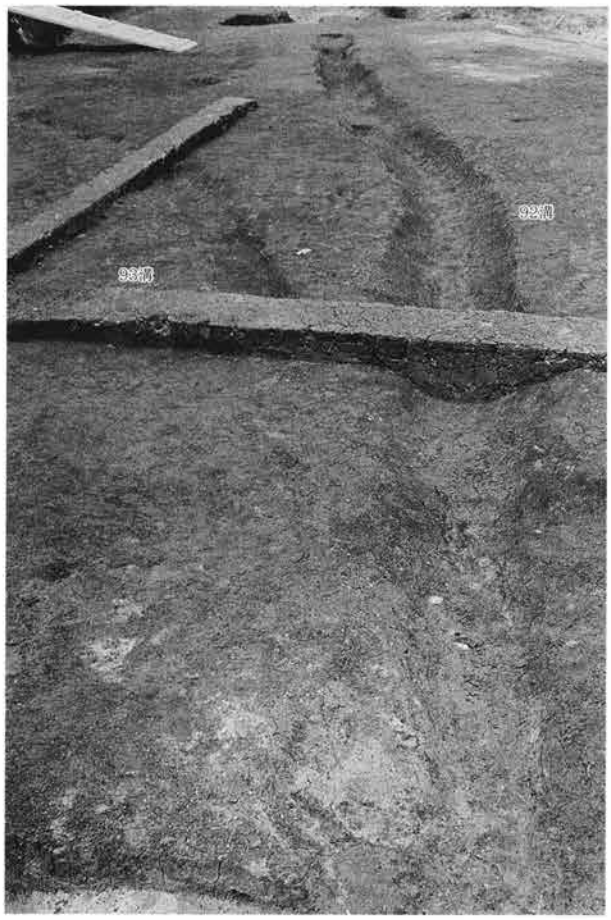


1　4区第5.5面4号住居（北から）

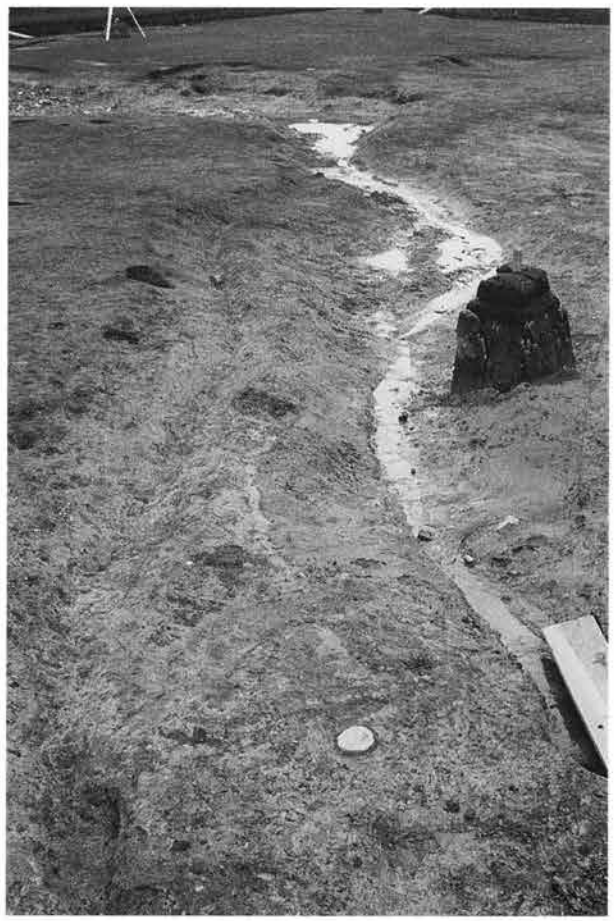
2　4区第5.5面8号住居（東から）

1　4区第5.5面11号住居（西から）

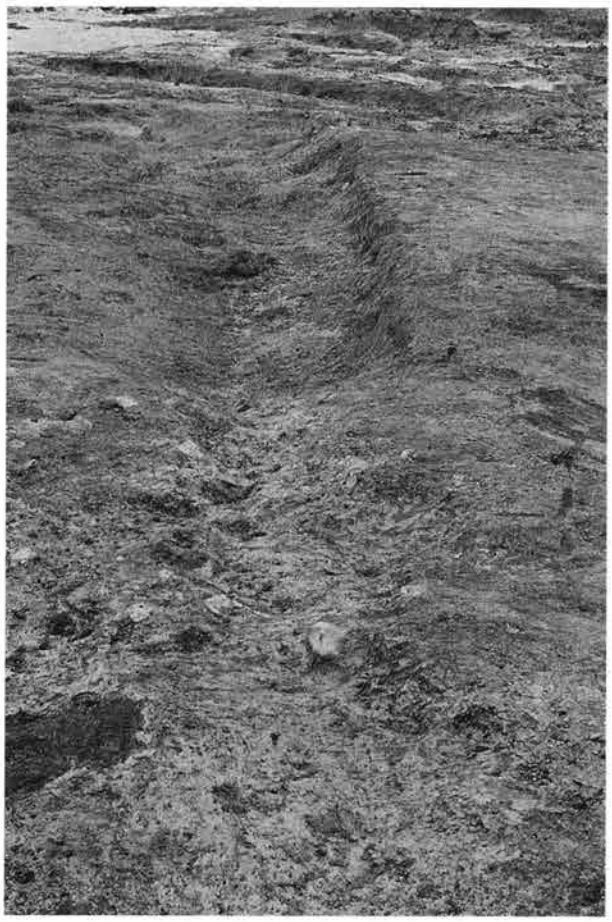
2　4区第5.5面12号住居（西から）



1　4区第5.5面92・93号溝（南から）



2　4区第5.5面94号溝(南から)



3　4区第5.5面95号溝（南から）

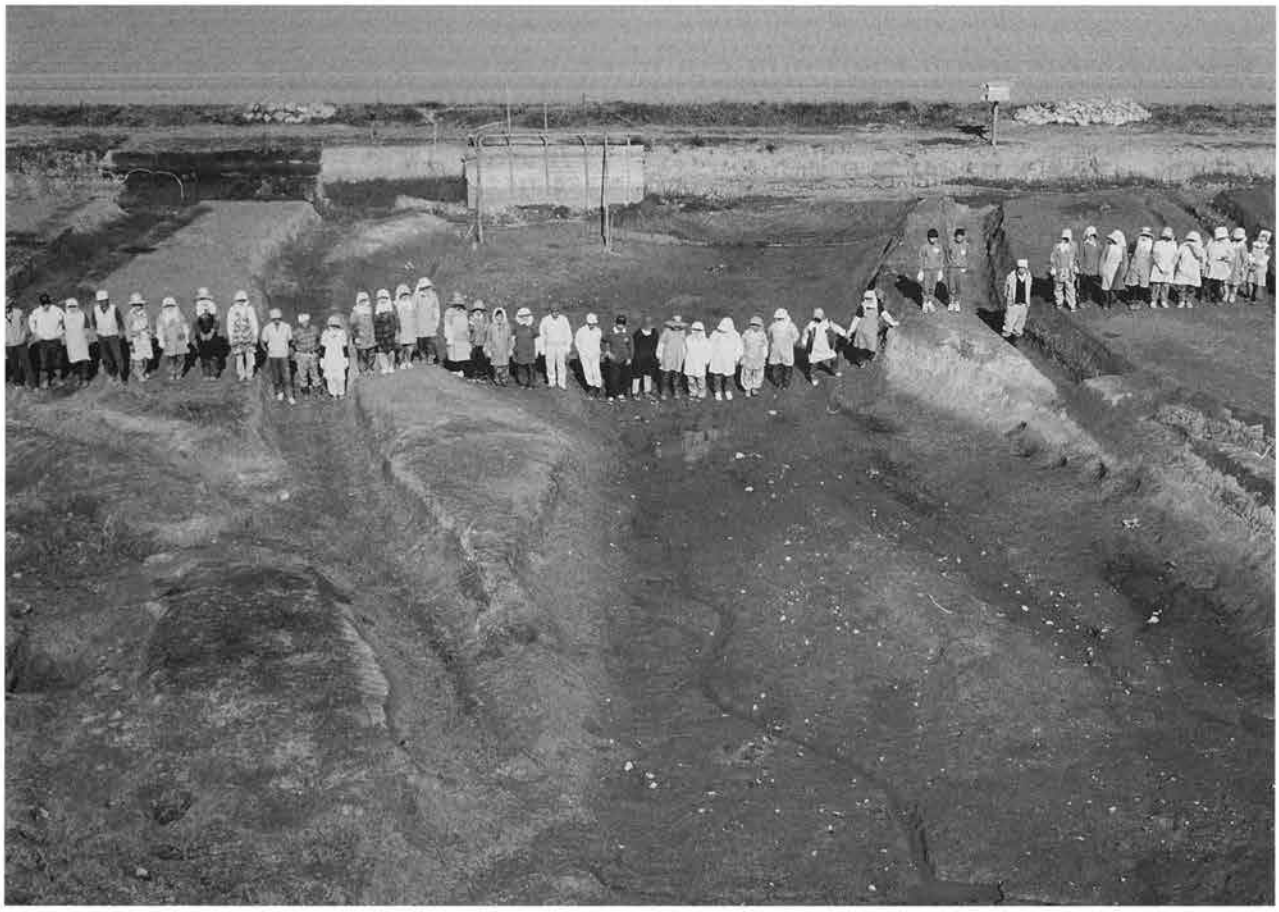
4　4区第5.5面100・101・103～108号溝（南から）

1　4区第5.5面102号溝（南から）

2　4区第5.5面148号溝（北から）

3　4区第5.5面149･150・152～154号溝（南から）

4　5区第5.5面151号溝（北西から）



1　4区第5.5面第141号溝調査状況（南から）

2　4区第5.5面第141号溝調査状況（南東から）

3　4区第5.5面第141号溝調査状況（南から）

4　4区第5.5面第141号溝調査状況（南西から）

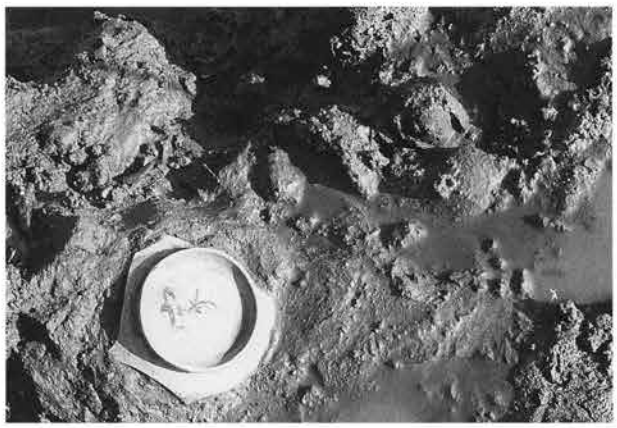
5　4区第5.5面第141号溝調査状況（北から）

1　4区第5.5面141号溝全景（北から）

2　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（3、1）

3　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（307）

4　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（479）



5　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（78）

1　4区第5.5面141号溝遺物出土状態(107)

2　4区第5.5面141号溝遺物出土状態(136、右側)

3　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（162）

4　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（456）

5　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（94）

6　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（157）

7　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（105）

8　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（308）

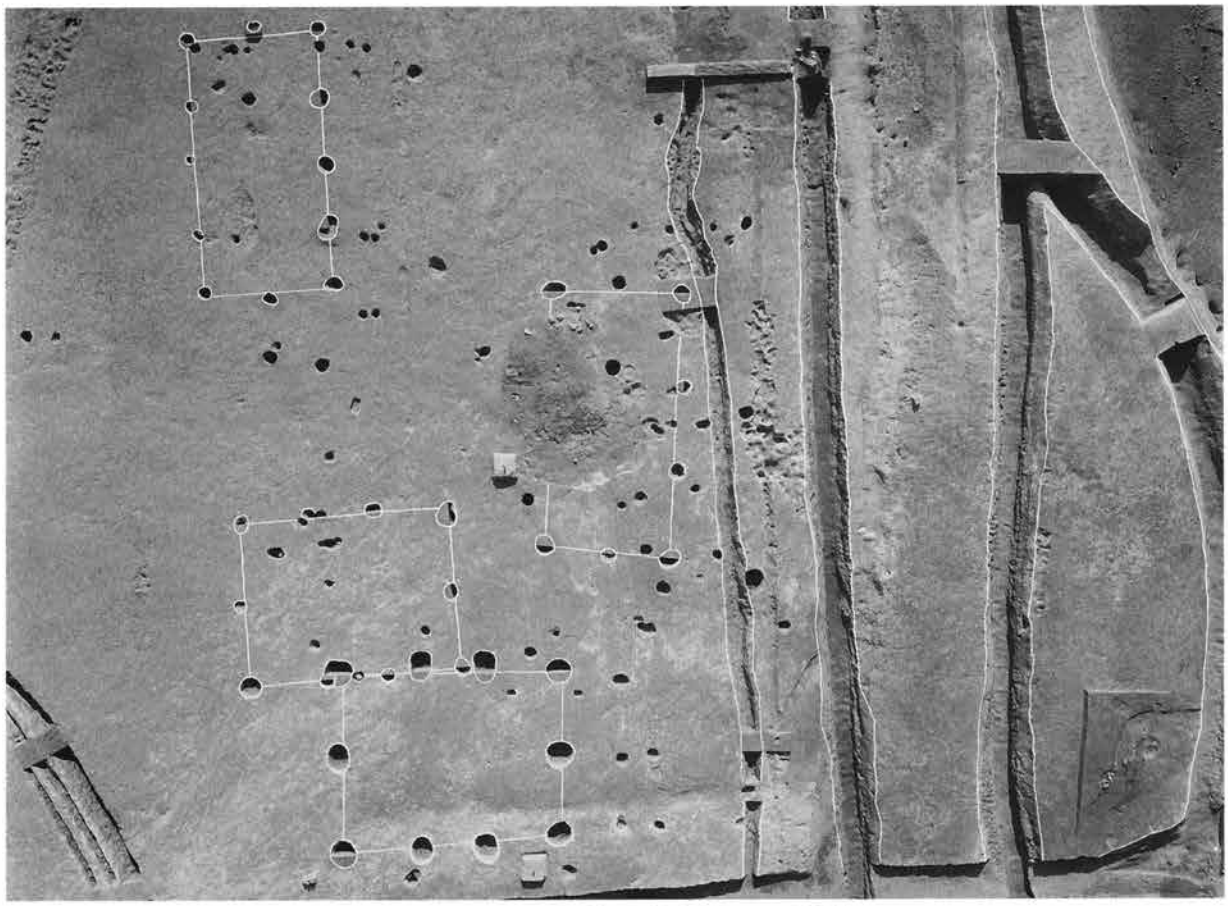
1　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（91）

2　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（262）

3　4区第5.5面141号溝遺物出土（135）

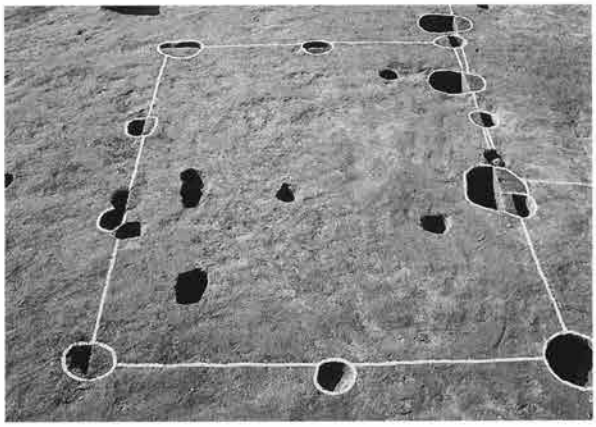
4　4区第5.5面141号溝遺物出土状態（135）

5　4区第5.5面141号溝遺物出土状況（南から）



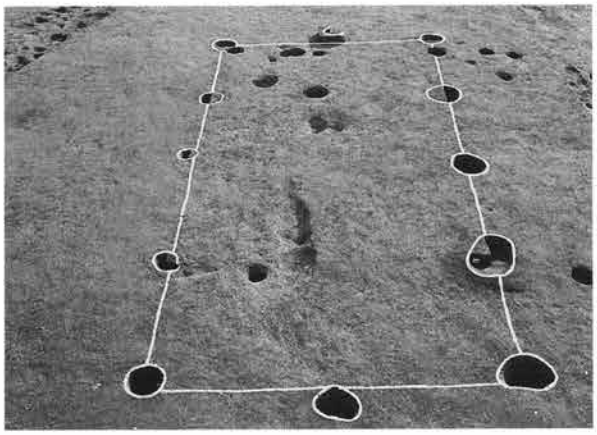
1　4区第5,5面掘立柱建物群（上空から、下方が北）

2　4区第5,5面18号掘立柱建物（東から）

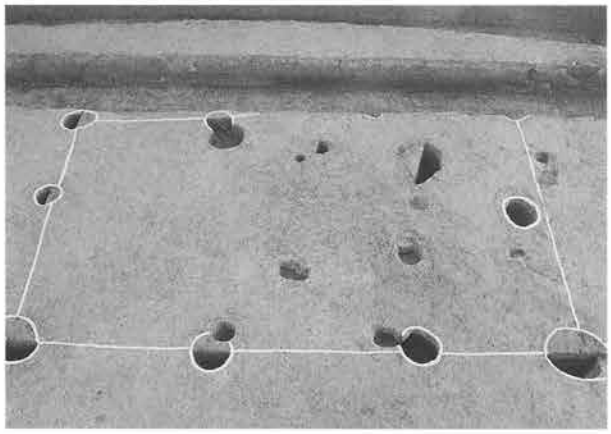


3　4区第5,5面19号掘立柱建物（東から）

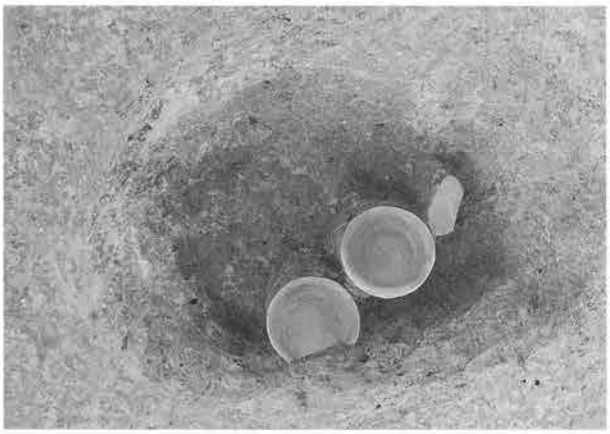
4　4区第5,5面20号掘立柱建物（東から）



5　4区第5,5面21号掘立柱建物（北から）

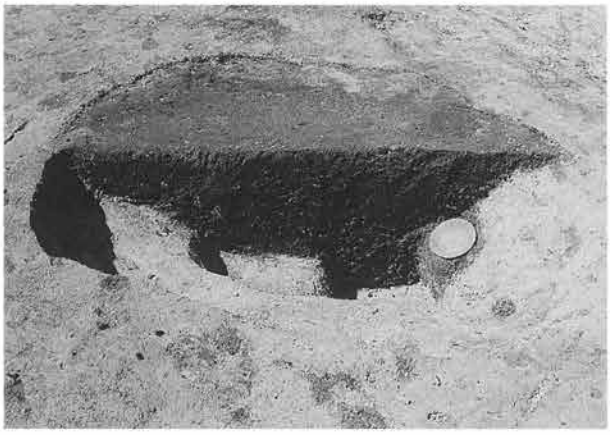


1　4区第5,5面22号掘立柱建物（北から）

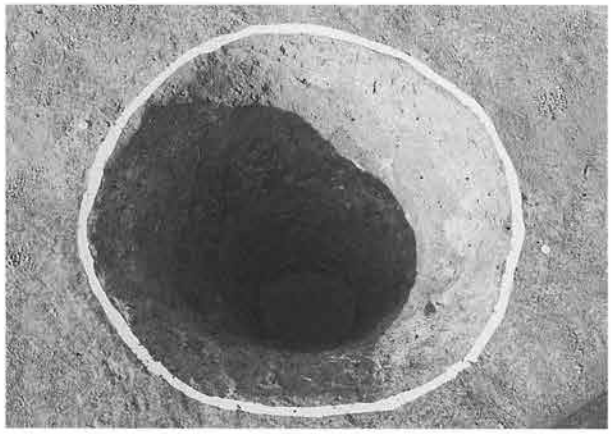


2　4区第5,5面203号土坑

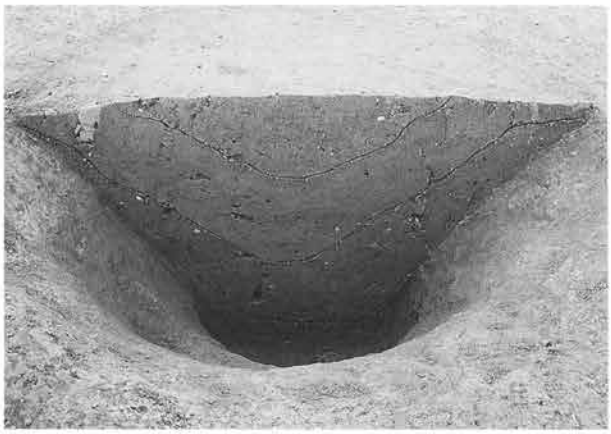
3　4区第5,5面151号土坑



4　4区第5,5面151号土坑土層断面



5　4区第5,5面25号井戸



6　4区第5,5面25号井戸土層断面

7　4区第5,5面141号溝　杭出土状況

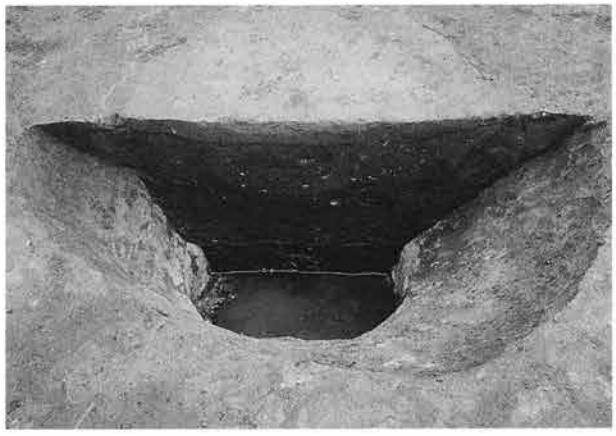
8　4区第5,5面141号溝　杭出土状況

1　4区第5面全景（上空から、上方が北）

2　4区第5面15号井戸

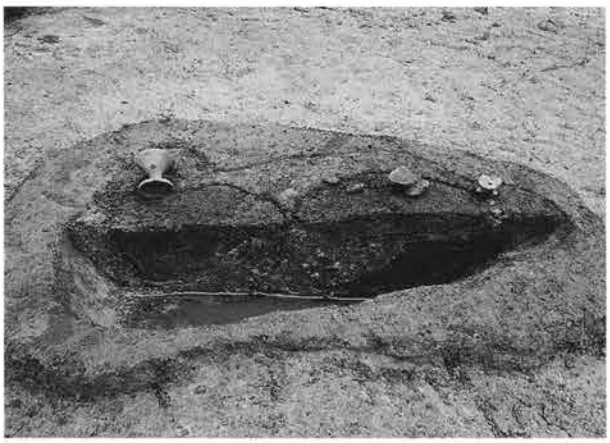
3　4区第5面15号井戸土層断面

4　4区第5面16号井戸



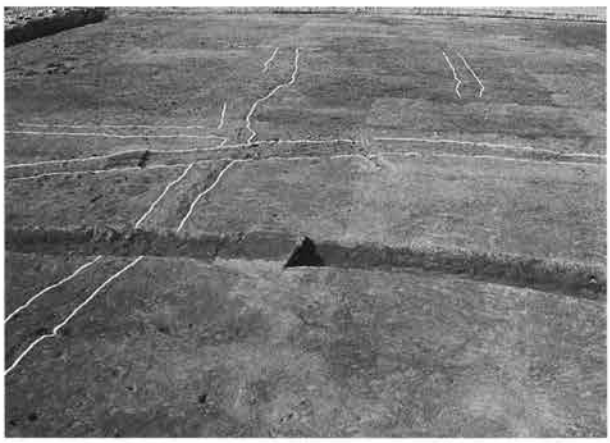
5　4区第5面16号井戸土層断面

1　4区第5面152号土坑



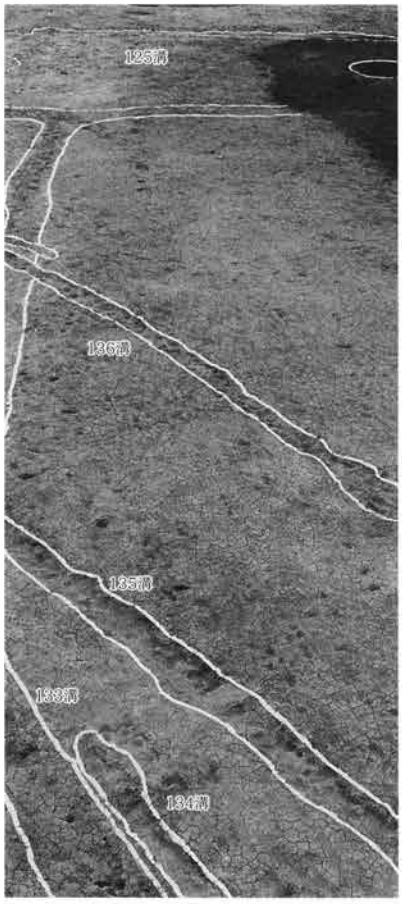
2　4区第5面152号土坑土層断面

3　4区第5面水田（南から）



4　5区第5面水田（南から）

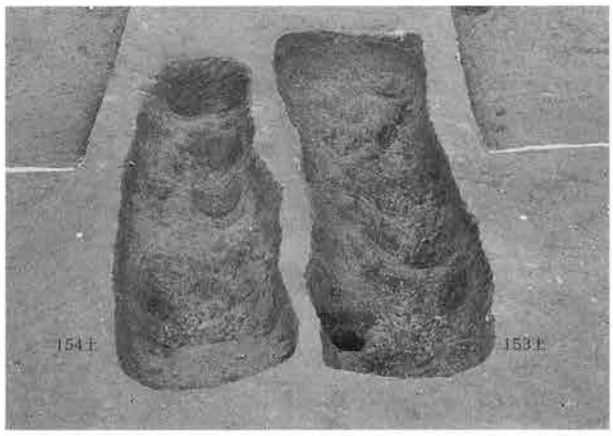
5　4区第5面87・88～90号溝（南東から）



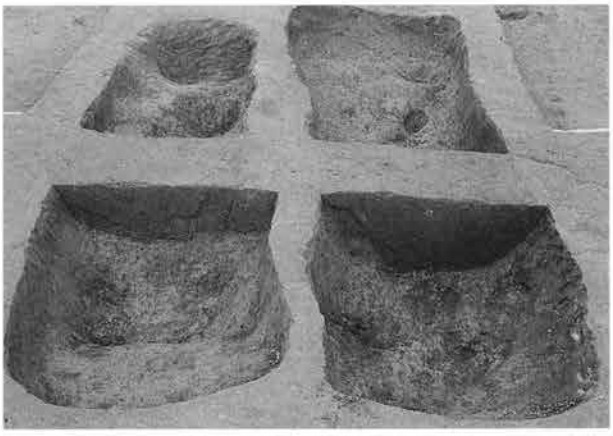
6　5区第5面125・133～136号溝（北から）

7　5区第5面230号溝（北から）

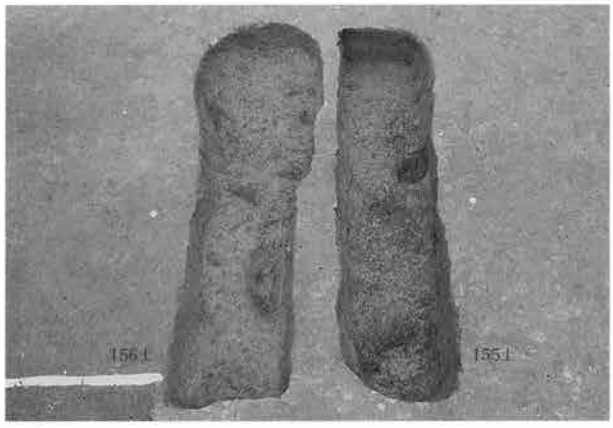
1　4区第3面全景（南から）



2　4区第3面153・154号土坑



3　4区第3面153・154号土坑土層断面



4　4区第3面155・156号土坑

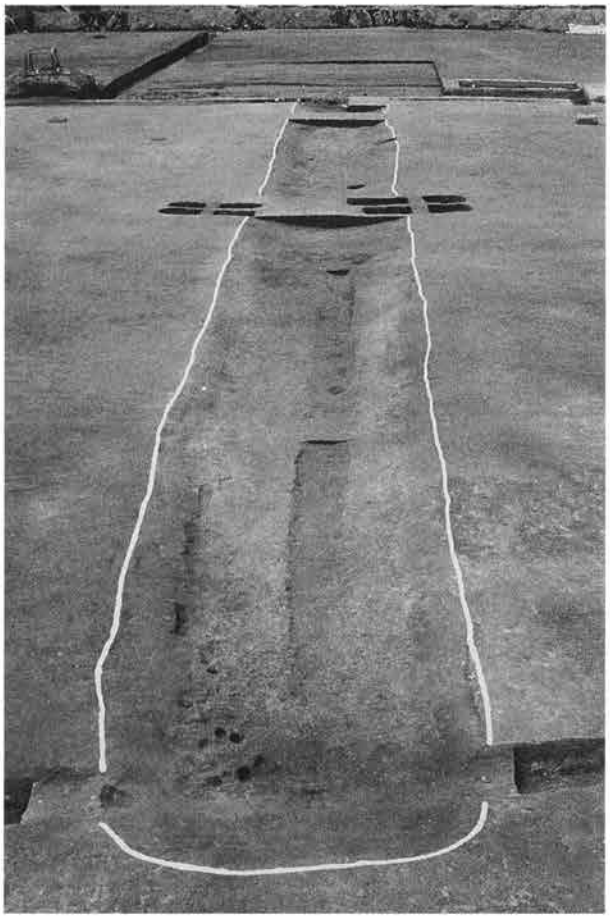
5　4区第3面155・156号土坑土層断面

1　4区第3面86号溝（東から）

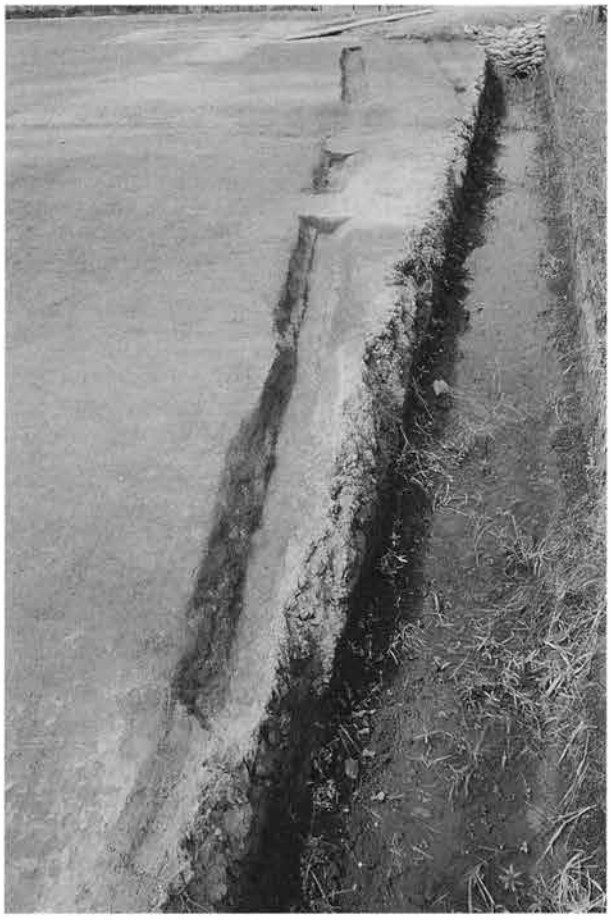
2　4区第3面110・120号溝（東から）

3　4区第3面111号溝（西から）

4　4区第3面112・117・119号溝（南から）



1　4区第3面113号溝（東から）

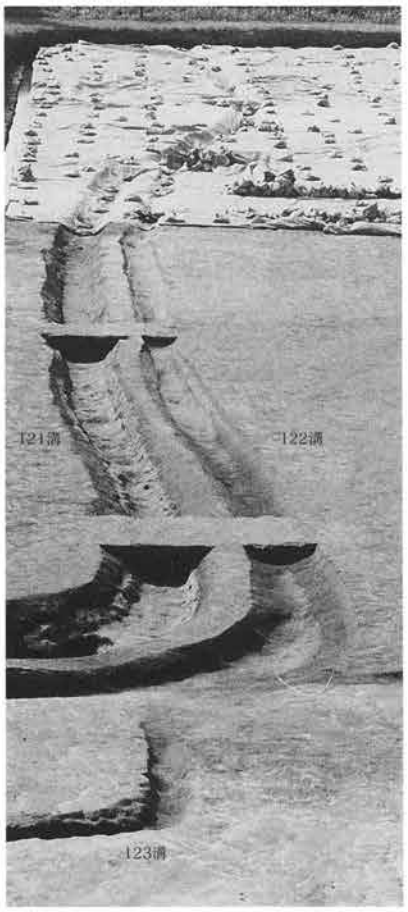


2　4区第3面114号溝（南から）

3　4区第3面118号溝（南から）

4　5区第3面水田畦畔断面

1　5区第2面121・122号溝（西から）



2　5区第2面121～123号溝（東から）

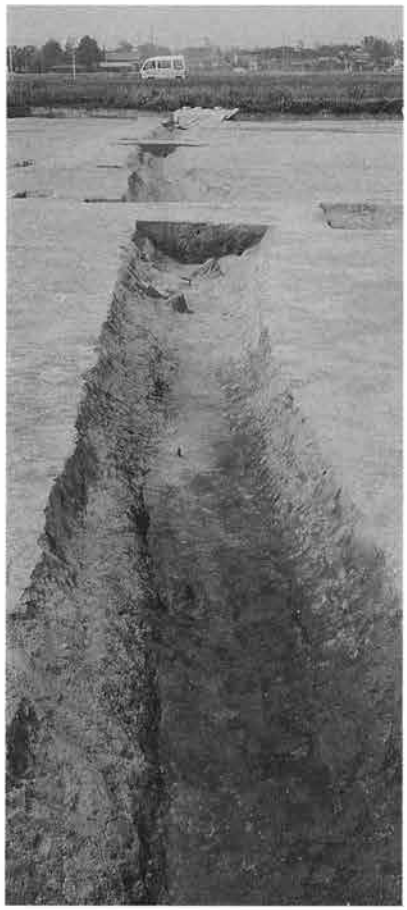
3　5区第2面124・126～128号溝（北から）

4　5区第2面126・127号溝（西から）

5　5区第2面128号溝（西から）

6　5区第2面139号溝（北から）

1　4区第1面全景（上空から、上方が北）

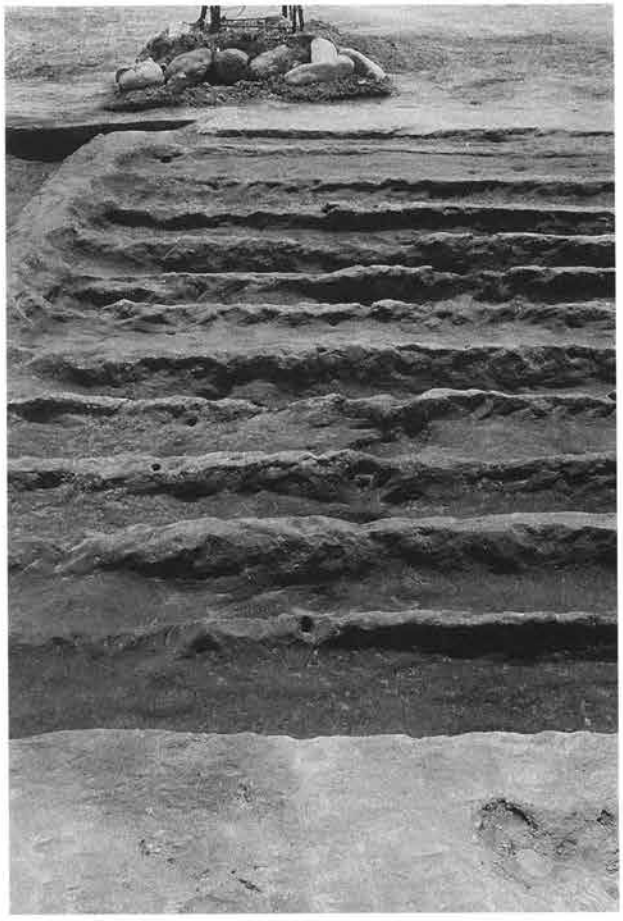


2　4区第1面81号溝（南から）

3　4区第1面82号溝（西から）

4　4区第1面83号溝（北から）

1　4区第1面12号遺構（南から）

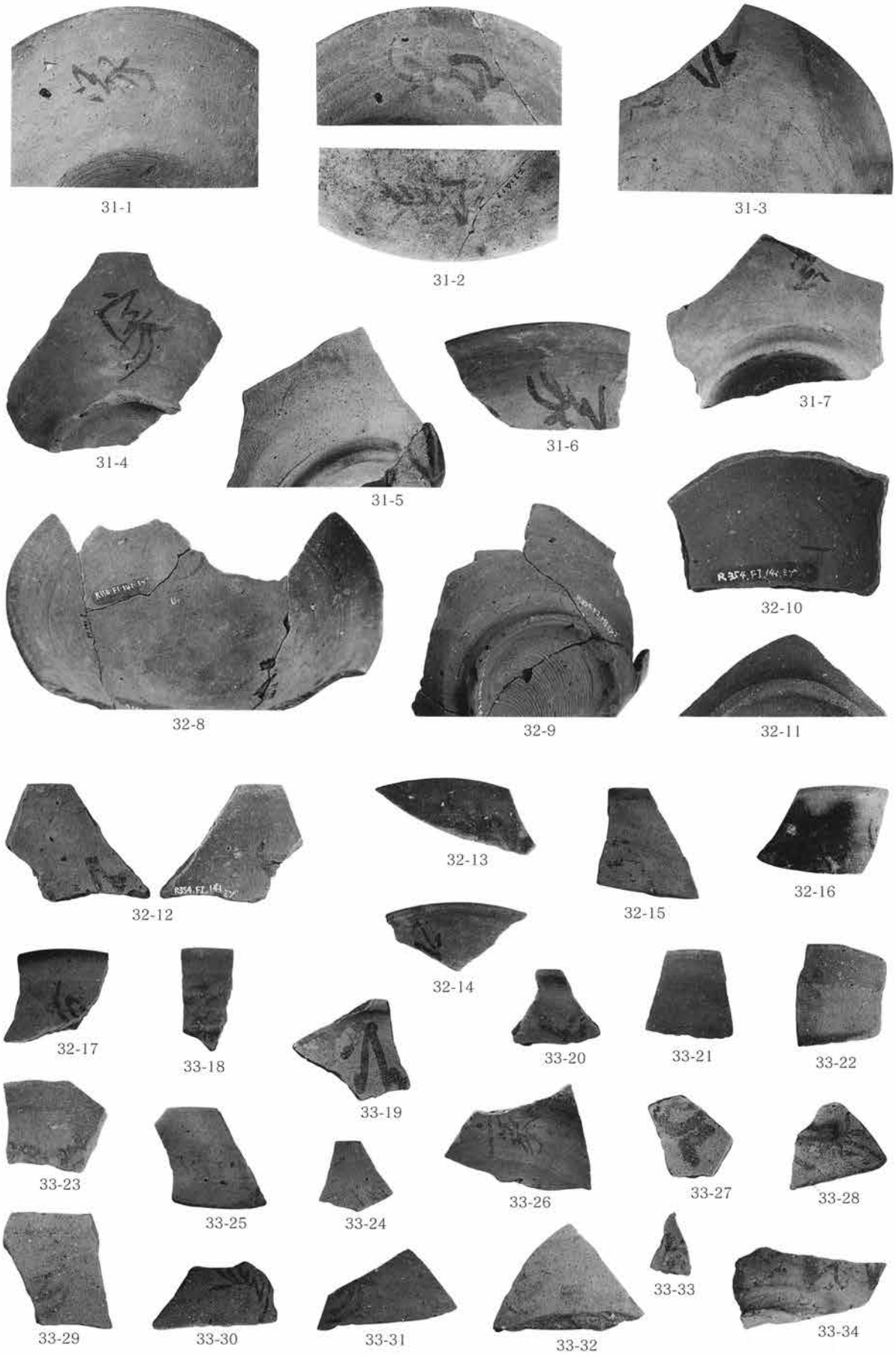


2　4区第1面13号遺構（西から）

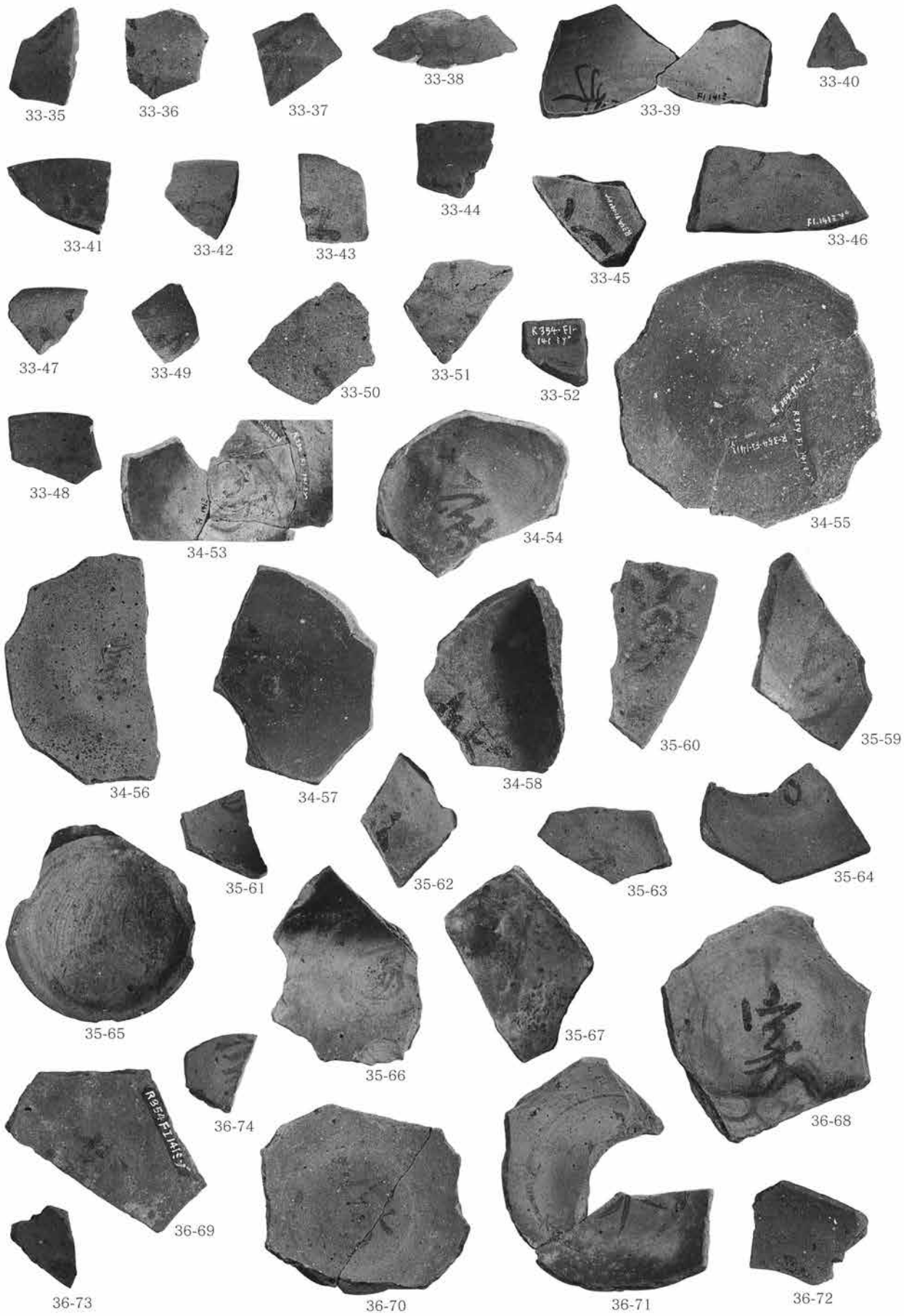
3　4区第1面14号遺構（西から）

4　4区第1面15号遺構（東から）

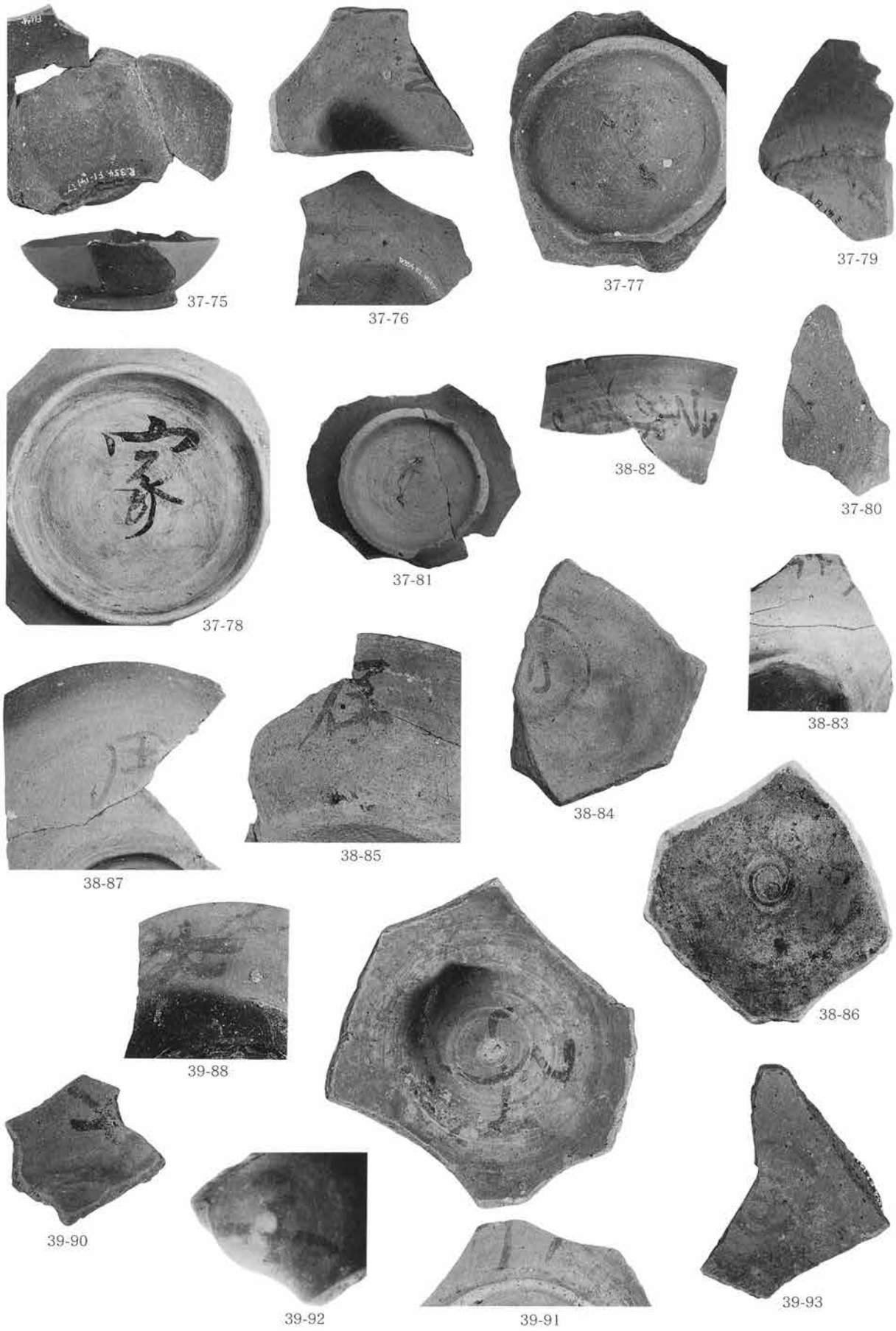
4区第5.5面141号溝出土遺物（1）（墨書土器1）



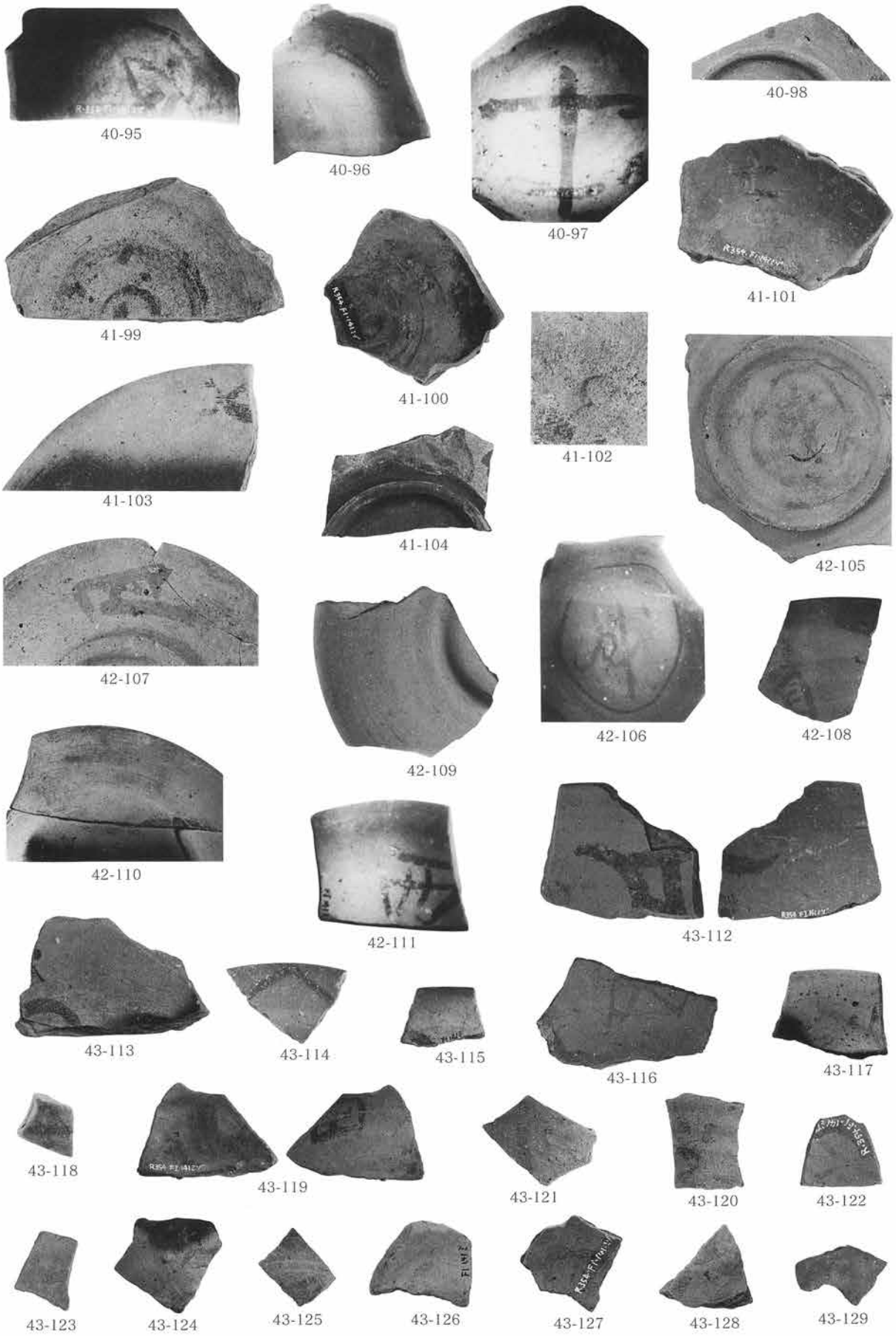
4区第5.5面141号溝出土遺物（2）（墨書土器2）



4区第5.5面141号溝出土遺物（3）（墨書土器3）



4区第5.5面141号溝出土遺物（4）（墨書土器4）



4区第5.5面141号溝出土遺物（5）（墨書土器5）

44-130

44-131

44-132

44-133

44-134

44-135

45-136

45-137

45-138

45-141

45-143

45-145

45-147

45-139

45-142

45-146

45-144

45-148

45-140

45-149

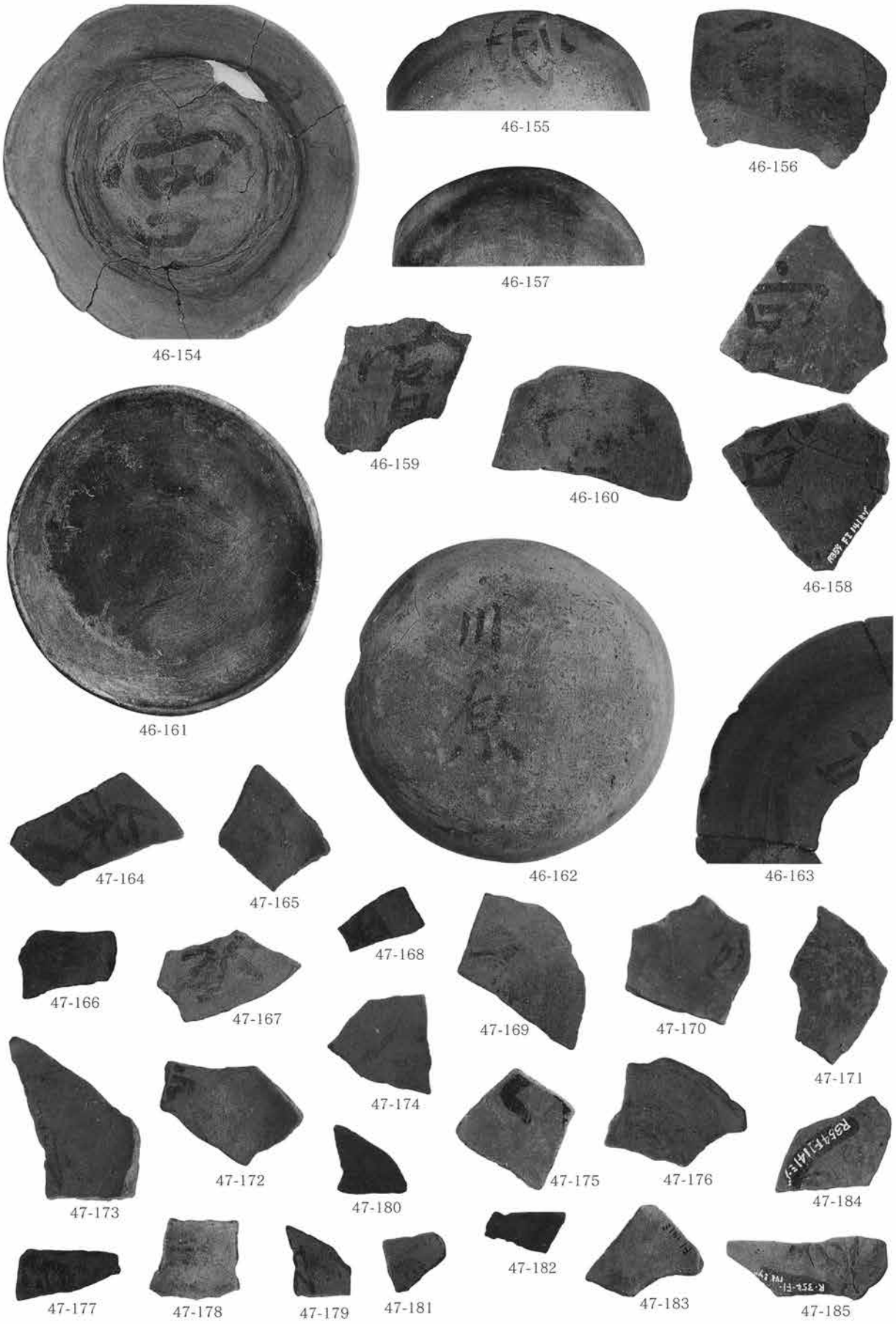
45-150

45-151

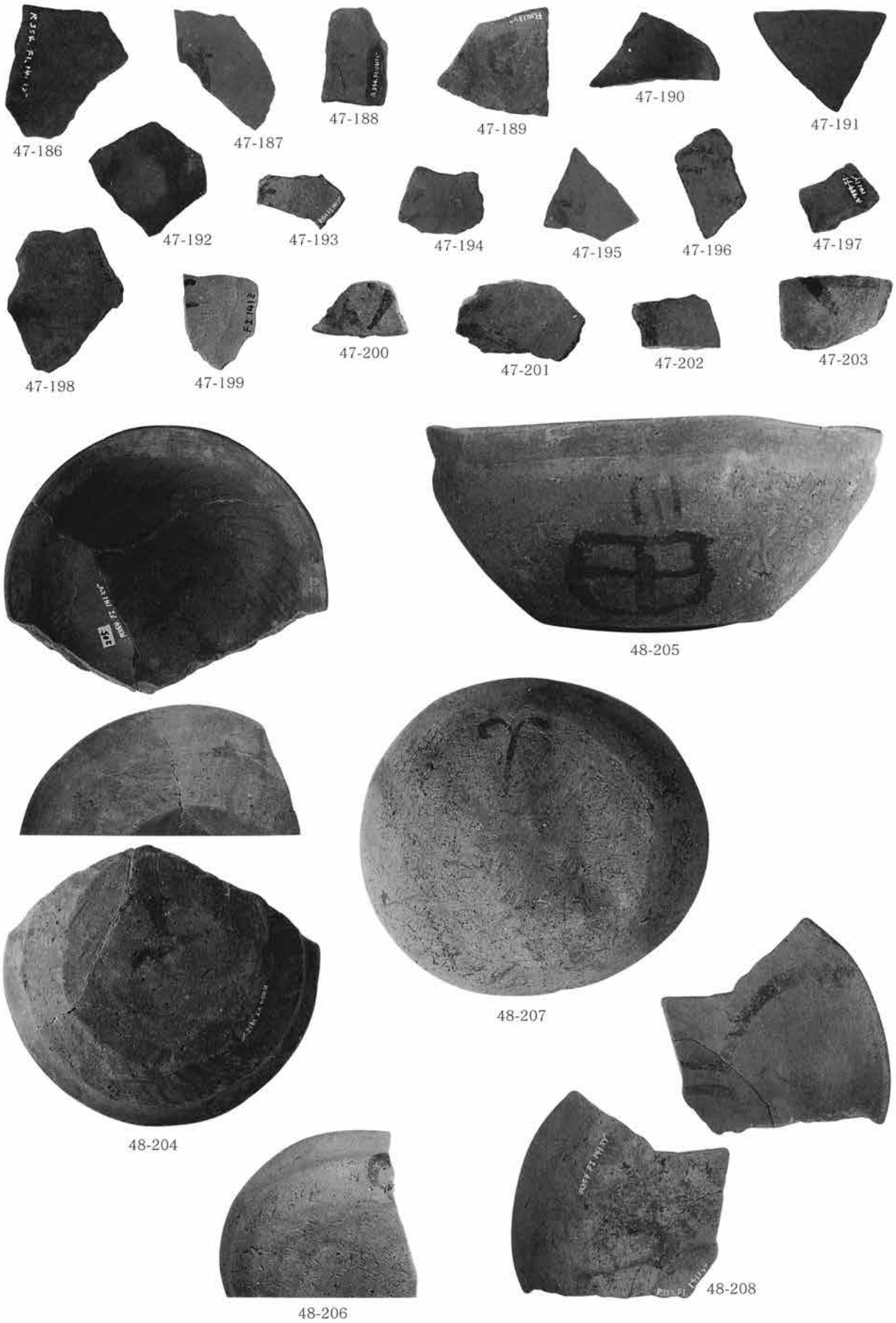
45-152

45-153

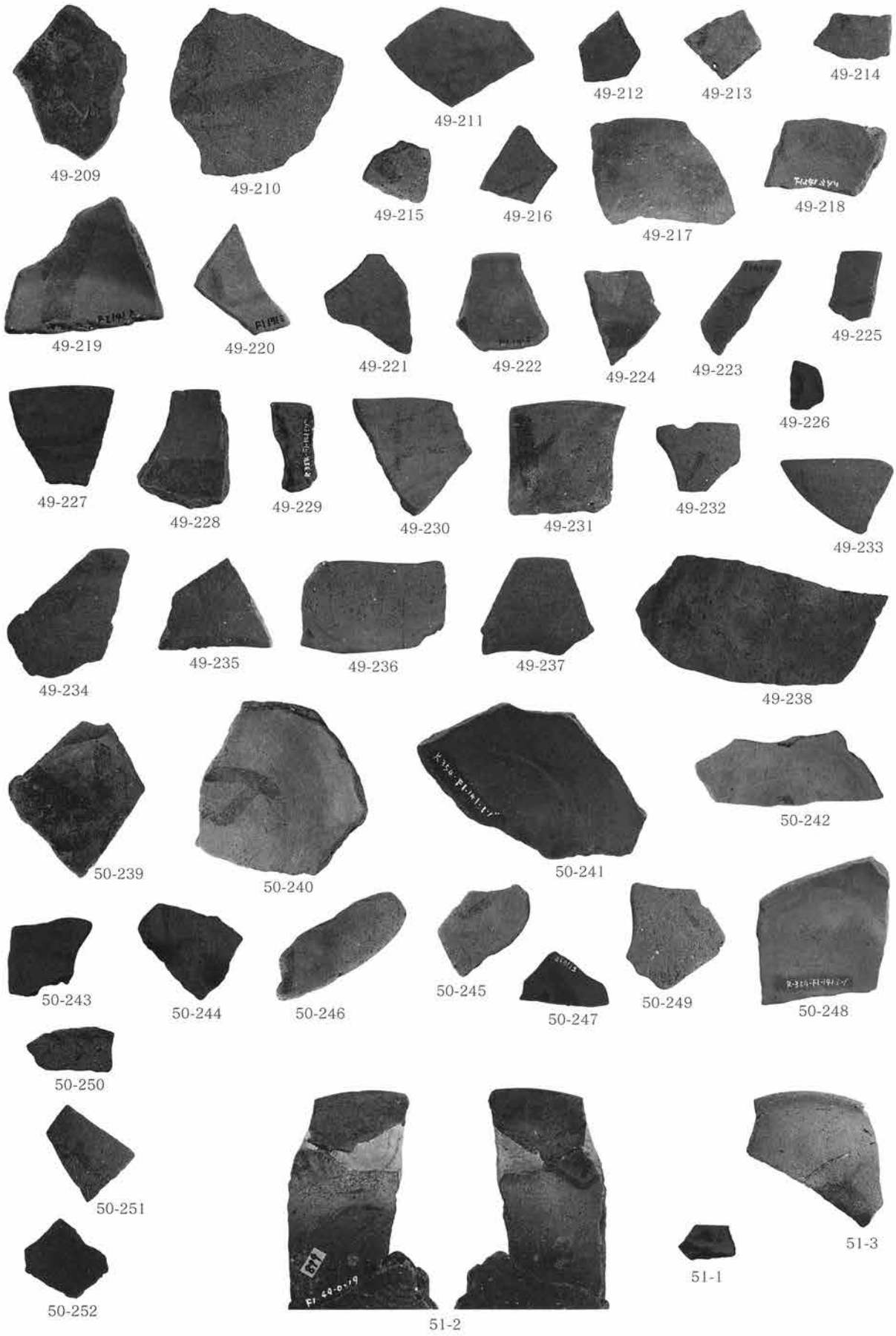
4区第5.5面141号溝出土遺物（6）（墨書土器6）



4区第5.5面141号溝出土遺物（7）（墨書土器7）



4区第5.5面141号溝出土遺物（8）（墨書土器8）



4区第5.5面141号溝出土遺物（9）

53-253
（漆紙文書）

53-254

53-255

53-256

54-257

54-259

54-261

55-264

54-258

54-260

55-265

55-263

55-266

58-268

55-270

55-271

55-267

55-269

55-272

55-273

55-262

55-274

55-277

55-275

55-280

55-279

55-278

55-276

56-281

56-282

56-284

56-283

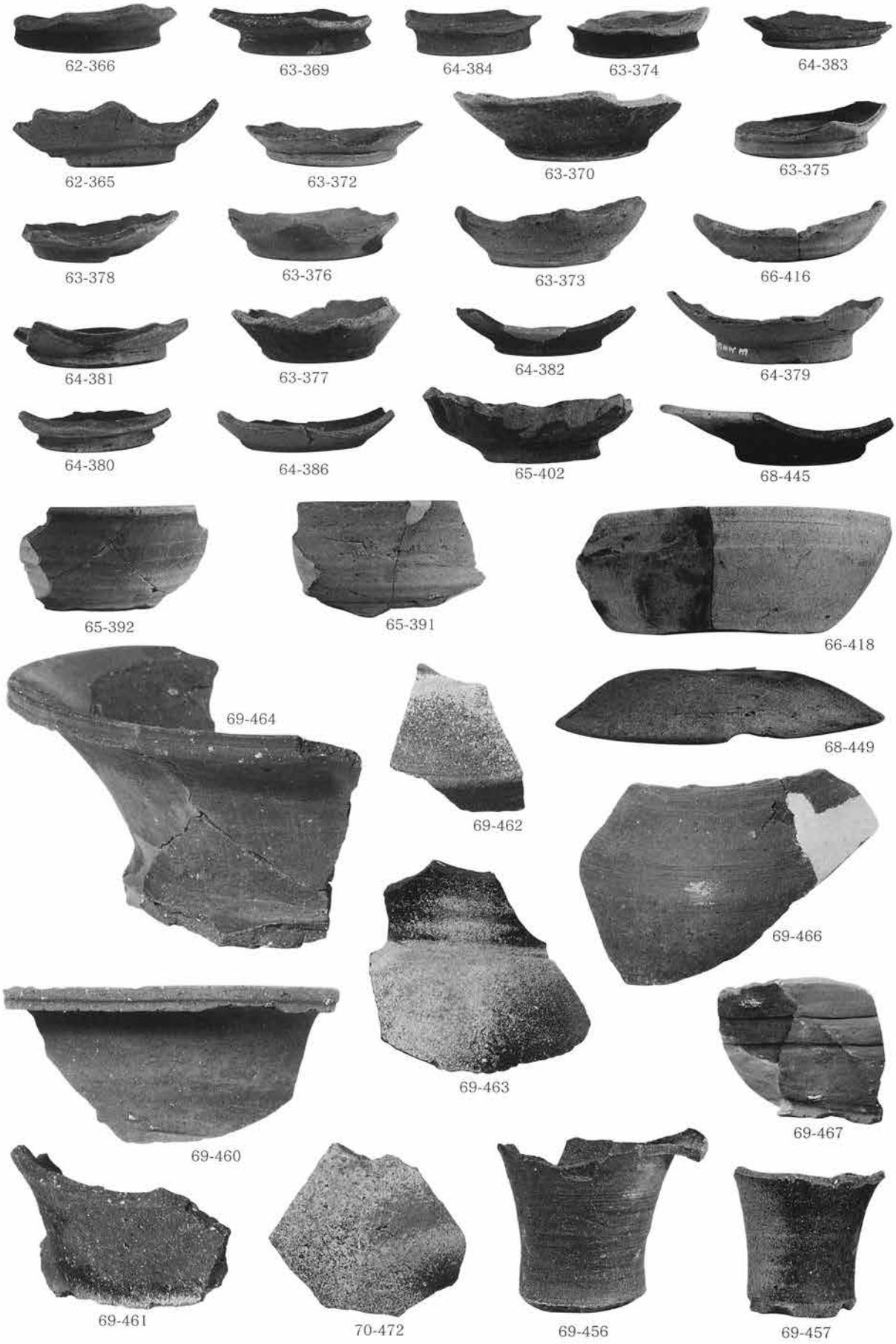
56-285

56-286

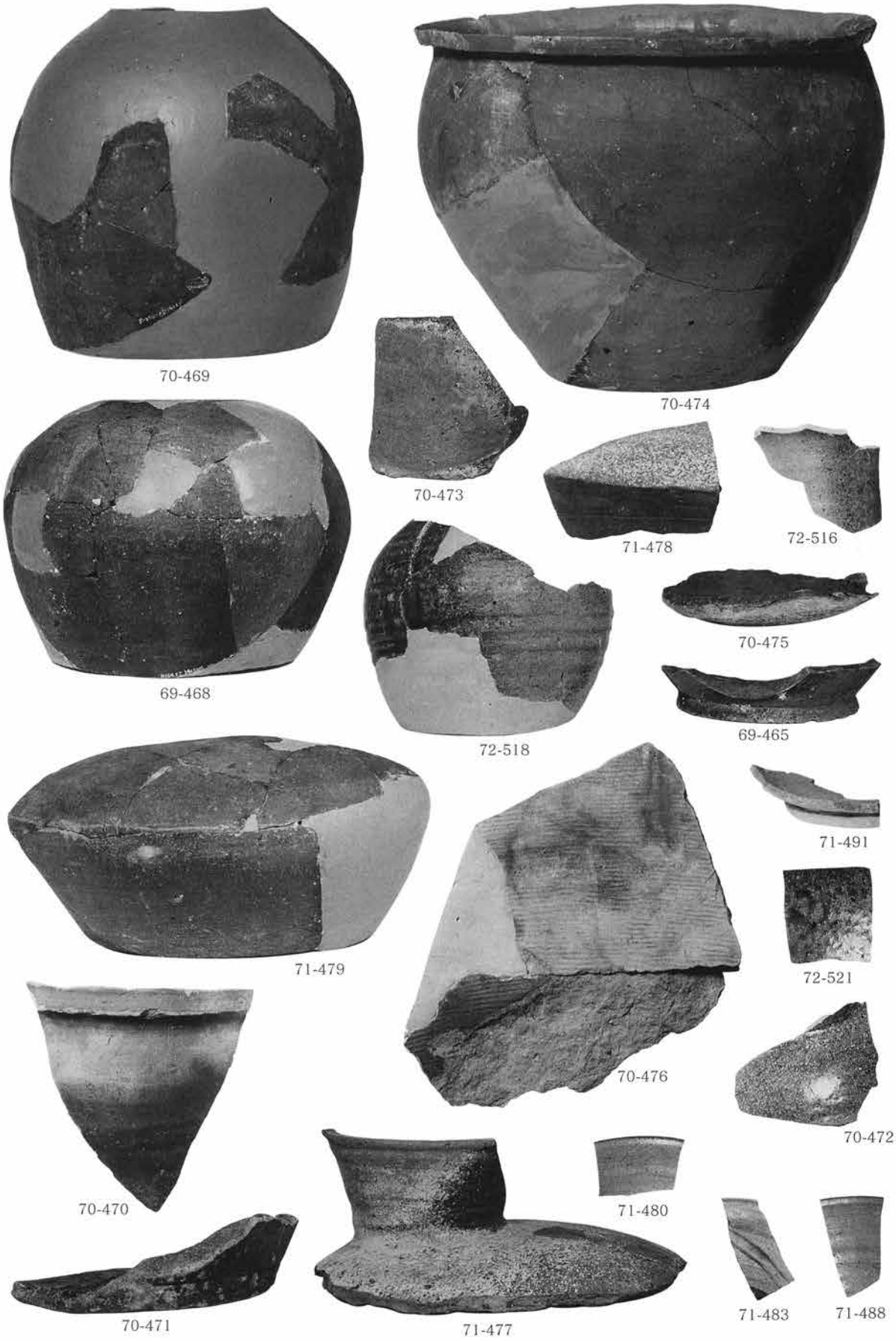
56-287

4区第5.5面141号溝出土遺物（10）

4区第5.5面141号溝出土遺物（11）



4区第5.5面141号溝出土遺物（12）



4区第5.5面141号溝出土遺物（13）（杭1）

杭-2

杭-3

杭-4

杭-5

杭-6

杭-7

杭-10

杭-11

杭-13

杭-14

杭-17

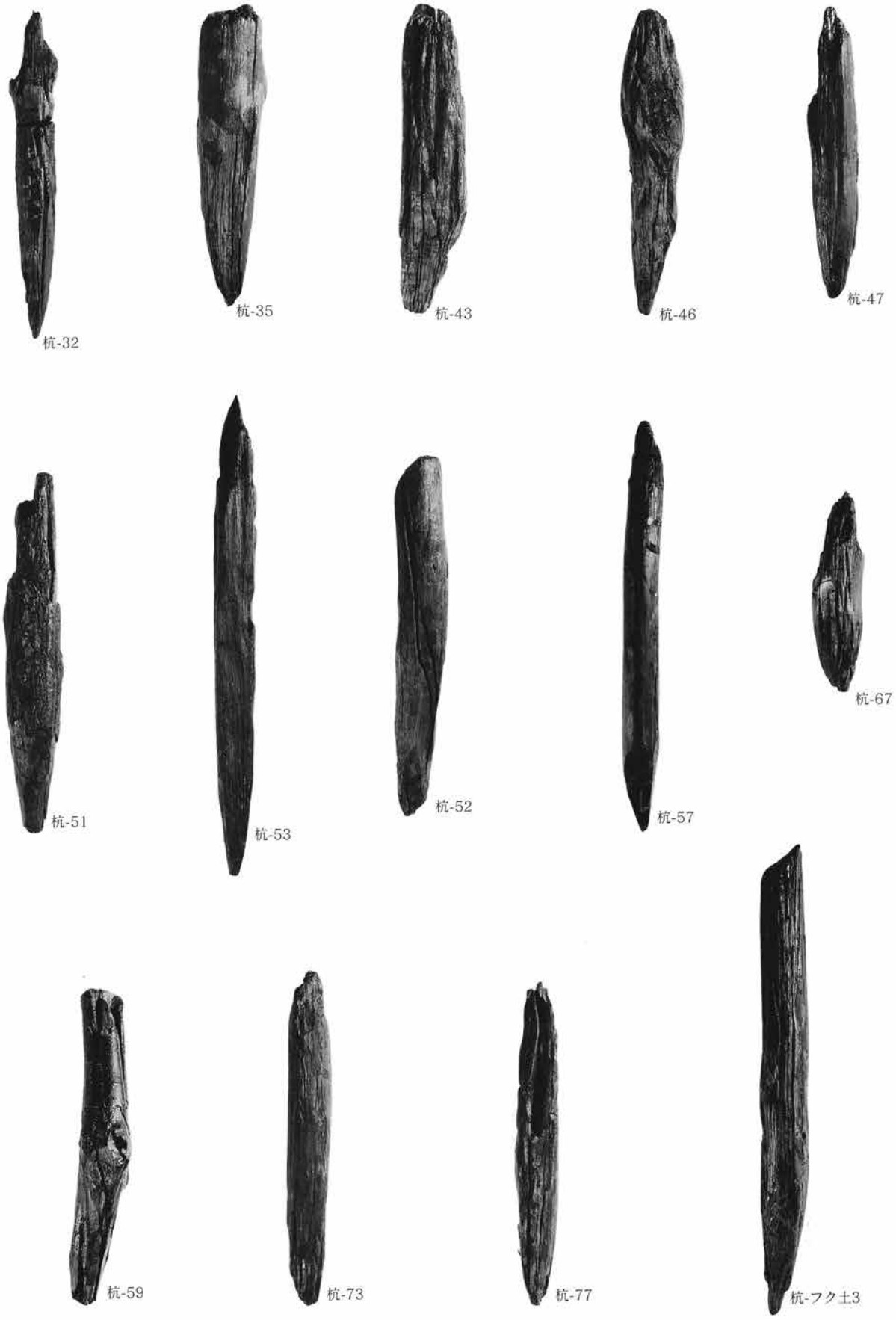
杭-20

杭-21

杭-24

杭-27

4区第5.5面141号溝出土遺物（14）（杭2）



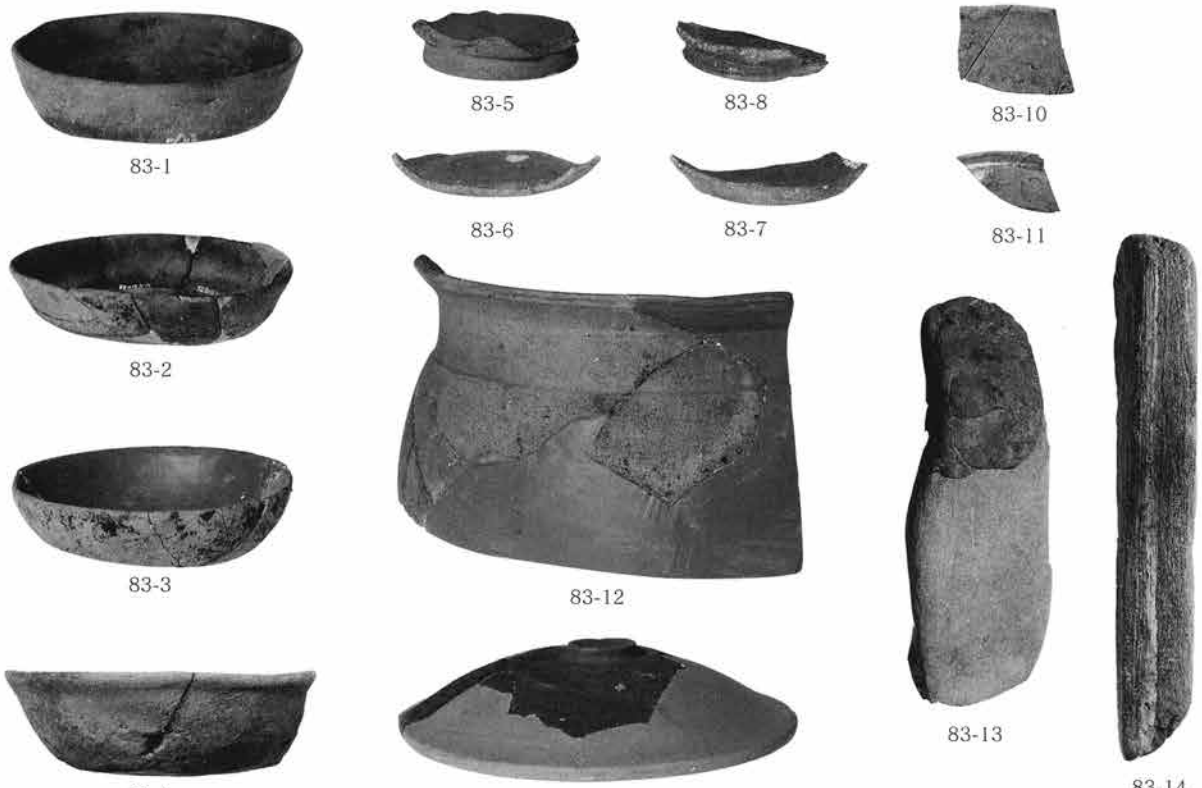
4区4号・5号・8号住居出土遺物

80-2　80-3　80-4　80-1　80-5

4号柱

81-1　80-3　80-2　80-4　80-5　80-7　80-8

5号柱

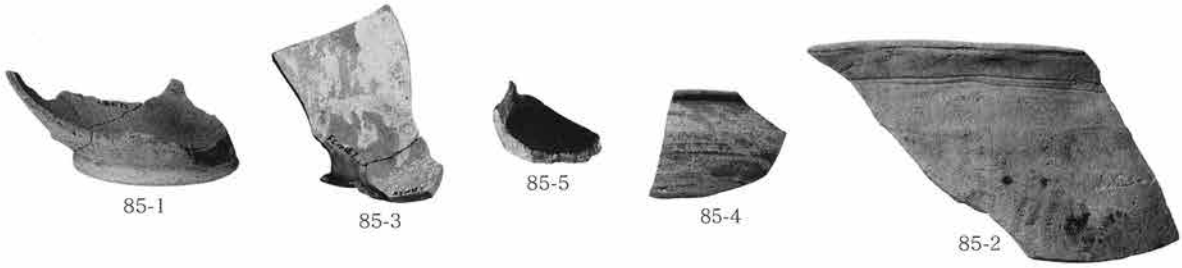


83-1　83-5　83-8　83-10　83-6　83-7　83-11　83-2　83-12　83-3　83-13　83-14　83-4　83-9

8号柱

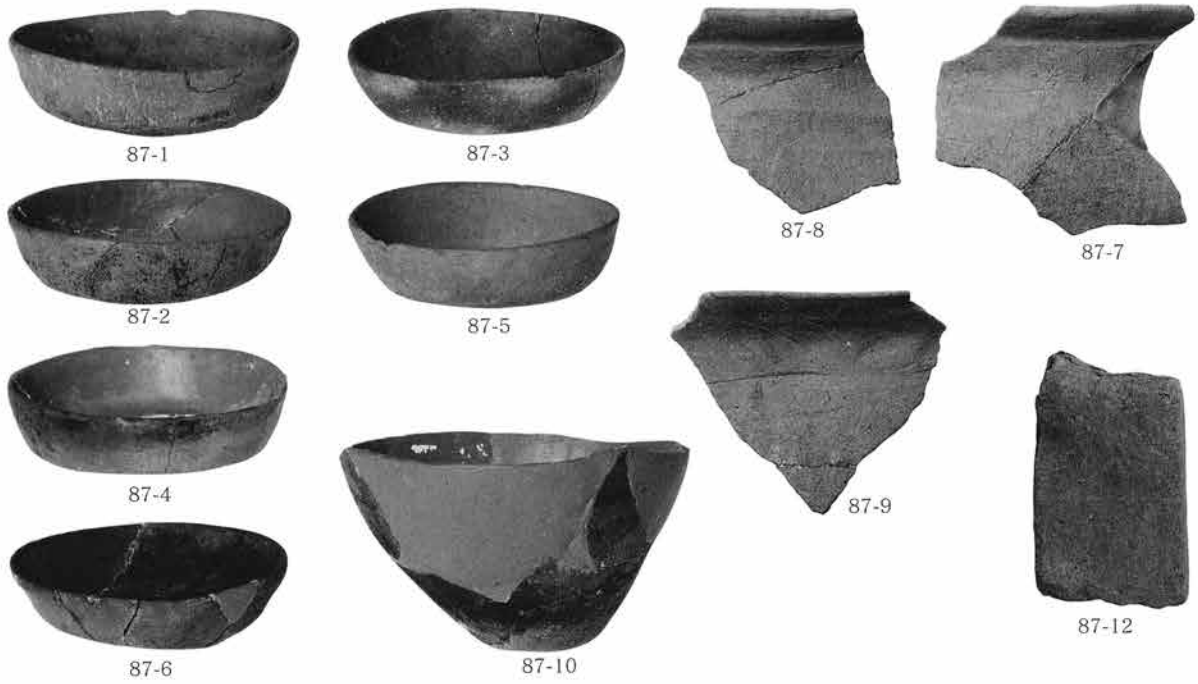
4区9号・10号・11号・12号住居出土遺物

9号柱



10号柱

11号柱



12号柱

81号～83号·91号・94号・96号・100号・102号・111号・113号溝出土遺物

141-1

141-2

141-3

141-4

141-7

141-5

141-6

81号溝

142-1

142-2

82号溝

143-1

143-2

83号溝

98-6

98-7

94号溝

98-1

98-3

98-2

98-5

98-4

98-8

91号溝

99-1

96号溝

99-2

100号溝

99-3

102号溝

127-1

127-2

127-3

127-4

127-5

111号溝

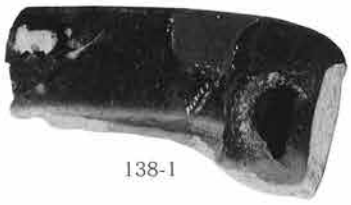
129-3

129-1

129-2

113号溝

121号・143号溝出土遺物


138-1

138-2

138-3

138-5

138-4

121号溝

103-3

103-5

102-4

103-1

103-6

103-7

103-2

103-4

102-8

102-1

102-5

102-9

102-2

102-6

102-3

102-7

102-10

143号溝

144号・148号・151号・203号溝　151号～153号・203号・231号土坑出土遺物

103-8

103-9

104-2

104-1

104-3

107-1

144号溝　148号溝　151号溝

94-1

94-2

94-3

203号土　151号土

111-2

111-1

18-2

18-1

231号土　152号土

第9面グリッド・第1面グリッド出土遺物

11-1

11-2

11-4

11-5

11-3

11-6

151-1

151-2

151-3

151-4

151-5

151-6

発掘調査報告書抄録

書名ふりがな	ふくしまいいづかいせきいち
書名	福島飯塚遺跡(1)
副書名	国道354号道路改築事業に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第1集
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	400
編著者名	原　雅信
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20070316
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	ふくしまいいづかいせき
遺跡名	福島飯塚遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんさわぐんたまむらまち
遺跡所在地	群馬県佐波郡玉村町
市町村コード	10464
遺跡番号	
北緯(日本測地系)	361811
東経(日本測地系)	1390730
北緯(世界測地系)	361823
東経(世界測地系)	1390719
調査期間	19990401-20000131
調査面積	6770
調査原因	道路建設工事
種別	集落／溝／水田／その他
主な時代	弥生／古墳／平安／中世／江戸
遺跡概要	弥生－土器／古墳－水田＋土坑／古代－住居＋掘立柱建物＋溝＋井戸＋土坑＋水田／中世－水田＋溝＋土坑／近世－復旧溝＋土坑＋溝＋水田
特記事項	平安時代の大溝中から252点の墨書土器、漆紙文書小片出土

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第400集

福島飯塚遺跡（１）

国道354号線道路改築事業に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書第１集

平成19年３月６日　印刷
平成19年３月16日　発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地の２
電話（0279）52-2511（代表）
ホームページアドレス　http：//www.gunmaibun.org/

印刷／朝日印刷工業株式会社